松本
- 長野縣ノ內
  - 松本市　東筑摩郡　南安曇郡

木曾
- 長野縣ノ內
  - 西筑摩郡

大町
- 長野縣ノ內
  - 北安曇郡

上諏訪
- 長野縣ノ內
  - 諏訪郡

飯田
- 長野縣ノ內
  - 下伊那郡

伊那
- 長野縣ノ內
  - 上伊那郡

新潟
- 新潟縣ノ內
  - 新潟市
  - 西蒲原郡ノ內
    - 卷町　道上村　大原村　赤塚村　中野小屋村
    - 鎧郷村　峰岡村　岩室村　漆山村　曾根村
    - 和納村　四ッ合村　小吉村　味方村　升潟村
    - 黒埼村　坂井輪村　内野村　角田村　浦濱村
    - 間瀬村　松野尾村　月潟村
  - 中蒲原郡ノ內
    - 村松町　五泉町　新津町　亀田町　小須戸町
    - 白根町　橋田村　菅名村　川内村　大蒲原村
    - 十全村　川東村　巣本村　金津村　新關村
    - 滿日村　阿賀浦村　大江山村　早通村　横越村
    - 大形村　鳥屋野村　曾野木村　石山村　兩川村
    - 荻川村　小合村　根岸村　鷲巻村　大郷村
    - 臼井村　小林村　庄瀉村　須田村　新飯田村
    - 茨曾根村

三條
- 新潟縣ノ內
  - 南蒲原郡ノ內
    - 三條町　加茂町　裏館村　栗林村　井栗村
    - 大崎村　下條村　田上村　大島村　長澤村
    - 森町村　鹿峠村　本成寺村　福島村
  - 西蒲原郡ノ內
    - 燕町　國上村　小池村　小中川村
    - 地藏堂町　太田村　島上村　吉田村　松長村
    - 来納津村
    - 彌彦村　粟生津村
  - 中蒲原郡ノ內
    - 七谷村

長岡
- 新潟縣ノ內
  - 長岡市　古志郡　北魚沼郡
  - 三島郡ノ內
    - 與板町　寺泊町　出雲崎町　片貝村　來迎寺村
    - 岩塚村　深才村　日越村　王寺川村　關原村
    - 宮本村　大積村　日吉村　脇野町村　大津村
    - 黒川村　桐島村　島田村　西越村　塚山村
  - 南蒲原郡ノ內
    - 今町　見附町　大面村　坂井村　新潟村
    - 庄川村　葛巻村　中之島村

柏崎
- 新潟縣ノ內
  - 刈羽郡

六日町
- 新潟縣ノ內
  - 南魚沼郡　中魚沼郡

高田
- 新潟縣ノ內
  - 高田市　中頸城郡　東頸城郡

糸魚川
- 新潟縣ノ內
  - 西頸城郡

相川
- 新潟縣ノ內
  - 佐渡郡

新潟
- 三島郡ノ內
  - 大河津村

新發田
- 新潟縣ノ內
  - 北蒲原郡　東蒲原郡

村上
- 新潟縣ノ內
  - 岩船郡

京都
- 京都府ノ內
  - 京都市　愛宕郡　葛野郡　乙訓郡　紀伊郡
  - 宇治郡　久世郡　綴喜郡　相樂郡

宮津
- 京都府ノ內
  - 與謝郡

園部
- 京都府ノ內
  - 船井郡　南桑田郡　北桑田郡

峯山
- 京都府ノ內
  - 中郡　竹野郡　熊野郡

京都
- 京都府ノ內
  - 加佐郡ノ內

舞鶴
- 京都府ノ內
  - 天田郡　何鹿郡
  - 加佐郡ノ內
    - 河守町　河守上村　河西村　河東村　有路上村
    - 有路下村

福知山
- 京都府ノ內
  - 天田郡　何鹿郡
  - 加佐郡ノ內
    - 河守町　河守上村　河西村　河東村　有路上村
    - 有路下村

大阪
- 大阪府ノ內
  - 大阪市　西成郡　東成郡　三島郡　豐能郡
  - 北河內郡
  - 中河內郡ノ內
    - 八尾町　長吉村　北高安村　瓜破村　中高安村
    - 矢田村　南高安村　堅下村　堅上村　孔舍衙村
    - 枚岡村　枚岡南村　池島村　三野郷村　高井田村
    - 大戸村　意岐部村　英田村　楠根村　東六郷村
    - 玉川村　布施村　西六郷村　曙川村　北江村
    - 西郡村　龍華村　若江村　久寶寺村　彌刀村
    - 加美村　小阪村　長瀬村　巽　三木本村
  - 南河內郡ノ內
    - 太田村　志紀村
    - 柏原村

大阪
- 大阪府ノ內
  - 堺市
    - 泉北郡ノ內
      - 向井町　湊　町　高石町　濱寺町　五箇莊村
      - 舳松村　三寶村　鳳　村　神石村　諏尾村
      - 取石村　鶴田村　北上神村　東百舌鳥村　美木多村
      - 上神谷村　西陶器村　久世村　深井村　東陶器村
      - 八田莊村　西百舌鳥村　中百舌鳥村
    - 南河內郡ノ內
      - 富田林町　長野町　古市町　新堂村　喜志村
      - 大伴村　石川村　磯長村　山田村　白木村
      - 中　村　河內村　赤阪村　千早村　東條村
      - 川西村　錦郡村　彼方村　千代田村　天野村
      - 高向村　三日市村　加賀田村　天見村　川上村
      - 金岡村　南八下村　北八下村　駒ケ谷村　西浦村
      - 國分村　玉手村　狹山村　三都村　大草村
      - 野田村　日置莊村　黒山村　丹南村　丹比村
      - 平尾村　堉生村　高鷲村　藤井寺村　道明寺村

中河內郡ノ內
- 天美村　布忍村　松原村　三宅村　惠我村

岸和田
- 大阪府ノ內
  - 泉南郡
  - 泉北郡ノ內
    - 大津町　信太村　上條村　國府村　穴師村
    - 忠岡村　南王子村　鄕莊村　伯太村　北池田村
    - 北松尾村　南横山村　横山村　南松尾村
    - 山瀧村

神戸
- 兵庫縣ノ內
  - 神戸市　武庫郡

伊丹
- 兵庫縣ノ內
  - 尼崎市　川邊郡　有馬郡

明石
- 兵庫縣ノ內
  - 明石郡　美嚢郡

篠山
- 兵庫縣ノ內
  - 多紀郡

柏原
- 兵庫縣ノ內
  - 氷上郡

姫路
- 兵庫縣ノ內
  - 姫路市　飾磨郡　印南郡　加古郡　神崎郡

社
- 兵庫縣ノ內
  - 加東郡　加西郡　多可郡

龍野
- 兵庫縣ノ內
  - 揖保郡　赤穗郡　佐用郡　宍粟郡

豐岡
- 兵庫縣ノ內
  - 城崎郡　出石郡　養父郡　朝來郡　美方郡

洲本
- 兵庫縣ノ內
  - 津名郡　三原郡

神戸
- 兵庫縣ノ內
  - 神戸市　武庫郡

奈良
- 奈良縣ノ內
  - 奈良市　奈良縣ノ內
  - 添上郡　生駒郡　山邊郡　磯城郡

葛城
- 奈良縣ノ內
  - 北葛城郡　高市郡　南葛城郡

宇陀
- 奈良縣ノ內
  - 宇陀郡
  - 吉野郡ノ內
    - 四鄕村　高見村　小川村　上龍門村

大阪

五條　奈良縣ノ內　吉野郡ノ內　上市町　下市町　十津川村　大淀村　天川村　野迫川村　賀名生村　秋野村　上北山村　下北山村　吉野村　宗檜村　大塔村　丹生村　墨識村　中龍門村　龍門村　川上村　白銀村　中莊村　國樓村

大津　滋賀縣ノ內　大津市　滋賀郡　栗太郡　野洲郡　高島郡

水口　滋賀縣ノ內　甲賀郡

彦根　滋賀縣ノ內　犬上郡　愛知郡　神崎郡　蒲生郡

長濱　滋賀縣ノ內　阪田郡　東淺井郡　伊香郡

和歌山　和歌山縣ノ內　和歌山市　海草郡　有田郡　那賀郡ノ內　岩出町　安樂川村　奥安樂川村　調月村　東貴志村　中貴志村　西貴志村　丸栖村　田中村　山崎村　根來村　上岩出村　小倉村　東野上村　中野上村　南野上村　北野上村　小川村　上神野村　下神野村　猿川村　長谷毛原村　眞國村　志賀野村　細野村

妙寺　和歌山縣ノ內　伊都郡　那賀郡ノ內　名手町　池田村　長田村　王子村　粉河町　狩宿村　川原村　上名手村　麻生津村　龍門村　鞆渕村

田邊　和歌山　和歌山縣ノ內　西牟婁郡　東牟婁郡ノ內　大島村　日高郡ノ內　下山路村　中山路村　上山路村　龍神村　南部町　寒川村　上南部村　清川村　高城村　岩代村

日高郡ノ內　和歌山縣ノ內

御坊　和歌山縣ノ內　東牟婁郡ノ內　御坊町　印南町　衣奈村　白崎村　由良村　志賀村　北井崎村　三尾村　和田村　東內原村　西內原村　湯川村　鹽屋村　野口村　松原村　矢田村　早蘇村　丹生村　藤田村　船着村　川上村　川中村　名田村　稻原村　切目村　切目川村　眞妻村

新宮　和歌山縣ノ內　東牟婁郡ノ內　新宮町　古座町　高池町　三輪崎町　勝浦町　西向村　田原村　明神村　色川村　三尾川村　小川村　七川村　下里村　太地村　上太田村　下太田村　那智村　宇久井村　三津ノ村　高田村　小口村　請川村　敷屋村　本宮村　四村　三里村　北山村　九重村　玉置口村

德島　德島縣ノ內　德島市　名東郡　勝浦郡　名西郡　板野郡

富岡　德島縣ノ內　那賀郡　海部郡

脇町　德島縣ノ內　美馬郡　三好郡

川島　德島縣ノ內　麻植郡　阿波郡

高松　香川縣ノ內　高松市　香川郡　木田郡　大川郡　今豆郡

高松　香川縣ノ內　綾歌郡ノ內　府中村　鎌岡村　山內村　陶村　村　畑田村　瀧宮村　羽床村　羽床上村　西分村　山田村　千疋村　松所村

丸龜　香川縣ノ內　丸龜市　仲多度郡　綾歌郡ノ內　坂出町　宇多津町　金山村　西庄村　林田村　松山村　王越村　加茂村　川津村　土器村　川西村　飯野村　坂本村　法勳寺村　富熊村　栗熊村　岡田村　長炭村　造田村　美合村

觀音寺　香川縣ノ內　三豐郡

高知縣ノ內　高知市　土佐郡　長岡郡　香美郡　吾川郡

須崎　高知縣ノ內　高岡郡

高知　安藝　高知縣ノ內　安藝郡

中村　高知縣ノ內　幡多郡

名古屋　一宮　愛知縣ノ內　中島郡　丹羽郡　葉栗郡

名古屋　愛知縣ノ內　名古屋市　愛知郡　東春日井郡　西春日井郡　海部郡　知多郡ノ內　有松町　大高町

半田　愛知縣ノ內　知多郡ノ內　半田町　龜崎町　大府町　橫須賀町　大野町　常滑町　西浦町　內海町　豐濱町　師崎町　河和町　武豐町　成岩町　阿久比村　東浦村　上野村　八幡村　旭村　三和村　鬼崎村　小鈴谷村　野間村　篠島村　日間賀島村　富貴村

岡崎　愛知縣ノ內　額田郡　幡豆郡　碧海郡　西加茂郡　東加茂郡

豐橋　愛知縣ノ內　豐橋市　八名郡ノ內　下川村　石巻村　溫美郡　寶飯郡

新城　愛知縣ノ內　南設樂郡　北設樂郡　八名郡ノ內　大野町　七鄕村　山吉田村　舟着村　八名村　金澤村　賀茂村　豐津村　橋尾村　三上村

安濃津　三重縣ノ內　津市　安濃郡　河藝郡　鈴鹿郡　一志郡

松阪　三重縣ノ內　飯南郡　多氣郡ノ內　東黑部村　下御糸村　大淀村　上御糸村　齋宮村　相可村　朝日村　明星村　丹生村　西外城田村　五ヶ谷村　川添村　佐奈村　津田村

名古屋　岐阜　木本　三重縣ノ內　南牟婁郡　北牟婁郡

山田　三重縣ノ內　四日市市　四日市市　三重郡　員辨郡　桑名郡　宇治山田市　度會郡　志摩郡　多氣郡ノ內　三瀨谷村　荻原村　領內村　大杉谷村

岐阜　岐阜縣ノ內　岐阜市　稻葉郡　羽島郡　本巢郡　山縣郡　武儀郡　加茂郡ノ內　田原村　富岡村

八幡　岐阜縣ノ內　郡上郡

大垣　岐阜縣ノ內　安八郡　海津郡　養老郡　不破郡　揖斐郡

御嵩　岐阜縣ノ內　可兒郡　土岐郡　惠那郡　加茂郡ノ內　太田町　川邊町　下麻生町　八百津町　古井村　山之上村　蜂屋村　加茂野村　坂祝村　富田村　加治田村　伊深村　三和村　下米田村　上米田村　久田見村　和知村　潮南村　飯地村　福地村　蘇原村　黑川村　西白川村　東白川村　佐見村

高山　岐阜縣ノ內　大野郡　吉城郡　益田郡

福井　福井縣ノ內　福井市　足羽郡　吉田郡　坂井郡　丹生郡ノ內　越廼村　下岬村　國見村　殿下村　西安居村　三方村

武生　福井縣ノ內　南條郡　今立郡　丹生郡ノ內　朝日村　立待村　吉川村　豐村　吉野村　大虫村　宮崎村　白山村　城崎村　四箇浦村

富山縣ノ內　射水郡　氷見郡
高岡市
福岡町　醍醐村　小勢村　山王村　立野村
東五位村　福田村　國吉村　石堤村　赤丸村
五位山村　西五位村

富山縣ノ內
東礪波郡
西礪波郡ノ內
石動町　福光町　津澤町　戸出町　南谷村
埴生村　松澤村　若林村　正得村　荒川村
子撫村　宮島村　石黒村　南蟹谷村　廣瀨村
廣瀨館村　西太美村　太美山村　東太美村　吉江村
東石黒村　西野尻村　東蟹谷村　北蟹谷村　鍛波村
水島村　鷹栖村　是戸村　林村　高波村
大瀧村

石川縣ノ內
金澤市　石川郡　河北郡
能美郡ノ內
川北村

石川縣ノ內
江沼郡
能美郡ノ內
小松町　安宅町　御幸村　苗代村　栗津村
大杉谷村　島越村　白江村　國府村　板津村
根上村　寺井野村　山上村　牧村　中海村
白峯村　西尾村　金野村　新丸村　尾口村
湊村　栗生村　吉田村　久常村

石川縣ノ內
鹿島郡　羽咋郡

石川縣ノ內
鳳至郡　珠洲郡

富山縣ノ內
富山市　上新川郡　婦負郡
中新川郡ノ內
五百石町　東三郷村　西三郷村　舟橋村　寺田村
利田村　大森村　高野村　上段村　東谷村
下段村　釜ヶ淵村　立山村

富山縣ノ內
下新川郡
中新川郡ノ內
西水橋町　東水橋町　滑川町　上市町　濱加積村
早月加積村　北加積村　東加積村　山加積村　南加積村
中加積村　西加積村　下條村　上條村　相ノ木村
宮川村　白萩村　柿澤村　大岩村　音杉村
弓庄村

大

廣島

廣島

吳

安藝郡ノ內　警固屋町　吉浦町　本庄村　樂山村
音戸町
大屋村　江田島村　渡子島村　倉橋島村　上蒲刈島村
下蒲刈島村

佐伯郡ノ內
三高村　沖村　大柿村　高田村　中村
鹿川村　津久茂村　深江村　飛渡瀨村
賀茂郡ノ內
阿賀町　仁方町　上黒瀨村　中黒瀨村　下黒瀨村
廣村　鄉原村　乃美尾村

竹原

廣島縣ノ內
賀茂郡ノ內
竹原町　內海町　三津町　川尻村　內海跡村
三津口村　早田原村　下野村　東野村　莊野村
野路村　中切村

豐田郡ノ內
忠海町　御手洗町　大乘村　豐濱村　久友村
大崎南村　西野村　本鄉村　南方村　吉名村
木谷村　中野村　東野村　大長村　田万里村
沼田西村　小泉村　下北方村　上北方村　善入寺村

尾道

廣島縣ノ內
賀茂郡ノ內
竹原町　內海町　三津町　川尻村　內海跡村
三津口村　早田原村　下野村　東野村　莊野村
野路村　中切村

豐田郡ノ內
忠海町　御手洗町　大乘村　豐濱村　久友村
大崎南村　西野村　本鄉村　南方村　吉名村
木谷村　中野村　東野村　大長村　田万里村
沼田西村　小泉村　下北方村　上北方村　善入寺村

福山

廣島縣ノ內
深安郡　蘆品郡　神石郡　甲奴郡
沼隈郡ノ內
千年村　橫島村　田島村　熊野村
水呑村　田尻村　走島村　鄉分村　山手村
草戸村　神島村　佐波村

廣島縣ノ內
尾道市　御調郡　世羅郡
豐田郡ノ內
瀨戸田町　大草村　高坂村　長谷村　沼田東村
佐江崎村　西生口村　南生口村　東生口村　北生口村
鷲浦村　船木村　田野浦村　須波村　高根島村
名荷村

沼隈郡ノ內
松永町　瀨戸村　津之鄉村　赤坂村　金江村
山南村　神村　本鄉村　東村　西村
今津村　柳津村　蘇江村　浦崎村　百島村
高須村　山波村

廣島縣ノ內
賀茂郡ノ內
竹原町　內海町　三津町　川尻村　內海跡村
三津口村　早田原村　下野村　東野村　莊野村
野路村　中切村

豐田郡ノ內
忠海町　御手洗町　大乘村　豐濱村　久友村
大崎南村　西野村　本鄉村　南方村　吉名村
木谷村　中野村　東野村　大長村　田万里村
沼田西村　小泉村　下北方村　上北方村　善入寺村

三次

廣島縣ノ內
雙三郡
比婆郡ノ內　高田郡

山口

庄原

廣島縣ノ內
比婆郡ノ內
庄原町　西城町　東城町　高村　美古登村
八鉾村　小奴可村　八幡村　田森村　久代村
帝釋村　本村　峯田村　敷信村　山內東村
山內西村　比和村　山內北村

山口縣ノ內
吉敷郡　佐波郡　美禰郡

山口縣ノ內
都濃郡　熊毛郡

山口縣ノ內
阿武郡　大津郡

岩國

山口縣ノ內
玖珂郡　大島郡

下關

山口縣ノ內
下關市　豐浦郡

船木

山口縣ノ內
厚狹郡

岡山

玉島

岡山縣ノ內
淺口郡
都窪郡ノ內
倉敷町　大高村　帶江村　萬壽村　菅生村
中洲村　清音村　常盤村　山手村　三須村
吉備郡ノ內
川邊村　二万村　穗井田村　吳妹村
岡田村　笥田村　新本村　山田村
笥田村　久代村
秦村　神在村

岡山

岡山縣ノ內
岡山市　御津郡　赤磐郡　和氣郡　邑久郡
上道郡　兒島郡
吉備郡ノ內
總社町　庭瀨町　足守町　眞金村　高松村
服部村　阿曾村　池田村　菅谷村
生石村　福谷村　岩田村　日近村　大井村
都窪郡ノ內
撫川町　茶屋町　早島町　妹尾町　加茂村
庄村　中庄村　豐洲村　福田村

審

笠岡　岡山縣ノ内　小田郡　後月郡
高梁　岡山縣ノ内　上房郡　川上郡　吉備郡ノ内　下倉村　水内村　日美村　富山村　大和村
新見　岡山縣ノ内　阿哲郡
津山　岡山縣ノ内　苫田郡　勝田郡　英田郡　久米郡
勝山　岡山縣ノ内　眞庭郡

鳥取
鳥取　鳥取縣ノ内　鳥取市　岩美郡　八頭郡　氣高郡
倉吉　鳥取縣ノ内　東伯郡
米子　鳥取縣ノ内　西伯郡　日野郡

松江
松江　島根縣ノ内　松江市　八束郡　能義郡
木次　島根縣ノ内　大原郡　仁多郡　飯石郡
今市　島根縣ノ内　簸川郡　安濃郡
濱田　島根縣ノ内　那賀郡
益田　島根縣ノ内　美濃郡　鹿足郡
大森　島根縣ノ内　邇摩郡　邑智郡
西郷　島根縣ノ内　周吉郡　穏地郡　知夫郡　海士郡

松山　愛媛縣ノ内　松山市　溫泉郡　伊豫郡　上浮穴郡
大洲　愛媛縣ノ内　喜多郡

松山
八幡濱　愛媛縣ノ内　西宇和郡
西條　愛媛縣ノ内　新居郡　宇摩郡　周桑郡
今治　愛媛縣ノ内　越智郡
宇和島　愛媛縣ノ内　北宇和郡　東宇和郡　南宇和郡

長崎
長崎　長崎縣ノ内　長崎市　西彼杵郡ノ内　上長崎村　小ヶ倉村　土井首村　深堀村　香焼村　伊王島村　高島村　蚊焼村　高濱村　野母村　脇岬村　樺島村　爲石村　川原村　茂木村　日見村　矢上村　喜々津村　大草村　伊木力村　長與村　時津村　村松村　長浦村　龜岳村　大串村　崎戸村　江島村　平島村　七釜村　多以良村　瀬戸村　松島村　雪浦村　神浦村　黒崎村　三重村　式見村　福田村　小榊村　北高來郡ノ内　浦上山里村　西浦上村　古賀村
大村　長崎縣ノ内　東彼杵郡ノ内　大村町　三浦村　鈴田村　大村　西大村　萱瀬村　竹松村　福重村　松原村　千綿村　彼杵村　川棚村　下波佐見村　上波佐見村　北高來郡ノ内　諫早町　諫早村　北諫早村　小栗村　小野村　森山村　有喜村　江ノ浦村　田結村　戸石村　眞津山村　本野村　長田村　深海村　小江村　湯江村　小長井村
島原　長崎縣ノ内　南高來郡
佐世保　長崎縣ノ内　佐世保市　東彼杵郡ノ内　宮村　廣田村　折尾瀬村　早岐村　江上村　西彼杵郡ノ内　崎針尾村　日宇村　佐世村

院

西高村　黒瀬村　瀬川村　北松浦郡ノ内　黒島村　小佐々村　佐々村　吉井村　世知原村　中里村　山口村　大野村　皆瀬村　柚木村
平戸　長崎縣ノ内　北松浦郡ノ内　平戸町　平戸村　大島村　生月村　中野村　獅子村　紐差村　中津良村　津吉村　志々伎村　笛吹村　前方村　柳村　平村　神浦村　南田平村　田平村　星鹿村　御厨村　志佐村　上志佐村　調川村　今福村　福島村　鷹島村　江迎村　鹿町村
武生水　長崎縣ノ内　壹岐郡
福江　長崎縣ノ内　南松浦郡
嚴原　長崎縣ノ内　下縣郡　上縣郡

佐賀
佐賀　佐賀縣ノ内　佐賀市　佐賀郡　神埼郡　三養基郡　小城郡
武雄　佐賀縣ノ内　杵島郡　藤津郡
伊萬里　佐賀縣ノ内　西松浦郡
唐津　佐賀縣ノ内　東松浦郡

福岡　福岡縣ノ内　福岡市　糸島郡　筑紫郡　粕屋郡　宗像郡　早良郡
甘木　福岡縣ノ内　朝倉郡
飯塚　福岡縣ノ内　嘉穂郡
直方　福岡縣ノ内　鞍手郡　遠賀郡ノ内　底井野村　長津村　香月村
久留米　福岡縣ノ内　久留米市　三井郡

福岡
三潴郡ノ内　荒木村　三潴村　安武村　大善寺村　西牟田村　犬塚村
吉井　福岡縣ノ内　浮羽郡
柳河　福岡縣ノ内　大牟田市　山門郡　三池郡　三潴郡ノ内　大川町　城島町　江上村　青木村　三又村　大溝村　木佐木村　木室村　大莞村　蒲池村　田口村　濱武村　久間田村　川口村　大野島村
八女　福岡縣ノ内　八女郡
小倉　福岡縣ノ内　小倉市　若松市　八幡市　門司市　企救郡　遠賀郡ノ内　折尾町　黒崎町　戸畑町　蘆屋町　岡垣村　島門村　淺木村　水巻村　上津役村　島郷村
行橋　福岡縣ノ内　京都郡　築上郡
田川　福岡縣ノ内　田川郡

大分　大分縣ノ内　大分市　大分郡　速見郡ノ内　別府町　石垣村　北由布村　南由布村　北海部郡ノ内　川添村　丹生村　大在村　小佐井村　佐賀市村　神崎村　大野郡ノ内　犬飼町
杵築　大分縣ノ内　速見郡ノ内　杵築町　日出町　御越町　豊岡町　朝日村　川崎村　藤原村　大神村　東村　北杵築村　八坂村　東山香村　中山香村　山浦村　上村　南端村　東國東郡ノ内　國東町　富來町　武藏町　安岐町　上國崎村　豐崎村　旭日村　中武藏村　西武藏村　朝來村　西安岐村　南安岐村　奈狩江村　大内村　西國東郡ノ内　朝田村　田原村
臼杵　大分縣ノ内　北海部郡ノ内　臼杵町　佐賀關町　一尺屋村　佐志生村　下ノ江村

長崎
大分
佐伯
大分縣ノ內
南海部郡
大野郡ノ內
重岡村　小野市村

竹田
大分縣ノ內
直入郡
大野郡ノ內
三重町　百枝村　新田村　菅尾村　白山村
合川村　牧口村　南緒方村　長谷川村　上緒方村
小富士村　緒方村　上井田村　東大野村　今市村
西大野村　井田村　長谷村　柴原村

中津
大分縣ノ內
下毛郡
宇佐郡ノ內
長洲町　宇佐町　四日市町　天津村　長峯村
横山村　麻生村　糸口村　高家村　八幡村
柳ヶ浦村　和間村　西馬城村　犀鮨村　豐川村
明治村　高並村　東院內村　院內村　南院內村
龍王村　安心院村　津房村　佐田村

玉津
大分縣ノ內
西國東郡ノ內
高田町　河內村　田染村　東都甲村　西都甲村
草地村　吳崎村　西真玉村　中真玉村　上真玉村
臼野村　三浦村　岬村　三重村
東國東郡ノ內
竹田津町　上伊美村　伊美村　鄉島村　熊毛村
來浦村
遠見郡ノ內
立石町
宇佐郡ノ內
封戸村　北馬城村

日田
大分縣ノ內
日田郡　玖珠郡

熊本縣ノ內
熊本市　飽託郡
菊池郡ノ內
大津町　原水村　津田村　瀨田村　陣內村

熊本
平嶺城村　護川村　北合志村　泗水村　合志村
西合志村　田島村
阿蘇郡ノ內
錦野村　山西村
上益城郡ノ內
白水村
下益城郡ノ內
松橋町　小川町　海東村　河江村　小野部田村
菅尾村　豐福村　豐川村

三角
熊本縣ノ內
宇土郡
下益城郡ノ內
守富村　杉合村
天草郡ノ內
登立村　維和村　上村　中村　潟島村

高瀨
熊本縣ノ內
玉名郡

御船
熊本縣ノ內
上益城郡ノ內
御船町　甲佐町　木山町　濱町　河原村
木倉村　高木村　宮內村　飯野村　秋津村
津森村　大島村　六嘉村　乙女村　下矢部村
七瀧村　廣安村　御嶽村　中島村　白旗村
龍野村　福田村　白糸村　瀧川村　名連川村
瀧尾村　水越村　豐秋村　陣內村　小坂村
下益城郡ノ內
隈庄町　中山村　豐野村　年福村　東砥用村
西砥用村　杉上村　豐田村

熊本山鹿
熊本縣ノ內
鹿本郡
菊池郡ノ內
隈府町　旭野村　河原村　水源村　迫間村
龍門村　磐村　城北村　戶崎村　花房村
菊池村　加茂川村　清泉村

熊本縣ノ內
阿蘇郡ノ內
宮地町　高森町　馬見原町　內牧町　中通村
古城村　坂梨村　山田村　南小國村　北小國村
尾ヶ石村　黑川村　野尻村　草部村　白水村
長陽村　久木野村　波野村　永水村
色見村

宮地

産山村　菅尾村　柏村　小峯村
上益城郡ノ內
朝日村

八代
熊本縣ノ內
八代郡　章北郡

人吉
熊本縣ノ內
球磨郡

天草
熊本縣ノ內
天草郡ノ內
富岡町　牛深町　阿村　楠甫村
本渡町　大道村
赤崎村　志柿村
上津浦村　下津浦村
御所浦村　棚底村　宮田村　下浦村
樋宇土村　楠浦村　大多尾村　佐伊津村　御領村
鬼池村　二江村　都呂々村　福連木村
高濱村　大江村　富津村　宮地岳村　宮野河內村
深海村　魚貫村　久玉村　今津村　教良木河內村
鳥子村　栖本村　宮地村　本戶村　本村
手野村　城河原村　新合村　一町田村
姫戶村　志岐村　須子村　大浦村　高戶村
樋島村　下津深江村　小田床村　中田村　碇石村
龜浦村　早浦村　久留村

鹿兒島
鹿兒島縣ノ內
鹿兒島市　鹿兒島郡　熊毛郡
日置郡ノ內
下伊集院村　中伊集院村　上伊集院村　郡山村　日置村
吉利村　永吉村　伊作村　田布施村　阿多村

加治木
鹿兒島縣ノ內
姶良郡　伊佐郡
囎唹郡ノ內
財部村　末吉村

知覽
鹿兒島縣ノ內
川邊郡　揖宿郡

川內
鹿兒島縣ノ內
薩摩郡　出水郡
日置郡ノ內
串木野村　西市來村　東市來村

鹿屋
鹿兒島縣ノ內
肝屬郡
囎唹郡ノ內

岩川村　恒吉村　市成村　松山村　東志布志村
西志布志村　月野村　野方村　大崎村

大島
鹿兒島縣ノ內
大島郡

宮崎
宮崎縣ノ內
宮崎郡　東諸縣郡　兒湯郡

飫肥
宮崎縣ノ內
南那珂郡

宮崎都城
宮崎縣ノ內
北諸縣郡　西諸縣郡

延岡
宮崎縣ノ內
東臼杵郡

高千穗
宮崎縣ノ內
西臼杵郡

那覇
那覇【區】　首里【區】　島尻郡　中頭郡　國頭郡
平良　沖繩縣ノ內
宮古郡　八重山郡

仙臺
仙臺　宮城縣ノ內
仙臺市　宮城郡　名取郡　黑川郡

大河原
宮城縣ノ內
柴田郡　亙理郡　伊具郡　刈田郡

古川
宮城縣ノ內
志田郡　加美郡　玉造郡　遠田郡　栗原郡

石卷
宮城縣ノ內
牡鹿郡　桃生郡
本吉郡ノ內
十三濱村

登米
宮城縣ノ內
登米郡
本吉郡ノ內
柳津町　橫山村

氣仙沼
宮城縣ノ內
本吉郡ノ內
氣仙沼町　志津川町　戶倉村　入谷村　歌津村
小泉村　御嶽村　大谷村　階上村　松岩村
新月村　鹿折村　唐桑村　大島村

福島	福島	福島縣ノ内 福島市 信夫郡 伊達郡 安達郡
	相馬	福島縣ノ内 相馬郡
	郡山	福島縣ノ内 安積郡 田村郡
	白河	福島縣ノ内 西白河郡 岩瀬郡 石川郡 東白川郡
	若松	福島縣ノ内 若松市 南會津郡 北會津郡 耶麻郡 河沼郡 大沼郡
	平	福島縣ノ内 石城郡 雙葉郡
山形	山形	山形縣ノ内 山形市 東置賜郡ノ内 中川村 南村山郡 東村山郡 西村山郡 北村山郡
	新庄	山形縣ノ内 最上郡
	米澤	山形縣ノ内 米澤市 南置賜郡 西置賜郡 東置賜郡ノ内 高畠町 赤湯町 宮内町 小松町 二井宿村 屋代村 龜岡村 和田村 上郷村 糠野目村 沖郷村 吉野村 金山村 漆山村 梨郷村 大塚村 犬川村 中郡村 吉島村 伊佐澤村
	鶴岡	山形縣ノ内 西田川郡ノ内 鶴岡町 大山町 加茂町 稻生村 大寶寺村 湯田川村 田川村 念珠關村 福榮村 溫海村 山戸村 豐浦村 上郷村 大泉村 西郷村 東田川郡ノ内 東郷村 榮村 京田村 大泉村 本郷村 山添村 黃金村 齋村 東村 黑川村 廣瀬村 泉村 渡前村 横山村 押切村 長沼村 八榮島村 藤島村 東榮村 手向村 立谷澤村 清川村 狩川村 十六合村
		山形縣ノ内

宮城	酒田	飽海郡 東田川郡ノ内 大和村 八榮里村 常萬村 余目村 新堀村 榮村 廣野村 西田川郡ノ内 袖浦村
盛岡	盛岡	巖手縣ノ内 盛岡市 巖手郡 紫波郡
	花巻	巖手縣ノ内 稗貫郡 和賀郡 膽澤郡ノ内 相去村
	二戸	巖手縣ノ内 二戸郡 九戸郡
	遠野	巖手縣ノ内 上閉伊郡 氣仙郡
	宮古	巖手縣ノ内 下閉伊郡
	一關	巖手縣ノ内 西磐井郡 東磐井郡ノ内 千厩町 大原町 折壁村 矢越村 小梨村 八澤村 大津保村 藤澤村 黃海村 薄衣村 奥玉村 磐清水村 門崎村 松川村 舞川村 長島村 田河津村 長坂村 猿澤村 摺澤村 澁民村 興田村
	水澤	巖手縣ノ内 江刺郡 膽澤郡ノ内 水澤町 前澤町 佐倉河村 眞城村 姉体村 白山村 古城村 衣川村 小山村 南都田村 若柳村 永岡村 金ヶ崎村 東磐井郡ノ内 生母村
秋田	秋田	秋田縣ノ内 秋田市 南秋田郡 河邊郡 由利郡ノ内 下濱村

秋田	能代	秋田縣ノ内 山本郡
	本荘	秋田縣ノ内 由利郡ノ内 本荘町 矢島町 龜田町 平澤町 金浦町 象潟町 子吉村 西目村 上濱村 上郷村 小出村 院内村 川内村 直根村 笹子村 西瀧澤村 鮎川村 東瀧澤村 玉米村 下郷村 石澤村 小友村 南内越村 北内越村 岩谷村 下川大内村 上川大内村 大正寺村 松ヶ崎村 道川村
	大館	秋田縣ノ内 北秋田郡 鹿角郡
	横手	秋田縣ノ内 平鹿郡ノ内 横手町 淺舞町 沼館町 大森町 山内村 榮村 醍醐村 三重村 植田村 睦合村 吉田村 福地村 里見村 八澤木村 館合村 阿氣村 田根森村 旭村 朝倉村 境町村 黑川村
	湯澤	秋田縣ノ内 雄勝郡 平鹿郡ノ内 増田町 十文字村
	大曲	秋田縣ノ内 仙北郡 平鹿郡ノ内 角間川町 川西村
	青森	青森縣ノ内 青森市 東津輕郡 下北郡 上北郡ノ内 七戸町 野邊地町 横濱村 天間林村 甲地村 浦野舘村 大深内村 六ヶ所村
	五所川原	青森縣ノ内 北津輕郡 中津輕郡ノ内 新和村 南津輕郡ノ内 畑岡村
		青森縣ノ内

青森	弘前	弘前市 中津輕郡ノ内 清水村 和德村 豐田村 堀越村 千年村 駒越村 岩木村 相馬村 東目屋村 西目屋村 藤代村 大浦村 船澤村 高杉村 裾野村 南津輕郡ノ内 黑石町 女鹿澤村 富木舘村 野澤村 大杉村 浪岡村 五郷村 六郷村 十二里村 常盤村 藤崎村 光田寺村 田舍舘村 中郷村 山形村 猿賀村 尾上村 金田村 淺瀬石村 大光寺村 柏木町村 竹舘村 町居村 尾崎村 石川村 大鰐村 藏舘村 碇ヶ關村
	鰺ヶ澤	青森縣ノ内 西津輕郡
	八戸	青森縣ノ内 三戸郡 上北郡ノ内 三本木町 法奥澤村 藤坂村 四和村 六戸村 百石村 下田村 三澤村
札幌	札幌	北海道ノ内 札幌【區】 札幌郡 千歳郡 石狩郡 厚田郡 濱益郡
	岩見澤	北海道ノ内 夕張郡 樺戸郡 空知郡ノ内 岩見澤町 瀧川町 沼貝村 北村 幌向村 栗澤村 砂川村 蘆別村 歌志内村 三笠山村 江部乙村
	室蘭	北海道ノ内 室蘭【區】 有珠郡 幌別郡 白老郡 虻田郡ノ内 虻田村 辨邊村 勇拂郡ノ内 苫小牧町 安平村 厚眞村 鵡川村 似灣村 累標村 穂別村 邊富内村
	浦河	北海道ノ内 浦河郡 様似郡 幌泉郡 三石郡 静内郡 新冠郡 沙流郡
	小樽	北海道ノ内 小樽【區】 小樽郡 高島郡 忍路郡 余市郡

地方裁判所	區裁判所	管轄區域
札幌	（前頁ヨリ續ク）	古平郡　美國郡　積丹郡
函館	岩内	北海道ノ内　岩内郡　古宇郡　虻田郡ノ内　倶知安町　東倶知安村　眞狩村　喜茂別村　狩太村
	函館	北海道ノ内　函館【區】　龜田郡　上磯郡　茅部郡　山越郡　松前郡
	江差	北海道ノ内　檜山郡　爾志郡　久遠郡　太櫓郡　瀬棚郡　奥尻郡
	壽都	北海道ノ内　壽都郡　磯谷郡　歌棄郡　島牧郡
旭川	旭川	北海道ノ内　旭川【區】　上川郡（石狩國）　空知郡ノ内　音江村　上富良野村　中富良野村　下富良野村　山部村　南富良野村　雨龍郡ノ内　深川町　北龍村　上北龍村　一已村　多度志村　秩父別村　雨龍村　勇拂郡ノ内　占冠村
	名寄	北海道ノ内　上川郡（天鹽國）　中川郡（天鹽國）　枝幸郡　紋別郡ノ内　紋別村　渚滑村　瀧上村　興部村　雄武村　雨龍郡ノ内　幌加内村
	増毛	北海道ノ内　増毛郡　留萠郡　苫前郡
	稚内	北海道ノ内　宗谷郡　天鹽郡　利尻郡　禮文郡
釧路	釧路	北海道ノ内　釧路郡　白糠郡　阿寒郡　川上郡　厚岸郡
	帶廣	北海道ノ内　河西郡　河東郡　上川郡（十勝國）　中川郡（十勝國）　十勝郡　足寄郡　廣尾郡
	網走	北海道ノ内　網走郡　斜里郡　常呂郡　紋別郡ノ内　下湧別村　上湧別村
	根室	北海道ノ内　根室郡　花咲郡　野付郡　標津郡　目梨郡　國後郡　色丹郡　紗那郡　振別郡　擇捉郡　蘂取郡　得撫郡　新知郡　占守郡
樺太	豐原	樺太ノ内　豐原郡　榮濱郡　元泊郡　大泊郡　長濱郡　富内郡　留多加郡　新問郡　敷香郡　散江郡
	眞岡	樺太ノ内　眞岡郡　本斗郡　野田寒郡　泊居郡　久春内郡　鵜城郡　名好郡

昭和四年三月二十七日
法律第六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル大正二年法律第九號中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

大正二年法律第九號中左ノ通改正ス

別表裁判所管轄區域表中網走區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

區裁判所	管轄區域
網走	北海道ノ内　網走郡　斜里郡　常呂郡ノ内　常呂村
野付牛	北海道ノ内　常呂郡ノ内　野付牛町　端野村　相内村　訓子府村　置戸村　留邊蘂町　佐呂間村　紋別郡ノ内　生田原村　遠輕村　上湧別村　下湧別村

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前網走區裁判所ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ裁判所ニ於テ之ヲ完結ス

●司法事務共助法

明治四十四年三月三十日
法律第五十二號
改正　大正一一年第一二三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル司法事務共助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、司法大臣副署）

司法事務共助法

第一條　内地及樺太、朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島又ハ帝國ノ領事裁判權ヲ行フ地域ニ於テ司法事務ヲ取扱フ官廳間ノ司法事務ノ共助ハ本法ニ依ル

第二條　司法事務ヲ取扱フ官廳ハ民事及刑事ニ關シ相互ニ左ノ事項ヲ囑託スルコトヲ得

一　訴訟書類ノ送達
二　證據調
三　令狀ノ發付及執行
四　犯罪ノ搜査

第三條　民事ノ判決ハ其ノ執行力アル正本ニ基キ司法事務ヲ取扱フ他ノ官廳ノ管轄區域内ニ於テ其ノ强制執行ヲ爲スコトヲ得但シ執行地ノ法令ニ依リ許スヘカラサル請求ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ假差押又ハ假處分ノ命令ノ執行ニ之ヲ準用ス

第四條　刑事ノ判決ハ謄本ヲ送付シテ其ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得但シ死刑又ハ笞刑ヲ言渡シタル判決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ囑託ニ依ル執行ニ付テハ刑名同シキモノハ之ヲ同一ノ刑ト看做シ舊韓國法規ノ流刑又ハ禁獄ハ之ヲ禁錮ト看做ス

第五條　前條ノ規定ニ依リテ囑託ヲ受ケタル官廳ハ其ノ管轄區域内ノ監獄ニ於テ刑ノ執行ヲ繼續スルコト能ハサル事由ヲ生シタルトキハ囑託ヲ爲シタル官廳ニ其ノ管轄區域内ノ監獄ニ於テ繼續シテ之ヲ爲スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第六條　司法事務ノ共助ニ關スル費用竝受刑者及刑事被告人ノ護送ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治四十四年勅令第二百六十七號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）

●司法事務共助ニ關スル費用竝受刑者及刑事被告人護送ニ關スル件

明治四十四年十月二十四日
勅令第二百六十八號
改正　大正一一年第八〇號

朕司法事務ノ共助ニ關スル費用竝受刑者及刑事被告人ノ護送ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法、内務、外務大臣副署）

第一條　司法事務共助法ニ依ル共助ニ關スル費用ハ囑託ヲ受ケタル官廳ノ支辨トシ事宜ニ依リ關係官廳ノ協議ヲ以テ囑託ヲ爲シタル官廳ハ囑託ヲ受ケタル官廳ニ對シ費用ノ全部又ハ一部ヲ補償スルコトヲ得

第二條　受刑者及刑事被告人ノ護送ニ關スル手續ハ護送地ノ規定ニ依リ其ノ費用ハ護送ヲ爲ス官廳ノ支辨トシ内地及樺太、朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島又ハ帝國ノ領事裁判權ヲ行フ地域相互ノ間ニ於ケル航海中ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

附　則

本令ハ明治四十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法

明治三十八年三月十三日
法律第六十三號
改正　明治四五年第七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、司法大臣副署）

外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法

第一條　裁判所ハ外國裁判所ノ囑託ニ因リ民事及刑事ノ訴訟事件ニ關スル書類ノ送達及證據調ニ付法律上ノ補助ヲ爲ス

法律上ノ補助ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第一條ノ二　法律上ノ補助ハ左ノ條件ヲ具備スル場合ニ於テ之ヲ爲ス

一　囑託カ外交機關ヲ經由シタルモノナルコト
二　書類送達ノ囑託ハ送達ヲ受クヘキ者竝其ノ國籍及住所又ハ居所ヲ記載シタル書面ヲ以テ爲シタルモノナルコト
三　證據調ノ囑託ハ訴訟事件ノ當事者、證據方法ノ種類、取調ヲ受クヘキ者ノ氏名國籍及住所又ハ居所竝取調ヲ要スル事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ爲シ仍刑事ニ付テハ其ノ事件ノ要旨ヲ記載シタル書面ヲ添附シタルモノナルコト
四　日本語ヲ以テ作成セサル囑託書及其ノ關係書類ニハ日本語ノ翻譯文ヲ添附スルコト
五　囑託裁判所所屬國カ受託事項施行ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ保證シタルコト
六　囑託裁判所所屬國カ同一又ハ類似ノ事項ニ付日本ノ裁判所ノ囑託ニ因リ法律上ノ補助ヲ爲シ得ヘキ旨ノ保證ヲ爲シタルコト

第二條　受託事項カ他ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ受託裁判所ハ囑託ヲ管轄裁判所ニ移送スヘシ

第三條　受託事項ハ日本ノ法律ニ依リ之ヲ施行スヘシ

●混合仲裁裁判所ノ囑託ニ因リ司法裁判所ノ爲ス法律上ノ補助ニ關スル件

大正九年四月十六日
勅令第百七號
改正　大正九年第四八六號、一〇年第三七七號、一二年第三三號

朕混合仲裁裁判所ノ囑託ニ因リ司法裁判所ノ爲ス法律上ノ補助ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法、外務大臣副署）

帝國ト獨逸國、墺地利國又ハ洪牙利國トノ間ニ設置スル混合仲裁裁判所ノ囑託ニ因リ内地及樺太、朝鮮、臺灣、關東州竝南洋群島ノ司法裁判所ノ爲ス法律上ノ補助ニ付テハ外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法第一條ノ二第一號、第五號及第六號ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル但シ同法ノ定ムル區裁判所ノ職務ハ内地及樺太以外ノ地ニ在リテハ之ニ該當スル裁判官廳之ヲ行フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府裁判所令

明治四十二年十月十八日
勅令第二百三十六號
改正　明治四三年勅令第五號、第九號、四四年第四號、四五年第四號、大正二年第四號、九年第三號、第二六號、一〇年第一二號、一一年第一二號

朕統監府裁判所令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府裁判所令

第一條　朝鮮總督府裁判所ハ朝鮮總督ニ直屬シ朝鮮ニ於ケル民事刑事ノ裁判及非訟事件ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　朝鮮總督府裁判所ヲ分チテ地方法院、覆審法院及高等法院トス

朝鮮總督府裁判所ノ設置、廢止及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

朝鮮總督府裁判所ニ朝鮮總督府判事ヲ置ク

判事ハ勅任又ハ奏任トス

第三條　地方法院ハ民事及刑事ニ付第一審裁判ヲ行ヒ且非訟事件ニ關スル事務ヲ取扱フ

覆審法院ハ地方法院ノ裁判ニ對スル控訴及抗告、高等法院ハ地方法院及覆審法院ノ裁判ニ對スル上告竝覆審法院ノ裁判及地方法院ノ爲シタル上告棄却ノ決定ニ對スル抗告ニ付裁判ヲ行フ

高等法院ハ前項ノ外、裁判所構成法ニ定メタル大審院ノ特別權限ニ屬スル職務ヲ行フ

第四條　地方法院ハ判事單獨ニテ裁判ヲ爲ス但シ左ニ掲クル事件ニ付テハ三人ノ判事ヲ以テ組織シタル部ニ於テ合議シテ裁判ヲ爲ス

一　訴訟物ノ價額千圓ヲ超過スル民事事件
二　人事ニ關スル訴訟事件
三　刑法第七十四條及第七十六條ノ犯罪事件
四　死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル犯罪事件但シ刑法第二百三十六條、第二百三十八條及第二百三十九條ノ罪竝其ノ未遂罪ニシテ豫審ヲ經サルモノヲ除ク
五　短期一年ニ滿タサル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル犯罪ニシテ豫審ヲ經タルモノ
六　前三號ノ共犯事件但シ前三號ノ事件ト同時ニ審判スル場合ニ限ル
七　判事ニ對スル忌避事件

登記事務ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

覆審法院ハ三人ノ判事、高等法院ハ五人ノ判事ヲ以テ組織シタル部ニ於テ合議シテ裁判ヲ爲ス

高等法院ノ或部ニ於テ上告ヲ審問シタル後從來ノ判決例ニ異ナリタル意見ヲ有スルトキハ其ノ部ハ之ヲ高等法院長ニ報告シ高等法院長ハ各部ヲ聯合シテ更ニ之ヲ審問シ及其ノ裁判ヲ爲サシム此ノ場合ニ於テハ判事ノ三分ノ二以上列席スルコトヲ要ス

第五條　朝鮮總督ハ地方法院ノ事務ノ一部ヲ取扱ハシムル爲地方法院ノ支廳ヲ設置スルコトヲ得

第六條　朝鮮總督ハ地方法院ノ判事ノ一人又ハ數人ニ刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第七條　第三條第三項ノ場合ニ於テハ高等法院長ハ各別ノ事件ニ付其ノ院ノ判事又ハ下級裁判所ノ判事ニ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第八條　朝鮮總督ハ特別ノ必要アリト認ムルトキハ一ノ地方法院ニ屬スル刑事訴訟事件ヲ他ノ地方法院ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

第九條　朝鮮總督府裁判所ニ檢事局ヲ竝置ス

地方法院支廳ヲ設置シタルトキハ其ノ支廳ニ檢事分局ヲ竝置ス

檢事局ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ朝鮮ニ於ケル檢察事務ヲ掌ル

檢事局ノ管轄區域ハ之ヲ竝置シタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ

檢事局ニ朝鮮總督府檢事ヲ置ク檢事ハ勅任又ハ奏任トス

檢事ハ檢察事務ニ付上官ノ命令ニ從フヘシ

第十條　朝鮮總督府裁判所ニ書記ヲ置ク書記ハ判任トス

書記ハ裁判所及檢事局ニ附屬ス

第十一條　朝鮮總督府裁判所ニ通譯官又ハ通譯生ヲ置ク通譯官ハ奏任、通譯生ハ判任トス

通譯官及通譯生ハ裁判所及檢事局ニ附屬ス

第十二條　高等法院ニ高等法院長ヲ置ク

高等法院長ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ其ノ院ノ行政事務ヲ掌理シ下級裁判所ノ行政事務ヲ指揮監督ス

第十三條　覆審法院ニ覆審法院長ヲ置ク

覆審法院長ハ其ノ院ノ行政事務ヲ掌理シ管轄區域内地方法院ノ行政事務ヲ指揮監督ス

第十四條　地方法院ニ地方法院長ヲ置ク

地方法院長ハ其ノ院ノ行政事務ヲ掌理ス

第十五條　地方法院支廳ノ判事ハ地方法院長

ノ命ヲ承ケ其ノ支廳ノ行政事務ヲ掌ル
判事二人以上アルトキハ上席ノ判事前項ノ職務ヲ行フ

第十六條　高等法院、覆審法院及地方法院ノ各部ニ部長ヲ置ク
部長ハ各其ノ長官ノ命ヲ承ケ部ノ事務ヲ掌ル

第十七條　高等法院檢事局ニ高等法院檢事長ヲ置ク
高等法院檢事長ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ其ノ局ノ事務ヲ掌理シ下級檢事局ヲ指揮監督ス

第十八條　覆審法院檢事局ニ覆審法院檢事長ヲ置ク
覆審法院檢事長ハ其ノ局ノ事務ヲ掌理シ管轄區域內地方法院檢事局ヲ指揮監督ス

第十九條　地方法院檢事局ニ地方法院檢事正ヲ置ク
地方法院檢事正ハ其ノ局ノ事務ヲ掌理ス

第二十條　地方法院支廳ノ檢事ハ地方法院檢事正ノ命ヲ承ケ其ノ支廳檢事分局ノ事務ヲ掌ル
檢事二人以上アルトキハ上席ノ檢事前項ノ職務ヲ行フ

第二十條ノ二　合議裁判所長、高等法院檢事長、覆審法院檢事長及地方法院檢事正ハ其ノ監督ニ屬スル判事又ハ檢事ヲシテ行政事務ノ一部ヲ分チ取扱ハシムルコトヲ得

第二十條ノ三　朝鮮總督府司法官試補ヨリ新ニ朝鮮總督府判事又ハ朝鮮總督府檢事ニ任セラレタル者ヲ補スヘキ闕位ナキトキハ朝鮮總督ハ闕位アル迄豫備判事又ハ豫備檢事トシテ地方法院、地方法院支廳又ハ其ノ檢事局ニ勤務セシム

第二十條ノ四　地方法院長又ハ檢事正ハ必要アル場合ニ於テハ豫備判事又ハ豫備檢事ヲシテ地方法院又ハ其ノ支廳ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

第二十一條　高等法院及覆審法院ニ書記長ヲ置ク書記長ハ奏任トス
書記長ハ院長及檢事長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第二十一條ノ二　朝鮮總督府裁判所及檢事局ニ朝鮮總督府司法官試補ヲ置ク
司法官試補ハ地方法院又ハ其ノ支廳ノ判事又ハ檢事ノ監督ヲ受ケ實務ヲ修習ス
司法官試補ハ奏任官ノ待遇トス

第二十一條ノ三　司法官試補ハ其ノ修習ヲ監督スル判事ノ命令アルトキハ司法事務ヲ取扱フコトヲ得但シ如何ナル場合ニ於テモ裁判ヲ爲シ又ハ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條ノ四　朝鮮總督ハ司法官試補ヲシテ地方法院又ハ其ノ支廳ノ檢事ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得但シ第四條第一項ノ各號ニ揭クル事件ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十三條　朝鮮總督府裁判所ニ判任官見習ヲ置ク
判任官見習ハ上官ノ監督ヲ受ケ實務ヲ修習ス
朝鮮總督ハ判任官見習ヲシテ書記ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得但シ登記事務ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　通譯官及通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯及通譯ニ從事ス

第二十五條　削除

第二十六條　地方法院支廳ノ檢事ノ職務ハ朝鮮總督府道警視、朝鮮總督府道警部又ハ朝鮮總督府裁判所書記ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十六條ノ二　判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス
一　公然政事ニ關係スルコト
二　政黨政派ニ加入スルコト
三　俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト
四　商業ヲ營ムコト

第二十六條ノ三　判事ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ當然其ノ官ヲ失フ

第二十六條ノ四　判事ハ前條ノ場合又ハ懲戒ノ處分ニ依ル場合ヲ除クノ外其ノ意ニ反シテ其ノ官ヲ失フコトナシ

第二十六條ノ五　判事身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ朝鮮總督ハ高等法院ノ總會ノ議決ヲ經テ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第二十六條ノ六　高等法院長年齡六十三年其ノ他ノ判事ノ職ニ在ル者年齡六十年ニ達シタルトキハ退職トス但シ朝鮮總督ハ高等法院ノ總會ノ決議ニ依リ五年以內ノ期間ヲ定メ仍在職セシムルコトヲ得

第二十六條ノ七　高等法院長、高等法院檢事長、覆審法院長及覆審法院檢事長ハ朝鮮總督上奏シテ之ヲ補シ其ノ他ノ各職ハ朝鮮總督之ヲ補ス

第二十七條　朝鮮總督府裁判所及檢事局ノ事務處理ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附　則

第二十八條　本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
統監府法務院官制ハ之ヲ廢止ス

第二十九條　本令施行前理事廳又ハ韓國ノ區裁判所、郡衙若ハ地方裁判所ニ於テ受理シタル訴訟事件及非訟事件ハ現在ノ儘理事廳ニ係ルモノニ在リテハ管轄ニ關スル規定ニ從ヒ相當ノ區裁判所又ハ地方裁判所ニ、韓國ノ區裁判所又ハ郡衙ニ係ルモノニ在リテハ其ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ、韓國地方裁判所ニ係ルモノニ在リテハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ移ルモノトシ既ニ爲シタル裁判ハ第一審及第二審ノ區別ニ從ヒ各其ノ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十條　本令施行前統監府法務院又ハ韓國ノ控訴院ニ於テ受理シタル訴訟事件及非訟事件ハ現在ノ儘其ノ所在地ヲ管轄スル控訴院ニ移ルモノトス
統監府法務院ノ既ニ爲シタル裁判ハ高等法院、韓國ノ控訴院ノ既ニ爲シタル裁判ハ前項ノ控訴院之ヲ爲シタルモノト看做ス
本令施行前韓國ノ大審院ニ於テ受理シタル訴訟事件及非訟事件ハ現在ノ儘高等法院ニ移ルモノトシ既ニ爲シタル裁判ハ高等法院之ヲ爲シタルモノト看做ス

附　則（大正十年制令第十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ判事ノ職ニ在ル者ニシテ本令施行ノ日ニ於テ第二十六條ノ六ニ規定スル年齡ヲ超ユルモノ及本令施行ノ日ヨリ二十日內ニ於テ其ノ年齡ニ達スルモノハ本令施行ノ日ヨリ二十日ヲ經テ退職スルモノトス
前項ノ場合ニ於テハ第二十六條ノ六但書ノ規定ヲ準用ス但シ第二十六條ノ六ニ規定スル年齡ニ五年ヲ加ヘタルモノヲ超エテ在職セシムルコトヲ得ス
本令施行ノ際現ニ休職中ノ判事ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附　則（大正十一年制令第十二號）

本令施行ノ期日ハ各條ニ付朝鮮總督之ヲ定ム
（大正十一年制令第十二號ハ朝鮮總督府裁判所令第三條第二項ノ改正ニ關スル規定ヲ除クノ外大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス（大正十一年朝鮮總督府令第百五十一號）
大正十一年制令第十二號中朝鮮總督府裁判所令第三條第二項ノ改正ニ關スル規定ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
（大正十二年朝鮮總督府令第八十四號）

（昭和四年五月七日 制令第八號）
朝鮮總督府裁判所令中改正ノ件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス
朝鮮總督府裁判所令中左ノ通改正ス
第四條第一項第七號中「忌避事件」ヲ「除斥及忌避ノ事件」ニ改ム

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

●朝鮮總督府裁判所及檢事局事務章程

（明治四十五年三月十九日 朝鮮總督府令第二十八號　改正 大正五年第二〇號）

朝鮮總督府裁判所及檢事局事務章程左ノ通定ム

第一條　裁判所ノ長及檢事局ノ長事故アル場合ニ於ケル行政事務ノ代理ハ其ノ廳ノ判事及檢事中上席ノ者之ヲ爲ス
前項ノ規定ハ地方法院支廳ノ上席ノ判事又ハ檢事事故アル場合ニ之ヲ準用ス

第二條　高等法院長ハ京城覆審法院判事ヲシテ高等法院判事ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第三條　覆審法院長ハ其ノ院ノ判事及其ノ院所在地ノ地方法院判事ヲシテ相互ニ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第四條　地方法院長ハ其ノ院ノ判事及其ノ支廳ノ判事ヲシテ相互ニ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第五條　地方法院長ハ豫審判事事故アル場合ニ於テ其ノ院ノ判事又ハ其ノ支廳ノ判事ヲシテ豫審判事ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　裁判ノ合議ハ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理スヘシ
合議ハ之ヲ公行セス其ノ顚末竝各判事ノ意見ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルコトヲ要ス

第七條　合議ハ過半數ノ意見ニ依リ之ヲ決ス
判事ノ意見三說以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ル迄被告ニ不利益ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第八條　檢事局ノ長ハ其ノ局ノ檢事及其ノ管內ノ下級檢事局ノ檢事ヲシテ相互ニ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得地方法院檢事局ノ檢事及其ノ分局ノ檢事ニ付亦同シ

第九條　各裁判所ニ書記課ヲ置キ其ノ裁判所及檢事局ニ附屬セシム

第十條　高等法院及覆審法院ノ書記長ハ各其ノ所屬ノ院長及檢事長ノ命ヲ承ケ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス

第十一條　地方法院書記課ニ監督書記ヲ置ク
地方法院支廳書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其ノ一人ヲ監督書記トス
地方法院出張所ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其ノ一人ヲ主任トス
監督書記又ハ主任ハ其ノ所屬地方法院長及檢事正之ヲ命ス
監督書記又ハ主任ヲ命シタルトキハ速ニ之ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第十二條　地方法院監督書記ハ地方法院長及檢事正ノ命ヲ受ケ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス
地方法院支廳監督書記ハ一人ノ判事及檢事又ハ上席ノ判事及檢事ノ命ヲ承ケ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス
地方法院出張所主任ハ登記及公證ニ關スル事務ヲ掌理ス主任事故アルトキハ其ノ廳ノ書記中上席ノ者主任ノ事務ヲ行フ

第十三條　裁判所及檢事局ノ長ハ其ノ裁判所及其ノ管內ノ下級裁判所ノ書記ヲシテ相互ニ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得地方法院及其ノ支廳ノ書記ニ付亦同シ
前項ノ規定ハ通譯官及通譯生ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●地方法院出張所設置ニ關スル件

（大正三年五月一日 制令第二十號）

地方法院出張所設置ニ關スル件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス
地方法院ノ管內ニ其ノ出張所ヲ設置シ裁判所書記ヲシテ登記及公證事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得
出張所ノ設置廢止及事務取扱區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府判事檢事ノ朝鮮總督府裁判所內ニ於ケル席次

（大正四年三月十一日 朝鮮總督府訓令第十二號　改正 大正一一年第三一號）

朝鮮總督府判事、檢事ノ朝鮮總督府裁判所內ニ於ケル席次左ノ通定ム
朝鮮總督府判事、檢事ノ朝鮮總督府裁判所內ニ於ケル席次ハ官等ニ依リ官等同シキ者ハ年俸等級ニ依リ年俸等級同シキ者ハ年俸下賜辭令ノ日附ニ依ル但シ裁判所及檢事局ノ長ハ其ノ廳ノ職員ノ上席トシ上級ノ裁判所及檢事局ノ長ハ下級ノ裁判所及檢事局ノ職員ノ上席トス

●朝鮮總督府裁判所及檢事局徵收金取扱規程

（大正四年七月八日 朝鮮總督府訓令第四十號　改正 大正一二年第二六號）

朝鮮總督府裁判所及檢事局徵收金取扱規程左ノ通定メ大正四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮總督府裁判所及檢事局徵收金取扱規程

第一條　裁判所及檢事局ニ於テ取扱フヘキ罰金、科料、沒收金、追徵金、過料、沒取金、訴訟費用及費用賠償ノ徵收ハ本規程ニ依ル

第二條　檢事局ノ長ハ檢事局ノ事務ニ從フ裁判所書記ノ中ニ就キ徵收事務ヲ取扱フ主任者ヲ定ムヘシ

第三條　檢事局ニ樣式第一號ノ徵收金原簿、樣式第二號ノ徵收金處分簿及徵收金整理簿ヲ備フヘシ
徵收主任ハ前項ノ帳簿ニ檢事（檢事事務取扱者ヲ含ム以下同シ）ノ命令其ノ他徵收ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第四條　徵收金ニ付裁判確定シタルトキハ檢事ハ納人部納スル場合ヲ除クノ外樣式第三號ノ納付命令ヲ發シ又ハ徵收ヲ囑託スヘシ
抗告（不服申立ノ期間ノ定ナキモノヲ除ク以下同シ）ヲ爲シ得ル裁判アリタルトキ又ハ徵收ニ付囑託ヲ受ケ若ハ囑託ノ返戾ヲ受ケタルトキ亦前項ニ同シ

第五條　收入印紙ヲ以テ納付スル者アルトキハ檢事ハ徵收主任ヲシテ印紙ニ消印シ且納人ニ對シ樣式第四號ノ納付濟證ヲ交付セシムヘシ但シ郵便ニ依リ納付シタルモノニシテ納付濟證郵送料ノ送付ナキトキハ其ノ交付ヲ要セス

第六條　郵便爲替證書ヲ以テ納付スル者アルトキハ檢事ハ收入官吏ニ通知シ同時ニ該證券ヲ之ニ送付スヘシ

第七條　現金納付ノ申出ヲ爲ス者アルトキハ檢事ハ直ニ收入官吏ニ通知シ納人ヲシテ之ニ納付セシムヘシ

第八條　押收金ノ沒收又ハ保證金ノ沒取ト爲リタルモノアルトキハ檢事ハ收入官吏ニ通知シ同時ニ其ノ保管者ヲシテ該沒收金又ハ沒取金ヲ之ニ交付セシムヘシ

第九條　檢事執達吏ノ職務ヲ行フ者ヨリ現金又ハ郵便爲替證書ヲ以テ徵收金ノ交付ヲ受ケタルトキハ第六條又ハ第七條ノ規定ニ準シテ取扱フヘシ

第十條　罰金、科料以外ノ徵收金ニ付納人ノ無資力ニ因リ檢事徵收不能ノ決定ヲ爲シタルトキハ資力調査書類ヲ添ヘ之ヲ歲入徵收官（歲入徵收事務分掌者ヲ含ム以下同シ）ニ通知スヘシ

第十一條　徵收主任第五條ノ手續ヲ終リタルトキハ收入印紙納付書ニ表紙及目錄ヲ附シテ之ヲ編綴シ其ノ後ニ接受シタル納付書ハ順序ニ從ヒテ加綴シ目錄ニ記入スヘシ
徵收主任ハ每月末日前項ノ目錄ニ徵收金ノ合計ヲ記入シ檢事局ノ長ノ檢閱ヲ受クヘシ

第十二條　民事訴訟事件又ハ非訟事件ノ手續ニ關スル費用ニシテ國庫ノ立替又ハ假免除ヲ要スルモノニ付テハ主任判事ハ裁判所書記ヲシテ事件番號、當事者氏名、立替又ハ假免除ヲ要スル事由及金額其ノ他ノ事項ヲ一定ノ帳簿ニ記載セシムヘシ

第十三條　國庫ノ立替又ハ假免除ヲ爲シタル費用ニ付テハ檢事ノ命令ニ依リ徵收スルモノヲ除クノ外主任判事ハ事件終了ノ際前條ノ帳簿ニ依リ費用計算書ヲ作リ之ヲ一件記錄ニ編綴スヘシ
上訴事件又ハ受託事件終了ノ際亦前項ニ同シ

第十四條　第一審裁判所ノ主任判事ハ費用計算書ノ編綴シアル事件確定シタルトキハ裁判所書記ヲシテ樣式第五號ノ負擔額通知簿ニ各事項ヲ記載セシメ費用計算書ヲ添ヘ歲入徵收官ニ通知スヘシ但シ費用計算ノ簡單ナルモノニ付テハ計算書ノ添附ヲ要セス
抗告ヲ爲シ得ル裁判アリタルトキ亦前項ニ同シ
前二項ノ手續ヲ爲シタル後抗告ノ結果ニ因リ負擔者又ハ負擔額ニ變更ヲ生シタルトキハ裁判所書記ヲシテ負擔額通知簿ニ其ノ旨ヲ記載セシメ更ニ之ヲ歲入徵收官ニ通知スヘシ

（樣式省略）

●臺灣總督府法院條例

（明治三十一年七月十九日 律令第十六號　改正 明治四一年第五號 大正八年第四號、一一年第九號、一二年第七號、一五年第三號 昭和二年第四號）

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣總督府法院條例改正ノ件勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

臺灣總督府法院條例

第一條　臺灣總督府法院ハ臺灣總督ニ直屬シ民事刑事ノ裁判及非訟事件ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　臺灣總督府法院ヲ分チテ地方法院及高等法院トス
地方法院ノ管轄區域內ニ地方法院支部ヲ置キ其事務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得
地方法院及地方法院支部ノ管轄區域內ニ出張所ヲ置キ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得
地方法院、地方法院支部及出張所ノ設置、廢止竝管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム
地方法院ニ單獨部及合議部ヲ置ク
高等法院ニ覆審部及上告部ヲ置ク

第三條　地方法院單獨部ハ民事刑事ニ付第一審ノ裁判ヲ爲シ非訟事件ニ關スル事務ヲ取扱フ但シ地方法院合議部ノ權限又ハ高等法院上告部ノ特別權限ニ屬スル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
非訟事件中登記事務ハ法院書記ヲシテ之ヲ

取扱ハシムルコトヲ得

第三條ノ二　地方法院合議部ハ左ニ掲クル事項ニ付裁判ヲ爲シ刑事ノ豫審ニ關スル事務ヲ取扱フ但シ高等法院上告部ノ權限ニ屬スル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一　第一審トシテ

イ　訴訟物ノ價額二千圓ヲ超過スル請求

ロ　人事訴訟

ハ　死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪

ニ　短期一年ニ滿タサル有期ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニシテ豫審ヲ經タルモノ

第二　第二審トシテ

イ　地方法院單獨部ノ判決ニ對スル控訴

ロ　地方法院單獨部ノ決定及命令ニ對スル抗告

第四條　高等法院覆審部ハ地方法院合議部ノ第一審判決ニ對スル控訴竝高等法院上告部ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク外地方法院合議部ノ第一審トシテ爲シタル決定及命令ニ對スル抗告ニ付裁判ヲ爲ス

高等法院上告部ハ左ニ掲クル事項ニ付裁判ヲ爲ス

第一　終審トシテ

イ　上告

ロ　地方法院合議部ノ第二審トシテ爲シタル決定及命令竝高等法院覆審部ノ決定及命令ニ對スル抗告

ハ　地方法院單獨部又ハ地方法院合議部ノ爲シタル上告棄却ノ決定ニ對スル抗告

第二　第一審ニシテ終審トシテ

イ　刑法第七十三條、第七十五條及第七十七條乃至第七十九條ノ罪ノ豫審及裁判

ロ　左ニ記載シタル罪ノ豫審及裁判

一　施政ニ反抗シ暴動ヲ爲スノ目的ヲ以テ犯シタル罪

二　政事ニ關シ樞要ノ官職ニ在ル者ニ危害ヲ加フル目的ヲ以テ犯シタル罪

三　外患ニ關スル罪

四　國交ニ關スル罪

五　匪徒刑罰令ニ掲ケタル罪

第三　裁判管轄ニ關スル請求又ハ申請

第四條ノ二　前條第二項第二ニ掲ケタル事項ニ付高等法院ニ於テ必要アリト認メタルトキハ事件ノ裁判ヲ爲ス爲地方法院、地方法院支部其他便宜ノ場所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得

第五條　各法院ニ判官ヲ置ク

判官ハ勅任又ハ奏任トス臺灣總督之ヲ補職ス

裁判所構成法ニ於テ判事タルノ資格アル者ニアラサレハ判官タルコトヲ得ス

第六條　各法院ニ院長ヲ置ク判官ヲ以テ之ニ補ス

院長ハ其院一般ノ事務ヲ指揮シ其行政事務ヲ監督ス

上級法院ノ院長ハ下級法院ノ行政事務ヲ監督ス

院長事故アルトキハ上席判官其職務ヲ代理ス

地方法院支部ノ判官ハ地方法院長ノ命ヲ承ケ其支部ノ行政事務ヲ掌ル判官二人以上アルトキハ上席判官之ヲ掌ル

第七條　地方法院單獨部ニ於テハ判官單獨ニテ裁判ヲ爲ス

地方法院合議部ニ於テハ三人ノ判官合議シテ裁判ヲ爲ス

臺灣總督ハ地方法院合議部ノ判官ノ一人又ハ數人ニ刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第八條　高等法院覆審部ニ於テハ三人ノ判官合議シテ裁判ヲ爲ス

高等法院上告部ニ於テハ五人ノ判官合議シテ裁判ヲ爲ス

第八條ノ二　地方法院合議部及高等法院覆審部ニ部ヲ設ク

地方法院合議部、高等法院覆審部ノ各部竝高等法院上告部ニ部長ヲ置ク但地方法院合議部ノ一部及高等法院上告部ノ部長ハ其法院ノ院長ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ裁判長ト爲リ其部ノ事務ヲ監督ス

第八條ノ三　高等法院長ハ第四條第二項第二ニ掲ケタル事件ニ付高等法院上告部、高等法院覆審部、地方法院合議部又ハ地方法院單獨部ノ判官ニ豫審ヲ命スルコトヲ得

第八條ノ四　高等法院覆審部ノ判官差支ノ爲或事件ヲ取扱フコトヲ得ス且覆審部ノ判官中其代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其事件緊急ナリト認ムルトキハ高等法院長ハ之ヲ代理スヘキ判官ヲ出スヘキ旨ヲ地方法院長ニ通知シ其地方法院合議部ノ判官ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

高等法院上告部ノ判官差支ノ爲或事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ高等法院長ハ覆審部ノ判官ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第八條ノ五　高等法院上告部ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其訴訟一切ノ事ニ付高等法院覆審部、地方法院合議部及地方法院單獨部ヲ羈束ス

第九條　各法院ニ檢察局ヲ附置ス

檢察局ハ臺灣總督ニ直屬シ其管轄區域ハ各法院ノ管轄區域ニ同シ

各檢察局ニ檢察官ヲ置ク

檢察官ハ勅任又ハ奏任トス臺灣總督之ヲ補職ス

第十條　檢察官ハ司法警察官ヲ指揮監督シ刑事訴追ヲ爲シ其裁判ノ執行ヲ指揮監督シ法院所管ノ事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

上級法院ノ檢察官ハ下級法院ノ檢察官ヲ指揮監督ス

地方法院檢察官差支ノ爲其ノ職務ヲ行フコトヲ得サルトキハ地方法院單獨部ノ權限ニ屬スル事項ト認ムルモノニ限リ警視又ハ警部ヲシテ之ヲ代理セシムルコトヲ得

第十一條　各檢察局ニ檢察官長ヲ置ク檢察官ヲ以テ之ニ補ス

檢察官長ハ檢察局ノ事務ヲ指揮監督ス

檢察官長事故アルトキハ上席檢察官其職務ヲ代理ス

第十一條ノ二　高等法院檢察官長ハ地方法院檢察官ノ職務ノ範圍內ニ在ル事務ヲ自ラ取扱フコトヲ得

高等法院檢察官長ハ地方法院ノ或檢査官ノ取扱フヘキ事務ヲ他ノ檢察官ニ移スコトヲ得

第十二條　各法院及檢察局ニ通譯ヲ置ク

通譯ハ奏任又ハ判任トス臺灣總督之ヲ補職ス

通譯ハ法廷ニ立會通譯ニ從事ス

通譯ハ前項ノ外上官ノ命ヲ承ケ翻譯ニ從事ス

第十二條ノ二　高等法院ニ書記長ヲ置ク

書記長ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ書記ノ事務ヲ指揮監督ス

第十三條　各法院及檢察局ニ書記ヲ置ク

書記ハ判任トス臺灣總督之ヲ補職ス

書記ハ民事刑事ノ審判ニ關スル準備ヲ爲シ法廷ニ立會調書ヲ作リ及一切ノ訴訟記錄ヲ整理保管ス

書記ハ前項ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ法院又ハ檢察局ニ於ケル諸般ノ事務ニ從事ス

第十三條ノ二　各法院及檢察局ニ判任官見習ヲ置クコトヲ得

判任官見習ハ上官ノ監督ヲ受ケ實務ヲ修習ス

臺灣總督ハ判任官見習ヲシテ書記又ハ通譯ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得但シ登記事務ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　判官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

第一　公然政事ニ關係スルコト

第二　政黨政派ニ加入スルコト

第三　俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト

第四　商業ヲ營ムコト

第十五條　判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニアラサレハ其意ニ反シテ免官轉官セラルヽコトナシ

第十六條　判官身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ臺灣總督ハ高等法院ノ總會ノ議決ヲ經テ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第十七條　法院長又ハ檢察官長ハ其監督ニ屬スル判官又ハ檢察官ヲシテ司法行政事務ノ一部分ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十八條　法院又ハ檢察局ハ各自ノ管轄區域內ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付互ニ法律上ノ共助ヲ爲ス

附　則

第十九條　此條例ハ明治三十一年七月二十日ヨリ施行ス

第二十條　此條例施行前ニ於テ高等法院ノ受理シタル訴訟事件ニシテ未タ判決ヲ受ケサルモノニ關シテハ從前ノ高等法院ノ職務ハ覆審法院之ヲ行フ

此條例施行前ニ於テ地方法院ノ受理シタル訴訟事件ニシテ未タ判決ヲ受ケサルモノハ各其管轄地方法院ニ於テ審問裁判ス

附　則（大正八年律令第四號）

本令施行ノ期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

臺灣總督府臨時法院條例及明治三十八年律令第四號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ日ヨリ從前ノ登記所ハ地方法院出張所ニ、地方法院出張所ハ地方法院支部ニ、覆審法院ハ高等法院覆審部ニ、臨時法院ハ高等法院上告部ニ該當スルモノトシ各其ノ受理シタル事件ヲ取扱フヘシ

本令施行前受理シタル裁判管轄ニ關スル申請、刑事再審ノ訴及非常上告ハ高等法院上告部ニ繫屬スルモノトス

第四條第二項第二ニ掲ケタル事件ニシテ本令施行前受理シタルモノハ高等法院上告部ニ繫屬スルモノトス

他ノ律令中登記所トアルハ地方法院出張所、地方法院出張所トアルハ地方法院支部、覆審法院檢察局トアルハ高等法院檢察局、覆審法院トアルハ高等法院覆審部、臨時法院トアルハ高等法院上告部、覆審法院檢察官長トアルハ高等法院檢察官長、覆審法院長トアルハ高等法院長トス但シ明治三十二年律令第二十七號中覆審法院トアルハ高等法院上告部トス

（大正八年臺灣總督府令第百十一號ヲ以テ同年八月十日ヨリ施行）

附　則（大正十五年律令第三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ繫屬スル民事事件ニシテ訴訟物ノ價格一千圓ヲ超エ二千圓以下ノモノハ從前ノ規定ニ依リ完結ス

附　則（昭和二年律令第四號）

本令ハ昭和二年七月十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ地方法院ノ單獨判官又ハ合議部ニ於テ處理スル事件ハ各之ヲ地方法院ノ單獨部又ハ合議部ニ於テ處理スルモノトス

本令施行前地方法院ノ單獨判官ニ於テ爲シタル裁判ハ之ヲ地方法院ノ單獨部ニ於テ爲シタルモノト看做ス但シ刑事ノ豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ハ高等法院覆審部ニ之ヲ爲スヘシ

本令施行ノ際現ニ地方法院ノ單獨判官ニ於テ審理中ノ刑事ノ豫審ハ其ノ地方法院ノ單獨部ニ於テ之ヲ完結ス但シ其ノ決定ニ對スル抗告ハ高等法院覆審部ニ之ヲ爲スヘシ

本令施行ノ際現ニ高等法院覆審部ニ繫屬中ノ控訴又ハ抗告事件ニシテ地方法院ノ單獨判官ノ裁判ニ對シテ爲サレタルモノハ高等法院覆審部ニ於テ之ヲ完結ス

臺灣總督ノ指定スル地方法院出張所ニ於テハ當分ノ內仍公證ノ事務ヲ行フコトヲ得

大正八年八月八日
臺灣總督府令第百十五號

大正八年律令第四號附則第六項ノ規定ハ從來發布シタル府令中登記所、地方法院出張所、覆審法院檢察局、覆審法院、覆審法院檢察官長及覆審法院長トアルニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ大正八年八月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年五月三日
臺灣總督府令第四十七號

地方法院出張所ニ於テ豫審ヲ經タル刑事事件ノ審判ハ其ノ管轄地方法院ニ於テ之ヲ取扱フコトヲ得

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●地方法院支部ニ於テ取扱フヘキ事務

昭和二年七月六日
臺灣總督府令第四十二號

地方法院支部ニ於テ取扱フヘキ事務ヲ左ノ通相定ム

地方法院支部ハ臺灣總督府法院條例ニ於テ地方法院單獨部ノ權限ニ屬セシメタル事項竝地方法院單獨部ノ裁判ニ對スル控訴、抗告及豫審ヲ經由シタル刑事事件ヲ除クノ外地方法院合議部ノ權限ニ屬セシメタル事項ヲ取扱フ但シ臺北地方法院宜蘭支部ニ於テハ地方法院單獨部ノ權限ニ屬セシメタル事項及刑事ノ豫審事件ノミヲ取扱フ

附　則

本令ハ昭和二年七月十日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年府令第百六十八號ハ之ヲ廢止ス

本令施行前臺北地方法院ニ於テ受理シタル臺北地方法院新竹支部管內ノ合議部事件ハ仍臺北地方法院之ヲ取扱フ

●法廷取締等ニ關スル件

明治三十八年九月十六日
律令第十一號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル法廷取締等ニ關スル件勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

第一條　開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第二條　法院ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其ノ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ法院ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第三條　裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入廷セシムルノ權ヲ有ス

第四條　裁判長ハ秩序維持ニ害アリト認ムル者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

第五條　法廷內ニ於テ審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行爲ヲ爲ス者ニ對シテハ裁判長ハ閉廷ノ時マテ之ヲ勾留シ且決定ヲ以テ十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

第六條　前條ノ規定ハ左ノ變更ヲ以テ當事者、訴訟代理人、辯護人及鑑定人ニモ之ヲ適用ス

一　違犯者原告ナルトキハ法院ハ處罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其ノ審問ヲ中止スルコトヲ得

二　違犯者訴訟代理人、辯護人若ハ鑑定人ナルトキハ處罰ノ上仍同一事件ニ付訴訟代理人、辯護人又ハ鑑定人タルコトヲ禁止スルコトヲ得

第七條　左ノ各號ノ一ニ該ル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

一　訴訟當事者ノ一方ノ爲ニ刊行ノ文書圖畫若ハ公開ノ演說ヲ以テ繫屬中ノ訴訟事項ヲ論評シタル者

二　訴訟事項ニ關シ當事者、證人、鑑定人、訴訟代理人若ハ辯護人ヲ威迫誘導シ又ハ訴訟代理ノ委任ヲ受クルニ當リ委任者ヲ威迫シ若ハ欺罔シタル者

三　故ラニ法院ノ命令ニ服從セス又ハ他人ヲ威迫誘導シテ命令ニ違背セシメタル者

前項ノ違犯者訴訟代理人、辯護人又ハ鑑定人ナルトキハ前條第二號ノ規定ヲ準用ス

第八條　開廷中秩序維持ニ關スル裁判長ノ權ハ裁判上一人ニテ執務スル判官モ亦之ヲ行フコトヲ得

第九條　本令ノ處罰ハ刑事訴追又ハ懲戒訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

●登記及公證事務ハ法院書記ヲシテ取扱ハシム

大正八年八月八日
臺灣總督府令第百十七號

登記及公證事務ハ法院書記ヲシテ之ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ニ依リ書記カ公證事務ヲ取扱フヘキ場合ニ於テハ「公證官吏臺灣總督府法院書記」ト刻シタル方六分ノ職印ヲ用ウヘシ

附　則

本令ハ大正八年八月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年六月府令第四十二號ハ之ヲ廢止ス

●關東州裁判令

明治四十一年九月二十四日
勅令第二百十二號

改正　明治四三年第一一一號、大正二年第二六四號、八年第二七二號、九年第五四三號、一二年第二六三號、一三年第四六五號、昭和二年第一八六號

朕關東州裁判令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

關東州裁判令

第一條　關東廳法院ハ關東長官ニ直屬シ關東州ニ於ケル民事刑事ノ裁判及非訟事件ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　關東廳法院ヲ分チテ地方法院及高等法院トス

關東長官ハ地方法院ノ事務ノ一部ヲ取扱ハシムル爲地方法院ノ支廳ヲ設置スルコトヲ得

高等法院ニ覆審部及上告部ヲ置ク

第三條　關東長官ハ地方法院ノ判官ノ一人又ハ數人ニ刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第四條　削除

第五條　地方法院ハ民事刑事ニ付第一審ノ裁判ヲ爲シ且非訟事件ニ關スル事務ヲ取扱フ但シ登記事務ハ民政署長又ハ民政支署長之ヲ取扱フ

第六條　高等法院覆審部ハ地方法院ノ裁判ニ對スル控訴及高等法院上告部ノ權限ニ屬スルモノヲ除クノ外地方法院ノ裁判ニ對スル抗告ニ付裁判ヲ爲ス

高等法院上告部ハ地方法院又ハ高等法院覆審部ノ裁判ニ對スル上告竝高等法院覆審部ノ裁判及地方法院ノ爲シタル上告棄却ノ決定ニ對スル抗告ニ付裁判ヲ爲ス

高等法院上告部ハ前項ノ外裁判所構成法ニ定メタル大審院ノ特別權限ニ屬スル職務ヲ行フ

第七條　各法院ヲ通シテ判官專任十一人ヲ置ク

判官ハ奏任トス但シ高等法院長タル判官ハ之ヲ勅任トス

第八條　各法院ニ院長ヲ置ク上級判官ヲ以テ之ニ充ツ

院長ハ院內一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

高等法院ノ院長ハ地方法院ノ行政事務及民政署長又ハ民政支署長ノ司法行政事務ヲ監督ス

院長事故アルトキハ次級判官其ノ職務ヲ代理ス

地方法院支廳ノ上級判官ハ地方法院長ノ命ヲ承ケ其ノ支廳ノ行政事務ヲ掌ル

第九條　地方法院ハ判官單獨ニテ審理裁判ス但シ左ニ揭クル事件ニ付テハ判官三人ノ合議ヲ以テ審理裁判ス

一　訴訟物ノ價額金五千圓ヲ超過スル民事事件

二　人事訴訟事件

三　刑法第七十四條又ハ第七十六條ノ犯罪事件

四　死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル犯罪事件但シ刑法第二百三十六條、第二百三十八條及第二百三十九條ノ罪竝其ノ未遂罪ヲ除ク

五　前二號ニ揭クルモノヲ除クノ外豫審ヲ經タル犯罪事件

第九條ノ二　高等法院覆審部及高等法院上告部ハ判官三人ノ合議ヲ以テ審理裁判ス

第十條　地方法院ノ各部、高等法院覆審部及高等法院上告部ニ部長ヲ置ク但シ地方法院ノ一部及高等法院上告部ノ部長ハ其ノ法院ノ院長ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ裁判長ト爲リ其ノ部ノ事務ヲ監督ス

第十條ノ二　各法院ニ檢察局ヲ竝置ス

檢察局ハ關東長官ニ直屬シ關東州ニ於ケル檢察事務ヲ掌ル

第十一條　各檢察局ヲ通シテ檢察官專任三人ヲ置ク

檢察官ハ奏任トス但シ高等法院檢察官長タル檢察官ハ之ヲ勅任トス

檢察官ハ司法警察官ヲ指揮監督シ刑事訴追ヲ爲シ其ノ裁判ノ執行ヲ指揮監督ス

地方法院ニ於テハ警視又ハ警部ヲシテ檢察官ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

第十一條ノ二　各檢察局ニ檢察官長ヲ置ク上級檢察官ヲ以テ之ニ充ツ

檢察官長ハ檢察局ノ事務ヲ指揮監督ス

高等法院檢察官長ハ地方法院ノ檢察官ヲ指揮監督ス

檢察官長事故アルトキハ次級檢察官其ノ職務ヲ代理ス

第十一條ノ三　高等法院檢察官長ハ地方法院ノ檢察官ノ職務ノ範圍內ニ在ル事務ヲ自ラ取扱フコトヲ得

高等法院檢察官長ハ地方法院ノ或檢察官ノ取扱フヘキ事務ヲ他ノ檢察官ニ移スコトヲ得

第十二條　各法院及檢察局ヲ通シテ通譯生專任四人ヲ置ク通譯生ハ判任トス通譯翻譯ニ從事ス

第十三條　各法院及檢察局ヲ通シテ書記專任十六人ヲ置ク

書記ハ判任トス民事刑事ノ審理ニ關スル準備ヲ爲シ調書ヲ作リ及一切ノ訴訟記錄ヲ整理保存ス

書記ハ前項ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ法院又ハ檢察局ニ於ケル諸般ノ事務ニ從事ス

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東都督府法院令ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正十三年勅令第四百六十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前地方法院ニ於テ受理シタル事件ハ第九條ノ改正規定ニ拘ラス其ノ法院ニ於テ之ヲ完結ス

本令施行前高等法院ニ於テ受理シタル事件ニシテ現ニ繫屬中ノモノハ高等法院覆審部ニ繫屬スルモノトス

大正八年六月十日
關東廳令第十九號

改正　大正八年第五〇號、第六一號

關東廳地方法院及關東廳高等法院ヲ旅順市ニ置ク

關東廳地方法院支廳ヲ大連市ニ置キ大連民政署及金州民政支署管轄區域內ニ於ケル民事ノ裁判ヲ爲シ及非訟事件ニ關スル事務竝司法事務共助法規定事項ニ關スル事務ヲ取扱ハシム

附　則

本令ハ大正八年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年九月關東都督府令第六號及明治四十一年十一月關東都督府令第六十四號ハ之ヲ廢止ス

●關東州裁判事務取扱令

明治四十一年九月二十四日
勅令第二百十三號

改正　明治四二年第一一五號、四三年第三五〇號
大正八年第二七三號、一〇年第二四七號、一一年第七二號、第一七八號、一二年第五二四號、一三年第一五三號、第四六六號、一四年第二〇號、一五年第三〇〇號

朕關東州裁判事務取扱令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

關東州裁判事務取扱令

第一章　總則

第一條　民事刑事及非訟事件ニ關スル事項ハ左ノ法令ニ依ル

一　法例
一　民法
一　民法施行法
一　明治三十五年法律第五十號
一　明治三十七年法律第十七號
一　明治四十二年法律第四十號
一　明治三十二年法律第四十號
一　明治三十三年法律第五十一號
一　明治三十三年勅令第百四十四號
一　明治三十二年法律第五十號
一　明治三十三年法律第十三號
一　明治三十三年勅令第四百九號
一　商法
一　商法施行法
一　破產法
一　和議法
一　明治三十三年法律第十七號
一　明治三十二年勅令第二百七十一號
一　工場抵當法
一　鐵道抵當法
一　保險業法
一　刑法
一　刑法施行法
一　爆發物取締罰則
一　大正十五年法律第六十號
一　通貨及證券模造取締法
一　軍機保護法
一　海底電信線保護萬國聯合條約罰則
一　明治二十二年法律第三十四號
一　明治三十八年法律第六十六號
一　大正四年法律第十八號
一　印紙犯罪處罰法
一　民事訴訟法
一　民事訴訟費用法
一　明治二十六年勅令第二百六十一號

一　人事訴訟手續法
一　競賣法
一　刑事訴訟法
一　刑事訴訟費用法
一　外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法
一　逃亡犯罪人引渡條例
一　外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法
一　不動產登記法
一　非訟事件手續法

第二條　支那人ノ外ニ關係者ナキ親族相續ニ關スル事項ニ付テハ當分ノ內慣習ニ依ル

第三條　破產法中相續財產ニ對スル破產ニ關スル規定ハ支那人ノ相續財產ニ對スル破產ニ之ヲ適用セス

第四條、第五條　削除

第六條　第一條ニ揭ケタル法令中主務大臣ノ職務ハ民事訴訟法第百五十二條及逃亡犯罪人引渡條例ニ規定スル外務大臣ノ職務ヲ除クノ外關東長官、市町村長ノ職務ハ關東廳民政署長又ハ民政支署長之ヲ行フ

第七條　外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中區裁判所ノ職務ハ地方法院之ヲ行フ

第八條　第一條ニ揭ケタル法令ニ依ル公告ニシテ官報ニ揭載シテ爲スヘキモノハ破產手續、公示催告手續及失踪ニ關スル事項ニ付テハ官報及關東廳廳報ニ、其ノ他ノ事項ニ付テハ關東廳廳報ニ揭載シテ之ヲ爲ス

第九條　削除

第十條　本令ニ定ムルモノノ外必要ナル規定ハ關東長官之ヲ定ム

第二章　訴訟手續

第一節　通則

第十一條　第一條ニ揭ケタル法令ニ依ル訴訟手續ハ高等法院上告部ニ於テハ大審院ニ關スル規定ニ、高等法院覆審部ニ於テハ控訴裁判所ニ關スル規定ニ依リ地方法院ニ於テ合議シテ裁判ヲ爲スヘキ事件ニ付テハ地方裁判所ニ關スル規定ニ、其ノ他ノ事件ニ付テハ區裁判所ニ關スル規定ニ依ル

第十二條　開廷ニ關シテハ裁判所構成法第百三條乃至第百十三條ノ規定ニ、裁判ノ評議及言渡ニ關シテハ同法第百十九條乃至第百二十四條ノ規定ニ依ル

第十三條　第一條ニ揭ケタル法令中裁判所書記ノ除斥、忌避及回避ニ關スル規定ハ法院ノ通譯生ニ之ヲ準用ス

第十四條　民事訴訟法第三十六條第三項ノ上級ノ地方裁判所竝刑事訴訟法第二十八條第四項ノ判事所屬ノ裁判所及管轄地方裁判所ハ合議ヲ以テ審理裁判ヲ爲ス地方法院トス

第十五條　法院又ハ裁判長カ職權ヲ以テ辯護士ヲ訴訟承繼人、訴訟代理人又ハ辯護人ニ選定シ又ハ選任スヘキ場合ニ於テハ辯護士ニ非サル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十六條　削除

第二節　民事訴訟手續

第十七條　削除

第十八條　辯護士ノアルトキト雖當事者ハ法院ノ許可ヲ得テ訴訟能力者ヲ以テ代理人ト爲スコトヲ得

前項ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第十九條　削除

第二十條　送達ハ之ヲ受クヘキ人ニ假住所ニ於テ出會ハサルトキハ假住所ノ主人又ハ成長シタル同居ノ親族若ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二十條ノ二　民事訴訟法第百四十五條第二項ノ規定ニ依リ市町村長ニ書類ヲ預置クヘキ場合ニ於テハ送達ヲ爲スヘキ地ヲ管轄スル警察事務ヲ取扱フ官署（警察官吏ノ派出所ヲ含ム）ノ長ニモ亦之ヲ預置クコトヲ得

第二十一條　書記其ノ所屬廳內ニ於テ送達ヲ受クヘキ者ニ書類ヲ交付シ受取證ヲ差出サシメタルトキハ送達アリタルト同一ノ效力ヲ生ス

第二十一條ノ二　公示送達ハ法院職權ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

第二十二條　期日ノ變更又ハ期間ノ伸長ハ當事者合意ノ場合ニ於テモ顯著ナル理由アルニ非サレハ之ヲ許サス

第二十三條　訴訟關係人カ期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シタルトキハ期日呼出アリタルト同一ノ效力ヲ生ス

第二十四條　合意上ノ訴訟手續ノ休止ハ申立ニ因リ顯著ナル理由アルトキニ限リ之ヲ許ス其ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ申立ニ付テハ民事訴訟法第百七十一條第二項及第四項ノ規定ニ依ル

合意上ノ休止ノ場合ニ於テ三月內ニ口頭辯論ノ期日指定ノ申立ヲ爲ササルトキハ本訴及反訴ヲ取下ケタルモノト看做ス再度以上ノ休止ニシテ前後ヲ通算シテ三月ヲ超ユルトキ亦同シ

第二十五條　天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因ル場合ヲ除クノ外口頭辯論期日ニ當事者雙方出頭セサルトキハ本訴及反訴ヲ取下ケタルモノト看做ス

第二十六條　民事訴訟法第百九十四條第一項ノ期間ハ之ヲ十四日トス

第二十七條　口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要セス

第二十八條　削除

第二十九條　訴ハ何時ニテモ之ヲ取下クルコトヲ得但シ反訴アリタルトキハ被告ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第三十條　訴ノ取下アリタルトキハ反訴ハ其ノ效力ヲ失フ但シ被告カ反訴ヲ繼續セシムル意思ヲ表示シテ取下ニ同意シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　反訴ハ其ノ目的カ本訴ノ目的又ハ防禦ノ方法ト法律上牽連スルニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第三十二條　當事者カ重大ナル過失ニ因リ又ハ訴訟ノ完結ヲ遲延セシムル意思ヲ以テ時機ニ後レテ提出シタル攻擊又ハ防禦ノ方法カ訴訟ノ完結ヲ遲延セシムヘキモノナルトキハ法院ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

前項ノ規定ハ證據方法及證據抗辯ノ提出ニ付之ヲ準用ス

第三十三條、第三十四條　削除

第三十五條　民事訴訟法第二百五十五條ノ故障申立ノ期間ハ七日トス

第三十六條　判決ニ於テ作爲ノ履行ヲ命スル場合ニ於テハ原告ノ申立ニ因リ一定ノ期間內ニ履行ヲ爲ササルトキハ賠償金ヲ支拂フヘキ旨ヲ言渡スコトヲ得

第三十七條　判決ハ職權ヲ以テ之ヲ送達ス

判決ノ送達ハ其ノ正本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第三十八條　再度ノ闕席判決ニ對シテハ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十九條乃至第四十一條　削除

第四十二條　民事訴訟法第二百七十七條第一項ノ申立ニ對シ決定ヲ爲スニハ同條第二項ノ催告ヲ爲スコトヲ要セス

第四十三條　證據決定中一部ノ證據調ニ依リ結果ヲ得タルトキハ他ノ證據調ヲ省略スル決定ヲ爲スコトヲ得

第四十四條　受命判官又ハ受託判官ハ檢證ノ場合ニ於テ職權ヲ以テ又ハ申立ニ因リ法院ノ決定ヲ俟タス檢證事項ニ關シ證人ヲ訊問シ又ハ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第四十五條　削除

第四十六條　職權ヲ以テ爲ス證據調ノ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フルコトヲ得

第四十七條　職權ヲ以テ爲シタル證據調ノ費用ノ全部又ハ一部ハ之ヲ國庫ノ負擔ト爲スコトヲ得

職權ヲ以テ爲シタル證據調ノ費用ヲ當事者ノ負擔ニ歸セシムル場合ニ於テハ法院ハ判決ヲ以テ其ノ負擔者及金額ヲ定ムヘシ訴又ハ上訴ノ取下アリタルトキハ決定ヲ以テ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ハ職權ヲ以テ爲シタル證據調ノ費用ヲ國庫ノ負擔ト爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條乃至第五十條　削除

第五十一條　再度ノ闕席判決ニ對スル控訴ニ付テハ民事訴訟法第三百九十八條ノ規定ヲ適用セス

第五十二條　控訴期間ハ十四日トス

第五十三條　削除

第五十四條　判決言渡ノ際當事者雙方在廷シタル場合ニ於テ其ノ言渡後當事者雙方カ控

訴ノ抛棄ヲ爲シタルトキハ控訴期間内ト雖其ノ判決確定ス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

第五十五條　民事訴訟法第四百二十二條ノ場合ニ於テ當事者合意ノ申立アルトキハ高等法院覆審部ハ直ニ本案ノ辯論及裁判ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　控訴ノ提起ハ訴狀ヲ原判決ヲ爲シタル法院ニ差出シテ之ヲ爲ス

控訴ノ提起アリタルトキハ書記ハ七日内ニ訴訟記錄ト共ニ控訴狀ヲ高等法院覆審部ニ送付スヘシ

第五十七條　上告期間ハ十四日トス

第五十八條　第五十六條ノ規定ハ上告ニ之ヲ準用ス

第五十九條乃至第六十一條　削除

第六十二條　假差押ノ申請及其ノ取消ノ申立ニ付テノ裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

假差押決定ニ對シテハ抗告ノミヲ爲スコトヲ得其ノ取消決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ハ假處分ニ之ヲ準用ス

第六十三條、第六十四條　削除

第六十五條　人事訴訟手續法中區裁判所又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル事項ハ地方法院之ヲ管轄ス但シ同法第五十五條第一項及第六十六條第一項ノ訴ハ高等法院覆審部之ヲ管轄ス

第六十六條　民事訴訟費用法第十四條ノ規定ハ法院ノ通譯生カ檢證ニ關シ出張スル場合ノ旅費及止宿費ニ之ヲ準用ス

第三節　刑事訴訟手續

第六十七條乃至第六十九條　削除

第七十條　官吏、公吏ノ作ルヘキ書類ニシテ刑事訴訟法第七十一條、第七十二條其ノ他同法規定ノ形式ニ瑕疵アルモノニ付テハ當該吏員ヲシテ之ヲ補正セシメ有效ナラシムルコトヲ得

第七十一條　警務局長ハ其ノ管轄區域内ニ於テ司法警察官トシテ犯罪搜索ニ付地方法院檢察官ト同一ノ權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ地方法院檢察官ノ補佐トシテ其ノ指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜索スヘシ

一　警視、警部、警部補

二　憲兵將校、准士官、下士

第七十二條　檢察官ハ刑事訴訟法第百二十三條ニ規定スル場合ノ外被疑者ニ付同法第八十七條ニ規定スル事由アリタル場合ニ於テ急速ヲ要シ判官ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ直ニ勾引狀ヲ發シ又ハ之ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

刑事訴訟法第九十七條、第九十八條及第百條乃至第百九條ノ規定ハ前項ノ勾引ニ之ヲ準用ス

第七十三條　檢察官ハ被疑者ニ付刑事訴訟法第八十七條ニ規定スル事由アリタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ押收、搜索、檢證、證人訊問竝鑑定、通譯及翻譯ノ處分ヲ爲シ又ハ之ヲ司法警察官ニ命令ズルコトヲ得

刑事訴訟法第二百十四條、第二百十七條、第二百二十八條及第二百三十六條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ檢察官又ハ司法警察官ノ爲ス證人訊問竝鑑定、通譯及翻譯ノ處分ニ之ヲ準用ス

第七十四條　司法警察官ハ刑事訴訟法第百二十七條ノ規定ニ依リ訊問ヲ爲シタル場合ニ於テ事件禁錮以上ノ刑ニ該リ留置ノ必要アリト思料スルトキハ檢察官ノ命令ヲ受ケ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

刑事訴訟法第九十七條、第百條、第百三條乃至第百五條、第百七條及第百九條ノ規定ハ前項ノ勾留ニ之ヲ準用ス

第七十五條　檢察官刑事訴訟法第百二十九條第一項ノ規定ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ該ル事件ニ付勾留狀ヲ發シタル場合又ハ司法警察官前條第一項ノ規定ニ依リ勾留狀ヲ發シタル場合ニ於テ勾留ノ日ヨリ二十日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ送致スル手續ヲ爲ササルトキハ勾留ハ之ヲ取消スヘシ

第七十六條　法院又ハ豫審判官ハ必要ト認ムルトキハ命令狀ヲ發シ司法警察官ヲシテ檢證又ハ鑑定ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

刑事訴訟法第百五十條第二項第三項及第二百二十八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ司法警察官ノ爲ス鑑定ノ處分ニ之ヲ準用ス

第七十七條　刑事訴訟法第二百六十四條ノ規定ハ當分ノ内支那人ノ爲ス告訴ニ之ヲ適用セス

第七十八條　刑事訴訟法中市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘキ場合ニ於テハ官公吏其ノ他相當ノ者二人以上ヲ立會ハシムヘシ

第七十九條乃至第八十六條　削除

第八十七條　刑事訴訟法第三百三十四條及同條ノ規定ヲ準用スル第四百七條及第四百五十五條ノ規定ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ限リ之ヲ適用ス但シ法院ニ於テ必要ト認ムル場合ハ本條ノ刑ニ該ラサル事件ニ付テモ亦之ヲ適用スルコトヲ得

第八十八條乃至第百九條　削除

第三章　民事爭訟調停

第百十條　民事爭訟調停ノ申請ハ被申請人ノ居住地ヲ管轄スル民政署又ハ民政支署ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ不動產ノ爭訟ニ付テハ其ノ所在地ヲ管轄スル民政署又ハ民政支署ニ申請スヘシ

第百十一條　民政署長又ハ民政支署長ハ前條ノ申請アリタルトキハ期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ被申請人他ノ民政署又ハ民政支署管内ニ移住シタルトキハ事件ヲ其ノ管轄民政署又ハ民政支署ニ移送スルコトヲ得

第百十二條　調停ニハ代理人ヲ用ウルコトヲ得ス但シ民政署長又ハ民政支署長ノ許可ヲ受ケ親族又ハ雇人ヲ以テ代理セシムルハ此ノ限ニ在ラス

第百十三條　調停成立シタルトキハ調書ヲ以テ左ノ事項ヲ明確ニスヘシ

一　當事者及代理人ノ氏名、身分、職業、住所

二　申請人請求ノ要旨

三　被申請人答辯ノ要旨

四　調停ノ成立事項及履行ノ期日

第百十四條　調停調書ノ原本ニハ年月日ヲ記載シ當事者ヲシテ署名捺印セシメ民政署長又ハ民政支署長署名捺印シ且署印ヲ押捺スヘシ

第百十五條　當事者ハ調停調書ノ謄本ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第百十六條　調停ノ成立シタル爭訟ト同一事件ニ付テハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第百十七條　調停ノ申請人指定ノ期日ニ正當ノ理由ナクシテ出頭セサルトキハ之ヲ取下ケタルモノト看做ス

被申請人期日ニ出頭セサルトキハ更ニ期日ヲ定メテ之ヲ呼出スヘシ再度ノ呼出期日ニ仍出頭セサル場合ト雖調停ノ成立スル見込アルトキハ民政署長又ハ民政支署長ハ更ニ之ヲ呼出スコトヲ得

第百十八條　調停ノ申請ハ時效ヲ中斷ス

調停ノ成立セサルトキハ一月内ニ訴ヲ提起スルニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第百十九條　調停調書ハ所有權以外ノ權利ノ登記ニ關シテハ不動產登記法第百二十八條、第百三十條及第百三十二條ニ定メタル登記ヲ命スル裁判ト看做ス

第百二十條　調停ノ執行ニ關シテハ民事訴訟法第五百五十九條第四號ニ掲ケタル債務名義ニ因ル强制執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第百二十一條　削除

第百二十二條　民政署長又ハ民政支署長ハ調停ノ成立事項ニ關スル犯罪行爲ニ付公訴ノ提起アリタルトキハ其ノ事件ノ完結迄執行處分ヲ停止スヘシ

第百二十三條　書類ノ送達ニ付テハ本令中訴訟書類ノ送達ニ關スル規定ヲ準用ス

第百二十四條　調停ニ關スル費用ハ當事者各自ノ負擔トス

第百二十五條　調停ノ執行ニ關シテハ民政署長及民政支署長互ニ共助ヲ爲スヘシ

第四章　非訟事件

第百二十六條　民政署長又ハ民政支署長ハ所屬官吏ヲシテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第百二十七條　關東州特殊ノ事情ニ因リ本令ニ依ル登記手續ニ依リ難キ事項ニ付必要ナル規定ハ關東長官之ヲ定ム

第百二十八條　削除

第五章　公證

第百二十九條　民事ニ關スル公正證書ノ作成及私署證書ノ認證ハ當事者ノ申請ニ因リ當分ノ内民政署長又ハ民政支署長之ヲ取扱フ

第百三十條　本章ニ依リ作成シタル公正證書ハ完全ノ證據ニシテ且民事訴訟法第五百五十九條第五號但書ノ作成要件ヲ具備シタルモノハ同號債務名義ト同一ノ規定ニ從ヒ强制執行ヲ爲スコトヲ得但シ僞造ノ公訴提起アリタルトキハ其ノ執行ヲ停止スヘシ民事訴訟ニ關シ僞造ノ申立アリタルトキハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

民事訴訟ニ關シ僞造ノ申立アリタル場合ニ於テハ民事訴訟法第五百條ノ規定ニ依ル

第百三十一條　公正證書ノ作成ニ關シテハ公證人法第四章ノ規定ニ、私署證書ノ認證ニ關シテハ同法第五章ノ規定ニ依ル但シ同法第四章中地方裁判所長ノ職務ハ高等法院長之ヲ行ヒ市區町村長ノ職務ハ民政署長又ハ民政支署長之ヲ行フ

第百三十二條　公證官吏ノ職務執行ニ關シ不服アル者ハ高等法院覆審部ニ抗告スルコトヲ得

前項ノ抗告アリタルトキハ公證官吏ハ其ノ事件ノ處分ヲ停止スヘシ

抗告ニ關シテハ民事訴訟法ニ依ル

第百三十三條　削除

第百三十四條　公證官吏其ノ職務執行ニ付申請人其ノ他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其ノ損害カ公證官吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責ニ任ス

第百三十五條　公正證書作成費用及作成ノ爲出張シタル公證官吏ノ旅費ハ當ハ申請人ノ負擔トス其ノ數額ハ關東長官之ヲ定ム

第百三十六條　公正證書ノ原本其ノ附屬書類及法令ニ依リ公證官吏ノ調製シタル帳簿ハ事變ヲ避クル爲ニスル場合及法院又ハ豫審判官ノ命令又ハ囑託アルニ非サレハ他ニ持出スコトヲ得ス

第百三十七條　公證官吏事故アルトキハ所屬官吏ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第百三十八條　法令中公證人ノ職務ニ屬スルモノハ公證官吏ヲシテ之ヲ行ハシム

第百三十九條　私書證書ニ確定日附ヲ附スルコトノ請求ハ公證官吏ニ之ヲ爲スヘシ

第六章　執達

第百四十條　訴訟ニ關スル書類ノ送達、告知、催告、裁判ノ執行、動產不動產ノ任意競賣其ノ他法令ニ依リ執達吏ノ職務ニ屬セシメタルモノハ法院書記竝民政支署、警察署及警察支署ノ所屬官吏ヲシテ之ヲ取扱ハシム

地方法院長、民政支署長、警察署長及警察支署長ハ巡査其ノ他適當ト思料スル者ヲシテ臨時執達吏ノ職務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

前各項ニ依リ執達吏ノ職務ヲ行フ者ハ證票ヲ携帶スヘシ

附　則

第百四十一條　本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東洲刑罰令、關東洲民事審理規則及關東洲刑事審理規則ハ之ヲ廢止ス

第百四十二條　本令施行前地方法院ニ於テ爲シタル登記、公證及確定日附ハ本令ニ依リタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

附　則（大正八年勅令第二百七十三號）

本令ハ大正八年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前民政署又ハ民政支署ニ於テ受理シタル事件ニシテ其ノ民政署又ハ民政支署ニ於テ之ヲ完結スヘキモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（大正十一年勅令第百七十八號）

本令ハ大正十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條ノ改正規定施行ノ地區及期日ハ關東長官之ヲ定ム

土地ニ關スル從前ノ權利ニ付テハ左ノ例ニ依ル

一　業主權ハ之ヲ所有權ト看做ス

二　典權ハ之ヲ不動產質權ト看做ス

三　租權ハ其ノ性質ニ從ヒ之ヲ賃借權、永小作權又ハ地上權ト看做ス

第四條ノ改正規定ノ施行前作成シタル土地臺帳ハ之ヲ登記簿ト看做シ土地ノ業主權又ハ所有權ニ付登錄シタル登錄ハ之ヲ不動產登記法ニ依ル土地所有權ノ保存登記ト看做ス

（大正十一年十一月二十五日　關東廳令第六十號）
改正　大正一三年第二七號、一四年第二九號

大正十一年勅令第百七十八號附則第一項但書ニ依ル土地登記施行ノ地區及期日左ノ通定ム

施行地區	施行期日
一　旅順民政署管內一圓	大正十三年三月一日
一　大連民政署管內（沙河口會ノ內沙河口、河東屯、臺山屯、嶺前屯會ノ內譚家屯、嶺前屯ヲ除ク）	大正十三年三月一日
一　金州民政署管內（普蘭店、貔子窩所支署管內ヲ除ク）	大正十三年四月一日
一　普蘭店民政支署管內	大正十三年八月一日
一　貔子窩民政支署管內	大正十三年八月一日
一　大連民政署管內（大連市花園町、同水仙町、同蟄町、同山吹町、同菖蒲町、同桔梗町、同白菊町、同千草町、同早苗町、同若菜町、同芝生町、同芙蓉町、同葛町、同薄町、同上藤町、同下藤町、同上葭町、同下葭町、同上萩町、同下萩町、同上葵町、同下葵町、同河原町、同楓野町、同臺山町、同大佛山、同光明臺、同白雲山、同聖德街一丁目、同聖德街二丁目、同聖德街三丁目、同聖德街四丁目、同聖德街五丁目、同不老街、同長生街、同回春街、同泰山街、同王陽街、同福星街、同萬歲街、同永安街、同三春町、同雲井町、同秋月町、同沙河口霞町、同沙河口黃金町、同沙河口眞金町、同沙河口白金町、同沙河口京町、同沙河口仲町、同沙河口大正通、同沙河口元町、同沙河口泉町、同沙河口巴町、同沙河口西町、西山會臺山屯（以上元沙河口會ノ內沙河口、河東屯、臺山屯及嶺前屯會ノ內譚家屯）大連市向陽臺、同櫻花臺、同初音町、同青雲臺、同若松町、同文化臺、同光風臺、同長春臺、同晴明臺、同桃源臺、同臥龍臺、同鳴鶴臺、同平和臺、同秀月臺、同靜浦、同景山、同仙山、嶺前屯會嶺前屯（以上元嶺前屯會ノ內嶺前屯））	大正十四年六月一日

●關東州裁判事務取扱令施行細則

（明治四十一年九月二十八日　關東都督府令第五十一號）
改正　大正七年第九號、一一年關令第六二號、第八〇號、第八七號、一三年第一二號、第四六號、第七一號、一四年第六號、昭和三年第三二號、第五二號

關東州裁判事務取扱令施行細則左ノ通相定ム

關東州裁判事務取扱令施行細則

第一條　人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ニ於テハ旅順ヲ以テ住所地トス

第二條　人事訴訟手續法第三章ニ依リテ爲スヘキ公告ハ裁判ノ要旨ヲ地方法院カ選定シタル新聞紙上ニ少クトモ一回掲載シテ之ヲ

爲スヘシ

第二條ノ二　外國人ノ遺產ノ保存處分ニ關スル手續ハ明治三十二年七月司法省令第四十號外國人ノ遺產ノ保存處分ニ關スル手續ニ依ル

第三條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外不動產登記ニ關シテハ明治三十二年司法省令第十一號不動產登記法施行細則ニ、法人及夫婦財產契約ノ登記ニ關シテハ明治三十二年司法省令第十五號法人及夫婦財產契約登記手續ニ、商業ノ登記ニ關シテハ明治三十二年司法省令第十三號商業登記取扱手續ニ、住宅組合ノ登記ニ關シテハ大正十年司法省令第十八號住宅組合登記取扱手續ニ依ル但シ同司法省令中司法大臣トアルハ關東長官、地方裁判所又ハ地方裁判所長トアルハ高等法院又ハ高等法院長、市區町村長トアルハ民政署長又ハ民政支署長トス

第三條ノ二　不動產登記法第六十三條ノ二ノ規定ニ依ル地方裁判所長ハ高等法院長トシ同法第八條第二項及第百五十條ノ規定ニ依ル裁判所ハ高等法院覆審部トス

第三條ノ三　土地登記簿ハ市又ハ會ノ區域每ニ、建物登記簿ハ民政署又ハ同支署ノ管轄區域每ニ之ヲ別冊ト爲スヘシ但シ登記事件夥多ナル場合ハ適當ノ區劃ニ從ヒ別冊ト爲スコトヲ得

第三條ノ四　登記簿ノ謄本トシテ交付スル登記簿ト看做サレタル土地臺帳ノ謄本ハ土地臺帳ノ樣式ニ依リ之ヲ作成シ其ノ謄本ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シ登記官吏之ニ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ所管官署ノ印ヲ押捺スヘシ

此ノ謄本ハ大正十一年勅令第百七十八號ヲ以テ保存登記簿ト看做サレタル土地臺帳ニ依リ之ヲ作成シ茲ニ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ謄本ニハ每葉ニ契印スヘシ

前二項ノ規定ハ登記簿ノ抄本トシテ交付スル登記簿ト看做サレタル土地臺帳ノ抄本ニ付之ヲ準用ス

第三條ノ五　不動產登記法第四十一條乃至第四十三條ノ規定ニ依ル證明書ハ支那人ニ付テハ所轄民政支署長、警察署長及警察支署長ノ證明書トス但シ關東州及南滿洲鐵道附屬地ノ外ニ居住スル者ニ在リテハ所轄支那官廳ノ證明書トス

第三條ノ六　本登記簿ノ登記ヲ經サル土地ニ付登記ヲ爲ストキハ登記簿ノ登記番號欄、表示番號欄及甲區順位番號欄ニ番號ヲ記入シ其ノ表示欄及甲區事項欄ニ土地登記ニ關スル法令施行ノ日ニ於ケル不動產ノ表示及其ノ所有者ノ住所、氏名ヲ土地臺帳ヨリ移記シ大正十一年勅令第百七十八號ヲ以テ登記簿ト看做サレタル土地臺帳ヨリ移記ノ旨及年月日ヲ記載シ登記官吏之ニ捺印シタル後目的ノ登記ヲ爲スヘシ

本登記簿ノ登記ヲ經サル土地ニ付登記ノ申請ナキ場合ニ於テモ登記官吏ハ前項ト同一手續ニ依リ隨時土地臺帳ヨリ本登記簿ニ移記スルコトヲ得但シ第五條、第六條ノ二又ハ第六條ノ四ノ規定ニ依リ證明又ハ疏明ヲ要スヘキモノニ付テハ後日登記申請アリタルトキ之ヲ爲サシメ職權ヲ以テ右移記登記ニ附スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ土地登記簿ニ移記シタルトキハ土地臺帳事故欄ニ本登記簿第何冊第何丁ニ移記ノ旨登記番號及年月日ヲ記載シ登記官吏之ニ捺印スヘシ

第三條ノ七　不動產登記法第六十七條、第六十八條、第七十條及第七十一條ノ規定ニ依リ前登記番號、前順位番號又ハ前登記申請書受付年月日及番號ヲ記載スヘキ場合ニ於テ前登記カ土地臺帳ノ登錄ヲ以テ所有權ノ保存登記ト看做サレタルモノナル爲之ヲ記載スルコト能ハサルトキハ登記申請書又ハ登記簿ノ適當ノ箇所ニ土地臺帳ノ登錄ヲ以テ所有權ノ保存登記ト看做サレタルモノニ係ル旨ヲ記載スヘシ

第三條ノ八　土地登記施行前設定シタル典權ニシテ土地臺帳ニ典主トシテ登錄セラレタル者其ノ權利ノ登記ヲ爲ス場合登記義務者ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疏明シ登記權利者ノミニテ登記ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ土地カ未登記ナルトキハ登記權利者ハ所有者ニ代位シ所有權ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

轉典ノ場合ニ於テハ登記申請書ニ現典主ニ出典シタル前典主ノ住所、氏名及其ノ轉典價額ヲ記載スヘシ

第三條ノ九　登記官吏前條第三項ノ登記ヲ爲ストキハ登記事項欄ニ現典主ニ出典シタル前典主ノ住所、氏名、轉典ニ因リ其ノ權利ヲ取得シタル旨及轉典價額ヲ記載スヘシ

第三條ノ十　第三條ノ八第三項及前條ノ規定ハ轉租ノ權利ニ關スル登記ニ之ヲ準用ス

第三條ノ十一　不動產登記ニ關シ官署ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ提出スヘキ場合支那人ニシテ其ノ證明ヲ得ルコト能ハサルトキハ不動產所在地ヲ管轄スル民政署又ハ民政支署ニ於テ登記ヲ受ケタル成年者二人以上ノ連署シタル證明書ヲ以テ之ニ代フヘシ

第四條　土地登記施行期日前設定シタル權利ニ關スル登記原因證書ニシテ土地ノ所在、地番、地目又ハ坪數ノ記載明瞭ナラサルトキハ市ニ在リテハ民政署長、會ニ在リテハ會長ノ證明書ヲ添附スヘシ

第五條　土地臺帳ニ登錄セラレタル共同相續地及相續未定地ニ關スル登記ヲ申請スル場合ハ其ノ相續又ハ身分ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第六條　合有名義（土地臺帳ニ登錄セラレタルモノ）又ハ神社、寺廟ニ屬スル不動產ノ登記ニ付テハ其ノ不動產所在地又ハ所有者所在地ヲ管轄スル民政署長、同支署長又ハ會長ノ證明シタル代表者二人以上ヨリ之ヲ申請スヘシ

第六條ノ二　土地臺帳ニ登錄セラレタル商號名義ノ不動產ニ關スル登記ヲ申請スル場合ハ其ノ所有ノ原因ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ書面ヲ添附スルコト能ハサルトキハ市ニ在リテハ民政署長、會ニ在リテハ會長ノ其ノ所有ノ原因ヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第六條ノ三　市、會又ハ屯ニ屬スル不動產ノ登記ニ付テハ市長、會長又ハ屯長ヨリ之ヲ申請スヘシ

第六條ノ四　所有權保存登記ト看做サレタル土地臺帳ニ住所ノ記載ナキモノ其ノ土地ニ關シ登記申請ヲ爲ス場合ハ住所ノ疏明ヲ爲スヘシ土地登記施行期日前設定シタル土地ノ權利ニシテ登記原因證書ニ住所ノ記載ナキモノ亦同シ但シ土地臺帳ニ住所ノ記載アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六條ノ五　登記原因證書又ハ附屬書類カ日本文ニ非サルトキハ其ノ譯書ヲ添附スヘシ

第七條　關東廳ノ所管ニ係ル不動產登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ關東長官ノ告示ヲ以テ指定シタル官吏ハ不動產登記法第三十五條第五號ノ書面ヲ提出スルヲ要セス各省ノ所管ニ係ル不動產ノ登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ明治三十五年勅令第五號ニ基キ各省大臣ノ指定シタル官吏亦同シ

第八條　公證官吏ノ作成シタル公正證書ニハ其ノ所屬民政署又ハ民政支署ノ印ヲ用ウヘシ若之ヲ用ヰルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第九條　關係人自署スル能ハサルトキハ公證官吏之ヲ代理シ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第十條　當事者ハ公正證書ノ土語又ハ外國語譯文ノ附與ヲ請求スルコトヲ得

第十一條　確定日附簿及日附アル印章調製方ハ明治三十一年七月司法省令第七號確定日附簿及日附アル印章調製方ニ依ル但シ確定日附簿ハ高等法院ニ於テ調製シ公證官吏ノ請求ニ依リ之ヲ交付スヘシ

第十二條　執達吏ノ職務ヲ行フ者其ノ職務執行ノ際携帶スヘキ證票ハ別記樣形ニ依ル

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

別記樣形

執達吏員ノ證票（用紙鳥ノ子　縱三寸五分、横二寸）

表面

第　　號

執達吏員證票

所管官署印

裏面

所管官署名

執達吏員　何　某

●民政支署長裁判及民事爭訟調停取扱方

（明治四十一年九月二十八日關東都督府令第五十號）

普蘭店及貔子窩民政支署長ハ其ノ管轄區域內ニ於ケル拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ罪ノ裁判及民事爭訟調停ヲ取扱フ

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●南洋群島裁判令

（大正十一年三月三十一日勅令第百三十三號）改正　大正一二年第二七號、一三年第四六七號

朕南洋群島裁判令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

南洋群島裁判令

第一條　南洋廳法院ハ南洋廳長官ニ直屬シ南洋群島ニ於ケル民事刑事ノ裁判及非訟事件ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　南洋廳法院ヲ分チテ地方法院及高等法院トス

法院ノ設置、廢止及管轄區域ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第三條　地方法院ハ民事刑事ニ付第一審ノ裁判ヲ爲シ且非訟事件ニ關スル事務ヲ取扱フ但シ登記事務ハ法院ノ設置ナキ地ニ在リテハ南洋廳支廳長之ヲ取扱フ

第四條　高等法院ハ終審トシテ地方法院ノ裁判ニ對スル上訴ニ付裁判ヲ爲ス

第五條　各法院ヲ通シテ判事專任三人ヲ置ク奏任トス

第六條　各法院ニ院長ヲ置ク判事ノ中ヨリ之ニ補ス

院長ハ院內ノ行政事務ヲ掌理ス

高等法院ノ院長ハ地方法院ノ行政事務及南洋廳支廳長ノ司法行政事務ヲ監督ス

第七條　地方法院ハ判事單獨ニテ審理裁判ス

第八條　高等法院ハ判事三人ノ合議ヲ以テ審理裁判シ上級判事ヲ其ノ裁判長トス

第九條　各法院ニ檢事局ヲ附置ス

各檢事局ヲ通シテ檢事專任一人ヲ置ク奏任トス

各檢事局ノ檢事ハ其ノ局內ノ事務ヲ掌理ス

各檢事局ノ管轄區域ハ之ヲ附置シタル法院ノ管轄區域ニ同シ

第十條　檢事ハ司法警察官ヲ指揮監督シ刑事訴追ヲ爲シ其ノ裁判ノ執行ヲ指揮監督ス

南洋廳長官ハ南洋廳警部ヲシテ地方法院檢事ノ職務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

高等法院檢事局檢事差支ノ爲其ノ職務ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ南洋廳長官ハ南洋廳警視ヲシテ臨時其ノ職務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十一條　南洋廳支廳長及南洋廳警視ハ司法警察官トシテ犯罪搜查ニ付地方法院檢事ト同一ノ權ヲ有ス

南洋廳警部及警部補ハ檢事ノ補佐トシテ其ノ指揮ヲ承ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜查スヘシ

第十二條　法院及檢事局ヲ通シテ書記專任四人ヲ置ク判任トス民事刑事ノ審理ニ關スル準備ヲ爲シ調書ヲ作リ及一切ノ訴訟記錄ヲ整理保存ス

書記ハ前項ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ法院又ハ檢事局ニ於ケル諸般ノ事務ニ從事ス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前臨時南洋群島防備隊民政署ニ於テ受理シタル訴訟事件ハ之ニ相當スル南洋廳支廳ニ於テ之ヲ完結ス

民事刑事ニ付本令施行前臨時南洋群島防備隊民政署ニ於テ爲シタル裁判及前項ノ規定ニ依リ南洋廳支廳ニ於テ爲シタル裁判ハ之ヲ南洋廳地方法院ニ於テ爲シタル裁判ト看做ス

●南洋群島裁判事務取扱令

（大正十二年一月二十七日勅令第二十六號）改正　大正一二年第五二五號、一三年第一七二號、第四六八號

朕南洋群島裁判事務取扱令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

南洋群島裁判事務取扱令

第一章　總則

第一條　民事刑事及非訟事件ニ關スル事項ハ本令其ノ他ノ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外左ノ法令ニ依ル

一　法例
一　民法
一　民法施行法
一　明治三十五年法律第五十號
一　明治三十七年法律第十七號
一　明治三十二年法律第四十號
一　明治三十三年法律第五十一號
一　明治三十三年勅令第百四十四號
一　明治三十二年法律第五十號
一　明治三十三年法律第十三號
一　明治三十三年勅令第四百九號
一　遺失物法
一　商法
一　商法施行法
一　破產法
一　和議法
一　明治三十三年法律第十七號
一　明治三十二年勅令第二百七十一號
一　供託法
一　工場抵當法
一　刑法
一　刑法施行法
一　爆發物取締罰則
一　通貨及證券模造取締法
一　明治二十二年法律第三十四號
一　明治三十八年法律第六十六號
一　大正四年法律第十八號
一　印紙犯罪處罰法
一　民事訴訟法
一　民事訴訟費用法
一　人事訴訟手續法
一　競賣法
一　刑事訴訟法
一　刑事訴訟費用法
一　刑事交涉法
一　外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法
一　逃亡犯罪人引渡條例
一　外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法
一　不動產登記法
一　非訟事件手續法

第二條　島民ノ外ニ關係者ナキ民事ニ關スル事項ニ付テハ慣例ニ依ル但シ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル場合ハ之ノ限ニ在ラス

第三條　土地ニ關スル權利ニ付テハ當分ノ內從前ノ慣例ニ依ル

土地ニ關スル權利ニ付テハ當分ノ內登記ヲ爲サス

第三條ノ二　島民ニ對スル一年未滿ノ懲役又ハ勞役場留置ノ執行ニ付テハ檢事又ハ即決ヲ爲シタル南洋廳支廳長ハ事情ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ監獄又ハ勞役場ニ拘置又ハ留置セスシテ勞役ニ服セシムルコトヲ得

第四條　第一條ノ法令中主務大臣又ハ地方長官ノ職務ハ民事訴訟法第百五十二條及逃亡犯罪人引渡條例ニ規定スル外務大臣ノ職務ヲ除クノ外南洋廳長官、大審院長ノ職務ハ南洋廳高等法院長、檢事總長又ハ檢事長ノ職務ハ南洋廳高等法院檢事、地方裁判所長ノ職務ハ南洋廳地方法院長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事ノ職務ハ南洋廳地方法院檢事、市町村長ノ職務ハ南洋廳支廳長、市町村吏員ノ職務ハ南洋廳支廳所屬官吏之ヲ行ヒ大審院トアルハ南洋廳高等法院、裁判所トアルハ南洋廳法院、供託局トアルハ南洋廳地方法院、警察官署市役所區役所又ハ市町村役場トアルハ南洋廳支廳トス

第五條　第一條ノ法令ノ適用ニ付テハ府縣ハ南洋群島ニ、市町村ハ南洋廳支廳ノ管轄區域ニ該當ス

第六條　第一條ノ法令ニ規定スル登記ヲ爲スヘキ期間ハ之ヲ二倍トス

第七條　第一條ノ法令ニ依リ官報ニ掲載シテ爲スヘキ公告又ハ公示ハ南洋廳公報ニ掲載シテ之ヲ爲スコトヲ得

第八條　第一條ノ法令及裁判所構成法ニ依リ大審院ノ管轄ニ屬スル事項ハ南洋廳高等法院、地方裁判所又ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事項ハ南洋廳地方法院之ヲ管轄ス但シ人

事訴訟手續法第五十五條第一項及第六十六條第一項ノ訴ハ南洋廳高等法院之ヲ管轄ス

第九條　民事及刑事ノ訴訟其ノ他ノ裁判事務ニ關シテハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

第二章　訴訟手續

第一節　通則

第十條　開廷、法院ノ用語竝裁判ノ評議及言渡ニ關シテハ裁判所構成法第百四條乃至第百二十四條ノ規定ニ、法律上ノ共助ニ關シテハ同法第百三十一條乃至第百三十三條ノ規定ニ依ル但シ同法中區裁判所トアルハ南洋廳地方法院トス

第十一條　除斥、忌避及回避ニ關スル規定ハ之ヲ適用セス

第十二條　法院又ハ裁所長カ職權ヲ以テ辯護士ヲ訴訟承繼人、訴訟代理人又ハ辯護人ニ選定シ又ハ選任スヘキ場合ニ於テハ辯護士ニ非サル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十三條　法院ノ設置ナキ地ニ在リテハ急速ヲ要スル場合ニ限リ訴狀其ノ他ノ訴訟書類ヲ南洋廳支廳ニ提出シタルトキハ之ヲ法院ニ提出シタルト同一ノ效力ヲ生ス

第十四條　島民ノミニ關スル訴訟ニ付テハ本令ノ規定ニ拘ラス法院ノ認ムル便宜ノ訴訟手續ニ依ルコトヲ得

第二節　民事訴訟手續

第十五條　民事訴訟手續ハ高等法院ニ於テハ民事訴訟法中控訴裁判所ニ關スル規定ニ依リ地方法院ニ於テハ同法中地方裁判所及區裁判所ニ關スル規定ニ依ル

第十六條　當事者ハ法院ノ許可ヲ得テ訴訟能力者ヲ以テ代理人ト爲スコトヲ得

前項ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第十七條　費用額確定ノ申請アリタル場合ニ於テ未タ判決ノ送達ナク且判決正本ノ作成ヲ遲延セシムル虞ナキトキハ費用額確定ノ決定ヲ判決及其ノ正本ニ附記スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ費用額ノ決定ニ付正本ノ作成及送達ノ手續ヲ爲サス申請人及相手方ニ確定シタル額ヲ通知シ且相手方ニ費用計算書ノ謄本ヲ送付スヘシ但シ費用額確定申請ノ一部ヲ採用セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

當事者カ判決言渡前ニ費用計算書ヲ差出シタルトキハ費用額確定ノ申請ヲ爲スコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ職權ヲ以テ費用計算書ノ謄本ヲ作成シ之ヲ相手方ニ送付スヘシ

第十八條　假住所ニ於テスル送達ハ之ヲ受クヘキ人ニ出會ハサルトキハ成長シタル假住所ノ主人、其ノ同居ノ親族又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十九條　法院書記其ノ所屬廳內又ハ開廷ノ場所ニ於テ送達ヲ受クヘキ者ニ書類ヲ交付シ受取證ヲ徵シタルトキハ送達アリタルト同一ノ效力ヲ生ス

第二十條　民事訴訟法第百四十五條第二項ノ規定ニ依リ市町村長ニ書類ヲ預置クヘキ場合ニ於テハ送達ヲ爲スヘキ地ニ在ル官署ノ長ニ之ヲ預置クコトヲ得

第二十一條　公示送達ハ法院職權ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

法院ハ民事訴訟法第百五十七條第三項ニ規定シタル書類ノ抄本ヲ南洋廳公報ニ掲載スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第二十二條　期日ノ變更又ハ期間ノ伸長ハ當事者合意ノ場合ニ於テモ顯著ナル理由アルニ非サレハ之ヲ許サス

第二十三條　法院ハ其ノ所在地ニ住居セサル當事者ノ爲民事訴訟法ノ規定ニ依ラス法律上ノ期間ヲ相當ニ伸長スルコトヲ得但シ不變期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　訴訟關係人カ期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シタルトキハ期日呼出アリタルト同一ノ效力ヲ生ス

第二十五條　合意ニ因ル訴訟手續ノ休止ハ顯著ナル理由アルトキニ限リ申立ニ因リ之ヲ許ス其ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ申立ニ付テハ民事訴訟法第百七十一條第二項及第四項ノ規定ヲ準用ス

合意ニ因ル休止ノ場合ニ於テ六月內ニ口頭辯論ノ期日指定ノ申立ヲ爲サヽルトキハ本訴及反訴ヲ取下ケタルモノト看做ス其ノ申立ヲ爲シタルトキト雖期日前重ネテ休止ヲ爲シ其ノ期間前後ヲ通算シテ六月ヲ超ユルトキ亦同シ

第二十六條　口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要セス

第二十七條　訴ハ何時ニテモ之ヲ取下クルコトヲ得但シ反訴アリタルトキハ被告ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二十八條　訴ノ取下アリタルトキハ反訴ハ其ノ效力ヲ失フ但シ被告カ反訴ヲ繼續セシムル意思ヲ表示シテ取下ニ同意シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　反訴ハ其ノ目的カ本訴ノ目的又ハ防禦ノ方法ト法律上牽連スルニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第三十條　當事者カ重大ナル過失ニ因リ又ハ訴訟ノ完結ヲ遲延セシムル意思ヲ以テ時期ニ後レテ提出シタル攻擊又ハ防禦ノ方法カ訴訟ノ完結ヲ遲延セシムヘキモノナルトキハ法院ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

前項ノ規定ハ證據方法及證據抗辯ノ提出ニ付之ヲ準用ス

第三十一條　削除

第三十二條　判決ニ於テ作爲ノ履行ヲ命スル場合ニ於テハ原告ノ申立ニ因リ一定ノ期間內ニ履行ヲ爲サヽルトキハ賠償金ヲ支拂フヘキ旨ヲ言渡スコトヲ得

第三十三條　判決ハ職權ヲ以テ之ヲ送達ス

判決ノ送達ハ其ノ正本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第三十四條　再度ノ闕席判決ニ對シテハ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

再度ノ闕席判決ニ對スル控訴ニ付テハ民事訴訟法第三百九十八條ノ規定ヲ適用セス

第三十五條　民事訴訟法第二百七十七條第一項ノ申立ニ對シ決定ヲ爲スニハ同條第二項ノ催告ヲ爲スコトヲ要セス

第三十六條　證據決定中一部ノ證據調ニ依リ結果ヲ得タルトキハ他ノ證據調ヲ省略スル決定ヲ爲スコトヲ得

第三十七條　受命判事又ハ受託判事ハ檢證ノ場合ニ於テ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ法院ノ決定ヲ俟タス檢證事項ニ關シ證人ヲ訊問シ又ハ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第三十八條　證人ノ呼出狀ニハ訊問事項ヲ表示スルコトヲ要セス

第三十九條　證人及鑑定人ハ之ヲ忌避スルコトヲ得ス

第四十條　證人、鑑定人又ハ通事僞證ノ罪ヲ犯シタルモノト思料シタルトキハ法院ハ直ニ裁判ヲ爲スコトヲ得

第四十一條　當事者ノ提出シタル許スヘキ證據ヲ調ヘタル結果ニ因リ證スヘキ事實ノ眞否ニ付法院カ心證ヲ得ルニ足ラサルトキハ職權ヲ以テ證人訊問ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　職權ヲ以テ爲ス證據調ノ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フルコトヲ得

職權ヲ以テ爲シタル證據調ノ費用ノ全部又ハ一部ハ之ヲ國庫ノ負擔ト爲スコトヲ得

第四十三條　職權ヲ以テ爲シタル證據調ノ費用ヲ當事者ノ負擔ニ歸セシムヘキ場合ニ於テハ法院ハ判決ヲ以テ其ノ負擔者及金額ヲ定ムヘシ訴又ハ上訴ノ取下アリタルトキハ決定ヲ以テ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ハ職權ヲ以テ爲シタル證據調ノ費用ヲ國庫ノ負擔ト爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條　削除

第四十五條　督促手續ニ關スル規定ハ債務者カ島民ナル場合ニハ當分ノ內之ヲ適用セス

第四十六條　判決言渡ノ際當事者雙方在廷シタル場合ニ於テ其ノ言渡後當事者雙方カ控訴ノ拋棄ヲ爲シタルトキハ控訴期間內ト雖其ノ判決確定ス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

第四十七條　民事訴訟法第四百二十二條ノ場合ニ於テ當事者合意ノ申立アルトキハ高等法院ハ直ニ本案ノ辯論及裁判ヲ爲スコトヲ得

第四十八條　控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ原判決ヲ

爲シタル法院ニ差出シテ之ヲ爲ス

控訴ノ提起アリタルトキハ書記ハ遲滯ナク訴訟記錄ト共ニ控訴狀ヲ高等法院ニ發送スヘシ

第四十九條　民事訴訟法第五編ノ規定ハ之ヲ適用セス

第五十條　民事訴訟法第五百二條各號ノ場合ニ於テハ法院ハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得

第五十一條　第十七條ノ規定ニ從ヒ判決ニ附記シタル費用額確定決定ニ依ル強制執行ハ執行力アル當該判決正本ニ基キ之ヲ爲ス

第五十二條　執達吏ノ職務ヲ行フ者必要ト認ムルトキハ利害關係人ノ申立ナシト雖競買人ニ對シ民事訴訟法第六百六十四條ノ保證ヲ立ツヘキコトヲ命スルコトヲ得

第五十三條　法院ノ設置ナキ地ニ在ル不動產ノ強制競賣ニ付テハ法院ハ開始決定ノ送達ヲ爲シタル後不動產ノ所在地ヲ管轄スル南洋廳支廳ニ執行記錄ヲ送付シテ其ノ後ノ手續ヲ囑託スルコトヲ得但シ競賣手續ヲ取消ス裁判及配當異議ノ訴ニ對スル裁判ハ此ノ限ニ在ラス

第五十四條　前條ノ囑託アリタル場合ニ於テハ執行法院及配當法院ノ事務ハ後六條ノ規定ニ依ルノ外通常ノ手續ニ從ヒ南洋廳支廳長之ヲ行フ

第五十五條　南洋廳支廳長ハ民事訴訟法第六百五十三條及第六百五十六條ノ規定ニ依リ競賣手續ヲ取消スヘキモノト認メタルトキハ執行記錄ヲ法院ニ返還スヘシ南洋廳支廳ニ配當異議ノ訴狀ノ提出アリタルトキ亦同シ

第五十六條　競賣、競落、代金支拂及配當ノ期日ハ南洋廳支廳ニ於テ之ヲ開ク

第五十七條　競賣期日ノ公告ハ南洋廳支廳ノ揭示場及適當ノ場所ニ、其ノ他ノ公告ハ南洋廳支廳ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス

第五十八條　民事訴訟法第六百六十八條ニ規定スル調書、金錢又ハ有價證券ハ之ヲ南洋廳支廳長ニ渡スヘシ

第五十九條　民事訴訟法第六百八十條ノ抗告ニ付テハ囑託ヲ爲シタル法院ヲ以テ抗告法院トス

第六十條　執行手續ヲ完結シタルトキハ南洋廳支廳長ハ執行記錄ヲ法院ニ返還スヘシ

第六十一條　前八條ノ規定ハ不動產ノ任意競賣ニ之ヲ準用ス

第三節　刑事訴訟手續

第六十二條　刑事訴訟手續ハ高等法院ニ於テハ刑事訴訟法中控訴裁判所ニ關スル規定ニ依リ地方法院ニ於テハ同法中地方裁判所及區裁判所ニ關スル規定ニ依ル

第六十三條　法院ハ被告人カ其ノ法院ノ管轄區域內ニ在ラサルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ被告人ノ所在地ヲ管轄スル同等ノ法院ニ移送スルコトヲ得

第六十四條　官吏公吏ノ作ルヘキ書類ニシテ刑事訴訟法第七十一條、第七十二條其ノ他同法規定ノ形式ニ瑕疵アルモノニ付テハ當該吏員ヲシテ之ヲ補正セシメ有效ナラシムルコトヲ得

前項ノ補正ヲ爲シタルトキハ其ノ年月日、場所及補正事項ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第六十五條　檢事ハ刑事訴訟法第百二十三條ニ規定スル場合ノ外被疑者ニ付同法第八十七條ニ規定スル事由アリタル場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ直ニ勾引狀ヲ發シ又ハ之ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

刑事訴訟法第九十七條、第九十八條及第百條乃至第百九條ノ規定ハ前項ノ勾引ニ付之ヲ準用ス

第六十五條ノ二　檢事ハ被疑者ニ付刑事訴訟法第八十七條ニ規定スル事由アリタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ押收、搜索、檢證、證人訊問竝鑑定、通譯及翻譯ノ處分ヲ爲シ又ハ之ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

刑事訴訟法第二百十四條、第二百十七條、第二百二十八條及第二百三十六條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ檢事又ハ司法警察官ノ爲ス證人訊問竝鑑定、通譯及翻譯ノ處分ニ付之ヲ準用ス

第六十五條ノ三　司法警察官刑事訴訟法第百二十七條ノ規定ニ依リ訊問ヲ爲シタル場合ニ於テ事件禁錮以上ノ刑ニ該リ留置ノ必要アリト思料スルトキハ檢事ノ命令ヲ受ケ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

刑事訴訟法第九十七條、第百條、第百三條乃至第百五條、第百七條及第百九條ノ規定ハ前項ノ勾留ニ付之ヲ準用ス

第六十五條ノ四　檢事刑事訴訟法第百二十九條第一項ノ規定ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ該ル事件ニ付勾留狀ヲ發シタル場合又ハ司法警察官前條第一項ノ規定ニ依リ勾留狀ヲ發シタル場合ニ於テ勾留ノ日ヨリ二十日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ送致ノ手續ヲ爲サヽルトキハ勾留ハ之ヲ取消スヘシ

第六十五條ノ五　檢事又ハ司法警察官カ訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ法院書記又ハ司法警察官吏ノ立會ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得

第六十五條ノ六　刑事訴訟法第二百六十四條ノ規定ハ當分ノ內島民ノ爲ス告訴ニ付之ヲ適用セス

第六十六條　檢事犯罪ノ搜查ヲ終リ有罪ト思料シタルトキハ公判ヲ請求スルニ依リテ公訴ヲ提起スヘシ

豫審ハ之ヲ行ハス

第六十七條　刑事訴訟法ニ依リ市町村吏員ノ立會ヲ要スル場合ニ於テハ相當ノ者二人以上ノ立會アルヲ以テ足ル

第六十八條　法院ハ必要ト認ムルトキハ命令狀ヲ發シ司法警察官ヲシテ檢證、證人訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

刑事訴訟法第百五十條第二項、第三項、第二百十四條、第二百十七條及第二百二十八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ司法警察官ノ爲ス證人訊問及鑑定ノ處分ニ付之ヲ準用ス

第六十九條乃至第七十一條　削除

第七十二條　刑事訴訟法第三百三十四條及同條ヲ準用スル第四百七條ノ規定ハ之ヲ適用セス但シ法院ハ被告人又ハ被告事件ノ模樣ニ因リ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スルコトヲ得

第七十三條　一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ヲ言渡シタル第一審ノ判決ニ付テハ證據ニ關スル理由ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ控訴ノ申立アリタルトキハ判決ヲ爲シタル法院ハ理由書ヲ作成シテ之ヲ控訴法院ニ送付スヘシ

刑事訴訟法第三百六十一條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第七十四條乃至第八十二條　削除

第八十三條　非常上告ハ刑事訴訟法第六編ノ規定ニ依リ高等法院之ヲ管轄ス

第八十四條第八十五條　削除

第三章　民事爭議調停

第八十六條　法院所在地ニ非サル地ノ南洋廳支廳長ハ當事者ノ申立ニ因リ其ノ管轄區域內ニ於ケル民事爭議ニ付調停及其ノ執行ヲ爲スコトヲ得

第八十七條　民事爭議調停ノ申立ハ被申立人ノ居住地ヲ管轄スル南洋廳支廳長ニ之ヲ爲スヘシ但シ不動產ニ關スル爭議ニ付テハ其ノ所在地ヲ管轄スル南洋廳支廳長ニ之ヲ爲スヘシ

第八十八條　調停ノ申立ハ相手方ヲ表示シ且爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十九條　調停ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ノ申立アリタル場合ニ於テハ南洋廳支廳長又ハ其ノ命スル官吏申立調書ヲ作ルコトヲ要ス

第九十條　調停ノ申立アリタルトキハ南洋廳支廳長ハ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出スヘシ此ノ場合ニ於テハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ヲ參加セシムルコトヲ得

第九十一條　調停ノ申立人指定ノ期日ニ正當ノ理由ナクシテ出頭セサルトキハ申立ヲ取下ケタルモノト看做ス

被申立人期日ニ出頭セサルトキハ更ニ期日ヲ定メテ之ヲ呼出スヘシ新期日ニ尙出頭セサル場合ト雖調停ノ成立スル見込アルトキハ南洋廳支廳長ハ更ニ期日ヲ定メテ之ヲ呼出スコトヲ得

第九十二條　南洋廳支廳長ハ申立人カ義務ノ回避其ノ他不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキハ其ノ申立ヲ却

下スルコトヲ得

第九十三條　調停ノ申立アリタル場合ニ於テ被申立人他ノ支廳ノ管内ニ轉居シタルトキハ申立人ノ申立ニ因リ事件ヲ其ノ管轄支廳ニ移送スルコトヲ得

第九十四條　調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス

第九十五條　南洋廳支廳長ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル處分ヲ命スルコトヲ得

第九十六條　南洋廳支廳長ハ當事者ノ申請ニ因リ必要ト認ムルトキハ參考人ヲ喚問シ實地ニ臨檢シ又ハ相當技術者ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲ス者ニハ之ニ要スル費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第九十七條　參考人及鑑定人ハ旅費、日當及止宿料ヲ請求スルコトヲ得

第九十八條　調停成立セサルトキ又ハ調停ノ成立スル見込ナシト認ムルトキハ支廳長ハ其ノ旨ヲ宣言シテ事件ヲ終了ス

第九十九條　調停成立シタルトキハ調停調書ヲ作成シ左ノ事項ヲ明確ニスヘシ

一　當事者及代理人ノ氏名、職業及住居
二　當事者ノ申述ノ要旨
三　成立シタル調停條項

第百條　調停調書ノ原本ニハ年月日ヲ記載シ當事者ヲシテ署名捺印セシメ支廳長署名捺印シ且廳印ヲ押捺スヘシ

第百一條　當事者ハ手數料ヲ納付シテ調停調書ノ正本又ハ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第百二條　調停ノ執行ニ付テハ民事訴訟法第五百五十九條第四號ニ揭ケタル債務名義ニ因ル強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ裁判所又ハ裁判長ニ屬スル職務ハ南洋廳支廳長、裁判所書記ニ屬スル職務ハ支廳長ノ命スル官吏之ヲ行フ但シ強制執行ニ對シ訴ヲ以テ權利又ハ異議ヲ主張スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百三條　南洋廳支廳長ハ成立シタル調停條項ニ關スル犯罪行爲ニ付公訴ノ提起アリタルトキハ其ノ事件ノ完結スル迄調停ノ執行ヲ停止スヘシ

第百四條　南洋廳支廳長ハ調停ノ執行ヲ他ノ支廳長ニ囑託スルコトヲ得

第百五條　調停ノ成立シタル爭議ト同一事件ニ付テハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第百六條　書類ノ送達ニ付テハ訴訟書類ノ送達ニ關スル規定ヲ準用ス

第百七條　高等法院長ハ爭議調停事務ヲ監視シ其ノ書類ヲ檢閲シ注意ヲ與フルコトヲ得

第百八條　調停ノ申立ヲ爲スニハ手數料ヲ納付スルコトヲ要ス

第百九條　調停費用ハ當事者ノ負擔トス其ノ調停費用及各當事者ノ負擔ノ割合ハ調停ヲ爲ス者ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

第百十條　第九十七條ノ旅費、日當及止宿料竝第百一條及第百八條ノ手數料ノ額ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第四章　登記及供託

第百十一條　法院ノ設置ナキ地ニ於テハ供託ノ事務ハ南洋廳支廳長之ヲ取扱フコトヲ得

第百十二條　法院及登記又ハ供託ノ事務ヲ取扱フ南洋廳支廳長ハ所屬官吏ヲシテ登記又ハ供託ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第百十三條　登記ノ申請ヲ爲ス者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ納付スヘシ

第五章　公證

第百十四條　民事ニ關スル公正證書ノ作成及私署證書ノ認證ハ當事者ノ申請ニ因リ地方法院ノ判事、法院ノ設置ナキ地ニ於テハ南洋廳支廳長之ヲ取扱フ

第百十五條　本章ノ規定ニ依リ作成シタル公正證書ニシテ民事訴訟法第五百五十九條第五號但書ノ作成要件ヲ具備シタルモノハ同號ノ債務名義ニ因ル強制執行ニ關スル規定ニ準シ強制執行ヲ爲スコトヲ得但シ僞造ノ公訴提起アリタルトキハ其ノ執行ヲ停止スヘシ民事訴訟ニ關シ僞造ノ申立アリタルトキハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

民事訴訟ニ關シ僞造ノ申立アリタル場合ニ於テハ民事訴訟法第五百條ノ規定ニ依ル

第百十六條　公正證書ノ作成ニ關シテハ公證人法第四章ノ規定ニ、私署證書ノ認證ニ關シテハ同法第五章ノ規定ニ依ル但シ同法中地方裁判所長ノ職務ハ高等法院長之ヲ行ヒ市區町村長ノ職務ハ南洋廳支廳長之ヲ行フ

第百十七條　公證官吏ノ職務執行ニ關シ不服アル者ハ高等法院ニ抗告スルコトヲ得

前項ノ抗告アリタルトキハ公證官吏ハ其ノ事件ノ處分ヲ停止スヘシ

第百十八條　公正證書作成費用及作成ノ爲出張シタル公證官吏ノ旅費日當ハ申請人ノ負擔トス其ノ額ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第百十九條　公正證書ノ原本、其ノ附屬書類及法令ニ依リ公證官吏ノ調製シタル帳簿ハ事變ヲ避クル爲ニスル場合又ハ法院ノ命令若ハ囑託アル場合ニ非サレハ之ヲ他ニ持出スコトヲ得ス

第百二十條　公證官吏事故アルトキハ法院書記又ハ南洋廳支廳所屬官吏ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第百二十一條　法令中公證人ノ職務ニ屬スルモノハ公證官吏之ヲ行フ

第六章　執達

第百二十二條　法令中執達吏ノ職務ニ屬スルモノハ地方法院書記、法院ノ設置ナキ地ニ在リテハ南洋廳支廳所屬官吏之ヲ行フ

地方法院長又ハ南洋廳支廳長ハ巡査其ノ他適當ト認ムル者ヲシテ臨時前項ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第百二十三條　執達吏ノ職務ヲ行フ法院書記又ハ南洋廳支廳所屬官吏ハ書類ノ送達ニ限リ所屬廳ノ吏員ヲシテ臨時其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第百二十四條　前二條ノ規定ニ依リ執達吏ノ職務ヲ行フ者ハ證票ヲ携帶スヘシ

第百二十五條　執達ノ手數料及旅費ニ關シテハ南洋廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島刑事民事裁判令ハ之ヲ廢止ス

本令施行前爲シタル手續其ノ他ノ行爲ニシテ本令中之ニ該當スル規定アルモノハ之ヲ本令ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ繫屬中ノ民事刑事ノ事件ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依リ之ヲ完結ス

金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ノ供託ニ付テハ南洋廳長官ハ當分ノ内適當ト認ムル者ヲ指定シ倉庫業者又ハ銀行ニ代フルコトヲ得

●南洋群島裁判事務取扱令施行細則

（大正十二年一月二十六日　南洋廳令第三號）

南洋群島裁判事務取扱令施行細則左ノ通定ム

第一條　人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ニ於テハパラオ諸島コロール島ヲ以テ住所地トス

第二條　人事訴訟手續法第三章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ハ裁判ノ要旨ヲ法院ノ揭示場ニ揭示シ且官報又ハ南洋廳公報ニ揭載シテ之ヲ爲スヘシ

第三條　外國人ノ遺産ノ保存處分ニ關シテハ明治三十二年司法省令第四十號外國人ノ遺産ノ保存處分ニ關スル手續ニ依ル

第四條　建物ノ登記ニ關シテハ明治三十二年司法省令第十一號不動産登記法施行細則ニ依ル

第五條　法人及夫婦財産契約ノ登記ニ關シテハ明治三十二年司法省令第十五號法人及夫婦財産契約登記取扱手續ニ依ル

第六條　工場抵當ノ登記ニ關シテハ明治三十八年司法省令第十八號工場抵當登記取扱手續ニ依ル

第七條　商業登記ニ關シテハ明治三十二年司法省令第十三號商業登記取扱手續ニ依ル

第八條　南洋廳ノ所管ニ係ル建物登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ南洋廳長官ノ告示ヲ以テ指定シタル官吏ハ不動産登記法第三十五條第五號ノ書面ヲ提出スルヲ要セス各省ノ所管ニ係ル建物ノ登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ明治三十五年勅令第五號ニ基キ各省大臣ノ指定シタル官吏亦同シ

第九條　公正證書ノ作成及認證其ノ他公證官吏ノ職務執行ニ關シテハ明治四十二年司法

省令第十四號公證人法施行細則第十條乃至第十五條、第十七條乃至第二十二條及第三十一條ニ依ル但シ其ノ規定中公證人トアルハ公證官吏、公證人役場トアルハ公證官廳、囑託人トアルハ申請人、囑託トアルハ申請トス

第十條　公證官吏ノ作成シタル公正證書ニハ其ノ所屬官廳ノ印ヲ用ウヘシ若之ヲ用キルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第十一條　關係人自署スルコト能ハサルトキハ公證官吏之ヲ代署シ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第十二條　公證官吏又ハ其ノ職務ヲ代理スル官吏公正證書又ハ認證ヲ與フル私署證書ニ署名スル場合ハ左ノ例ニ依ル

一　公證官吏南洋廳判事某又ハ公證官吏南洋廳支廳長某
一　公證官吏代理南洋廳法院書記某又ハ公證官吏代理南洋廳屬某

第十三條　公證官吏ハ公證官吏南洋廳判事又ハ公證官吏南洋廳支廳長ト刻シタル方七分ノ職印ヲ用キ法院書記又ハ支廳所屬官吏代理執務ノ場合ニ於テハ公證官吏南洋廳法院書記又ハ公證官吏南洋廳屬ト刻シタル方六分ノ職印ヲ用ウヘシ

第十四條　公證官廳ニ備フヘキ證書原簿、認證簿及受附簿ハ別記第一號乃至第三號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十五條　確定日附簿及日附アル印章調製方ハ明治三十一年司法省令第十七號確定日附簿及日附アル印章調製方ニ依ル但シ確定日附簿ハ高等法院ニ於テ調製シ公證官吏又ハ登記所ノ請求ニ依リ之ヲ交付スヘシ

第十六條　執達吏ノ職務ヲ行フ者其ノ職務執行ノ際携帶スヘキ證票ハ別記第四號樣式ニ依ル

第十七條　本令ニ揭ケタル司法省令中司法大臣トアルハ南洋廳長官、市區町村長トアルハ南洋廳支廳長、地方裁判所又ハ地方裁判所長トアルハ南洋廳高等法院又ハ高等法院長、區裁判所トアルハ南洋廳地方法院、市町村トアルハ南洋廳支廳ノ管轄區域トス

第十八條　印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官沒ハ南洋廳支廳長ヨリ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲ス

附　則

本令ハ大正十二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式略ス）

●滿洲ニ於ケル領事裁判ニ關スル法律

（明治四十一年四月十四日　法律第五十二號）
改正　大正一四年第六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル滿洲ニ於ケル領事裁判ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
（總理、外務、司法大臣副署）

第一條　明治三十二年法律第七十號第九條乃至第十二條ノ規定ハ滿洲ニ於ケル領事裁判ニ之ヲ適用セス

第二條　滿洲ニ於ケル領事官ノ豫審ヲ爲シタル罪ノ公判ハ關東廳地方法院之ヲ管轄ス

第三條　滿洲ニ駐在スル領事官ノ管轄ニ屬スル刑事ニ關シ國交上必要アルトキハ外務大臣ハ關東廳地方法院ヲシテ其ノ裁判ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條　滿洲ニ於ケル領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告（關東廳高等法院上告部ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク）ハ關東廳高等法院覆審部、滿洲ニ於ケル領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル上告又ハ上告棄却ノ決定ニ對スル抗告ハ關東廳高等法院上告部之ヲ管轄ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
（明治四十一年勅令第二百十一號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

本法施行前受理シタル訴訟事件及非訟事件ニ關シテハ總テ從前ノ例ニ依ル

附　則（大正十四年法律第六號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
（大正十四年勅令第二百八十六號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）

●間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律

（明治四十四年三月三十日　法律第五十一號）
改正　大正四年第二九號、一四年第七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
（總理、外務、司法大臣副署）

第一條　間島ニ駐在スル帝國領事官ノ管轄ニ屬スル罪ノ公判ハ朝鮮總督府地方法院之ヲ管轄ス

第二條　間島ニ駐在スル帝國領事官ノ管轄ニ屬スル刑事ニ關シ外務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ事件ヲ管轄スヘカラサルコトヲ當該領事官ニ命シ且被告人ヲ朝鮮ニ於ケル監獄ニ移送セシムルコトヲ得

第三條　前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ朝鮮ニ於ケル監獄ニ移送スル場合ニ於テ朝鮮總督ハ被告人ノ移送セラルル監獄所在地ヲ管轄スル朝鮮總督府覆審法院ノ檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ覆審法院ニ爲サシムヘシ

前項ノ申請及裁判ニ關シテハ刑事訴訟法第十八條第一項及第二十三條ノ規定ヲ準用ス

第四條　間島ニ駐在スル帝國領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告（朝鮮總督府高等法院ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク）ハ朝鮮總督府覆審法院、間島ニ駐在スル帝國領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル上告又ハ上告棄却ノ決定ニ對スル抗告ハ朝鮮總督府高等法院之ヲ管轄ス

第五條　第一條及第四條ノ場合ニ於テ管轄權ヲ有スヘキ朝鮮總督府裁判所ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前受理シタル訴訟事件及非訟事件ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

附　則（大正十四年法律第七號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
（大正十四年勅令第二百八十六號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）

●間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律ニ依リ管轄權ヲ有スヘキ朝鮮總督府裁判所

（明治四十四年四月十二日　朝鮮總督府令第四十七號）
改正　大正五年第二號、八年第一六五號、一二年第九二號

明治四十四年法律第五十一號ニ依リ管轄權ヲ有スヘキ朝鮮總督府裁判所ヲ左ノ通定ム

一　清津地方法院　一　京城覆審法院

●南部支那ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律

（大正十年三月三十日　法律第二十五號）
改正　大正一四年第八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル南部支那ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
（總理、外務、司法大臣副署）

第一條　本法ニ於テ南部支那ト稱スルハ支那福建省廣東省廣西省雲南省ヲ謂フ

第二條　南部支那ニ駐在スル帝國領事官ノ豫審ヲ爲シタル罪ノ公判ハ臺灣總督府臺北地方法院之ヲ管轄ス

第三條　南部支那ニ駐在スル帝國領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴及抗告（臺灣總督府高等法院上告部ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク）ハ臺灣總督府高等法院覆審部、南部支那ニ駐在スル帝國領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル上告又ハ上告棄却ノ決定ニ對スル抗告ハ臺灣總督府高等法院上告部之ヲ管轄ス

第四條　南部支那ニ駐在スル帝國領事官ノ管轄ニ屬スル刑事事件ニ關シ外務大臣ニ於テ國交上必要アリト認ムルトキハ其ノ事件ヲ管轄スヘカラサルコトヲ當該領事官ニ命シ且被告人ヲ臺灣總督府臺北監獄ニ移送セシムルコトヲ得

第五條　前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ移送スル場合ニ於テハ臺灣總督ハ臺灣總督府高等法院ノ檢察官ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ法院覆審部ニ爲サシムヘシ

前項ノ申請及裁判ニ關シテハ刑事訴訟法第十八條第一項及第二十三條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前受理シタル訴訟事件及非訟事件ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

附　則（大正十四年法律第八號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
（大正十四年勅令第二百八十六號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）

第二款　執達吏

●執達吏規則

明治二十三年七月二十五日 法律第五十一號
改正　明治四二年第二號　大正三年第三〇號、八年第四〇號、一〇年第二六號

朕執達吏規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス（總理、司法大臣副署）

執達吏規則

第一條　執達吏ハ區裁判所ニ屬シ法律ニ從ヒ訴訟ニ關スル書類ヲ送達シ及裁判ヲ執行スルモノトス

第二條　執達吏ハ當事者ノ委任ニ依リ左ノ事務ヲ取扱フコトヲ得
第一　告知及催告ヲ爲スコト
第二　動産不動産ノ任意競賣ヲ爲スコト
第三　拒證書ヲ作ルコト

第三條　執達吏ハ法律規則ニ定メタル職務ノ外裁判所及檢事局ノ命令ニ依リ其職務ニ應スル事務殊ニ左ノ事務ヲ取扱フノ義務アリ
第一　書類物品ノ送付ヲ爲スコト
第二　罰金科料過料ヲ徴收シ及沒收物品ヲ取上ケ若クハ賣却スルコト
第三　令狀ノ執行ヲ爲スコト

第四條　執達吏ハ所屬區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ノ監督ヲ受ク
他ノ判事又ハ檢事ニシテ職務上事務ヲ命シタルトキハ其事務ニ限リ執達吏ニ對シ監督權ヲ有ス

第五條　執達吏ハ所屬區裁判所ノ管轄區域内ニ於テ地方裁判所長ノ指定シタル地ニ役場ヲ設クヘシ

第五條ノ二　區裁判所又ハ其出張所ノ所在地ニ執達吏ナキ場合ニ於テハ地方裁判所長ハ其管轄内ノ執達吏ニ役場ノ出張所ノ設置ヲ命シ又ハ裁判所書記ヲシテ執達吏ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得
裁判所書記カ執達吏ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ第十一條ニ掲クル者其他適當ト認ムル者ニ臨時其職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

第六條　執達吏ハ其役場ノ所在地ニ住居ヲ定ムヘシ

第七條　一區裁判所ニ數名ノ執達吏アルトキハ裁判所及檢事局ノ命令ニ依ル事務ト裁判所書記ヲ經テ委任スヘキ事務トヲ各執達吏ニ分配スヘシ此分配ハ成ルヘク土地ノ區域ニ從フヘシ
事務分配ハ毎司法年度ノ終ニ於テ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事前以テ之ヲ定ム
執達吏ノ爲シタル事務ハ事務分配上其事務他ノ執達吏ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其効力ヲ失フコトナシ

第八條　執達吏ハ左ノ場合ニ於テハ其職務ノ施行ヨリ除斥セラルヘシ
第一　自己又ハ其婦カ當事者若クハ被害者タルトキ又ハ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ被害者ト共同權利者共同義務者若クハ償還義務者タルノ關係ヲ有スルトキ
第二　自己又ハ其婦カ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ被害者又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖亦同シ
第三　自己カ同一ノ事件ニ付證人若クハ鑑定人ト爲リテ訊問ヲ受クルトキ又ハ法律上代理人ト爲ルノ權利ヲ有スルトキ若クハ之ヲ有シタルトキ

第九條　執達吏ハ民事訴訟ニ付テ其婦又ハ自己若クハ其婦ノ親族ノ爲ニノミ訴訟代理人及補佐人トシテ法廷ニ出ルコトヲ得但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖亦同シ

第十條　執達吏ハ其職務ヲ行フヘキ命令若クハ委任ヲ受クルトキハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條　執達吏ハ特別ノ命令若クハ委任ヲ受ケタル場合ノ外自己ノ責任ヲ以テ左ニ掲クル者ニ臨時其職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得
第一　執達吏ノ登用試驗ニ及第シタル者
第二　執達吏ノ職務修習者ニシテ三箇月以上其職務ヲ修習シタル者
第三　裁判所書記ノ登用試驗ニ及第シタル者
第四　區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ニ於テ臨時執達吏ノ職務ヲ行フニ適當ト認メタル者

第十二條　執達吏正當ノ理由アリテ其職務ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ之ヲ委任スルコトヲ得サルトキハ命令ヲ爲シタル裁判所及檢事局又ハ委任ヲ爲シタル本人ニ速ニ其旨ヲ通知スヘシ
委任ヲ爲シタル本人ニ通知スルコト能ハサルトキ又ハ急速ノ處分ヲ要スルトキハ其旨ヲ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ニ申立ツヘシ

第十三條　前條ノ場合其他執達吏差支アルトキハ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ第十一條ニ掲クル者ニ執達吏ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十四條　執達吏又ハ臨時職務執行ノ委任ヲ受ケタル者其職務ノ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ區裁判所ノ交付シタル證票ヲ携帶スヘシ

第十五條　執達吏ハ裁判所書記ヲ經タルト否トヲ問ハス委任ヲ受ケ職務ヲ行フニ付テハ定規ノ手數料ヲ受ケ及立替金ノ辨濟ヲ受ク
執達吏ハ定規ノ手數料ヲ增減シ又ハ手數料及立替金ノ外報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　執達吏第三條ニ掲クル職務ヲ行フニ付テハ立替金ノ外手數料ヲ受クルコトヲ得ス但罰金、科料、過料、追徴金及公訴ニ關スル訴訟費用ノ裁判ノ執行ニ付テハ前條ノ例ニ依ル

第十七條　執達吏第十一條ノ場合ニ於テ臨時職務執行ノ委任ヲ爲シタルトキハ其委任ヲ受ケタル者ニ報酬トシテ手數料十分ノ三以上ヲ支給スヘシ

第十七條ノ二　第五條ノ二第二項ノ場合ニ於テ臨時職務執行ノ委任ヲ受ケタル者ニハ執達吏ノ受クヘキ手數料ノ十分ノ七以上ヲ支給ス

第十八條　第十三條ノ場合ニ於テ臨時執達吏ノ職務ヲ行ヒタル者ハ其職務ニ付定メタル手數料ヲ受ケ及立替金ノ辨濟ヲ受ク

第十九條　執達吏一年間ニ收入セシ手數料六百圓ニ充タサルトキハ國庫ヨリ其不足額ヲ支給ス

第二十條　執達吏死亡シタルトキ又ハ停職免職若クハ勾留セラレタルトキハ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ左ノ處分ヲ爲スヘシ
第一　官印帳簿其他職務ニ關スル書類ヲ區裁判所ニ差出サシムルコト
第二　執達吏職務上保管シタル物品及書類ノ保全ニ必要ノ手續ヲ爲スコト

第二十一條　執達吏ハ官吏恩給法ニ照シ恩給ヲ受ク其恩給年額ハ第十九條ニ定メタル金額ヲ俸給額ト看做シテ算定ス

第二十二條　執達吏ハ此規則ニ依ルノ外總テ一般官吏ノ例ニ依ル

●執達吏手數料規則

明治二十三年七月二十五日 法律第五十二號
改正　明治四二年第三號、四四年第五四號　大正三年第三一號

朕執達吏手數料規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス（總理、司法大臣副署）

執達吏手數料規則

第一條　執達吏ハ此規則ニ從ヒ手數料ヲ受ク

第二條　書類送達ノ手數料ハ一通ニ付七錢トス

第三條　有體動産及未タ土地ヨリ離レサル果實竝爲替證券其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ノ差押、假差押ニ付テノ手數料ハ左ノ區別ニ從フ

執行スヘキ債權額	手數料
貳拾圓マテ	四拾錢
五拾圓マテ	六拾錢
百圓マテ	九拾錢
貳百五拾圓マテ	壹圓貳拾錢
五百圓マテ	壹圓五拾錢
千圓マテ	壹圓八拾錢
千圓ヲ超ユルトキハ	貳圓四拾錢トス

假差押ヲ爲シタル物ニ對スル差押ニ付テノ手數料ハ前項ノ手數料ノ半額トス
若シ執務三時間以上ニ渉ルトキハ一時間毎ニ本條ニ定メタル手數料ノ十分ノ三ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

第四條　執達吏差押、假差押ヲ爲スヘキ場所ニ臨ムト雖差押フヘキ物ナキトキ又ハ差押フヘキ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ前條ニ定メタル手數料ノ半額ヲ受ク

第五條　民事訴訟法第五百五十六條第二項、第五百八十六條第二項、第六百十五條ノ場合及既ニ差押、假差押ニ著手シタル執達吏ノ死亡若クハ其他ノ理由ニ依リ委任ノ消滅シタルトキ物ヲ換價スル爲其委任ヲ引受ケタル場合ニ於テハ執達吏ハ第三條ニ定メタル手數料ノ半額ヲ受ク

第六條　特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ債務者ヨリ取上ケ之ヲ債權者ニ引渡ス場合ニ於テハ其手數料ヲ壹圓トス若シ執務二時間以上ニ渉ルトキハ一時間毎ニ貳拾錢ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス
前項ノ場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムト雖引渡スヘキ物ナキトキハ前項ニ定メタル手數料ノ半額ヲ受ク

第七條　民事訴訟法第七百三十一條第一項ノ場合又ハ民事訴訟法第七百三十三條第一項ノ決定ニ基キ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ執務三時間以内ハ手數料ヲ壹圓トス若シ其執務三時間以上ニ渉ルトキハ一時間毎ニ貳拾錢ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス
前項ノ場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムト雖船舶アラサルトキハ前項ニ定メタル手數料ノ半額ヲ受ク

第七條ノ二　前二條ノ規定ハ假處分ノ執行ノ手數料ニ之ヲ準用ス

第八條　民事訴訟法第六百四十三條第三項ニ依リ不動産ノ取調ヲ爲ス場合ニ於テハ第三條ニ定メタル區別ニ從ヒ其手數料ヲ受ク

第九條　動産、不動産及船舶ノ競賣ニ付テノ手數料ハ左ノ區別ニ從フ

競賣金額	手數料
貳拾圓マテ	七拾錢
五拾圓マテ	壹圓貳拾錢
百圓マテ	壹圓八拾錢
貳百五拾圓マテ	貳圓四拾錢
五百圓マテ	參圓
千圓マテ	四圓五拾錢

以上千圓毎ニ壹圓ヲ加フ但千圓ニ滿タサルモ千圓ト看做シテ算定ス
任意競賣ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十條　執達吏執行行爲ヲ爲スヘキ場所ニ臨マサル以前ニ民事訴訟法第五百五十條ニ依リ又ハ委任ノ消滅ニ依リ強制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡ニ依リ強制執行ノ委任終了シタルトキハ各本條ニ定メタル手數料ノ十分ノ三ヲ受ク但第九條ノ場合ニ於テハ其手數料ヲ四拾錢トス

第十一條　執達吏執行行爲ヲ爲スヘキ場所ニ臨ミタル後民事訴訟法第五百五十條ニ依リ又ハ委任ノ消滅ニ依リ強制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡ニ依リ強制執行ノ委任終了シタルトキハ各本條ニ定メタル手數料ノ半額ヲ受ク但第九條ノ場合ニ於テハ其手數料ヲ六拾錢トス

第十二條　第三條乃至第十一條ノ手數料ヲ受クヘキ行爲ニハ強制執行ノ場合ニ於ケル左ノ行爲ヲ包含ス
第一　警察上ノ援助ヲ求メ又ハ證人鑑定人ノ立會ヲ爲サシムルコト
第二　執行行爲ニ關スル催告其他ノ通知ヲ爲シ又ハ書類ノ送達ヲ爲スコト
第三　記名證券ヲ買主ノ氏名ニ書換ヘ及必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲スコト
第四　支拂其他ノ給付、差押金錢及賣却金ヲ受取リ、交付シ若クハ供託シ又ハ受取證書ヲ交付シ又ハ差押物ヲ還付スルコト
第五　競賣ノ公告ヲ爲スコト

第十三條　執達吏ハ立替金トシテ左ノ費用ノ辨濟ヲ受ク
第一　書記料
第二　郵便料、電信料
第三　公告料
第四　證人、鑑定人ノ手當
第五　職工、役夫ノ手當
第六　有價證券ノ記名書換及流通ヲ止メタル證券ノ流通ヲ回復スル爲ノ費用
第七　人及物ノ送致費用
第八　物ノ保存竝監視ノ費用
第九　果實收獲ノ費用
第十　旅費宿泊料

第十四條　前條ノ書記料ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ受ク
第一　法律ニ依リ又ハ利害關係人ノ求ニ依リ證書及記錄中ニ存スル書類ノ謄本ヲ作リタルトキ但法律ニ依リ交付スヘキ送達證書ノ謄本ハ此限ニ在ラス
第二　供託ヲ爲スニ際シ執行裁判所ニ差出スヘキ屆書ヲ作リタルトキ
第三　差押命令ノ送達後第三債務者ノ爲ス陳述ヲ筆記シタルトキ
書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付參錢トス但十二行ニ滿タサルモ半枚ト看做シテ算定ス

第十五條　強制執行ニ關セサル告知及催告ヲ爲ストキハ其手數料拾五錢ヲ受ク

第十六條　拒絕證書ヲ作成スル場合ニ於テハ其手數料ヲ五拾錢トス若シ執務一時間以上ニ渉ルトキハ一時間毎ニ貳拾錢ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

第十六條ノ二　執行記錄其他ノ書類ノ閲覽ニ付テノ手數料ハ既濟ノ書類ニ限リ一回ニ付拾錢トス

第十六條ノ三　手數料ノ定ナキ事項ニ付テハ最類似スル事項ト同一ノ手數料ヲ受ク

第十七條　證人ニ支給スヘキ日當ハ貳拾錢以下鑑定人ニ支給スヘキ日當ハ五拾錢以下トシ執達吏土地ノ情況ニ從ヒ之ヲ支給ス若シ一里以上ノ地ヨリ呼出シタルトキハ第十八條ノ規定ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

第十八條　執達吏自己ノ役場又ハ其出張所ヨリ一里以上ノ地ニ至リ職務ヲ行フトキハ一里毎ニ拾五錢以下ノ旅費ヲ受ク但一里ニ滿タサルモ一里ト看做シテ算定ス
執達吏其職務ヲ執行スル爲宿泊ヲ要シタルトキハ一泊ニ付壹圓貳拾錢以下ノ宿泊料ヲ受ク
右旅費及宿泊料ノ額ハ控訴院長ノ認可ヲ經テ地方裁判所長之ヲ定ム

第十九條　執達吏ハ總テノ事務ヲ擔任スルニ當リ手數料及立替金ノ概算額ヲ委任者ヨリ豫納セシム若シ豫納セサルトキハ委任ニ應セサルコトヲ得但裁判所及檢事局ノ命令ニ依ルトキ又ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ爲ニ事務ヲ擔任スルトキハ此限ニ在ラス

第二十條　執達吏ハ委任ノ終了シタル後手數料及立替金ノ辨濟ヲ受クヘキモノトス但民事訴訟法第五百五十四條ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラス

第二十條ノ二　執達吏規則第十六條但書ノ場合ニ於ケル執行ノ費用ハ被徴收者ノ負擔トス

第三條乃至第五條及第八條乃至第十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條　前條ノ場合ヲ除クノ外執達吏裁判所及檢事局ノ命令ニ依リ其職務ヲ行フ爲ニ要シタル立替金ハ三箇月毎ニ確定シテ之ヲ支給ス

右立替金ハ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

第二十二條　訴訟上ノ救助ヲ付與シタル場合ニ於テハ執達吏ノ立替金ハ國庫ヨリ支辨ス但債務者ヨリ辨濟シ能ハサル場合ニ限ル

第二十條ノ二ノ場合ニ於テ被徵收者立替金ヲ辨濟スルコト能ハサルトキハ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

第二十三條　執達吏ハ其職務執行ニ付作リタル書類ノ正本又ハ謄本ニ手數料及立替金ノ額ヲ附記スヘシ又執務時間ニ應シ其辨濟ヲ受クヘキトキハ調書ニ其執務時間ヲ附記スヘシ若シ之ヲ附記セサルトキハ最短ノ時間ニ付テ定メタル金額ヲ以テ算定ス

●執達吏ノ手數料及立替金增額ニ關スル法律

大正八年四月五日法律第四十一號

貴族院議會ノ協賛ヲ經タル執達吏ノ手數料及立替金增額ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

執達吏手數料規則ニ依ル手數料及立替金ニ付テハ當分ノ內勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ百分ノ五十以內ヲ增額スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正八年勅令第百九十二號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

●大正八年法律第四十一號ニ依ル執達吏ノ手數料及立替金增額ニ關スル件

大正八年五月十二日勅令第百九十三號

貴族院大正八年法律第四十一號ニ依ル執達吏ノ手數料及立替金增額ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

第一條　大正八年法律第四十一號ニ依ル執達吏ノ手數料及立替金ノ增加額ハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外百分ノ五十トス但シ特別ノ事情アル地域ニ付テハ司法大臣ハ百分ノ五十以內ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二條　執達吏手數料規則第二條ノ手數料ハ三錢、第十四條ノ書記料ハ一錢、第十五條及第十六條ノ二ノ手數料ハ五錢ヲ增加ス

第三條　執達吏手數料規則第六條乃至第七條及第十六條ノ二及第十六條ノ手數料ハ百分ノ五十ヲ增加ス

第四條　執達吏手數料規則第十七條及第十八條ノ日當、旅費及宿泊料ハ百分ノ五十ヲ增加ス

附　則

本令ハ大正八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●執達吏ニ交付スヘキ證票調製方

大正八年四月一日司法省令第六號

大正八年勅令第百九十三號第一條但書ノ規定ニ依ル執達吏ノ手數料ノ增加額ハ左ノ地域ニ付テハ之ヲ百分ノ三十トス

東京地方裁判所管轄區域

橫濱地方裁判所管轄區域

大阪地方裁判所管轄區域

本令ハ大正八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●執達吏ニ交付スヘキ證票調製方

大正三年四月十四日司法省訓令第一號

裁判所執達吏ニ交付スヘキ證票調製方左ノ通相定メ大正三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　執達吏規則第十四條ニ定メタル證票ハ左記雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　證票ハ竪三寸幅二寸トシ强靭ナル厚紙ヲ用ウヘシ

第三條　證票ニハ其表面ニ區裁判所ノ印ヲ押捺スヘシ

（表面）

第　號

執達吏證票

某區裁判所所屬

執達吏　何　某

（裏面）

某區裁判所所屬

執達吏代理ノ證票

（表面）

第　號

執達吏代理證票

某區裁判所所屬

執達吏何某代理

何　某

（裏面）

●執達吏登用規則

明治二十三年十二月法律第六號裁判所構成法第九十五條及九十九條ニ依リ執達吏登用規則左ノ通相定ム

執達吏登用規則

第一條　執達吏ニ任セラルヽニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　年齡滿二十五歲以上ナルコト

第二　陸海軍ノ現役ヲ終ヘ又ハ之ヲ免セラレタルコト

第三　身體健全ナルコト

第四　家計ノ整理シタルコト

第五　品行方正ナルコト

第六　試驗ニ及第シタルコト

第二條　左ニ揭ケル者ハ執達吏ニ任セラルヽコトヲ得ス

第一　重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニ非ス

第二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免カレサル者

第四　懲戒ノ處分ニ由リ免職セラレタル者

第三條　執達吏ノ試驗ヲ受ケントスル者ハ少クトモ六箇月間區裁判所ニ於テ主トシテ執達吏ノ職務ヲ修習シ傍ラ書記ノ職務ヲ修習スルコトヲ要ス

職務ノ修習ヲ爲ス者ハ職務上ノ秘密ヲ漏洩スヘカラス

第四條　職務修習ヲ願フニハ願書ニ兵役ニ關ル證書及履歷書ヲ添付シ之ヲ地方裁判所長ニ差出シ其許可ヲ受クヘシ

第五條　職務修習ノ許可ヲ爲シタルトキハ地方裁判所長ハ修習者ノ屬スヘキ區裁判所ヲ指定スヘシ

區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ授業ヲ適當スヘキ執達吏及裁判所書記ヲ選定シ

職務ノ訓導ヲ爲サシムヘシ

第六條　地方裁判所長ハ修習者ノ行狀執達吏トナルニ不適當ナリト認ムルトキハ其修習ヲ止ムルコトヲ得

第七條　職務修習者試驗ヲ受ケントスルニハ第一條第一乃至第五ノ諸件ヲ具備シタルコト及第二條ノ諸件ニ關レサルコトヲ證明シ竝修習ノ日數ヲ記入シタル願書ヲ區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ヲ經由シテ地方裁判所長ニ差出スヘシ

區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ前項ノ願書ニ意見ヲ付スヘシ

地方裁判所長ハ書類ヲ調査シ試驗ノ許否ヲ定ムヘシ

第八條　試驗ハ地方裁判所ニ於テ每年一回之ヲ行フ

第九條　試驗委員長及試驗委員ハ地方裁判所及區裁判所ノ判事檢事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ命ス

第十條　地方裁判所長ハ試驗ヲ受クヘキ修習者ノ名簿ヲ試驗委員長ニ送付スヘシ

前項ノ送付アリタルトキハ試驗委員長ハ試驗期日ヲ定メ之ヲ修習者ニ告知スヘシ

第十一條　試驗ハ筆記口述ノ二樣トス

口述試驗ハ筆記試驗ニ及第シタル者ニ之ヲ行フ

第十二條　試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

第一　民事訴訟法及【治罪法】ノ申書類送達及執行ニ關ル規程

第二　執達吏ニ關ル諸規則

第三　算術（加減乘除分數比例）

第四　讀書筆寫

第十三條　筆記試驗問題ノ答案ハ裁判所ノ官吏監督シテ之ヲ作ラシム

試驗委員長ハ受驗者ノ申立アルトキハ區裁判所ニ於テ筆記試驗問題ノ答案ヲ作ラシムルコトヲ得

第十四條　受驗者ノ及第落第及及第者ノ優劣ハ筆記試驗口述試驗ノ成績ニ對スル委員過半數ノ意見ニ從テ之ヲ決ス

及第落第ニ付テノ意見數相半スルトキハ落第ト看做スヘシ

第十五條　試驗ニ及第シタル者ニハ試驗委員長及試驗委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス

第十六條　試驗ニ落第シタル者ハ更ニ三箇月以上修習ヲ爲スニ非サレハ再ヒ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十七條　不正ノ方法ヲ以テ及第ヲ企テタル者ハ再ヒ試驗ヲ受クルコトヲ得ス其及第シタル者ハ及第ノ效ナキモノトス

第十八條　試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第十九條　試驗委員長ハ及第者ノ氏名及其試驗成績ヲ地方裁判所長ニ報告スヘシ

第二十條　左ニ揭ケル者ハ試驗ヲ要セス執達吏ニ任セラルヽコトヲ得

第一　官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校、司法省舊法學校又ハ帝國大學ノ監督ヲ受ケタル舊私立法學校及文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者

第二　裁判所書記ノ登用試驗ニ及第シタル者

第三　判任官以上ノ職ヲ現ニ奉シ又ハ曾テ奉シタル者

第四　陸軍下士ニシテ文官奉職ヲ請願スルコトヲ得ル者

第二十一條　第三條乃至第六條ノ規程ハ前條ニ揭ケタル者ニモ亦之ヲ適用ス

前條第四ニ該ル者ハ職務修習ノ願書ニ修習ヲ爲サントスル區裁判所ヲ記載シ陸軍大臣ヲ經由シテ司法大臣ニ差出スヘシ司法大臣ハ願書ヲ管轄地方裁判所長ニ送付スヘシ

區裁判所書記ハ職務修習ヲ要セス執達吏ニ任セラルヽコトヲ得

第二十二條　削除

第二十三條　執達吏ニ任セラレタル者ハ任補ノ日ヨリ三十日內ニ保證金ヲ管轄地方裁判所ニ納ムヘシ若シ其期間內ニ保證金ヲ差出サヽルトキハ職務ヲ免ス

保證金ハ五百圓以下ニ於テ土地ノ情況ニ從ヒ地方裁判所長之ヲ定ム

保證金ハ現金又ハ國債證券ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第二十四條　執達吏保證金ヲ納メタルトキハ裁判所ハ官印ヲ交付ス

執達吏ハ官印ヲ交付ヲ得タル後ニ非サレハ職務ヲ行フコトヲ得ス

附　則

第二十五條　本則實施ノ際ハ職務修習ヲ要セス試驗及任補ヲ行フコトヲ得

●執達吏手數料規則ニ依ル手數料及立替金增額ニ關スル件

大正八年五月三十一日勅令第百九十四號

執達吏手數料規則ニ依ル手數料及立替金增額ニ關スル件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

執達吏手數料規則ニ依ル手數料及立替金ニ付テハ當分ノ內朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ百分ノ五十以內ヲ增額スルコトヲ得

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

（大正八年朝鮮總督府令第九十七號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

●執達吏ノ職務ヲ行フ者ノ手數料及立替金增額ニ關スル件

大正八年五月三十一日勅令第百九十八號

大正八年制令第十四號ニ依ル執達吏ノ職務ヲ行フ者ノ手數料及立替金ノ增加額ハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外百分ノ五十トス

第二條　執達吏手數料規則第二條ノ手數料ハ三錢、第十四條ノ書記料ハ一錢、第十五條及第十六條ノ二ノ手數料ハ五錢ヲ增加ス

附　則

本令ハ大正八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府法院執達規則

明治三十一年六月二十六日律令第七號

改正　明治三六年第一〇號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣總督府法院執達規則勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

臺灣總督府法院執達規則

第一條　訴訟ニ關スル書類ノ送達及裁判ノ執行又ハ强制執行ニ關セサル告知及催告ハ法院書記ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

但法院長ハ臨時ノ必要ニ依リ他ノ職員又ハ適當ト思量スル者ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ職務ヲ執行スル者ハ法院長ヨリ交付シタル證票ヲ携帶スルモノトス

第二條　書類送達ノ手數料ハ一通ニ付金五錢ヲ納ムヘシ

第三條　差押又ハ假差押ヲ請求スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

執行スヘキ債權額　手數料

二十圓マテ　三十錢

五十圓マテ　五十錢

百圓マテ　七十五錢

二百五十圓マテ　一圓

五百圓マテ　一圓二十五錢

千圓マテ　一圓五十錢

千圓ヲ超ユルトキハ二圓トス

若執務ヲ三時間以上ニ渉ルトキハ一時間每ニ

本條ニ定メタル手數料十分ノ三ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

第四條　特定ノ動産若ハ代替物ノ一定ノ數量ノ引渡又ハ不動産ノ引渡若ハ明渡ヲ請求スル者ハ金五十錢ノ手數料ヲ納ムヘシ若執務二時間以上ニ渉ルトキハ一時間毎ニ金十五錢ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

第五條　競賣ヲ請求スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ但競賣ニ依リ得タル金額執行スヘキ債權額ニ超過スルトキハ其債權額ヲ以テ競賣金額ト看做ス

競賣金額	手數料
二十圓マテ	六十錢
五十圓マテ	一圓
百圓マテ	一圓五十錢
二百五十圓マテ	二圓
五百圓マテ	二圓五十錢
千圓マテ	四圓

以上千圓毎ニ一圓ヲ加フ

第五條ノ二　强制執行ニ關セサル告知及催告ヲ請求スル者ハ其ノ手數料金十錢ヲ納ムヘシ

第六條　地方法院所在地ヨリ一里以上ノ地ニ至リ前數條ノ事務ヲ行フトキハ手數料ノ外一里ニ付金十錢ノ旅費ヲ納ムヘシ但一里ニ滿タサルモ一里ト看做シテ算定ス

通譯ノ同行ヲ要シタルトキハ其ノ里數ニ應シ前項ノ例ニ依リ旅費ヲ納ムヘシ

第七條　差押、假差押、競賣、調書ノ謄本又ハ其他ノ書類ノ謄本ノ下付ヲ請求スル者ハ左ノ割合ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

半枚十二行二十字詰ニ付金三錢トス但十二行ニ滿タサルモノモ亦同シ

第八條　此規則ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ヲ納ムヘシ

第九條　法院ハ第二條第五條第六條第八條ノ費用ノ概算額ヲ當事者ヨリ豫納セシムルコトヲ得

●臺灣總督府法院執達規則施行細則

明治三十一年六月二十六日
臺灣總督府令第三十七號
改正　明治三七年第七七號、三八年第一四號、第二一號
大正六年第七二號、九年第九四號

臺灣總督府法院執達規則施行細則左ノ通相定ム

臺灣總督府法院執達規則施行細則

第一條　此細則ニ於テ執達者ト稱スルハ臺灣總督府法院執達規則第一條ニ依リ訴訟ニ關スル書類ノ送達及裁判ノ執行ヲ爲ス者又事件主任官ト稱スルハ判官又ハ檢察官ニシテ職務上執達者ニ對シ事務ヲ命シタル者ヲ云フ

第二條　執達者ハ其職務ニ付事件主任官ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第三條　執達者ハ職務執行ノ際其携帶ノ證票ヲ示スヘシ

證票ハ第一號雛形ニ依ル

第四條　執達者ハ事件簿ヲ備ヘ其ノ取扱ニ係ル一切ノ事務ヲ記載スヘシ

事件簿ノ樣式ハ高等法院長之ヲ定ム

第五條　送達ハ送達スヘキ書類ノ正本又ハ認證シタル謄本又ハ普通ノ謄本ヲ交付シ其送達施行濟ノ旨ヲ送達證書ニ記載スヘシ

第六條　執達者送達ヲ受クヘキ人ニ出會ハス且ツ送達ヲ爲スヘキ場所ニ於テモ之ヲ受クヘキ者アラサルトキハ其交付スヘキ書類ヲ其地ノ市尹、街庄長又ハ區長ニ預ケ置クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ近鄰ニ住居スル者二人ニ書類ヲ預ケ置キタル場所ヲ告ケ且其旨ヲ本人ニ速カニ通知スヘキコトヲ囑託スヘシ又本人住居ノ門戸ニ書類ヲ預ケ置キタル場所竝書類ヲ速カニ受取ルヘキ旨ヲ明記シタル告知書ヲ貼付スヘシ

第七條　送達ヲ受クヘキ者ハ正當手續ヲ經テ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ受取ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス若シ此場合ニ於テ送達ノ受取ヲ拒ムトキハ執達者ハ交付スヘキ書類ヲ送達ノ場所ニ差置クヘシ

第八條　執達者ハ債務者ニ對シ任意債務ヲ履行シテ完結スヘキ旨ヲ催告シ尙之ニ從ハサルトキニ於テ强制執行ニ著手スヘシ

第九條　執達者ハ總テノ執行行爲ニ付調書ヲ作ルヘキモノトス此調書ニハ總テノ命令ヲ記載シ又債權者ヲ滿足セシムルコト能ハサルトキハ總テ適法ナル方法ニ依リ債權者ヲ滿足セシムヘキコトヲ試ミタルモ其目的ヲ達セサリシコトヲ調書ニ於テ明確ニスルコトヲ要ス

調書ハ執行行爲ト同時ニ之ヲ作リ且成ルヘク其行爲ヲ爲シタル地ニ於テ之ヲ作ルヘシ

第十條　各執行行爲ノ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　調書ヲ作リタル場所、年月日
第二　執行行爲ノ目的物及其重要ナル事情ノ略記
第三　執行ニ與カリタル各人ノ表示
第四　右各人ノ署名捺印
第五　調書ヲ其各人ニ讀聞セ又ハ閱覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコトノ開示
第六　執達者ノ署名捺印

第四號及第五號ノ要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載スヘシ

第十一條　强制執行ニ依リ差押フヘキ財産ノ價額强制執行ノ費用ヲ償ヒテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ差押ヲ爲スヘカラス

第十二條　執達者ハ過當ノ差押ヲ避クル爲差押物件ヲ調書ニ記載スルニ當リ其各物件ニ付概算ノ價額ヲ記入シ且差押物件ノ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟シ及强制執行ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ額ヲ標準トシテ差押ノ範圍ヲ定ムルコトヲ要ス

債權者ノ利益ヲ損傷スル恐ナキトキハ債務者ノ陳述ヲ斟酌シ債務者ニ於テ最放チ易キ財産中殊ニ金錢、有價證券及金銀物等ノ如キ容易ニ運搬シ得ヘキ物件ニ付差押ヲ爲スヘシ

第十三條　第三者ノ占有中ニ在ル債務者ニ屬スル物件ノ差押ヲ爲スニハ執達者ハ先ツ第三者ニ對シテ其物件ヲ直ニ引渡シ得ルヤ否ヲ訊問スヘシ

第三者之ヲ承諾スルトキハ債務者ノ占有スル物件ヲ差押フルト同一ノ方法ヲ以テ差押ヲ爲スヘシ

第三者物件ノ提出ヲ拒ミ又ハ執達者カ之ヲ占有スルニ付異議ヲ述フルトキハ執達者ハ其事實ノ調書ヲ作ルニ止マリ爾後ノ處分ハ債權者本人ニ任スヘシ

第十四條　債權者ノ占有中ニ在リテ債務者ニ屬スル物件ノ差押ヲ爲スニハ執達者ハ通常ノ手續ニ依リ直ニ差押ヲ爲スヘシ

債權者又ハ第三者ノ占有中ニ在ル物件ヲ差押ヘタルトキハ執達者ハ差押ヲ爲シタル旨ヲ債務者ニ通知スヘシ

第十五條　執達者執行行爲ニ依リ金錢、有價證券、書類及物品等ヲ領收シタルトキ其領收證ヲ求ムル者ニ對シテハ之ヲ交付スヘシ

第十六條　執達者ハ差押ヘタル物件ニシテ多額ノ費用ヲ要スルニアラサレハ運搬シ難キカ又ハ差押物件ノ性質若ハ他ノ理由ニ依リ保存ヲ委託スルヲ便益ナリト認ムルトキハ其差押ヲ爲シタル土地ニ住居シテ信用アリ且辨償能力アル者ニ託シテ保存ヲ爲サシムヘシ

保存ヲ委託セラレタル者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

委託ヲ受ケタル者ハ其求ニ依リ委託物件ノ目錄ヲ領收ス其保存ニ關スル報酬ハ成ルヘク前以テ之ヲ定ムヘシ

執達者ハ保存ノ爲委託シタル物件竝其目錄

ヲ確取シタル旨ノ證書ヲ保存人ヨリ受取リ又保存人ノ求ニ依リ該證書ノ謄本ヲ交付スヘシ

必要ナル場合ニ於テハ保存委託ニ關スル調書ヲ作リ之ヲ差押調書ニ添付スルモノトス

此調書ニハ左ノ諸件ヲ揭ケ且保存人ニ署名捺印セシムヘシ

第一　保存人ト爲シタル約款
第二　物件ノ交付ニ關スル保存人ノ認諾
第三　保存ノ爲交付シタル物件

第十七條　執達者ハ債權者ノ承諾アルカ又ハ差押物件運搬ヲ爲スニ付重大ナル困難アルニ依リ之ヲ債務者ノ保管ニ任ストキハ左ノ規定ニ從フヘシ

第一　差押物件ノ性質其他ノ事情ニ從ヒ各差押物件毎又ハ其物件ノ存在スル筐匣、室、倉庫等ニ封印又ハ其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ但筐匣、室、倉庫ノミニ封印スル場合ニ於テハ其封印又ハ筐匣等ヲ損傷スルニアラサレハ其差押物件ヲ取出シ得サルコトニ注意スヘシ

第二　執達者ハ差押物件ノ占有既ニ執達者ニ歸シタルコト及債務者其物件ヲ處分シ若ハ封印ヲ破壞スルトキハ法律上ノ罰ヲ受クヘキコトヲ債務者ニ諭示スヘシ

第十八條　不動産ノ差押又ハ差押物件ノ性質ニ依リ封印若ハ標目ヲ附シ得サル場合ニ於テハ執達者ノ署名シタル告示ヲ差押物件ニ接近スル各人ノ見易キ場所ニ貼付シ又ハ他ノ適當ナル方法ヲ以テ各人ニ之ヲ知ラシムヘキモノトス此場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ其管理人ヲ命スヘシ

第十九條　執達者差押ニ付作ルヘキ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ揭クヘシ

第一　各差押物件竝其概算價額又必要ナル場合ニ於テハ員數尺度重量等
第二　執達者差押物件ヲ占有シタルコト
第三　保存ヲ委託シ又ハ管理人ヲ命シタル際爲シタル處分
第四　差押物件ヲ債務者ノ保管ニ任セタルトキハ其理由
第五　競賣期日ノ日時及場所若シ此期日ヲ直ニ定ムルコトヲ得サルトキハ其理由

第二十條　執行行爲ニ依リ領收シタル現金又ハ有價證券ニシテ保管ヲ要スルトキハ執達者ハ納付通知書ト共ニ之ヲ保管物取扱主任ニ送付スヘシ

執行行爲ニ依リ領收シタル差押物件ヲ保管スルトキハ執達者ハ保管金品受渡簿ニ登記シ事件主任官ノ照査認印ヲ受ケ物件ト共ニ物品會計官吏ニ送付スヘシ

保管金品受渡簿ノ樣式ハ高等法院長之ヲ定ム

第二十一條　削除

第二十二條　歲入歲出外現金出納官吏、保管物取扱主任若ハ物品會計官吏ニ送付シタル第二十條ノ現金有價證券又ハ物件ハ其ノ送付ヲ受ケタル官吏ノ保管ニ屬スルモノトス

第二十三條　執達者歲入歲出外現金出納官吏保管物取扱主任又ハ物品會計官吏ノ保管ニ係ル差押物件處分ノ必要アルトキハ保管金品受渡簿ニ其事由ヲ詳記シ事件主任官ノ認印ヲ受ケ其引渡ヲ請求スヘシ

第二十四條　執達者差押物件ヲ賣却スルトキハ競賣ノ方法ニ依ルヘシ但特別ノ場合ニ於テ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價スルトキハ第二十九條ノ規定ニ從フヘシ

競賣ハ差押ヲ爲シタル地ニ於テ之ヲ爲スヘシ但差押債權者及債務者他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキ又ハ事件主任官ヨリ競賣ノ場所ヲ指定シタルトキハ其場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二十五條　競賣期日ハ執達者差押ノ際直ニ之ヲ定ムルヲ例トス若シ債權者及債務者後日ニ期日ヲ定ムルコトヲ承諾シタル場合又ハ直ニ期日ヲ定ムル能ハサル特別ノ場合若ハ直ニ定ムルノ便益ナラサル場合又ハ事件主任官ノ意見ヲ以テ他ノ換價方法ヲ命シ若ハ他ノ場所ニ於テ競賣ヲ命セラルヘキ場合ニ於テハ一時期日ノ指定ヲ猶豫スヘシ

差押ノ際直ニ期日ヲ定メサル場合ニ於テハ之ヲ定メタルトキ其期日ヲ債權者及債務者ニ通知スヘシ

第二十六條　競賣ハ前以テ公告セサルヘカラス公告ハ其地ニ相應ノ方法ヲ以テ爲スヘシ

公告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ揭クヘシ

第一　當事者ノ表示
第二　競賣スヘキ物件
第三　競賣ノ日時及場所

公告ヲ爲シタル方法日時ハ競賣調書ニ附記シ又ハ其證據トナルヘキモノヲ添付シ以テ之ヲ明確ニスヘシ

第二十七條　競賣ニ付シタル物件ハ競賣調書ニ記入スヘシ

賣却物件ハ一々之ヲ呼上ケ實物ヲ示スヘシ

高價物ハ其評價金銀物ハ其實價有價證券ハ賣却日ノ相場ヲ告ケテ競賣價額ハ其評價實價若ハ相場ヨリ低價ノ競賣ヲ許サヽル旨ヲ諭示スヘシ

競賣ニ付スル物件ノ不相當ニ過分ナルコトヲ避クル爲執達者ハ時々其賣得金ヲ以テ計算ヲ立テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及强制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直ニ競賣ヲ止ムヘシ

競賣ニ付シタル金銀物ニシテ其金銀物ノ實價マテニ競買ヲ爲ス者ナキカ爲競落シ得サルトキハ其競買價額中ノ最高價額ヲ競賣調書ニ附記スヘシ

第二十八條　競賣ノ際作ルヘキ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ揭クヘシ

第一　競賣ノ賣得金ヲ以テ辨濟スヘキ債權及强制執行ノ費用ノ合計額
第二　競賣物件及其各物件ノ評價實價又ハ相場
第三　競落人及其最高競買價額竝代金支拂濟ノコト

調書ニ署名捺印ヲ要スル者ハ競買人中唯最高價申出人ニ限ル若シ競賣終結前ニ退散シタルトキハ其署名捺印セシムルコト能ハサル理由ヲ調書ニ附記スヘシ

第二十九條　差押物件ヲ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價スル場合ハ左ノ如シ

第一　事件主任官ヨリ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價ヲ爲スヘキコトヲ命シタルトキ
第二　有價證券ニシテ取引所相場又ハ市相場アルモノタルトキ
第三　金銀物ニシテ既ニ競賣ニ付シタルモ其最高競買價額カ其實價ニ至ラサルトキ

前項ノ場合ニ於テハ直接ニ債權者ニモ賣却スルコトヲ得

競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價ヲ爲ストキハ執達者ハ成ルヘク高價ニ賣却スヘキコトニ注意シ金銀物ヲ其實價ヨリ低價ニ賣却シ又ハ有價證券ヲ其賣却日ノ相場ヨリ低價ニ賣却スヘカラス

第三十條　競賣方法ニ依ラスシテ換價スル場合ニ於テ作ルヘキ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ揭クヘシ

第一　競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價シタル理由
第二　賣却物件及其各物件ノ評價實價又ハ相場若ハ事件主任官ノ定メタル價額
第三　賣却價額竝代金支拂濟ノコト

第三十一條　執達者ハ强制執行ニ依リ得タル金錢ニ關シ計算ヲ爲シ其結果ヲ書面ニ作リ事件主任官ノ認印ヲ受ケ之ヲ明確ニシ之ニ依リ仕拂若ハ還付等ノ手續ヲ爲スヘシ

前項處分カ執行行爲ノ場所ニ於テ直ニ之ヲ爲スモノナルトキニ於テ事件主任官ノ認印ヲ受クルコトヲ得サル場合ハ實施ノ後之カ追認ヲ受クヘシ

仕拂若ハ還付ヲ爲シタル金錢ハ總テ受領證ヲ徵シ之ヲ明確ニシ計算書ト共ニ事件記錄ニ添付スヘシ

第三十二條　執達者ハ强制執行完結後ニ至リ賣却セサリシ差押物件又ハ强制執行中法院ノ裁判若ハ債權者ノ免除ニ依リ差押ヲ解除シタル物件ヲ卽時ニ債務者又ハ領收權利者ニ交付スヘシ

右交付シタル物件ニ付テハ執達者ハ債務者又ハ領收權利者ヲシテ受取證ヲ出サシメ之

チ事件記錄ニ添付スヘシ

第三十三條　特定動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡サシムヘキ强制執行ハ執達者其執行力アル債務名義中ニ包含シタル物件ヲ債務者ニ就キ索出シテ之ヲ取上ケ債權者ニ引渡スヲ以テ之ヲ爲スモノトス

前項ノ引渡ハ之ヲ取上ケタル後速カニ行フコトヲ要ス若シ直ニ之ヲ行フコト能ハサルトキハ債權者ノ申出アルマテ之ヲ保存スヘシ其保存ノ手續ハ差押物件ニ關スル規定ニ從フヘシ

右執行ニ付作ルヘキ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲クヘシ

第一　債務者ヨリ取上ケタル特定動産又ハ代替物ノ筒數、度量又有價證券ニ係ルトキハ其券面額、番號、日附

第二　物件ヲ債權者又ハ其代理人ニ引渡シ若ハ輸送シタル旨又未タ之ヲ爲サ、ルトキハ其理由及其保存ノ方法

取上ケタル物件ヲ債權者ニ引渡シタルトキハ執達者ハ其受取證ヲ取リ置クヘシ

第三十四條　不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡サシムヘキ强制執行ハ執達者債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシメテ之ヲ爲スモノトス

此執行行爲ニ付テハ執達者ハ債權者又ハ其代理人ヲシテ立會セシメ且無益ノ日時ヲ費サ、ルコトニ注意スヘシ

執達者ハ住家明渡ノ際債務者ノ動産類卽チ强制執行ノ目的物ニアラサル動産ハ之ヲ取除キテ債務者ニ引渡スヘシ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若ハ雇人ニ之ヲ引渡スヘシ

債務者及前項ニ揭ケタル者不在ナルトキハ執達者ハ該物件ヲ債務者ノ費用ニテ第十六條ノ規定ニ從ヒ保存ニ附スヘシ

保存シタル物件ヲ債務者ニ返還シタルトキハ執達者ハ其受取證ヲ取リ置クヘシ

債務者右ノ受取ヲ怠ルトキハ執達者ハ其事情ヲ具シテ事件主任官ノ許可ヲ得差押物件ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ扣除シタル上其代金ヲ保管スヘシ

右執行ニ付作ルヘキ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲クヘシ

第一　債權者又ハ其代理人ノ出頭シタルコト

第二　引渡シ又ハ明渡シタル物及其場所ニ現在スル附屬物、器具

第三　債務者ハ其物ノ占有ヲ解キ債權者又ハ其代理人之ヲ取得シタルコト

第四　債務者ノ動産ヲ保存シタルトキハ其理由、種類並其處分方法

第三十五條　假差押及假處分ニ關スル執行手續ハ通常ノ强制執行規定ヲ準用ス

第三十六條　罰金、科料、過料、刑事訴訟費用(私訴ノ費用ヲ除ク)及沒官金品、追徵金ノ類ニシテ滯納者アル場合ニ於テ執達者ニ命シテ强制執行ニ依リ徵收セシムルトキハ左ノ手續ニ依ルヘシ

第一　各事件主任官ハ執達者ヘ交付スヘキ徵收命令書ヲ歳入調定官ヘ送付スヘシ

第二　歳入調定官前項命令書ノ送付ヲ受ケタルトキハ歳入官吏ヲ經之ヲ執達者ニ交付スヘシ

第三　執達者徵收命令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ納人所在地ニ就テ納金(樣式二納人ニ交付シタル納入告知書ト共ニ)ヲ收納シ適宜ノ領收證書ヲ交付シ甲號ノ納入告知書ニ係ルモノハ其告知書ニ納金ヲ添ヘ金庫ヘ納入シ金庫ノ領收證書ヲ收入官吏ヘ差出シテ納入濟ヲ證明シ乙號納入告知書ニ係ルモノハ其告知書ニ納金ヲ添ヘ收入官吏ヘ引渡シ領收證書ハ之ヲ保存スヘシ

第四　執達者ハ犯人無資力ニシテ之ヲ完納スルコト能ハサルトキ又ハ犯人死亡シタルトキハ其旨ヲ事件主任官ニ屆出ツヘシ

第三十七條　金錢其他物件ノ引渡若ハ明渡ハ之ヲ受クヘキ本人ニ爲スヘシ其代理人ニ爲スニハ書面委任ニ之ヲ領收シ得ルコトノ明確ナルトキニ限ル

第三十八條　執達者取扱ヒタル事務完結シタルトキハ其結果ノ重要ナル事項ヲ遺漏ナク事件主任官ニ申報スヘシ又必要ナル場合ニ於テハ完結前事件ノ經過ヲ申報スヘシ但事件記錄ニ添付スル書面アルトキハ之ニ依リ明確ナル事項ハ記載スルニ及ハス

第一號　樣形(用紙鳥ノ子)縱三寸五分橫二寸

證票

表面

臺灣總督府法院執達者之證

(姓　名)

裏面

法院印

第三款　辯護士

●辯護士法

明治二十六年三月四日
法律第七號

改正　明治三三年第一六號
大正三年第四〇號、一二年第五一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル辯護士法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム(總理、司法大臣副署)

辯護士法

第一章　辯護士ノ資格及職務

第一條　辯護士ハ當事者ノ委任ヲ受ケ又ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ通常裁判所ニ於テ法律ニ定メタル職務ヲ行フモノトス但シ特別法ニ因リ特別裁判所ニ於テ其ノ職務ヲ行フコトヲ妨ケス

第二條　辯護士タラムト欲スル者ハ左ノ條件ヲ具フルコトヲ要ス

第一　日本臣民ニシテ民法上ノ能力ヲ有スル成年以上ノ男子タルコト

第二　裁判所構成法第五十八條ノ試驗ニ合格シタルコト

第三條　削除

第四條　左ニ揭クル者ハ試驗ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得

第一　判事檢事タル資格ヲ有スル者

第二　法律學ヲ修メタル法學博士

第五條　左ニ揭クル者ハ辯護士タルコトヲ得ス

第一　重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二　不敬罪、僞造罪、僞證罪、賄賂罪、誣告罪、竊盜罪、詐欺取財罪、費消罪、贓物ニ關スル罪、遺失物埋藏物ニ關スル罪、家資分散ニ關スル罪及刑法第百七十五條同第二百六十條同第二百八十二條同第二百八十六條同第二百八十七條同第三百六十條ニ記載シタル定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三　公權停止中ノ者

第四　破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條　辯護士ハ報酬アル公務ヲ兼ヌルコトヲ得ス但シ帝國議會議員、府縣會常置委員ト爲リ又ハ官廳ヨリ特ニ命セラレタル職務ヲ行フハ此ノ限ニ在ラス

辯護士ハ商業ヲ營ムコトヲ得ス但シ辯護士會ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章　辯護士名簿

第七條　辯護士ハ辯護士名簿ニ登錄セラル、コトヲ要ス

第八條　各地方裁判所ニ辯護士名簿ヲ備フ

辯護士ハ其ノ氏名ヲ登錄シタル地方裁判所ノ所屬トス

刑事訴訟法第二百六十四條及第二百七十九條ノ所屬辯護士ハ受訴裁判所所在地ノ辯護士ヲ以テ之ニ充ツ

第九條　辯護士名簿ニ登錄ヲ請フ者ハ其ノ所屬地方裁判所ノ檢事局ヲ經由シテ司法大臣ニ請求書ヲ差出ス可シ

登錄請求書ニハ第二條乃至第六條ノ事項ニ關スル證明書ヲ添フ可シ

第十條　【登錄ヲ請フ者ハ登錄手數料トシテ金二十圓ヲ納ム可シ】

【他ノ地方裁判所ニ登錄換ヲ爲ストキハ手數料トシテ金十圓ヲ納ム可シ】

第十一條　登錄ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第十二條　削除

第三章　辯護士ノ權利及義務

第十三條　辯護士ハ正當ノ理由ヲ證明スルニ非サレハ裁判所ノ命シタル職務ヲ行フヲ辭スルコトヲ得ス

第十四條　辯護士ハ左ニ揭クル訴訟事件ニ付キ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第一　相手方ノ協議ヲ受ケテ之ヲ賛助シ又ハ委任ヲ受ケタル事件

第二　判事檢事奉職中取扱ヒタル事件

第三　仲裁手續ニ依リ仲裁人ト爲リテ取扱ヒタル事件

第十五條　辯護士ハ係爭權利ヲ買受クルコトヲ得ス

第十六條　辯護士ハ訴訟事件ノ委任ヲ承諾セサルトキハ速ニ其ノ旨ヲ委任者ニ通告ス可シ若通告ヲ怠リタルトキハ之カ爲メ生シタル損害ノ責ニ任ス

第十七條　辯護士ハ所屬地方裁判所又ハ其ノ管內區裁判所所在ノ地ニ事務所ヲ定メ之ヲ所屬地方裁判所檢事局ニ屆出ス可シ

第四章　辯護士會

第十八條　辯護士ハ其ノ所屬地方裁判所每ニ辯護士會ヲ設立ス可シ但シ所屬辯護士ノ數寡少ニシテ辯護士會ヲ組織スルニ適セサルトキハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ他ノ地方裁判所所屬辯護士ト合同シテ辯護士會ヲ設立スルコトヲ得

一ノ辯護士會ニ屬スル辯護士三百名以上ニシテ內百名以上ノ同意アルトキハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ別ニ辯護士會ヲ設立スルコトヲ得

第十九條　辯護士會ハ所屬地方裁判所檢事正ノ監督ヲ受ク

第二十條　辯護士會ニ會長ヲ置ク又副會長ヲ置クコトヲ得

第二十一條　辯護士會ハ每年定期總會ヲ開ク又臨時總會ヲ開クコトヲ得

第二十二條　辯護士會ハ便宜ニ依リ常議員ヲ置クコトヲ得

第二十三條　辯護士會ハ其ノ會則ヲ定メ檢事正ヲ經由シテ司法大臣ノ認可ヲ受ク可シ

辯護士ハ所屬辯護士會ノ會則ヲ遵守スヘシ

第二十四條　辯護士ハ辯護士會ニ加入シタル後ニ非サレハ職務ヲ行フコトヲ得ス

第二十五條　辯護士ハ其ノ所屬地方裁判所管轄外ニ事務所ヲ設ケ職務ヲ行ハムトスルトキハ其ノ職務ヲ行フヘキ地方裁判所所在ノ辯護士會會則ヲ遵守スヘシ

第二十六條　辯護士會會則ニハ會長副會長常議員ノ選擧及其ノ職務、總會、常議員會及其ノ議事ニ關スル規程、辯護士ノ風紀ヲ保持スル規程竝ニ謝金及手數料ニ關スル規程其ノ他會務ノ處理ニ必要ナル規程ヲ設ク可シ

第二十七條　會長副會長及常議員選擧ノ結果、總會及常議員會開會ノ日時場所及議題ハ辯護士會ヨリ之ヲ檢事正ニ屆出可シ

第二十八條　辯護士會ニ於テハ左ノ事項ノ外議スルコトヲ得ス

第一　法律命令又ハ辯護士會會則ニ規定シタル事項

第二　司法大臣又ハ裁判所ヨリ諮問シタル事項

第三　司法上若ハ辯護士ノ利害ニ關シ司法大臣又ハ裁判所ニ建議スル事項

第二十九條　檢事正ハ辯護士會ノ會場ニ臨席スルコトヲ得又會議ノ結果ヲ報告セシムルコトヲ得

第三十條　辯護士會ノ會議ニシテ法律命令及辯護士會會則ニ違フモノアルトキハ司法大臣ハ其ノ議決ヲ無效トシ又ハ其ノ議事ヲ停止スルコトヲ得

第五章　懲戒

第三十一條　辯護士ニシテ此ノ法律又ハ辯護士會會則ニ違背シタル所爲アルトキハ會長ハ常議員會又ハ總會ノ決議ニ依リ懲戒ヲ求ムル爲檢事正ニ申告スヘシ

檢事正ハ會長ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ懲戒訴追ヲ檢事長ニ請求ス可シ

第三十二條　辯護士ニ對スル懲戒事件ニ付テハ管轄控訴院ニ於テ懲戒裁判所ヲ開ク可シ

第三十三條　懲戒罰ハ左ノ四種トス

第一　譴責

第二　百圓以下ノ過料

第三　一年以下ノ停職

第四　除名

第三十四條　懲戒處分ニ付テハ判事懲戒法ノ規定ヲ準用ス

附　則

第三十五條　現在ノ代言人ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以內ニ辯護士名簿ニ登錄ヲ請フトキハ試驗ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得

第三十六條　現在ノ代言人本法施行前ニ委任ヲ受ケタル事件ニ付テハ其ノ判決ニ至ルマテ職務ヲ行フコトヲ得

第三十七條　【第十二條】ノ規定ハ現在ノ代言人ニ之ヲ適用セス

第三十八條　本法ハ明治二十六年五月一日ヨリ施行ス

明治十三年司法省甲第一號布達代言人規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

附　則(大正三年法律第四十號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ辯護士タル資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト雖仍其ノ資格ヲ有ス(大正七年勅令第七號ヲ以テ大正十二年三月一日ヨリ施行)

●辯護士名簿登錄規則

明治二十六年四月十日
司法省令第五號

改正　明治四五年第七號

辯護士名簿登錄規則左ノ通相定ム

辯護士名簿登錄規則

第一條　辯護士名簿ニ登錄ヲ請フ者ハ登錄請求書ニ【辯護士法第十條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼付シ】所屬地方裁判所檢事局ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

登錄換ヲ爲ストキモ亦同シ

第二條　地方裁判所檢事局ニ於テ登錄請求書ヲ受理シタルトキハ檢事正ハ辯護士法第二條乃至第六條ノ要件ヲ調査シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ但シ其ノ規定ニ牴觸スルモノト認メタルトキハ意見ヲ付ス可シ

第三條　辯護士名簿ノ登錄ハ司法大臣ノ命令ニ因リ地方裁判所檢事局ニ於テ之ヲ爲ス

登錄ノ取消ハ辯護士ノ請求ニ因リ又辯護士死去シタルトキハ辯護士會長ノ申告ニ因リ又辯護士法第五條ニ該當シ又ハ除名セラレタル者アルトキハ受訴裁判所檢事ノ通知ニ因リ地方裁判所檢事局ニ於テ之ヲ爲ス

第四條　辯護士名簿ニハ左ノ諸件ヲ記入ス可シ

一　辯護士ノ族籍氏名年齡

一　登錄ノ年月日

一　辯護士會加入ノ年月日

一　事務所

一　懲戒

第五條　地方裁判所檢事局ニ於テ辯護士名簿ニ登錄ヲ爲シタルトキハ其登錄ノ番號及年月日ヲ司法大臣ニ報告シ且之ヲ本人ニ通知ス可シ

登錄ヲ取消シタルトキモ亦同シ

第六條　辯護士名簿ニ登錄ヲ爲シタルトキ又ハ登錄ヲ取消シタルトキハ司法大臣ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第七條　辯護士會長ハ辯護士會ニ加入シタル者ノ氏名及加入ノ年月日ヲ所屬地方裁判所檢事局ニ屆出ツ可シ

●司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル法律

大正十二年四月三十日
法律第五十二號

改正　昭和二年第五四號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム(總理、司法大臣副署)

明治二十六年司法省令第九號辯護士試驗規則ニ依ル試驗ノ受驗ヲ出願シタル者ニシテ昭和七年十二月三十一日迄ニ勅令ヲ以テ定ムル試驗ニ合格シタル者ハ辯護士法第二條第二號ノ規定ニ拘ラス辯護士タルコトヲ得

本法施行前ニ帝國大學法學部法律學科ヲ卒業シタル者ハ裁判所構成法第五十八條第一項及辯護士法第二條第二號ノ規定ニ拘ラス試驗ヲ要セスシテ司法官試補ヲ命セラレ及辯護士タルコトヲ得

附　則

本法ハ大正十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

●大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗ニ關スル件

大正十二年四月三十日
勅令第百九十六號

改正　昭和四年第一七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム(總理、司法大臣副署)

大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗ニ付テハ高等試驗令第二條第一項、第三條、第九條乃至第十一條、第十五條乃至第十七條及第十九條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ試驗ニ關スル事務ハ高等試驗委員第三部ニ於テ之ヲ管掌ス

附　則

本令ハ大正十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和四年勅令第十七號）

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

高等試驗令第十七條ノ規定ヲ準用スル改正規定ハ昭和三年ニ行ヒタル大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗ノ筆記試驗ニ合格シタル者ヨリ之ヲ適用ス

●大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗ノ施行ニ關スル件

大正十二年五月四日
勅令第四號

改正　大正一三年第二號
昭和二年第八號、四年第二號

大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗ノ施行ニ關スル件左ノ通定ム

大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗ヲ受クムトスル者ハ受驗願書ニ履歷書及明治二十六年司法省令第九號辯護士試驗規則ニ依ル試驗ノ受驗ヲ出願シタル者ナルコトヲ證スル書類竝出願前一年内ニ着手シテ撮影シタル手札形寫眞（裏面ニ撮影年月日及ヲ添ヘ高等試驗委員長ニ提出スヘシ）受驗ノ出願ハ毎年五月一日ヨリ同月二十五日迄ニ之ヲ爲スベシ

高等試驗令施行細則第二條、第四條第一項、第五條乃至第十條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●辯護士規則

明治四十三年十二月十五日
勅令第十二號

改正　明治四五年第五號
大正一〇年第一五號、一一年第八號

辯護士規則明治四十三年勅令第三百二十四號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

辯護士規則

第一條　辯護士ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ニシテ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ且辯護士名簿ニ登錄セラルルコトヲ要ス

一　辯護士法ニ依リ辯護士タルノ資格ヲ有スル者

二　日本臣民タル年齡二十年以上ノ男子ニシテ朝鮮辯護士試驗ニ合格シタル者

三　舊韓國裁判所、舊統監府裁判所若ハ朝鮮總督府裁判所ノ判事、檢事又ハ舊韓國ノ辯護士タリシ者

禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ懲戒處分ニ因リ判事、檢事若ハ辯護士ノ資格ヲ喪失シタル者ハ辯護士タルコトヲ得ス

第二條　各地方法院ニ辯護士名簿ヲ備フ

辯護士ハ其ノ氏名ヲ登錄シタル地方法院ノ所屬トス

第三條　辯護士名簿ノ登錄ハ地方法院檢事局ニ於テ之ヲ爲ス

第四條　朝鮮總督ノ認可ヲ申請スル者ハ登錄ヲ受ケムトスル地方法院檢事局ニ於テ之ヲ爲ス

朝鮮總督ニ申請書ヲ差出スヘシ

認可申請書ニハ資格ニ關スル證明書ヲ添附スヘシ

第五條　地方法院檢事局ニ於テ認可申請書ヲ受理シタルトキハ檢事正ハ資格ヲ調査シ意見ヲ附シテ之ヲ朝鮮總督ニ差出スヘシ

第六條　登錄ヲ受ケムトスル者ハ地方法院檢事局ニ朝鮮總督ノ認可書ノ寫ヲ添附シタル登錄申請書ヲ差出スヘシ

第七條　辯護士名簿ノ登錄ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ地方法院檢事局ニ於テ之ヲ爲ス

一　申請アリタルトキ

二　死亡シタルトキ

三　除名セラレタルトキ

四　辯護士法ニ依リ辯護士タルノ資格ヲ喪失シタルトキ

五　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第八條　辯護士名簿ノ登錄又ハ其ノ取消ヲ申請スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　新規登錄　金二十圓

二　登錄換　金十圓

三　登錄ノ取消　金一圓

手數料ノ納付ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ爲スヘシ

第九條　地方法院檢事局ニ於テ辯護士名簿ノ登錄ヲ爲シタルトキハ登錄ノ番號及年月日ヲ朝鮮總督ニ報告シ且之ヲ本人ニ通知スヘシ

登錄ヲ取消シタルトキ亦前項ニ準ス

第十條　辯護士名簿ノ登錄又ハ其ノ取消ヲ爲シタルトキハ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十一條　辯護士ハ所屬地方法院又ハ其ノ支廳所在地ニ事務所ヲ設ケ之ヲ所屬地方法院檢事正ヲ經由シテ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

二以上ノ事務所ヲ設ケムトスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

登錄換ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

第六條ノ規定ハ登錄換ノ登錄ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第十二條　辯護士ハ所屬地方法院毎ニ辯護士會ヲ設クヘシ

但シ五人ニ滿タサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ辯護士五人以上ニ達シタルトキハ三十日以内ニ辯護士會ヲ設クヘシ

第十三條　地方法院檢事正ハ事情ニ因リ朝鮮人辯護士ニ辯護士會ニ加入スルコトヲ免シ若ハ其ノ退會ヲ許シ又ハ別ニ辯護士會ヲ設ケシムルコトヲ得

第十四條　辯護士ハ辯護士會ニ加入シタル後ニ非サレハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス但シ辯護士會ノ設ケナキトキ又ハ辯護士會ニ加入スルコトヲ免セラレ若ハ其ノ退會ヲ許サレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　辯護士及辯護士會ハ地方法院檢事正ノ監督ヲ受ク

第十六條　檢事正ハ辯護士ノ職務ニ關スルト否トヲ問ハス其ノ品位ヲ汚損スヘキ行狀ニ付證告ヲ爲スコトヲ得

第十七條　檢事正ハ辯護士ノ會議ニ臨席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第十八條　辯護士會ニ會長ヲ置ク又常議員ヲ置クコトヲ得

會長及常議員ハ辯護士會ノ總會ニ於テ之ヲ選舉シ檢事正ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條　辯護士會ハ其ノ會則ヲ定メ檢事正ヲ經由シテ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條　辯護士會會則ニハ會長、常議員ノ選舉、職務、任期ニ關スル規程、議事ニ關スル規程、辯護士ノ風紀保持ニ關スル規程、報酬金ニ關スル規程其ノ他會務ノ處理ニ必要ナル規程ヲ設クヘシ

第二十一條　辯護士會ノ設ケサル場合又ハ第十三條ノ規定ニ依リ辯護士會加入ヲ免シ若ハ其ノ退會ヲ許シタル場合ニ於テハ檢事正ハ辯護士會會則ニ代ルヘキ命令ヲ發スヘシ

第二十二條　辯護士ハ所屬地方法院ノ管轄地外ニ事務所ヲ設ケタル場合ニハ事務所所在地ノ地方法院檢事正ノ監督ヲ受ケ且其ノ地ノ辯護士會會則又ハ之ニ代ルヘキ檢事正ノ命令ヲ遵守スヘシ

前項ノ規定ハ所屬地方法院檢事正ノ監督權及必要タル限度ニ於テ所屬辯護士會會則又ハ之ニ代ルヘキ檢事正ノ命令ヲ遵守スヘキ義務ニ影響ヲ及ホスコトナシ

第二十三條　辯護士會ノ會議ノ日時、場所及議題ハ辯護士會ヨリ豫メ之ヲ檢事正ニ届出ツヘシ

第二十四條　辯護士會ノ會議ニ於テハ左ノ事項ノ外議スルコトヲ得ス

一　法令又ハ辯護士會會則ニ規定シタル事項

二　朝鮮總督、裁判所又ハ檢事局ヨリ諮問シタル事項

第二十五條　辯護士會ノ會議ノ議決ニシテ法令又ハ辯護士會會則ニ違反スルモノアルトキハ朝鮮總督ハ之ヲ無效トスルコトヲ得

第二十六條　辯護士本令又ハ辯護士會會則若ハ檢事正ノ命令ニ違反スル所爲アルトキハ檢事正ハ會長ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ懲戒處分ヲ朝鮮總督ニ申請スヘシ

第二十七條　懲戒ハ左ノ四種トシ朝鮮總督之ヲ行フ

一　謹責

二　三百圓以下ノ過料

三　一年以下ノ停職

四　除名

第二十八條　懲戒處分ハ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第二十九條　朝鮮辯護士試驗ニ關スル規則ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三十條　辯護士名簿ハ別記樣式ニ依ル

附　則

第三十一條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條　本令施行ノ際辯護士名簿ニ登錄アル者ハ本令ニ依リ登錄セラレタル者ト看做ス

第三十三條　本令施行前ニ係ル辯護士ノ所爲分ニ因リ判事、檢事若ハ辯護士ノ資格ヲ喪失シタル者ハ辯護士タルコトヲ得

別記樣式（用紙美濃紙）

本籍	
住所	
族稱	
生年月日	
資格	
	氏名

本令ニ依リ之ヲ懲戒スヘキモノアルトキハ

登錄番號
登錄年月日
辯護士會加入年月日
事務所
出張事務所
登錄取消年月日
懲戒
備考

●朝鮮辯護士試驗規則

大正十年十二月二日
朝鮮總督府令第百五十三號

朝鮮辯護士試驗規則左ノ通定ム

朝鮮辯護士試驗規則

第一條　朝鮮辯護士試驗委員ハ委員長一人委員數人ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條　委員長ハ朝鮮總督府法務局長ヲ以テ之ニ充テ其ノ他ノ委員ハ朝鮮總督府判事、檢事ノ中ヨリ試驗施行毎ニ朝鮮總督之ヲ命ス但シ必要アルトキハ他ノ高等官ニ委員ヲ命スルコトアルヘシ

委員附屬ノ書記ハ朝鮮總督府法務局勤務ノ屬又ハ朝鮮總督府裁判所書記ノ中ヨリ試驗施行毎ニ之ヲ命ス

第三條　委員長ハ委員ヲ監督シ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ管掌ス

委員長事故アルトキハ上席ノ委員其ノ事務ヲ代理ス

第四條　試驗ハ毎年一回朝鮮總督府ニ於テ之ヲ行フ

試驗ノ期日ハ委員長之ヲ定メ三月前官報及朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

一　辯護士規則第一條第二項ニ該當スル者

二　破產者ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條　試驗ヲ受ケムトスル者ハ受驗願書（第一號書式）ニ左ノ書類ヲ添附シ委員長ニ提出スヘシ

一　履歷書（第二號書式）

二　前條第二號ノ規定ニ該當スル者ハ其ノ復權又ハ債務ノ辨償ヲ終ヘタル證明書

第七條　試驗ヲ受ケムトスル者ハ手數料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ

手數料ハ收入印紙ヲ用ヰ願書ニ貼附スヘシ

手數料ハ試驗ヲ受ケサルコトアルモ之ヲ還付セス

第八條　受驗願書及添附書類ハ之ヲ還付セス

但シ證明書ハ請求ニ因リ之ヲ還付ス

第九條　受驗者試驗當日開試ノ時間迄ニ出席セサルトキ又ハ試驗中途ニシテ休止シタルトキハ其ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十條　試驗ハ國語ヲ以テ之ヲ行フ

試驗ヲ分チ豫備試驗及本試驗トシ尙身體檢査ヲ行フ

豫備試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ本試驗ヲ受クルコトヲ得ス

身體檢査ニ合格セサル者ハ落第トス

第十一條　豫備試驗ハ受驗者本試驗ヲ受クルニ相當ナル普通ノ學識ヲ有スルヤ否ヲ考試スルヲ以テ目的トス

第十二條　豫備試驗ハ論文ニ就テ之ヲ行フ

第十三條　高等學校大學豫科又ハ朝鮮總督ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校ヲ卒業シタル者ハ豫備試驗ヲ免ス

第十四條　本試驗ハ受驗者學理上ノ原則及現行法令ニ通曉シ且之ヲ實務ニ應用スルノ能力アルヤ否ヲ考試スルヲ以テ目的トス

第十五條　本試驗ハ筆記及口述トス

筆記試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　筆記試驗ハ憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、國際私法及經濟學ノ各科目ニ就キ之ヲ行フ

口述試驗ハ民法、商法、刑法、民事訴訟法及刑事訴訟法中三科目以上ニ就キ之ヲ行フ

第十七條　試驗ノ合格者ヲ定ムル方法ハ委員ノ議定スル所ニ依ル

第十八條　試驗合格者ニハ合格證書ヲ授與ス

第十九條　試驗合格者ノ氏名ハ官報及朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第二十條　委員長ハ合格者ノ氏名及其ノ成績ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮人辯護士試驗規則ハ之ヲ廢止ス

（別記）

第一號書式（用紙美濃紙）

受驗願書

本籍　氏名　年月日生

私儀辯護士志願ニ付試驗相受度別紙履歷書及證明書相添此段奉願候也

年　月　日　現住所　氏名㊞

第二號書式（用紙美濃紙）

履歷書

本籍　氏名　年月日生

一何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ何學校ニ入リ何年何月迄何學ヲ修メ又何學科ヲ卒業スノ類

一何年何月ヨリ何官公私立學校ニ入リ何學科ヲ修業シ何年何月卒業スノ證書竇別紙ノ如シノ類

一何年何月何學校若ハ其ノ他ニ於テ何ノ試驗ヲ受ケ及第スノ證書竇別紙ノ如シノ類

一何年何月ヨリ何年何月迄何會社ノ役員トナリ又ハ何學校教員若ハ何官廳何官トナリタルノ類

賞　罰

一何年何月何地ニ於テ何ノ事由ノ爲何廳ヨリ賞ヲ受ケ何年何月何ノ事由ノ爲何地ニ

於テ罰又ハ刑ヲ受ケ其ノ辭令書又ハ宣告書寫別紙ノ如シノ類

右ノ各項中記載スヘキ廉ナキ者ハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

年 月 日 現住所 氏 名㊞

●臺灣辯護士規則

明治三十三年一月二十五日律令第五號
改正 明治三四年第二三號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣辯護士規則勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

臺灣辯護士規則

第一條 辯護士ハ當事者ノ委任ヲ受ケ又ハ臺灣總督府法院ノ命令ニ從ヒ臺灣總督府法院ニ於テ法律律令ニ定メタル職務ヲ行フモノトス

第二條 辯護士ニハ明治二十六年法律第七號辯護士法ノ規定ヲ準用ス

第三條 辯護士ノ懲戒處分ニ付テハ明治三十一年律令第十八號臺灣總督府法院判官懲戒令ノ規定ヲ準用ス但懲戒委員會ハ【覆審法院】檢察官長ノ申立ニ依リ之ヲ開始ス

附 則

第四條 此規則ハ明治三十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●辯護士名簿登錄規則

明治三十三年一月二十五日臺灣總督府令第五號

辯護士名簿登錄規則左ノ通相定ム

辯護士名簿登錄規則

第一條 辯護士名簿ニ新規登錄ヲ請フ者ハ登錄請求書ニ登錄稅法第七條ノ登錄稅ニ相當スル印紙ヲ貼付シ所屬地方法院檢察局ヲ經由シテ之ヲ臺灣總督ニ差出スヘシ

登錄換又ハ取消ノ請求ヲ爲ストキ亦同シ

第二條 地方法院檢察局ニ於テ登錄請求書ヲ受理シタルトキハ檢察官長ハ辯護士法第二條乃至第六條ノ要件ヲ調査シ意見ヲ付シ之ヲ臺灣總督ニ差出スヘシ

第三條 辯護士名簿ノ新規登錄登錄換竝取消ハ臺灣總督ノ命令ニ依リ地方法院檢察官長之ヲ爲ス

辯護士死去シ又ハ辯護士法第五條ニ該當シ又ハ懲戒裁判ニ依リ除名セラレタルトキハ地方法院檢察官長ハ辯護士會長ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ直ニ登錄ノ取消ヲ爲スヘシ

第四條 辯護士名簿ニハ左ノ諸件ヲ記入スヘシ

一 辯護士ノ族籍氏名年齡
二 登錄ノ番號及年月日
三 辯護士會加入ノ年月日
四 事務所
五 懲戒

第五條 地方法院檢察官長辯護士名簿ニ新規登錄又ハ登錄換ヲ爲シタルトキハ其登錄ノ番號及年月日ヲ臺灣總督ニ報告シ且之ヲ本人ニ通知スヘシ

登錄ヲ取消シタルトキ亦同シ

第六條 辯護士名簿ニ新規登錄又ハ登錄換ヲ爲シタルトキ又ハ登錄ヲ取消シタルトキハ臺灣總督ハ府報ヲ以テ之ヲ公告ス

第七條 辯護士會長ハ辯護士會ニ加入シタル者ノ氏名及加入ノ年月日ヲ所屬地方法院檢察局ニ届出ツヘシ

第八條 辯護士名簿ハ別記樣形ノ通調製スヘシ

附 則

第九條 此規則ハ明治三十三年二月一日ヨリ施行ス

（樣形） 用紙美濃紙

原籍	身分	氏	名	生年月日	資格	登錄番號	登錄年月日	辯護士會加入年月日	事務所	出張所	登錄取消年月日		懲戒	備考

●關東州辯護士令

明治四十一年九月二十四日勅令第二百十四號

朕關東州辯護士令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

關東州辯護士令

第一條 辯護士ニ關シテハ辯護士法ニ依ル但シ同法中司法大臣ノ職務ハ第三條ノ場合ヲ除クノ外關東【都督】之ヲ行ヒ地方裁判所ノ職務ハ關東【都督府】地方法院、地方裁判所檢事局及檢事正ノ職務ハ同法院檢察官之ヲ行フ

第二條 辯護士ノ懲戒ハ關東【都督府】高等法院檢察官ノ申立ニ因リ同法院判官全員ヨリ成ル會議ノ決議ニ基キ關東【都督】之ヲ行フ

附 則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●辯護士名簿登錄ニ關スル件

明治四十一年九月二十八日關東都督府令第五十四號
改正 大正九年關東廳令第五八號

辯護士名簿登錄ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條 辯護士名簿ニ登錄ヲ請フ者ハ登錄請求書ヲ地方法院檢察官ヲ經由シテ關東都督ニ差出スヘシ其ノ取消ノ請求ヲ爲ストキ亦同シ

第二條 地方法院檢察官登錄請求書ヲ受理シタルトキハ辯護士法第二條乃至第六條ノ要件ヲ調査シ意見ヲ附シ之ヲ關東都督ニ差出スヘシ

第三條 辯護士名簿ノ登錄及其ノ取消ハ關東都督ノ命令ニ因リ地方法院檢察官之ヲ爲ス

辯護士死去シタルトキ辯護士法第五條ニ該當シタルトキ又ハ懲戒處分ニ因リ除名セラレタルトキハ地方法院檢察官ハ辯護士會長ノ申告ニ因リ又ハ職權ヲ以テ直ニ登錄ノ取消ヲ爲スヘシ

第四條 辯護士名簿ニハ左ノ諸件ヲ記入スヘシ

一 辯護士ノ族籍、氏名、年齡

一 登錄ノ年月日
一 辯護士會加入ノ年月日
一 事務所
一 懲戒

第五條 地方法院檢察官辯護士名簿ニ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ登錄ノ番號及年月日ヲ關東都督ニ報告シ且之ヲ本人ニ通知スヘシ登錄ヲ取消シタルトキ亦同シ

第六條 辯護士名簿ニ登錄ヲ爲シタルトキ又ハ登錄ヲ取消シタルトキハ關東都督ハ府報ヲ以テ之ヲ公告ス

第七條 辯護士會長ハ辯護士會ニ加入シタル者ノ氏名及加入ノ年月日ヲ地方法院檢察官ニ届出ヘシ

第八條 左ノ事項ニ付辯護士名簿ニ登錄ヲ請求スルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄手數料ヲ納ムヘシ

一 登錄 金二十圓
一 登錄取消ノ請求 金一圓

附 則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四款 公證人

●公證人法

明治四十一年四月十四日法律第五十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル公證人法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

公證人法

第一章 總則

第一條 公證人ハ當事者其ノ他ノ關係人ノ囑託ニ因リ法律行爲其ノ他私權ニ關スル事實ニ付公正證書ヲ作成シ及私署證書ニ認證ヲ與フルノ權限ヲ有ス

第二條 公證人ノ作成シタル文書ハ本法及他ノ法律ノ定ムル要件ヲ具備スルニ非サレハ公正ノ效力ヲ有セス

第三條 公證人ハ正當ノ理由アルニ非サレハ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス

第四條 公證人ハ法律ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ取扱ヒタル事件ヲ漏泄スルコトヲ得ス但シ囑託人ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 公證人ハ他ノ公務ヲ兼ネ、商業ヲ營ミ又ハ商事會社若ハ營利ヲ目的トスル社團法人ノ代表者若ハ使用人ト爲ルコトヲ得ス但シ司法大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 公證人其ノ職務ノ執行ニ付囑託人其ノ他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其ノ損害カ公證人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第七條 公證人ハ囑託人ヨリ手數料、日當及旅費ヲ受ク

公證人ハ前項ニ記載シタルモノヲ除クノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ其ノ取扱ヒタル事件ニ關シテ報酬ヲ受クルコトヲ得ス

手數料、日當及旅費ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 區裁判所ノ管轄區域內ニ公證人ナキ場合又ハ公證人其ノ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テハ司法大臣ハ其ノ區裁判所ヲシテ管轄區域內ニ於テ公證人ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ判事差支アルトキハ裁判所書記ヲシテ公證人ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第九條 本法及他ノ法令中公證人ノ職務ニ關スル規定ハ公證人ノ事務ヲ取扱フ判事又ハ裁判所書記ニ之ヲ準用ス但シ第七條ニ依ル手數料、日當及旅費ハ國庫ノ收入トス

第二章 任免及所屬

第十條 公證人ハ地方裁判所ノ所屬トス

各地方裁判所所屬公證人ノ員數ハ區裁判所ノ管轄區域每ニ司法大臣之ヲ定ム

第十一條 公證人ハ司法大臣之ヲ任シ及其ノ屬スヘキ地方裁判所ヲ指定ス

第十二條 左ノ條件ヲ具備スル者ニ非サレハ公證人ニ任セラルルコトヲ得ス

一 帝國臣民ニシテ成年以上ノ男子タルコト
二 一定ノ試驗ニ合格シタル後六月以上公證人見習トシテ實地修習ヲ爲シタルコト

試驗及實地修習ニ關スル規程ハ司法大臣之ヲ定ム

第十三條 判事、檢事又ハ辯護士タルノ資格ヲ有スル者ハ試驗及實地修習ヲ經スシテ公證人ニ任セラルルコトヲ得

第十四條 左ニ揭クル者ハ公證人ニ任セラルルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ二年以下ノ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
二 破產又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
三 禁治產者及準禁治產者
四 懲戒ノ處分ニ因リ免官若ハ免職セラレタル者又ハ辯護士法ニ依リ除名セラレタル者ニシテ免官、免職又ハ除名後二年ヲ經過セサル者

第十五條 司法大臣ハ左ノ場合ニ於テ公證人ヲ免スルコトヲ得

一 公證人免職ヲ願出テタルトキ
二 公證人期間內ニ身元保證金又ハ其ノ補充額ヲ納メサルトキ
三 公證人身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ所屬地方裁判所ヲ管轄スル控訴院ニ於ケル懲戒委員會ノ議決ヲ經ヘシ

第十六條 公證人第十四條第一號乃至第三號ニ該當スルニ至リタルトキハ當然其ノ職ヲ失フ

第三章 職務執行ニ關スル通則

第十七條 公證人ノ職務執行ノ區域ハ其ノ所屬地方裁判所ノ管轄區域ニ依ル

第十八條 公證人ハ司法大臣ノ指定シタル地ニ其ノ役場ヲ設クヘシ

公證人ハ役場ニ於テ其ノ職務ヲ行フコトヲ要ス但シ事件ノ性質カ之ヲ許ササル場合又ハ法令ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

公證人ハ其ノ役場內ニ住居スヘシ但シ司法大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 公證人ハ任命ノ辭令書ヲ受ケタル日ヨリ十五日以內ニ所屬地方裁判所ニ身元保證金ヲ納ムヘシ

身元保證金ノ額ハ土地ノ情況ニ從ヒ三百圓以上千圓以下ノ範圍內ニ於テ司法大臣之ヲ定ム

身元保證金ノ額ニ不足ヲ生シ補充ノ命令ヲ受ケタルトキハ其ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ其ノ不足額ヲ補充スヘシ

公證人身元保證金ヲ納メサル間ハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第二十條 身元保證金ヲ還付スヘキ場合ニ於テハ其ノ身元保證金ノ上ニ權利ヲ有スル者ニ對シ六月ヲ下ラサル期間內ニ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ

身元保證金ハ前項ノ期間ヲ經過スルニ非サレハ之ヲ還付セス

身元保證金ハ他ノ公課及債權ニ先チテ之ヲ第一項ノ公告費用ニ充ツ

第二十一條 公證人ハ其ノ職印ノ印鑑ニ氏名ヲ自署シ之ヲ所屬地方裁判所ニ差出スヘシ

公證人前項ノ印鑑ヲ差出ササル間ハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第二十二條 公證人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

一 囑託人、其ノ代理人又ハ囑託セラレタル事項ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ノ配偶者、四親等內ノ親族又ハ同居ノ戶主若ハ家族タルトキ親族關係カ止ミタル後亦同シ
二 囑託人又ハ其ノ代理人ノ法定代理人又ハ保佐人タルトキ
三 囑託セラレタル事項ニ付利害ノ關係ヲ有スルトキ
四 囑託セラレタル事項ニ付代理人若ハ補佐人タルトキ又ハ代理人若ハ補佐人タリシトキ

第二十三條　公證人職務上署名スルトキハ其ノ職名、所屬及役場所在地ヲ記載スヘシ

第二十四條　公證人ハ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受ケ書生ヲ置キ執務ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ認可ハ必要ナル場合ニ於テハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第二十五條　公證人ノ作成シタル證書ノ原本、其ノ附屬書類及法令ニ依リ公證人ノ調製シタル帳簿ハ事變ヲ避クル爲ニスル場合ヲ除クノ外之ヲ役場外ニ持出スコトヲ得ス但シ裁判所又ハ豫審判事ノ命令又ハ囑託アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ書類ノ保存及廢毀ニ關スル規程ハ司法大臣之ヲ定ム

第四章　證書ノ作成

第二十六條　公證人ハ法令ニ違反シタル事項、無效ノ法律行爲及無能力ニ因リテ取消スコトヲ得ヘキ法律行爲ニ付證書ヲ作成スルコトヲ得ス

第二十七條　公證人ハ日本語ヲ用ウル證書ニ非サレハ之ヲ作成スルコトヲ得ス

第二十八條　公證人證書ヲ作成スルニハ囑託人ノ氏名ヲ知リ且之ト面識アルコトヲ要ス

公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラス又ハ之ト面識ナキトキハ其ノ本籍地若ハ寄留地ノ市區町村長ノ作成シタル印鑑證明書ヲ提出セシメ又ハ氏名ヲ知リ且面識アル證人二人ニ依リ其ノ人違ナキコトヲ證明セシムルコトヲ要ス但シ囑託人外國人ナルトキハ警察官吏又ハ帝國ニ駐在スル本國領事ノ證明書ヲ以テ印鑑證明書ニ代フルコトヲ得

急迫ナル場合ニ於テ公證人法律行爲ニ非サル事實ニ付證書ヲ作成スルトキハ前項ノ手續ハ證書ヲ作成シタル後三日內ニ證書ノ作成ニ關スル規定ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ證書ハ急迫ナル場合ニ非サルカ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第三十四條第三項ノ規定ハ第二項ノ證人ニ之ヲ準用ス

第二十九條　囑託人日本語ヲ解セサル場合又ハ聾者若ハ啞者其ノ他言語ヲ發スルコト能ハサル者ニシテ文字ヲ解セサル場合ニ於テ公證人證書ヲ作成スルニハ通事ヲ立會ハシムルコトヲ要ス

第三十條　囑託人盲者ナル場合又ハ文字ヲ解セサル場合ニ於テ公證人證書ヲ作成スルニハ立會人ヲ立會ハシムルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ囑託人立會人ヲ立會ハシムルコトヲ請求シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條　代理人ニ依リ囑託セラレタル場合ニ於テハ前三條ノ規定ハ其ノ代理人ニ之ヲ適用ス

第三十二條　代理人ニ依リ囑託セラレタル場合ニ於テ公證人證書ヲ作成スルニハ其ノ代理人ノ權限ヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其ノ權限ヲ證明セシムルコトヲ要ス

前項ノ證書カ認證ヲ受ケサル私署證書ナルトキハ其ノ證書ノ外其ノ署名者ノ本籍地又ハ寄留地ノ市區町村長ノ作成シタル印鑑證明書ヲ提出セシメ證書ノ眞正ナルコトヲ證明セシムルコトヲ要ス但シ其ノ署名者外國人ナルトキハ第二十八條第二項但書ノ規定ヲ準用ス

證書ノ作成ニ關スル規定ニ依リ代理又ハ其ノ方式ノ欠缺ヲ追完シタルトキハ證書ハ其ノ欠缺アリタルカ爲效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第三十三條　第三者ノ許可又ハ同意ヲ要スヘキ法律行爲ニ付公證人證書ヲ作成スルニハ其ノ許可又ハ同意アリタルコトヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其ノ許可又ハ同意ヲ證明セシムルコトヲ要ス

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條　通事及立會人ハ囑託人又ハ其ノ代理人之ヲ選定スルコトヲ要ス

立會人ハ通事ヲ兼ヌルコトヲ得

左ニ揭クル者ハ立會人タルコトヲ得ス

一　未成年者
二　第十四條ニ揭ケタル者
三　自ラ署名スルコト能ハサル者
四　囑託事項ニ付利害ノ關係ヲ有スル者
五　囑託事項ニ付代理人若ハ補佐人タル者又ハ代理人若ハ補佐人タリシ者
六　公證人又ハ囑託人若ハ其ノ代理人ノ配偶者、四親等內ノ親族、同居ノ戶主若ハ家族、法定代理人、保佐人、雇人又ハ同居人
七　公證人ノ筆生

第三十五條　公證人證書ヲ作成スルニハ其ノ聽取シタル陳述、其ノ目擊シタル狀況其ノ他自ラ實驗シタル事實ヲ錄取シ且其ノ實驗ノ方法ヲ記載シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條　公證人ノ作成スル證書ニハ其ノ本旨ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　證書ノ番號
二　囑託人ノ住所、職業、氏名及年齡若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所
三　代理人ニ依リ囑託セラレタルトキハ其ノ旨及其ノ代理人ノ權限ヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其ノ權限ヲ證明セシメタルコト並其ノ代理人ノ住所、職業、氏名及年齡
四　囑託人又ハ其ノ代理人ノ氏名ヲ知リ且之ト面識アルトキハ其ノ旨
五　第三者ノ許可又ハ同意アリタルコトヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其ノ許可又ハ同意ヲ證明セシメタルトキハ其ノ旨及其ノ事由並其ノ第三者ノ住所、職業、氏名及年齡若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所
六　市區町村長ノ作成シタル印鑑證明書又ハ警察官吏若ハ領事ノ證明書ヲ提出セシメ人違ナキコト又ハ證書ノ眞正ナルコトヲ證明セシメタルトキハ其ノ旨及其ノ事由
七　氏名ヲ知リ且面識アル證人ニ依リ人違ナキコトヲ證明セシメタルトキハ其ノ旨及其ノ事由並其ノ證人ノ住所、職業、氏名及年齡
八　急迫ナル場合ニ於テ人違ナキコトヲ證明セシメサリシトキハ其ノ旨
九　通事又ハ立會人ヲ立會ハシメタルトキハ其ノ旨及其ノ事由並其ノ通事又ハ立會人ノ住所、職業、氏名及年齡
十　作成ノ年月日及場所

第三十七條　公證人證書ヲ作成スルニハ普通平易ノ語ヲ用井字畫ヲ明瞭ナラシムヘシ

接續スヘキ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接續セシムヘシ

數量、年月日及番號ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ字ヲ用ウヘシ

第三十八條　證書ノ文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス

證書ニ文字ヲ挿入スルトキハ其ノ文字及其ノ箇所ヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ記載シ公證人、囑託人又ハ其ノ代理人及立會人之ニ捺印スルコトヲ要ス

證書ノ文字ヲ削除スルトキハ其ノ文字ハ尙明ニ讀得ヘキ爲字體ヲ存シ削除シタル字數及箇所ヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ記載シ公證人、囑託人又ハ其ノ代理人及立會人之ニ捺印スルコトヲ要ス

前三項ノ規定ニ違反シテ爲シタル訂正ハ其ノ效力ヲ有セス

第三十九條　公證人ハ其ノ作成シタル證書ヲ列席者ニ讀聞カセ又ハ閱覽セシメ囑託人又ハ其ノ代理人ノ承認ヲ得且其ノ旨ヲ證書ニ記載スルコトヲ要ス

通事ヲ立會ハシメタル場合ニ於テハ前項ノ外通事ヲシテ證書ノ趣旨ヲ通譯セシメ且其ノ旨ヲ證書ニ記載スルコトヲ要ス

前二項ノ記載ヲ爲シタルトキハ公證人及列席者各自證書ニ署名捺印スルコトヲ要ス

列席者ニシテ署名スルコト能ハサル者アルトキハ其ノ旨ヲ證書ニ記載シ公證人及立會人之ニ捺印スルコトヲ要ス

證書數葉ニ涉ルトキハ公證人、囑託人又ハ其ノ代理人及立會人ハ毎葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

證書ハ公證人、囑託人若ハ其ノ代理人又ハ立會人ノ契印ニ依リ其ノ全部ノ連綴明白ナル場合ニ於テハ前項ニ違反シタルカ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第四十條　公證人ノ作成スル證書ニ他ノ書面

ヲ引用シ且之ヲ其ノ證書ニ添附スルトキハ公證人、囑託人又ハ其ノ代理人及立會人ハ其ノ證書ト添附書面トノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

前三條ノ規定ハ前項ノ添附書面ニ之ヲ準用ス

前二項ニ依ル添附書面ハ公證人ノ作成シタル證書ノ一部ト看做ス

第四十一條　代理人ノ權限ヲ證スヘキ證書、第三者ノ許可又ハ同意ヲ證スヘキ證書、市區町村長、警察官吏又ハ領事ノ證明書其ノ他ノ附屬書類ハ公證人ノ作成シタル證書ニ之ヲ連綴スヘシ

公證人、囑託人又ハ其ノ代理人及立會人ハ證書ト其ノ附屬書類トノ綴目及附屬書類相互ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ

第四十二條　證書ノ原本滅失シタルトキハ公證人ハ既ニ交付シタル證書ノ正本又ハ謄本ヲ徵シ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受ケ滅失シタル證書ニ代ヘテ之ヲ保存スルコトヲ要ス

前項ノ證書ニハ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受ケ滅失シタル證書ニ代ヘテ之ヲ保存スル旨及其ノ認可ノ年月日ヲ記載シ公證人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第四十三條　公證人ハ囑託人ヲシテ印紙稅法ニ依リ證書ノ原本ニ印紙ヲ貼用セシムヘシ

第四十四條　囑託人、其ノ承繼人又ハ證書ノ趣旨ニ付法律上利害ノ關係ヲ有スルコトヲ證明シタル者ハ證書ノ原本ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條第一項、第二項及第五項、第三十一條並第三十二條第一項及第二項ノ規定ハ前項ニ依リ公證人證書ノ原本ヲ閱覽セシムヘキ場合ニ之ヲ準用ス

公證人囑託人ノ承繼人ニ證書ノ原本ヲ閱覽セシムヘキ場合ニ於テハ承繼人タルコトヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其ノ承繼人タルコトヲ證明セシムヘシ

第三十二條第二項ノ規定ハ前項ニ依リ提出セシムヘキ證書ニ之ヲ準用ス

檢事ハ何時ニテモ證書ノ原本ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第四十五條　公證人ハ證書原簿ヲ調製シ記入前其ノ所屬地方裁判所長ノ契印ヲ請フヘシ

地方裁判所長ハ其ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ毎葉ノ綴目ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スヘシ

第四十六條　證書原簿ニハ證書ノ作成毎ニ進行ノ順序ヲ逐ヒ左ノ事項ヲ記入スヘシ

一　證書ノ番號及種類
二　囑託人ノ住所及氏名若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所
三　作成ノ年月日

第三十七條及第三十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ證書ノ作成ヲ記入スヘキ帳簿ニ關シ法令ニ別段ノ定アル場合ニ之ヲ適用セス

第四十七條　囑託人又ハ其ノ承繼人ハ證書ノ正本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條第一項、第二項及第五項、第三十一條、第三十二條第一項及第二項並第四十四條第三項及第四項ノ規定ハ前項ニ依リ公證人證書ノ正本ヲ作成スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條　證書ノ正本ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　證書ノ全文
二　正本タルコト
三　交付ヲ請求シタル者ノ氏名
四　作成ノ年月日及場所

前項ノ規定ニ違反スルモノハ證書ノ正本タルノ效力ヲ有セス

第四十九條　數事件ヲ列記スル證書又ハ數人各自ニ關係ヲ異ニスル證書ニ付テハ有用ノ部分及證書ノ方式ニ關スル記載ヲ抄錄シテ其ノ正本ヲ作成スルコトヲ得

前項ノ正本ニハ抄錄正本タルコトヲ記載シ前條第一項第二號ノ記載ニ代フルコトヲ要ス

第五十條　公證人證書ノ正本ヲ交付シタルトキハ其ノ證書ノ末尾ニ囑託人又ハ其ノ承繼人何某ノ爲正本ヲ交付シタル旨及其ノ交付ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

第五十一條　囑託人、其ノ承繼人又ハ證書ノ趣旨ニ付法律上利害ノ關係ヲ有スルコトヲ證明シタル者ハ證書又ハ其ノ附屬書類ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條第一項、第二項及第五項、第三十一條、第三十二條第一項及第二項竝第四十四條第三項及第四項ノ規定ハ前項ニ依リ公證人證書ノ謄本ヲ作成スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條　證書ノ謄本ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人之ニ署名捺印スヘシ

一　證書ノ全文
二　謄本タルコト
三　作成ノ年月日及場所

第五十三條　證書ノ謄本ハ其ノ一部ニ付之ヲ作成スルコトヲ得

前項ノ謄本ニハ抄錄謄本タルコトヲ記載スヘシ

第五十四條　前二條ノ規定ハ證書ノ附屬書類ノ謄本ノ作成ニ之ヲ準用ス

第五十五條　證書又ハ其ノ附屬書類ノ謄本ヲ請求スル者ハ之ニ記載スヘキ事項ヲ自ラ記載シ公證人ノ署名捺印ノミヲ請求スルコトヲ得

公證人前項ノ謄本ニ署名捺印シタルトキハ其ノ謄本ハ公證人自ラ之ヲ作成シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第五十六條　證書ノ正本若ハ謄本又ハ其ノ附屬書類ノ謄本數葉ニ涉ルトキハ公證人ハ毎葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ

第三十七條及第三十八條ノ規定ハ證書ノ正本及謄本竝其ノ附屬書類ノ謄本ノ作成ニ之ヲ準用ス

第五十七條　第十八條第二項ノ規定ハ公證人遺言書ヲ作成スル場合ニ、第二十八條乃至第三十二條ノ規定ハ公證人拒絕證書ヲ作成スル場合ニ之ヲ適用セス

第五章　認證

第五十八條　公證人私署證書ニ認證ヲ與フルニハ當事者其ノ面前ニ於テ證書ニ署名若ハ捺印シタルトキ又ハ證書ノ署名若ハ捺印ヲ自認シタルトキ其ノ旨ヲ記載シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

私署證書ノ謄本ニ認證ヲ與フルニハ證書ト對照シ其ノ符合スルコトヲ認メタルトキ其ノ旨ヲ記載シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

私署證書ニ文字ノ挿入、削除、改竄、欄外ノ記載其ノ他ノ訂正アルトキ又ハ破損若ハ外見上著ク疑フヘキ點アルトキハ其ノ狀況ヲ認證文ニ記載スルコトヲ要ス

第五十九條　認證ヲ與フヘキ證書ニハ登簿番號、認證ノ年月日及其ノ場所ヲ記載シ公證人及立會人之ニ署名捺印シ且其ノ證書ト認證簿トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第六十條　第二十六條乃至第三十四條、第三十七條、第三十八條竝第三十九條第五項及第六項ノ規定ハ私署證書ニ認證ヲ與フル場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條　公證人ハ認證簿ヲ調製スヘシ

第四十五條ノ規定ハ認證簿ノ調製ニ之ヲ準用ス

第六十二條　認證簿ニハ認證ヲ與フル毎ニ進行ノ順序ヲ逐ヒ左ノ事項ヲ記入スヘシ

一　登簿番號
二　囑託人ノ住所及氏名若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所
三　證書ノ種類及署名捺印者
四　認證ノ方法
五　立會人ノ住所及氏名
六　認證ノ年月日

第三十七條及第三十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六章　代理兼務及受繼

第六十三條　公證人疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ同一區裁判所ノ管轄區域又ハ之ニ鄰接スル區裁判所ノ管轄區域內ノ公證人ニ代理ヲ囑託スルコトヲ得

公證人前項ニ依リ代理ヲ囑託シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ所屬地方裁判所長ニ屆出ツヘシ其ノ代理ヲ解キタルトキ亦同シ

第六十四條　公證人前條第一項ニ依リ代理ヲ

囑託セス又ハ之ヲ囑託スルコト能ハサルトキハ所屬地方裁判所長ハ同一區裁判所ノ管轄區域又ハ之ニ鄰接スル區裁判所ノ管轄區域內ノ公證人ニ代理ヲ命スルコトヲ得

公證人其ノ職務ヲ行フコトヲ得ルニ至リタルトキハ地方裁判所長ハ前項ノ代理ヲ解クヘシ

第六十五條 公證人ノ代理者前二條ニ依リ其ノ職務ヲ行フノ役場ハ代理セラルル公證人ノ役場トス

公證人ノ代理者職務上署名スルトキハ代理セラルル公證人ノ職氏名、所屬、役場所在地及其ノ代理者タルコトヲ記載スヘシ

第二十二條ノ規定ハ代理セラルル公證人ノ外其ノ代理者ニモ之ヲ適用ス

第六十六條 公證人ノ死亡、免職、失職又ハ轉屬ノ場合ニ於テ所屬地方裁判所長必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル官吏ヲシテ遲滯ナク役場ノ書類ニ封印ヲ爲サシムヘシ

第六十七條 公證人ノ死亡、免職、失職又ハ轉屬ノ場合ニ於テ直ニ後任者ノ任命セラレサルトキハ所屬地方裁判所長ハ同一區裁判所ノ管轄區域又ハ之ニ鄰接スル區裁判所ノ管轄區域內ノ公證人ニ兼務ヲ命スルコトヲ得

後任者其ノ職務ヲ行フコトヲ得ルニ至リタルトキハ地方裁判所長ハ前項ノ兼務ヲ解クヘシ

第六十八條 公證人ノ免職、失職又ハ轉屬ノ場合ニ於テハ後任者又ハ兼務者ハ前任者ト立會ヒ遲滯ナク書類ノ授受ヲ爲スヘシ

死亡其ノ他ノ事由ニ因リ書類ノ授受ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ後任者又ハ兼務者ハ所屬地方裁判所長ノ指定シタル官吏ノ立會ヲ以テ書類ヲ受取ルヘシ

第六十六條ニ依ル書類ノ封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼務者ハ所屬地方裁判所長ノ指定シタル官吏ノ立會ヲ以テ封印ヲ解キ書類ヲ受取ルヘシ

第六十九條 前條ノ規定ハ兼務者カ書類ヲ更ニ他ノ公證人ニ引渡スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第七十條 兼務者職務上署名スルトキハ兼務者タルコトヲ記載スヘシ

前任者又ハ兼務者ノ作成シタル證書ニ依リ後任者カ其ノ正本又ハ謄本ヲ作成スル場合ニ於テ署名スルトキハ後任者タルコトヲ記載スヘシ

第七十一條 公證人ノ死亡、免職、失職又ハ轉屬ノ場合ニ於テ定員ノ改正ニ因リ後任者ヲ要セサルトキハ司法大臣ハ同一區裁判所ノ管轄區域內ノ公證人ニ書類ノ引繼ヲ命スヘシ

第六十八條及前條第二項ノ規定ハ前項ニ依リ書類ノ引繼ヲ命セラレタル公證人ニ之ヲ準用ス

第七十二條 第六十六條、第六十七條、第六十八條第三項及第七十條第一項ノ規定ハ公證人ノ停職ノ場合ニ之ヲ準用ス

兼務者前項ニ依リ其ノ職務ヲ行フノ役場ハ停職者ノ役場トス

第七十三條 第六十八條及第六十九條ノ規定ハ區裁判所カ第八條ニ依リ公證人ノ職務ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第七章 監督及懲戒

第七十四條 公證人ハ所屬地方裁判所長ノ監督ヲ受ク

地方裁判所長ハ區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事ヲシテ其ノ管轄區域內ノ公證人ニ對スル監督事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第七十五條 司法大臣及控訴院長ハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ニ準シ公證人ヲ監督ス

第七十六條 前二條ノ監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

一 公證人ノ不適當ニ取扱ヒタル職務ニ付其ノ注意ヲ促シ及適當ニ其ノ職務ヲ取扱フヘキコトヲ之ニ訓令スルコト

二 職務ノ內外ヲ問ハス公證人ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付之ニ諭告スルコト但諭告ヲ爲ス前其ノ公證人ヲシテ辯明ヲ爲スコトヲ得セシムヘシ

第七十七條 監督官ハ公證人ノ保存スル書類ヲ檢閲シ又ハ其ノ指定シタル官吏ヲシテ之ヲ檢閲セシムルコトヲ得

第七十八條 囑託人又ハ利害關係人ハ公證人ノ事務取扱ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ抗告ハ本章ニ揭ケタル監督權ニ依リ之ヲ處分ス

第七十九條 公證人職務上ノ義務ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行爲アリタルトキハ懲戒ニ付ス

第八十條 懲戒ハ左ノ五種トス

一 譴責
二 千圓以下ノ過料
三 一年以下ノ停職
四 轉屬
五 免職

第八十一條 過料、停職、轉屬及免職ハ懲戒委員會ノ議決ニ依リ司法大臣之ヲ行フ

譴責ハ司法大臣之ヲ行フ

第八十二條 各控訴院ニ懲戒委員會ヲ設ク

懲戒委員會ハ之ヲ設置シタル控訴院ノ管轄區域內ノ地方裁判所所屬ノ公證人ニ對スル懲戒ヲ議決ス

懲戒委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條 公證人ノ懲戒手續ト刑事裁判手續トノ關係及其ノ職務停止ニ付テハ判事懲戒法ノ規定ヲ準用ス

公證人ノ停職ニ關スル規定ハ其ノ職務停止ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十四條 過料ヲ完納セサルトキハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

前項ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

公證人ノ納メタル身元保證金ハ第二十條第三項ノ場合ヲ除クノ外他ノ公課及債權ニ先チテ之ヲ過料ニ充ツ

附則

第八十五條 本法ニ於テ市區町村長ト稱スルハ之ヲ置カサル地ニ在リテハ其ノ職務ヲ行フ吏員ヲ謂フ

第八十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十七條 公證人規則ハ之ヲ廢止ス

第八十八條 本法施行ノ際公證人タル者ハ別ニ任命ノ辭令書ヲ用ヰス本法ニ依ル公證人トシ其ノ役場所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ所屬トス

第八十九條 公證人規則ニ依リ公證人ノ設ケタル役場ハ本法ニ依ル役場トス

第九十條 公證人規則ニ依リ差入レタル身元保證金ハ本法ニ依リ納メタル身元保證金トス

第九十一條 公證人規則ニ依リ囑託セラレタル代理者又ハ命セラレタル兼任者ハ本法ニ依ル代理者又ハ兼務者トス

第九十二條 本法施行前ニ著手シタル公證人ノ職務上ノ行爲ハ本法ニ依リ之ヲ完結ス

第九十三條 本法施行前ニ著手シタル公證人規則第五十八條、第五十九條及第六十一條ノ手續ハ本法ニ依リ之ヲ完結ス

第九十四條 本法施行前ニ公證人ノ事務取扱ニ對シテ爲シタル抗告ハ公證人規則ニ依リ之ヲ完結ス

第九十五條 本法施行前ニ爲シタル公證人ノ行爲ニシテ公證人規則ニ違反スルモノハ本法ニ依リ之ヲ懲戒ニ付ス但シ本法施行前ニ開始シタル懲罰手續ハ公證人規則ニ依リ之ヲ完結ス

●公證人法施行細則 （明治四十二年勅令第百八十九號ヲ以テ同年八月十六日ヨリ施行）

明治四十二年七月十二日
司法省令第十四號
改正 明治四四年第二二號
大正一〇年第八號

公證人法施行細則左ノ通相定ム

公證人法施行細則

第一條 公證人司法大臣ノ指定シタル地ニ其ノ役場ヲ設ケムトスルトキハ其ノ位置及建物ノ構造ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ

役場ヲ設ケタルトキハ遲滯ナク司法大臣ニ屆出ツヘシ

第二條 前條ノ規定ハ役場ヲ移轉スル場合ニ之ヲ準用ス

第三條 公證人ハ其ノ役場ニ公證人某役場ト記載シタル表札ヲ揭クヘシ

第四條 公證人ノ納ムヘキ身元保證金ノ額ハ左ノ區別ニ從フ

東京市及大阪市ニ役場ヲ設クル者 金千圓
人口十萬以上ノ地ニ役場ヲ設クル者 金七百圓

人口三萬以上ノ地ニ役場ヲ設クル者 金五百圓
其ノ他ノ地ニ役場ヲ設クル者 金三百圓

第五條 公證人ノ身元保證金ハ現金又ハ國債證券ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第六條 公證人期間內ニ身元保證金又ハ其ノ補充額ヲ納メサルトキハ所屬地方裁判所長ハ速ニ其ノ旨ヲ司法大臣ニ具申スヘシ

第七條 公證人法第二十條第一項ノ公告ハ地方裁判所之ヲ爲ス

前項ノ公告ハ官報ニ之ヲ爲シ且新聞紙上ニ少クトモ二回之ヲ爲スヘシ

第八條 公證人ノ職印ハ方六分トシ公證人何某ト彫刻スヘシ

第九條 公證人ノ作ルヘキ證書其ノ他ノ書面ノ用紙ハ某地方裁判所管內公證人役場ト刻シタル强靱ナル美濃罫紙ヲ用ウヘシ

第十條 公證人法ニ依リ提出スヘキ印鑑證明書ニハ氏名、住所ノ外年齡ノ記載アルコトヲ要ス

第十一條 公證人法律行爲ニ付證書ヲ作成シ又ハ認證ヲ與フル場合ニ於テ其ノ法律行爲ノ有效ナルヤ否、當事者カ相當ノ考慮ヲ爲シタルヤ否及之ヲ爲スノ能力ヲ欠缺セサルヤ否ニ付疑アルトキハ關係人ニ注意ヲ爲シ且之ヲシテ必要ナル說明ヲ爲サシムヘシ

第十二條 公證人法律行爲ニ非サル事實ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テ其ノ事實ニ因リ影響ヲ受クヘキ私權ノ關係ニ付疑アルトキハ關係人ニ注意ヲ爲シ且之ヲシテ必要ナル說明ヲ爲サシムヘシ

第十三條 法律行爲ニ付テノ證書ノ再度ノ正本ノ交付ヲ請求スル者アル場合ニ於テ其ノ正本ヲ要スル事由ニ付疑アルトキハ公證人ハ其ノ者ヲシテ其ノ事由ヲ證明セシムヘシ

第十四條 公證人囑託ヲ拒ミタル場合ニ於テ囑託人ノ請求アルトキハ其ノ理由書ヲ交付スヘシ

第十五條 公證人役場ニハ證書原簿、認證簿及確定日附簿ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一 受附簿
二 拒絕證書謄本綴込帳

第十六條 證書原簿、認證簿及受附簿ハ附錄第一號乃至第三號樣形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十七條 公證人囑託ヲ受ケタルトキハ受附簿ニ受附月日、受附番號、件名及囑託人ノ氏名、住所ヲ記載シ職務ノ完結後證書ノ番號又ハ登簿番號竝手數料、日當及旅費ノ額ヲ記入スヘシ

第十八條 受附番號ハ一曆年每ニ之ヲ更新スヘシ

第十九條 同時ニ數個ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テハ印鑑證明書又ハ警察官吏若ハ領事ノ證明書ハ一通ヲ提出スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ受附番號ノ最少キモノニ其ノ證明書ヲ連綴シ其ノ他ノ囑託ニハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ作リ之ヲ連綴スヘシ

第二十條 證書原簿及受附簿ニ囑託人ノ氏名、住所ヲ記載スル場合ニ於テ囑託人多數ナルトキハ當事者雙方各一人ノミノ氏名、住所及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第二十一條 證書ノ原本ハ番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴スヘシ

囑託ニ關シ提出シタル書類ニシテ原本ニ連綴スヘカラサルモノハ之ニ表紙ヲ附シ件名及受附番號ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴スヘシ

第二十二條 公證人ハ其ノ役場ニ附屬スル倉庫又ハ堅牢ナル建物內ニ書類ヲ保存スヘシ

第二十三條 公證人法第六十八條、第六十九條及第七十一條乃至第七十三條ニ依リ書類ノ授受ヲ爲ス場合ニ於テハ目錄ヲ作リ其ノ末尾ニ授受ノ事由及年月日ヲ記載シ授受者及立會官吏之ニ署名捺印スヘシ

第二十四條 公證人法第六十七條第一項ノ兼務者ハ自己ノ役場ニ於テ前任者ノ事務ヲ取扱フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ速ニ司法大臣ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第二十五條 代理者又ハ公證人法第七十二條ノ兼務者ハ其ノ職務ヲ行フ役場ノ見易キ場所ニ代理者某又ハ兼務者某ナルコトヲ揭示スヘシ

第二十六條 後任者又ハ公證人法第六十七條第一項ノ兼務者ハ其ノ職務ヲ行フ役場ノ見易キ場所ニ公證人某ノ後任者又ハ公證人某ノ取扱ヒタル事務ニ付テノ兼務者ナルコトヲ揭示スヘシ但シ後任者ノ爲スヘキ揭示ノ期間ハ一年トス

第二十七條 後任者ノ作成スル文書ノ番號ハ前任者又ハ兼務者ノ作成シタル文書ノ番號ノ順序ヲ追ヒテ之ヲ記載スヘシ

第二十八條 地方裁判所長ハ公證人名簿ヲ備ヘ之ニ所屬公證人ノ住所、族稱、氏名、年齡及役場所在地ヲ登錄スヘシ

第二十九條 公證人ノ死亡又ハ失職ノ場合ニ於テハ所屬地方裁判所長ハ速ニ其ノ旨ヲ司法大臣ニ具申スヘシ

第三十條 公證人司法大臣ニ書面ヲ提出スル場合ニ於テハ所屬地方裁判所長ヲ經由スヘシ但シ急ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ同時ニ地方裁判所長ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三十一條 公證人事務取扱ニ關シ疑義ヲ生シタルトキハ司法大臣ニ稟伺スルコトヲ得

第三十二條 收入印紙ヲ以テ手數料、日當及旅費ヲ區裁判所ニ納付スル場合ニ於テハ納付書ニ其ノ收入印紙ヲ貼附シテ之ヲ差出スヘシ

附則

本令ハ公證人法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

公證人法第三十六條第一號ニ依リ記載スヘキ證書ノ番號ハ公證人規則ニ依リ附シタル番號ノ順序ヲ追ヒテ之ヲ記載スヘシ

附錄第一號

證書原簿

地方裁判所所屬
公證人 役場

紙數表紙ヲ除キ 枚

地方裁判所長

訴訟表紙ヲ除キ　一枚

地方裁判所長

附錄第二號

認證簿

地方裁判所所屬
公證人　役場

證書ノ番號	證書ノ種類	嘱託人ノ住所及氏名	作成ノ年月日	備考

證書原簿

證書ノ番號	證書ノ種類	嘱託人ノ住所及氏名	作成ノ年月日	備考

登簿番號	嘱託人ノ住所及氏名	證書ノ種類	證書ノ署名捺印者	認證簿	登簿番號	嘱託人ノ住所及氏名	證書ノ種類	證書ノ署名捺印者

認證ノ方法	立會人ノ住所及氏名	認證ノ年月日	契印	備考

認證ノ方法	立會人ノ住所及氏名	認證ノ年月日	契印	備考

附錄第三號

受付簿

地方裁判所所屬
公證人　役場

月日	受附番號	件名	嘱託人ノ住所及氏名	手數料、日當及旅費	備考
月日	第　號	證書又ハ謄本ノ別			

受附簿

月日	受附番號	件名	嘱託人ノ住所及氏名	手數料、日當及旅費	備考
月日	第　號	證書又ハ謄本ノ別			

●公證人定員

（明治四十二年七月十一日司法省令第十五號）

改正　大正二年第五號、第三七號、五年第一六號、六年第七號、七年第一一號、八年第一〇號、九年第一三號、一一年第一七號、一二年第一五號、一五年第八號
昭和三年第一五號

公證人法第十條第二項ニ依リ公證人ノ定員左表ノ通相定ム
本令ハ公證人法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方裁判所	區裁判所	定員
東京	東京	四七
	八王子	一
	横濱	六
横濱	横須賀	一
	小田原	一
浦和	浦和	一
	越ヶ谷	一
	川越	一
	熊谷	一
	秩父	一
千葉	千葉	一
	佐倉	一
	一宮本郷	一
	松戸	一
	木更津	一
	北條	一
	八日市場	二
	佐原	一
	水戸	三

地方裁判所	區裁判所	定員
宇都宮	宇都宮	二
	芳賀	一
	大田原	一
	栃木	一
	足利	一
前橋	前橋	一
	沼田	一
	新田	一
	高崎	三
	中之條	一
	北甘樂	一
静岡	静岡	二
	沼津	一
	吉原	一
	下田	一
	掛川	二
	濱松	一
	鰍澤	一
甲府	甲府	二
	谷村	一
	長野	三

地方裁判所	區裁判所	定員
水戸	水戸	二
	龍ヶ崎	一
	麻生	一
	下妻	一
太田	太田	一
	土浦	一

	飯山	一
	上田	一
	岩村田	一
	松本	二
	木曾	一
長野	大町	一
	上諏訪	一
	飯田	一
	伊那	一
新潟	新潟	二
	三條	一
	新發田	一
	村上	一
	長岡	一
	柏崎	一
	六日町	一
	高田	一
	糸魚川	一
	相川	一
京都	京都	一六
	園部	一
	宮津	一
	峯山	一
	舞鶴	一
	福知山	一
大阪	大阪	二三
	堺	一
	岸和田	一
神戸	神戸	一三
	伊丹	一
	明石	一
	篠山	一
	柏原	一
	姫路	三
	社	一
	龍野	一
	豐岡	一
	洲本	一
奈良	奈良	二
	葛城	一
	宇陀	一
	五條	一
大津	大津	一
	水口	一
	彦根	二
	長濱	一
和歌山	和歌山	二
	妙寺	一
	田邊	一
	御坊	一
	新宮	一
德島	德島	三
	富岡	一
	脇町	一
	川島	一
高松	高松	二
	丸龜	一
	觀音寺	一
高知	高知	三
	須崎	一
	安藝	一
	中村	一
名古屋	名古屋	六
	一宮	一
	半田	一
	岡崎	一
	豐橋	一
	新城	一
安濃津	安濃津	二
	松阪	一
	上野	一
	四日市	二
	山田	一
	木本	一
岐阜	岐阜	三
	八幡	一
	大垣	一
	御嵩	一
	高山	一
福井	福井	二
	武生	一
	大野	一
	敦賀	一
	小濱	一
金澤	金澤	三
	小松	一
	七尾	一
	輪島	一
富山	富山	三
	魚津	一
	高岡	一
	出町	一
廣島	廣島	五
	吳	二
	竹原	一
	尾道	一
	福山	一
	三次	一
	庄原	一
山口	山口	一
	德山	一
	萩	一
	岩國	一
	下關	三

	船木	一
岡山	岡山	三
	玉島	一
	笠岡	一
	高梁	一
	新見	一
	津山	一
	勝山	一
鳥取	鳥取	二
	倉吉	一
	米子	一
松江	松江	三
	木次	一
	今市	一
	濱田	一
	益田	一
	大森	一
	西鄉	一
松山	松山	二
	大洲	一
	八幡濱	一
	西條	一
	今治	一
	宇和島	一
長崎	長崎	二
	大村	一
	島原	一
	佐世保	二
	平戸	一
	武生水	一
	福江	一
	嚴原	一
佐賀	佐賀	二
	武雄	一
	伊萬里	一
	唐津	一
福岡	福岡	四
	甘木	一
	飯塚	一
	直方	一
	久留米	二
	吉井	一
	柳河	二
	八女	一
	小倉	四
	行橋	一
	田川	一
大分	大分	二
	杵築	一
	臼杵	一
	佐伯	一
	竹田	一
	中津	一
	玉津	一
	日田	一
熊本	熊本	四
	三角	一
	高瀨	一
	御船	一
	山鹿	一
	宮地	一
	八代	一
	人吉	一
	天草	一
鹿兒島	鹿兒島	三
	加治木	一
	知覽	一
	川內	一
	鹿屋	一
	大島	一
宮崎	宮崎	二
	飫肥	一
	都城	一
	延岡	一
	高千穗	一
那覇	那覇	一
	平良	一
仙臺	仙臺	三
	大河原	一
	古川	一
	石卷	一
	登米	一
	氣仙沼	一
福島	福島	三
	相馬	一
	郡山	一
	白河	一
	若松	二
	平	一
山形	山形	一
	新庄	一
	米澤	一
	鶴岡	一
	酒田	一
盛岡	盛岡	三
	花卷	一
	二戸	一
	遠野	一
	宮古	一
	一關	一
	水澤	一
	秋田	二
	能代	一
	本莊	一

秋田				青森					函館			札幌						旭川				釧路			
大館	横手	湯澤	大曲	青森	五所川原	弘前	鰺ヶ澤	八戸	函館	江差	壽都	札幌	岩見澤	室蘭	浦河	小樽	岩内	旭川	名寄	増毛	稚内	釧路	帯廣	網走	根室
一	一	一	一	二	一	一	一	一	二	一	一	五	一	一	一	三	一	二	一	一	一	一	一	一	一

樺太	
豊原	眞岡
一	一

●公證人手數料規則

明治四十二年六月二十九日
勅令第百七十四號

朕公證人手數料規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

公證人手數料規則

第一條　公證人ノ受クヘキ手數料、日當及旅費ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　法律行爲ニ付テノ證書作成ノ手數料ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外左ノ區別ニ從フ

法律行爲ノ目的ノ價額百圓迄　一圓
同　二百五十圓迄　一圓二十五錢
同　五百圓迄　一圓五十錢
同　七百五十圓迄　一圓七十五錢
同　千圓迄　二圓
同　二千五百圓迄　二圓五十錢
同　五千圓迄　三圓
同　五千圓ヲ超過スルトキハ五萬圓迄ハ五千圓毎ニ五十錢ヲ加フ但シ五千圓ニ滿タサルモ之ヲ五千圓トス
同　五萬圓ヲ超過スルトキハ一萬圓毎ニ五十錢ヲ加フ但シ一萬圓ニ滿タサルモ之ヲ一萬圓トス

第三條　法律行爲ノ目的ノ價額ハ公證人カ證書ノ作成ニ著手シタル時ノ價額ニ依ル

第四條　當事者雙方ノ囑託ニ因リ證書ヲ作成スル場合ニ於テハ法律行爲ノ目的ノ價額ハ各給付ノ價額ヲ合算シタル額ニ依ル但シ當事者ノ一方ノ給付ノミカ金錢ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ二倍ノ額ニ依ル

第五條　當事者ノ一方ノ囑託ニ因リ證書ヲ作成スル場合ニ於テハ囑託人ノ給付ノ價額ヲ以テ法律行爲ノ目的ノ價額トス但シ相手方ノ給付カ金錢ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ額ニ依ル

第六條　主タル法律行爲ト共ニ附隨ノ法律行爲ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テハ主タル法律行爲ニ依リ手數料ヲ算定ス

第七條　債權ノ擔保ノ價額ハ其ノ目的ノ價額ト債權ノ額トヲ比較シ其ノ少キ額ニ依ル

擔保ノ移轉ヲ目的トスル法律行爲ニ付テハ擔保ノ價額ト移轉ニ因リテ擔保ヲ付セラルヘキ債權ノ額トヲ比較シ其ノ少キ額ニ依ル

擔保ノ順位ノ移轉ヲ目的トスル法律行爲ニ付テハ其ノ移轉ニ因リテ優先ノ順位ヲ取得スヘキ擔保ノ價額ト之ヲ喪フヘキ擔保ノ價額トヲ比較シ其ノ少キ額ニ依ル

第八條　地役ノ價額ハ地役ニ因リテ生スル要役地ノ増價額ト承役地ノ減價額トヲ比較シ其ノ多キ額ニ依ル

第九條　定時ノ給付ノ價額ハ全期間ノ給付ノ總價額ニ依ル但シ其ノ價額ハ動産ノ賃貸借ニ付テハ一年、不動産ノ賃貸借及商工業ノ見習ヲ目的トセサル雇傭契約ニ付テハ五年、其ノ他ノ場合ニ於テハ十年分ノ給付ノ價額ニ超ユルコトヲ得ス

期間ノ定ナキ定時ノ給付ノ價額ハ前項但書ニ定ムル期間内ノ給付ノ總價額ニ依ル

前二項ノ場合ニ於ケル相手方ノ給付ノ目的カ金錢ニ非サルトキハ其ノ價額ハ定時ノ給付ノ價額ト同一ト看做ス

第十條　當事者ノ一方ノ給付ノミノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ給付ハ相手方ノ給付ト同一ノ價額ヲ有スルモノト看做ス

第十一條　果實、損害賠償及費用カ法律行爲ノ附帶ノ目的ナルトキハ其ノ價額ハ之ヲ法律行爲ノ目的ノ價額ニ算入セス

第十二條　法律行爲ノ目的ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ目的ハ五百圓ノ價額ヲ有スルモノト看做ス但シ其ノ最低價額ノ五百圓ニ超エ又ハ其ノ最高價額ノ五百圓ニ滿タサルコト明カナルトキハ其ノ最低價額又ハ最高價額ヲ以テ法律行爲ノ目的ノ價額トス

第十三條　左ニ掲クル事項ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テハ第二條ノ區別ニ從ヒ其ノ十分ノ五ノ割合ヲ以テ手數料ヲ受ク

一　承認、許可及同意
二　當事者雙方ノ履行セサル契約ノ解除
三　遺言ノ全部又ハ一部ノ取消
四　同一ノ公證人役場ニ於テ證書ニ作成セラレタル法律行爲ノ補充又ハ更正

第十四條　法律行爲ニ付テノ證書作成ノ手數料ハ證書ノ紙數四枚ヲ超過スルトキハ超過シタル部分ニ付一枚毎ニ二十錢ヲ加フ

前項ノ紙數ハ一行二十字詰二十四行ヲ以テ一枚トス但シ一枚ニ滿タサルトキト雖之ヲ一枚トス

第十五條　法律行爲ニ非サル事實ニ付テノ證書作成ノ手數料ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ事實ノ實驗及證書ノ作成ニ要シタル時間一時間ニ付一圓トス但シ一時間ヲ超過スルトキハ一時間毎ニ五十錢ヲ加フ

前項ノ時間ハ一時間ニ滿タサルトキト雖之ヲ一時間トス

第十六條　株主總會其ノ他ノ集會ノ決議ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テハ前條ノ例ニ依リ手數料ヲ受ク

第十七條　法律行爲ト共ニ之ト牽連スル事實ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於ケル手數料ハ第十五條ノ例ニ依ル但シ其ノ額カ法律行爲ノミニ付テノ證書作成ノ手數料ノ額ヨリ少キトキハ其ノ多キ額ニ依ル

第十八條　數個ノ牽連セサル事實ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テハ手數料ノ額ハ各事實ニ付之ヲ算定ス

第十九條　祕密證書ニ依ル遺言書ノ方式ニ關スル記載ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ手數料ハ一圓トス

第二十條　委任狀、受取書又ハ拒絕證書ヲ作成スル場合ニ於テハ其ノ手數料ハ五十錢トス

第十五條第一項但書及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條　認證ノ手數料ハ證書作成ノ手數料ノ十分ノ五トス

第二十二條　私署證書ニ確定日附ヲ附スル場合ニ於テハ其ノ手數料ハ三十錢トス

第二十三條　證書ノ正本ニ執行文ヲ付與スル場合ニ於テハ其ノ手數料ハ五十錢トス

第二十四條　證書ノ正本若ハ謄本又ハ其ノ附屬書類ノ謄本ノ交付ニ付テノ手數料ハ一枚ニ付十五錢トス但シ公證人法第五十五條第一項ノ場合ニ於テハ一枚ニ付十錢トス

第十四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ

準用ス

第二十五條　證書ノ原本及其ノ附屬書類ノ閲覽ニ付テノ手數料ハ一回ニ付十錢トス

第二十六條　手數料ノ定ナキ事項ニ付テハ最類似スル事項ト同一ノ手數料ヲ受ク

第二十七條　公證人夜間ニ於テ又ハ病床ニ就キ職務ヲ執行シタルトキハ其ノ手數料ハ各本條ニ定ムル額ニ其ノ十分ノ三ヲ加フ

第二十八條　公證人職務ノ執行ニ著手シタル後囑託人ノ請求ニ因リ之ヲ止メタルトキ又ハ囑託人若ハ列席者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ之ヲ完結スルコト能ハサルトキハ第十五條ノ例ニ依リ手數料ヲ受ク但シ其ノ手數料ハ完結シタル場合ニ於テ受クヘキ手數料ノ額ニ超過スルコトヲ得ス

第二十九條　公證人其ノ職務ヲ執行スル爲出張シタルトキハ左ノ日當及旅費ヲ受ク但シ日當ヲ受クルハ一里以外ノ地ニ至リタルトキ、宿泊料ヲ受クルハ宿泊ヲ要シタルトキニ限ル

日當　一日ニ付　三圓但シ四時間以内ハ二圓
汽車賃　一哩迄毎ニ　五錢
船賃　一海里迄毎ニ　五錢
車馬賃　一里迄毎ニ　三十錢
宿泊料　一泊ニ付　三圓

第三十條　公證人ハ手數料、日當及旅費ノ額ヲ減スルコトヲ得ス

第三十一條　數人ノ囑託人アル場合ニ於テハ公證人ノ受クヘキ手數料、日當及旅費ハ各囑託人連帶シテ之ヲ支拂フヘキ責ニ任ス

第三十二條　公證人ハ公正ノ效力ヲ有セサル文書ノ作成ニ付手數料、日當及旅費ヲ受クルコトヲ得ス但シ其ノ文書ノ作成ニ付公證人ニ過失ナカリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條　公證人ハ囑託セラレタル事項ニ付其ノ職務ヲ完結シタル後ニ非サレハ手數料、日當及旅費ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

第三十四條　囑託人市區町村長ノ證明書ヲ以テ支拂ノ資力ナキコトヲ證明シタルトキハ公證人ハ手數料、日當及旅費ノ支拂ヲ假ニ免除スルコトヲ得

第三十五條　公證人ハ囑託人ヲシテ手數料、日當及旅費ノ概算額ヲ豫納セシムルコトヲ得

囑託人ハ豫納ニ代ヘテ前項ノ概算額ヲ供託スルコトヲ得

囑託人概算額ノ豫納又ハ供託ヲ爲ササルトキハ公證人ハ其ノ囑託ヲ拒ムコトヲ得

第三十六條　公證人手數料、日當及旅費ノ支拂ヲ請求スルトキハ計算書ヲ交付スルコトヲ要ス

計算書ニハ各項目ニ付本令ノ條項ヲ指示シ其ノ計算ヲ明ニスヘシ

第三十七條　囑託人手數料、日當及旅費ノ支拂ヲ爲ササルトキハ公證人ハ囑託セラレタル事項ニ付正本、謄本及執行文ノ付與ヲ拒絕スルコトヲ得

第三十八條　區裁判所カ公證人ノ職務ヲ行フ場合ニ於ケル手數料、日當及旅費ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公證人法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際未タ完結セサル事項ニ付テノ手數料、日當及旅費ハ公證人規則ニ依ル

●公證人手數料増額ニ關スル件

大正八年五月十二日
勅令第百九十四號

朕公證人手數料増額ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

第一條　公證人手數料規則ニ依ル手數料ハ當分ノ内本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増額ス

第二條　公證人手數料規則第二條及第十五條ノ手數料ハ百分ノ三十、第十九條、第二十條第一項、第二十三條及第二十五條ノ手數料ハ百分ノ五十ヲ増加ス

第三條　公證人手數料規則第十四條ノ規定ニ依リテ加フヘキ手數料及第二十四條ノ手數料ハ五錢ヲ増加ス

第四條　公證人手數料規則第十三條、第十六條、第十七條、第二十條第二項、第二十七條及第二十八條ノ規定ノ適用ニ付テハ本令ニ依リ増額シタル手數料ヲ以テ其ノ基準トス

第五條　手數料ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

附　則

本令ハ大正八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●信託表示簿及日附アル印章調製方

大正十一年十二月二十九日
司法省令第四十五號

信託表示簿及日附アル印章調製方左ノ通相定ム

第一條　公證人役場ニ備フヘキ信託表示簿及日附アル印章ハ左記雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　公證人ニ於テ信託表示簿ヲ調製シタルトキハ記入前管轄地方裁判所長ニ差出シ其ノ契印ヲ請フヘシ

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

地方裁判所所屬
公證人　　　役場

信託表示簿

紙數表紙ヲ除キ　　枚

地方裁判所長

第				號
有價證券		委託者ノ氏名	受託者ノ氏名	日附アル印章及割印
種類	番號			

第				號
有價證券		委託者ノ氏名	受託者ノ氏名	日附アル印章及割印
種類	番號			

抹消		第　號					抹消	
請求人ノ氏名	日附アル印章及割印	有價證券 種類	有價證券 番號	委託者ノ氏名	受託者ノ氏名	日附アル印章及割印	請求人ノ氏名	日附アル印章及割印

抹消		第　號					抹消	
請求人ノ氏名	日附アル印章及割印	有價證券 種類	有價證券 番號	委託者ノ氏名	受託者ノ氏名	日附アル印章及割印	請求人ノ氏名	日附アル印章及割印

日附アル印章雛形

外圓徑　一寸
內圓徑　六分

同　上
同　上

●公證人懲戒委員會規則

明治四十二年六月二十九日
勅令第百七十五號

朕公證人懲戒委員會規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
（總理、司法大臣副署）

公證人懲戒委員會規則

第一條　懲戒委員會ハ委員長一人委員四人ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條　委員長ハ控訴院長ヲ以テ之ニ充ツ
委員ハ當該控訴院ノ所在地ニ在職スル判事檢事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ命ス
委員會ニ豫備委員四人ヲ置キ前項ノ例ニ依リ之ヲ命ス

第三條　委員會ハ委員長及委員ノ全員出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第四條　委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス
前項ノ場合又ハ委員中事故アルトキ若ハ闕員アルトキハ委員長豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ス

第五條　委員長及委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第六條　委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス

第七條　委員會ニ書記二人ヲ置ク

第八條　書記ハ當該控訴院ノ裁判所書記ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第九條　書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　司法大臣ハ公證人ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證憑ヲ具ヘ書面ヲ以テ委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

第十一條　前條ノ要求アリタルトキハ委員長ハ期日ヲ定メテ委員會ヲ招集スヘシ
委員會ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第十二條　委員會ニ於テ議決ヲ爲シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ司法大臣ニ覆申スヘシ

第十三條　司法大臣ハ公證人ニシテ公證人法第十五條第一項第三號ニ該當スルモノト思料スルトキハ證憑ヲ具ヘ書面ヲ以テ委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

第十四條　前二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
委員會ノ審査手續ハ委員會之ヲ定ム

附　則

本令ハ公證人法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●公證人、辯護士、司法代書人、辨理士及計理士ノ懲戒免除ニ關スル件

昭和三年十一月十日
勅令第二百七十五號

朕公證人、辯護士、司法代書人、辨理士及計理士ノ懲戒免除ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
（總理、商工、司法大臣副署）

公證人、辯護士、司法代書人、辨理士又ハ計理士ニシテ昭和三年十一月十日前ノ所爲ニ付懲戒ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒ヲ免除ス未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒ヲ行ハス
懲戒ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルルコトナシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮公證令

大正二年三月十七日
制令第三號
改正　大正三年第二五號

朝鮮公證令

朝鮮公證令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

公正證書ノ作成及私署證書ノ認證ニ關シテハ公證人法ニ依ル但シ同法中判事懲戒法トアルハ朝鮮總督府判事懲戒令、辯護士法トアルハ辯護士ニ關スル規程、勅令トアルハ朝鮮總督府令、司法大臣トアルハ朝鮮總督、控訴院トアルハ覆審法院、控訴院長トアルハ覆審法院長、地方裁判所又ハ區裁判所トアルハ地方法院、地方裁判所長トアルハ地方法院長、區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事トアルハ地方法院支廳ノ一人ノ判事又ハ上席判事、市區町村長トアルハ市區町村長又ハ府尹若ハ面長ヲ謂フ

附　則

本令ハ大正二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮公證令施行規則

大正二年三月十七日
朝鮮總督府令第二十號
改正　大正四年第二一號、一〇年第七號、一三年第五四號

朝鮮公證令施行規則左ノ通定ム

朝鮮公證令施行規則

第一條　公證人ノ職務ハ所屬公證人アル地方法院（支廳及出張所ヲ包含セス）ヲ除クノ外當分ノ內地方法院ヲシテ之ヲ行ハシム

第一條ノ二　公證人其ノ役場ヲ設ケムトスルトキハ位置及建物ノ構造ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ所屬地方法院長ノ認可ヲ受クヘシ
役場ヲ設ケタルトキハ遲滯ナク朝鮮總督ニ屆出ツヘシ
前二項ノ規定ハ役場ヲ移轉スル場合ニ之ヲ準用ス

第一條ノ三　公證人ハ其ノ役場ニ公證人某役場ト記載シタル表札ヲ揭クヘシ

第一條ノ四　公證人ノ納ムヘキ身元保證金ノ額ハ左ノ區分ニ從フ
京城府ニ役場ヲ設クル者　金千圓
平壤府、大邱府及釜山府ニ役場ヲ設クル者　金七百圓
其ノ他ノ地ニ役場ヲ設クル者　金五百圓

第一條ノ五　公證人ノ納ムヘキ身元保證金ハ現金ニ代ヘ國債ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

第一條ノ六　公證人期間內ニ身元保證金又ハ其ノ補充額ヲ納メサルトキハ所屬地方法院長ハ速ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ具申スヘシ

第一條ノ七　公證人法第二十條第一項ノ公告ハ地方法院之ヲ爲ス
前項ノ公告ハ朝鮮總督府官報ニ之ヲ爲シ且新聞紙ニ少クトモ二回之ヲ爲スヘシ

第一條ノ八　公證人ノ職印ハ方六分トシ公證人何某ト彫刻スヘシ

第一條ノ九　公證人ノ作ルヘキ證書其ノ他ノ書面ノ用紙ハ某地方法院管內公證人役場ト刻シタル強靭ナル美濃罫紙ヲ用ウヘシ

第二條　公證人役場又ハ公證人ノ職務ヲ行フ地方法院ニハ證書原簿、認證簿及確定日附簿ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ
一　受附簿
二　拒絕證書謄本綴込帳

第三條　證書原簿、認證簿及受附簿ハ第一號乃至第三號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條ノ二　公證人又ハ公證人ノ職務ヲ行フ官吏囑託ヲ受ケタルトキハ受附簿ニ受附月日、受附番號、件名及囑託人ノ氏名、住所ヲ記載シ職務ノ完結後證書ノ番號竝手數料、日當及旅費ノ額ヲ記入スヘシ

第四條　受附番號ハ一曆年每ニ之ヲ更新スヘシ

第五條　證書原簿及受附簿ニ囑託人ノ氏名、住所ヲ記載スル場合ニ於テ囑託人多數ナルトキハ當事者雙方各一人ノミノ氏名、住所及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第六條　朝鮮公證令ニ依リ提出スヘキ印鑑證明書ニハ氏名、住所ノ外其ノ年齡ヲ記載スヘシ

第七條　同時ニ數個ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テハ印鑑證明書又ハ警察官吏若ハ領事ノ證明書ハ一通ヲ提出スルヲ以テ足ル
前項ノ場合ニ於テハ受附番號ノ最少キモノニ其ノ證明書ヲ連綴シ其ノ他ノ囑託ニハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ作リ之ヲ連綴セシムヘシ

第八條　法律行爲ニ付證書ヲ作成シ又ハ認證ヲ與フル場合ニ於テ其ノ法律行爲ノ有效ナルヤ否、當事者カ相當ノ考慮ヲ爲シタルヤ否及之ヲ爲スノ能力ヲ欠缺セサルヤ否ニ付疑アルトキハ關係人ニ注意ヲ爲シ且之ニ付テ必要ナル說明ヲ爲サシムヘシ

第九條　法律行爲ニ非サル事實ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テ其ノ事實ニ因リ影響ヲ受クヘキ私權ノ關係ニ付疑アルトキハ關係人ニ注意ヲ爲シ且之ニ付テ必要ナル說明ヲ爲サシムヘシ

第十條　法律行爲ニ付テノ證書ノ正本ノ再度ノ交付ヲ請求スル者アル場合ニ於テハ其ノ正本ヲ要スル事由ヲ疏明セシムヘシ

第十一條　公證人又ハ公證人ノ職務ヲ行フ官吏囑託ヲ拒ミタル場合ニ於テ囑託人ノ請求アルトキハ其ノ理由書ヲ交付スヘシ

第十二條　朝鮮人ニ關スル公正證書ノ正本又ハ謄本ヲ朝鮮人ニ交付スル場合ニ於テハ當事者ノ請求ニ因リ其ノ譯文ヲ付與スヘシ

第十三條　證書ノ原本ハ番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴スヘシ
囑託ニ關シ提出シタル書類ニシテ原本ニ連綴スヘカラサルモノハ之ニ表紙ヲ附シ件名及受附番號ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴スヘシ

第十四條　公證人ハ其ノ役場ニ附屬スル倉庫又ハ堅牢ナル建物內ニ書類ヲ保存スヘシ

第十五條　公證人法第六十八條、第六十九條及第七十一條乃至第七十三條ニ依リ書類ノ授受ヲ爲ス場合ニ於テハ目錄ヲ作リ其ノ末尾ニ授受ノ事由及年月日ヲ記載シ授受者及立會官吏之ニ署名捺印スヘシ
前項ノ目錄ハ作成ノ日ヨリ一箇月內ニ其ノ謄本ヲ所屬地方法院ニ差出スヘシ

第十六條　公證人法第六十七條第一項ノ竝務者ハ自己ノ役場ニ於テ前任者ノ事務ヲ取扱フコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ速ニ朝鮮總督ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第十七條　代理者又ハ公證人法第七十二條ノ竝務者ハ其ノ職務ヲ行フ役場ノ見易キ場所ニ代理者某又ハ竝務者某ナルコトヲ掲示スヘシ

第十八條　後任者又ハ公證人法第六十七條第一項ノ竝務者ハ其ノ職務ヲ行フ役場ノ見易キ場所ニ公證人某ノ後任又ハ公證人某ノ取扱ヒタル事務ニ付テノ竝務者ナルコトヲ掲示スヘシ但シ後任者ノ爲スヘキ揭示ノ期間ハ一年トス

第十九條　後任者ノ作成スル文書ノ番號ハ前任者又ハ竝務者ノ作成シタル文書ノ番號ノ順序ヲ追ヒテ之ヲ記載スヘシ

第二十條　地方法院長ハ公證人名簿ヲ備ヘ之ニ所屬公證人ノ住所、族籍、氏名、年齡及役場所在地ヲ登錄スヘシ

第二十一條　公證人ノ死亡又ハ失職ノ場合ニ於テハ所屬地方法院長ハ速ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ具申スヘシ

第二十二條　公證人朝鮮總督ニ書面ヲ提出スル場合ニ於テハ所屬地方法院長ヲ經由スヘシ但シ急ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス
前項但書ノ場合ニ於テハ同時ニ地方法院長ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第二十三條　公證人事務取扱ニ關シ疑義ヲ生シタルトキハ朝鮮總督ニ稟伺スルコトヲ得

附　則

本令ハ朝鮮公證令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

證　書　原　簿

何地方法院（何支廳）又ハ（何地方法院所屬公證人某役場）

紙數表紙ヲ除キ　枚

何地方法院長

證書ノ番號	證書ノ種類	囑託人ノ住所及氏名

證書ノ番號	證書ノ種類	囑託人ノ住所及氏名

作成ノ年月日
備考

証書原簿

証書ノ番號
証書ノ種類
嘱託人ノ住所及氏名
作成ノ年月日
備考

証書ノ番號
証書ノ種類
嘱託人ノ住所及氏名
作成ノ年月日
備考

第二號樣式

謄證書

何地方法院（何支廳）又ハ（何地方法院所屬公證人某役場）

紙數表紙ヲ除キ　枚

何地方法院長

登簿番號
嘱託人ノ住所及氏名
証書ノ種類
証書ノ番號
署名
捺印者

認證簿

登簿番號
認證ノ方法
立會人ノ住所及氏名
認證ノ年月日
契印
備考

第三號樣式

受附簿

何地方法院（何支廳）又ハ（何地方法院所屬公證人某役場）

月日　受附番號　件名　証書番號又ハ登簿番號　嘱託人ノ住所及氏名　手數料、日當及旅費　備考

同　二百五十圓迄　一圓二十五錢
同　五百圓迄　一圓五十錢
同　七百五十圓迄　一圓七十五錢
同　千圓迄　二圓
同　二千五百圓迄　二圓五十錢
同　五千圓迄　三圓
同五千圓ヲ超過スルトキハ五萬圓迄ハ五千圓毎ニ五十錢ヲ加フ但シ五千圓ニ滿タサルモノヲ五千圓トス
同五萬圓ヲ超過スルトキハ一萬圓毎ニ五十錢ヲ加フ但シ一萬圓ニ滿タサルモノヲ一萬圓トス

第二條　法律行爲ノ目的ノ價額ハ證書ノ作成ニ著手シタル時ノ價額ニ依ル

第三條　當事者雙方ノ嘱託ニ因リ證書ヲ作成スル場合ニ於テハ法律行爲ノ目的ノ價額ハ各給付ノ價額ヲ合算シタル額ニ依ル但シ當事者ノ一方ノ給付ノミカ金錢ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ二倍ノ額ニ依ル

第四條　當事者ノ一方ノ嘱託ニ因リ證書ヲ作成スル場合ニ於テハ嘱託人ノ給付ノ價額ヲ以テ法律行爲ノ目的ノ價額トス但シ相手方ノ給付カ金錢ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ額ニ依ル

第五條　主タル法律行爲ト共ニ附隨ノ法律行爲ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テハ主タル法律行爲ニ依リ手數料ヲ算定ス

第六條　債權ノ擔保ノ價額ハ其ノ目的ノ價額ト債權ノ額トヲ比較シ其ノ少キ額ニ依ル

擔保ノ移轉ヲ目的トスル法律行爲ニ付テハ擔保ノ價額ト移轉ニ因リテ擔保ヲ付セラルヘキ債權ノ額トヲ比較シ其ノ少キ額ニ依ル

擔保ノ順位ノ移轉ヲ目的トスル法律行爲ニ付テハ其ノ移轉ニ因リテ優先ノ順位ヲ取得スヘキ擔保ノ價額ト之ヲ喪フヘキ擔保ノ價額トヲ比較シ其ノ少キ額ニ依ル

第七條　地役ノ價額ハ地役ニ因リテ生スル要役地ノ增價額ト承役地ノ減價額トヲ比較シ其ノ多キ額ニ依ル

第八條　定時ノ給付ノ價額ハ全期間ノ給付ノ總價額ニ依ル但シ其ノ價額ハ動產ノ賃貸借及商工業ノ見習ヲ目的トセサル雇傭契約ニ付テハ五年、其ノ他ノ場合ニ於テハ十年分ノ給付ノ價額ヲ超エルコトヲ得ス

期間ノ定ナキ定時ノ給付ノ價額ハ前項但書ニ定ムル期間內ノ給付ノ總價額ニ依ル

前二項ノ場合ニ於ケル相手方ノ給付ノ目的カ金錢ニ非サルトキハ其ノ價額ハ定時ノ給付ノ價額ト同一ト看做ス

第九條　當事者一方ノ給付ノミノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ給付ハ相手方ノ給付ト同一ノ價額ヲ有スルモノト看做ス

第十條　果實、損害賠償及費用カ法律行爲ノ附帶ノ目的ナルトキハ其ノ價額ハ之ヲ法律行爲ノ目的ノ價額ニ算入セス

第十一條　法律行爲ノ目的ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ目的ハ五百圓ノ價額ヲ有スルモノト看做ス但シ其ノ最低價額五百圓ヲ超エ又ハ其ノ最高價額之ニ滿タサルコト明カナルトキハ其ノ最低價額又ハ最高價額ヲ以テ法律行爲ノ目的ノ價額トス

第十二條　左ニ揭ケル事項ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於ケル手數料ハ第一條ノ區別ニ從ヒ其ノ十分ノ五トス

一　承認、許可及同意
二　當事者雙方ノ履行セサル契約ノ解除
三　遺言ノ全部又ハ一部ノ取消
四　朝鮮公證令ニ依リ證書ニ作成セラレタル法律行爲ノ補充又ハ更正

第十三條　法律行爲ニ付テノ證書作成ノ手數料ハ證書ノ紙數四枚ヲ超過スルトキハ超過シタル部分ニ付一枚毎ニ二十錢ヲ加フ

前項ノ紙數ハ一行二十字詰二十四行ヲ以テ一枚トス但シ一枚ニ滿タサルトキト雖之ヲ一枚トス

第十四條　法律行爲ニ非サル事實ニ付テノ證

●朝鮮公證手數料規則

大正二年三月十七日朝鮮總督府令第二十一號
改正　大正四年第二號

朝鮮公證手數料規則左ノ通定ム

朝鮮公證手數料規則

第一條　法律行爲ニ付テノ證書作成ノ手數料ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外左ノ區別ニ從フ

法律行爲ノ目的ノ價額　手數料

百圓迄　一圓

同

書作成ノ手數料ハ本令ニ別段ノ定アル場合チ除クノ外其ノ事實ノ實驗及證書ノ作成ニ要シタル時間一時間ニ付一圓トス一時間チ超過スルトキハ一時間毎ニ五十錢チ加フ但シ一時間ニ滿タサルトキト雖之チ一時間トス

第十五條　株主總會其ノ他ノ集會ノ決議ニ付證書チ作成スル場合ニ於ケル手數料ハ前條ノ例ニ依ル

第十六條　法律行爲ト共ニ之ト牽連スル事實ニ付證書チ作成スル場合ニ於ケル手數料ハ第十四條ノ例ニ依ル但シ其ノ額カ法律行爲ノミニ付テノ證書作成ノ手數料ノ額ヨリ少キトキハ其ノ多キ額ニ依ル

第十七條　數箇ノ牽連セサル事實ニ付證書チ作成スル場合ニ於テハ手數料ノ額ハ各事實ニ付之チ算定ス

第十八條　祕密證書ニ依ル遺言書ノ方式ニ關スル記載チ爲ス場合ニ於テハ其ノ手數料ハ一圓トス

第十九條　委任狀、受取書又ハ拒絶證書チ作成スル場合ニ於テハ其ノ手數料ハ五十錢トス

前項ノ場合ニ於テ作成ニ要シタル時間一時間チ超過スルトキハ一時間毎ニ二十錢チ加フ但シ一時間ニ滿タサルトキト雖之チ一時間トス

第二十條　認證ノ手數料ハ證書作成ノ手數料ノ十分ノ五トス

第二十一條　私署證書ニ確定日附チ附スル場合ニ於テハ其ノ手數料ハ三十錢トス

第二十二條　證書ノ正本ニ執行文チ付與スル場合ニ於テハ其ノ手數料ハ五十錢トス

第二十三條　證書ノ正本若ハ謄本又ハ其ノ附屬書類ノ謄本ノ交付ニ付テノ手數料ハ一枚ニ付十五錢トス但シ公證人法第五十五條第一項ノ場合ニ於テハ一枚ニ付十錢トス

證書ノ朝鮮譯文付與ニ付テノ手數料ハ一枚ニ付五十錢トス

第十三條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之チ準用ス

第二十四條　證書ノ原本及其ノ附屬書類ノ閲覽ニ付テノ手數料ハ一回ニ付十錢トス

第二十五條　手數料ノ定ナキ事項ニ付テノ手數料ハ最類似スル事項ノ手數料ト同一トス

第二十五條ノ二　公證人夜間ニ於テ又ハ病床ニ就キ職務チ執行シタルトキハ其ノ手數料ハ各本條ニ定ムル額ニ其ノ十分ノ三チ加フ

第二十五條ノ三　公證人職務ノ執行ニ著手シタル後囑託人ノ請求ニ因リ之チ止メタルトキ又ハ囑託人若ハ列席者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ之チ完結スルコト能ハサルトキハ第十四條ノ例ニ依リ手數料チ受ク但シ其ノ手數料ハ完結シタル場合ニ於テ受クヘキ手數料ノ額ニ超過スルコトチ得ス

第二十六條　一里以外ノ地ニ出張シテ公證人ノ職務チ取扱フ場合ニ於テハ囑託人ハ手數料ノ外左ノ費用チ負擔スヘシ

日當	一日ニ付	二圓
汽車賃	一哩迄毎ニ	十錢
船賃	一海里迄毎ニ	十五錢
車馬賃	一里迄毎ニ	七十錢
宿泊料	一泊ニ付	三圓五十錢

第二十六條ノ二　公證人ハ手數料、日當及旅費ノ額チ減スルコトチ得ス

第二十七條　數人ノ囑託人アル場合ニ於テハ手數料、日當及旅費ハ各囑託人連帶シテ之チ支拂フヘキ責ニ任ス

第二十七條ノ二　公證人ハ公正ノ效力チ有セサル文書ノ作成ニ付手數料、日當及旅費チ受クルコトチ得ス但シ其ノ文書ノ作成ニ付公證人ニ過失ナカリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條ノ三　公證人ハ囑託セラレタル事項ニ付其ノ職務チ完結シタル後ニ非サレハ手數料、日當及旅費ノ支拂チ請求スルコトチ得ス

第二十七條ノ四　囑託人府尹又ハ面長ノ證明書チ以テ支拂ノ資力ナキコトチ證明シタルトキハ公證人ハ手數料、日當及旅費ノ支拂チ假ニ免除スルコトチ得

第二十八條　手數料、日當及旅費ハ囑託人チシテ其ノ概算額チ豫納セシムルコトチ得

囑託人ハ豫納ニ代ヘテ前項ノ概算額チ供託スルコトチ得

囑託人概算額ノ豫納又ハ供託チ爲ササルトキハ其ノ囑託チ拒ムコトチ得

第二十九條　手數料、日當及旅費チ納付セシムルトキハ計算書チ交付スヘシ

計算書ニハ各項目ニ付本令ノ條項チ指示シ其ノ計算チ明ニスヘシ

第二十九條ノ二　囑託人手數料、日當及旅費ノ支拂チ爲ササルトキハ公證人ハ囑託セラレタル事項ニ付正本、謄本及執行文ノ付與チ拒絶スルコトチ得

第三十條　地方法院カ公證人ノ職務チ行フ場合ニ於ケル手數料、日當及旅費ハ納付書ニ收入印紙チ貼附シテ之チ納付セシムルコトチ得

附　則

本令ハ朝鮮公證令施行ノ日ヨリ之チ施行ス

●公證手數料增額ニ關スル件

大正八年五月三十一日　朝鮮總督府令第九十九號

公證手數料增額ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　朝鮮公證手數料規則ニ依ル手數料ハ當分ノ内本令ノ定ムル所ニ依リ之チ增額ス

第二條　朝鮮公證手數料規則第一條及第十四條ノ手數料ハ百分ノ三十、第十八條、第十九條、第二十二條及第二十四條ノ手數料ハ百分ノ五十チ增加ス

第三條　朝鮮公證手數料規則第十三條ノ規定ニ依リテ加フヘキ手數料ハ五錢チ增加ス

第四條　朝鮮公證手數料規則第十二條、第十五條、第十六條、第二十五條ノ二及第二十五條ノ三ノ規定ノ適用ニ付テハ本令ニ依リテ增額シタル手數料チ以テ其ノ基準トス

第五條　手數料ニ一錢未滿ノ端數チ生シタルトキハ其ノ端數ハ之チ切捨ツ

附　則

本令ハ大正八年六月一日ヨリ之チ施行ス

●公證人懲戒委員會規則

大正四年四月二十三日　朝鮮總督府令第三十八號
改正　大正一三年第五五號

公證人懲戒委員會規則左ノ通定ム

第一條　懲戒委員會ハ委員長一人委員四人チ以テ之チ組織ス

第二條　委員長ハ懲戒委員會チ設置スル覆審法院ノ長チ以テ之ニ充ツ

委員ハ當該覆審法院ノ所在地ニ在勤スル朝鮮總督府判事又ハ檢事ノ中ヨリ朝鮮總督之チ命ス

委員會ニ豫備委員二人チ置キ前項ノ例ニ依リ之チ命ス

第三條　委員會ハ委員長及委員ノ全員出席スルニ非サレハ會議チ開クコトチ得ス

第四條　委員長事故アルトキハ上席ノ委員之チ代理ス

前項ノ場合又ハ委員中事故アルトキ若ハ闕員アルトキハ委員長豫備委員ノ中ヨリ代理チ命ス

第五條　委員長及委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトチ得ス

第六條　委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之チ決ス

第七條　委員會ニ書記一人チ置ク

第八條　書記ハ當該覆審法院ニ在職スル朝鮮總督府裁判所書記ノ中ヨリ委員長之チ命ス

第九條　書記ハ委員長ノ命チ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　朝鮮總督ハ公證人ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證憑チ具ヘ書面チ以テ委員會ノ審査チ要求スヘシ

第十一條　前條ノ要求アリタルトキハ委員長ハ期日チ定メテ委員會チ招集スヘシ

委員會ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ本人ノ出頭チ命シ又ハ辯明書チ差出サシムルコトチ得

第十二條　委員會ニ於テ議決チ爲シタルトキハ其ノ理由チ具シ朝鮮總督ニ覆申スヘシ

第十三條　朝鮮總督ハ公證人ニシテ公證人法第十五條第一項第三號ニ該當スルモノト思料スルトキハ證憑チ具ヘ書面チ以テ委員會ノ審査チ要求スヘシ

前二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之チ準用ス

第十四條　委員會ノ審査手續ハ委員會之チ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之チ施行ス

●公證人法チ臺灣ニ施行スルノ件

昭和二年七月一日　勅令第二百十號

朕公證人法チ臺灣ニ施行スルノ件チ裁可シ玆ニ之チ公布セシム（御名御璽　總理大臣副署）

公證人法ハ之チ臺灣ニ施行ス

附　則

本令ハ昭和二年七月十日ヨリ之チ施行ス

臺灣總督ハ當分ノ内其ノ指定スル地方法院出張所ノ法院書記チシテ公證人ノ職務チ行ハシムルコトチ得

●公證人法チ臺灣ニ施行スルノ件附則第二項ノ規定ニ依ル公證人ノ職務チ行フ法院書記所屬ノ地方法院出張所

昭和二年七月六日　臺灣總督府令第三十九號

昭和二年勅令第二百十號附則第二項ノ規定ニ依リ公證人ノ職務チ行フ法院書記所屬ノ地方法院出張所チ左ノ通相定ム

臺北地方法院臺東出張所
臺北地方法院花蓮港出張所
臺北地方法院玉里出張所
臺南地方法院馬公出張所

附　則

本令ハ昭和二年七月十日ヨリ之チ施行ス

●公證人法施行規則

昭和二年七月七日　臺灣總督府令第四十三號

公證人法施行規則左ノ通相定ム

公證人法施行規則

第一條　公證人臺灣總督ノ指定シタル地ニ其ノ役場チ設ケムトスルトキハ其ノ位置及建物ノ構造チ記載シタル書面チ添ヘ所屬地方法院長ノ認可チ受クヘシ

役場チ設ケタルトキハ遲滯ナク臺灣總督ニ屆出ツヘシ

第二條　前條ノ規定ハ役場チ移轉スル場合ニ之チ準用ス

第三條　公證人ハ其ノ役場ニ公證人某役場ト記載シタル表札チ揭クヘシ

第四條　公證人ノ納ムヘキ身元保證金ノ額ハ左ノ區別ニ從フ

臺北市ニ役場チ設クル者	金五百圓
其ノ他ノ地ニ役場チ設クル者	金三百圓

第五條　公證人ノ身元保證金ハ現金又ハ國債證券チ以テ之チ納付スヘシ

第六條　公證人期間内ニ身元保證金又ハ其ノ補充額チ納メサルトキハ所屬地方法院長ハ速ニ其ノ旨チ臺灣總督ニ具申スヘシ

第七條　公證人法第二十條第一項ノ公告ハ地方法院之チ爲ス

前項ノ公告ハ府報ニ二回以上之チ爲スヘシ

第八條　公證人ノ職印ハ方六分トシ公證人何某ト彫刻スヘシ

第九條　公證人ノ作ルヘキ證書其ノ他ノ書面ノ用紙ハ某地方法院管内公證人役場ト刻シタル强靱ナル美濃罫紙チ用フヘシ

第十條　公證人法ニ依リ提出スヘキ印鑑證明書ニハ氏名、住所ノ外年齡ノ記載アルコトチ要ス

第十一條　公證人法律行爲ニ付證書チ作成シ又ハ認證チ與フル場合ニ於テ其ノ法律行爲ノ有效ナルヤ否、當事者カ相當ノ考慮チ爲シタルヤ否及之チ爲スノ能力チ欠缺セサルヤ否ニ付疑アルトキハ關係人ニ注意チ爲シ且之ニ付テ必要ナル說明チ爲サシムヘシ

第十二條　公證人法律行爲ニ非サル事實ニ付證書チ作成スル場合ニ於テ其ノ事實ニ因リ影響チ受クヘキ私權ノ關係ニ付疑アルトキハ關係人ニ注意チ爲シ且之ニ付テ必要ナル說明チ爲サシムヘシ

第十三條　法律行爲ニ付テノ證書ノ再度ノ正本ノ交付チ請求スル者アル場合ニ於テ其ノ正本チ要スル事由ニ付疑アルトキハ公證人ハ其ノ者チシテ其ノ事由チ證明セシムヘシ

第十四條　公證人囑託チ拒ミタル場合ニ於テ囑託人ノ請求アルトキハ其ノ理由書チ交付スヘシ

第十五條　公證人役場ニハ證書原簿、認證簿及確定日附簿ノ外左ノ帳簿チ備フヘシ

一　受附簿
二　拒絶證書謄本綴込帳

第十六條　證書原簿、認證簿及受附簿ハ附錄第一號乃至第三號雛形ニ依リ之チ調製スヘシ

第十七條　公證人囑託チ受ケタルトキハ受附簿ニ受附月日、受附番號、件名及囑託人ノ氏名、住所チ記載シ職務ノ完結後證書ノ番號又ハ登簿番號竝手數料、日當及旅費ノ額チ記入スヘシ

第十八條　受附番號ハ一曆年毎ニ之チ更新スヘシ

第十九條　同時ニ數箇ノ囑託チ爲ス場合ニ於テハ印鑑證明書又ハ警察官吏若ハ領事ノ證明書ハ一通チ提出スルチ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ受附番號ノ最少キモノニ其ノ證明書チ連綴シ其ノ他ノ囑託ニハ其ノ旨チ記載シタル書面チ作リ之チ連綴スヘシ

第二十條　證書原簿及受附簿ニ囑託人ノ氏名、住所チ記載スル場合ニ於テ囑託人多數ナルトキハ當事者雙方各一人ノミノ氏名、住所及他ノ人員チ記載スルチ以テ足ル

第二十一條　證書ノ原本ハ番號ノ順序ニ從ヒ之チ編綴スヘシ

囑託ニ關シ提出シタル書類ニシテ原本ニ連綴スヘカラサルモノハ之ニ表紙チ附シ件名及受附番號チ記載シ受附番號ノ順序ニ從ヒ之チ編綴スヘシ

第二十二條　公證人ハ其ノ役場ニ附屬スル倉庫又ハ堅牢ナル建物内ニ書類チ保存スヘシ

第二十三條　公證人法第六十八條、第六十九條及第七十一條乃至第七十三條ニ依リ書類ノ授受チ爲ス場合ニ於テハ目錄チ作リ其ノ末尾ニ授受ノ事由及年月日チ記載シ授受者及立會官吏之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ目錄ハ作成ノ日ヨリ一箇月内ニ其ノ謄本チ所屬地方法院ニ差出スヘシ

第二十四條　公證人法第六十七條第一項ノ兼務者ハ自己ノ役場ニ於テ前任者ノ事務チ取扱フコトチ得

前項ノ場合ニ於テハ速ニ臺灣總督ニ其ノ旨チ屆出ツヘシ

第二十五條　代理者又ハ公證人法第七十二條ノ兼務者ハ其ノ職務チ行フ役場ノ見易キ場所ニ代理者某又ハ兼務者某ナルコトチ揭示スヘシ

第二十六條　後任者又ハ公證人法第六十七條第一項ノ兼務者ハ其ノ職務チ行フ役場ノ見易キ場所ニ公證人某ノ後任者又ハ公證人某ノ取扱ヒタル事務ニ付テノ兼務者ナルコトチ揭示スヘシ但シ後任者ノ爲スヘキ揭示ノ期間ハ一年トス

第二十七條　後任者又ハ兼務者ノ作成スル文書ノ番號ハ前任者又ハ兼務者ノ作成シタル文書ノ番號ノ順序チ追ヒテ之チ記載スヘシ

第二十八條　地方法院長ハ公證人名簿チ備ヘ之ニ所屬公證人ノ住所、族稱、氏名、年齡及役場所在地チ登錄スヘシ

第二十九條　公證人ノ死亡又ハ失職ノ場合ニ於テハ所屬地方法院長ハ速ニ其ノ旨チ臺灣總督ニ具申スヘシ

第三十條　公證人臺灣總督ニ書面チ提出スル場合ニ於テハ所屬地方法院長チ經由スヘシ但シ急チ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ同時ニ地方法院長ニ其ノ旨チ屆出ツヘシ

第三十一條　公證人事務取扱ニ關シ疑義チ生シタルトキハ臺灣總督ニ稟伺スルコトチ得

第三十二條　收入印紙チ以テ手數料、日當及旅費チ地方法院、地方法院支部又ハ地方法院出張所ニ納付スル場合ニ於テハ納付書ニ其ノ收入印紙チ貼附シテ之チ差出スヘシ

附　則

本令ハ昭和二年七月十日ヨリ之チ施行ス

附錄第一號

證書原簿

地方法院所屬
公證人　　役場

紙數表紙ヲ除キ　　枚

地方法院長

證書原簿

證書ノ番號	證書ノ種類	囑託人ノ住所及氏名	作成ノ年月日	備考
證書ノ番號	證書ノ種類	囑託人ノ住所及氏名	作成ノ年月日	備考

證書ノ番號	證書ノ種類	囑託人ノ住所及氏名	作成ノ年月日	備考
證書ノ番號	證書ノ種類	囑託人ノ住所及氏名	作成ノ年月日	備考

附錄第二號

認證簿

地方法院所屬

公證人　　役場

紙數表紙ヲ除キ　　枚

地方法院長

認證簿

登簿番號	囑託人ノ住所及氏名	證書ノ種類	證書ノ署名捺印者	
認證ノ方法	立會人ノ住所及氏名	認證ノ年月日	契印	備考

登簿番號	囑託人ノ住所及氏名	證書ノ種類	證書ノ署名捺印者	
認證ノ方法	立會人ノ住所及氏名	認證ノ年月日	契印	備考

附錄第三號

受附簿

地方法院所屬

公證人　　役場

月日	受附番號	件名	證書番號又ハ登簿番號	囑託人ノ住所及氏名	手數料、日當及旅費	備考
月　日	第　號		第　號			
月　日	第　號		第　號			
月　日	第　號		第　號			

月日	受附番號	件名	證書番號又ハ登簿番號	囑託人ノ住所及氏名	手數料、日當及旅費	備考
月　日	第　號		第　號			

受附簿

月日	受附番號	件名	證書番號又ハ登簿番號	囑託人ノ住所及氏名	手數料、日當及旅費	備考
月　日	第　號		第　號			
月　日	第　號		第　號			
月　日	第　號		第　號			
月　日	第　號		第　號			

●公證人定員

（昭和二年七月六日臺灣總督府令第四十號）

公證人法第十條第二項ニ依リ公證人ノ定員左ノ通相定ム

臺北地方法院　二人
臺中地方法院　一人
臺南地方法院　一人

附　則

本令ハ昭和二年七月十日ヨリ之ヲ施行ス

●公證人手數料規程

（昭和二年七月七日臺灣總督府令第四十四號）

公證人手數料規程左ノ通相定ム

公證人手數料規程

第一條　公證人ノ受クヘキ手數料、日當及旅費ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　法律行爲ニ付テノ證書作成ノ手數料ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外左ノ區別ニ從フ

法律行爲ノ目的ノ價額百圓迄　一圓三十錢
同　二百五十圓迄　一圓七十錢
同　五百圓迄　二圓
同　千圓迄　三圓
同　五千圓迄　五圓
同五千圓ヲ超過スルトキハ五千圓每ニ一圓ヲ加フ但シ五千圓ニ滿タサルモ之ヲ五千圓トス

第三條　法律行爲ノ目的ノ價額ハ公證人カ證書ノ作成ニ著手シタル時ノ價額ニ依ル

第四條　當事者雙方ノ囑託ニ因リ證書ヲ作成スル場合ニ於テハ法律行爲ノ目的ノ價額ハ各給付ノ價額ヲ合算シタル額ニ依ル但シ當事者ノ一方ノ給付ノミカ金錢ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ二倍ノ額ニ依ル

第五條　當事者ノ一方ノ囑託ニ因リ證書ヲ作成スル場合ニ於テハ囑託人ノ給付ノ價額ヲ以テ法律行爲ノ目的ノ價額トス但シ相手方ノ給付カ金錢ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ額ニ依ル

第六條　主タル法律行爲ト共ニ附隨ノ法律行爲ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テハ主タル法律行爲ニ依リ手數料ヲ算定ス

第七條　債權ノ擔保ノ價額ハ其ノ目的ノ價額ト債權ノ額トヲ比較シ其ノ少キ額ニ依ル

擔保ノ移轉ヲ目的トスル法律行爲ニ付テハ擔保ノ價額ト移轉ニ因リテ擔保ヲ付セラルヘキ債權ノ額トヲ比較シ其ノ少キ額ニ依ル

擔保ノ順位ノ移轉ヲ目的トスル法律行爲ニ付テハ其ノ移轉ニ因リテ優先ノ順位ヲ取得スヘキ擔保ノ價額ト之ヲ喪フヘキ擔保ノ價額トヲ比較シ其ノ少キ額ニ依ル

第八條　地役ノ價額ハ地役ニ因リテ生スル要役地ノ增價額ト承役地ノ減價額トヲ比較シ其ノ多キ額ニ依ル

第九條　定時ノ給付ノ價額ハ全期間ノ給付ノ總價額ニ依ル但シ其ノ價額ハ動產ノ賃貸借ニ付テハ一年、不動產ノ賃貸借及商工業ノ見習ヲ目的トセサル雇傭契約ニ付テハ五年、其ノ他ノ場合ニ於テハ十年分ノ給付ノ價額ニ超ユルコトヲ得ス

期間ノ定ナキ定時ノ給付ノ價額ハ前項但書ニ定ムル期間內ノ給付ノ總價額ニ依ル

前二項ノ場合ニ於ケル相手方ノ給付ノ目的カ金錢ニ非サルトキハ其ノ價額ハ定時ノ給付ノ價額ト同一ト看做ス

第十條　當事者一方ノ給付ノミノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ給付ハ相手方ノ給付ト同一ノ價額ヲ有スルモノト看做ス

第十一條　果實、損害賠償及費用カ法律行爲ノ附帶ノ目的ナルトキハ其ノ價額ハ之ヲ法律行爲ノ目的ノ價額ニ算入セス

第十二條　法律行爲ノ目的ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ目的ハ五百圓ノ價額ヲ有スルモノト看做ス但シ其ノ最低價額五百圓ニ超エ又ハ其ノ最高價額之ニ滿タサルコト明カナルトキハ其ノ最低價額又ハ最高價額ヲ以テ法律行爲ノ目的ノ價額トス

第十三條　左ニ掲クル事項ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テハ第二條ノ區別ニ從ヒ其ノ十分ノ五ノ割合ヲ以テ手數料ヲ受ク

一　承認、許可及同意
二　當事者雙方ノ履行セサル契約ノ解除
三　遺言ノ全部又ハ一部ノ取消
四　同一ノ公證人役場ニ於テ證書ニ作成セラレタル法律行爲ノ補充又ハ更正

第十四條　法律行爲ニ付テノ證書作成ノ手數料ハ證書ノ紙數四枚ヲ超過スルトキハ超過シタル部分ニ付一枚每ニ二十五錢ヲ加フ

前項ノ紙數ハ一行二十字詰二十四行ヲ以テ一枚トス但シ一枚ニ滿タサルトキト雖之ヲ一枚トス

第十五條　法律行爲ニ非サル事實ニ付テノ證書作成ノ手數料ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ事實ノ實驗及證書ノ作成ニ要シタル時間一時間ニ付一圓三十錢トス但シ一時間ヲ超過スルトキハ一時間每ニ六十五錢ヲ加フ

前項ノ時間ハ一時間ニ滿タサルトキト雖之ヲ一時間トス

第十六條　株主總會其ノ他ノ集會ノ決議ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テハ前條ノ例ニ依リ手數料ヲ受ク

第十七條　法律行爲ト共ニ之ト牽連スル事實ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於ケル手數料ハ第十五條ノ例ニ依ル但シ其ノ額カ法律行爲ノミニ付テノ證書作成ノ手數料ノ額ヨリ少キトキハ其ノ多キ額ニ依ル

第十八條　數個ノ牽連セサル事實ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テハ手數料ノ額ハ各事實ニ付之ヲ算定ス

第十九條　祕密證書ニ依ル遺言書ノ方式ニ關スル記載ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ手數料ハ一圓五十錢トス

第二十條　委任狀、受取書又ハ拒絕證書ヲ作成スル場合ニ於テハ其ノ手數料ハ七十五錢トス

第十五條第一項但書及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條　認證ノ手數料ハ證書作成ノ手數料ノ十分ノ五トス

第二十二條　私署證書ニ確定日附ヲ附スル場合ニ於テハ其ノ手數料ハ三十錢トス

第二十三條　證書ノ正本ニ執行文ヲ付與スル場合ニ於テハ其ノ手數料ハ七十五錢トス

第二十四條　證書ノ正本若ハ謄本又ハ其ノ附屬書類ノ謄本ノ交付ニ付テノ手數料ハ一枚ニ付二十錢トス但シ公證人法第五十五條第一項ノ場合ニ於テハ一枚ニ付十五錢トス

第十四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條　證書ノ原本及其ノ附屬書類ノ閱覽ニ付テノ手數料ハ一回ニ付十五錢トス

第二十六條　手數料ノ定ナキ事項ニ付テハ最類似スル事項ト同一ノ手數料ヲ受ク

第二十七條　公證人夜間ニ於テ又ハ病床ニ就キ職務ヲ執行シタルトキハ其ノ手數料ハ各本條ニ定ムル額ニ其ノ十分ノ三ヲ加フ

第二十八條　公證人職務ノ執行ニ著手シタル後囑託人ノ請求ニ因リ之ヲ止メタルトキ又ハ囑託人若ハ列席者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ之ヲ完結スルコト能ハサルトキハ第十五條ノ例ニ依リ手數料ヲ受ク但シ其ノ手數料ハ完結シタル場合ニ於テ受クヘキ手數料ノ額ニ超過スルコトヲ得ス

第二十九條　公證人其ノ職務ヲ執行スル爲出張シタルトキハ左ノ日當及旅費ヲ受ク但シ日當ヲ受クルハ一里以外ノ地ニ至リタルトキ、宿泊料ヲ受クルハ宿泊ヲ要シタルトキニ限ル

日當　一日ニ付　三圓
汽車賃　一哩ニ付　十錢
船賃　一浬ニ付　十錢
車馬賃　一里ニ付　六十錢
宿泊料　一夜ニ付　五圓

第三十條　公證人ハ手數料日當及旅費ノ額ヲ減スルコトヲ得ス

第三十一條　手數料ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第三十二條　數人ノ囑託人アル場合ニ於テハ公證人ノ受クヘキ手數料、日當及旅費ハ各囑託人連帶シテ之ヲ支拂フヘキ責ニ任ス

第三十三條　公證人ハ公正ノ效力ヲ有セサル文書ノ作成ニ付手數料、日當及旅費ヲ受クルコトヲ得ス但シ其ノ文書ノ作成ニ付公證人ニ過失ナカリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條　公證人ハ囑託セラレタル事項ニ付其ノ職務ヲ完結シタル後ニ非サレハ手數料、日當及旅費ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

第三十五條　囑託人市尹街庄長又ハ區長ノ證明書ヲ以テ支拂ノ資力ナキコトヲ證明シタルトキハ公證人ハ手數料、日當及旅費ノ支拂ヲ假ニ免除スルコトヲ得

第三十六條　公證人ハ囑託人ヲシテ手數料、日當及旅費ノ概算額ヲ豫納セシムルコトヲ得

囑託人ハ豫納ニ代ヘテ前項ノ概算額ヲ供託スルコトヲ得

囑託人概算額ノ豫納又ハ供託ヲ爲ササルトキハ公證人ハ其ノ囑託ヲ拒ムコトヲ得

第三十七條　公證人手數料、日當及旅費ノ支拂ヲ請求スルトキハ計算書ヲ交付スルコトヲ要ス

計算書ニハ各項目ニ付本令ノ條項ヲ指示シ其ノ計算ヲ明カニスヘシ

第三十八條　囑託人手數料、日當及旅費ノ支拂ヲ爲ササルトキハ公證人ハ囑託セラレタル事項ニ付正本、謄本及執行文ノ付與ヲ拒絕スルコトヲ得

第三十九條　地方法院、地方法院支部及地方法院出張所カ公證人ノ職務ヲ行フ場合ニ於ケル手數料、日當及旅費ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和二年七月十日ヨリ之ヲ施行ス

●公證人懲戒委員會規則

（昭和二年七月六日臺灣總督府令第三十八號）

公證人懲戒委員會規則左ノ通相定ム

公證人懲戒委員會規則

第一條　懲戒委員會ハ委員長一人委員四人ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條　委員長ハ高等法院長ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ高等法院ノ所在地ニ在職スル判官、檢察官ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

委員會ニ豫備委員三人ヲ置キ前項ノ例ニ依リ之ヲ命ス

第三條　委員會ハ委員長及委員ノ全員出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第四條　委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

前項ノ場合又ハ委員中事故アルトキ若ハ闕員アルトキハ委員長豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ス

第五條　委員長及委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第六條　委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス

第七條　委員會ニ書記二人ヲ置ク

第八條　書記ハ高等法院ノ書記ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第九條　書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　臺灣總督ハ公證人ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證憑ヲ具ヘ書面ヲ以テ委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

第十一條　前條ノ要求アリタルトキハ委員長ハ期日ヲ定メテ委員會ヲ招集スヘシ

委員會ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ本人ノ

出頭ヲ命スルコトヲ得

第十二條　委員會ニ於テ議決ヲ爲シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ臺灣總督ニ報申スヘシ

第十三條　臺灣總督ハ公證人ニシテ公證人法第十五條第一項第三號ニ該當スルモノト思料スルトキハ證憑ヲ具ヘ書面ヲ以テ委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

前二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　委員會ノ審査手續ハ委員會之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和二年七月十日ヨリ之ヲ施行ス

●地方法院ヲシテ公證人ノ職務ヲ行ハシムルノ件

昭和二年七月八日臺灣總督府告示第八十五號

公證人法施行ノ日ヨリ臺北市、臺中市及臺南市ニ於テ公證人其ノ職務ヲ行フコトヲ得ルニ至ル迄ハ其ノ地ニ在ル地方法院ヲシテ公證人ノ職務ヲ行ハシム

第五款　司法代書人

●司法代書人法

大正八年四月十日法律第四十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル司法代書人法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

司法代書人法

第一條　本法ニ於テ司法代書人ト稱スルハ他人ノ囑託ヲ受ケ裁判所及檢事局ニ提出スヘキ書類ノ作製ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條　司法代書人ハ地方裁判所ノ所屬トス

第三條　司法代書人ハ地方裁判所長ノ監督ヲ受ク

地方裁判所長ハ區裁判所判事ヲシテ司法代書人ニ對スル監督事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第四條　司法代書人タルニハ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五條　司法代書人ハ地方裁判所長ノ定ムル書記料ヲ受ク

第六條　司法代書人ハ事務所ヲ設ケ地方裁判所長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第七條　司法代書人ハ正當ノ事由アルニ非サレハ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　司法代書人ハ當事者ノ一方ノ囑託ニ依リテ取扱ヒタル事件ニ付相手方ノ爲ニ書類ノ作製ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　司法代書人ハ其ノ業務ノ範圍ヲ超エテ他人間ノ訴訟其ノ他ノ事件ニ關與スルコトヲ得ス

第十條　司法代書人ハ其ノ取扱ヒタル事件ヲ漏泄スルコトヲ得ス但シ裁判所又ハ檢事局ニ於テ訊問ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　司法代書人其ノ業務上ノ義務ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ地方裁判所長ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ左ニ掲クル處分ヲ爲スコトヲ得

一　業務ノ禁止又ハ停止

二　五百圓以下ノ過料

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ノ處分ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正八年勅令第二百八十七號ヲ以テ同年九月十五日ヨリ施行）

●司法代書人法施行細則

大正八年六月十一日司法省令第九號
改正　大正一〇年第六號

司法代書人法施行細則左ノ通相定ム

司法代書人法施行細則

第一條　司法代書人タルノ認可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ住所、族稱、氏名、年齡及履歷竝事務所ノ位置ヲ具シ所屬地方裁判所長ニ願書ヲ差出スヘシ

第二條　司法代書人事務所ヲ移轉セムトスルトキハ新事務所ノ位置ヲ具シ所屬地方裁判所長ニ願出ツヘシ

第三條　司法代書人事務所ヲ設ケ又ハ之ヲ移轉シタルトキハ遲滯ナク之ヲ所屬地方裁判所長ニ届出ツヘシ

第四條　司法代書人ハ其ノ事務所ニ何地方裁判所長認可司法代書人某事務所ト記載シタル表札ヲ掲クヘシ

第五條　司法代書人ハ所屬地方裁判所長ノ定ムル樣式ニ從ヒ業務上使用スヘキ印章ヲ作リ其ノ印鑑ニ氏名ヲ自署シ之ヲ所屬地方裁判所長ニ差出スヘシ

第六條　司法代書人ハ事務所内諸易キ場所ニ書記料額ヲ掲示スヘシ

第七條　司法代書人ハ事件簿ヲ調製シ之ニ囑託ヲ受ケタル年月日、件名、囑託人ノ氏名住所、作製シタル書類ノ紙數及書記料ヲ記載スヘシ

第八條　司法代書人ハ其ノ作製シタル書類ノ末尾ニ書記料ノ額ヲ附記シ署名、捺印スヘシ

第九條　司法代書人廢業シタルトキハ本人ヨリ、死亡シタルトキハ其ノ家族又ハ同居者ヨリ遲滯ナク其ノ旨ヲ所屬地方裁判所長ニ届出ツヘシ

第十條　地方裁判所長ハ司法代書人名簿ヲ備ヘ之ニ所屬司法代書人ノ住所、族稱、氏名、年齡及事務所ヲ記載スヘシ

第十一條　地方裁判所長司法代書人ノ書記料ヲ定メタルトキハ控訴院長ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十二條　地方裁判所長司法代書人ノ監督ニ關スル規程ヲ設ケタルトキハ控訴院長ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十三條　地方裁判所長ハ司法代書人ノ行狀及業務ノ取扱ニ關シ訓諭スルコトヲ得

第十四條　地方裁判所長ハ司法代書人ノ保存スル事件簿其ノ他ノ書類ヲ檢閲シ若ハ其ノ提出ヲ命シ又ハ其ノ指定シタル官吏ヲシテ之ヲ檢閲セシムルコトヲ得

第十五條　司法代書人業務ノ禁止又ハ停止ノ處分ヲ受ケタルトキハ其ノ表札ヲ撤去スヘシ

附　則

本令ハ大正八年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮司法代書人令

大正十三年十二月二十四日制令第五號

朝鮮司法代書人令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮司法代書人令

司法代書人ニ關シテハ司法代書人法ニ依ル但シ同法中司法大臣トアルハ朝鮮總督、地方裁判所トアルハ地方法院、地方裁判所長トアルハ地方法院長、區裁判所判事トアルハ地方法院支廳ノ判事トス

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

（大正十四年朝鮮總督府令第十二號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

●朝鮮司法代書人令施行規則

大正十四年三月十六日朝鮮總督府令第十三號

朝鮮司法代書人令施行規則左ノ通定ム

朝鮮司法代書人令施行規則

第一條　司法代書人タルノ認可ヲ受ケムトスル者ハ本籍、住所、氏名（又ハ雅名以下同シ）生年月日及事務所ノ位置ヲ記シタル願書ニ履歷書ヲ添ヘ所屬地方法院長ニ差出スヘシ

第二條　地方法院長司法代書人タルノ認可ヲ爲シタルトキハ樣式第一號ニ依リ認可證ヲ交付スヘシ

第三條　司法代書人ハ認可證ヲ受ケタル日ヨリ一月内ニ事務所ヲ設ケ遲滯ナク所屬地方法院長ニ届出ツヘシ

第四條　司法代書人事務所ヲ移轉セムトスルトキハ所屬地方法院長ノ認可ヲ受クヘシ

司法代書人事務所ヲ移轉シタルトキハ遲滯ナク之ヲ所屬地方法院長ニ届出ツヘシ

第五條　司法代書人ハ其ノ事務所ニ樣式第二號ニ依ル表札ヲ掲クヘシ

第六條　司法代書人ハ樣式第三號ニ依リ氏名ヲ自署シ業務上使用スヘキ印鑑ヲ所屬地方法院長ニ届出ツヘシ

第七條　司法代書人ハ事務所内諸易キ場所ニ書記料ヲ掲示スヘシ

第八條　司法代書人ハ樣式第四號ニ依リ事件簿ヲ調製シ記載前所屬地方法院長ノ契印ヲ請フヘシ

地方法院長前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ事件簿ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ毎葉ノ綴目ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スヘシ

第九條　司法代書人囑託ニ基キ書類ヲ作製シタルトキハ事件簿ニ囑託ヲ受ケタル年月日、件名、書類ノ紙數、書記料及囑託人ノ住所氏名ヲ記載スヘシ囑託人多數ナルトキハ内一人ノ住所氏名及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第十條　司法代書人ハ事件簿滅失毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ遲滯ナク之ヲ所屬地方法院長ニ届出ツヘシ

第十一條　司法代書人ハ事件簿ヲ記載終了ノ翌年ヨリ五年間保存スヘシ事務ノ禁止若ハ停止ノ處分ヲ受ケ又ハ廢業シタルトキ亦同シ

第十二條　司法代書人ハ其ノ作製シタル書類ノ末尾ニ書記料ヲ附記シ署名捺印スヘシ

第十三條　司法代書人ハ囑託人ニ書記料ノ領收證ヲ交付スヘシ

領收證ハ樣式第五號ニ依リ料金額竝書類ノ種別及紙數ヲ記載シ署名捺印スヘシ

第十四條　司法代書人ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ十日内ニ其ノ旨所屬地方法院長ニ届出ツヘシ

一　本籍、住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキ

二　廢業シタルトキ

司法代書人死亡シタル場合ニ於テハ戸主、家族又ハ同居者ヨリ十日内ニ其ノ旨所屬地方法院長ニ届出ツヘシ

第十五條　司法代書人ハ左ノ各號ニ規定スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一　書類ノ作製ニ付名義ノ如何ヲ問ハス書記料ノ外報酬ヲ請求シ又ハ之ヲ受クルコト

二　囑託人ノ印顆又ハ其ノ署名捺印シタル白紙ヲ領置スルコト

三　故意ニ書類ノ紙數ヲ增加シ又ハ不必要ノ書類ヲ作製スルコト

四　住所又ハ事務所ニ於テ他人ヲシテ法律事務ヲ取扱ハシメ又ハ之ヲ他人ノ法律事務所ニ貸與スルコト

第十六條　地方法院長ハ樣式第六號ニ依リ司法代書人名簿ヲ備ヘ司法代書人ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第十七條　司法代書人業務ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキハ遲滯ナク認可證ヲ所屬地方法院長ニ返納シ表札ヲ撤去スヘシ司法代書人業務ヲ停止セラレタルトキハ停止期間表札ヲ撤去スヘシ

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス

一　認可ヲ受ケスシテ司法代書ノ業務ニ從事シタル者

二　司法代書ノ業務ノ禁止又ハ停止ノ處分ニ違反シ業務ニ從事シタル者

三　本令ニ違反シタル司法代書人

四　事件簿ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者

五　事件簿其ノ他ノ業務ニ關スル書類ノ檢閲ヲ拒絶シ又ハ其ノ提出ノ命令ニ違反シタル者

第十九條　司法代書人ハ他人ヲシテ其ノ業務ヲ補助セシメタル場合ニ於テ補助者ノ行爲ニ付自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本令ニ規定スル罰則ノ適用ヲ免ルルコトヲ得ス

附　則

本令ハ朝鮮司法代書人令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式略ス）

●司法代書人法ノ施行ニ關スル件

大正十二年三月二日臺灣總督府令第三十三號

司法代書人法ノ施行ニ關シテハ大正八年司法省令第九號司法代書人法施行細則ニ依ル但シ同令中司法大臣トアルハ臺灣總督、控訴院長トアルハ高等法院長、地方裁判所長トアルハ地方法院長トス

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二章　民事

第一款　民法

●民法第一編第二編第三編

明治二十九年四月二十七日法律第八十九號
改正　明治三四年第三六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法中修正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

民法第一編第二編第三編別冊ノ通定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十三年法律第二十八號民法財産編財産取得編債權擔保編證據編ハ此法律發布ノ日ヨリ廢止ス

（別冊）

民法

第一編　總則
第一章　人
第一節　私權ノ享有
第二節　能力
第三節　住所
第四節　失踪
第二章　法人
第一節　法人ノ設立
第二節　法人ノ管理
第三節　法人ノ解散
第四節　罰則
第三章　物
第四章　法律行爲
第一節　總則
第二節　意思表示
第三節　代理
第四節　無效及ヒ取消
第五節　條件及ヒ期限
第五章　期間
第六章　時效
第一節　總則
第二節　取得時效
第三節　消滅時效
第二編　物權
第一章　總則
第二章　占有權
第一節　占有權ノ取得
第二節　占有權ノ效力
第三節　占有權ノ消滅

第四節　準占有
第三章　所有權
第一節　所有權ノ限界
第二節　所有權ノ取得
第三節　共有
第四章　地上權
第五章　永小作權
第六章　地役權
第七章　留置權
第八章　先取特權
第一節　總則
第二節　先取特權ノ種類
第一款　一般ノ先取特權
第二款　動產ノ先取特權
第三款　不動產ノ先取特權
第三節　先取特權ノ順位
第四節　先取特權ノ效力
第九章　質權
第一節　總則
第二節　動產質
第三節　不動產質
第四節　權利質
第十章　抵當權
第一節　總則
第二節　抵當權ノ效力
第三節　抵當權ノ消滅
第三編　債權
第一章　總則
第一節　債權ノ目的
第二節　債權ノ效力
第三節　多數當事者ノ債權
第一款　總則
第二款　不可分債務
第三款　連帶債務
第四款　保證債務
第四節　債權ノ讓渡
第五節　債權ノ消滅
第一款　辨濟
第二款　相殺
第三款　更改
第四款　免除
第五款　混同
第二章　契約
第一節　總則
第一款　契約ノ成立
第二款　契約ノ效力
第三款　契約ノ解除
第二節　贈與
第三節　賣買
第一款　總則
第二款　賣買ノ效力
第三款　買戻
第四節　交換
第五節　消費貸借
第六節　使用貸借
第七節　賃貸借
第一款　總則
第二款　賃貸借ノ效力
第三款　賃貸借ノ終了
第八節　雇傭
第九節　請負
第十節　委任
第十一節　寄託
第十二節　組合
第十三節　終身定期金
第十四節　和解
第三章　事務管理
第四章　不當利得
第五章　不法行爲
民法
第一編　總則
第一章　人
第一節　私權ノ享有
第一條　私權ノ享有ハ出生ニ始マル
第二條　外國人ハ法令又ハ條約ニ禁止アル場合ヲ除ク外私權ヲ享有ス
第二節　能力
第三條　滿二十年ヲ以テ成年トス
第四條　未成年者カ法律行爲ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但單ニ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ルヘキ行爲ハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得
第五條　法定代理人カ目的ヲ定メテ處分ヲ許シタル財產ハ其目的ノ範圍内ニ於テ未成年者間窟ニ之ヲ處分スルコトヲ得目的ヲ定メスシテ處分ヲ許シタル財產ヲ處分スル亦同シ
第六條　一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタル未成年者ハ其營業ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス
前項ノ場合ニ於テ未成年者カ未タ其營業ニ堪ヘサル事跡アルトキハ其法定代理人ハ親族會ノ規定ニ從ヒ其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得
第七條　心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ裁判所ハ本人、配偶者、四親等内ノ親族、戶主、後見人、保佐人又ハ檢事ノ請求ニ因リ禁治產ノ宣告ヲ爲スコトヲ得
第八條　禁治產者ハ之ヲ後見ニ付ス
第九條　禁治產者ノ行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得
第十條　禁治產ノ原因止ミタルトキハ裁判所ハ第七條ニ揭ケタル者ノ請求ニ因リ其宣告ヲ取消スコトヲ要ス
第十一條　心神耗弱者、聾者、唖者、盲者及ヒ浪費者ハ準禁治產者トシテ之ニ保佐人ヲ附スルコトヲ得
第十二條　準禁治產者カ左ニ揭ケタル行爲ヲ爲スニハ其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
一　元本ヲ領收シ又ハ之ヲ利用スルコト
二　借財又ハ保證ヲ爲スコト
三　不動產又ハ重要ナル動產ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト
四　訴訟行爲ヲ爲スコト
五　贈與、和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト
六　相續ヲ承認シ又ハ之ヲ拋棄スルコト
七　贈與若ハ遺贈ヲ拒絕シ又ハ負擔附ノ贈與若ハ遺贈ヲ受諾スルコト
八　新築、改築、增築又ハ大修繕ヲ爲スコト
九　第六百二條ニ定メタル期間ヲ超ユル賃貸借ヲ爲スコト
第十三條　第七條及ヒ第十條ノ規定ハ準禁治產者ニ之ヲ準用ス
第十四條　妻カ左ニ揭ケタル行爲ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
一　第十二條第一項第一號乃至第六號ニ揭ケタル行爲ヲ爲スコト
二　贈與若ハ遺贈ヲ受諾シ又ハ之ヲ拒絕スルコト
三　身體ニ羈絆ヲ受クヘキ契約ヲ爲スコト
前項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得
第十五條　一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタル妻ハ其營業ニ關シテハ獨立人ト同一ノ能力ヲ有ス
第十六條　夫ハ其與ヘタル許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得但其取消又ハ制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第十七條　左ノ場合ニ於テハ妻ハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス
一　夫ノ生死分明ナラサルトキ
二　夫カ妻ヲ遺棄シタルトキ
三　夫カ禁治產者又ハ準禁治產者ナルトキ
四　夫カ痴癇ノ爲メ病院又ハ私宅ニ監置セラルルトキ
五　夫カ禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ其刑ノ執行中ニ在ルトキ
六　夫婦ノ利益相反スルトキ
第十八條　夫カ未成年者ナルトキハ第四條ノ規定ニ依ルニ非サレハ妻ノ行爲ヲ許可スル裁判所ハ場合ニ依リ準禁治產者カ前項ニ揭ケシタル行爲ヲ爲スニモ亦其保佐人ノ同意アルコトヲ要スル旨ヲ宣告スルコトヲ得
前二項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得
第十九條　無能力者ノ相手方ハ其無能力者カ能力者ト爲リタル後之ニ對シテ一个月以上ノ期間内ニ其取消シ得ヘキ行爲ヲ追認スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ無能力者カ其期間内ニ確答ヲ發セサルトキハ其行爲ヲ追認シタルモノト看做ス
無能力者カ未タ能力者トナラサル時ニ於テ夫又ハ法定代理人ニ對シ前項ノ催告ヲ爲スモ其期間内ニ確答ヲ發セサルトキ亦同シ但法定代理人ニ對シテハ其權限内ノ行爲ニ付テノミ此催告ヲ爲スコトヲ得
特別ノ方式ヲ要スル行爲ニ付テハ右ノ期間内ニ其方式ヲ踐ミタル通知ヲ發セサルトキハ之ヲ取消シタルモノト看做ス
準禁治產者及ヒ妻ニ對シテハ第一項ノ期間内ニ保佐人ノ同意又ハ夫ノ許可ヲ得テ其行爲ヲ追認スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ準禁治產者又ハ妻カ其期間内ニ右ノ同意又ハ許可ヲ得タル通知ヲ發セサルトキハ之ヲ取消シタルモノト看做ス
第二十條　無能力者カ能力者タルコトヲ信セシムル爲メ詐術ヲ用ヰタルトキハ其行爲ヲ取消スコトヲ得ス
第三節　住所
第二十一條　各人ノ生活ノ本據ヲ以テ其住所トス
第二十二條　住所ノ知レサル場合ニ於テハ居所ヲ以テ住所ト看做ス
第二十三條　日本ニ住所ヲ有セサル者ハ其日本人タルト外國人タルトヲ問ハス日本ニ於ケル居所ヲ以テ其住所ト看做ス但法例ノ定ムル所ニ從ヒ其住所ノ法律ニ依ルヘキ場合ハ此限ニ在ラス
第二十四條　或行爲ニ付キ假住所ヲ選定シタルトキハ其行爲ニ關シテハ之ヲ住所ト看做ス
第四節　失踪
第二十五條　從來ノ住所又ハ居所ヲ去リタル者カ其財產ノ管理人ヲ置カサリシトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其財產ノ管理ニ付必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得本人カ不在中管理人ノ權限カ消滅シタルトキ亦同シ
本人カ假目ニ歸リ管理人ヲ置キタルトキハ裁判所ハ利害關係人、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其命令ヲ取消スコトヲ要ス
第二十六條　不在者カ管理人ヲ置キタル場合ニ於テ其不在者ノ生死分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ管理人ヲ改任スルコトヲ得
第二十七條　前二條ノ規定ニ依リ裁判所ニ於テ選任シタル管理人ハ其管理スヘキ財產ノ目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但其費用ハ不在者ノ財產ヲ以テ之ヲ支辨ス
不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ於テ利害關係人又ハ檢事ノ請求アルトキハ裁判所ハ不在者カ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得
右ノ外總テ裁判所カ不在者ノ財產ノ保存ニ必要ト認ムル處分ハ之ヲ管理人ニ命スルコトヲ得
第二十八條　管理人カ第百三條ニ定メタル權限ヲ超ユル行爲ヲ必要トスルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ於テ其管理人カ不在者ノ定メ置キタル權限ヲ超ユル行爲ヲ必要トスルトキ亦同シ
第二十九條　裁判所ハ管理人ヲシテ財產ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得
裁判所ハ管理人ト不在者トノ關係其他ノ事情ニ依リ不在者ノ財產中ヨリ相當ノ報酬ヲ管理人ニ與フルコトヲ得
第三十條　不在者ノ生死カ七年間分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得
戰地ニ臨ミタル者、沈沒シタル船舶中ニ在リタル者其他死亡ノ原因タルヘキ危險ニ遭遇シタル者ノ生死カ戰爭ノ止ミタル後、船舶ノ沈沒シタル後又ハ其他ノ危險ノ去リタル後三年間分明ナラサルトキ亦同シ
第三十一條　失踪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ前條ノ期間内ニ其取消シ得ヘキ行爲ヲ追認スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ無能力者カ其期間内ニ確答ヲ發セサルトキハ其行爲ヲ追認シタルモノト看做ス
第三十二條　失踪者ノ生存スルコト又ハ前條ニ定メタル時ト異ナリタル時ニ死亡シタルコトノ證明アルトキハ裁判所ハ本人又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ取消スコトヲ要ス但失踪ノ宣告後其取消前ニ善意ヲ以テ爲シタル行爲ノ其效力ヲ變セス失踪ノ宣告ニ因リテ財產ヲ得タル者ハ其取消ニ因リテ權利ヲ失フモ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ其財產ヲ返還スル義務ヲ負フ
第二章　法人
第一節　法人ノ設立
第三十三條　法人ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス
第三十四條　祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其他公益ニ關スル社團又ハ財團ニシテ營利ヲ目的トセサルモノハ主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ法人ト爲スコトヲ得
第三十五條　營利ヲ目的トスル社團ハ商事會社設立ノ條件ニ從ヒ之ヲ法人ト爲スコトヲ得
前項ノ社團法人ニハ總テ商事會社ニ關スル規定ヲ準用ス
第三十六條　外國法人ハ國、國ノ行政區畫及ヒ商事會社ヲ除ク外其成立ヲ認許セラレタル外國法人ハ日本ニ成立スル同種ノ者ト同一ノ私權ヲ有ス但外國人カ享有スルコトヲ得サル權利及ヒ法律又ハ條約中ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス
第三十七條　社團法人ノ設立者ハ定款ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一　目的
二　名稱
三　事務所
四　資產ニ關スル規定
五　理事ノ任免ニ關スル規定
六　社員タル資格ノ得喪ニ關スル規定
第三十八條　社團法人ノ定款ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ同意アルトキニ限リ之ヲ變更スルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
定款ノ變更ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス
第三十九條　財團法人ノ設立者ハ其目的トスル第三十七條第一號乃至第五號ニ揭ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス
第四十條　財團法人ノ設立者カ其名稱、事務所又ハ理事任免ノ方法ヲ定メスシテ死亡シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ之ヲ定ムルコトヲ要ス
第四十一條　生前處分ヲ以テ寄附行爲ヲ爲ストキハ贈與ニ關スル規定ヲ準用ス
遺言ヲ以テ寄附行爲ヲ爲ストキハ遺贈ニ關スル規定ヲ準用ス
第四十二條　生前處分ヲ以テ寄附行爲ヲ爲シタルトキハ寄附財產ハ法人設立ノ許可アリタル時ヨリ法人ノ財產ヲ組成ス
遺言ヲ以テ寄附行爲ヲ爲シタルトキハ寄附財產ハ遺言カ效力ヲ生シタル時ヨリ法人ニ歸屬シタルモノト看做ス
第四十三條　法人ハ法令ノ規定ニ從ヒ定款又ハ寄附行爲ニ因リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負フ
第四十四條　法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス
法人ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其事項ノ議決ニ賛成シタル社員、理事及ヒ之ヲ履行シタル理事其他ノ代理人連帶シテ其賠償ノ責任ニ任ス
第四十五條　法人ハ其設立ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條　無能力者ノ相手方ハ其無能力者カ能力者ト爲リタル後之ニ對シテ一个月以上ノ期間内ニ其取消シ得ヘキ行爲ヲ追認スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ無能力者カ其期間内ニ確答ヲ發セサルトキハ其行爲ヲ追認シタルモノト看做ス
無能力者カ未タ能力者トナラサル時ニ於テ夫又ハ法定代理人ニ對シ前項ノ催告ヲ爲スモ其期間内ニ確答ヲ發セサルトキ亦同シ但法定代理人ニ對シテハ其權限内ノ行爲ニ付テノミ此催告ヲ爲スコトヲ得
特別ノ方式ヲ要スル行爲ニ付テハ右ノ期間内ニ其方式ヲ踐ミタル通知ヲ發セサルトキハ之ヲ取消シタルモノト看做ス
準禁治產者及ヒ妻ニ對シテハ第一項ノ期間内ニ保佐人ノ同意又ハ夫ノ許可ヲ得テ其行爲ヲ追認スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ準禁治產者又ハ妻カ其期間内ニ右ノ同意又ハ許可ヲ得タル通知ヲ發セサルトキハ之ヲ取消シタルモノト看做ス
第二十條　無能力者カ能力者タルコトヲ信セシムル爲メ詐術ヲ用ヰタルトキハ其行爲ヲ取消スコトヲ得ス
第三節　住所
第二十一條　各人ノ生活ノ本據ヲ以テ其住所トス
第二十二條　住所ノ知レサル場合ニ於テハ居所ヲ以テ住所ト看做ス
第二十三條　日本ニ住所ヲ有セサル者ハ其日本人タルト外國人タルトヲ問ハス日本ニ於ケル居所ヲ以テ其住所ト看做ス但法例ノ定ムル所ニ從ヒ其住所ノ法律ニ依ルヘキ場合ハ此限ニ在ラス
第二十四條　或行爲ニ付キ假住所ヲ選定シタルトキハ其行爲ニ關シテハ之ヲ住所ト看做ス
第四節　失踪
第二十五條　從來ノ住所又ハ居所ヲ去リタル者カ其財產ノ管理人ヲ置カサリシトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其財產ノ管理ニ付必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得本人カ不在中管理人ノ權限カ消滅シタルトキ亦同シ
本人カ假目ニ歸リ管理人ヲ置キタルトキハ裁判所ハ利害關係人、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其命令ヲ取消スコトヲ要ス
第二十六條　不在者カ管理人ヲ置キタル場合ニ於テ其不在者ノ生死分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ管理人ヲ改任スルコトヲ得
第二十七條　前二條ノ規定ニ依リ裁判所ニ於テ選任シタル管理人ハ其管理スヘキ財產ノ目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但其費用ハ不在者ノ財產ヲ以テ之ヲ支辨ス
不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ於テ利害關係人又ハ檢事ノ請求アルトキハ裁判所ハ不在者カ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得
右ノ外總テ裁判所カ不在者ノ財產ノ保存ニ必要ト認ムル處分ハ之ヲ管理人ニ命スルコトヲ得
第二十八條　管理人カ第百三條ニ定メタル權限ヲ超ユル行爲ヲ必要トスルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ於テ其管理人カ不在者ノ定メ置キタル權限ヲ超ユル行爲ヲ必要トスルトキ亦同シ
第二十九條　裁判所ハ管理人ヲシテ財產ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得
裁判所ハ管理人ト不在者トノ關係其他ノ事情ニ依リ不在者ノ財產中ヨリ相當ノ報酬ヲ管理人ニ與フルコトヲ得
第三十條　不在者ノ生死カ七年間分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得
戰地ニ臨ミタル者、沈沒シタル船舶中ニ在リタル者其他死亡ノ原因タルヘキ危險ニ遭遇シタル者ノ生死カ戰爭ノ止ミタル後、船舶ノ沈沒シタル後又ハ其他ノ危險ノ去リタル後三年間分明ナラサルトキ亦同シ
第三十一條　失踪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ前條ノ期間内ニ其取消シ得ヘキ行爲ヲ追認スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ無能力者カ其期間内ニ確答ヲ發セサルトキハ其行爲ヲ追認シタルモノト看做ス
第三十二條　失踪者ノ生存スルコト又ハ前條ニ定メタル時ト異ナリタル時ニ死亡シタルコトノ證明アルトキハ裁判所ハ本人又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ取消スコトヲ要ス但失踪ノ宣告後其取消前ニ善意ヲ以テ爲シタル行爲ノ其效力ヲ變セス失踪ノ宣告ニ因リテ財產ヲ得タル者ハ其取消ニ因リテ權利ヲ失フモ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ其財產ヲ返還スル義務ヲ負フ
第二章　法人
第一節　法人ノ設立
第三十三條　法人ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス
第三十四條　祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其他公益ニ關スル社團又ハ財團ニシテ營利ヲ目的トセサルモノハ主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ法人ト爲スコトヲ得
第三十五條　營利ヲ目的トスル社團ハ商事會社設立ノ條件ニ從ヒ之ヲ法人ト爲スコトヲ得
前項ノ社團法人ニハ總テ商事會社ニ關スル規定ヲ準用ス
第三十六條　外國法人ハ國、國ノ行政區畫及ヒ商事會社ヲ除ク外其成立ヲ認許セラレタル外國法人ハ日本ニ成立スル同種ノ者ト同一ノ私權ヲ有ス但外國人カ享有スルコトヲ得サル權利及ヒ法律又ハ條約中ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス
第三十七條　社團法人ノ設立者ハ定款ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一　目的
二　名稱
三　事務所
四　資產ニ關スル規定
五　理事ノ任免ニ關スル規定
六　社員タル資格ノ得喪ニ關スル規定
第三十八條　社團法人ノ定款ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ同意アルトキニ限リ之ヲ變更スルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
定款ノ變更ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス
第三十九條　財團法人ノ設立者ハ其目的トスル第三十七條第一號乃至第五號ニ揭ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス
第四十條　財團法人ノ設立者カ其名稱、事務所又ハ理事任免ノ方法ヲ定メスシテ死亡シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ之ヲ定ムルコトヲ要ス
第四十一條　生前處分ヲ以テ寄附行爲ヲ爲ストキハ贈與ニ關スル規定ヲ準用ス
遺言ヲ以テ寄附行爲ヲ爲ストキハ遺贈ニ關スル規定ヲ準用ス
第四十二條　生前處分ヲ以テ寄附行爲ヲ爲シタルトキハ寄附財產ハ法人設立ノ許可アリタル時ヨリ法人ノ財產ヲ組成ス
遺言ヲ以テ寄附行爲ヲ爲シタルトキハ寄附財產ハ遺言カ效力ヲ生シタル時ヨリ法人ニ歸屬シタルモノト看做ス
第四十三條　法人ハ法令ノ規定ニ從ヒ定款又ハ寄附行爲ニ因リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負フ
第四十四條　法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス
法人ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其事項ノ議決ニ賛成シタル社員、理事及ヒ之ヲ履行シタル理事其他ノ代理人連帶シテ其賠償ノ責任ニ任ス
第四十五條　法人ハ其設立ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ他人ニ對

抗スルコトヲ得ス
法人設立ノ後新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ一週間内ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス
第四十六條 登記スヘキ事項左ノ如シ
一 目的
二 名稱
三 事務所
四 設立許可ノ年月日
五 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期
六 資産ノ總額
七 出資ノ方法ヲ定メタルトキハ其方法
八 理事ノ氏名、住所
前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ一週間内ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス登記前ニ在リテハ其變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス
第四十七條 第四十五條第一項及ヒ前條ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス
第四十八條 法人カ其事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ一週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間内ニ第四十六條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス
同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
第四十九條 第四十五條第三項、第四十六條及ヒ前條ノ規定ハ外國法人カ日本ニ事務所ヲ設クル場合ニモ亦之ヲ適用ス但外國ニ於テ生シタル事項ニ付テハ其通知ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス
外國法人カ始メテ日本ニ事務所ヲ設ケタルトキハ其事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ他人ハ其法人ノ成立ヲ否認スルコトヲ得
第五十條 法人ノ住所ハ其主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス
第五十一條 法人ハ設立ノ時及ヒ毎年初ノ三个月内ニ財産目錄ヲ作リ常ニ之ヲ事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス但特ニ事業年度ヲ設クルモノハ設立ノ時及ヒ其年度ノ終ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス
社團法人ハ社員名簿ヲ備ヘ置キ社員ノ變更アル毎ニ之ヲ訂正スルコトヲ要ス

第二節 法人ノ管理

第五十二條 法人ニハ一人又ハ數人ノ理事ヲ置クコトヲ要ス
理事數人アル場合ニ於テ定款又ハ寄附行爲ニ別段ノ定ナキトキハ法人ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
第五十三條 理事ハ總テ法人ノ事務ニ付キ法人ヲ代表ス但定款ノ規定又ハ寄附行爲ノ趣旨ニ違反スルコトヲ得ス又社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ニ從フコトヲ要ス
第五十四條 理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第五十五條 理事ハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレサルトキニ限リ特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトヲ得
第五十六條 理事ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滯ノ爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ假理事ヲ選任ス
第五十七條 法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ理事ハ代理權ヲ有セス此場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス
第五十八條 法人ニハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ヲ以テ一人又ハ數人ノ監事ヲ置クコトヲ得
第五十九條 監事ノ職務左ノ如シ
一 法人ノ財産ノ狀況ヲ監査スルコト
二 理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査スルコト
三 財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付キ不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會又ハ主務官廳ニ報告スルコト
四 前號ノ報告ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ總會ヲ招集スルコト
第六十條 社團法人ノ理事ハ少クトモ毎年一回社員ノ通常總會ヲ開クコトヲ要ス
第六十一條 社團法人ノ理事ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得
總社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス但此定數ハ定款ヲ以テ之ヲ增減スルコトヲ得
第六十二條 總會ノ招集ハ少クトモ五日前ニ其會議ノ目的タル事項ヲ示シ定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス
第六十三條 社團法人ノ事務ハ定款ヲ以テ理事其他ノ役員ニ委任シタルモノヲ除ク外總テ總會ノ決議ニ依リテ之ヲ行フ
第六十四條 總會ニ於テハ第六十二條ノ規定ニ依リテ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノミ決議ヲ爲スコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
第六十五條 各社員ノ表決權ハ平等ナルモノトス
總會ニ出席セサル社員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出タスコトヲ得
前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス
第六十六條 社團法人ト或社員トノ關係ニ付キ議決ヲ爲ス場合ニ於テハ其社員ハ表決權ヲ有セス
第六十七條 法人ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
主務官廳ハ何時ニテモ職權ヲ以テ法人ノ業務及ヒ財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第三節 法人ノ解散

第六十八條 法人ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス
一 定款又ハ寄附行爲ヲ以テ定メタル解散事由ノ發生
二 法人ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
三 破產
四 設立許可ノ取消
社團法人ハ前項ニ掲ケタル場合ノ外左ノ事由ニ因リテ解散ス
一 總會ノ決議
二 社員ノ缺亡
第六十九條 社團法人ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ承諾アルニ非サレハ解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
第七十條 法人カ其債務ヲ完濟スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ理事若クハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破產ノ宣告ヲ爲ス
前項ノ場合ニ於テ理事ハ直チニ破產宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス
第七十一條 法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ設立ノ許可ヲ得タル條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其許可ヲ取消スコトヲ得
第七十二條 解散シタル法人ノ財產ハ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ指定シタル人ニ歸屬ス
定款又ハ寄附行爲ヲ以テ歸屬權利者ヲ指定セス又ハ之ヲ指定スル方法ヲ定メサリシトキハ理事ハ主務官廳ノ許可ヲ得テ其法人ノ目的ニ類似セル目的ノ爲メニ其財產ヲ處分スルコトヲ得但社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス
前二項ノ規定ニ依リテ處分セラレサル財產ハ國庫ニ歸屬ス
第七十三條 解散シタル法人ハ清算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ其清算ノ結了ニ至ルマテ尙ホ存續スルモノト看做ス
第七十四條 法人カ解散シタルトキハ破產ノ場合ヲ除ク外理事其清算人ト爲ル但定款若クハ寄附行爲ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス
第七十五條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得
第七十六條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十七條 清算人ハ破產ノ場合ヲ除ク外解散後一週間內ニ其氏名、住所及ヒ解散ノ原因、年月日ノ登記ヲ爲シ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ主務官廳ニ屆出ツルコトヲ要ス
清算中ニ就職シタル清算人ハ就職後一週間內ニ其氏名、住所ノ登記ヲ爲シ且ツ之ヲ主務官廳ニ屆出ツルコトヲ要ス
第七十八條 清算人ノ職務左ノ如シ
一 現務ノ結了
二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟
三 殘餘財產ノ引渡
清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得
第七十九條 清算人ハ其就職ノ日ヨリ二个月內ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間內ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス
前項ノ公告ニハ債權者カ期間內ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ハ清算ヨリ除斥セラルヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但清算人ハ知レタル債權者ヲ除斥スルコトヲ得ス
清算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其申出ヲ催告スルコトヲ要ス
第八十條 前條ノ期間後ニ申出テタル債權者ハ法人ノ債務完濟ノ後未タ歸屬權利者ニ引渡ササル財產ニ對シテノミ請求ヲ爲スコトヲ得
第八十一條 清算中ニ法人ノ財產カ其債務ヲ完濟スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ直チニ破產宣告ノ請求ヲ爲シテ其旨ヲ公告スルコトヲ要ス
清算人ハ破產管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終ハリタルモノトス
本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ破產管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得
第八十二條 法人ノ解散及ヒ清算ハ裁判所ノ監督ニ屬ス
裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ前項ノ監督ニ必要ナル檢査ヲ爲スコトヲ得
第八十三條 清算カ結了シタルトキハ清算人ハ之ヲ主務官廳ニ屆出ツルコトヲ要ス

第四節 罰則

第八十四條 法人ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル
一 本章ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
二 第五十一條ノ規定ニ違反シ又ハ財產目錄若クハ社員名簿ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
三 第六十七條又ハ第八十二條ノ場合ニ於テ主務官廳又ハ裁判所ノ檢査ヲ妨ケタルトキ
四 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
五 第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ反シ破產宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
六 第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

第三章 物

第八十五條 本法ニ於テ物トハ有體物ヲ謂フ
第八十六條 土地及ヒ其定著物ハ之ヲ不動產トス
此他ノ物ハ總テ之ヲ動產トス
無記名債權ハ之ヲ動產ト看做ス
第八十七條 物ノ所有者カ其物ノ常用ニ供スル爲メ自己ノ所有ニ屬スル他ノ物ヲ以テ之ニ附屬セシメタルトキハ其附屬セシメタル物ヲ從物トス
從物ハ主物ノ處分ニ隨フ
第八十八條 物ノ用方ニ從ヒ收取スル產出物ヲ天然果實トス
物ノ使用ノ對價トシテ受クヘキ金錢其他ノ物ヲ法定果實トス
第八十九條 天然果實ハ其元物ヨリ分離スル時ニ之ヲ收取スル權利ヲ有スル者ニ屬ス
法定果實ハ之ヲ收取スル權利ノ存續期間日割ヲ以テ之ヲ取得ス

第四章 法律行爲

第一節 總則

第九十條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲ハ無效トス
第九十一條 法律行爲ノ當事者カ法令中ノ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ
第九十二條 法令中ノ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナリタル慣習アル場合ニ於テ法律行爲ノ當事者カ之ニ依ル意思ヲ有セルモノト認ムヘキトキハ其慣習ニ從フ

第二節 意思表示

第九十三條 意思表示ハ表意者カ其眞意ニ非サルコトヲ知リテ之ヲ爲シタル爲メ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ但相手方カ表意者ノ眞意ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ其意思表示ハ無效トス
第九十四條 相手方ト通シテ爲シタル虛僞ノ意思表示ハ無效トス
前項ノ意思表示ノ無效ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第九十五條 意思表示ハ法律行爲ノ要素ニ錯誤アリタルトキハ無效トス但表意者ニ重大ナル過失アリタルトキハ表意者自ラ其無效ヲ主張スルコトヲ得ス
第九十六條 詐欺又ハ强迫ニ因ル意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得
或人ニ對スル意思表示ニ付キ第三者カ詐欺ヲ行ヒタル場合ニ於テハ相手方カ其事實ヲ知リタルトキニ限リ其意思表示ヲ取消スコトヲ得
詐欺ニ因ル意思表示ノ取消ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第九十七條 隔地者ニ對スル意思表示ハ其通知ノ相手方ニ到達シタル時ヨリ其效力ヲ生ス
表意者カ通知ヲ發シタル後ニ死亡シ又ハ能力ヲ失フモ意思表示ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ
第九十八條 意思表示ノ相手方カ之ヲ受ケタル時ニ未成年者又ハ禁治產者ナリシトキハ其意思表示ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ス但其法定代理人カ之ヲ知リタル後ハ此限ニ在ラス

第三節 代理

第九十九條 代理人カ其權限內ニ於テ本人ノ爲メニスルコトヲ示シテ爲シタル意思表示ハ直接ニ本人ニ對シテ其效力ヲ生ス
前項ノ規定ハ第三者カ代理人ニ對シテ爲シタル意思表示ニ之ヲ準用ス
第百條 代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サスシテ爲シタル意思表示ハ自己ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス但相手方カ其本人ノ爲メニスルコトヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス
第百一條 意思表示ノ效力カ意思ノ欠缺、詐欺、强迫又ハ或事情ヲ知リタルコト若クハ之ヲ知ラサル過失アリタルコトニ因リテ影響ヲ受クヘキ場合ニ於テ其事實ノ有無ハ代理人ニ付キ之ヲ定ム
特定ノ法律行爲ヲ爲スコトヲ委託セラレタル場合ニ於テ代理人カ本人ノ指圖ニ從ヒ其行爲ヲ爲シタルトキハ本人ハ其自ラ知リタル事情ニ付キ代理人ノ不知ヲ主張スルコトヲ得ス其過失ニ因リテ知ラサリシ事情ニ付キ亦同シ
第百二條 代理人ハ能力者タルコトヲ要セス
第百三條 權限ノ定ナキ代理人ハ左ノ行爲ノミヲ爲ス權限ヲ有ス
一 保存行爲
二 代理ノ目的タル物又ハ權利ノ性質ヲ變セサル範圍內ニ於テ其利用又ハ改良ヲ目的トスル行爲
第百四條 委任ニ因ル代理人ハ本人ノ許諾ヲ得タルトキ又ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキニ非サレハ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ス
第百五條 代理人カ前條ノ場合ニ於テ復代理人ヲ選任シタルトキハ選任及ヒ監督ニ付キ本人ニ對シテ其責ニ任ス
代理人カ本人ノ指名ニ從ヒテ復代理人ヲ選任シタルトキハ其不適任又ハ不誠實ナルコトヲ知リテ之ヲ本人ニ通知シ又ハ之ヲ解任スルコトヲ怠リタルニ非サレハ其責ニ任セ

ス

第百六條　法定代理人ハ其責任ヲ以テ復代理人ヲ選任スルコトヲ得但已ムコトヲ得サル事由アリタルトキハ前條第一項ニ定メタル責任ノミヲ負フ

第百七條　復代理人ハ其權限內ノ行爲ニ付キ本人ヲ代表ス

復代理人ハ本人及ヒ第三者ニ對シテ代理人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第百八條　何人ト雖モ同一ノ法律行爲ニ付キ其相手方ノ代理人ト爲リ又ハ當事者雙方ノ代理人ト爲ルコトヲ得ス但債務ノ履行ニ付テハ此限ニ在ラス

第百九條　第三者ニ對シテ他人ニ代理權ヲ與ヘタル旨ヲ表示シタル者ハ其代理權ノ範圍內ニ於テ其他人ト第三者トノ間ニ爲シタル行爲ニ付キ其責ニ任ス

第百十條　代理人カ其權限外ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者カ其權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第百十一條　代理權ハ左ノ事由ニ因リテ消滅ス

一　本人ノ死亡

二　代理人ノ死亡、禁治產又ハ破產

此他委任ニ因ル代理權ハ委任ノ終了ニ因リテ消滅ス

第百十二條　代理權ノ消滅ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但第三者カ過失ニ因リテ其事實ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

第百十三條　代理權ヲ有セサル者カ他人ノ代理人トシテ爲シタル契約ハ本人カ其追認ヲ爲スニ非サレハ之ニ對シテ其效力ヲ生セス

追認又ハ其拒絕ハ相手方ニ對シテ之ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ス但相手方カ其事實ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第百十四條　前條ノ場合ニ於テ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間內ニ追認ヲ爲スヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ本人ニ催告スルコトヲ得若シ本人カ其期間內ニ確答ヲ爲ササルトキハ追認ヲ拒絕シタルモノト看做ス

第百十五條　代理權ヲ有セサル者ノ爲シタル契約ハ本人ノ追認ナキ間ハ相手方ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得但契約ノ當時相手方カ代理權ナキコトヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第百十六條　追認ハ別段ノ意思表示ナキトキハ契約ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第百十七條　他人ノ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其代理權ヲ證明スルコト能ハス且本人ノ追認ヲ得サリシトキハ相手方ノ選擇ニ從ヒ之ニ對シテ履行又ハ損害賠償ノ責ニ任ス

前項ノ規定ハ相手方カ代理權ナキコトヲ知リタルトキ若クハ過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキ又ハ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其能力ヲ有セサリシトキハ之ヲ適用セス

第百十八條　單獨行爲ニ付テハ其行爲ノ當時相手方カ代理人ト稱スル者ノ代理權ナクシテ之ヲ爲スコトニ同意シ又ハ其代理權ヲ爭ハサリシトキニ限リ前五條ノ規定ヲ準用ス代理權ヲ有セサル者ニ對シ其同意ヲ得テ單獨行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第四節　無效及ヒ取消

第百十九條　無效ノ行爲ハ追認ニ因リテ其效力ヲ生セス但當事者カ其無效ナルコトヲ知リテ追認ヲ爲シタルトキハ新ナル行爲ヲ爲シタルモノト看做ス

第百二十條　取消シ得ヘキ行爲ハ無能力者若クハ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者、其代理人又ハ承繼人ニ限リ之ヲ取消スコトヲ得

妻カ爲シタル行爲ハ夫モ亦之ヲ取消スコトヲ得

第百二十一條　取消シタル行爲ハ初ヨリ無效ナリシモノト看做ス但無能力者ハ其行爲ニ因リテ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ償還ノ義務ヲ負フ

第百二十二條　取消シ得ヘキ行爲ハ第百二十條ニ揭ケタル者カ之ヲ追認シタルトキハ初ヨリ有效ナリシモノト看做ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第百二十三條　取消シ得ヘキ行爲ノ相手方カ確定セル場合ニ於テ其取消又ハ追認ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第百二十四條　追認ハ取消ノ原因タル情況ノ止ミタル後之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ

禁治產者カ能力ヲ回復シタル後其行爲ヲ了知シタルトキハ其了知シタル後ニ非サレハ追認ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ夫又ハ法定代理人カ追認ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第百二十五條　前條ノ規定ニ依リ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ後取消シ得ヘキ行爲ニ付キ左ノ事實アリタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス但異議ヲ留メタルトキハ此限ニ在ラス

一　全部又ハ一部ノ履行

二　履行ノ請求

三　更改

四　擔保ノ供與

五　取消シ得ヘキ行爲ニ因リテ取得シタル權利ノ全部又ハ一部ノ讓渡

六　強制執行

第百二十六條　取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第五節　條件及ヒ期限

第百二十七條　停止條件附法律行爲ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

解除條件附法律行爲ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ失フ

當事者カ條件成就ノ效果ヲ其成就以前ニ遡ラシムル意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第百二十八條　條件附法律行爲ノ各當事者ハ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ條件ノ成就ニ因リ其行爲ヨリ生スヘキ相手方ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス

第百二十九條　條件ノ成否未定ノ間ニ於ケル當事者ノ權利義務ハ一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分、相續、保存又ハ擔保スルコトヲ得

第百三十條　條件ノ成就ニ因リテ不利益ヲ受クヘキ當事者カ故意ニ其條件ノ成就ヲ妨ケタルトキハ相手方ハ其條件ヲ成就シタルモノト看做スコトヲ得

第百三十一條　條件カ法律行爲ノ當時既ニ成就セル場合ニ於テ其條件カ停止條件ナルトキハ其法律行爲ハ無條件トシ解除條件ナルトキハ無效トス

條件ノ不成就カ法律行爲ノ當時既ニ確定セル場合ニ於テ其條件カ停止條件ナルトキハ其法律行爲ハ無效トシ解除條件ナルトキハ無條件トス

前二項ノ場合ニ於テ當事者カ條件ノ成就又ハ不成就ヲ知ラサル間ハ第百二十八條及ヒ第百二十九條ノ規定ヲ準用ス

第百三十二條　不法ノ條件ヲ附シタル法律行爲ハ無效トス不法行爲ヲ爲ササルヲ以テ條件トスルモノ亦同シ

第百三十三條　不能ノ停止條件ヲ附シタル法律行爲ハ無效トス

不能ノ解除條件ヲ附シタル法律行爲ハ無條件トス

第百三十四條　停止條件附法律行爲ハ其條件カ單ニ債務者ノ意思ノミニ係ルトキハ無效トス

第百三十五條　法律行爲ニ始期ヲ附シタルトキハ其法律行爲ノ履行ハ期限ノ到來スルマテ之ヲ請求スルコトヲ得ス

法律行爲ニ終期ヲ附シタルトキハ其法律行爲ノ效力ハ期限ノ到來シタル時ニ於テ消滅ス

第百三十六條　期限ハ債務者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノト推定ス

期限ノ利益ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得但之カ爲メニ相手方ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス

第百三十七條　左ノ場合ニ於テハ債務者ハ期限ノ利益ヲ主張スルコトヲ得ス

一　債務者カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ

二　債務者カ擔保ヲ毀滅シ又ハ之ヲ減少シタルトキ

三　債務者カ擔保ヲ供スル義務ヲ負フ場合ニ於テ之ヲ供セサルトキ

第五章　期間

第百三十八條　期間ノ計算法ハ法令、裁判上ノ命令又ハ法律行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本章ノ規定ニ從フ

第百三十九條　期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス

第百四十條　期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但其期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此限ニ在ラス

第百四十一條　前條ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス

第百四十二條　期間ノ末日カ大祭日、日曜日其他ノ休日ニ當タルトキハ其日ニ取引ヲ爲ササル慣習アル場合ニ限リ期間ハ其翌日ヲ以テ滿了ス

第百四十三條　期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス

週、月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其月ノ末日ヲ以テ滿期日トス

第六章　時效

第一節　總則

第百四十四條　時效ノ效力ハ其起算日ニ遡ル

第百四十五條　時效ハ當事者カ之ヲ援用スルニ非サレハ裁判所之ニ依リテ裁判ヲ爲スコトヲ得ス

第百四十六條　時效ノ利益ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第百四十七條　時效ハ左ノ事由ニ因リテ中斷ス

一　請求

二　差押、假差押又ハ假處分

三　承認

第百四十八條　前條ノ時效中斷ハ當事者及ヒ其承繼人ノ間ニ於テノミ其效力ヲ有ス

第百四十九條　裁判上ノ請求ハ訴ノ却下又ハ取下ノ場合ニ於テハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第百五十條　支拂命令ハ權利拘束カ其效力ヲ失フトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第百五十一條　和解ノ爲メニスル呼出ハ相手方カ出頭セス又ハ和解ノ調ハサルトキハ一个月內ニ訴ヲ提起スルニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生セス任意出頭ノ場合ニ於テ和解ノ調ハサルトキ亦同シ

第百五十二條　破產手續參加ハ債權者カ之ヲ取消シ又ハ其請求カ却下セラレタルトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第百五十三條　催告ハ六个月內ニ裁判上ノ請求、和解ノ爲メニスル呼出若クハ任意出頭、破產手續參加、差押、假差押又ハ假處分ヲ爲スニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第百五十四條　差押、假差押及ヒ假處分ハ權利者ノ請求ニ因リ又ハ法律ノ規定ニ從ハサルニ因リテ取消サレタルトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第百五十五條　差押、假差押及ヒ假處分ハ時效ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ之ヲ爲ササルトキハ之ヲ其者ニ通知シタル後ニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第百五十六條　時效中斷ノ效力ヲ生スヘキ承認ヲ爲スニハ相手方ノ權利ニ付キ處分ノ能力又ハ權限アルコトヲ要セス

第百五十七條　中斷シタル時效ハ其中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ其進行ヲ始ム

裁判上ノ請求ニ因リテ中斷シタル時效ハ裁判ノ確定シタル時ヨリ更ニ其進行ヲ始ム

第百五十八條　時效ノ期間滿了前六个月內ニ於テ未成年者又ハ禁治產者カ法定代理人ヲ有セサリシトキハ其者カ能力者ト爲リ又ハ法定代理人カ就職シタル時ヨリ六个月內ハ之ニ對シテ時效完成セス

第百五十九條　無能力者カ其財產ヲ管理スル父、母又ハ後見人ニ對シテ有スル權利ニ付テハ其者カ能力者ト爲リ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ六个月內ハ時效完成セス

妻カ夫ニ對シテ有スル權利ニ付テハ婚姻解消ノ時ヨリ六个月內亦同シ

第百六十條　相續財產ニ關シテハ相續人ノ確定シ、管理人ノ選任セラレ又ハ破產ノ宣告アリタル時ヨリ六个月內ハ時效完成セス

第百六十一條　時效ノ期間滿了ノ時ニ當タリ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ時效ヲ中斷スルコト能ハサルトキハ其妨碍ノ止ミタル時ヨリ二週間內ハ時效完成セス

第二節　取得時效

第百六十二條　二十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人ノ物ヲ占有シタル者ハ其所有權ヲ取得ス

十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人ノ不動產ヲ占有シタル者カ其占有ノ始善意ニシテ且過失ナカリシトキハ其不動產ノ所有權ヲ取得ス

第百六十三條　所有權以外ノ財產權ヲ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ平穩且公然ニ行使スル者ハ前條ノ區別ニ從ヒ二十年又ハ十年ノ後其權利ヲ取得ス

第百六十四條　第百六十二條ノ時效ハ占有者カ任意ニ其占有ヲ中止シ又ハ他人ノ爲メニ之ヲ奪ハレタルトキハ中斷ス

第百六十五條　前條ノ規定ハ第百六十三條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三節　消滅時效

第百六十六條　消滅時效ハ權利ヲ行使スルコトヲ得ル時ヨリ進行ス

前項ノ規定ハ始期附又ハ停止條件附權利ノ目的物ヲ占有スル第三者ノ爲メニ其占有ノ時ヨリ取得時效ノ進行スルコトヲ妨ケス但權利者ハ其時效ヲ中斷スル爲メ何時ニテモ占有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ得

第百六十七條　債權ハ十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

債權又ハ所有權ニ非サル財產權ハ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第百六十八條　定期金ノ債權ハ第一回ノ辨濟期ヨリ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス最後ノ辨濟期ヨリ十年間之ヲ行ハサルトキ亦同シ

定期金ノ債權者ハ時效中斷ノ證ヲ得ル爲メ何時ニテモ其債務者ノ承認書ヲ求ムルコトヲ得

第百六十九條　年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權ハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第百七十條　左ニ揭ケタル債權ハ三年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一　醫師、產婆及ヒ藥劑師ノ治術、勤勞及ヒ調劑ニ關スル債權

二　技師、棟梁及ヒ請負人ノ工事ニ關スル債權但此時效ハ其負擔シタル工事終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第百七十一條　辯護士ハ事件終了ノ時ヨリ公證人及ヒ執達吏ハ其職務執行ノ時ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ其職務ニ關シテ受取リタル書類ニ付キ其責ヲ免ル

第百七十二條　辯護士、公證人及ヒ執達吏ノ職務ニ關スル債權ハ其原因タル事件終了ノ時ヨリ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス但其事件中ノ各事項終了ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ右ノ期間內ト雖モ其事項ニ關スル債權ハ消滅ス

第百七十三條　左ニ揭ケタル債權ハ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一　生產者、卸賣商人及ヒ小賣商人カ賣却シタル產物及ヒ商品ノ代價

二　居職人及ヒ製造人ノ仕事ニ關スル債權

三　生徒及ヒ習業者ノ教育、衣食及ヒ止宿ノ代料ニ關スル校主、塾主、教師及ヒ師匠ノ債權

第百七十四條　左ニ揭ケタル債權ハ一年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一　月又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル雇人ノ給料

二　勞力者及ヒ藝人ノ賃金並ニ其供給シタル物ノ代價

三　運送賃

四　旅店、料理店、貸席及ヒ娛遊場ノ宿泊料、飲食料、席料、木戶錢、消費物代價並ニ立替金

五　動產ノ損料

第二編　物權

第一章　總則

第百七十五條　物權ハ本法其他ノ法律ニ定ムルモノノ外之ヲ創設スルコトヲ得ス

第百七十六條　物權ノ設定及ヒ移轉ハ當事者

ノ意思表示ノミニ因リテ其效力ヲ生ス

第百七十七條　不動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更ハ登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第百七十八條　動産ニ關スル物權ノ讓渡ハ其動産ノ引渡アルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第百七十九條　同一物ニ付キ所有權及ヒ他ノ物權カ同一人ニ歸シタルトキハ其物權ハ消滅ス但其物又ハ其物權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此限ニ在ラス

所有權以外ノ物權及ヒ之ヲ目的トスル他ノ權利カ同一人ニ歸シタルトキハ其權利ハ消滅ス此場合ニ於テハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ占有權ニハ之ヲ適用セス

第二章　占有權

第一節　占有權ノ取得

第百八十條　占有權ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ物ヲ所持スルニ因リテ之ヲ取得ス

第百八十一條　占有權ハ代理人ニ依リテ之ヲ取得スルコトヲ得

第百八十二條　占有權ノ讓渡ハ占有物ノ引渡ニ依リテ之ヲ爲ス

讓受人又ハ其代理人カ現ニ占有物ヲ所持スル場合ニ於テハ占有權ノ讓渡ハ當事者ノ意思表示ノミニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第百八十三條　代理人カ自己ノ占有物ヲ爾後本人ノ爲メニ占有スヘキ意思ヲ表示シタルトキハ本人ハ之ニ因リテ占有權ヲ取得ス

第百八十四條　代理人ニ依リテ占有ヲ爲ス場合ニ於テ本人カ其代理人ニ對シ爾後第三者ノ爲メニ其物ヲ占有スヘキ旨ヲ命シ第三者之ヲ承諾シタルトキハ其第三者ハ占有權ヲ取得ス

第百八十五條　權原ノ性質上占有者ニ所有ノ意思ナキモノトスル場合ニ於テハ其占有者カ自己ニ占有ヲ爲サシメタル者ニ對シ所有ノ意思アルコトヲ表示シ又ハ新權原ニ因リ更ニ所有ノ意思ヲ以テ占有ヲ始ムルニ非サレハ占有ハ其性質ヲ變セス

第百八十六條　占有者ハ所有ノ意思ヲ以テ善意、平穩且公然ニ占有ヲ爲スモノト推定ス

前後兩時ニ於テ占有ヲ爲シタル證據アルトキハ占有ハ其間繼續シタルモノト推定ス

第百八十七條　占有者ノ承繼人ハ其選擇ニ從ヒ自己ノ占有ノミヲ主張シ又ハ自己ノ占有ニ前主ノ占有ヲ併セテ之ヲ主張スルコトヲ得

前主ノ占有ヲ併セテ主張スル場合ニ於テハ其瑕疵モ亦之ヲ承繼ス

第二節　占有權ノ效力

第百八十八條　占有者カ占有物ノ上ニ行使スル權利ハ之ヲ適法ニ有スルモノト推定ス

第百八十九條　善意ノ占有者ハ占有物ヨリ生スル果實ヲ取得ス

善意ノ占有者カ本權ノ訴ニ於テ敗訴シタルトキハ其起訴ノ時ヨリ惡意ノ占有者ト看做ス

第百九十條　惡意ノ占有者ハ果實ヲ返還シ且其既ニ消費シ、過失ニ因リテ毀損シ又ハ收取ヲ怠リタル果實ノ代價ヲ償還スル義務ヲ負フ

前項ノ規定ハ强暴又ハ隱祕ニ因ル占有者ニ之ヲ準用ス

第百九十一條　占有物カ占有者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ惡意ノ占有者ハ其回復者ニ對シ其損害ノ全部ヲ賠償スル義務ヲ負ヒ善意ノ占有者ハ其滅失又ハ毀損ニ因リテ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ賠償ヲ爲ス義務ヲ負フ但所有ノ意思ナキ占有者ハ其善意ナルトキト雖モ全部ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十二條　平穩且公然ニ動産ノ占有ヲ始メタル者カ善意ニシテ且過失ナキトキハ即時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第百九十三條　前條ノ場合ニ於テ占有物カ盜品又ハ遺失物ナルトキハ被害者又ハ遺失主ハ盜難又ハ遺失ノ時ヨリ二年間占有者ニ對シテ其物ノ回復ヲ請求スルコトヲ得

第百九十四條　占有者カ盜品又ハ遺失物ヲ競賣若クハ公ノ市場ニ於テ又ハ其物ト同種ノ物ヲ販賣スル商人ヨリ善意ニテ買受ケタルトキハ被害者又ハ遺失主ハ占有者カ拂ヒタル代價ヲ辨償スルニ非サレハ其物ヲ回復スルコトヲ得ス

第百九十五條　他人カ飼養セシ家畜外ノ動物ヲ占有スル者ハ其占有ノ始善意ニシテ且逃失ノ時ヨリ一个月內ニ飼養主ヨリ回復ノ請求ヲ受ケサルトキハ其動物ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第百九十六條　占有者カ占有物ヲ返還スル場合ニ於テハ其物ノ保存ノ爲メニ費シタル金額其他ノ必要費ヲ回復者ヨリ償還セシムルコトヲ得但占有者カ果實ヲ取得シタル場合ニ於テハ通常ノ必要費ハ其負擔ニ歸ス

占有者カ占有物ノ改良ノ爲メニ費シタル金額其他ノ有益費ニ付テハ其價格ノ增加カ現存スル場合ニ限リ回復者ノ選擇ニ從ヒ其費シタル金額又ハ增價額ヲ償還セシムルコトヲ得但惡意ノ占有者ニ對シテハ裁判所ハ回復者ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第百九十七條　占有者ハ後五條ノ規定ニ從ヒ占有ノ訴ヲ提起スルコトヲ得他人ノ爲メニ占有ヲ爲ス者亦同シ

第百九十八條　占有者カ其占有ヲ妨害セラレタルトキハ占有保持ノ訴ニ依リ其妨害ノ停止及ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第百九十九條　占有者カ其占有ヲ妨害セラルル虞アルトキハ占有保全ノ訴ニ依リ其妨害ノ豫防又ハ損害賠償ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第二百條　占有者カ其占有ヲ奪ハレタルトキハ占有回收ノ訴ニ依リ其物ノ返還及ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

占有回收ノ訴ハ侵奪者ノ特定承繼人ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス但其承繼人カ侵奪ノ事實ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第二百一條　占有保持ノ訴ハ妨害ノ存スル間又ハ其止ミタル後一年內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス但工事ニ因リ占有物ニ損害ヲ生シタル場合ニ於テ其工事著手ノ時ヨリ一年ヲ經過シ又ハ其工事ノ竣成シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

占有保全ノ訴ハ妨害ノ危險ノ存スル間ハ之ヲ提起スルコトヲ得但工事ニ因リ占有物ニ損害ヲ生スル虞アルトキハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

占有回收ノ訴ハ侵奪ノ時ヨリ一年內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第二百二條　占有ノ訴ハ本權ノ訴ト互ニ相妨クルコトナシ

占有ノ訴ハ本權ニ關スル理由ニ基キテ之ヲ裁判スルコトヲ得ス

第三節　占有權ノ消滅

第二百三條　占有權ハ占有者カ占有ノ意思ヲ拋棄シ又ハ占有物ノ所持ヲ失フニ因リテ消滅ス但占有者カ占有回收ノ訴ヲ提起シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百四條　代理人ニ依リテ占有ヲ爲ス場合ニ於テハ占有權ハ左ノ事由ニ因リテ消滅ス

一　本人カ代理人ヲシテ占有ヲ爲サシムル意思ヲ拋棄シタルコト

二　代理人カ本人ニ對シ爾後自己又ハ第三者ノ爲メニ占有物ヲ所持スヘキ意思ヲ表示シタルコト

三　代理人カ占有物ノ所持ヲ失ヒタルコト

占有權ハ代理權ノ消滅ノミニ因リテ消滅セス

第四節　準占有

第二百五條　本章ノ規定ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ財産權ノ行使ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三章　所有權

第一節　所有權ノ限界

第二百六條　所有者ハ法令ノ制限內ニ於テ自由ニ其所有物ノ使用、收益及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ有ス

第二百七條　土地ノ所有權ハ法令ノ制限內ニ於テ其土地ノ上下ニ及フ

第二百八條　數人ニテ一棟ノ建物ヲ區分シ各其一部ヲ所有スルトキハ建物及ヒ其附屬物ノ共用部分ハ其共有ニ屬スルモノト推定ス

共用部分ノ修繕費其他ノ負擔ハ各自ノ所有部分ノ價格ニ應シテ之ヲ分ツ

第二百九條　土地ノ所有者ハ疆界又ハ其近傍ニ於テ牆壁若クハ建物ヲ築造シ又ハ之ヲ修繕スル爲メ必要ナル範圍內ニ於テ隣地ノ使用ヲ請求スルコトヲ得但隣人ノ承諾アルニ非サレハ其住家ニ立入ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ隣人カ損害ヲ受ケタルトキハ其償金ヲ請求スルコトヲ得

第二百十條　或土地カ他ノ土地ニ圍繞セラレテ公路ニ通セサルトキハ其土地ノ所有者ハ公路ニ至ル爲メ圍繞地ヲ通行スルコトヲ得

池沼、河渠若クハ海洋ニ由ルニ非サレハ他ニ通スルコト能ハス又ハ崖岸アリテ土地ト公路ト著シキ高低ヲ爲ストキ亦同シ

第二百十一條　前條ノ場合ニ於テハ通行ノ場所及ヒ方法ハ通行權ヲ有スル者ノ爲メニ必要ニシテ且圍繞地ノ爲メニ損害最モ少キモノヲ選フコトヲ要ス

通行權ヲ有スル者ハ必要アルトキハ通路ヲ開設スルコトヲ得

第二百十二條　通行權ヲ有スル者ハ通行地ノ損害ニ對シテ償金ヲ拂フコトヲ要ス但通路開設ノ爲メニ生シタル損害ニ對スルモノヲ除ク外一年毎ニ其償金ヲ拂フコトヲ得

第二百十三條　分割ニ因リ公路ニ通セサル土地ヲ生シタルトキハ其土地ノ所有者ハ公路ニ至ル爲メ他ノ分割者ノ所有地ノミヲ通行スルコトヲ得此場合ニ於テハ償金ヲ拂フコトヲ要セス

前項ノ規定ハ土地ノ所有者カ其土地ノ一部ヲ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百十四條　土地ノ所有者ハ隣地ヨリ水ノ自然ニ流レ來ルヲ妨クルコトヲ得ス

第二百十五條　水流カ事變ニ因リ低地ニ於テ阻塞シタルトキハ高地ノ所有者ハ自費ヲ以テ其疏通ニ必要ナル工事ヲ爲スコトヲ得

第二百十六條　甲地ニ於テ貯水、排水又ハ引水ノ爲メニ設ケタル工作物ノ破潰又ハ阻塞ニ因リテ乙地ニ損害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アルトキハ乙地ノ所有者ハ甲地ノ所有者ヲシテ修繕若クハ疏通ヲ爲サシメ又必要アルトキハ豫防工事ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十七條　前二條ノ場合ニ於テ費用ノ負擔ニ付キ別段ノ慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百十八條　土地ノ所有者ハ直チニ雨水ヲ隣地ニ注瀉セシムヘキ屋根其他ノ工作物ヲ設クルコトヲ得ス

第二百十九條　溝渠其他ノ水流地ノ所有者ハ對岸ノ土地カ他人ノ所有ニ屬スルトキハ其水路又ハ幅員ヲ變スルコトヲ得ス

兩岸ノ土地カ水流地ノ所有者ニ屬スルトキハ其所有者ハ水路及ヒ幅員ヲ變スルコトヲ得但下口ニ於テ自然ノ水路ニ復スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百二十條　高地ノ所有者ハ浸水地ヲ乾カス爲メ又ハ家用若クハ農工業用ノ餘水ヲ排泄スル爲メ公路、公流又ハ下水道ニ至ルマテ低地ニ水ヲ通過セシムルコトヲ得但低地ノ爲メニ損害最モ少キ場所及ヒ方法ヲ選フコトヲ要ス

第二百二十一條　土地ノ所有者ハ其所有地ノ水ヲ通過セシムル爲メ高地又ハ低地ノ所有者カ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ設置及ヒ保存ノ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス

第二百二十二條　水流地ノ所有者ハ堰ヲ設クル需要アルトキハ其堰ヲ對岸ニ附著セシムルコトヲ得但之ニ因リテ生シタル損害ニ對シテ償金ヲ拂フコトヲ要ス

對岸ノ所有者ハ水流地ノ一部カ其所有ニ屬スルトキハ右ノ堰ヲ使用スルコトヲ得但前條ノ規定ニ從ヒ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス

第二百二十三條　土地ノ所有者ハ隣地ノ所有者ト共同ノ費用ヲ以テ疆界ヲ標示スヘキ物ヲ設クルコトヲ得

第二百二十四條　界標ノ設置及ヒ保存ノ費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス但測量ノ費用ハ其土地ノ廣狹ニ應シテ之ヲ分擔ス

第二百二十五條　二棟ノ建物カ其所有者ヲ異ニシ且其間ニ空地アルトキハ各所有者ハ他ノ所有者ト共同ノ費用ヲ以テ其疆界ニ圍障ヲ設クルコトヲ得

當事者ノ協議調ハサルトキハ前項ノ圍障ハ板屏又ハ竹垣ニシテ高サ六尺タルコトヲ要ス

第二百二十六條　圍障ノ設置及ヒ保存ノ費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス

第二百二十七條　相隣者ノ一人ハ第二百二十五條第二項ニ定メタル材料ヨリ良好ナルモノヲ用ヰ又ハ高サヲ增シテ圍障ヲ設クルコトヲ得但之ニ因リテ生スル費用ノ增額ヲ負擔スルコトヲ要ス

第二百二十八條　前三條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百二十九條　疆界線上ニ設ケタル界標、圍障、牆壁及ヒ溝渠ハ相隣者ノ共有ニ屬スルモノト推定ス

第二百三十條　一棟ノ建物ノ部分ヲ成ス疆界線上ノ牆壁ニハ前條ノ規定ヲ適用セス

高サノ不同ナル二棟ノ建物ヲ隔ツル牆壁ノ低キ建物ヲ踰ユル部分亦同シ但防火牆壁ハ此限ニ在ラス

第二百三十一條　相隣者ノ一人ハ共有ノ牆壁ノ高サヲ增スコトヲ得但其牆壁カ此工事ニ耐ヘサルトキハ自費ヲ以テ工作ヲ加ヘ又ハ其牆壁ヲ改築スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ牆壁ノ高サヲ增シタル部分ハ其工事ヲ爲シタル者ノ專有ニ屬ス

第二百三十二條　前條ノ場合ニ於テ隣人カ損害ヲ受ケタルトキハ其償金ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十三條　隣地ノ竹木ノ枝カ疆界線ヲ踰ユルトキハ其竹木ノ所有者ヲシテ其枝ヲ剪除セシムルコトヲ得

隣地ノ竹木ノ根カ疆界線ヲ踰ユルトキハ之ヲ截取スルコトヲ得

第二百三十四條　建物ヲ築造スルニハ疆界線ヨリ一尺五寸以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ違ヒテ建築ヲ爲サントスル者アルトキハ隣地ノ所有者ハ其建築ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得但建築著手ノ時ヨリ一年ヲ經過シ又ハ其建築ノ竣成シタル後ハ損害賠償ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得

第二百三十五條　疆界線ヨリ三尺未滿ノ距離ニ於テ他人ノ宅地ヲ觀望スヘキ窓又ハ椽側ヲ設クル者ハ目隱ヲ附スルコトヲ要ス

前項ノ距離ハ窓又ハ椽側ノ最モ隣地ニ近キ點ヨリ直角線ニテ疆界線ニ至ルマテヲ測算ス

第二百三十六條　前二條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百三十七條　井戶、用水溜、下水溜又ハ肥料溜ヲ穿ツニハ疆界線ヨリ六尺以上、池、地窖又ハ厠坑ヲ穿ツニハ三尺以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

水樋ヲ埋メ又ハ溝渠ヲ穿ツニハ疆界線ヨリ其深サノ半以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス但三尺ヲ踰ユルコトヲ要セス

第二百三十八條　疆界線ノ近傍ニ於テ前條ノ工事ヲ爲ストキハ土砂ノ崩壞又ハ水若クハ汚液ノ滲漏ヲ防クニ必要ナル注意ヲ爲スコトヲ要ス

第二節　所有權ノ取得

第二百三十九條　無主ノ動産ハ所有ノ意思ヲ以テ之ヲ占有スルニ因リテ其所有權ヲ取得ス

無主ノ不動産ハ國庫ノ所有ニ屬ス

第二百四十條　遺失物ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲シタル後一年內ニ其所有者ノ知レサルトキハ拾得者其所有權ヲ取得ス

第二百四十一條　埋藏物ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲シタル後六个月內ニ其所有者ノ知レサルトキハ發見者其所有權ヲ取得ス但他人ノ物ノ中ニ於テ發見シタル埋藏物ハ發見者及ヒ其物ノ所有者折半シテ其所有權ヲ取得ス

第二百四十二條　不動産ノ所有者ハ其不動産ノ從トシテ之ニ附合シタル物ノ所有權ヲ取得ス但權原ニ因リテ其物ヲ附屬セシメタル他人ノ權利ヲ妨ケス

第二百四十三條　各別ノ所有者ニ屬スル數個ノ動産カ附合ニ因リ毀損スルニ非サレハ之ヲ

ヲ分離スルコト能ハサルニ至リタルトキハ其合成物ノ所有權ハ主タル動産ノ所有者ニ屬ス分離ノ爲メ過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

第二百四十四條　附合シタル動産ニ付キ主從ノ區別ヲ爲スコト能ハサルトキハ各動産ノ所有者ハ其附合ノ當時ニ於ケル價格ノ割合ニ應シテ合成物ヲ共有ス

第二百四十五條　前二條ノ規定ハ各別ノ所有者ニ屬スル物カ混和シテ識別スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十六條　他人ノ動産ニ工作ヲ加ヘタル者アルトキハ其加工物ノ所有權ハ材料ノ所有者ニ屬ス但工作ニ因リテ生シタル價格カ著シク材料ノ價格ニ超ユルトキハ加工者其物ノ所有權ヲ取得ス

加工者カ材料ノ一部ヲ供シタルトキハ其價格ニ工作ニ因リテ生シタル價格ヲ加ヘタルモノカ他人ノ材料ノ價格ニ超ユルトキニ限リ加工者其物ノ所有權ヲ取得ス

第二百四十七條　前五條ノ規定ニ依リテ物ノ所有權カ消滅シタルトキハ其物ノ上ニ存セル他ノ權利モ亦消滅ス

右ノ物ノ所有者カ合成物、混和物又ハ加工物ノ單獨所有者ト爲リタルトキハ前項ノ權利ハ爾後合成物、混和物又ハ加工物ノ上ニ存シ其共有者ト爲リタルトキハ其持分ノ上ニ存ス

第二百四十八條　前六條ノ規定ノ適用ニ因リテ損失ヲ受ケタル者ハ第七百三條及ヒ第七百四條ノ規定ニ從ヒ償金ヲ請求スルコトヲ得

第三節　共有

第二百四十九條　各共有者ハ共有物ノ全部ニ付キ其持分ニ應シタル使用ヲ爲スコトヲ得

第二百五十條　各共有者ノ持分ハ相均シキモノト推定ス

第二百五十一條　各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ共有物ニ變更ヲ加フルコトヲ得ス

第二百五十二條　共有物ノ管理ニ關スル事項ハ前條ノ場合ヲ除ク外各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス但保存行爲ハ各共有者之ヲ爲スコトヲ得

第二百五十三條　各共有者ハ其持分ニ應シ管理ノ費用ヲ拂ヒ其他共有物ノ負擔ニ任ス

共有者カ一年內ニ前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ他ノ共有者ハ相當ノ償金ヲ拂ヒテ其者ノ持分ヲ取得スルコトヲ得

第二百五十四條　共有者ノ一人カ共有物ニ付キ他ノ共有者ニ對シテ有スル債權ハ其特定承繼人ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得

第二百五十五條　共有者ノ一人カ其持分ヲ抛棄シタルトキ又ハ相續人ナクシテ死亡シタルトキハ其持分ハ他ノ共有者ニ歸屬ス

第二百五十六條　各共有者ハ何時ニテモ共有物ノ分割ヲ請求スルコトヲ得但五年ヲ超エサル期間內分割ヲ爲ササル契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

此契約ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二百五十七條　前條ノ規定ハ第二百八條及ヒ第二百二十九條ニ揭ケタル共有物ニハ之ヲ適用セス

第二百五十八條　分割ハ共有者ノ協議調ハサルトキハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ現物ヲ以テ分割ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ分割ニ因リテ著シク其價格ヲ損スル虞アルトキハ裁判所ハ其競賣ヲ命スルコトヲ得

第二百五十九條　共有者ノ一人カ他ノ共有者ニ對シテ共有ニ關スル債權ヲ有スルトキハ分割ニ際シ債務者ニ歸スヘキ共有物ノ部分ヲ以テ其辨濟ヲ爲サシムルコトヲ得

債權者ハ右ノ辨濟ヲ受クル爲メ債務者ニ歸スヘキ共有物ノ部分ヲ賣却スル必要アルトキハ其賣却ヲ請求スルコトヲ得

第二百六十條　共有物ニ付キ權利ヲ有スル者及ヒ各共有者ノ債權者ハ自己ノ費用ヲ以テ分割ニ參加スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ參加ノ請求アリタルニ拘ハラス其參加ヲ待タスシテ分割ヲ爲シタルトキハ其分割ハ之ヲ以テ參加ヲ請求シタル者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二百六十一條　各共有者ハ他ノ共有者カ分割ニ因リテ得タル物ニ付キ賣主ト同シク其持分ニ應シテ擔保ノ責ニ任ス

第二百六十二條　分割カ結了シタルトキハ各分割者ハ其受ケタル物ニ關スル證書ヲ保存スルコトヲ要ス

共有者一同又ハ其中ノ數人ニ分割シタル物ニ關スル證書ハ其物ノ最大部分ヲ受ケタル者之ヲ保存スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ最大部分ヲ受ケタル者ナキトキハ分割者ノ協議ヲ以テ證書ノ保存者ヲ定ム若シ協議調ハサルトキハ裁判所之ヲ指定ス

證書ノ保存者ハ他ノ分割者ノ請求ニ應シテ其證書ヲ使用セシムルコトヲ要ス

第二百六十三條　共有ノ性質ヲ有スル入會權ニ付テハ各地方ノ慣習ニ從フ外本節ノ規定ヲ適用ス

第二百六十四條　本節ノ規定ハ數人ニテ所有權以外ノ財產權ヲ有スル場合ニ之ヲ準用ス但法令ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第四章　地上權

第二百六十五條　地上權者ハ他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲メ其土地ヲ使用スル權利ヲ有ス

第二百六十六條　地上權者カ土地ノ所有者ニ定期ノ地代ヲ拂フヘキトキハ第二百七十四條乃至第二百七十六條ノ規定ヲ準用ス

此他地代ニ付テハ賃貸借ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百六十七條　第二百九條乃至第二百三十八條ノ規定ハ地上權者間又ハ地上權者ト土地ノ所有者トノ間ニ之ヲ準用ス但第二百二十九條ノ推定ハ地上權設定後ニ爲シタル工事ニ付テハ地上權者ニノミ之ヲ準用ス

第二百六十八條　設定行爲ヲ以テ地上權ノ存續期間ヲ定メサリシ場合ニ於テ別段ノ慣習ナキトキハ地上權者ハ何時ニテモ其權利ヲ抛棄スルコトヲ得但地代ヲ拂フヘキトキハ一年前ニ豫告ヲ爲シ又ハ未タ期限ノ至ラサル一年分ノ地代ヲ拂フコトヲ要ス

地上權者カ前項ノ規定ニ依リテ其權利ヲ抛棄セサルトキハ裁判所ハ當事者ノ請求ニ因リ二十年以上五十年以下ノ範圍內ニ於テ工作物又ハ竹木ノ種類及ヒ狀況其他地上權設定ノ當時ノ事情ヲ斟酌シテ其存續期間ヲ定ム

第二百六十九條　地上權者ハ其權利消滅ノ時土地ヲ原狀ニ復シテ其工作物及ヒ竹木ヲ收去スルコトヲ得但土地ノ所有者カ時價ヲ提供シテ之ヲ買取ルヘキ旨ヲ通知シタルトキハ地上權者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第五章　永小作權

第二百七十條　永小作人ハ小作料ヲ拂ヒテ他人ノ土地ニ耕作又ハ牧畜ヲ爲ス權利ヲ有ス

第二百七十一條　永小作人ハ土地ニ永久ノ損害ヲ生スヘキ變更ヲ加フルコトヲ得ス

第二百七十二條　永小作人ハ其權利ヲ他人ニ讓渡シ又ハ其權利ノ存續期間內ニ於テ耕作若クハ牧畜ノ爲メ土地ヲ賃貸スルコトヲ得但設定行爲ヲ以テ之ヲ禁シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百七十三條　永小作人ノ義務ニ付テハ本章ノ規定及ヒ設定行爲ヲ以テ定メタルモノノ外賃貸借ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百七十四條　永小作人ハ不可抗力ニ因リ收益ニ付キ損失ヲ受ケタルトキト雖モ小作料ノ免除又ハ減額ヲ請求スルコトヲ得ス

第二百七十五條　永小作人カ不可抗力ニ因リ引續キ三年以上全ク收益ヲ得ス又ハ五年以上小作料ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ其權利ヲ抛棄スルコトヲ得

第二百七十六條　永小作人カ引續キ二年以上小作料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ地主ハ永小作權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十七條　前六條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百七十八條　永小作權ノ存續期間ハ二十年以上五十年以下トス若シ五十年ヨリ長キ

期間ヲ以テ永小作權ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ五十年ニ短縮ス

永小作權ノ設定ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ五十年ヲ超ユルコトヲ得ス

設定行爲ヲ以テ永小作權ノ存續期間ヲ定メサリシトキハ其期間ハ別段ノ慣習アル場合ヲ除ク外之ヲ三十年トス

第二百七十九條　第二百六十九條ノ規定ハ永小作權ニ之ヲ準用ス

第六章　地役權

第二百八十條　地役權者ハ設定行爲ヲ以テ定メタル目的ニ從ヒ他人ノ土地ヲ自己ノ土地ノ便益ニ供スル權利ヲ有ス但第三章第一節中ノ公ノ秩序ニ關スル規定ニ違反セサルコトヲ要ス

第二百八十一條　地役權ハ要役地ノ所有權ノ從トシテ之ト共ニ移轉シ又ハ要役地ノ上ニ存スル他ノ權利ノ目的タルモノトス但設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

地役權ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第二百八十二條　土地ノ共有者ノ一人ハ其持分ニ付キ其土地ノ爲メニ又ハ其土地ノ上ニ存スル地役權ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

土地ノ分割又ハ其一部ノ讓渡ノ場合ニ於テハ地役權ハ其各部ノ爲メニ又ハ其各部ノ上ニ存ス但地役權カ其性質ニ因リ土地ノ一部ノミニ關スルトキハ此限ニ在ラス

第二百八十三條　地役權ハ繼續且表現ノモノニ限リ時效ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得

第二百八十四條　共有者ノ一人カ時效ニ因リテ地役權ヲ取得シタルトキハ他ノ共有者モ亦之ヲ取得ス

共有者ニ對スル時效中斷ハ地役權ヲ行使スル各共有者ニ對シテ之ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ生セス

地役權ヲ行使スル共有者數人アル場合ニ於テ其一人ニ對シテ時效停止ノ原因アルモ時效ハ各共有者ノ爲メニ進行ス

第二百八十五條　用水地役權ノ承役地ニ於テ水カ要役地及ヒ承役地ノ需要ノ爲メニ不足ナルトキハ其各地ノ需要ニ應シ先ツ之ヲ家用ニ供シ其殘餘ヲ他ノ用ニ供スルモノトス但設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

同一ノ承役地ノ上ニ數個ノ用水地役權ヲ設定シタルトキハ後ノ地役權者ハ前ノ地役權者ノ水ノ使用ヲ妨クルコトヲ得ス

第二百八十六條　設定行爲又ハ特別契約ニ因リ承役地ノ所有者カ其費用ヲ以テ地役權ノ行使ノ爲メニ工作物ヲ設ケ又ハ其修繕ヲ爲ス義務ヲ負擔シタルトキハ其義務ハ承役地ノ所有者ノ特定承繼人モ亦之ヲ負擔ス

第二百八十七條　承役地ノ所有者ハ何時ニテモ地役權ニ必要ナル土地ノ部分ノ所有權ヲ地役權者ニ委棄シテ前條ノ負擔ヲ免ルルコトヲ得

第二百八十八條　承役地ノ所有者ハ地役權ノ行使ヲ妨ケサル範圍內ニ於テ其行使ノ爲メニ承役地ノ上ニ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ承役地ノ所有者ハ其利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ設置及ヒ保存ノ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス

第二百八十九條　承役地ノ占有者カ取得時效ニ必要ナル條件ヲ具備セル占有ヲ爲シタルトキハ地役權ハ之ニ因リテ消滅ス

第二百九十條　前條ノ消滅時效ハ地役權者カ其權利ヲ行使スルニ因リテ中斷ス

第二百九十一條　第百六十七條第二項ニ規定セル消滅時效ノ期間ハ不繼續地役權ニ付テハ最後ノ行使ノ時ヨリ之ヲ起算シ繼續地役權ニ付テハ其行使ヲ妨クヘキ事實ノ生シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二百九十二條　要役地カ數人ノ共有ニ屬スル場合ニ於テ其一人ノ爲メニ時效ノ中斷又ハ停止アルトキハ其中斷又ハ停止ハ他ノ共有者ノ爲メニモ其效力ヲ生ス

第二百九十三條　地役權者カ其權利ノ一部ヲ行使セサルトキハ其部分ノミ時效ニ因リテ消滅ス

第二百九十四條　共有ノ性質ヲ有セサル入會權ニ付テハ各地方ノ慣習ニ從フ外本章ノ規定ヲ準用ス

第七章　留置權

第二百九十五條　他人ノ物ノ占有者カ其物ニ關シテ生シタル債權ヲ有スルトキハ其債權ノ辨濟ヲ受クルマテ其物ヲ留置スルコトヲ得但其債權カ辨濟期ニ在ラサルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ占有カ不法行爲ニ因リテ始マリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百九十六條　留置權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルマテハ留置物ノ全部ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第二百九十七條　留置權者ハ留置物ヨリ生スル果實ヲ收取シ他ノ債權者ニ先チテ之ヲ其債權ノ辨濟ニ充當スルコトヲ得

前項ノ果實ハ先ツ之ヲ債權ノ利息ニ充當シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ元本ニ充當スルコトヲ要ス

第二百九十八條　留置權者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ留置物ヲ占有スルコトヲ要ス

留置權者ハ債務者ノ承諾ナクシテ留置物ノ使用若クハ賃貸ヲ爲シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得ス但其物ノ保存ニ必要ナル使用ヲ爲スハ此限ニ在ラス

留置權者カ前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ債務者ハ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二百九十九條　留置權者カ留置物ニ付キ必要費ヲ出タシタルトキハ所有者ヲシテ其償還ヲ爲サシムルコトヲ得

留置權者カ留置物ニ付キ有益費ヲ出タシタルトキハ其價格ノ增加カ現存スル場合ニ限リ所有者ノ選擇ニ從ヒ其費シタル金額又ハ增價額ヲ償還セシムルコトヲ得但裁判所ハ所有者ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第三百條　留置權ノ行使ハ債權ノ消滅時效ノ進行ヲ妨ケス

第三百一條　債務者ハ相當ノ擔保ヲ供シテ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第三百二條　留置權ハ占有ノ喪失ニ因リテ消滅ス但第二百九十八條第二項ノ規定ニ依リ賃貸又ハ質入ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス

第八章　先取特權

第一節　總則

第三百三條　先取特權者ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ從ヒ其債務者ノ財產ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第三百四條　先取特權ハ其目的物ノ賣却、賃貸、滅失又ハ毀損ニ因リテ債務者カ受クヘキ金錢其他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但先取特權者ハ其拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス

債務者カ先取特權ノ目的物ノ上ニ設定シタル物權ノ對價ニ付キ亦同シ

第三百五條　第二百九十六條ノ規定ハ先取特權ニ之ヲ準用ス

第二節　先取特權ノ種類

第一款　一般ノ先取特權

第三百六條　左ニ揭ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ總財產ノ上ニ先取特權ヲ有ス

一　共益ノ費用
二　葬式ノ費用
三　雇人ノ給料
四　日用品ノ供給

第三百七條　共益費用ノ先取特權ハ各債權者ノ共同利益ノ爲メニ爲シタル債務者ノ財產ノ保存、淸算又ハ配當ニ關スル費用ニ付キ存在ス

前項ノ費用中總債權者ニ有益ナラサリシモノニ付テハ先取特權ハ其費用ノ爲メ利益ヲ受ケタル債權者ニ對シテノミ存在ス

第三百八條　葬式費用ノ先取特權ハ債務者ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付キ存在ス

前項ノ先取特權ハ債務者カ其扶養スヘキ親族又ハ家族ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付テモ亦存在ス

第三百九條　雇人給料ノ先取特權ハ債務者ノ雇人カ受クヘキ最後ノ六个月間ノ給料ニ付キ存在ス但其金額ハ五十圓ヲ限トス

第三百十條　日用品供給ノ先取特權ハ債務者又ハ其扶養スヘキ同居ノ親族竝ニ家族及ヒ其僕婢ノ生活ニ必要ナル最後ノ六个月間ノ飲食品及ヒ薪炭油ノ供給ニ付キ存在ス

第二款　動産ノ先取特權

第三百十一條　左ニ揭ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ特定動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス
一　不動産ノ賃貸借
二　旅店ノ宿泊
三　旅客又ハ荷物ノ運輸
四　公吏ノ職務上ノ過失
五　動産ノ保存
六　動産ノ賣買
七　種苗又ハ肥料ノ供給
八　農工業ノ勞役

第三百十二條　不動産賃貸ノ先取特權ハ其不動産ノ賃貸其他賃貸借關係ヨリ生シタル賃借人ノ債務ニ付キ賃借人ノ動産ノ上ニ存在ス

第三百十三條　土地ノ賃貸人ノ先取特權ハ其土地又ハ其利用ノ爲メニスル建物ニ備附ケタル動産、其土地ノ利用ニ供シタル動産及ヒ賃借人ノ占有ニ在ル其土地ノ果實ノ上ニ存在ス
建物ノ賃貸人ノ先取特權ハ賃借人カ其建物ニ備附ケタル動産ノ上ニ存在ス

第三百十四條　賃借權ノ讓渡又ハ轉貸ノ場合ニ於テハ賃貸人ノ先取特權ハ讓受人又ハ轉借人ノ動産ニ及フ讓渡人又ハ轉貸人カ受クヘキ金額ニ付キ亦同シ

第三百十五條　賃借人ノ財産ノ總清算ノ場合ニ於テハ賃貸人ノ先取特權ハ前期、當期及ヒ次期ノ借賃其他ノ債務及ヒ前期竝ニ當期ニ於テ生シタル損害ノ賠償ニ付テノミ存在ス

第三百十六條　賃貸人カ敷金ヲ受取リタル場合ニ於テハ其敷金ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ先取特權ヲ有ス

第三百十七條　旅店宿泊ノ先取特權ハ旅客、其從者及ヒ牛馬ノ宿泊料竝ニ飲食料ニ付キ其旅店ニ存スル手荷物ノ上ニ存在ス

第三百十八條　運輸ノ先取特權ハ旅客又ハ荷物ノ運送賃及ヒ附隨ノ費用ニ付キ運送人ノ手ニ存スル荷物ノ上ニ存在ス

第三百十九條　第百九十二條乃至第百九十五條ノ規定ハ前七條ノ先取特權ニ之ヲ準用ス

第三百二十條　公吏保證金ノ先取特權ハ保證金ヲ供シタル公吏ノ職務上ノ過失ニ因リテ生シタル債權ニ付キ其保證金ノ上ニ存在ス

第三百二十一條　動産保存ノ先取特權ハ動産ノ保存費ニ付キ其動産ノ上ニ存在ス
前項ノ先取特權ハ動産ニ關スル權利ヲ保存、追認又ハ實行セシムル爲メニ要シタル費用ニ付テモ亦存在ス

第三百二十二條　動産賣買ノ先取特權ハ動産ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其動産ノ上ニ存在ス

第三百二十三條　種苗肥料供給ノ先取特權ハ種苗又ハ肥料ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其種苗又ハ肥料ヲ用井タル後一年内ニ之ヲ用井タル土地ヨリ生シタル果實ノ上ニ存在ス
前項ノ先取特權ハ蠶種又ハ蠶ノ飼養ニ供シタル桑葉ノ供給ニ付キ其蠶種又ハ桑葉ヨリ生シタル物ノ上ニモ亦存在ス

第三百二十四條　農工業勞役ノ先取特權ハ農業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ一年間工業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ三个月間ノ賃金ニ付キ其勞役ニ因リテ生シタル果實又ハ製作物ノ上ニ存在ス

第三款　不動産ノ先取特權

第三百二十五條　左ニ揭ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ特定不動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス
一　不動産ノ保存
二　不動産ノ工事
三　不動産ノ賣買

第三百二十六條　不動産保存ノ先取特權ハ不動産ノ保存費ニ付キ其不動産ノ上ニ存在ス
第三百二十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十七條　不動産工事ノ先取特權ハ工匠、技師及ヒ請負人カ債務者ノ不動産ニ關シテ爲シタル工事ノ費用ニ付キ其不動産ノ上ニ存在ス
前項ノ先取特權ハ工事ニ因リテ生シタル不動産ノ增價カ現存スル場合ニ限リ其增價額ニ付テノミ存在ス

第三百二十八條　不動産賣買ノ先取特權ハ不動産ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其不動産ノ上ニ存在ス

第三節　先取特權ノ順位

第三百二十九條　一般ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百六條ニ揭ケタル順序ニ從フ
一般ノ先取特權ト特別ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ツ但共益費用ノ先取特權ハ其利益ヲ受ケタル總債權者ニ對シテ優先ノ效力ヲ有ス

第三百三十條　同一ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位左ノ如シ
第一　不動産賃貸、旅店宿泊及ヒ運輸ノ先取特權
第二　動産保存ノ先取特權但數人ノ保存者アリタルトキハ後ノ保存者ハ前ノ保存者ニ先ツ
第三　動産賣買、種苗肥料供給及ヒ農工業勞役ノ先取特權
第一順位ノ先取特權者カ債權取得ノ當時第二又ハ第三ノ順位ノ先取特權者アルコトヲ知リタルトキハ之ニ對シテ優先權ヲ行フコトヲ得ス第一順位者ノ爲メニ物ヲ保存シタル者ニ對シ亦同シ
果實ニ關シテハ第一ノ順位ハ農業ノ勞役者ニ第二ノ順位ハ種苗又ハ肥料ノ供給者ニ第三ノ順位ハ土地ノ賃貸人ニ屬ス

第三百三十一條　同一ノ不動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百二十五條ニ揭ケタル順序ニ從フ
同一ノ不動産ニ付キ逐次ノ賣買アリタルトキハ賣主相互間ノ優先權ノ順位ハ時ノ前後ニ依ル

第三百三十二條　同一ノ目的物ニ付キ同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク

第四節　先取特權ノ效力

第三百三十三條　先取特權ハ債務者カ其動産ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

第三百三十四條　先取特權ト動産質權ト競合スル場合ニ於テハ動産質權者ハ第三百三十條ニ揭ケタル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第三百三十五條　一般ノ先取特權者ハ先ツ不動産以外ノ財産ニ付キ辨濟ヲ受ケ尚ホ不足アルニ非サレハ不動産ニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス
不動産ニ付テハ先ツ特別擔保ノ目的タラサルモノニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ要ス
一般ノ先取特權者カ前二項ノ規定ニ從ヒテ配當ニ加入スルコトヲ怠リタルトキハ其配當加入ニ因リテ受クヘカリシモノノ限度ニ於テハ登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテ其先取特權ヲ行フコトヲ得ス
前三項ノ規定ハ不動産以外ノ財産ノ代價ニ先チテ不動産ノ代價ヲ配當シ又ハ他ノ不動産ノ代價ニ先チテ特別擔保ノ目的タル不動産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス

第三百三十六條　一般ノ先取特權ハ不動産ニ付キ登記ヲ爲ササルモ之ヲ以テ特別擔保ヲ有セサル債權者ニ對抗スルコトヲ妨ケス但登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテハ此限ニ在ラス

第三百三十七條　不動産保存ノ先取特權ハ保存行爲完了ノ後直チニ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ保存ス

第三百三十八條　不動産工事ノ先取特權ハ工事ヲ始ムル前ニ其費用ノ豫算額ヲ登記スルニ因リテ其效力ヲ保存ス但工事ノ費用カ豫算額ヲ超ユルトキハ先取特權ハ其超過額ニ付テハ存在セス

工事ニ因リテ生シタル不動産ノ增價額ハ配當加入ノ時裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ要ス

第三百三十九條　前二條ノ規定ニ從ヒテ登記シタル先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得

第三百四十條　不動産賣買ノ先取特權ハ賣買契約ト同時ニ未タ代價又ハ其利息ノ辨濟アラサル旨ヲ登記スルニ因リテ其效力ヲ保存ス

第三百四十一條　先取特權ノ效力ニ付テハ本節ニ定メタルモノノ外抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス

第九章　質權

第一節　總則

第三百四十二條　質權者ハ其債權ノ擔保トシテ債務者又ハ第三者ヨリ受取リタル物ヲ占有シ且其物ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第三百四十三條　質權ハ讓渡スコトヲ得サル物ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ス

第三百四十四條　質權ノ設定ハ債權者ニ其目的物ヲ引渡スニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百四十五條　質權者ハ質權設定者ヲシテ自己ニ代ハリテ質物ノ占有ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第三百四十六條　質權ハ元本、利息、違約金、質權實行ノ費用、質物保存ノ費用及ヒ債務ノ不履行又ハ質物ノ隱レタル瑕疵ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ擔保ス但設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第三百四十七條　質權者ハ前條ニ揭ケタル債權ノ辨濟ヲ受クルマテハ質物ヲ留置スルコトヲ得但此權利ハ之ヲ以テ自己ニ對シ優先權ヲ有スル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百四十八條　質權者ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ轉質ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ轉質ヲ爲ササレハ生セサルヘキ不可抗力ニ因ル損失ニ付テモ亦其責ニ任ス

第三百四十九條　質權設定者ハ設定行爲又ハ債務ノ辨濟期前ノ契約ヲ以テ質權者ニ辨濟トシテ質物ノ所有權ヲ取得セシメ其他法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ質物ヲ處分セシムルコトヲ約スルコトヲ得ス

第三百五十條　第二百九十六條乃至第三百條及ヒ第三百四條ノ規定ハ質權ニ之ヲ準用ス

第三百五十一條　他人ノ債務ヲ擔保スル爲メ質權ヲ設定シタル者カ其債務ヲ辨濟シ又ハ質權ノ實行ニ因リテ質物ノ所有權ヲ失ヒタルトキハ保證債務ニ關スル規定ニ從ヒ債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第二節　動産質

第三百五十二條　動産質權者ハ繼續シテ質物ヲ占有スルニ非サレハ其質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百五十三條　動産質權者カ質物ノ占有ヲ奪ハレタルトキハ占有回收ノ訴ニ依リテノミ其質物ヲ回復スルコトヲ得

第三百五十四條　動産質權者カ其債權ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ正當ノ理由アル場合ニ限リ鑑定人ノ評價ニ從ヒ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ質權者ハ豫メ債務者ニ其請求ヲ通知スルコトヲ要ス

第三百五十五條　數個ノ債權ヲ擔保スル爲メ同一ノ動産ニ付キ質權ヲ設定シタルトキハ其質權ノ順位ハ設定ノ前後ニ依ル

第三節　不動産質

第三百五十六條　不動産質權者ハ質權ノ目的タル不動産ノ用方ニ從ヒ其使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ得

第三百五十七條　不動産質權者ハ管理ノ費用ヲ拂ヒ其他不動産ノ負擔ニ任ス

第三百五十八條　不動産質權者ハ其債權ノ利息ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百五十九條　前三條ノ規定ハ設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

第三百六十條　不動産質ノ存續期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ不動産質ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ十年ニ短縮ス
不動産質ノ設定ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第三百六十一條　不動産質ニハ本節ノ規定ノ外次章ノ規定ヲ準用ス

第四節　權利質

第三百六十二條　質權ハ財産權ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得
前項ノ質權ニハ本節ノ規定ノ外前三節ノ規定ヲ準用ス

第三百六十三條　債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲ス場合ニ於テ其債權ノ證書アルトキハ質權ノ設定ハ其證書ノ交付ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百六十四條　指名債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ第三債務者ニ質權ノ設定ヲ通知シ又ハ第三債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ第三債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
前項ノ規定ハ記名ノ株式ニハ之ヲ適用セス

第三百六十五條　記名ノ社債ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ社債ノ讓渡ニ關スル規定ニ從ヒ會社ノ帳簿ニ質權ノ設定ヲ記入スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百六十六條　指圖債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ其證書ニ質權ノ設定ヲ裏書スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百六十七條　質權者ハ質權ノ目的タル債權ヲ直接ニ取立ツルコトヲ得
債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ質權者ハ自己ノ債權額ニ對スル部分ニ限リ之ヲ取立ツルコトヲ得
右ノ債權ノ辨濟期カ質權者ノ債權ノ辨濟期前ニ到來シタルトキハ質權者ハ第三債務者ヲシテ其辨濟金額ヲ供託セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ質權ハ其供託金ノ上ニ存在ス
債權ノ目的物カ金錢ニ非サルトキハ質權者ハ辨濟トシテ受ケタル物ノ上ニ質權ヲ有ス

第三百六十八條　質權者ハ前條ノ規定ニ依ル外民事訴訟法ニ定ムル執行方法ニ依リテ質權ノ實行ヲ爲スコトヲ得

第十章　抵當權

第一節　總則

第三百六十九條　抵當權者ハ債務者又ハ第三者カ占有ヲ移サスシテ債務ノ擔保ニ供シタル不動産ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス
地上權及ヒ永小作權モ亦之ヲ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本章ノ規定ヲ準用ス

第三百七十條　抵當權ハ抵當地ノ上ニ存スル建物ヲ除ク外其目的タル不動産ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ニ及フ但設定行爲ニ別段ノ定アルトキ及ヒ第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行爲ヲ取消スコトヲ得ル場合ハ此限ニ在ラス

第三百七十一條　前條ノ規定ハ果實ニハ之ヲ適用セス但抵當不動産ノ差押アリタル後又ハ第三取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタル後ハ此限ニ在ラス
第三取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其後一年内ニ抵當不動産ノ差押アリタル場合ニ限リ前項但書ノ規定ヲ適用ス

第三百七十二條　第二百九十六條、第三百四條及ヒ第三百五十一條ノ規定ハ抵當權ニ之ヲ準用ス

第二節　抵當權ノ效力

第三百七十三條　數個ノ債權ヲ擔保スル爲メ同一ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ設定シタルトキハ其抵當權ノ順位ハ登記ノ前後ニ依ル

第三百七十四條　抵當權者カ利息其他ノ定期金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其滿期ト爲リタル最後ノ二年分ニ付テノミ其抵當權ヲ行フコトヲ得但其以前ノ定期金ニ付テモ滿期後特別ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記ノ時ヨリ之ヲ行フコトヲ妨ケス
前項ノ規定ハ抵當權者カ債務ノ不履行ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テ其最後ノ二年分ニ付テモ亦之ヲ適用ス但利息其他ノ定期金ト通シテ二年分ヲ超ユルコトヲ得ス

第三百七十五條　抵當權者ハ其抵當權ヲ以テ他ノ債權ノ擔保ト爲シ又同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ノ利益ノ爲メ其抵當權若クハ其順位ヲ讓渡シ又ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ抵當權者カ數人ノ爲メニ其抵當權ノ處分ヲ爲シタルトキハ其處分ノ

利益ヲ受ケタル者ノ權利ノ順位ハ抵當權ノ登記ニ附記ヲ爲シタル前後ニ依ル

第三百七十六條　前條ノ場合ニ於テハ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ抵當權ノ處分ヲ通知シ又ハ其債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ其債務者、保證人、抵當權設定者及ヒ其承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス

主タル債務者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ承諾ヲ爲シタルトキハ抵當權ノ處分ノ利益ヲ受クル者ノ承諾ナクシテ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ其受益者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百七十七條　抵當不動產ニ付キ所有權又ハ地上權ヲ買受ケタル第三者カ抵當權者ノ請求ニ應シテ之ニ其代價ヲ辨濟シタルトキハ抵當權ハ其第三者ノ爲メニ消滅ス

第三百七十八條　抵當不動產ニ付キ所有權、地上權又ハ永小作權ヲ取得シタル第三者ハ第三百八十二條乃至第三百八十四條ノ規定ニ從ヒ抵當權者ニ提供シテ其承諾ヲ得タル金額ヲ拂渡シ又ハ之ヲ供託シテ抵當權ヲ滌除スルコトヲ得

第三百七十九條　主タル債務者、保證人及ヒ其承繼人ハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十條　停止條件附第三取得者ハ條件ノ成否未定ノ間ハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十一條　抵當權者カ其抵當權ヲ實行セント欲スルトキハ豫メ第三百七十八條ニ揭ケタル第三取得者ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第三百八十二條　第三取得者ハ前條ノ通知ヲ受クルマテハ何時ニテモ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得

第三取得者カ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ一个月內ニ次條ノ送達ヲ爲スニ非サレハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得ス

前條ノ通知アリタル後ニ第三百七十八條ニ揭ケタル權利ヲ取得シタル第三者ハ前項ノ第三取得者カ滌除ヲ爲スコトヲ得ル期間內ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十三條　第三取得者カ抵當權ヲ滌除セント欲スルトキハ登記ヲ爲シタル各債權者ニ左ノ書面ヲ送達スルコトヲ要ス

一　取得ノ原因、年月日、讓渡人及ヒ取得者ノ氏名、住所、抵當不動產ノ性質、所在、代價其他取得者ノ負擔ヲ記載シタル書面

二　抵當不動產ニ關スル登記簿ノ謄本但既ニ消滅シタル權利ニ關スル登記ハ之ヲ揭クルコトヲ要セス

三　債權者カ一个月內ニ次條ノ規定ニ從ヒ增價競賣ヲ請求セサルトキハ第三取得者ハ第一號ニ揭ケタル代價又ハ特ニ指定シタル金額ヲ債權ノ順位ニ從ヒテ辨濟又ハ供託スヘキ旨ヲ記載シタル書面

第三百八十四條　債權者カ前條ノ送達ヲ受ケタル後一个月內ニ增價競賣ヲ請求セサルトキハ第三取得者ノ提供ヲ承諾シタルモノト看做ス

增價競賣ハ若シ競賣ニ於テ第三取得者カ提供シタル金額ヨリ十分ノ一以上高價ニ抵當不動產ヲ賣却スルコト能ハサルトキハ十分ノ一ノ增價ヲ以テ自ラ其不動產ヲ買受クヘキ旨ヲ附言シ第三取得者ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ債權者ハ代價及ヒ費用ニ付キ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第三百八十五條　債權者カ增價競賣ヲ請求スルトキハ前條ノ期間內ニ債務者及ヒ抵當不動產ノ讓渡人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第三百八十六條　增價競賣ヲ請求シタル債權者ハ登記ヲ爲シタル他ノ債權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其請求ヲ取消スコトヲ得ス

第三百八十七條　抵當權者カ第三百八十二條ニ定メタル期間內ニ第三取得者ヨリ債務ノ辨濟又ハ滌除ノ通知ヲ受ケサルトキハ抵當不動產ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得

第三百八十八條　土地及ヒ其上ニ存スル建物カ同一ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テ其土地又ハ建物ノミヲ抵當ト爲シタルトキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付キ地上權ヲ設定シタルモノト看做ス但地代ハ當事者ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ定ム

第三百八十九條　抵當權設定ノ後其設定者カ抵當地ニ建物ヲ築造シタルトキハ抵當權者ハ土地ト共ニ之ヲ競賣スルコトヲ得但其優先權ハ土地ノ代價ニ付テノミ之ヲ行フコトヲ得

第三百九十條　第三取得者ハ競買人ト爲ルコトヲ得

第三百九十一條　第三取得者カ抵當不動產ニ付キ必要費又ハ有益費ヲ出タシタルトキハ第百九十六條ノ區別ニ從ヒ不動產ノ代價ヲ以テ最モ先ニ其償還ヲ受クルコトヲ得

第三百九十二條　債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數個ノ不動產ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其代價ヲ配當スヘキトキハ其各不動產ノ價額ニ準シテ其債權ノ負擔ヲ分ツ

或不動產ノ代價ノミヲ配當スヘキトキハ抵當權者ハ其代價ニ付キ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テハ次ノ順位ニ在ル抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ不動產ニ付キ辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿ツルマテ之ニ代位シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

第三百九十三條　前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其抵當權ノ登記ニ其代位ヲ附記スルコトヲ得

第三百九十四條　抵當權者ハ抵當不動產ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ財產ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ抵當不動產ノ代價ニ先チテ他ノ財產ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス但他ノ各債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケシムル爲メ之ニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第三百九十五條　第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エサル賃貸借ハ抵當權ノ登記後ニ登記シタルモノト雖モ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得但其賃貸借カ抵當權者ニ損害ヲ及ホストキハ裁判所ハ抵當權者ノ請求ニ因リ其解除ヲ命スルコトヲ得

第三節　抵當權ノ消滅

第三百九十六條　抵當權ハ債務者及ヒ抵當權設定者ニ對シテハ其擔保スル債權ト同時ニ非サレハ時效ニ因リテ消滅セス

第三百九十七條　債務者又ハ抵當權設定者ニ非サル者カ抵當不動產ニ付キ取得時效ニ必要ナル條件ヲ具備セル占有ヲ爲シタルトキハ抵當權ハ之ニ因リテ消滅ス

第三百九十八條　地上權又ハ永小作權ヲ抵當ト爲シタル者カ其權利ヲ拋棄シタルモ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三編　債權

第一章　總則

第一節　債權ノ目的

第三百九十九條　債權ハ金錢ニ見積ルコトヲ得サルモノト雖モ之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第四百條　債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四百一條　債權ノ目的物ヲ指示スルニ種類ノミヲ以テシタル場合ニ於テ法律行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思ニ依リテ其品質ヲ定ムルコト能ハサルトキハ債務者ハ中等ノ品質ヲ有スル物ヲ給付スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ債務者カ物ノ給付ヲ爲スニ必要ナル行爲ヲ完了シ又ハ債權者ノ同意ヲ得テ其給付スヘキ物ヲ指定シタルトキハ爾後其物ヲ以テ債權ノ目的物トス

第四百二條　債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ債務者ハ其選擇ニ從ヒ各種ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得但特種ノ通貨ノ給付ヲ以テ債權ノ目的ト爲シタルトキハ此限ニ在ラス

債權ノ目的タル特種ノ通貨カ辨濟期ニ於テ强制通用ノ效力ヲ失ヒタルトキハ債務者ハ他ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ外國ノ通貨ノ給付ヲ以テ債權ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百三條　外國ノ通貨ヲ以テ債權額ヲ指定シタルトキハ債務者ハ履行地ニ於ケル爲替

相場ニ依リ日本ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得

第四百四條　利息ヲ生スヘキ債權ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ其利率ハ年五分トス

第四百五條　利息カ一年分以上延滯シタル場合ニ於テ債權者ヨリ催告ヲ爲スモ債務者カ其利息ヲ拂ハサルトキハ債權者ハ之ヲ元本ニ組入ルルコトヲ得

第四百六條　債權ノ目的カ數個ノ給付中選擇ニ依リテ定マルヘキトキハ其選擇權ハ債務者ニ屬ス

第四百七條　前條ノ選擇權ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ行フ

前項ノ意思表示ハ相手方ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第四百八條　債權カ辨濟期ニ在ル場合ニ於テ相手方ヨリ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スモ選擇權ヲ有スル當事者カ其期間內ニ選擇ヲ爲ササルトキハ其選擇權ハ相手方ニ屬ス

第四百九條　第三者カ選擇ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其選擇ハ債權者又ハ債務者ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第三者カ選擇ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ欲セサルトキハ選擇權ハ債務者ニ屬ス

第四百十條　債權ノ目的タルヘキ給付中始ヨリ不能ナルモノ又ハ後ニ至リテ不能ト爲リタルモノアルトキハ債權ハ其殘存スルモノニ付キ存在ス

選擇權ヲ有セサル當事者ノ過失ニ因リテ給付カ不能ト爲リタルトキハ前項ノ規定ヲ適用セス

第四百十一條　選擇ハ債權發生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第二節　債權ノ效力

第四百十二條　債務ノ履行ニ付キ確定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到來シタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス

債務ノ履行ニ付キ不確定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到來シタルコトヲ知リタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス

債務ノ履行ニ付キ期限ヲ定メサリシトキハ債務者ハ履行ノ請求ヲ受ケタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス

第四百十三條　債權者カ債務ノ履行ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受クルコト能ハサルトキハ其債權者ハ履行ノ提供アリタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス

第四百十四條　債務者カ任意ニ債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ其强制履行ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

債務ノ性質カ强制履行ヲ許ササル場合ニ於テ其債務カ作爲ヲ目的トスルトキハ債權者ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但法律行爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ裁判ヲ以テ債務者ノ意思表示ニ代フルコトヲ得

不作爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ債務者ノ費用ヲ以テ其爲シタルモノヲ除却シ且將來ノ爲メ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第四百十五條　債務者カ其債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ其損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

第四百十六條　損害賠償ノ請求ハ債務ノ不履行ニ因リテ通常生スヘキ損害ノ賠償ヲ爲サシムルヲ以テ其目的トス

特別ノ事情ニ因リテ生シタル損害ト雖モ當事者カ其事情ヲ豫見シ又ハ豫見スルコトヲ得ヘカリシトキハ債權者ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第四百十七條　損害賠償ハ別段ノ意思表示ナキトキハ金錢ヲ以テ其額ヲ定ム

第四百十八條　債務ノ不履行ニ關シ債權者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ責任及ヒ其金額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌ス

第四百十九條　金錢ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ付テハ其損害賠償ノ額ハ法定利率ニ依リテ之ヲ定ム但約定利率カ法定利率ニ超ユルトキハ約定利率ニ依ル

前項ノ損害賠償ニ付テハ債權者ハ損害ノ證明ヲ爲スコトヲ要セス又債務者ハ不可抗力ヲ以テ抗辯ト爲スコトヲ得ス

第四百二十條　當事者ハ債務ノ不履行ニ付キ損害賠償ノ額ヲ豫定スルコトヲ得此場合ニ於テハ裁判所ハ其額ヲ增減スルコトヲ得ス

賠償額ノ豫定ハ履行又ハ解除ノ請求ヲ妨ケス

違約金ハ之ヲ賠償額ノ豫定ト推定ス

第四百二十一條　前條ノ規定ハ當事者カ金錢ニ非サルモノヲ以テ損害ノ賠償ニ充ツヘキ旨ヲ豫定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百二十二條　債權者カ損害賠償トシテ其債權ノ目的タル物又ハ權利ノ價額ノ全部ヲ受ケタルトキハ債務者ハ其物又ハ權利ニ付キ當然債權者ニ代位ス

第四百二十三條　債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ得但債務者ノ一身ニ專屬スル權利ハ此限ニ在ラス

債權者ハ其債權ノ期限カ到來セサル間ハ裁判上ノ代位ニ依ルニ非サレハ前項ノ權利ヲ行フコトヲ得ス但保存行爲ハ此限ニ在ラス

第四百二十四條　債權者ハ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其行爲ニ因リテ利益ヲ受ケタル者又ハ轉得者カ其行爲又ハ轉得ノ當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ財產權ヲ目的トセサル法律行爲ニハ之ヲ適用セス

第四百二十五條　前條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ總債權者ノ利益ノ爲メニ其效力ヲ生ス

第四百二十六條　第四百二十四條ノ取消權ハ債權者カ取消ノ原因ヲ覺知シタル時ヨリ二年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三節　多數當事者ノ債權

第一款　總則

第四百二十七條　數人ノ債權者又ハ債務者アル場合ニ於テ別段ノ意思表示ナキトキハ各債權者又ハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ權利ヲ有シ又ハ義務ヲ負フ

第二款　不可分債務

第四百二十八條　債權ノ目的カ其性質上又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ不可分ナル場合ニ於テ數人ノ債權者アルトキハ各債權者ハ總債權者ノ爲メニ履行ヲ請求シ又債務者ハ總債權者ノ爲メ各債權者ニ對シテ履行ヲ爲スコトヲ得

第四百二十九條　不可分債權者ノ一人ト其債務者トノ間ニ更改又ハ免除アリタル場合ニ於テモ他ノ債權者ハ債務ノ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得但其一人ノ債權者カ其權利ヲ失ハサレハ之ニ分與スヘキ利益ヲ債務者ニ償還スルコトヲ要ス

此他不可分債權者ノ一人ノ行爲又ハ其一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債權者ニ對シテ其效力ヲ生セス

第四百三十條　數人カ不可分債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ前條ノ規定及ヒ連帶債務ニ關スル規定ヲ準用ス但第四百三十四條乃至第四百四十條ノ規定ハ此限ニ在ラス

第四百三十一條　不可分債務カ可分債務ニ變シタルトキハ各債權者ハ自己ノ部分ニ付テノミ履行ヲ請求スルコトヲ得又各債務者ハ其負擔部分ニ付テノミ履行ノ責ニ任ス

第三款　連帶債務

第四百三十二條　數人カ連帶債務ヲ負擔スルトキハ債權者ハ其債務者ノ一人ニ對シ又ハ同時若クハ順次ニ總債務者ニ對シテ全部又ハ一部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第四百三十三條　連帶債務者ノ一人ニ付キ法律行爲ノ無效又ハ取消ノ原因ノ存スル爲メ他ノ債務者ノ債務ノ效力ヲ妨クルコトナシ

第四百三十四條　連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求ハ他ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第四百三十五條　連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ更改アリタルトキハ債權ハ總債務

者ノ利益ノ爲メニ消滅ス

第四百三十六條　連帶債務者ノ一人カ債權者ニ對シテ債權ヲ有スル場合ニ於テ其債務者カ相殺ヲ援用シタルトキハ債權ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス

右ノ債權ヲ有スル債務者カ相殺ヲ援用セサル間ハ其債務者ノ負擔部分ニ付テノミ他ノ債務者ニ於テ相殺ヲ援用スルコトヲ得

第四百三十七條　連帶債務者ノ一人ニ對シテ爲シタル債務ノ免除ハ其債務者ノ負擔部分ニ付テノミ他ノ債務者ノ利益ノ爲メニモ其效力ヲ生ス

第四百三十八條　連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ混同アリタルトキハ其債務者ハ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百三十九條　連帶債務者ノ一人ノ爲メニ時效カ完成シタルトキハ其債務者ノ負擔部分ニ付テハ他ノ債務者モ亦其義務ヲ免ル

第四百四十條　前六條ニ掲ケタル事項ヲ除ク外連帶債務者ノ一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債務者ニ對シテ其效力ヲ生セス

第四百四十一條　連帶債務者ノ全員又ハ其中ノ數人カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ各財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

第四百四十二條　連帶債務者ノ一人カ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タルトキハ他ノ債務者ニ對シ其各自ノ負擔部分ニ付キ求償權ヲ有ス

前項ノ求償ハ辨濟其他免責アリタル日以後ノ法定利息及ヒ避クルコトヲ得サリシ費用其他ノ損害ノ賠償ヲ包含ス

第四百四十三條　連帶債務者ノ一人カ債權者ヨリ請求ヲ受ケタルコトヲ他ノ債務者ニ通知セスシテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タル場合ニ於テ他ノ債務者カ債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ヲ有セシトキハ其負擔部分ニ付キ之ヲ以テ其債務者ニ對抗スルコトヲ得但相殺ヲ以テ之ニ對抗シタルトキハ過失アル債務者ハ債權者ニ對シ相殺ニ因リテ消滅スヘカリシ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

連帶債務者ノ一人カ辨濟其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タルコトヲ他ノ債務者ニ通知スルコトヲ怠リタルニ因リ他ノ債務者カ善意ニテ債權者ニ辨濟ヲ爲シ其他有償ニ免責ヲ得タルトキハ其債務者ハ自己ノ辨濟其他免責ノ行爲ヲ有效ナリシモノト看做スコトヲ得

第四百四十四條　連帶債務者中ニ償還ヲ爲ス資力ナキ者アルトキハ其償還スルコト能ハサル部分ハ求償者及ヒ他ノ資力アル者ノ間ニ其各自ノ負擔部分ニ應シテ之ヲ分割ス但求償者ニ過失アルトキハ他ノ債務者ニ對シテ分擔ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百四十五條　連帶債務者ノ一人カ連帶ノ免除ヲ得タル場合ニ於テ他ノ債務者中ニ辨濟ノ資力ナキ者アルトキハ債權者ハ其無資力者カ辨濟スルコト能ハサル部分ニ付キ連帶ノ免除ヲ得タル者カ負擔スヘキ部分ヲ負擔ス

第四款　保證債務

第四百四十六條　保證人ハ主タル債務者カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ其履行ヲ爲ス責ニ任ス

第四百四十七條　保證債務ハ主タル債務ニ關スル利息、違約金、損害賠償其他總テ其債務ニ從タルモノヲ包含ス

保證人ハ其保證債務ニ付テノミ違約金又ハ損害賠償ノ額ヲ約定スルコトヲ得

第四百四十八條　保證人ノ負擔カ債務ノ目的又ハ體樣ニ付キ主タル債務ヨリ重キトキハ之ヲ主タル債務ノ限度ニ減縮ス

第四百四十九條　無能力ニ因リテ取消スコトヲ得ヘキ債務ヲ保證シタル者カ保證契約ノ當時其取消ノ原因ヲ知リタルトキハ主タル債務者ノ不履行又ハ其債務ノ取消ノ場合ニ付キ同一ノ目的ヲ有スル獨立ノ債務ヲ負擔シタルモノト推定ス

第四百五十條　債務者カ保證人ヲ立ツル義務ヲ負フ場合ニ於テハ其保證人ハ左ノ條件ヲ具備スル者タルコトヲ要ス

一　能力者タルコト

二　辨濟ノ資力ヲ有スルコト

三　債務ノ履行地ヲ管轄スル控訴院ノ管轄內ニ住所ヲ有シ又ハ假住所ヲ定メタルコト

保證人カ前項第二號又ハ第三號ノ條件ヲ缺クニ至リタルトキハ債權者ハ前項ノ條件ヲ具備スル者ヲ以テ之ニ代フルコトヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ債權者カ保證人ヲ指名シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第四百五十一條　債務者カ前條ノ條件ヲ具備スル保證人ヲ立ツルコト能ハサルトキハ他ノ擔保ヲ供シテ之ニ代フルコトヲ得

第四百五十二條　債權者カ保證人ニ債務ノ履行ヲ請求シタルトキハ保證人ハ先ツ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得但主タル債務者カ破產ノ宣告ヲ受ケ又ハ其行方カ知レサルトキハ此限ニ在ラス

第四百五十三條　債權者カ前條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ催告ヲ爲シタル後ト雖モ保證人カ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリテ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シタルトキハ債權者ハ先ツ主タル債務者ノ財產ニ付キ執行ヲ爲スコトヲ要ス

第四百五十四條　保證人カ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタルトキハ前二條ニ定メタル權利ヲ有セス

第四百五十五條　第四百五十二條及ヒ第四百五十三條ノ規定ニ依リ保證人ノ請求アリタルニ拘ハラス債權者カ催告又ハ執行ヲ爲スコトヲ怠リ其後主タル債務者ヨリ全部ノ辨濟ヲ得サルトキハ保證人ハ債權者カ直チニ催告又ハ執行ヲ爲セハ辨濟ヲ得ヘカリシ限度ニ於テ其義務ヲ免ル

第四百五十六條　數人ノ保證人アル場合ニ於テハ其保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ第四百二十七條ノ規定ヲ適用ス

第四百五十七條　主タル債務者ニ對スル履行ノ請求其他時效ノ中斷ハ保證人ニ對シテモ其效力ヲ生ス

保證人ハ主タル債務者ノ債權ニ依リ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

第四百五十八條　主タル債務者カ保證人ト連帶シテ債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ第四百三十四條乃至第四百四十條ノ規定ヲ適用ス

第四百五十九條　保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ過失ナクシテ債權者ニ辨濟スヘキ裁判言渡ヲ受ケ又ハ主タル債務者ニ代ハリテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ債務ヲ消滅セシムヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ其保證人ハ主タル債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第四百四十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百六十條　保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタルトキハ其保證人ハ左ノ場合ニ於テ主タル債務者ニ對シテ豫メ求償權ヲ行フコトヲ得

一　主タル債務者カ破產ノ宣告ヲ受ケ且債權者カ其財團ノ配當ニ加入セサルトキ

二　債務カ辨濟期ニ在ルトキ但保證契約ノ後債權者カ主タル債務者ニ許與シタル期限ハ之ヲ以テ保證人ニ對抗スルコトヲ得ス

三　債務ノ辨濟期カ不確定ニシテ且其最長期ヲモ確定スルコト能ハサル場合ニ於テ保證契約ノ後十年ヲ經過シタルトキ

第四百六十一條　前二條ノ規定ニ依リ主タル債務者カ保證人ニ對シテ賠償ヲ爲ス場合ニ於テ債權者カ全部ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ主タル債務者ハ保證人ヲシテ擔保ヲ供セシメ又ハ之ニ對シテ自己ニ免責ヲ得セシムヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ主タル債務者ハ供託ヲ爲シ、擔保ヲ供シ又ハ保證人ニ免責ヲ得セシメテ其賠償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

第四百六十二條　主タル債務者ノ委託ヲ受ケスシテ保證ヲ爲シタル者カ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ主タル債務者ニ其債務ヲ免レシメタルトキハ主タル債務者ハ其當時利益ヲ受ケタル限度ニ於テ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

主タル債務者ノ意思ニ反シテ保證ヲ爲シタル者ハ主タル債務者カ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ求償權ヲ有ス但主タル債務者カ求償ノ日以前ニ相殺ノ原因ヲ有セシコトヲ主張スルトキハ保證人ハ債權者ニ對シ其相殺ニ因リテ消滅スヘカリシ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第四百六十三條　第四百四十三條ノ規定ハ保證人ニ之ヲ準用ス

保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ善意ニテ辨濟其他免責ノ爲メニスル出捐ヲ爲シタルトキハ第四百四十三條ノ規定ハ主タル債務者ニモ亦之ヲ準用ス

第四百六十四條　連帶債務者又ハ不可分債務者ノ一人ノ爲メニ保證ヲ爲シタル者ハ他ノ債務者ニ對シテ其負擔部分ノミニ付キ求償權ヲ有ス

第四百六十五條　數人ノ保證人アル場合ニ於テ主タル債務カ不可分ナル爲メ又ハ各保證人カ全額ヲ辨濟スヘキ特約アル爲メ一人ノ保證人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シタルトキハ第四百四十二條乃至第四百四十四條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ非スシテ互ニ連帶セサル保證人ノ一人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シタルトキハ第四百六十二條ノ規定ヲ準用ス

第四節　債權ノ讓渡

第四百六十六條　債權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得但其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百六十七條　指名債權ノ讓渡ハ讓渡人カ之ヲ債務者ニ通知シ又ハ債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ通知又ハ承諾ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ債務者以外ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百六十八條　債務者カ異議ヲ留メスシテ前條ノ承諾ヲ爲シタルトキハ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由アルモ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス但債務者カ其債務ヲ消滅セシムル爲メ讓渡人ニ拂渡シタルモノアルトキハ之ヲ取返シ又ハ讓渡人ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ之ヲ成立セサルモノト看做スコトヲ妨ケス

讓渡人カ讓渡ノ通知ヲ爲シタルニ止マルトキハ債務者ハ其通知ヲ受クルマテニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得

第四百六十九條　指圖債權ノ讓渡ハ其證書ニ讓渡ノ裏書ヲ爲シテ之ヲ讓受人ニ交付スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百七十條　指圖債權ノ債務者ハ其證書ノ所持人及ヒ其署名、捺印ノ眞僞ヲ調査スル權利ヲ有スルモ其義務ヲ負フコトナシ但債務者ニ惡意又ハ重大ナル過失アルトキハ其辨濟ハ無效トス

第四百七十一條　前條ノ規定ハ證書ニ債權者ヲ指名シタルモ其證書ノ所持人ニ辨濟スヘキ旨ヲ附記シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十二條　指圖債權ノ債務者ハ其證書ニ記載シタル事項及ヒ其證書ノ性質ヨリ當然生スル結果ヲ除ク外原債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ヲ以テ善意ノ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百七十三條　前條ノ規定ハ無記名債權ニ之ヲ準用ス

第五節　債權ノ消滅

第一款　辨濟

第四百七十四條　債務ノ辨濟ハ第三者之ヲ爲スコトヲ得但其債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキ又ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

利害ノ關係ヲ有セサル第三者ハ債務者ノ意思ニ反シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第四百七十五條　辨濟者カ他人ノ物ヲ引渡シタルトキハ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ其物ヲ取戾スコトヲ得ス

第四百七十六條　讓渡ノ能力ナキ所有者カ辨濟トシテ物ノ引渡ヲ爲シタル場合ニ於テ其辨濟ヲ取消シタルトキハ其所有者ハ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ其物ヲ取戾スコトヲ得ス

第四百七十七條　前二條ノ場合ニ於テ債權者カ辨濟トシテ受ケタル物ヲ善意ニテ消費シ又ハ讓渡シタルトキハ其辨濟ハ有效トス但債權者カ第三者ヨリ賠償ノ請求ヲ受ケタルトキハ辨濟者ニ對シテ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四百七十八條　債權ノ準占有者ニ爲シタル辨濟ハ辨濟者ノ善意ナリシトキニ限リ其效力ヲ有ス

第四百七十九條　前條ノ場合ヲ除ク外辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ爲シタル辨濟ハ債權者カ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル限度ニ於テノミ其效力ヲ有ス

第四百八十條　受取證書ノ持參人ハ辨濟受領ノ權限アルモノト看做ス但辨濟者カ其權限ナキコトヲ知リタルトキ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

第四百八十一條　支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者カ自己ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ差押債權者ハ其受ケタル損害ノ限度ニ於テ更ニ辨濟ヲ爲スヘキ旨ヲ第三債務者ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第三債務者ヨリ其債權者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第四百八十二條　債務者カ債權者ノ承諾ヲ以テ其負擔シタル給付ニ代ヘテ他ノ給付ヲ爲シタルトキハ其給付ハ辨濟ト同一ノ效力ヲ有ス

第四百八十三條　債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ辨濟者ハ其引渡ヲ爲スヘキ時ノ現狀ニテ其物ヲ引渡スコトヲ要ス

第四百八十四條　辨濟ヲ爲スヘキ場所ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ特定物ノ引渡ハ債權發生ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ辨濟ハ債權者ノ現時ノ住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四百八十五條　辨濟ノ費用ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ其費用ハ債務者之ヲ負擔ス但債權者カ住所ノ移轉其他ノ行爲ニ因リテ辨濟ノ費用ヲ增加シタルトキハ其增加額ハ債權者之ヲ負擔ス

第四百八十六條　辨濟者ハ辨濟受領者ニ對シテ受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十七條　債權ノ證書アル場合ニ於テ辨濟者カ全部ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ其證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十八條　債務者カ同一ノ債權者ニ對シテ同種ノ目的ヲ有スル數個ノ債務ヲ負擔スル場合ニ於テ辨濟トシテ提供シタル給付カ總債務ヲ消滅セシムルニ足ラサルトキハ辨濟者ハ給付ノ時ニ於テ其辨濟ヲ充當スヘキ債務ヲ指定スルコトヲ得

辨濟者カ前項ノ指定ヲ爲ササルトキハ辨濟受領者ハ其受領ノ時ニ於テ其辨濟ノ充當ヲ爲スコトヲ得但辨濟者カ其充當ニ對シ直チニ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

前二項ノ場合ニ於テ辨濟ノ充當ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第四百八十九條　當事者カ辨濟ノ充當ヲ爲ササルトキハ左ノ規定ニ從ヒ其辨濟ヲ充當ス

一　總債務中辨濟期ニ在ルモノト辨濟期ニ在ラサルモノトアルトキハ辨濟期ニ在ルモノヲ先ニス

二　總債務カ辨濟期ニ在ルトキ又ハ辨濟期ニ在ラサルトキハ債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益多キモノヲ先ニス

三　債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益相同シキトキハ辨濟期ノ先ツ至リタルモノ又ハ先ツ至ルヘキモノヲ先ニス

四　前二號ニ掲ケタル事項ニ付キ相同シキ債務ノ辨濟ハ各債務ノ額ニ應シテ之ヲ充當ス

第四百九十條　一個ノ債務ノ辨濟トシテ數個ノ給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テ辨濟者カ其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第四百九十一條　債務者カ一個又ハ數個ノ債

務ニ付キ元本ノ外利息及ヒ費用ヲ拂フヘキ場合ニ於テ辨濟者カ其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ順次ニ費用、利息及ヒ元本ニ充當スルコトヲ要ス

第四百八十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百九十二條　辨濟ノ提供ハ其提供ノ時ヨリ不履行ニ因リテ生スヘキ一切ノ責任ヲ免レシム

第四百九十三條　辨濟ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但債權者カ豫メ其受領ヲ拒ミ又ハ債務ノ履行ニ付キ債權者ノ行爲ヲ要スルトキハ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其受領ヲ催告スルヲ以テ足ル

第四百九十四條　債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキハ辨濟者ハ債權者ノ爲メニ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ亦同シ

第四百九十五條　供託ハ債務履行地ノ供託所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

供託所ニ付キ法令ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ辨濟者ノ請求ニ因リ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ爲スコトヲ要ス

供託者ハ遲滯ナク債權者ニ供託ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第四百九十六條　債權者カ供託ヲ受諾セス又ハ供託ヲ有效ト宣告シタル判決カ確定セサル間ハ辨濟者ハ供託物ヲ取戻スコトヲ得此場合ニ於テハ供託ヲ爲ササリシモノト看做ス

前項ノ規定ハ供託ニ因リテ質權又ハ抵當權カ消滅シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第四百九十七條　辨濟ノ目的物カ供託ニ適セス又ハ其物ニ付キ滅失若クハ毀損ノ虞アルトキハ辨濟者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ供託スルコトヲ得其物ノ保存ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

第四百九十八條　債務者カ債權者ノ給付ニ對シテ辨濟ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ債權者ハ其給付ヲ爲スニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

第四百九十九條　債務者ノ爲メニ辨濟ヲ爲シタル者ハ其辨濟ト同時ニ債權者ノ承諾ヲ得テ之ニ代位スルコトヲ得

第四百六十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百條　辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者ハ辨濟ニ因リテ當然債權者ニ代位ス

第五百一條　前二條ノ規定ニ依リテ債權者ニ代位シタル者ハ自己ノ權利ニ基キ求償ヲ爲スコトヲ得ヘキ範圍內ニ於テ債權ノ效力及ヒ擔保トシテ其債權者カ有セシ一切ノ權利ヲ行フコトヲ得但左ノ規定ニ從フコトヲ要ス

一　保證人ハ豫メ先取特權、不動産質權又ハ抵當權ノ登記ニ其代位ヲ附記シタルニ非サレハ其先取特權、不動産質權又ハ抵當權ノ目的タル不動産ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セス

二　第三取得者ハ保證人ニ對シテ債權者ニ代位セス

三　第三取得者ノ一人ハ各不動産ノ價格ニ應スルニ非サレハ他ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セス

四　前號ノ規定ハ自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者ノ間ニ之ヲ準用ス

五　保證人ト自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者トノ間ニ於テハ其頭數ニ應スルニ非サレハ債權者ニ代位セス但自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者數人アルトキハ保證人ノ負擔部分ヲ除キ其殘額ニ付キ各財産ノ價格ニ應スルニ非サレハ之ニ對シテ代位ヲ爲スコトヲ得ス

右ノ場合ニ於テ其財産カ不動産ナルトキハ第一號ノ規定ヲ準用ス

第五百二條　債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタルトキハ代位者ハ其辨濟シタル價額ニ應シテ債權者ト共ニ其權利ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ債務ノ不履行ニ因ル契約ノ解除ハ債權者ノミ之ヲ請求スルコトヲ得但代位者ニ其辨濟シタル價額及ヒ其利息ヲ償還スルコトヲ要ス

第五百三條　代位辨濟ニ因リテ全部ノ辨濟ヲ受ケタル債權者ハ債權ニ關スル證書及ヒ其占有ニ在ル擔保物ヲ代位者ニ交付スルコトヲ要ス

債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタル場合ニ於テハ債權者ハ債權證書ニ其代位ヲ記入シ且代位者ヲシテ其占有ニ在ル擔保物ノ保存ヲ監督セシムルコトヲ要ス

第五百四條　第五百條ノ規定ニ依リテ代位ヲ爲スヘキ者アル場合ニ於テ債權者カ故意又ハ懈怠ニ因リテ其擔保ヲ喪失又ハ減少シタルトキハ代位ヲ爲スヘキ者ハ其喪失又ハ減少ニ因リ償還ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル限度ニ於テ其責ヲ免ル

第二款　相殺

第五百五條　二人互ニ同種ノ目的ヲ有スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ雙方ノ債務カ辨濟期ニ在ルトキハ各債務者ハ其對當額ニ付キ相殺ニ因リテ其債務ヲ免ルルコトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百六條　相殺ハ當事者ノ一方ヨリ其相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス但其意思表示ニハ條件又ハ期限ヲ附スルコトヲ得ス

前項ノ意思表示ハ雙方ノ債務カ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタル始ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第五百七條　相殺ハ雙方ノ債務ノ履行地カ異ナルトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ得但相殺ヲ爲ス當事者ハ其相手方ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

第五百八條　時效ニ因リテ消滅シタル債權カ其消滅以前ニ相殺ニ適シタル場合ニ於テハ其債權者ハ相殺ヲ爲スコトヲ得

第五百九條　債務カ不法行爲ニ因リテ生シタルトキハ其債務者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十條　債權カ差押ヲ禁シタルモノナルトキハ其債務者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十一條　支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者ハ其後ニ取得シタル債權ニ依リ相殺ヲ以テ差押債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十二條　第四百八十八條乃至第四百九十一條ノ規定ハ相殺ニ之ヲ準用ス

第三款　更改

第五百十三條　當事者カ債務ノ要素ヲ變更スル契約ヲ爲シタルトキハ其債務ハ更改ニ因リテ消滅ス

條件附債務ヲ無條件債務トシ、無條件債務ニ條件ヲ附シ又ハ條件ヲ變更スルハ債務ノ要素ヲ變更スルモノト看做ス債務ノ履行ニ代ヘテ爲替手形ヲ發行スル亦同シ

第五百十四條　債務者ノ交替ニ因ル更改ハ債權者ト新債務者トノ契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但舊債務者ノ意思ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百十五條　債權者ノ交替ニ因ル更改ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十六條　第四百六十八條第一項ノ規定ハ債權者ノ交替ニ因ル更改ニ之ヲ準用ス

第五百十七條　更改ニ因リテ生シタル債務カ不法ノ原因ノ爲メ又ハ當事者ノ知ラサル事由ニ因リテ成立セス又ハ取消サレタルトキハ舊債務ハ消滅セス

第五百十八條　更改ノ當事者ハ舊債務ノ目的ノ限度ニ於テ其債務ノ擔保ニ供シタル質權又ハ抵當權ヲ新債務ニ移スコトヲ得但第三者カ之ヲ供シタル場合ニ於テハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第四款　免除

第五百十九條　債權者カ債務者ニ對シテ債務ヲ免除スル意思ヲ表示シタルトキハ其債權ハ消滅ス

第五款　混同

第五百二十條　債權及ヒ債務カ同一人ニ歸シタルトキハ其債權ハ消滅ス但其債權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此限ニ在ラス

第二章　契約

第一節　總則

第一款　契約ノ成立

第五百二十一條　承諾ノ期間ヲ定メテ爲シタル契約ノ申込ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

申込者カ前項ノ期間內ニ承諾ノ通知ヲ受ケサルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

第五百二十二條　承諾ノ通知カ前條ノ期間後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其期間內ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知リ得ヘキトキハ申込者ハ遲滯ナク相手方ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但其到達前ニ遲延ノ通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス

申込者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ承諾ノ通知ハ延著セサリシモノト看做ス

第五百二十三條　遲延シタル承諾ハ申込者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做スコトヲ得

第五百二十四條　承諾ノ期間ヲ定メスシテ隔地者ニ爲シタル申込ハ申込者カ承諾ノ通知ヲ受クルニ相當ナル期間之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百二十五條　第九十七條第二項ノ規定ハ申込者カ反對ノ意思ヲ表示シ又ハ其相手方カ死亡若クハ能力喪失ノ事實ヲ知リタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五百二十六條　隔地者間ノ契約ハ承諾ノ通知ヲ發シタル時ニ成立ス

申込者ノ意思表示又ハ取引上ノ慣習ニ依リ承諾ノ通知ヲ必要トセサル場合ニ於テハ契約ハ承諾ノ意思表示ト認ムヘキ事實アリタル時ニ成立ス

第五百二十七條　申込ノ取消ノ通知カ承諾ノ通知ヲ發シタル後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其前ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知リ得ヘキトキハ承諾者ハ遲滯ナク申込者ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

承諾者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ契約ハ成立セサリシモノト看做ス

第五百二十八條　承諾者カ申込ニ條件ヲ附シ其他變更ヲ加ヘテ之ヲ承諾シタルトキハ其申込ノ拒絶ト共ニ新ナル申込ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百二十九條　或行爲ヲ爲シタル者ニ一定ノ報酬ヲ與フヘキ旨ヲ廣告シタル者ハ其行爲ヲ爲シタル者ニ對シテ其報酬ヲ與フル義務ヲ負フ

第五百三十條　前條ノ場合ニ於テ廣告者ハ其指定シタル行爲ヲ完了スル者ナキ間ハ前ノ廣告ト同一ノ方法ニ依リテ其廣告ヲ取消スコトヲ得但其廣告中ニ取消ヲ爲ササル旨ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ニ定メタル方法ニ依リテ取消ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ他ノ方法ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得但其取消ハ之ヲ知リタル者ニ對シテノミ其效力ヲ有ス

廣告者カ其指定シタル行爲ヲ爲スヘキ期間ヲ定メタルトキハ其取消權ヲ拋棄シタルモノト推定ス

第五百三十一條　廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シタル者數人アルトキハ最初ニ其行爲ヲ爲シタル者ノミ報酬ヲ受クル權利ヲ有ス

數人カ同時ニ右ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ各平等ノ割合ヲ以テ報酬ヲ受クル權利ヲ有ス但報酬カ其性質上分割ニ不便ナルトキ又ハ廣告ニ於テ一人ノミ之ヲ受クヘキモノトシタルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ受クヘキ者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ廣告中ニ之ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用セス

第五百三十二條　廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シタル者數人アル場合ニ於テ其優等者ノミニ報酬ヲ與フヘキトキハ其廣告ハ應募ノ期間ヲ定メタルトキニ限リ其效力ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ應募者中何人ノ行爲カ優等ナルカハ廣告中ニ定メタル者之ヲ判定ス若シ廣告中ニ判定者ヲ定メサリシトキハ廣告者之ヲ判定ス

應募者ハ前項ノ判定ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

數人ノ行爲カ同等ト判定セラレタルトキハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二款　契約ノ效力

第五百三十三條　雙務契約ノ當事者ノ一方ハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供スルマテハ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得但相手方ノ債務カ辨濟期ニ在ラサルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十四條　特定物ニ關スル物權ノ設定又ハ移轉ヲ以テ雙務契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其物カ債務者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其滅失又ハ毀損ハ債權者ノ負擔ニ歸ス

不特定物ニ關スル契約ニ付テハ第四百一條第二項ノ規定ニ依リテ其物カ確定シタル時ヨリ前項ノ規定ヲ適用ス

第五百三十五條　前條ノ規定ハ停止條件附雙務契約ノ目的物カ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ滅失シタル場合ニハ之ヲ適用セス

物カ債務者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ毀損シタルトキハ其毀損ハ債權者ノ負擔ニ歸ス

物カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ毀損シタルトキハ債權者ハ條件成就ノ場合ニ於テ其選擇ニ從ヒ契約ノ履行又ハ其解除ヲ請求スルコトヲ得但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第五百三十六條　前二條ニ揭ケタル場合ヲ除ク外當事者雙方ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ債務ヲ履行スルコト能ハサルニ至リタルトキハ債務者ハ反對給付ヲ受クル權利ヲ有セス

債權者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ債務者ハ反對給付ヲ受クル權利ヲ失ハス但自己ノ債務ヲ免レタルニ因リテ利益ヲ得タルトキハ之ヲ債權者ニ償還スルコトヲ要ス

第五百三十七條　契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタルトキハ其第三者ハ債務者ニ對シテ直接ニ其給付ヲ請求スル權利ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ第三者ノ權利ハ其第三者カ債務者ニ對シテ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタル時ニ發生ス

第五百三十八條　前條ノ規定ニ依リテ第三者ノ權利カ發生シタル後ハ當事者ハ之ヲ變更シ又ハ之ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

第五百三十九條　第五百三十七條ニ揭ケタル契約ニ基因スル抗辯ハ債務者之ヲ以テ其契約ノ利益ヲ受クヘキ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第三款　契約ノ解除

第五百四十條　契約又ハ法律ノ規定ニ依リ當事者ノ一方カ解除權ヲ有スルトキハ其解除ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

前項ノ意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百四十一條　當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間內ニ履行ナキトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十二條　契約ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間內ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ前條ノ催告ヲ爲サスシテ直チニ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十三條　履行ノ全部又ハ一部カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ不能ト爲リタルトキハ債權者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十四條　當事者ノ一方カ數人アル場合ニ於テハ契約ノ解除ハ其全員ヨリ又ハ其全員ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ解除權カ當事者中ノ一人ニ付キ消滅シタルトキハ他ノ者ニ付テモ亦消滅ス

第五百四十五條　當事者ノ一方カ其解除權ヲ行使シタルトキハ各當事者ハ其相手方ヲ原狀ニ復セシムル義務ヲ負フ但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ返還スヘキ金錢ニハ其受領ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス

解除權ノ行使ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第五百四十六條　第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百四十七條　解除權ノ行使ニ付キ期間ノ定ナキトキハ相手方ハ解除權ヲ有スル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間內ニ解除ヲ爲スヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ其期間內ニ解除ノ通知ヲ受ケサルトキハ解除權ハ消滅ス

第五百四十八條　解除權ヲ有スル者カ自己ノ行爲又ハ過失ニ因リテ著シク契約ノ目的物ヲ毀損シ若クハ之ヲ返還スルコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ加工若クハ改造ニ因リテ之ヲ他ノ種類ノ物ニ變シタルトキハ解除權ハ消滅ス

契約ノ目的物カ解除權ヲ有スル者ノ行爲又ハ過失ニ因ラスシテ滅失又ハ毀損シタルトキハ解除權ハ消滅セス

第二節　贈與

第五百四十九條　贈與ハ當事者ノ一方カ自己ノ財產ヲ無償ニテ相手方ニ與フル意思ヲ表示シ相手方カ受諾ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百五十條　書面ニ依ラサル贈與ハ各當事者之ヲ取消スコトヲ得但履行ノ終ハリタル部分ニ付テハ此限ニ在ラス

第五百五十一條　贈與者ハ贈與ノ目的タル物又ハ權利ノ瑕疵又ハ欠缺ニ付キ其責ニ任セス但贈與者カ其瑕疵又ハ欠缺ヲ知リテ之ヲ受贈者ニ告ケサリシトキハ此限ニ在ラス

負擔附贈與ニ付テハ贈與者ハ其負擔ノ限度ニ於テ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス

第五百五十二條　定期ノ給付ヲ目的トスル贈與ハ贈與者又ハ受贈者ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ

第五百五十三條　負擔附贈與ニ付テハ本節ノ規定ノ外雙務契約ニ關スル規定ヲ適用ス

第五百五十四條　贈與者ノ死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ贈與ハ遺贈ニ關スル規定ニ從フ

第三節　賣買

第一款　總則

第五百五十五條　賣買ハ當事者ノ一方カ或財產權ヲ相手方ニ移轉スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其代金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百五十六條　賣買ノ一方ノ豫約ハ相手方カ賣買ヲ完結スル意思ヲ表示シタル時ヨリ賣買ノ效力ヲ生ス

前項ノ意思表示ニ付キ期間ヲ定メサリシトキハ豫約者ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間內ニ賣買ヲ完結スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ相手方ニ催告スルコトヲ得若シ相手方カ其期間內ニ確答ヲ爲ササルトキハ豫約ハ其效力ヲ失フ

第五百五十七條　買主カ賣主ニ手附ヲ交付シタルトキハ當事者ノ一方カ契約ノ履行ニ著手スルマテハ買主ハ其手附ヲ拋棄シ賣主ハ其倍額ヲ償還シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十五條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第五百五十八條　賣買契約ニ關スル費用ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス

第五百五十九條　本節ノ規定ハ賣買以外ノ有償契約ニ之ヲ準用ス但其契約ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第二款　賣買ノ效力

第五百六十條　他人ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタルトキハ賣主ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スル義務ヲ負フ

第五百六十一條　前條ノ場合ニ於テ賣主カ其賣却シタル權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但契約ノ當時其權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十二條　賣主カ契約ノ當時其賣却シタル權利ノ自己ニ屬セサルコトヲ知ラサリシ場合ニ於テ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ賣主ハ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買主カ契約ノ當時其買受ケタル權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ賣主ハ買主ニ對シ單ニ其賣却シタル權利ヲ移轉スルコト能ハサル旨ヲ通知シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百六十三條　賣買ノ目的タル權利ノ一部カ他人ニ屬スルニ因リ賣主カ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ其足ラサル部分ノ割合ニ應シテ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミナレハ買主カ之ヲ買受ケサルヘカリシトキハ善意ノ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

代金減額ノ請求又ハ契約ノ解除ハ善意ノ買主カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百六十四條　前條ニ定メタル權利ハ買主カ善意ナリシトキハ事實ヲ知リタル時ヨリ惡意ナリシトキハ契約ノ時ヨリ一年內ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス

第五百六十五條　數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ不足ナル場合及ヒ物ノ一部カ契約ノ當時既ニ滅失シタル場合ニ於テ買主カ其不足又ハ滅失ヲ知ラサリシトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第五百六十六條　賣買ノ目的物カ地上權、永小作權、地役權、留置權又ハ質權ノ目的タル場合ニ於テ買主カ之ヲ知ラサリシトキハ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ限リ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得其他ノ場合ニ於テハ損害賠償ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ賣買ノ目的タル不動產ノ爲メニ存セリト稱セシ地役權カ存セサリシトキ及ヒ其不動產ニ付キ登記シタル賃貸借アリタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ契約ノ解除又ハ損害賠償ノ請求ハ買主カ事實ヲ知リタル時ヨリ一年內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五百六十七條　賣買ノ目的タル不動產ノ上ニ存シタル先取特權又ハ抵當權ノ行使ニ因リ買主カ其所有權ヲ失ヒタルトキハ其買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

買主カ出捐ヲ爲シテ其所有權ヲ保存シタルトキハ賣主ニ對シテ其出捐ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ買主カ損害ヲ受ケタルトキハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第五百六十八條　強制競賣ノ場合ニ於テハ競落人ハ前七條ノ規定ニ依リ債務者ニ對シテ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債務者カ無資力ナルトキハ競落人ハ代金ノ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ其代金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ債務者カ物又ハ權利ノ欠缺ヲ知リテ之ヲ申出テス又ハ債權者カ之ヲ知リテ競賣ヲ請求シタルトキハ競落人ハ其過失者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百六十九條　債權ノ賣主カ債務者ノ資力ヲ擔保シタルトキハ契約ノ當時ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト推定ス

辨濟期ニ至ラサル債權ノ賣主カ債務者ノ將來ノ資力ヲ擔保シタルトキハ辨濟ノ期日ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト推定ス

第五百七十條　賣買ノ目的物ニ隱レタル瑕疵アリタルトキハ第五百六十六條ノ規定ヲ準用ス但強制競賣ノ場合ハ此限ニ在ラス

第五百七十一條　第五百三十三條ノ規定ハ第五百六十三條乃至第五百六十六條及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百七十二條　賣主ハ前十二條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リテ告ケサリシ事實及ヒ自ラ第三者ノ爲メニ設定シ又ハ之ニ讓渡シタル權利ニ付テハ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百七十三條　賣買ノ目的物ノ引渡ニ付キ期限アルトキハ代金ノ支拂ニ付テモ亦同一ノ期限ヲ附シタルモノト推定ス

第五百七十四條　賣買ノ目的物ノ引渡ト同時ニ代金ヲ拂フヘキトキハ其引渡ノ場所ニ於テ之ヲ拂フコトヲ要ス

第五百七十五條　未タ引渡ササル賣買ノ目的

物カ果實ヲ生シタルトキハ其果實ハ賣主ニ屬ス

買主ハ引渡ノ日ヨリ代金ノ利息ヲ拂フ義務ヲ負フ但代金ノ支拂ニ付キ期限アルトキハ其期限ノ到來スルマテハ利息ヲ拂フコトヲ要セス

第五百七十六條　賣買ノ目的ニ付キ權利ヲ主張スル者アリテ買主カ其買受ケタル權利ノ全部又ハ一部ヲ失フ虞アルトキハ買主ハ其危險ノ限度ニ應シ代金ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得但賣主カ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十七條　買受ケタル不動產ニ付キ先取特權、質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ買主ハ滌除ノ手續ヲ終ハルマテ其代金ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得但賣主ハ買主ニ對シテ遲滯ナク滌除ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十八條　前二條ノ場合ニ於テ賣主ハ買主ニ對シテ代金ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第三款　買戻

第五百七十九條　不動產ノ賣主ハ賣買契約ト同時ニ爲シタル買戻ノ特約ニ依リ買主カ拂ヒタル代金及ヒ契約ノ費用ヲ返還シテ其賣買ノ解除ヲ爲スコトヲ得但當事者カ別段ノ意思ヲ表示セサリシトキハ不動產ノ果實ト代金ノ利息トハ之ヲ相殺シタルモノト看做ス

第五百八十條　買戻ノ期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ十年ニ短縮ス

買戻ニ付キ期間ヲ定メタルトキハ後日之ヲ伸長スルコトヲ得ス

買戻ニ付キ期間ヲ定メサリシトキハ五年內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五百八十一條　賣買契約ト同時ニ買戻ノ特約ヲ登記シタルトキハ買戻ハ第三者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

登記ヲ爲シタル賃借人ノ權利ハ其殘期一年間ニ限リ之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得但賣主ヲ害スル目的ヲ以テ賃貸借ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十二條　賣主ノ債權者カ第四百二十三條ノ規定ニ依リ賣主ニ代ハリテ買戻ヲ爲サント欲スルトキハ買主ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ不動產ノ現時ノ價額ヨリ賣主カ返還スヘキ金額ヲ控除シタル殘額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ賣主ニ返還シテ買戻權ヲ消滅セシムルコトヲ得

第五百八十三條　賣主ハ期間內ニ代金及ヒ契約ノ費用ヲ提供スルニ非サレハ買戻ヲ爲スコトヲ得ス

買主又ハ轉得者カ不動產ニ付キ費用ヲ出タシタルトキハ賣主ハ第百九十六條ノ規定ニ從ヒ之ヲ償還スルコトヲ要ス但有益費ニ付テハ裁判所ハ賣主ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第五百八十四條　不動產ノ共有者ノ一人カ買戻ノ特約ヲ以テ其持分ヲ賣却シタル後其不動產ノ分割又ハ競賣アリタルトキハ賣主ハ買主カ受ケタル若クハ受クヘキ部分又ハ代金ニ付キ買戻ヲ爲スコトヲ得但賣主ニ通知セスシテ爲シタル分割及ヒ競賣ハ之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百八十五條　前條ノ場合ニ於テ買主カ不動產ノ競落人ト爲リタルトキハ賣主ハ競賣ノ代金及ヒ第五百八十三條ニ揭ケタル費用ヲ拂ヒテ買戻ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賣主ハ其不動產ノ全部ノ所有權ヲ取得ス

他ノ共有者ヨリ分割ヲ請求シタルニ因リ買主カ競落人ト爲リタルトキハ賣主ハ其持分ノミニ付キ買戻ヲ爲スコトヲ得ス

第四節　交換

第五百八十六條　交換ハ當事者カ互ニ金錢ノ所有權ニ非サル財產權ヲ移轉スルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

當事者ノ一方カ他ノ權利ト共ニ金錢ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ約シタルトキハ其金錢ニ付テハ賣買ノ代金ニ關スル規定ヲ準用ス

第五節　消費貸借

第五百八十七條　消費貸借ハ當事者ノ一方カ種類、品等及ヒ數量ノ同シキ物ヲ以テ返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ金錢其他ノ物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百八十八條　消費貸借ニ因ラスシテ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當事者カ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ成立シタルモノト看做ス

第五百八十九條　消費貸借ノ豫約ハ爾後當事者ノ一方カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其效力ヲ失フ

第五百九十條　利息附ノ消費貸借ニ於テ物ニ隱レタル瑕疵アリタルトキハ貸主ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

無利息ノ消費貸借ニ於テハ借主ハ瑕疵アル物ノ價額ヲ返還スルコトヲ得但貸主カ其瑕疵ヲ知リテ之ヲ借主ニ告ケサリシトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百九十一條　當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ貸主ハ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ催告ヲ爲スコトヲ得

借主ハ何時ニテモ返還ヲ爲スコトヲ得

第五百九十二條　借主カ第五百八十七條ノ規定ニ依リテ返還ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ其時ニ於ケル物ノ價額ヲ償還スルコトヲ要ス但第四百二條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第六節　使用貸借

第五百九十三條　使用貸借ハ當事者ノ一方カ無償ニテ使用及ヒ收益ヲ爲シタル後返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ或物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百九十四條　借主ハ契約又ハ其目的物ノ性質ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ其物ノ使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ要ス

借主ハ貸主ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ借用物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得ス

借主カ前二項ノ規定ニ反スル使用又ハ收益ヲ爲シタルトキハ貸主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百九十五條　借主ハ借用物ノ通常ノ必要費ヲ負擔ス

此他ノ費用ニ付テハ第五百八十三條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百九十六條　第五百五十一條ノ規定ハ使用貸借ニ之ヲ準用ス

第五百九十七條　借主ハ契約ニ定メタル時期ニ於テ借用物ノ返還ヲ爲スコトヲ要ス

當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ借主ハ契約ニ定メタル目的ニ從ヒ使用及ヒ收益ヲ終ハリタル時ニ於テ返還ヲ爲スコトヲ要ス但其以前ト雖モ使用及ヒ收益ヲ爲スニ足ルヘキ期間ヲ經過シタルトキハ貸主ハ直チニ返還ヲ請求スルコトヲ得

當事者カ返還ノ時期又ハ使用及ヒ收益ノ目的ヲ定メサリシトキハ貸主ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

第五百九十八條　借主ハ借用物ヲ原狀ニ復シテ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ得

第五百九十九條　使用貸借ハ借主ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ

第六百條　契約ノ本旨ニ反スル使用又ハ收益ニ因リテ生シタル損害ノ賠償及ヒ借主カ出タシタル費用ノ償還ハ貸主カ返還ヲ受ケタル時ヨリ一年內ニ之ヲ請求スルコトヲ要ス

第七節　賃貸借

第一款　總則

第六百一條　賃貸借ハ當事者ノ一方カ相手方ニ或物ノ使用及ヒ收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方カ之ニ其賃金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百二條　處分ノ能力又ハ權限ヲ有セサル者カ賃貸借ヲ爲ス場合ニ於テハ其賃貸借ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一　樹木ノ栽植又ハ伐採ヲ目的トスル山林ノ賃貸借ハ十年

二　其他ノ土地ノ賃貸借ハ五年

三　建物ノ賃貸借ハ三年

四　動產ノ賃貸借ハ六个月

第六百三條　前條ノ期間ハ之ヲ更新スルコト

テ得但其期間滿了前土地ニ付テハ一年內建物ニ付テハ三个月內動產ニ付テハ一个月內ニ其更新ヲ爲スコトヲ要ス

第六百四條　賃貸借ノ存續期間ハ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ賃貸借ヲ爲シタルトキハ其期間ハ之ヲ二十年ニ短縮ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但更新ノ時ヨリ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二款　賃貸借ノ效力

第六百五條　不動產ノ賃貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其不動產ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第六百六條　賃貸人ハ賃貸物ノ使用及ヒ收益ニ必要ナル修繕ヲ爲ス義務ヲ負フ

賃貸人カ賃貸物ノ保存ニ必要ナル行爲ヲ爲サント欲スルトキハ賃借人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六百七條　賃貸人カ賃借人ノ意思ニ反シテ保存行爲ヲ爲サント欲スル場合ニ於テ之カ爲メ賃借人カ賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百八條　賃借人カ賃借物ニ付キ賃貸人ノ負擔ニ屬スル必要費ヲ出タシタルトキハ賃貸人ニ對シテ直チニ其償還ヲ請求スルコトヲ得

賃借人カ有益費ヲ出タシタルトキハ賃貸人ハ賃貸借終了ノ時ニ於テ第百九十六條第二項ノ規定ニ從ヒ其償還ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ハ賃貸人ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第六百九條　收益ヲ目的トスル土地ノ賃借人カ不可抗力ニ因リ借賃ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ其收益ノ額ニ至ルマテ借賃ノ減額ヲ請求スルコトヲ得但宅地ノ賃貸借ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百十條　前條ノ場合ニ於テ賃借人カ不可抗力ニ因リ引續キ二年以上借賃ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十一條　賃借物ノ一部カ賃借人ノ過失ニ因ラスシテ滅失シタルトキハ賃借人ハ其滅失シタル部分ノ割合ニ應シテ借賃ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミニテハ賃借人カ賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十二條　賃借人ハ賃貸人ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ讓渡シ又ハ賃借物ヲ轉貸スルコトヲ得ス

賃借人カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシメタルトキハ賃貸人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十三條　賃借人カ適法ニ賃借物ヲ轉貸シタルトキハ轉借人ハ賃貸人ニ對シテ直接ニ義務ヲ負フ此場合ニ於テハ借賃ノ前拂ヲ以テ賃貸人ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ賃貸人カ賃借人ニ對シテ其權利ヲ行使スルコトヲ妨ケス

第六百十四條　借賃ハ動產、建物及ヒ宅地ニ付テハ毎月末ニ其他ノ土地ニ付テハ毎年末ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但收穫季節アルモノニ付テハ其季節後遲滯ナク之ヲ拂フコトヲ要ス

第六百十五條　賃借物カ修繕ヲ要シ又ハ賃借物ニ付キ權利ヲ主張スル者アルトキハ賃借人ハ遲滯ナク之ヲ賃貸人ニ通知スルコトヲ要ス但賃貸人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第六百十六條　第五百九十四條第一項、第五百九十七條第一項及ヒ第五百九十八條ノ規定ハ賃貸借ニ之ヲ準用ス

第三款　賃貸借ノ終了

第六百十七條　當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賃貸借ハ解約申入ノ後左ノ期間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

一　土地ニ付テハ一年

二　建物ニ付テハ三个月

三　貸席及ヒ動產ニ付テハ一日

收穫季節アル土地ノ賃貸借ニ付テハ其季節後次ノ耕作ニ著手スル前ニ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ要ス

第六百十八條　當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メタルモ其一方又ハ各自カ其期間內ニ解約ヲ爲ス權利ヲ留保シタルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百十九條　賃貸借ノ期間滿了ノ後賃借人カ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃貸人カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前賃貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃貸借ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

前賃貸借ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但敷金ハ此限ニ在ラス

第六百二十條　賃貸借ヲ解除シタル場合ニ於テハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス但當事者ノ一方ニ過失アリタルトキハ之ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百二十一條　賃借人カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ賃貸借ニ期間ノ定アルトキト雖モ賃貸人又ハ破產管財人ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百二十二條　第六百條ノ規定ハ賃貸借ニ之ヲ準用ス

第八節　雇傭

第六百二十三條　雇傭ハ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ勞務ニ服スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百二十四條　勞務者ハ其約シタル勞務ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

期間ヲ以テ定メタル報酬ハ其期間ノ經過シタル後之ヲ請求スルコトヲ得

第六百二十五條　使用者ハ勞務者ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得ス

勞務者ハ使用者ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ自己ニ代ハリテ勞務ニ服セシムルコトヲ得ス

勞務者カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ勞務ニ服セシメタルトキハ使用者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百二十六條　雇傭ノ期間カ五年ヲ超過シ又ハ當事者ノ一方若クハ第三者ノ終身間繼續スヘキトキハ當事者ノ一方ハ五年ヲ經過シタル後何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但此期間ハ商工業見習者ノ雇傭ニ付テハ之ヲ十年トス

前項ノ規定ニ依リテ契約ノ解除ヲ爲サント欲スルトキハ三个月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十七條　當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ雇傭ハ解約申入ノ後二週間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ解約ノ申入ハ次期以後ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但其申入ハ當期ノ前半ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

六个月以上ノ期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ申入ハ三个月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十八條　當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ直チニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其事由カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルトキハ相手方ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第六百二十九條　雇傭ノ期間滿了ノ後勞務者カ引續キ其勞務ニ服スル場合ニ於テ使用者カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前雇傭ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ雇傭ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

前雇傭ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但身元保證金ハ此限ニ在ラス

第六百三十條　第六百二十條ノ規定ハ雇傭ニ之ヲ準用ス

第六百三十一條　使用者カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ雇傭ニ期間ノ定アルトキト雖モ勞務者又ハ破產管財人ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第九節　請負

第六百三十二條　請負ハ當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百三十三條　報酬ハ仕事ノ目的物ノ引渡ト同時ニ之ヲ與フルコトヲ要ス但物ノ引渡ヲ要セサルトキハ第六百二十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

第六百三十四條　仕事ノ目的物ニ瑕疵アルトキハ注文者ハ請負人ニ對シ相當ノ期限ヲ定メテ其瑕疵ノ修補ヲ請求スルコトヲ得但瑕疵カ重要ナラサル場合ニ於テ其修補カ過分ノ費用ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

注文者ハ瑕疵ノ修補ニ代ヘ又ハ其修補ト共ニ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第五百三十三條ノ規定ヲ準用ス

第六百三十五條　仕事ノ目的物ニ瑕疵アリテ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ注文者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但建物其他土地ノ工作物ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百三十六條　前二條ノ規定ハ仕事ノ目的物ノ瑕疵カ注文者ヨリ供シタル材料ノ性質又ハ注文者ノ與ヘタル指圖ニ因リテ生シタルトキハ之ヲ適用セス但請負人カ其材料又ハ指圖ノ不適當ナルコトヲ知リテ之ヲ告ケサリシトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條　前三條ニ定メタル瑕疵修補又ハ損害賠償ノ請求及ヒ契約ノ解除ハ仕事ノ目的物ヲ引渡シタル時ヨリ一年內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

仕事ノ目的物ノ引渡ヲ要セサル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ仕事終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六百三十八條　土地ノ工作物ノ請負人ハ其工作物又ハ地盤ノ瑕疵ニ付テハ引渡ノ後五年間其擔保ノ責ニ任ス但此期間ハ石造、土造、煉瓦造又ハ金屬造ノ工作物ニ付テハ之ヲ十年トス

工作物カ前項ノ瑕疵ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ注文者ハ其滅失又ハ毀損ノ時ヨリ一年內ニ第六百三十四條ノ權利ヲ行使スルコトヲ要ス

第六百三十九條　第六百三十七條及ヒ前條第一項ノ期間ハ普通ノ時效期間內ニ限リ契約ヲ以テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第六百四十條　請負人ハ第六百三十四條及ヒ第六百三十五條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リテ告ケサリシ事實ニ付テハ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百四十一條　請負人カ仕事ヲ完成セサル間ハ注文者ハ何時ニテモ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百四十二條　注文者カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ請負人又ハ破產管財人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ請負人ハ其既ニ爲シタル仕事ノ報酬及ヒ其報酬中ニ包含セサル費用ニ付キ財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十節　委任

第六百四十三條　委任ハ當事者ノ一方カ法律行爲ヲ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百四十四條　受任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第六百四十五條　受任者ハ委任者ノ請求アルトキハ何時ニテモ委任事務處理ノ狀況ヲ報告シ又委任終了ノ後ハ遲滯ナク其顛末ヲ報告スルコトヲ要ス

第六百四十六條　受任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢其他ノ物ヲ委任者ニ引渡スコトヲ要ス其收取シタル果實亦同シ

受任者カ委任者ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ委任者ニ移轉スルコトヲ要ス

第六百四十七條　受任者カ委任者ニ引渡スヘキ金額又ハ其利益ノ爲メニ用ユヘキ金額ヲ自己ノ爲メニ消費シタルトキハ其消費シタル日以後ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第六百四十八條　受任者ハ特約アルニ非サレハ委任者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

受任者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ委任履行ノ後ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但期間ヲ以テ報酬ヲ定メタルトキハ第六百二十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

委任カ受任者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ其履行ノ半途ニ於テ終了シタルトキハ受任者ハ其既ニ爲シタル履行ノ割合ニ應シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第六百四十九條　委任事務ヲ處理スルニ付キ費用ヲ要スルトキハ委任者ハ受任者ノ請求ニ因リ其前拂ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十條　受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ費用ヲ出タシタルトキハ委任者ニ對シテ其費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ債務ヲ負擔シタルトキハ委任者ヲシテ自己ニ代ハリテ其辨濟ヲ爲サシメ又其債務カ辨濟期ニ在ラサルトキハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

受任者カ委任事務ヲ處理スル爲メ自己ニ過失ナクシテ損害ヲ受ケタルトキハ委任者ニ對シテ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十一條　委任ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得

當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ不利ナル時期ニ於テ委任ヲ解除シタルトキハ其損害ヲ賠償スルコトヲ要ス但已ムコトヲ得サル事由アリタルトキハ此限ニ在ラス

第六百五十二條　第六百二十條ノ規定ハ委任ニ之ヲ準用ス

第六百五十三條　委任ハ委任者又ハ受任者ノ死亡又ハ破產ニ因リテ終了ス受任者カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

第六百五十四條　委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受任者、其相續人又ハ法定代理人ハ委任者、其相續人又ハ法定代理人カ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十五條　委任終了ノ事由ハ其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルトヲ問ハス之ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ之ヲ知リタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百五十六條　本節ノ規定ハ法律行爲ニ非サル事務ノ委託ニ之ヲ準用ス

第十一節　寄託

第六百五十七條　寄託ハ當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ保管ヲ爲スコトヲ約シテ或物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百五十八條　受寄者ハ寄託者ノ承諾アルニ非サレハ受寄物ヲ使用シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得ス

受寄者カ第三者ヲシテ受寄物ヲ保管セシムルコトヲ得ル場合ニ於テハ第百五條及ヒ第百七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百五十九條　無報酬ニテ寄託ヲ受ケタル者ハ受寄物ノ保管ニ付キ自己ノ財產ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲ス責ニ任ス

第六百六十條　寄託物ニ付キ權利ヲ主張スル第三者カ受寄者ニ對シテ訴ヲ提起シ又ハ差押ヲ爲シタルトキハ受寄者ハ遲滯ナク其事實ヲ寄託者ニ通知スルコトヲ要ス

第六百六十一條　寄託者ハ寄託物ノ性質又ハ瑕疵ヨリ生シタル損害ヲ受寄者ニ賠償スルコトヲ要ス但寄託者カ過失ナクシテ其性質若クハ瑕疵ヲ知ラサリシトキ又ハ受寄者カ之ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十二條　當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メタルトキト雖モ寄託者ハ何時ニテモ其返還ヲ請求スルコトヲ得

第六百六十三條　當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ受寄者ハ何時ニテモ其返還ヲ爲スコトヲ得

返還時期ノ定アルトキハ受寄者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ其期限前ニ返還ヲ爲スコトヲ得ス

第六百六十四條　寄託物ノ返還ハ其保管ヲ爲スヘキ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但受寄者カ正當ノ事由ニ因リテ其物ヲ轉置シタルトキハ其現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還スルコトヲ得

第六百六十五條　第六百四十六條乃至第六百四十九條及ヒ第六百五十條第一項、第二項ノ規定ハ寄託ニ之ヲ準用ス

第六百六十六條　受寄者カ契約ニ依リ受寄物ヲ消費スルコトヲ得ル場合ニ於テハ消費貸借ニ關スル規定ヲ準用ス但契約ニ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ寄託者ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

第十二節　組合

第六百六十七條　組合契約ハ各當事者カ出資ヲ爲シテ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

出資ハ勞務ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第六百六十八條　各組合員ノ出資其他ノ組合財産ハ總組合員ノ共有ニ屬ス

第六百六十九條　金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ組合員カ其出資ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第六百七十條　組合ノ業務執行ハ組合員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

組合契約ヲ以テ業務ノ執行ヲ委任シタル者數人アルトキハ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

組合ノ常務ハ前二項ノ規定ニ拘ハラス各組合員又ハ各業務執行者之ヲ專行スルコトヲ得但其結了前ニ他ノ組合員又ハ業務執行者カ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第六百七十一條　組合ノ業務ヲ執行スル組合員ニハ第六百四十四條乃至第六百五十條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十二條　組合契約ヲ以テ一人又ハ數人ノ組合員ニ業務ノ執行ヲ委任シタルトキハ其組合員ハ正當ノ事由アルニ非サレハ辭任ヲ爲スコトヲ得ス又解任セラルルコトナシ

正當ノ事由ニ因リテ解任ヲ爲スニハ他ノ組合員ノ一致アルコトヲ要ス

第六百七十三條　各組合員ハ組合ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサルトキト雖モ其業務及ヒ組合財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第六百七十四條　當事者カ損益分配ノ割合ヲ定メサリシトキハ其割合ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ應シテ之ヲ定ム

利益又ハ損失ニ付テノミ分配ノ割合ヲ定メタルトキハ其割合ハ利益及ヒ損失ニ共通ナルモノト推定ス

第六百七十五條　組合ノ債權者ハ其債權發生ノ當時組合員ノ損失分擔ノ割合ヲ知ラサリシトキハ各組合員ニ對シ均一部分ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第六百七十六條　組合員カ組合財産ニ付キ其持分ヲ處分シタルトキハ其處分ハ之ヲ以テ組合及ヒ組合ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

組合員ハ清算前ニ組合財産ノ分割ヲ求ムルコトヲ得ス

第六百七十七條　組合ノ債務者ハ其債務ト組合員ニ對スル債權トヲ相殺スルコトヲ得ス

第六百七十八條　組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メサリシトキ又ハ或組合員ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各組合員ハ何時ニテモ脫退ヲ爲スコトヲ得但已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外組合ノ爲メ不利ナル時期ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

組合ノ存續期間ヲ定メタルトキト雖モ各組合員ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ脫退ヲ爲スコトヲ得

第六百七十九條　前條ニ揭ケタル場合ノ外組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脫退ス

一　死亡
二　破產
三　禁治產
四　除名

第六百八十條　組合員ノ除名ハ正當ノ事由アル場合ニ限リ他ノ組合員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル組合員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百八十一條　脫退シタル組合員ト他ノ組合員トノ間ノ計算ハ脫退ノ當時ニ於ケル組合財産ノ狀況ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

脫退シタル組合員ノ持分ハ其出資ノ種類如何ヲ問ハス金錢ヲ以テ之ヲ拂戾スコトヲ得

脫退ノ當時ニ於テ未タ結了セサル事項ニ付テハ其結了後ニ計算ヲ爲スコトヲ得

第六百八十二條　組合ハ其目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能ニ因リテ解散ス

第六百八十三條　已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各組合員ハ組合ノ解散ヲ請求スルコトヲ得

第六百八十四條　第六百二十條ノ規定ハ組合契約ニ之ヲ準用ス

第六百八十五條　組合カ解散シタルトキハ清算ハ總組合員共同ニテ又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス

清算人ノ選任ハ總組合員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第六百八十六條　清算人數人アルトキハ第六百七十條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十七條　組合契約ヲ以テ組合員中ヨリ清算人ヲ選任シタルトキハ第六百七十二條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十八條　清算人ノ職務及ヒ權限ニ付テハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス

殘餘財産ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ應シテ之ヲ分割ス

第十三節　終身定期金

第六百八十九條　終身定期金契約ハ當事者ノ一方カ自己、相手方又ハ第三者ノ死亡ニ至ルマテ定期ニ金錢其他ノ物ヲ相手方又ハ第三者ニ給付スルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百九十條　終身定期金ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第六百九十一條　定期金債務者カ定期金ノ元本ヲ受ケタル場合ニ於テ其定期金ノ給付ヲ怠リ又ハ其他ノ義務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ元本ノ返還ヲ請求スルコトヲ得但既ニ受取リタル定期金ノ中ヨリ其元本ノ利息ヲ控除シタル殘額ヲ債務者ニ返還スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百九十二條　第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百九十三條　死亡カ定期金債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ裁判所ハ債權者又ハ其相續人ノ請求ニ因リ相當ノ期間債權ノ存續スルコトヲ宣告スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第六百九十一條ニ定メタル權利ノ行使ヲ妨ケス

第六百九十四條　本節ノ規定ハ終身定期金ノ遺贈ニ之ヲ準用ス

第十四節　和解

第六百九十五條　和解ハ當事者カ互ニ讓步ヲ爲シテ其間ニ存スル爭ヲ止ムルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百九十六條　當事者ノ一方カ和解ニ依リテ爭ノ目的タル權利ヲ有スルモノト認メラレ又ハ相手方カ之ヲ有セサルモノト認メラレタル場合ニ於テ其者カ從來此權利ヲ有セサリシ確證又ハ相手方カ之ヲ有セシ確證出テタルトキハ其權利ハ和解ニ因リテ其者ニ移轉シ又ハ消滅シタルモノトス

第三章　事務管理

第六百九十七條　義務ナクシテ他人ノ爲メニ事務ノ管理ヲ始メタル者ハ其事務ノ性質ニ從ヒ最モ本人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其管理ヲ爲スコトヲ要ス

管理者カ本人ノ意思ヲ知リタルトキ又ハ之ヲ推知スルコトヲ得ヘキトキハ其意思ニ從ヒテ管理ヲ爲スコトヲ要ス

第六百九十八條　管理者カ本人ノ身體、名譽又ハ財産ニ對スル急迫ノ危害ヲ免レシムル爲メニ其事務ノ管理ヲ爲シタルトキハ惡意又ハ重大ナル過失アルニ非サレハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス

第六百九十九條　管理者ハ其管理ヲ始メタルコトヲ遲滯ナク本人ニ通知スルコトヲ要ス但本人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第七百條　管理者ハ本人、其相續人又ハ法定代理人カ管理ヲ爲スコトヲ得ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但其管理ノ繼續カ本人ノ意思ニ反シ又ハ本人ノ爲メニ不利ナルコト明カナルトキハ此限ニ在ラス

第七百一條　第六百四十五條乃至第六百四十七條ノ規定ハ事務管理ニ之ヲ準用ス

第七百二條　管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル費用ヲ出タシタルトキハ本人ニ對シテ其償還ヲ請求スルコトヲ得

管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル債務ヲ負擔シタルトキハ第六百五十條第二項ノ規定ヲ準用ス

管理者カ本人ノ意思ニ反シテ管理ヲ爲シタルトキハ本人カ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ前二項ノ規定ヲ適用ス

第四章　不當利得

第七百三條　法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産又ハ勞務ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第七百四條　惡意ノ受益者ハ其受ケタル利益ニ利息ヲ附シテ之ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第七百五條　債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其當時債務ノ存在セサルコトヲ知リタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百六條　債務者カ辨濟期ニ在ラサル債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但債務者カ錯誤ニ因リテ其給付ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之ニ因リテ得タル利益ヲ返還スルコトヲ要ス

第七百七條　債務者ニ非サル者カ錯誤ニ因リテ債務ノ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テ債權者カ善意ニテ證書ヲ毀滅シ、擔保ヲ拋棄シ又ハ時效ニ因リテ其債權ヲ失ヒタルトキハ辨濟者ハ返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ辨濟者ヨリ債務者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百八條　不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此限ニ在ラス

第五章　不法行爲

第七百九條　故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第七百十條　他人ノ身體、自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタル場合トヲ問ハス前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責ニ任スル者ハ財産以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十一條　他人ノ生命ヲ害シタル者ハ被害者ノ父母、配偶者及ヒ子ニ對シテハ其財産權ヲ害セラレサリシ場合ニ於テモ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十二條　未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行爲ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具ヘサリシトキハ其行爲ニ付キ賠償ノ責ニ任セス

第七百十三條　心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責ニ任セス但故意又ハ過失ニ因リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十四條　前二條ノ規定ニ依リ無能力者ニ責任ナキ場合ニ於テ之ヲ監督スヘキ法定ノ義務アル者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但監督義務者カ其義務ヲ怠ラサリシトキハ此限ニ在ラス

監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百十五條　或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スル者ハ被用者カ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但使用者カ被用者ノ選任及ヒ其事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ損害カ生スヘカリシトキハ此限ニ在ラス

使用者ニ代ハリテ事業ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

前二項ノ規定ハ使用者又ハ監督者ヨリ被用者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百十六條　注文者ハ請負人カ其仕事ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス但注文又ハ指圖ニ付キ注文者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十七條　土地ノ工作物ノ設置又ハ保存ニ瑕疵アルニ因リテ他人ニ損害ヲ生シタルトキハ其工作物ノ占有者ハ被害者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス但占有者カ損害ノ發生ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲シタルトキハ其損害ハ所有者之ヲ賠償スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ竹木ノ栽植又ハ支持ニ瑕疵アル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ他ニ損害ノ原因ニ付キ其責ニ任スヘキ者アルトキハ占有者又ハ所有者ハ之ニ對シテ求償權ヲ行使スルコトヲ得

第七百十八條　動物ノ占有者ハ其動物カ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但動物ノ種類及ヒ性質ニ從ヒ相當ノ注意ヲ以テ其保管ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

占有者ニ代ハリテ動物ヲ保管スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百十九條　數人カ共同ノ不法行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ各自連帶ニテ其賠償ノ責ニ任ス共同行爲者中ノ孰レカ其損害ヲ加ヘタルカヲ知ルコト能ハサルトキ亦同シ

敎唆者及ヒ幇助者ハ之ヲ共同行爲者ト看做ス

第七百二十條　他人ノ不法行爲ニ對シ自己又ハ第三者ノ權利ヲ防衞スル爲メ已ムコトヲ得スシテ加害行爲ヲ爲シタル者ハ損害賠償ノ責ニ任セス但被害者ヨリ不法行爲ヲ爲シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

前項ノ規定ハ他人ノ物ヨリ生シタル急迫ノ危難ヲ避クル爲メ其物ヲ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百二十一條　胎兒ハ損害賠償ノ請求權ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス

第七百二十二條　第四百十七條ノ規定ハ不法行爲ニ因ル損害ノ賠償ニ之ヲ準用ス

被害者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第七百二十三條　他人ノ名譽ヲ毀損シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ代ヘ又ハ損害賠償ト共ニ名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第七百二十四條　不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ被害者又ハ其法定代理人カ損害及ヒ加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス不法行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

（明治三十一年勅令第百二十三號ヲ以テ同年七月十六日ヨリ施行）

大正十五年四月二十四日
法律第六十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

民法中左ノ通改正ス

第百五十條　支拂命令ハ債權者カ法定ノ期間内ニ假執行ノ申立ヲ爲ササルニ因リ其效力ヲ失フトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（昭和四年勅令第百五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

●民法第四編第五編

明治三十一年六月二十一日
法律第九號
改正　明治三五年第三七號　大正一四年第四二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法中修正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

民法第四編第五編別冊ノ通之ヲ定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十三年法律第九十八號民法財產取得編人事編ハ此法律發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別冊）

民法

第四編　親族

第一章　總則

第二章　戶主及ヒ家族

第一節　總則

第二節　戶主及ヒ家族ノ權利義務

第三節　戶主權ノ喪失

第三章　婚姻

第一節　婚姻ノ成立

第一款　婚姻ノ要件

第二款　婚姻ノ無效及ヒ取消

第二節 婚姻ノ效力
第三節 夫婦財產制
第一款 總則
第二款 法定財產制
第四節 離婚
第一款 協議上ノ離婚
第二款 裁判上ノ離婚
第四章 親子
第一節 實子
第一款 嫡出子
第二款 庶子及ヒ私生子
第二節 養子
第一款 緣組ノ要件
第二款 緣組ノ無效及ヒ取消
第三款 緣組ノ效力
第四款 離緣
第五章 親權
第一節 總則
第二節 親權ノ效力
第三節 親權ノ喪失
第六章 後見
第一節 後見ノ開始
第二節 後見ノ機關
第一款 後見人
第二款 後見監督人
第三節 後見ノ事務
第四節 後見ノ終了
第七章 親族會
第八章 扶養ノ義務
第五編 相續
第一章 家督相續
第一節 總則
第二節 家督相續人
第三節 家督相續ノ效力
第二章 遺產相續
第一節 總則
第二節 遺產相續人
第三節 遺產相續ノ效力
第一款 總則
第二款 相續分
第三款 遺產ノ分割
第三章 相續ノ承認及ヒ抛棄
第一節 總則
第二節 承認
第一款 單純承認
第二款 限定承認
第三節 抛棄
第四章 財產ノ分離
第五章 相續人ノ曠缺
第六章 遺言
第一節 總則
第二節 遺言ノ方式
第一款 普通方式
第二款 特別方式
第三節 遺言ノ效力
第四節 遺言ノ執行
第五節 遺言ノ取消
第七章 遺留分

民法

第四編 親族

第一章 總則

第七百二十五條 左ニ揭ケタル者ハ之ヲ親族トス
一 六親等內ノ血族
二 配偶者
三 三親等內ノ姻族

第七百二十六條 親等ハ親族間ノ世數ヲ算シテ之ヲ定ム
傍系親ノ親等ヲ定ムルニハ其一人又ハ其配偶者ヨリ同始祖ニ遡リ其始祖ヨリ他ノ一人ニ下ルマテノ世數ニ依ル

第七百二十七條 養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ於テハ養子緣組ノ日ヨリ血族間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生ス

第七百二十八條 繼父母ト繼子又嫡母ト庶子トノ間ニ於テハ親子間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生ス

第七百二十九條 姻族關係及ヒ前條ノ親族關係ハ離婚ニ因リテ止ム
夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ其家ヲ去リタルトキ亦同シ

第七百三十條 養子ト養親及ヒ其血族トノ親族關係ハ離緣ニ因リテ止ム
養親カ養家ヲ去リタルトキハ其者及ヒ其實方ノ血族ト養子トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム
養子ノ配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者カ養子ノ離緣ニ因リテ之ト共ニ養家ヲ去リタルトキハ其者ト養親及ヒ其血族トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム

第七百三十一條 第七百二十九條第二項及ヒ前條第二項ノ規定ハ本家相續、分家及ヒ廢絕家再興ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第二章 戶主及ヒ家族

第一節 總則

第七百三十二條 戶主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者及ヒ其配偶者ハ之ヲ家族トス
戶主ノ變更アリタル場合ニ於テハ舊戶主及ヒ其家族ハ新戶主ノ家族トス

第七百三十三條 子ハ父ノ家ニ入ル
父ノ知レサル子ハ母ノ家ニ入ル
父母共ニ知レサル子ハ一家ヲ創立ス

第七百三十四條 父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離緣ニ因リテ其家ヲ去リタルトキハ前條第一項ノ規定ハ懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス
前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百三十五條 家族ノ庶子及ヒ私生子ハ戶主ノ同意アルニ非サレハ其家ニ入ルコトヲ得ス
庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ母ノ家ニ入ル
私生子カ母ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ一家ヲ創立ス

第七百三十六條 女戶主カ入夫婚姻ヲ爲シタルトキハ入夫ハ其家ノ戶主ト爲ル但當事者カ婚姻ノ當時反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百三十七條 戶主ノ親族ニシテ他家ニ在ル者ハ戶主ノ同意ヲ得テ其家族ト爲ルコトヲ得但其者カ他家ノ家族タルトキハ其家ノ戶主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
前項ニ揭ケタル者カ未成年者ナルトキハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百三十八條 婚姻又ハ養子緣組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ其配偶者又ハ養親ノ親族ニ非サル自己ノ親族ヲ婚家又ハ養家ノ家族ト爲サント欲スルトキハ前條ノ規定ニ依ル外其配偶者又ハ養親ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百三十九條 婚姻又ハ養子緣組ニ因リテ他家ニ入リタル者ハ離婚又ハ離緣ノ場合ニ於テ實家ニ復籍ス

第七百四十條 前條ノ規定ニ依リテ實家ニ復籍スヘキ者カ實家ノ廢絕ニ因リテ復籍ヲ爲スコト能ハサルトキハ一家ヲ創立ス但實家ヲ再興スルコトヲ妨ケス

第七百四十一條 婚姻又ハ養子緣組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ婚姻又ハ養子緣組ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ婚家又ハ養家及ヒ實家ノ戶主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ同意ヲ爲ササリシ戶主ハ婚姻又ハ養子緣組ノ日ヨリ一年內ニ復籍ヲ拒ムコトヲ得

第七百四十二條 離籍セラレタル家族ハ一家ヲ創立ス他家ニ入リタル後復籍ヲ拒マレタル者カ離婚又ハ離緣ニ因リテ其家ヲ去リタルトキ亦同シ

第七百四十三條 家族ハ戶主ノ同意アルトキハ他家ヲ相續シ、分家ヲ爲シ又ハ廢絕シタル本家、分家、同家其他親族ノ家ヲ再興スルコトヲ得但未成年者ハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
家族カ分家ヲ爲ス場合ニ於テハ戶主ノ同意ヲ得テ自己ノ直系卑屬ヲ分家ノ家族ト爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ直系卑屬カ滿十五年以上ナルトキハ其同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百四十四條 法定ノ推定家督相續人ハ他家ニ入リ又ハ一家ヲ創立スルコトヲ得ス但本家相續ノ必要アルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第七百五十條第二項ノ適用ヲ妨ケス

第七百四十五條 夫カ他家ニ入リ又ハ一家ヲ創立シタルトキハ妻ハ之ニ隨ヒテ其家ニ入ル

第二節 戶主及ヒ家族ノ權利義務

第七百四十六條 戶主及ヒ家族ハ其家ノ氏ヲ稱ス

第七百四十七條 戶主ハ其家族ニ對シテ扶養ノ義務ヲ負フ

第七百四十八條 家族カ自己ノ名ニ於テ得タル財產ハ其特有財產トス
戶主又ハ家族ノ孰レニ屬スルカ分明ナラサル財產ハ戶主ノ財產ト推定ス

第七百四十九條 家族ハ戶主ノ意ニ反シテ其居所ヲ定ムルコトヲ得ス
家族カ前項ノ規定ニ違反シテ戶主ノ指定シタル居所ニ在ラサル間ハ戶主ハ之ニ對シテ扶養ノ義務ヲ免ル
前項ノ場合ニ於テ戶主ハ相當ノ期間ヲ定メ其指定シタル場所ニ居所ヲ轉スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ家族カ其催告ニ應セサルトキハ戶主ハ之ヲ離籍スルコトヲ得但其家族カ未成年者ナルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十條 家族カ婚姻又ハ養子緣組ヲ爲スニハ戶主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
家族カ前項ノ規定ニ違反シテ婚姻又ハ養子緣組ヲ爲シタルトキハ戶主ハ其婚姻又ハ養子緣組ノ日ヨリ一年內ニ離籍ヲ爲シ又ハ復籍ヲ拒ムコトヲ得
家族カ養子ヲ爲シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ從ヒ離籍セラレタルトキハ其養子ハ養親ニ隨ヒテ其家ニ入ル

第七百五十一條 戶主カ其權利ヲ行フコト能ハサルトキハ親族會之ヲ行フ但戶主ニ對シテ親權ヲ行フ者又ハ其後見人アルトキハ此限ニ在ラス

第三節 戶主權ノ喪失

第七百五十二條 戶主ハ左ニ揭ケタル條件ノ具備スルニ非サレハ隱居ヲ爲スコトヲ得ス
一 滿六十年以上ナルコト
二 完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ノ單純承認ヲ爲スコト

第七百五十三條 戶主カ疾病、本家ノ相續又ハ再興其他已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ爾後家政ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ前條ノ規定ニ拘ハラス裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲ爲スコトヲ得但法定ノ推定家督相續人アラサルトキハ豫メ家督相續人タルヘキ者ヲ定メ其承認ヲ得ルコトヲ要ス

第七百五十四條 戶主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ隱居ヲ爲スコトヲ得
戶主カ隱居ヲ爲サスシテ婚姻ニ因リ他家ニ入ラント欲スル場合ニ於テ【戶籍吏】カ其届出ヲ受理シタルトキハ其戶主ハ婚姻ノ日ニ於テ隱居ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百五十五條 女戶主ハ年齡ニ拘ハラス隱居ヲ爲スコトヲ得
有夫ノ女戶主カ隱居ヲ爲スニハ其夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但夫ハ正當ノ理由アルニ非サレハ其同意ヲ拒ムコトヲ得ス

第七百五十六條 無能力者カ隱居ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第七百五十七條 隱居ハ隱居者及ヒ其家督相續人ヨリ之ヲ【戶籍吏】ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス

第七百五十八條 隱居者ノ親族及ヒ檢事ハ隱居届出ノ日ヨリ三个月內ニ第七百五十二條又ハ第七百五十三條ノ規定ニ違反シタル隱居ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
女戶主カ第七百五十五條第二項ノ規定ニ違反シテ隱居ヲ爲シタルトキハ夫ハ前項ノ期間內ニ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第七百五十九條 隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ强迫ニ因リテ隱居ノ届出ヲ爲シタルトキハ隱居者又ハ家督相續人ハ其詐欺ヲ發見シ又ハ强迫ヲ免レタル時ヨリ一年內ニ隱居ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
隱居者又ハ家督相續人カ詐欺ヲ發見セス又ハ强迫ヲ免レサル間ハ其親族又ハ檢事ヨリ隱居ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但其請求ノ後隱居者又ハ家督相續人カ追認ヲ爲シタルトキハ取消權ハ之ニ因リテ消滅ス
前二項ノ取消權ハ隱居届出ノ日ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第七百六十條 隱居ノ取消前ニ家督相續人ノ債權者ト爲リタル者ハ其取消ニ因リテ戶主タル者ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得
但家督相續人ニ對スル請求ヲ妨ケス
債權者カ債權取得ノ當時隱居取消ノ原因ノ存スルコトヲ知リタルトキハ家督相續人ニ對シテノミ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得家督相續人カ家督相續前ヨリ負擔セル債務及ヒ其一身ニ專屬スル債務ニ付キ亦同シ

第七百六十一條 隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル戶主權ノ喪失ハ前戶主又ハ家督相續人ヨリ前戶主ノ債權者及ヒ債務者ニ其通知ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ其債權者及ヒ債務者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百六十二條 新ニ家ヲ立テタル者ハ其家ヲ廢シテ他家ニ入ルコトヲ得
家督相續ニ因リテ戶主ト爲リタル者ハ其家ヲ廢スルコトヲ得ス但本家ノ相續又ハ再興其他正當ノ事由ニ因リ裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第七百六十三條 戶主カ適法ニ廢家シテ他家ニ入リタルトキハ其家族モ亦其家ニ入ル

第七百六十四條 戶主ヲ失ヒタル家ニ家督相續人ナキトキハ絕家シタルモノトシ其家族ハ各一家ヲ創立ス但子ハ父ニ隨ヒ又父カ知レサルトキ、他家ニ在ルトキ若クハ死亡シタルトキハ母ニ隨ヒテ其家ニ入ル
前項ノ規定ハ第七百四十五條ノ適用ヲ妨ケス

第三章 婚姻

第一節 婚姻ノ成立

第一款 婚姻ノ要件

第七百六十五條 男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラサレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十六條 配偶者アル者ハ重ネテ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十七條 女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六个月ヲ經過シタル後ニ非サレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス
女カ前婚ノ解消又ハ取消ノ前ヨリ懷胎シタル場合ニ於テハ其分娩ノ日ヨリ前項ノ規定ヲ適用セス

第七百六十八條 姦通ニ因リテ離婚又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十九條 直系血族又ハ三親等內ノ傍系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス但養子ト養方ノ傍系血族トノ間ハ此限ニ在ラス

第七百七十條 直系姻族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス第七百二十九條ノ規定ニ依リ姻族關係カ止ミタル後亦同シ

第七百七十一條 養子、其配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者ト養親又ハ其直系尊屬トノ間ニ於テハ第七百三十條ノ規定ニ依リ親族關係カ止ミタル後ト雖モ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百七十二條 子カ婚姻ヲ爲スニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但男カ滿三十年女カ滿二十五年ニ達シタル後ハ此限ニ在ラス
父母ノ一方カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ足ル
父母共ニ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十三條 繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セサルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條 禁治產者カ婚姻ヲ爲スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第七百七十五條 婚姻ハ之ヲ【戶籍吏】ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス
前項ノ届出ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七百七十六條 【戶籍吏】ハ婚姻カ第七百四十一條第一項、第七百四十四條第一項、第七百五十條第一項、第七百五十四條第一項、第

七百六十五條乃至第七百七十三條及ヒ前條第二項ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其屆出ヲ受理スルコトヲ得ス但婚姻カ第七百四十一條第一項又ハ第七百五十條第一項ノ規定ニ違反スル場合ニ於テ【戸籍吏】カ注意ヲ爲シタルニ拘ハラス當事者カ其屆出ヲ爲サント欲スルトキハ此限ニ在ラス

第七百七十七條　外國ニ在ル日本人間ニ於テ婚姻ヲ爲サント欲スルトキハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其屆出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第二款　婚姻ノ無效及ヒ取消

第七百七十八條　婚姻ハ左ノ場合ニ限リ無效トス

一　人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ婚姻ヲ爲ス意思ナキトキ

二　當事者カ婚姻ノ屆出ヲ爲ササルトキ但其屆出カ第七百七十五條第二項ニ掲ケタル條件ヲ缺クニ止マルトキハ婚姻ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第七百七十九條　婚姻ハ後七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第七百八十條　第七百六十五條乃至第七百七十一條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ各當事者、其戸主、親族又ハ檢事ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但檢事ハ當事者ノ一方カ死亡シタル後ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百六十六條乃至第七百六十八條ノ規定ニ違反シタル婚姻ニ付テハ當事者ノ配偶者又ハ前配偶者モ亦其取消ヲ請求スルコトヲ得

第七百八十一條　第七百六十五條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ不適齡者カ適齡ニ達シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス

不適齡者ハ適齡ニ達シタル後尙ホ三个月間其婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但適齡ニ達シタル後追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百八十二條　第七百六十七條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ前婚ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ六个月ヲ經過シ又ハ女カ再婚後懷胎シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百八十三條　第七百七十二條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意カ詐欺又ハ强迫ニ因リタルトキ亦同シ

第七百八十四條　前條ノ取消權ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

一　同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ婚姻アリタルコトヲ知リタル後又ハ詐欺ヲ發見シ若クハ强迫ヲ免レタル後六个月ヲ經過シタルトキ

二　同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ追認ヲ爲シタルトキ

三　婚姻屆出ノ日ヨリ二年ヲ經過シタルトキ

第七百八十五條　詐欺又ハ强迫ニ因リテ婚姻ヲ爲シタル者ハ其婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ取消權ハ當事者カ詐欺ヲ發見シ若クハ强迫ヲ免レタル後三个月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ消滅ス

第七百八十六條　壻養子緣組ノ場合ニ於テハ各當事者ハ緣組ノ無效又ハ取消ヲ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但緣組ノ無效又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス

前項ノ取消權ハ當事者カ緣組ノ無效ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後三个月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス

第七百八十七條　婚姻ノ取消ハ其效力ヲ既往ニ及ホサス

婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知ラサリシ當事者カ婚姻ニ因リテ財産ヲ得タルトキハ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ其返還ヲ爲スコトヲ要ス

婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知リタル當事者ハ婚姻ニ因リテ得タル利益ノ全部ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ相手方カ善意ナリシトキハ之ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第二節　婚姻ノ效力

第七百八十八條　妻ハ婚姻ニ因リテ夫ノ家ニ入ル

入夫及ヒ壻養子ハ妻ノ家ニ入ル

第七百八十九條　妻ハ夫ト同居スル義務ヲ負フ

夫ハ妻ヲシテ同居ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第七百九十條　夫婦ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ

第七百九十一條　妻カ未成年者ナルトキハ成年ノ夫ハ其後見人ノ職務ヲ行フ

第七百九十二條　夫婦間ニ於テ契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ婚姻中何時ニテモ夫婦ノ一方ヨリ之ヲ取消スコトヲ得但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第三節　夫婦財産制

第一款　總則

第七百九十三條　夫婦カ婚姻ノ屆出前ニ其財産ニ付キ別段ノ契約ヲ爲ササリシトキハ其財産關係ハ次款ニ定ムル所ニ依ル

第七百九十四條　夫婦カ法定財産制ニ異ナリタル契約ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ屆出マテニ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百九十五條　外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキハ一年内ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百九十六條　夫婦ノ財産關係ハ婚姻屆出ノ後ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ財産ヲ管理スル場合ニ於テ管理ノ失當ニ因リ其財産ヲ危クシタルトキハ他ノ一方ハ自ラ其管理ヲ爲サンコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

共有財産ニ付テハ前項ノ請求ト共ニ其分割ヲ請求スルコトヲ得

第七百九十七條　前條ノ規定又ハ契約ノ結果ニ依リ管理者ヲ變更シ又ハ共有財産ノ分割ヲ爲シタルトキハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二款　法定財産制

第七百九十八條　夫ハ婚姻ヨリ生スル一切ノ費用ヲ負擔ス但妻カ戸主タルトキハ妻之ヲ負擔ス

前項ノ規定ハ第七百九十條及ヒ第八章ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第七百九十九條　夫又ハ女戸主ハ用方ニ從ヒ其配偶者ノ財産ノ使用及ヒ收益ヲ爲ス權利ヲ有ス

夫又ハ女戸主ハ其配偶者ノ財産ノ果實中ヨリ其債務ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス

第八百條　第五百九十五條及ヒ第五百九十八條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百一條　夫ハ妻ノ財産ヲ管理ス

夫カ妻ノ財産ヲ管理スルコト能ハサルトキハ妻自ラ之ヲ管理ス

第八百二條　夫カ妻ノ爲メニ借財ヲ爲シ、妻ノ財産ヲ讓渡シ、之ヲ擔保ニ供シ又ハ第六百二條ノ期間ヲ超エテ其賃貸ヲ爲スニハ妻ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス但管理ノ目的ヲ以テ果實ヲ處分スルハ此限ニ在ラス

第八百三條　夫カ妻ノ財産ヲ管理スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ妻ノ請求ニ因リ夫ヲシテ其財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第八百四條　日常ノ家事ニ付テハ妻ハ夫ノ代理人ト看做ス

夫ハ前項ノ代理權ノ全部又ハ一部ヲ否認スルコトヲ得但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第八百五條　夫カ妻ノ財産ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ於テハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第八百六條　第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ夫カ妻ノ財産ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八百七條　妻又ハ入夫カ婚姻前ヨリ有セル財産及ヒ婚姻中自己ノ名ニ於テ得タル財産ハ其特有財産トス

夫婦ノ孰レニ屬スルカ分明ナラサル財産ハ夫又ハ女戸主ノ財産ト推定ス

第四節　離婚

第一款　協議上ノ離婚

第八百八條　夫婦ハ其協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得

第八百九條　滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離婚ヲ爲スニハ第七百七十二條及ヒ第七百七十三條ノ規定ニ依リ其婚姻ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百十條　第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ協議上ノ離婚ニ之ヲ準用ス

第八百十一條　【戸籍吏】ハ離婚カ第七百七十五條第二項及ヒ第八百九條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其屆出ヲ受理スルコトヲ得ス

【戸籍吏】カ前項ノ規定ニ違反シテ屆出ヲ受理シタルトキト雖モ離婚ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第八百十二條　協議上ノ離婚ヲ爲シタル者カ其協議ヲ以テ子ノ監護ヲ爲スヘキ者ヲ定メサリシトキハ其監護ハ父ニ屬ス

父カ離婚ニ因リテ婚家ヲ去リタル場合ニ於テハ子ノ監護ハ母ニ屬ス

前二項ノ規定ハ監護ノ範圍外ニ於テ父母ノ權利義務ニ變更ヲ生スルコトナシ

第二款　裁判上ノ離婚

第八百十三條　夫婦ノ一方ハ左ノ場合ニ限リ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

一　配偶者カ重婚ヲ爲シタルトキ

二　妻カ姦通ヲ爲シタルトキ

三　夫カ姦淫罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルトキ

四　配偶者カ僞造、賄賂、猥褻、竊盜、强盜、詐欺取財、受寄財物費消、贓物ニ關スル罪若クハ刑法第百七十五條第二百六十條ニ掲ケタル罪ニ因リテ輕罪以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ニ因リテ重禁錮三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

五　配偶者ヨリ同居ニ堪ヘサル虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

六　配偶者ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ

七　配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

八　配偶者カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

九　配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

十　壻養子緣組ノ場合ニ於テ離緣アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離緣若クハ緣組ノ取消アリタルトキ

第八百十四條　前條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ行爲ニ同意シタルトキハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

前條第一號乃至第七號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタルトキ亦同シ

第八百十五條　第八百十三條第四號ニ掲ケタル處刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其配偶者ニ同一ノ事由アルコトヲ理由トシテ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百十六條　第八百十三條第一號乃至第八號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八百十七條　第八百十三條第九號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ配偶者ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百十八條　第八百十三條第十號ノ場合ニ於テ離緣又ハ緣組取消ノ請求アリタルトキハ之ニ附帶シテ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八百十三條第十號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ當事者カ離緣又ハ緣組ノ取消アリタルコトヲ知リタル後三个月ヲ經過シ又ハ離婚請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百十九條　第八百十二條ノ規定ハ裁判上ノ離婚ニ之ヲ準用ス但裁判所ハ子ノ利益ノ爲メ其監護ニ付キ之ニ異ナリタル處分ヲ命スルコトヲ得

第四章　親子

第一節　實子

第一款　嫡出子

第八百二十條　妻カ婚姻中ニ懷胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス

婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懷胎シタルモノト推定ス

第八百二十一條　第七百六十七條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ其子ノ父ヲ定ムルコト能ハサルトキハ裁判所之ヲ定ム

第八百二十二條　第八百二十條ノ場合ニ於テ夫ハ子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルコトヲ得

第八百二十三條　前條ノ否認權ハ子又ハ其法定代理人ニ對スル訴ニ依リテ之ヲ行フ但夫カ子ノ法定代理人ナルトキハ裁判所ハ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

第八百二十四條　夫カ子ノ出生後ニ於テ其嫡出ナルコトヲ承認シタルトキハ其否認權ヲ失フ

第八百二十五條　否認ノ訴ハ夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ一年內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第八百二十六條　夫カ未成年者ナルトキハ前條ノ期間ハ其成年ニ達シタル時ヨリ之ヲ起算ス但夫カ成年ニ達シタル後ニ子ノ出生ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

夫カ禁治産者ナルトキハ前條ノ期間ハ禁治産ノ取消アリタル後夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二款　庶子及ヒ私生子

第八百二十七條　私生子ハ其父又ハ母ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ得

父カ認知シタル私生子ハ之ヲ庶子トス

第八百二十八條　私生子ノ認知ハ其父又ハ母カ無能力者ナルトキト雖モ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第八百二十九條　私生子ノ認知ハ【戸籍吏】ニ屆出ツルニ依リテ之ヲ爲ス

認知ハ遺言ニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第八百三十條　成年ノ私生子ハ其承諾アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十一條　父ハ胎内ニ在ル子ト雖モ之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テハ母ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

父又ハ母ハ死亡シタル子ト雖モ其直系卑屬アルトキニ限リ之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テ其直系卑屬カ成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第八百三十二條　認知ハ出生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

第八百三十三條　認知ヲ爲シタル父又ハ母ハ其認知ヲ取消スコトヲ得ス

第八百三十四條　子其他ノ利害關係人ハ認知ニ對シテ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得

第八百三十五條　子、其直系卑屬又ハ此等ノ者ノ法定代理人ハ父又ハ母ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得

第八百三十六條　庶子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得ス

婚姻中父母カ認知シタル私生子ハ其認知ノ時ヨリ嫡出子タル身分ヲ取得ス

前二項ノ規定ハ子カ既ニ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二節　養子

第一款　緣組ノ要件

第八百三十七條　成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百三十八條　尊屬又ハ年長者ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ス

第八百三十九條　法定ノ推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ス但女壻ト爲ス爲メニスル場合ハ此限ニ在ラス

第八百四十條　後見人ハ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス其任務カ終了シタル後未タ管理ノ計算ヲ終ヘラサル間亦同シ

前項ノ規定ハ第八百四十八條ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第八百四十一條　配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ緣組ヲ爲スコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ子ヲ養子ト爲スニハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル

第八百四十二條　前條第一項ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ハ雙方ノ名義ヲ以テ緣組ヲ爲スコトヲ得

第八百四十三條　養子ト爲ルヘキ者カ十五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代ハリテ緣組ノ承諾ヲ爲スコトヲ得

繼父母又ハ嫡母カ前項ノ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百四十四條　成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百四十五條　緣組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラント欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但妻カ夫ニ隨ヒテ他家ニ入ルハ此限ニ在ラス

第八百四十六條　第七百七十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前三條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七百七十三條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百四十七條　第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ緣組ニ之ヲ準用ス

第八百四十八條　養子ヲ爲サント欲スル者ハ遺言ヲ以テ其意思ヲ表示スルコトヲ得此場合ニ於テハ遺言執行者、養子ト爲ルヘキ者又ハ第八百四十三條ノ規定ニ依リ之ニ代ハリテ承諾ヲ爲シタル者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ遺言カ效力ヲ生シタル後遲滯ナク緣組ノ屆出ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ屆出ハ養親ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第八百四十九條　【戸籍吏】ハ緣組カ第七百四十一條第一項、第七百四十四條第一項、第七百五十條第一項及ヒ前十二條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其屆出ヲ受理スルコトヲ得ス

第七百七十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百五十條　外國ニ在ル日本人間ニ於テ緣組ヲ爲サント欲スルトキハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其屆出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第七百七十五條及ヒ前二條ノ規定ヲ準用ス

第二款　緣組ノ無效及ヒ取消

第八百五十一條　緣組ハ左ノ場合ニ限リ無效トス

一　人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ緣組ヲ爲ス意思ナキトキ

二　當事者カ緣組ノ屆出ヲ爲ササルトキ但其屆出カ第七百七十五條第二項及ヒ第八百四十八條第一項ニ揭ケタル條件ヲ缺クニ止マルトキハ緣組ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第八百五十二條　緣組ハ後七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第八百五十三條　第八百三十七條ノ規定ニ違反シタル緣組ハ養親又ハ其法定代理人ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但養親カ成年ニ達シタル後六个月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第八百五十四條　第八百三十八條又ハ第八百三十九條ノ規定ニ違反シタル緣組ハ各當事者、其戸主又ハ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第八百五十五條　第八百四十條ノ規定ニ違反シタル緣組ハ養子又ハ其實方ノ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但管理ノ計算カ終ハリタル後養子カ追認ヲ爲シ又ハ六个月ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス

追認ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル後之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ

養子カ成年ニ達セス又ハ能力ヲ回復セサル間ニ管理ノ計算カ終ハリタル場合ニ於テハ第一項但書ノ期間ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百五十六條　第八百四十一條ノ規定ニ違反シタル緣組ハ同意ヲ爲ササリシ配偶者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其配偶者カ緣組アリタルコトヲ知リタル後六个月ヲ經過シタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス

第八百五十七條　第八百四十四條乃至第八百四十六條ノ規定ニ違反シタル緣組ハ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意カ詐欺又ハ强迫ニ因リタルトキ亦同シ

第七百八十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百五十八條　壻養子緣組ノ場合ニ於テハ各當事者ハ婚姻ノ無效又ハ取消ヲ理由トシテ緣組ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但婚姻ノ無效又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ緣組ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス

前項ノ取消權ハ當事者カ婚姻ノ無效ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後六个月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス

第八百五十九條　第七百八十五條及ヒ第七百八十七條ノ規定ハ緣組ニ之ヲ準用ス但第七百八十五條第二項ノ期間ハ之ヲ六个月トス

第三款　緣組ノ效力

第八百六十條　養子ハ緣組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得ス

第八百六十一條　養子ハ緣組ニ因リテ養親ノ家ニ入ル

第四款　離緣

第八百六十二條　緣組ノ當事者ハ其協議ヲ以テ離緣ヲ爲スコトヲ得

養子カ十五年未滿ナルトキハ其離緣ハ養親ト養子ニ代ハリテ緣組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス

養親カ死亡シタル後養子カ離緣ヲ爲サント欲スルトキハ戸主ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得

第八百六十三條　滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離緣ヲ爲スニハ第八百四十四條ノ規定ニ依リ其緣組ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十二條第二項、第三項及ヒ第七百七十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百六十四條　第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ協議上ノ離緣ニ之ヲ準用ス

第八百六十五條　【戸籍吏】ハ離緣カ第七百七十五條第二項、第八百六十二條及ヒ第八百六十三條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其屆出ヲ受理スルコトヲ得ス

【戸籍吏】カ前項ノ規定ニ違反シテ屆出ヲ受理シタルトキト雖モ離緣ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第八百六十六條　緣組ノ當事者ノ一方ハ左ノ場合ニ限リ離緣ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

一　他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

二　他ノ一方ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ

三　養親ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

四　他ノ一方カ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

五　養子ニ家名ヲ瀆シ又ハ家產ヲ傾クヘキ重大ナル過失アリタルトキ

六　養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルトキ

七　養子ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

八　他ノ一方カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

九　壻養子緣組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ婚姻ノ取消アリタルトキ

第八百六十七條　養子カ滿十五年ニ達セサル間ハ其緣組ニ付キ承諾權ヲ有スル者ヨリ離緣ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八百四十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百六十八條　第八百六十六條第一號乃至第六號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタルトキハ離緣ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百六十九條　第八百六十六條第四號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ行爲ニ同意シタルトキハ離緣ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百六十六條第四號ニ揭ケタル刑ニ處セラレタル者ハ他ノ一方ニ同一ノ事由アルコトヲ理由トシテ離緣ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百七十條　第八百六十六條第一號乃至第五號及ヒ第八號ノ事由ニ因ル離緣ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離緣ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八百七十一條　第八百六十六條第六號ノ事由ニ因ル離緣ノ訴ハ養親カ養子ノ復歸シタルコトヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其復歸ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八百七十二條　第八百六十六條第七號ノ事由ニ因ル離緣ノ訴ハ養子ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百七十三條　第八百六十六條第九號ノ場合ニ於テ離婚又ハ婚姻取消ノ請求アリタルトキハ之ニ附帶シテ離緣ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八百六十六條第九號ノ事由ニ因ル離緣ノ訴ハ當事者カ離婚又ハ婚姻ノ取消アリタルコトヲ知リタル後六个月ヲ經過シ又ハ離緣請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百七十四條　養子カ戸主ト爲リタル後ハ離緣ヲ爲スコトヲ得ス但隱居ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス

第八百七十五條　養子ハ離緣ニ因リ其實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復ス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

第八百七十六條　夫婦カ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ妻カ離緣ニ因リテ養家ヲ去ルヘキトキハ夫ハ其選擇ニ從ヒ離緣又ハ離婚ヲ爲スコトヲ要ス

第五章　親權

第一節　總則

第八百七十七條　子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服ス但獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ此限ニ在ラス

父カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ

第八百七十八條　繼父、繼母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ次章ノ規定ヲ準用ス

第二節　親權ノ效力

第八百七十九條　親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲ス權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第八百八十條　未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母カ指定シタル場所ニ其居所ヲ定ムルコトヲ要ス但第七百四十九條ノ適用ヲ妨ケス

第八百八十一條　未成年ノ子カ兵役ヲ出願スルニハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第八百八十二條　親權ヲ行フ父又ハ母ハ必要ナル範圍內ニ於テ自ラ其子ヲ懲戒シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ懲戒場ニ入ルルコトヲ得

子ヲ懲戒場ニ入ルル期間ハ六个月以下ノ範圍內ニ於テ裁判所之ヲ定ム但此期間ハ父又ハ母ノ請求ニ因リ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得

第八百八十三條　未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルニ非サレハ職業ヲ營ムコトヲ得ス

父又ハ母ハ第六條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第八百八十四條　親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ財產ヲ管理シ又其財產ニ關スル法律行爲ニ付キ其子ヲ代表ス但其子ノ行爲ヲ目的トスル債務ヲ生スヘキ場合ニ於テハ本人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百八十五條　未成年ノ子カ其配偶者ノ財產ヲ管理スヘキ場合ニ於テハ親權ヲ行フ父又ハ母之ニ代ハリテ其財產ヲ管理ス

第八百八十六條　親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代ハリテ左ニ揭ケタル行爲ヲ爲シ又ハ子ノ之ヲ爲スコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一　營業ヲ爲スコト

二　借財又ハ保證ヲ爲スコト

三　不動產又ハ重要ナル動產ニ關スル權利ノ喪失ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト

四　不動產又ハ重要ナル動產ニ關スル和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト

五　相續ヲ拋棄スルコト

六　贈與又ハ遺贈ヲ拒絕スルコト

第八百八十七條　親權ヲ行フ母カ前條ノ規定ニ違反シテ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル行爲ハ子又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ハ第百二十一條乃至第百二十六條ノ適用ヲ妨ケス

第八百八十八條　親權ヲ行フ父又ハ母ト其未成年ノ子ト利益相反スル行爲ニ付テハ父又ハ母ハ其子ノ爲メニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス

父又ハ母カ數人ノ子ニ對シテ親權ヲ行フ場合ニ於テ其一人ト他ノ子トノ利益相反スル行爲ニ付テハ其一方ノ爲メ前項ノ規定ヲ準用ス

第八百八十九條　親權ヲ行フ父又ハ母ハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ以テ其管理權ヲ行フコトヲ要ス

母ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行爲ニ付テモ其責ヲ免ルルコトヲ得ス但母ニ過失ナカリシトキハ此限ニ在ラス

第八百九十條　子カ成年ニ達シタルトキハ親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ遲滯ナク其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但其子ノ養育及ヒ財產ノ管理ノ費用ハ其子ノ財產ノ收益ト之ヲ相殺シタルモノト看做ス

第八百九十一條　前條但書ノ規定ハ無償ニテ子ニ財產ヲ與フル第三者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ其財產ニ付テハ之ヲ適用セス

第八百九十二條　無償ニテ子ニ財產ヲ與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメサル意思ヲ表示シタルトキハ其財產ハ父又ハ母ノ管理ニ屬セサルモノトス

前項ノ場合ニ於テ第三者カ管理者ヲ指定セサリシトキハ裁判所ハ子、其親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理者ヲ選任ス

第三者カ管理者ヲ指定セシトキト雖モ其管理者ノ權限カ消滅シ又ハ之ヲ改任スル必要アル場合ニ於テ第三者カ更ニ管理者ヲ指定セサルトキ亦同シ

第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百九十三條　第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ父又ハ母カ子ノ財產ヲ管理スル場合及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百九十四條　親權ヲ行ヒタル父若クハ母又ハ親族會員ト其子トノ間ニ財產ノ管理ニ付テ生シタル債權ハ其管理權消滅ノ時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

子カ未タ成年ニ達セサル間ニ管理權カ消滅シタルトキハ前項ノ期間ハ其子カ成年ニ達シ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百九十五條　親權ヲ行フ父又ハ母ハ其未成年ノ子ニ代ハリテ戸主權及ヒ親權ヲ行フ

第三節　親權ノ喪失

第八百九十六條　父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

第八百九十七條　親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ其子ノ財產ヲ危クシタルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

父カ前項ノ宣告ヲ受ケタルトキハ管理權ハ家ニ在ル母之ヲ行フ

第八百九十八條　前二條ニ定メタル原因カ止ミタルトキハ裁判所ハ本人又ハ其親族ノ請

求ニ因リ失權ノ宣告ヲ取消スコトヲ得

第八百九十九條　親權ヲ行フ母ハ財產ノ管理ヲ辭スルコトヲ得

第六章　後見

第一節　後見ノ開始

第九百條　後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス

一　未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキ

二　禁治產ノ宣告アリタルトキ

第二節　後見ノ機關

第一款　後見人

第九百一條　未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得但管理權ヲ有セサル者ハ此限ニ在ラス

親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財產ノ管理ヲ辭シタルトキハ父ハ前項ノ規定ニ依リテ後見人ノ指定ヲ爲スコトヲ得

第九百二條　親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治產者ノ後見人ト爲ル

妻カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ夫其後見人ト爲ル夫カ後見人タラサルトキハ前項ノ規定ニ依ル

夫カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ妻其後見人ト爲ル妻カ後見人タラサルトキ又ハ夫カ未成年者ナルトキハ第一項ノ規定ニ依ル

第九百三條　前二條ノ規定ニ依リテ家族ノ後見人タル者アラサルトキハ戶主其後見人ト爲ル

第九百四條　前三條ノ規定ニ依リテ後見人タル者アラサルトキハ後見人ハ親族會之ヲ選任ス

第九百五條　母カ財產ノ管理ヲ辭シ、後見人カ其任務ヲ辭シ、親權ヲ行ヒタル父若クハ母カ家ヲ去リ又ハ戶主カ隱居ヲ爲シタルニ因リ後見人ヲ選任スル必要ヲ生シタルトキハ其父、母又ハ後見人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集シ又ハ其招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第九百六條　後見人ハ一人タルコトヲ要ス

第九百七條　後見人ハ婦女ヲ除ク外左ノ事由アルニ非サレハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス

一　軍人トシテ現役ニ服スルコト

二　被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從事スルコト

三　自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付キ本條又ハ次條ニ揭ケタル事由ノ存セシ場合ニ於テ其事由カ消滅シタルコト

四　禁治產者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト但配偶者、直系血族及ヒ戶主ハ此限ニ在ラス

五　此他正當ノ事由

第九百八條　左ニ揭ケタル者ハ後見人タルコトヲ得ス

一　未成年者

二　禁治產者及ヒ準禁治產者

三　剝奪公權者及ヒ停止公權者

四　裁判所ニ於テ免黜セラレタル法定代理人又ハ保佐人

五　破產者

六　被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者竝ニ直系血族

七　行方ノ知レサル者

八　裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡、不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリト認メタル者

第九百九條　前七條ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

保佐人又ハ其代表スル者ト準禁治產者トノ利益相反スル行爲ニ付テハ保佐人ハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス

第二款　後見監督人

第九百十條　後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得

第九百十一條　前條ノ規定ニ依リテ指定シタル後見監督人ナキトキハ法定後見人又ハ指定後見人ハ其事務ニ著手スル前親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得

親族會ニ於テ後見人ヲ選任シタルトキハ直チニ後見監督人ヲ選任スルコトヲ要ス

第九百十二條　後見人就職ノ後後見監督人ノ缺ケタルトキハ後見人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第九百十三條　後見人ノ更迭アリタルトキハ親族會ハ後見監督人ヲ改選スルコトヲ要ス但前後見監督人ヲ再選スルコトヲ妨ケス

新後見人カ親族會ニ於テ選任シタル者ニ非サルトキハ後見監督人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集シ前項ノ規定ニ依リテ改選ヲ爲サシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ後見人ノ行爲ニ付キ之ト連帶シテ其責ニ任ス

第九百十四條　後見人ノ配偶者、直系血族又ハ兄弟姉妹ハ後見監督人タルコトヲ得ス

第九百十五條　後見監督人ノ職務左ノ如シ

一　後見人ノ事務ヲ監督スルコト

二　後見人ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滯ナク其後任者ノ任務ニ就クコトヲ促シ若シ後任者ナキトキハ親族會ヲ招集シテ其選任ヲ爲サシムルコト

三　急迫ノ事情アル場合ニ於テ必要ナル處分ヲ爲スコト

四　後見人又ハ其代表スル者ト被後見人トノ利益相反スル行爲ニ付キ被後見人ヲ代表スルコト

第九百十六條　第六百四十四條、第九百七條及ヒ第九百八條ノ規定ハ後見監督人ニ之ヲ準用ス

第三節　後見ノ事務

第九百十七條　後見人ハ遲滯ナク被後見人ノ財產ノ調査ニ著手シ一个月內ニ其調査ヲ終ハリ且其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

財產ノ調査及ヒ其目錄ノ調製ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ

後見人カ前二項ノ規定ニ從ヒ財產ノ目錄ヲ調製セサルトキハ親族會ハ之ヲ免黜スルコトヲ得

第九百十八條　後見人ハ目錄ノ調製ヲ終ハルマテハ急迫ノ必要アル行爲ノミヲ爲ス權限ヲ有ス但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九百十九條　後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フトキハ財產ノ調査ニ著手スル前ニ之ヲ後見監督人ニ申出ツルコトヲ要ス

後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有スルコトヲ知リテ之ヲ申出テサルトキハ其債權ヲ失フ

後見人カ被後見人ニ對シ債務ヲ負フコトヲ知リテ之ヲ申出テサルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得

第九百二十條　前三條ノ規定ハ後見人就職ノ後被後見人カ包括財產ヲ取得シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九百二十一條　未成年者ノ後見人ハ第八百七十九條乃至第八百八十三條及ヒ第八百八十五條ニ定メタル事項ニ付キ親權ヲ行フ父又ハ母ト同一ノ權利義務ヲ有ス但親權ヲ行フ父又ハ母カ定メタル敎育ノ方法及ヒ居所ヲ變更シ、未成年者ヲ懲戒場ニ入レ、營業ヲ許可シ、其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第九百二十二條　禁治產者ノ後見人ハ禁治產者ノ資力ニ應シテ其療養看護ヲ力ムルコトヲ要ス

禁治產者ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ私宅ニ監置スルト否トハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定ム

第九百二十三條　後見人ハ被後見人ノ財產ヲ管理シ又其財產ニ關スル法律行爲ニ付キ被後見人ヲ代表ス

第八百八十四條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百二十四條　後見人ハ其就職ノ初ニ於テ親族會ノ同意ヲ得テ被後見人ノ生活、敎育又ハ療養看護及ヒ財產ノ管理ノ爲メ每年費スヘキ金額ヲ豫定スルコトヲ要ス

前項ノ豫定額ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但已ムコトヲ得サル場合ニ於テ豫定額ヲ超ユル金額ヲ支出スルコトヲ妨ケス

第九百二十五條　親族會ハ後見人及ヒ被後見人ノ資力其他ノ事情ニ依リ被後見人ノ財產中ヨリ相當ノ報酬ヲ後見人ニ與フルコトヲ得但後見人カ被後見人ノ配偶者、直系血族又ハ戶主ナルトキハ此限ニ在ラス

第九百二十六條　後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財產管理者ヲ使用スルコトヲ得但第百六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百二十七條　親族會ハ後見人就職ノ初ニ於テ後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金錢カ何程ノ額ニ達セハ之ヲ寄託スヘキカヲ定ムルコトヲ要ス

後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金錢カ親族會ノ定メタル額ニ達スルモ相當ノ期間內ニ之ヲ寄託セサルトキハ其法定利息ヲ拂フコトヲ要ス

金錢ヲ寄託スヘキ場所ハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定ム

第九百二十八條　指定後見人及ヒ選定後見人ハ每年少クトモ一回被後見人ノ財產ノ狀況ヲ親族會ニ報告スルコトヲ要ス

第九百二十九條　後見人カ被後見人ニ代ハリテ營業若クハ第十二條第一項ニ揭ケタル行爲ヲ爲シ又ハ未成年者ノ之ヲ爲スコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但元本ノ領收ニ付テハ此限ニ在ラス

第九百三十條　後見人カ被後見人ノ財產又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタルトキハ被後見人ハ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ハ第百二十一條乃至第百二十六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百三十一條　後見人ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ被後見人ノ財產ヲ賃借スルコトヲ得ス

第九百三十二條　後見人カ其任務ヲ曠クスルトキハ親族會ハ臨時管理人ヲ選任シ後見人ノ責任ヲ以テ被後見人ノ財產ヲ管理セシムルコトヲ得

第九百三十三條　親族會ハ後見人ヲシテ被後見人ノ財產ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第九百三十四條　被後見人カ戶主ナルトキハ後見人ハ之ニ代ハリテ其權利ヲ行フ但家族ヲ離籍シ、其復籍ヲ拒ミ又ハ家族カ分家ヲ爲シ若クハ廢絕家ヲ再興スルコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

後見人ハ未成年者ニ代ハリテ親權ヲ行フ但第九百十七條乃至第九百二十一條及ヒ前十條ノ規定ヲ準用ス

第九百三十五條　親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサル場合ニ於テハ後見人ハ財產ニ關スル權限ノミヲ有ス

第九百三十六條　第六百四十四條、第八百八十七條、第八百八十九條第二項及ヒ第八百九十二條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス

第四節　後見ノ終了

第九百三十七條　後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人又ハ其相續人ハ二个月內ニ其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第九百三十八條　後見ノ計算ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲ス

後見人ノ更迭アリタル場合ニ於テハ後見ノ計算ハ親族會ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第九百三十九條　未成年者カ成年ニ達シタル後後見ノ計算ノ終了前ニ其者ト後見人又ハ其相續人トノ間ニ爲シタル契約ハ其者ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得其者カ後見人又ハ其相續人ニ對シテ爲シタル單獨行爲亦同シ

第十九條及ヒ第百二十一條乃至第百二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百四十條　後見人カ被後見人ニ返還スヘキ金額及ヒ被後見人カ後見人ニ返還スヘキ金額ニハ後見ノ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス

後見人カ自己ノ爲メニ被後見人ノ金錢ヲ消費シタルトキハ其消費ノ時ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第九百四十一條　第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス

第九百四十二條　第八百九十四條ニ定メタル時效ハ後見人、後見監督人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ニ於テ後見ニ關シテ生シタル債權ニ之ヲ準用ス

前項ノ時效ハ第九百三十九條ノ規定ニ依リテ法律行爲ヲ取消シタル場合ニ於テハ其取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第九百四十三條　前條第一項ノ規定ハ保佐人又ハ親族會員ト準禁治產者トノ間ニ之ヲ準用ス

第七章　親族會

第九百四十四條　本法其他ノ法令ノ規定ニ依リ親族會ヲ開クヘキ場合ニ於テハ會議ヲ要スル事件ノ本人、戶主、親族、後見人、後見監督人、保佐人、檢事又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ招集ス

第九百四十五條　親族會員ハ三人以上トシ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ中ヨリ裁判所之ヲ選定ス

後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定スルコトヲ得

第九百四十六條　遠隔ノ地ニ居住スル者其他正當ノ事由アル者ハ親族會員タルコトヲ辭スルコトヲ得

後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會員タルコトヲ得ス

第九百八條ノ規定ハ親族會員ニ之ヲ準用ス

第九百四十七條　親族會ノ議事ハ會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

會員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第九百四十八條　本人、戶主、家ニ在ル父母、配偶者、本家竝ニ分家ノ戶主、後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會ニ於テ其意見ヲ述フルコトヲ得

親族會ノ招集ハ前項ニ揭ケタル者ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第九百四十九條　無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ其者ノ無能力ノ止ムマテ繼續ス此親族會ハ最初ノ招集ノ場合ヲ除ク外本人、其法定代理人、後見監督人、保佐人又ハ會員之ヲ招集ス

第九百五十條　親族會ニ缺員ヲ生シタルトキハ會員ハ補缺員ノ選定ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第九百五十一條　親族會ノ決議ニ對シテハ一个月內ニ會員又ハ第九百四十四條ニ揭ケタル者ヨリ其不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得

第九百五十二條　親族會カ決議ヲ爲スコト能ハサルトキハ會員ハ其決議ニ代ハルヘキ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百五十三條　第六百四十四條ノ規定ハ親族會員ニ之ヲ準用ス

第八章　扶養ノ義務

第九百五十四條　直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ

夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者トノ間亦同シ

第九百五十五條　扶養ノ義務ヲ負フ者數人アル場合ニ於テハ其義務ヲ履行スヘキ者ノ順序左ノ如シ

第一　配偶者

第二　直系卑屬

第三　直系尊屬

第四　戶主

第五　前條第二項ニ揭ケタル者

第六　兄弟姉妹

直系卑屬又ハ直系尊屬ノ間ニ於テハ其親等ノ最モ近キ者ヲ先ニス前條第二項ニ揭ケタル直系尊屬間亦同シ

第九百五十六條　同順位ノ扶養義務者數人アルトキハ各其資力ニ應シテ其義務ヲ分擔ス但家ニ在ル者ト家ニ在ラサル者トノ間ニ於テハ家ニ在ル者先ツ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

第九百五十七條　扶養ヲ受クル權利ヲ有スル者數人アル場合ニ於テ扶養義務者ノ資力カ

其全員ヲ扶養スルニ足ラサルトキハ扶養義務者ハ左ノ順序ニ從ヒ扶養ヲ爲スコトヲ要ス
第一　直系尊屬
第二　直系卑屬
第三　配偶者
第四　第九百五十四條第二項ニ揭ケタル者
第五　兄弟姉妹
第六　前五號ニ揭ケタル者ニ非サル家族
第九百五十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百五十八條　同順位ノ扶養權利者數人アルトキハ各其需要ニ應シテ扶養ヲ受クルコトヲ得
第九百五十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百五十九條　扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クヘキ者カ自己ノ資產又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ爲スコト能ハサルトキニノミ存在ス自己ノ資產ニ依リテ敎育ヲ受クルコト能ハサルトキ亦同シ
兄弟姉妹間ニ在リテハ扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クル必要カ之ヲ受クヘキ者ノ過失ニ因ラスシテ生シタルトキニノミ存在ス但扶養義務者カ戶主ナルトキハ此限ニ在ラス

第九百六十條　扶養ノ程度ハ扶養權利者ノ需要ト扶養義務者ノ身分及ヒ資力トニ依リテ之ヲ定ム

第九百六十一條　扶養義務者ハ其選擇ニ從ヒ扶養權利者ヲ引取リテ之ヲ養ヒ又ハ之ヲ引取ラスシテ生活ノ資料ヲ給付スルコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養權利者ノ請求ニ因リ扶養ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

第九百六十二條　扶養ノ程度又ハ方法カ判決ニ因リテ定マリタル場合ニ於テ其判決ノ根據ト爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決ノ變更又ハ取消ヲ請求スルコトヲ得

第九百六十三條　扶養ヲ受クル權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第五編　相續

第一章　家督相續

第一節　總則

第九百六十四條　家督相續ハ左ノ事由ニ因リテ開始ス
一　戶主ノ死亡、隱居又ハ國籍喪失
二　戶主カ婚姻又ハ養子緣組ノ取消ニ因リテ其家ヲ去リタルトキ
三　女戶主ノ入夫婚姻又ハ入夫ノ離婚

第九百六十五條　家督相續ハ被相續人ノ住所ニ於テ開始ス

第九百六十六條　家督相續回復ノ請求權ハ家督相續人又ハ其法定代理人カ相續權侵害ノ事實ヲ知リタル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第九百六十七條　相續財產ニ關スル費用ハ其財產中ヨリ之ヲ支辨ス但家督相續人ノ過失ニ因ルモノハ此限ニ在ラス
前項ニ揭ケタル費用ハ遺留分權利者カ贈與ノ減殺ニ因リテ得タル財產ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ要セス

第二節　家督相續人

第九百六十八條　胎兒ハ家督相續ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス
前項ノ規定ハ胎兒カ死體ニテ生マレタルトキハ之ヲ適用セス

第九百六十九條　左ニ揭ケタル者ハ家督相續人タルコトヲ得ス
一　故意ニ被相續人又ハ家督相續ニ付キ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ刑ニ處セラレタル者
二　被相續人ノ殺害セラレタルコトヲ知リテ之ヲ告發又ハ告訴セサリシ者但其者ニ是非ノ辨別ナキトキ又ハ殺害者カ自己ノ配偶者若クハ直系血族ナリシトキハ此限ニ在ラス
三　詐欺又ハ强迫ニ因リ被相續人カ相續ニ關スル遺言ヲ爲シ、之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ妨ケタル者
四　詐欺又ハ强迫ニ因リ被相續人ヲシテ相續ニ關スル遺言ヲ爲サシメ、之ヲ取消サシメ又ハ之ヲ變更セシメタル者
五　相續ニ關スル被相續人ノ遺言書ヲ僞造、變造、毀滅又ハ藏匿シタル者

第九百七十條　被相續人ノ家族タル直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ家督相續人ト爲ル
一　親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス
二　親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス
三　親等ノ同シキ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス
四　親等ノ同シキ嫡出子、庶子及ヒ私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及ヒ庶子ハ女ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス
五　前四號ニ揭ケタル事項ニ付キ相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス
第八百三十六條ノ規定ニ依リ又ハ養子緣組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得シタル者ハ家督相續ニ付テハ其嫡出子タル身分ヲ取得シタル時ニ生マレタルモノト看做ス

第九百七十一條　前條ノ規定ハ第七百三十六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百七十二條　第七百三十七條及ヒ第七百三十八條ノ規定ニ依リテ家族ト爲リタル直系卑屬ハ嫡出子又ハ庶子タル他ノ直系卑屬ナキ場合ニ限リ第九百七十條ニ定メタル順序ニ從ヒテ家督相續人ト爲ル

第九百七十三條　法定ノ推定家督相續人ハ其姉妹ノ爲メニスル養子緣組ニ因リテ其相續權ヲ害セラルルコトナシ

第九百七十四條　第九百七十條及ヒ第九百七十二條ノ規定ニ依リテ家督相續人タルヘキ者カ家督相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ第九百七十條及ヒ第九百七十二條ニ定メタル順序ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ家督相續人ト爲ル

第九百七十五條　法定ノ推定家督相續人ニ付キ左ノ事由アルトキハ被相續人ハ其推定家督相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
一　被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルコト
二　疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルヘキコト
三　家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコト
四　浪費者トシテ準禁治產ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキコト
此他正當ノ事由アルトキハ被相續人ハ親族會ノ同意ヲ得テ其廢除ヲ請求スルコトヲ得

第九百七十六條　被相續人カ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滯ナク裁判所ニ廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テ廢除ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第九百七十七條　推定家督相續人廢除ノ原因止ミタルトキハ被相續人又ハ推定家督相續人ハ廢除ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
第九百七十五條第一項第一號ノ場合ニ於テハ被相續人ハ何時ニテモ廢除ノ取消ヲ請求スルコトヲ得
前二項ノ規定ハ相續開始ノ後ハ之ヲ適用セス
前條ノ規定ハ廢除ノ取消ニ之ヲ準用ス

第九百七十八條　推定家督相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求アリタル後其裁判確定前ニ相續カ開始シタルトキハ裁判所ハ親族、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ戶主權ノ行使及ヒ遺產ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得廢除ノ遺言アリタルトキ亦同シ
裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第九百七十九條　法定ノ推定家督相續人ナキトキハ被相續人ハ家督相續人ヲ指定スルコトヲ得此指定ハ法定ノ推定家督相續人アルニ至リタルトキハ其效力ヲ失フ
家督相續人ノ指定ハ之ヲ取消スコトヲ得
前二項ノ規定ハ死亡又ハ隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニノミ之ヲ適用ス

第九百八十條　家督相續人ノ指定及ヒ其取消ハ之ヲ【戶籍吏】ニ屆出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス

第九百八十一條　被相續人カ遺言ヲ以テ家督相續人ノ指定又ハ其取消ヲ爲ス意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滯ナク之ヲ【戶籍吏】ニ屆出ツルコトヲ要ス此場合ニ於テ指定又ハ其取消ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第九百八十二條　法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テ其家ニ被相續人ノ父アルトキハ父、父アラサルトキ又ハ父カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ母、父母共ニアラサルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ親族會ハ左ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス
第一　配偶者但家女ナルトキ
第二　兄弟
第三　姉妹
第四　第一號ニ該當セサル配偶者
第五　兄弟姉妹ノ直系卑屬

第九百八十三條　家督相續人ヲ選定スヘキ者ハ正當ノ事由アル場合ニ限リ裁判所ノ許可ヲ得テ前條ニ揭ケタル順序ヲ變更シ又ハ選定ヲ爲ササルコトヲ得

第九百八十四條　第九百八十二條ノ規定ニ依リテ家督相續人タル者ナキトキハ家ニ在ル直系尊屬中親等ノ最モ近キ者家督相續人ト爲ル但親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス

第九百八十五條　前條ノ規定ニ依リテ家督相續人タル者ナキトキハ親族會ハ被相續人ノ親族、家族、分家ノ戶主又ハ本家若クハ分家ノ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス
前項ニ揭ケタル者ノ中ニ家督相續人タルヘキ者ナキトキハ親族會ハ他人ノ中ヨリ之ヲ選定ス
親族會ハ正當ノ事由アル場合ニ限リ前二項ノ規定ニ拘ハラス裁判所ノ許可ヲ得テ他人ヲ選定スルコトヲ得

第三節　家督相續ノ效力

第九百八十六條　家督相續人ハ相續開始ノ時ヨリ前戶主ノ有セシ權利義務ヲ承繼ス但前戶主ノ一身ニ專屬セルモノハ此限ニ在ラス

第九百八十七條　系譜、祭具及ヒ墳墓ノ所有權ハ家督相續ノ特權ニ屬ス

第九百八十八條　隱居者及ヒ入夫婚姻ヲ爲ス女戶主ハ確定日附アル證書ニ依リテ其財產ヲ留保スルコトヲ得但家督相續人ノ遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

第九百八十九條　隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ前戶主ノ債權者ハ其前戶主ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得
入夫婚姻ノ取消又ハ入夫ノ離婚ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ入夫カ戶主タリシ間ニ負擔シタル債務ノ辨濟ハ其入夫ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得
前二項ノ規定ハ家督相續人ニ對スル請求ヲ妨ケス

第九百九十條　國籍喪失者ノ家督相續人ハ戶主權及ヒ家督相續ノ特權ニ屬スル權利ノミヲ承繼ス但遺留分及ヒ前戶主カ特ニ指定シタル相續財產ヲ承繼スルコトヲ妨ケス
國籍喪失者カ國籍ノ喪失ニ因リテ其有スル權利ヲ享有スルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テ一年內ニ之ヲ讓渡ササルトキハ其權利ハ家督相續人ニ歸屬ス

第九百九十一條　國籍喪失ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ前戶主ノ債權者ハ家督相續人ニ對シテ其受ケタル財產ノ限度ニ於テノミ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二章　遺產相續

第一節　總則

第九百九十二條　遺產相續ハ家族ノ死亡ニ因リテ開始ス

第九百九十三條　第九百六十五條乃至第九百六十八條ノ規定ハ遺產相續ニ之ヲ準用ス

第二節　遺產相續人

第九百九十四條　被相續人ノ直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ遺產相續人ト爲ル
一　親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス
二　親等ノ同シキ者ハ同順位ニ於テ遺產相續人ト爲ル

第九百九十五條　前條ノ規定ニ依リテ遺產相續人タルヘキ者カ相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ前條ノ規定ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ遺產相續人ト爲ル

第九百九十六條　前二條ノ規定ニ依リテ遺產相續人タルヘキ者ナキ場合ニ於テ遺產相續人タルヘキ者ノ順位左ノ如シ
第一　配偶者
第二　直系尊屬
第三　戶主
前項第二號ノ場合ニ於テハ第九百九十四條ノ規定ヲ準用ス

第九百九十七條　左ニ揭ケタル者ハ遺產相續人タルコトヲ得ス
一　故意ニ被相續人又ハ遺產相續ニ付キ先順位若クハ同順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ刑ニ處セラレタル者
二　第九百六十九條第二號乃至第五號ニ揭ケタル者

第九百九十八條　遺留分ヲ有スル推定遺產相續人カ被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキハ被相續人ハ其推定遺產相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百九十九條　被相續人ハ何時ニテモ推定遺產相續人ノ廢除ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第千條　第九百七十六條及ヒ第九百七十八條ノ規定ハ推定遺產相續人ノ廢除及ヒ其取消ニ之ヲ準用ス

第三節　遺產相續ノ效力

第一款　總則

第千一條　遺產相續人ハ相續開始ノ時ヨリ被相續人ノ財產ニ屬セシ一切ノ權利義務ヲ承繼ス但被相續人ノ一身ニ專屬セシモノハ此限ニ在ラス

第千二條　遺產相續人數人アルトキハ相續財產ハ其共有ニ屬ス

第千三條　各共同相續人ハ其相續分ニ應シテ被相續人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二款　相續分

第千四條　同順位ノ相續人數人アルトキハ其各自ノ相續分ハ相均シキモノトス但直系卑屬數人アルトキハ庶子及ヒ私生子ノ相續分ハ嫡出子ノ相續分ノ二分ノ一トス

第千五條　第九百九十五條ノ規定ニ依リテ相續人タル直系卑屬ノ相續分ハ其直系尊屬カ受クヘカリシモノニ同シ但直系卑屬數人アルトキハ其各自ノ直系尊屬カ受クヘカリシ部分ニ付キ前條ノ規定ニ從ヒテ其相續分ヲ定ム

第千六條　被相續人ハ前二條ノ規定ニ拘ハラス遺言ヲ以テ共同相續人ノ相續分ヲ定メ又ハ之ヲ定ムルコトヲ第三者ニ委託スルコトヲ得但被相續人又ハ第三者ハ遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス
被相續人カ共同相續人中ノ一人若クハ數人ノ相續分ノミヲ定メ又ハ之ヲ定メシメタルトキハ他ノ共同相續人ノ相續分ハ前二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第千七條　共同相續人中被相續人ヨリ遺贈ヲ受ケ又ハ婚姻、養子緣組、分家、廢絕家再興ノ爲メ若クハ生計ノ資本トシテ贈與ヲ受ケタル者アルトキハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財產ノ價額ニ其贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヲ相續財產ト看做シ前三條ノ規定ニ依リテ算定シタル相續分ノ中ヨリ其遺贈又ハ贈與ノ價額ヲ控除シ其殘額ヲ以テ其者ノ相續分トス
遺贈又ハ贈與ノ價額カ相續分ノ價額ニ等シク又ハ之ニ超ユルトキハ受遺者又ハ受贈者ハ其相續分ヲ受クルコトヲ得ス
被相續人カ前二項ノ規定ニ異ナリタル意思

テ表示シタルトキハ其意思表示ハ遺留分ニ關スル規定ニ反セサル範圍內ニ於テ其效力ヲ有ス

第千八條　前條ニ揭ケタル贈與ノ價額ハ受贈者ノ行爲ニ因リ其目的タル財產カ滅失シ又ハ其價格ノ增減アリタルトキト雖モ相續開始ノ當時仍ホ原狀ニテ存スルモノト看做シテ之ヲ定ム

第千九條　共同相續人ノ一人カ分割前ニ其相續分ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ他ノ共同相續人ハ其價額及ヒ費用ヲ償還シテ其相續分ヲ讓受クルコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ一个月內ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス

第三款　遺產ノ分割

第千十條　被相續人ハ遺言ヲ以テ分割ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ定ムルコトヲ第三者ニ委託スルコトヲ得

第千十一條　被相續人ハ遺言ヲ以テ相續開始ノ時ヨリ五年ヲ超エサル期間內分割ヲ禁スルコトヲ得

第千十二條　遺產ノ分割ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第千十三條　各共同相續人ハ相續開始前ヨリ存スル事由ニ付キ他ノ共同相續人ニ對シ賣主ト同シク其相續分ニ應シテ擔保ノ責ニ任ス

第千十四條　各共同相續人ハ其相續分ニ應シ他ノ共同相續人カ分割ニ因リテ受ケタル債權ニ付キ分割ノ當時ニ於ケル債務者ノ資力ヲ擔保ス

辨濟期ニ在ラサル債權及ヒ停止條件附債權ニ付テハ各共同相續人ハ辨濟ヲ爲スヘキ時ニ於ケル債務者ノ資力ヲ擔保ス

第千十五條　擔保ノ責ニ任スル共同相續人中償還ヲ爲ス資力ナキ者アルトキハ其償還スルコト能ハサル部分ハ求償者及ヒ他ノ資力アル者各其相續分ニ應シテ之ヲ分擔ス但求償者ニ過失アルトキハ他ノ共同相續人ニ對シテ分擔ヲ請求スルコトヲ得ス

第千十六條　前三條ノ規定ハ被相續人カ遺言ヲ以テ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用セス

第三章　相續ノ承認及ヒ拋棄

第一節　總則

第千十七條　相續人ハ自己ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三个月內ニ單純若クハ限定ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

相續人ハ承認又ハ拋棄ヲ爲ス前ニ相續財產ノ調査ヲ爲スコトヲ得

第千十八條　相續人カ承認又ハ拋棄ヲ爲サスシテ死亡シタルトキハ前條第一項ノ期間ハ其者ノ相續人カ自己ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第千十九條　相續人カ無能力者ナルトキハ第千十七條第一項ノ期間ハ其法定代理人カ無能力者ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第千二十條　法定家督相續人ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス但第九百八十四條ニ揭ケタル者ハ此限ニ在ラス

第千二十一條　相續人ハ其固有財產ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財產ヲ管理スルコトヲ要ス但承認又ハ拋棄ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ何時ニテモ相續財產ノ保存ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第千二十二條　承認及ヒ拋棄ハ第千十七條第一項ノ期間內ト雖モ之ヲ取消スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ第一編及ヒ前編ノ規定ニ依リテ承認又ハ拋棄ノ取消ヲ爲スコトヲ妨ケス但其取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ六个月間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス承認又ハ拋棄ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第二節　承認

第一款　單純承認

第千二十三條　相續人カ單純承認ヲ爲シタルトキハ無限ニ被相續人ノ權利義務ヲ承繼ス

第千二十四條　左ニ揭ケタル場合ニ於テハ相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモノト看做ス

一　相續人カ相續財產ノ全部又ハ一部ヲ處分シタルトキ但保存行爲及ヒ第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エサル賃貸ヲ爲スハ此限ニ在ラス

二　相續人カ第千十七條第一項ノ期間內ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲ササリシトキ

三　相續人カ限定承認又ハ拋棄ヲ爲シタル後ト雖モ相續財產ノ全部若クハ一部ヲ隱匿シ、私ニ之ヲ消費シ又ハ惡意ヲ以テ之ヲ財產目錄中ニ記載セサリシトキ但其相續人カ拋棄ヲ爲シタルニ因リテ相續人ト爲リタル者カ承認ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス

第二款　限定承認

第千二十五條　相續人ハ相續ニ因リテ得タル財產ノ限度ニ於テノミ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ヲ辨濟スヘキコトヲ留保シテ承認ヲ爲スコトヲ得

第千二十六條　相續人カ限定承認ヲ爲サント欲スルトキハ第千十七條第一項ノ期間內ニ財產目錄ヲ調製シテ之ヲ裁判所ニ提出シ限定承認ヲ爲ス旨ヲ申述スルコトヲ要ス

第千二十七條　相續人カ限定承認ヲ爲シタルトキハ其被相續人ニ對シテ有セシ權利義務ハ消滅セサリシモノト看做ス

第千二十八條　限定承認者ハ其固有財產ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財產ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

第六百四十五條、第六百四十六條、第六百五十條第一項、第二項及ヒ第千二十一條第二項、第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千二十九條　限定承認者ハ限定承認ヲ爲シタル後五日內ニ一切ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ限定承認ヲ爲シタルコト及ヒ一定ノ期間內ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千三十條　限定承認者ハ前條第一項ノ期間滿了前ニハ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

第千三十一條　第千二十九條第一項ノ期間滿了ノ後ハ限定承認者ハ相續財產ヲ以テ其期間內ニ申出テタル債權者其他知レタル債權者ニ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス但優先權ヲ有スル債權者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第千三十二條　限定承認者ハ辨濟期ニ至ラサル債權ト雖モ前條ノ規定ニ依リテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

第千三十三條　限定承認者ハ前二條ノ規定ニ依リテ各債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後ニ非サレハ受遺者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第千三十四條　前三條ノ規定ニ從ヒテ辨濟ヲ爲スニ付キ相續財產ノ賣却ヲ必要トスルトキハ限定承認者ハ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ要ス但裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ相續財產ノ全部又ハ一部ノ價額ヲ辨濟シテ其競賣ヲ止ムルコトヲ得

第千三十五條　相續債權者及ヒ受遺者ハ自己ノ費用ヲ以テ相續財產ノ競賣又ハ鑑定ニ參加スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二百六十條第二項ノ規定ヲ準用ス

第千三十六條　限定承認者カ第千二十九條ニ定メタル公告若クハ催告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ同條第一項ノ期間內ニ或債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲シタルニ因リ他ノ債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス第千三十條乃至第千三十三條ノ規定ニ違反シテ辨濟ヲ爲シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ情ヲ知リテ不當ニ辨濟ヲ受ケタル債權者又ハ受遺者ニ對スル他ノ債權者又ハ受遺者ノ求償ヲ妨ケス

第七百二十四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第千三十七條　第千二十九條第一項ノ期間內ニ申出テサリシ債權者及ヒ受遺者ニシテ限定承認者ニ知レサリシ者ハ殘餘財產ニ付テノミ其權利ヲ行フコトヲ得但相續財產ニ付キ特別擔保ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第三節　拋棄

第千三十八條　相續ノ拋棄ヲ爲サント欲スル者ハ其旨ヲ裁判所ニ申述スルコトヲ要ス

第千三十九條　拋棄ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

數人ノ遺產相續人アル場合ニ於テ其一人カ拋棄ヲ爲シタルトキハ其相續分ハ他ノ相續人ノ相續分ニ應シテ之ニ歸屬ス

第千四十條　相續ノ拋棄ヲ爲シタル者ハ其拋棄ニ因リテ相續人ト爲リタル者カ相續財產ノ管理ヲ始ムルコトヲ得ルマテ自己ノ財產ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ其財產ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

第六百四十五條、第六百四十六條、第六百五十條第一項、第二項及ヒ第千二十一條第二項、第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四章　財產ノ分離

第千四十一條　相續債權者又ハ受遺者ハ相續開始ノ時ヨリ三个月內ニ相續人ノ財產中ヨリ相續財產ヲ分離センコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得其期間滿了ノ後ト雖モ相續財產カ相續人ノ固有財產ト混合セサル間亦同シ

裁判所カ前項ノ請求ニ因リテ財產ノ分離ヲ命シタルトキハ其請求ヲ爲シタル者ハ五日內ニ他ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ財產分離ノ命令アリタルコト及ヒ一定ノ期間內ニ配當加入ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第千四十二條　財產分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者ハ相續財產ニ付キ相續人ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受ク

第千四十三條　財產分離ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ相續財產ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第千四十四條　相續人ハ單純承認ヲ爲シタル後ト雖モ財產分離ノ請求アリタルトキハ爾後其固有財產ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財產ノ管理ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ニ於テ管理人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百四十五條乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十條第一項、第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十五條　財產ノ分離ハ不動產ニ付テハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第千四十六條　第三百四條ノ規定ハ財產分離ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十七條　相續人ハ第千四十一條第一項及ヒ第二項ノ期間滿了前ニハ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

財產分離ノ請求アリタルトキハ相續人ハ第千四十一條第二項ノ期間滿了ノ後相續財產ヲ以テ財產分離ノ請求又ハ配當加入ノ申出ヲ爲シタル債權者及ヒ受遺者ニ各其債權ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス但優先權ヲ有スル債權者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第千三十二條乃至第千三十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十八條　財產分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者ハ相續財產ヲ以テ全部ノ辨濟ヲ受クルコト能ハサリシ場合ニ限リ相續人ノ固有財產ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得此場合ニ於テハ相續人ノ債權者ハ其者ニ先チテ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第千四十九條　相續人ハ其固有財產ヲ以テ相續債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ之ニ相當ノ擔保ヲ供シテ財產分離ノ請求ヲ防止シ又ハ其效力ヲ消滅セシムルコトヲ得但相續人ノ債權者カ之ニ因リテ損害ヲ受クヘキコトヲ證明シテ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第千五十條　相續人カ限定承認ヲ爲スコトヲ得ル間又ハ相續財產カ相續人ノ固有財產ト混合セサル間ハ其債權者ハ財產分離ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三百四條、第千二十七條、第千二十九條乃至第千三十六條、第千四十三條乃至第千四十五條及ヒ第千四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但第千二十九條ニ定メタル公告及ヒ催告ハ財產分離ノ請求ヲ爲シタル債權者之ヲ爲スコトヲ要ス

第五章　相續人ノ曠缺

第千五十一條　相續人アルコト分明ナラサルトキハ相續財產ハ之ヲ法人トス

第千五十二條　前條ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續財產ノ管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

裁判所ハ遲滯ナク管理人ノ選任ヲ公告スルコトヲ要ス

第千五十三條　第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ相續財產ノ管理人ニ之ヲ準用ス

第千五十四條　管理人ハ相續債權者又ハ受遺者ノ請求アルトキハ之ニ相續財產ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第千五十五條　相續人アルコト分明ナルニ至リタルトキハ法人ハ存立セサリシモノト看做ス但管理人カ其權限內ニ於テ爲シタル行爲ノ效力ヲ妨ケス

第千五十六條　管理人ノ代理權ハ相續人カ相續ノ承認ヲ爲シタル時ニ於テ消滅ス

前項ノ場合ニ於テハ管理人ハ遲滯ナク相續人ニ對シテ管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス

第千五十七條　第千五十二條第二項ニ定メタル公告アリタル後二个月內ニ相續人アルコト分明ナルニ至ラサルトキハ管理人ハ遲滯ナク一切ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ一定ノ期間內ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條第二項、第三項及ヒ第千三十條乃至第千三十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但第千三十四條但書ノ規定ハ此限ニ在ラス

第千五十八條　前條第一項ノ期間滿了ノ後仍ホ相續人アルコト分明ナラサルトキハ裁判所ハ管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續人アラハ一定ノ期間內ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一年ヲ下ルコトヲ得ス

第千五十九條　前條ノ期間內ニ相續人タル權利ヲ主張スル者ナキトキハ相續財產ハ國庫ニ歸屬ス此場合ニ於テハ第千五十六條第二項ノ規定ヲ準用ス

相續債權者及ヒ受遺者ハ國庫ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ス

第六章　遺言

第一節　總則

第千六十條　遺言ハ本法ニ定メタル方式ニ從フニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第千六十一條　滿十五年ニ達シタル者ハ遺言ヲ爲スコトヲ得

第千六十二條　第四條、第九條、第十二條及ヒ第十四條ノ規定ハ遺言ニハ之ヲ適用セス

第千六十三條　遺言者ハ遺言ヲ爲ス時ニ於テ其能力ヲ有スルコトヲ要ス

第千六十四條　遺言者ハ包括又ハ特定ノ名義ヲ以テ其財產ノ全部又ハ一部ヲ處分スルコトヲ得但遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

第千六十五條　第九百六十八條及ヒ第九百六十九條ノ規定ハ受遺者ニ之ヲ準用ス

第千六十六條　被後見人カ後見ノ計算終了前ニ後見人又ハ其配偶者若クハ直系卑屬ノ利益ト爲ルヘキ遺言ヲ爲シタルトキハ其遺言ハ無效トス

前項ノ規定ハ直系血族、配偶者又ハ兄弟姉妹カ後見人タル場合ニハ之ヲ適用セス

第二節　遺言ノ方式

第一款　普通方式

第千六十七條　遺言ハ自筆證書、公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但特別方式ニ依ルコトヲ許ス場合ハ此限ニ在ラス

第千六十八條　自筆證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ遺言者其全文、日附及ヒ氏名ヲ自書シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

自筆證書中ノ挿入、削除其他ノ變更ハ遺言者其場所ヲ指示シ之ヲ變更シタル旨ヲ附記シテ特ニ之ニ署名シ且其變更ノ場所ニ捺印スルニ非サレハ其效ナシ

第千六十九條　公正證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

一　證人二人以上ノ立會アルコト

二　遺言者カ遺言ノ趣旨ヲ公證人ニ口授スルコト

三　公證人カ遺言者ノ口述ヲ筆記シ之ヲ遺言者及ヒ證人ニ讀聞カスコト

四　遺言者及ヒ證人カ筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後各自之ニ署名、捺印スルコト但遺言者カ署名スルコト能ハサル場合ニ於テハ公證人其事由ヲ附記シテ署名ニ代フルコトヲ得

五　公證人カ其證書ハ前四號ニ揭ケタル方式ニ從ヒテ作リタルモノナル旨ヲ附記シテ之ニ署名、捺印スルコト

第千七十條　秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

一　遺言者カ其證書ニ署名、捺印スルコト

二　遺言者カ其證書ヲ封シ證書ニ用ヰタル印章ヲ以テ之ニ封印スルコト

三　遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人以上ノ前ニ封書ヲ提出シテ自己ノ遺言書ナル旨及ヒ其筆者ノ氏名、住所ヲ申述スルコト

四　公證人カ其證書提出ノ日附及ヒ遺言者ノ申述ヲ封紙ニ記載シタル後遺言者及ヒ證人ト共ニ之ニ署名、捺印スルコト

第千六十八條第二項ノ規定ハ秘密證書ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第千七十一條　秘密證書ニ依ル遺言ハ前條ニ定メタル方式ニ缺クルモノアルモ第千六十八條ノ方式ヲ具備スルトキハ自筆證書ニ依ル遺言トシテ其效力ヲ有ス

第千七十二條　言語ヲ發スルコト能ハサル者カ秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ遺言者ハ公證人及ヒ證人ノ前ニ於テ其證書ハ自己ノ遺言書ナル旨竝ニ其筆者ノ氏名、住所ヲ封紙ニ自書シテ第千七十條第一項第三號ノ申述ニ代フルコトヲ要ス

公證人ハ遺言者カ前項ニ定メタル方式ヲ踐ミタル旨ヲ封紙ニ記載シテ申述ノ記載ニ代フルコトヲ要ス

第千七十三條　禁治產者カ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲スニハ醫師二人以上ノ立會アルコトヲ要ス

遺言ニ立會ヒタル醫師ハ遺言者カ遺言ヲ爲ス時ニ於テ心神喪失ノ狀況ニ在ラサリシ旨ヲ遺言書ニ附記シテ之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス但秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ其封紙ニ右ノ記載及ヒ署名、捺印ヲ爲スコトヲ要ス

第千七十四條　左ニ揭ケタル者ハ遺言ノ證人又ハ立會人タルコトヲ得ス

一　未成年者

二　禁治產者及ヒ準禁治產者

三　剝奪公權者及ヒ停止公權者

四　遺言者ノ配偶者

五　推定相續人、受遺者及ヒ其配偶者竝ニ直系血族

六　公證人ト家ヲ同シクスル者及ヒ公證人ノ直系血族竝ニ筆生、雇人

第千七十五條　遺言ハ二人以上同一ノ證書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二款　特別方式

第千七十六條　疾病其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル者カ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ證人三人以上ノ立會ヲ以テ其一人ニ遺言ノ趣旨ヲ口授シテ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其口授ヲ受ケタル者之ヲ筆記シテ遺言者及ヒ他ノ證人ニ讀聞カセ各證人其筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言ノ日ヨリ二十日內ニ證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ裁判所ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ

裁判所ハ遺言カ遺言者ノ眞意ニ出テタル心證ヲ得ルニ非サレハ之ヲ確認スルコトヲ得ス

第千七十七條　傳染病ノ爲メ行政處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル場所ニ在ル者ハ警察官一人及ヒ證人一人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第千七十八條　從軍中ノ軍人及ヒ軍屬ハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得若シ將校及ヒ相當官カ其場所ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

從軍中ノ軍人又ハ軍屬カ疾病又ハ傷痍ノ爲メ病院ニ在ルトキハ其院ノ醫師ヲ以テ前項ニ揭ケタル將校又ハ相當官ニ代フルコトヲ得

第千七十九條　從軍中疾病、傷痍其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル軍人及ヒ軍屬ハ證人二人以上ノ立會ヲ以テ口頭ニテ遺言ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル遺言ハ證人其趣旨ヲ筆記シテ之ニ署名、捺印シ且證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ遲滯ナク理事又ハ主理ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ

第千七十六條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千八十條　艦船中ニ在ル者ハ軍艦及ヒ海軍所屬ノ船舶ニ於テハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上其他ノ船舶ニ於テハ船長又ハ事務員一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ將校又ハ相當官カ其艦船中ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第千八十一條　第千七十九條ノ規定ハ艦船遭難ノ場合ニ之ヲ準用ス但海軍ノ所屬ニ非サル船舶中ニ在ル者カ遺言ヲ爲シタル場合ニ於テハ其確認ハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第千八十二條　第千七十七條、第千七十八條及ヒ第千八十條ノ場合ニ於テハ遺言者、筆者、立會人及ヒ證人ハ各自遺言書ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

第千八十三條　第千七十七條乃至第千八十一條ノ場合ニ於テ署名又ハ捺印スルコト能ハサル者アルトキハ立會人又ハ證人ハ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第千八十四條　第千六十八條第二項及ヒ第千七十三條乃至第千七十五條ノ規定ハ前八條ノ規定ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第千八十五條　前九條ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言者カ普通方式ニ依リテ遺言ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル時ヨリ六个月間生存スルトキハ其效ナシ

第千八十六條　日本ノ領事ノ駐在スル地ニ在ル日本人カ公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ公證人ノ職務ハ領事之ヲ行フ

第三節　遺言ノ效力

第千八十七條　遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

遺言ニ停止條件ヲ附シタル場合ニ於テ其條件カ遺言者ノ死亡後ニ成就シタルトキハ遺言ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

第千八十八條　受遺者ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得

遺贈ノ拋棄ハ遺言者ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第千八十九條　遺贈義務者其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間內ニ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スヘキ旨ヲ受遺者ニ催告スルコトヲ得若シ受遺者カ其期間內ニ遺贈義務者ニ對シテ其意思ヲ表示セサルトキハ遺贈ヲ承認シタルモノト看做ス

第千九十條　受遺者カ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲サスシテ死亡シタルトキハ其相續人ハ

自己ノ相續權ノ範圍內ニ於テ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第千九十一條　遺贈ノ承認及ヒ拋棄ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第千二十二條第二項ノ規定ハ遺贈ノ承認及ヒ拋棄ニ之ヲ準用ス

第千九十二條　包括受遺者ハ遺產相續人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第千九十三條　受遺者ハ遺贈カ辨濟期ニ至ラサル間ハ遺贈義務者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得停止條件附遺贈ニ付キ其條件ノ成否未定ノ間亦同シ

第千九十四條　受遺者ハ遺贈ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ル時ヨリ果實ヲ取得ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第千九十五條　遺贈義務者カ遺言者ノ死亡後遺贈ノ目的物ニ付キ費用ヲ出タシタルトキハ第二百九十九條ノ規定ヲ準用ス

果實ヲ收取スル爲メニ出タシタル通常ノ必要費ハ果實ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ其償還ヲ請求スルコトヲ得

第千九十六條　遺贈ハ遺言者ノ死亡前ニ受遺者カ死亡シタルトキハ其效力ヲ生セス

停止條件附遺贈ニ付テハ受遺者カ其條件ノ成就前ニ死亡シタルトキ亦同シ但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第千九十七條　遺贈カ其效力ヲ生セサルトキ又ハ拋棄ニ因リ其效力ナキニ至リタルトキハ受遺者カ受クヘカリシモノハ相續人ニ歸屬ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第千九十八條　遺贈ハ其目的タル權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ相續財產ニ屬セサルトキハ其效力ヲ生セス但其權利カ相續財產ニ屬セサルコトアルニ拘ハラス之ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト認ムヘキトキハ此限ニ在ラス

第千九十九條　相續財產ニ屬セサル權利ヲ目的トスル遺贈カ前條但書ノ規定ニ依リテ有效ナルトキハ遺贈義務者ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ受遺者ニ移轉スル義務ヲ負フ若シ之ヲ取得スルコト能ハサルカ又ハ之ヲ取得スルニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキハ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第千百條　不特定物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ受遺者カ追奪ヲ受ケタルトキハ遺贈義務者ハ之ニ對シテ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス

前項ノ場合ニ於テ物ニ瑕疵アリタルトキハ遺贈義務者ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス

第千百一條　遺言者カ遺贈ノ目的物ノ滅失若クハ變造又ハ其占有ノ喪失ニ因リ第三者ニ對シテ償金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其權利ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

遺贈ノ目的物カ他ノ物ト附合又ハ混和シタル場合ニ於テ遺言者カ第二百四十三條乃至第二百四十五條ノ規定ニ依リ合成物又ハ混和物ノ單獨所有者又ハ共有者ト爲リタルトキハ其全部ノ所有權又ハ共有權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

第千百二條　遺贈ノ目的タル物又ハ權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ受遺者ハ遺贈義務者ニ對シ其權利ヲ消滅セシムヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第千百三條　債權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ遺言者カ辨濟ヲ受ケ且其受取リタル物カ猶ホ相續財產中ニ存スルトキハ其物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

金錢ヲ目的トスル債權ニ付テハ相續財產中ニ其債權額ニ相當スル金錢ナキトキト雖モ其金額ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

第千百四條　負擔附遺贈ヲ受ケタル者ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ超エサル限度ニ於テノミ其負擔シタル義務ヲ履行スル責ニ任ス

受遺者カ遺贈ノ拋棄ヲ爲シタルトキハ負擔ノ利益ヲ受クヘキ者自ラ受遺者ト爲ルコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第千百五條　負擔附遺贈ノ目的ノ價額カ相續ノ限定承認又ハ遺留分回復ノ訴ニ因リテ減少シタルトキハ受遺者ハ其減少ノ割合ニ應シテ其負擔シタル義務ヲ免ル但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第四節　遺言ノ執行

第千百六條　遺言書ノ保管者ハ相續ノ開始ヲ知リタル後遲滯ナク之ヲ裁判所ニ提出シテ其檢認ヲ請求スルコトヲ要ス遺言書ノ保管者ナキ場合ニ於テ相續人カ遺言書ヲ發見シタル後亦同シ

前項ノ規定ハ公正證書ニ依ル遺言ニハ之ヲ適用セス

封印アル遺言書ハ裁判所ニ於テ相續人又ハ其代理人ノ立會ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ開封スルコトヲ得ス

第千百七條　前條ノ規定ニ依リテ遺言書ヲ提出スルコトヲ怠リ、其檢認ヲ經スシテ遺言ヲ執行シ又ハ裁判所外ニ於テ其開封ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第千百八條　遺言者ハ遺言ヲ以テ一人又ハ數人ノ遺言執行者ヲ指定シ又ハ其指定ヲ第三者ニ委託スルコトヲ得

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク其指定ヲ爲シテ之ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者カ其委託ヲ辭セントスルトキハ遲滯ナク其旨ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

第千百九條　遺言執行者カ就職ヲ承諾シタルトキハ直チニ其任務ヲ行フコトヲ要ス

第千百十條　相續人其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間內ニ就職ヲ承諾スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ遺言執行者ニ催告スルコトヲ得若シ遺言執行者カ其期間內ニ相續人ニ對シテ確答ヲ爲ササルトキハ就職ヲ承諾シタルモノト看做ス

第千百十一條　無能力者及ヒ破產者ハ遺言執行者タルコトヲ得ス

第千百十二條　遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ之ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ選任シタル遺言執行者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ就職ヲ拒ムコトヲ得ス

第千百十三條　遺言執行者ハ遲滯ナク相續財產ノ目錄ヲ調製シテ之ヲ相續人ニ交付スルコトヲ要ス

遺言執行者ハ相續人ノ請求アルトキハ其立會ヲ以テ財產目錄ヲ調製シ又ハ公證人ヲシテ之ヲ調製セシムルコトヲ要ス

第千百十四條　遺言執行者ハ相續財產ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權利義務ヲ有ス

第六百四十四條乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ遺言執行者ニ之ヲ準用ス

第千百十五條　遺言執行者アル場合ニ於テハ相續人ハ相續財產ヲ處分シ其他遺言ノ執行ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第千百十六條　前三條ノ規定ハ遺言カ特定財產ニ關スル場合ニ於テハ其財產ニ付テノミ之ヲ適用ス

第千百十七條　遺言執行者ハ之ヲ相續人ノ代理人ト看做ス

第千百十八條　遺言執行者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ第三者ヲシテ其任務ヲ行ハシムルコトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

遺言執行者カ前項但書ノ規定ニ依リ第三者ヲシテ其任務ヲ行ハシムル場合ニ於テハ相續人ニ對シ第百五條ニ定メタル責任ヲ負フ

第千百十九條　數人ノ遺言執行者アル場合ニ於テハ其任務ノ執行ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

各遺言執行者ハ前項ノ規定ニ拘ハラス保存

行爲ヲ爲スコトヲ得

第千百二十條　遺言執行者ハ遺言ニ報酬ヲ定メタルトキニ限リ之ヲ受クルコトヲ得

裁判所ニ於テ遺言執行者ヲ選任シタルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ其報酬ヲ定ムルコトヲ得

遺言執行者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ第六百四十八條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ準用ス

第千百二十一條　遺言執行者カ其任務ヲ怠リタルトキ其他正當ノ事由アルトキハ利害關係人ハ其解任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

遺言執行者ハ正當ノ事由アルトキハ就職ノ後ト雖モ其任務ヲ辭スルコトヲ得

第千百二十二條　第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ遺言執行者ノ任務カ終了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第千百二十三條　遺言ノ執行ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス但之ニ因リテ遺留分ヲ減スルコトヲ得ス

第五節　遺言ノ取消

第千百二十四條　遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒテ其遺言ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトヲ得

第千百二十五條　前ノ遺言ト後ノ遺言ト牴觸スルトキハ其牴觸スル部分ニ付テハ後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ遺言ト遺言後ノ生前處分其他ノ法律行爲ト牴觸スル場合ニ之ヲ準用ス

第千百二十六條　遺言者カ故意ニ遺言書ヲ毀滅シタルトキハ其毀滅シタル部分ニ付テハ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス遺言者カ故意ニ遺贈ノ目的物ヲ毀滅シタルトキ亦同シ

第千百二十七條　前三條ノ規定ニ依リテ取消サレタル遺言ハ其取消ノ行爲カ取消サレ又ハ效力ヲ生セサルニ至リタルトキト雖モ其效力ヲ回復セス但其行爲カ詐欺又ハ强迫ニ因ル場合ハ此限ニ在ラス

第千百二十八條　遺言者ハ其遺言ノ取消權ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第千百二十九條　負擔附遺贈ヲ受ケタル者カ其負擔シタル義務ヲ履行セサルトキハ相續人ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間內ニ履行ナキトキハ遺言ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第七章　遺留分

第千百三十條　法定家督相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受ク

此他ノ家督相續人ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

第千百三十一條　遺産相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受ク

遺産相續人タル配偶者又ハ直系尊屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

第千百三十二條　遺留分ハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價額ニ其贈與シタル財産ノ價額ヲ加ヘ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ之ヲ算定ス

條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ其價格ヲ定ム

家督相續ノ特權ニ屬スル權利ハ遺留分ノ算定ニ關シテハ其價額ヲ算入セス

第千百三十三條　贈與ハ相續開始前一年間ニ爲シタルモノニ限リ前條ノ規定ニ依リテ其價額ヲ算入ス一年前ニ爲シタルモノト雖モ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ之ヲ爲シタルトキ亦同シ

第千百三十四條　遺留分權利者及ヒ其承繼人ハ遺留分ヲ保全スルニ必要ナル限度ニ於テ遺贈及ヒ前條ニ揭ケタル贈與ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得

第千百三十五條　條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ヲ以テ贈與又ハ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其贈與又ハ遺贈ノ一部ヲ減殺スヘキトキハ遺留分權利者ハ第千百三十二條第二項ノ規定ニ依リテ定メタル價格ニ從ヒ直チニ其殘部ノ價額ヲ受贈者又ハ受遺者ニ給付スルコトヲ要ス

第千百三十六條　贈與ハ遺贈ヲ減殺シタル後ニ非サレハ之ヲ減殺スルコトヲ得ス

第千百三十七條　遺贈ハ其目的ノ價額ノ割合ニ應シテ之ヲ減殺ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第千百三十八條　贈與ノ減殺ハ後ノ贈與ヨリ始メ順次ニ前ノ贈與ニ及フ

第千百三十九條　受贈者ハ其返還スヘキ財産ノ外尚ホ減殺ノ請求アリタル日以後ノ果實ヲ返還スルコトヲ要ス

第千百四十條　減殺ヲ受クヘキ受贈者ノ無資力ニ因リテ生シタル損失ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第千百四十一條　負擔附贈與ハ其目的ノ價額中ヨリ負擔ノ價額ヲ控除シタルモノニ付キ其減殺ヲ請求スルコトヲ得

第千百四十二條　不相當ノ對價ヲ以テ爲シタル有償行爲ハ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ爲シタルモノニ限リ之ヲ贈與ト看做ス此場合ニ於テ遺留分權利者カ其減殺ヲ請求スルトキハ其對價ヲ償還スルコトヲ要ス

第千百四十三條　減殺ヲ受クヘキ受贈者カ贈與ノ目的ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ遺留分權利者ニ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但讓受人カ讓渡ノ當時遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リタルトキハ遺留分權利者ハ之ニ對シテモ減殺ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ受贈者カ贈與ノ目的ノ上ニ權利ヲ設定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第千百四十四條　受贈者及ヒ受遺者ハ減殺ヲ受クヘキ限度ニ於テ贈與又ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ遺留分權利者ニ辨償シテ返還ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第一項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千百四十五條　減殺ノ請求權ハ遺留分權利者カ相續ノ開始及ヒ減殺スヘキ贈與又ハ遺贈アリタルコトヲ知リタル時ヨリ一年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第千百四十六條　第九百九十五條、第千四條、第千五條、第千七條及ヒ第千八條ノ規定ハ遺留分ニ之ヲ準用ス

附　則（明治三十五年法律第三十七號）

本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ノ本家ニ在ル直系卑屬カ意思能力ヲ有セサルトキハ法定代理人之ニ代ハリ民法第七百三十七條第一項ノ規定ニ依リテ分家ノ家族ト爲ル手續ヲ爲スコトヲ得

本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ノ直系卑屬ニシテ民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ分家ノ家族ト爲リタル者ニ付テハ同法第九百七十二條ノ規定ヲ適用セス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

●民法施行法（明治三十一年六月二十一日法律第十一號）

（明治三十一年六月二十二日勅令第百二十三號ヲ以テ同年七月十六日ヨリ施行）

改正　明治三三年第七一號、三四年第三九號、三九年第一三號
大正一一年第七一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法施行法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

民法施行法

第一章　通則
第二章　總則編ニ關スル規定
第三章　物權編ニ關スル規定
第四章　債權編ニ關スル規定
第五章　親族編ニ關スル規定
第六章　相續編ニ關スル規定

民法施行法

第一章　通則

第一條　民法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外民法ノ規定ヲ適用セス

第二條　削除

第三條　削除

第四條　證書ハ確定日附アルニ非サレハ第三者ニ對シ其作成ノ日ニ付キ完全ナル證據力ヲ有セス

第五條　證書ハ左ノ場合ニ限リ確定日附アルモノトス

一　公正證書ナルトキハ其日附ヲ以テ確定日附トス

二　登記所又ハ公證人役場ニ於テ私署證書ニ日附アル印章ヲ押捺シタルトキハ其印章ノ日附ヲ以テ確定日附トス

三　私署證書ノ署名者中ニ死亡シタル者アルトキハ其死亡ノ日ヨリ確定日附アルモノトス

四　確定日附アル證書中ニ私署證書ヲ引用シタルトキハ其證書ノ日附ヲ以テ引用シタル私署證書ノ確定日附トス

五　官廳又ハ公署ニ於テ私署證書ニ或事項ヲ記入シ之ニ日附ヲ記載シタルトキハ其日附ヲ以テ其證書ノ確定日附トス

第六條　私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者アルトキハ登記官吏又ハ公證人ハ確定日附簿ニ署名者ノ氏名又ハ其一人ノ氏名ニ外何名ト附記シタルモノ及ヒ件名ヲ記載シ其證書ニ登簿番號ヲ記入シ帳簿及ヒ證書ニ日附アル印章ヲ押捺シ且其印章ヲ以テ帳簿ト證書トニ割印ヲ爲スコトヲ要ス

證書カ數紙ヨリ成レル場合ニ於テハ前項ニ揭ケタル印章ヲ以テ毎紙ノ綴目又ハ繼目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第七條　確定日附簿ニハ豫メ登簿番號ヲ印刷シ請求順ヲ以テ前條ノ規定ニ從ヒ記入ヲ爲スコトヲ要ス

確定日附簿ニハ地方裁判所長其紙數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ且職印ヲ以テ毎紙ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第八條　私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ納ムルコトヲ要ス

第九條　左ノ法令ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

一　明治五年第二百九十五號布告

二　明治六年第二十一號布告

三　同年第二十八號布告

四　同年第四十號布告

五　同年第百六十二號布告

六　同年第百七十七號布告

七　同年第二百十五號布告代人規則

八　同年第二百五十二號布告

九　同年第三百六號布告動産不動産書入金穀貸借規則

十　同年第三百六十二號布告出訴期限規則

十一　明治七年第二十七號布告

十二　明治八年第六號布告

十三　同年第六十三號布告

十四　同年第百二號布告金穀貸借請人證人辨償規則

十五　同年第百四十八號布告建物書入質規則及ヒ建物賣買讓渡規則

十六　明治九年第七十五號布告

十七　同年第九十九號布告

十八　明治十年第五十號布告

十九　明治十四年第七十三號布告

二十　明治十七年第二十號布告

二十一　明治二十三年法律第九十四號財産委棄法

二十二　同年勅令第二百十七號辨濟提供規則

明治六年第十八號布告地所質入書入規則ハ第十一條ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十條　削除

第十一條　本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二章　總則編ニ關スル規定

第十二條　民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ揭ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタル者ハ其施行ノ日ヨリ禁治産者又ハ準禁治産者ト看做ス

後見人ハ民法施行ノ日ヨリ一个月內ニ禁治産又ハ準禁治産ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條　後見人其他民法第七條ニ揭ケタル者カ民法施行ノ日ヨリ一个月內ニ禁治産又ハ準禁治産ノ請求ヲ爲ササリシトキハ其期間經過ノ後ハ前條第一項ノ規定ヲ適用セス

前項ノ期間內ニ禁治産又ハ準禁治産ノ請求アリタルモ裁判所ニ於テ之ヲ却下シタルトキハ抗告期間經過ノ後、若シ抗告アリタルトキハ最後ノ抗告棄却ノ時ヨリ又訴ニ於テ禁治産又ハ準禁治産ノ宣告ヲ取消シタルトキハ其判決確定ノ日ヨリ前條第一項ノ規定ヲ適用セス

第十四條　【刑法第十條第三號、第三十五條、第三十六條、刑法附則第四十一條、陸軍刑法第十八條第四號及ヒ海軍刑法第九條第四號、第二十二條ハ之ヲ削除ス】

【刑法第五十五條中「行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スル コトヲ得但」ノ二十三字及ヒ陸軍刑法第三十二條中「第三十五條第三十六條」ノ十字ハ之ヲ削除ス】

第十五條　民法施行ノ日ニ於テ刑事禁治産者タル者ハ其施行ノ日ヨリ能力ヲ回復ス

第十六條　民法施行前ヨリ刑事禁治産者ノ財産ヲ管理スル者ハ刑事禁治産者又ハ刑事禁治産者カ定メタル他ノ管理者カ其財産ヲ管理スルコトヲ得ルマテ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ管理者ハ民法第百三條ニ定メタル權限ヲ有ス但刑事禁治産者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第十七條　民法第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ民法施行前ニ住所又ハ居所ヲ去リタル者ニ付テモ亦之ヲ適用ス

民法施行前ヨリ不在者ノ財産ヲ管理スル者ハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ其管理ヲ繼續ス

第十八條　民法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ民法施行前ヨリ生死分明ナラサル者ニモ亦之ヲ適用ス

民法施行前既ニ民法第三十條ノ期間ヲ經過シタル者ニ付テハ直チニ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ失踪者ハ民法ノ施行ト同時ニ死亡シタルモノト看做ス

第十九條　民法施行前ヨリ獨立ノ財産ヲ有スル社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ揭ケタル目的ヲ有スルモノハ之ヲ法人トス

前項ノ法人ノ代表者ハ民法第三十七條又ハ第三十九條ニ揭ケタル事項其他社員又ハ寄附者カ定メタル事項ヲ記載シタル書面ヲ作リ民法施行ノ日ヨリ三个月內ニ之ヲ主務官廳ニ差出タシ其認可ヲ請フコトヲ要ス此場合ニ於テ主務官廳ハ其書面カ民法其他ノ法令ニ反スルトキ又ハ公益ノ爲メ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ認可ヲ得タル書面ハ定款又ハ寄附行爲ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十條　法人ノ代表者カ前條第二項ノ規定ニ從ヒ主務官廳ノ認可ヲ得タルトキハ二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　民法第四十六條第一項第一號乃至第三號及ヒ第五號乃至第八號ニ揭ケタル事項

二　主務官廳ノ認可ノ年月日

前項ノ期間ハ主務官廳ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記ハ民法第四十六條第一項ニ定メタル登記ト同一ノモノト看做ス

第二十一條　第十九條第一項ノ法人カ財産目錄又ハ社員名簿ヲ備ヘサルトキハ民法施行ノ後遲滯ナク之ヲ作ルコトヲ要ス

第二十二條　法人ノ代表者カ前三條ノ規定ニ反シ認可ヲ受ケ、登記ヲ爲シ又ハ財産目錄若クハ社員名簿ヲ作ルコトヲ怠リタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十三條　第十九條第一項ノ法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ認可ノ條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其解散ヲ命スルコトヲ得

第二十四條　民法ノ規定ニ依リ法人ニ關シテ登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十五條　主務官廳カ正當ノ理由ナクシテ

法人ノ設立許可ヲ取消シ又ハ其解散ヲ命シタルトキハ其法人ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條　法人ノ淸算人カ民法第七十九條及ヒ第八十一條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條　剝奪公權者及ヒ停止公權者ハ法人ノ理事、監事又ハ淸算人タルコトヲ得ス

第二十八條　民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ內神社、寺院、祠宇及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セス

第二十九條　民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル債權ハ時效ニ因リテ消滅シタルモノト看做ス

第三十條　民法施行前ニ出訴期限ヲ經過セサル債權ニ付テハ民法中時效ニ關スル規定ヲ適用ス

第三十一條　民法施行前ニ進行ヲ始メタル出訴期限カ民法ニ定メタル時效ノ期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但其殘期カ民法施行ノ日ヨリ起算シ民法ニ定メタル時效ノ期間ヨリ長キトキハ其日ヨリ起算シテ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十二條　前條但書ノ規定ハ舊法ニ出訴期限ナキ權利ニ之ヲ準用ス

第三十三條　前三條ノ場合ニ於テ民法中時效ノ中斷及ヒ停止ニ關スル規定ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第三十四條　第三十條乃至第三十二條ノ規定ハ時效期間ノ性質ヲ有セサル法定期間ニ之ヲ準用ス

第三章　物權編ニ關スル規定

第三十五條　慣習上物權ト認メタル權利ニシテ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ後ハ民法其他ノ法律ニ定ムルモノニ非サレハ物權タル效力ヲ有セス

第三十六條　民法ニ定メタル物權ハ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ有ス

第三十七條　民法又ハ不動產登記法ノ規定ニ依リ登記スヘキ權利ハ從來登記ナクシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシモノト雖モ民法施行ノ日ヨリ一年內ニ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十八條　民法施行前ヨリ占有又ハ準占有ヲ爲ス者ニハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十九條　民法施行前ヨリ動產ヲ占有スル者カ民法第百九十二條ノ條件ヲ具備スルトキハ民法ノ施行ト同時ニ其動產ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第四十條　【遺失物ハ明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則第二條ニ依リ榜示ヲ爲シタル後一年內ニ其所有者ノ知レサルトキハ拾得者其所有權ヲ取得ス但漂著物ニ付テハ明治八年第六十六號布告內國船難破及漂流物取扱規則ノ規定ニ從フ】

第四十一條　【埋藏物ニ付テハ特別法ノ施行ニ至ルマテ遺失物ト同一ノ手續ニ依リテ公告ヲ爲スコトヲ要ス】

第四十二條　民法施行前ヨリ民法第二百四十二條乃至第二百四十六條ノ規定ニ依レハ所有權ヲ取得スヘカリシ狀況ニ在ル者ハ民法ノ施行ト同時ニ民法ノ規定ニ從ヒテ所有權ヲ取得ス但第三者カ正當ニ取得シタル權利ヲ妨ケス

第四十三條　共有者カ民法施行前ニ於テ五年ヲ超ユル期間內共有物ノ分割ヲ爲ササル契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ民法施行ノ日ヨリ五年ヲ超エサル範圍內ニ於テ其效力ヲ有ス

第四十四條　民法施行前ニ設定シタル地上權ニシテ存續期間ノ定ナキモノニ付キ當事者カ民法第二百六十八條第二項ノ請求ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ設定ノ時ヨリ二十年以上民法施行ノ日ヨリ五十年以下ノ範圍內ニ於テ其存續期間ヲ定ム

地上權者カ民法施行前ヨリ有シタル建物又ハ竹木アルトキハ地上權ハ其建物ノ朽廢又ハ其竹木ノ伐採期ニ至ルマテ存續ス

地上權者カ前項ノ建物ニ修繕又ハ變更ヲ加ヘタルトキハ地上權ハ原建物ノ朽廢スヘカリシ時ニ於テ消滅ス

第四十五條　廢止

第四十六條　民法第二百七十五條及ヒ第二百七十六條ノ期間ハ民法施行前ヨリ同條ニ定メタル事實カ始マリタルトキト雖モ其始ヨリ之ヲ起算ス

第四十七條　民法施行前ニ設定シタル永小作權ハ其存續期間カ五十年ヨリ長キトキト雖モ其效力ヲ存ス但其期間カ民法施行ノ日ヨリ起算シテ五十年ヲ超ユルトキハ其日ヨリ起算シテ之ヲ五十年ニ短縮ス

民法施行前ニ期間ヲ定メスシテ設定シタル永小作權ノ存續期間ハ慣習ニ依リ五十年ヨリ短キ場合ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ五十年トス

民法施行前ニ永久存續スヘキモノトシテ設定シタル永小作權ハ民法施行ノ日ヨリ五十年ヲ經過シタル後一年內ニ所有者ニ於テ相當ノ償金ヲ拂ヒテ其消滅ヲ請求スルコトヲ得若シ所有者カ此權利ヲ拋棄シ又ハ一年內ニ此權利ヲ行使セサルトキハ爾後一年內ニ永小作人ニ於テ相當ノ代價ヲ拂ヒテ所有權ヲ買取ルコトヲ要ス

第四十八條　民法ノ規定ニ從ヘハ民法施行前ヨリ先取特權ヲ有スヘカリシ債權者ハ其施行ノ日ヨリ先取特權ヲ有ス

第四十九條　民法第三百七十條ノ規定ハ民法施行前ニ抵當權ノ目的タル不動產ニ附加シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第五十條　民法第三百七十四條ノ規定ハ民法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス但民法施行ノ日ヨリ一年內ニ特別ノ登記ヲ爲シタル利息其他ノ定期金ニ付テハ元本ト同一ノ順位ヲ以テ抵當權ヲ行フコトヲ得

第五十一條　民事訴訟法第六百四十九條第二項及ヒ第三項ヲ改メテ左ノ三項トス（改正文ハ民事訴訟法ニ載ス）

第四章　債權編ニ關スル規定

第五十二條　明治十年第六十六號布告利息制限法第三條ハ之ヲ削除ス

第五十三條　民法施行前ヨリ債務ヲ負擔スル者カ其施行ノ後ニ至リ債務ヲ履行セサルトキハ民法ノ規定ニ從ヒ不履行ノ責ニ任ス

前項ノ規定ハ債權者カ債務ノ履行ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受クルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第五十四條　民事訴訟法第七百三十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム（改正文ハ民事訴訟法ニ載ス）

第五十五條　民事訴訟法第七百三十四條ヲ左ノ如ク改ム（改正文ハ民事訴訟法ニ載ス）

第五十六條　金錢ヲ目的トスル債務ヲ負擔シタル者カ民法施行前ヨリ其履行ヲ怠リタルトキハ損害賠償ノ額ハ其施行ノ日以後ハ民法第四百四條ニ定メタル利率ニ依リテ之ヲ定ム但民法第四百十九條第一項但書ノ適用ヲ妨ケス

第五十七條　指圖證券、無記名證券及ヒ民法第四百七十一條ニ揭ケタル證券ハ公示催告ノ手續ニ依リテ之ヲ無效ト爲スコトヲ得

第五十八條　民法施行前ニ發生シタル債務ト雖モ相殺ニ因リテ之ヲ免ルルコトヲ得

雙方ノ債務カ民法施行前ヨリ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタルトキハ相殺ノ意思表示ハ民法施行ノ日ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第五十九條　民法第六百五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル不動產ノ賃貸借ニモ亦之ヲ適用ス

第六十條　第四十五條ノ規定ハ外國人又ハ外國法人ニ土地ヲ賃貸シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條　【刑法附則第五十四條乃至第六十條ハ之ヲ削除ス】

第五章　親族編ニ關スル規定

第六十二條　民法施行ノ際家族タル者ハ民法ノ規定ニ依レハ家族タルコトヲ得サル者ト雖モ之ヲ家族トス

家族ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ戶主權ニ服ス

第六十三條　民法ノ規定ニ依レハ父又ハ母ノ家ニ入ルヘキ者ト雖モ民法施行ノ際他家ニ

在ル者ニハ其規定ヲ適用セス

第六十四條　民法施行前ニ隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ强迫ニ因リ隱居ヲ爲シ又ハ相續ヲ承認シタルトキハ民法第七百五十九條ノ規定ニ依リテ之ヲ取消スコトヲ得但第三十二條及ヒ第三十四條ノ適用ヲ妨ケス

第六十五條　民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子緣組カ其當時ノ法律ニ依レハ無效ナルヘキトキト雖モ民法ノ規定ニ依リ有效ナルヘキトキハ民法施行ノ日ヨリ有效トス

第六十六條　民法第七百六十七條第一項ノ期間ハ前婚カ民法施行前ニ解消シ又ハ取消サレタルトキト雖モ其解消又ハ取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六十七條　民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ婚姻又ハ養子緣組ノ取消ノ原因タルヘキトキハ其婚姻又ハ養子緣組ハ之ヲ取消スコトヲ得但其事實カ旣ニ民法ニ定メタル期間ヲ經過シタルモノナルトキハ此限ニ在ラス

第六十八條　民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子緣組ト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ生ス

第六十九條　民法施行前ニ婚姻ヲ爲シタル者カ夫婦ノ財產ニ付キ別段ノ契約ヲ爲ササリシトキハ其財產關係ハ民法施行ノ日ヨリ法定財產制ニ依ル

民法施行前ニ夫婦カ其財產ニ付キ契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ婚姻屆出ノ後ニ爲シタルモノト雖モ其效力ヲ存ス但其契約カ法定財產制ニ異ナルトキハ民法施行ノ日ヨリ六个月內ニ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十條　民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ離婚又ハ離緣ノ原因タルヘキトキハ夫婦又ハ養子緣組ノ當事者ノ一方ハ離婚又ハ離緣ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第六十七條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十一條　嫡出ノ推定及ヒ否認ニ關スル民法ノ規定ハ民法施行前ニ懷胎シタル子ニモ亦之ヲ適用ス

第七十二條　子ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ父又ハ母ノ親權ニ服ス

第七十三條　裁判所ハ民法施行前ニ生シタル事實ニ據リテ親權又ハ管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

第七十四條　民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者ノ後見人タル者アルトキハ其後見人ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ其任務ヲ行フ

第七十五條　民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者カ後見人ヲ有セサルトキハ民法ニ定メタル者其後見人ト爲ル

第七十六條　民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ揭ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタル者アル場合ニ於テ後見人其他民法第七條ニ揭ケタル者ノ請求ニ因リ禁治產ノ宣告アリタルトキハ後見人ハ其宣告ノ時ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ後見人ノ任務ヲ行ヒ準禁治產ノ宣告アリタルトキハ保佐人ノ任務ヲ行フ

第七十七條　民法施行前ニ未成年又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ揭ケタル原因ニ非サル事由ノ爲メニ選任シタル後見人ノ任務ハ民法施行ノ日ヨリ終了ス

未成年者ノ後見人又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ揭ケタル原因ノ爲メニ選任シタル後見人カ民法第九百八條ニ該當スルトキ亦同シ

第七十八條　民法第九百三十七條及ヒ第九百四十條乃至第九百四十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

民法第九百三十八條ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十九條　第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ遲滯ナク親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得

第八十條　第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ遲滯ナク被後見人ノ財產ヲ調査シ其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス

民法第九百十七條第二項、第三項、第九百十八條及ヒ第九百十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十一條　民法第九百二十四條及ヒ第九百二十七條ノ規定ハ後見人カ第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ其任務ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條　民法第九百三十條ノ規定ハ後見人カ民法施行前ヨリ被後見人ノ財產又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十三條　後見人カ民法施行前ニ被後見人ノ財產ヲ賃借セルトキハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ招集シタル親族會ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス若シ親族會カ同意ヲ爲ササリシトキハ賃貸借ハ其效力ヲ失フ

第六章　相續編ニ關スル規定

第八十四條　民法施行前ニ民法第九百六十九條及ヒ第九百九十七條ニ揭ケタル行爲ヲ爲シタル者ト雖モ相續人タルコトヲ得ス

第八十五條　民法第九百七十四條及ヒ第九百九十五條ノ規定ハ相續人タルヘキ者カ民法施行前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十六條　相續人廢除ノ原因タル事實カ民法施行前ニ生シタルトキト雖モ廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十七條　相續人廢除ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ廢除シタル相續人ニモ亦之ヲ適用ス

第八十八條　家督相續人指定ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ指定シタル家督相續人ニモ亦之ヲ適用ス

第八十九條　民法第九百八十九條ノ規定ハ民法施行前ニ前戶主ノ債權者ト爲リタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第九十條　民法第千七條及ヒ第千八條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ適用ス

第九十一條　相續ノ承認、拋棄及ヒ財產ノ分離ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル相續ニハ之ヲ適用セス

第九十二條　相續人曠缺ノ場合ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル相續ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第九十三條　相續財產ノ管理人カ民法第千五十七條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ同法第千五十八條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十四條　遺言ノ成立及ヒ取消ニ付テハ其當時ノ法律ヲ適用シ其效力ニ付テハ遺言者ノ死亡ノ時ノ法律ヲ適用ス

第九十五條　民法第千百三十二條乃至第千百三十六條及ヒ第千百三十八條乃至第千百四十五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ適用ス

●年齡計算ニ關スル法律

明治三十五年十二月二日
法律第五十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル年齡計算ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

年齡ハ出生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民法第百四十三條ノ規定ハ年齡ノ計算ニ之ヲ準用ス

明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

●法人ノ設立及監督ニ關スル規程

明治四十三年七月十五日
外務省令第五號

法人ノ設立及監督ニ關スル規程左ノ通相定ム

法人ノ設立及監督ニ關スル規程

第一條　領事官ノ管轄區域内ニ主タル事務所ヲ有スル社團法人又ハ財團法人ヲ設立セムカ爲民法第三十四條ニ依リ之カ許可ヲ得ムトスル者ハ社團法人ニ付テハ定款、資產ノ總額及社員ノ員數又財團法人ニ付テハ寄附行爲及資產ノ總額ヲ具シ領事官ヲ經由シテ外務大臣ニ申請スヘシ

第二條　法人ハ設立ノ許可アリタル後遲滯ナク左ノ事項ヲ領事官ニ届出ツヘシ其ノ第二號ノ事項中ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ
一　定款又ハ寄附行爲
二　理事及監事ノ氏名及住所
三　財產目錄及社團法人ニ付テハ社員ノ員數

第三條　法人ハ毎事業年度ノ初月中ニ左ノ事項ヲ領事官ニ届出ツヘシ
一　法人ノ目的タル事業ノ前年度中ニ於ケル成績
二　前年度中處理シタル事務ノ要領
三　前年度ノ收入及支出
四　前年度末ノ調査ニ依ル財產目錄
五　社團法人ニ付テハ前年度中入社又ハ退社セル社員ノ員數

事業年度ハ特ニ之ヲ定メサルトキハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ルモノト看做ス

第四條　法人ヨリ外務大臣ニ申請又ハ届出ヲ爲スニ付テハ其ノ主タル事務所ヲ管轄スル領事官ヲ經由スヘシ

第五條　領事官ハ何時ニテモ職權ヲ以テ法人ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

附　則

本令ハ領事官カ領事裁判權ヲ行使スルコトヲ得ル地方ニ限リ之ヲ施行ス

明治三十二年四月二十八日
内務省令第十號

第一條　社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ之ヲ法人ト爲スニ付内務大臣ノ許可ヲ要スルモノハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シ其ノ申請書二通ヲ差出スヘシ

其ノ許可ヲ得テ設立シタル法人及民法施行法第十九條ノ法人ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ要スル場合亦同シ

第二條　前條ノ法人ヨリ内務大臣ニ差出スヘキ願届書ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

大正十二年十二月十二日
陸軍省令第三十四號
改正　昭和四年第一號

陸軍大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　民法第三十四條ノ規定ニ依リ陸軍大臣ノ許可ヲ得テ法人ヲ設立セムトスル者ハ社團ニ在リテハ定款、資產ノ種類及總額竝社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲竝資產ノ種類及總額ヲ具シ陸軍大臣ニ其ノ申請書三通ヲ差出スヘシ

第二條　法人ハ毎年三月末日ノ調査ニ依リ翌月中ニ財產目錄ヲ添附シ左ニ掲クル事項ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ特ニ事業年度ヲ設クルモノニ在リテハ年度末ノ調査ニ依リ其ノ年度ノ終ヨリ三十日以内ニ報告スヘシ
一　法人ノ目的タル事業ノ狀況
二　前年中處理シタル事務ノ要件
三　前年ニ於ケル費目別收支計算表
四　前各號ノ外社團法人ニ在リテハ前年中入社又ハ退社シタル社員及現在ノ社員ノ員數

第三條　法人ノ設立者又ハ法人ヨリ陸軍大臣ニ差出スヘキ書類ハ在鄕軍人會ノ後援ニ關スルモノニ在リテハ主タル事務所所在地ヲ管轄スル聯隊區司令官及地方長官ヲ、其ノ他ノモノニ在リテハ地方長官ヲ經由スヘシ

聯隊區司令官及地方長官前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ調査ノ上意見ヲ附シテ進達スヘシ

第四條　聯隊區司令官又ハ地方長官ハ法人ニ於テ民法第七十一條ニ該當スル行爲アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ具シ陸軍大臣ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年九月二十六日
海軍省令第二十三號

法人ノ設立及監督ニ關スル規程左ノ通定ム

第一條　民法第三十四條ノ規定ニ依リ海軍大臣ノ許可ヲ得テ法人ヲ設立セムトスルトキハ其ノ設立者ハ社團ニ在リテハ定款資產ノ總額及社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲及資產ノ總額ヲ具シ海軍大臣ニ申請スヘシ

第二條　法人ノ設立者又ハ法人ヨリ海軍大臣ニ差出スヘキ書類ハ總テ主タル事務所ノ最寄鎭守府又ハ要港部ノ司令長官若ハ司令官ヲ經由スヘシ但シ主タル事務所東京市ニ在ル法人又ハ特ニ指示シタル法人ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

鎭守府司令長官又ハ要港部司令官前項ノ書類ヲ受理シタルトキハ詳査ノ上意見ヲ附シ進達スヘシ

第三條　法人其ノ設立ノ許可ヲ得タルトキハ左ニ掲クル事項ヲ遲滯ナク前條ノ鎭守府司令長官又ハ要港部司令官ニ報告スヘシ其ノ第一號及第二號ノ事項中ニ變更ヲ生シタル場合亦同シ
一　定款又ハ寄附行爲
二　理事及監事ノ氏名住所
三　財產目錄及社團法人ニ在リテハ社員ノ員數

第四條　法人ハ毎年三月末日ノ調査ニ依リ翌月中ニ財產目錄ヲ添附シ左ニ掲クル事項ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ但シ特ニ事業年度ヲ設クルモノハ年度末ノ調査ニ依リ其ノ年度ノ終ヨリ三十日以内ニ之ヲ報告スヘシ
一　法人ノ目的タル事業ノ狀況
二　前年中ノ處務ノ要件
三　前年中ノ收入支出金額及其ノ費目

社團法人ハ前項ニ掲ケタル事項ノ外社員ノ員數ヲ報告スヘシ

第五條　鎭守府司令長官又ハ要港部司令官ハ法人ニ於テ民法第七十一條ノ規定ニ該當スル行爲アリト認メタルトキハ事由ヲ詳具シ海軍大臣ニ報告スヘシ

第六條　法人ノ會計ノ監督ハ別ニ定ムル所ニ依ル

大正十四年四月十四日
海軍省令第七號

左記法人ノ設立及監督ニ關シテハ大正十一年海軍省令第二十三號第二條乃至第四條ノ規定ヲ適用セス

一、帝國在鄕軍人會後援ヲ目的トスル法人

明治三十三年八月十日
司法省令第三十二號

第一條　社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ之ヲ法人ト爲スニ付司法大臣ノ許可ヲ要スルモノハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シ其ノ申請書二通ヲ差出スヘシ

其許可ヲ得テ設立シタル法人及民法施行法第十九條ノ法人ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ要スル場合亦同シ

第二條　前條ノ法人ヨリ司法大臣ニ差出スヘキ願届書ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

明治三十二年八月十六日
文部省令第三十九號
改正　明治三七年第二三號

文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條　民法第三十四條ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ社團又ハ財團ヲ法人ト爲サムトスルトキハ其ノ設立者ニ於テ社團ニ在リテハ定款、資產ノ總額及社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲及資產ノ總額ヲ具シ申請書ヲ文部大臣ニ差出スヘシ

第二條　法人ノ設立者及法人ヨリ文部大臣ニ差出スヘキ書類ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ詳査ノ上意見ヲ附シテ進達スヘシ

第三條　法人ハ其ノ設立ノ許可若ハ民法施行法第十九條ノ認可ヲ得タルトキハ左ニ掲クル事項ヲ遲滯ナク地方長官ニ報告スヘシ其ノ第一號及第二號ノ事項中ニ變更ヲ生シタル場合亦同シ
一　定款又ハ寄附行爲
二　理事及監事ノ氏名、住所
三　財產目錄及社團法人ニ在リテハ社員ノ員數

第四條　敎育會ヲ除ク外法人ハ毎年三月末ノ調査ニ依リ翌月中ニ財產目錄ヲ添付シ左ニ掲クル事項ヲ文部大臣ニ報告スヘシ但特ニ事業年度ヲ設クルモノハ年度末ノ調査ニ依リ其ノ年度ノ終ヨリ三十日以内ニ之ヲ報告スヘシ
一　法人ノ目的タル事業ノ狀況
二　前年中ノ處務ノ要件
三　前年ノ經費、收入支出金額及其ノ費目

社團法人ハ前項ニ掲ケタル事項ノ外社員ノ員數ヲ報告スヘシ

法人タル學校ニ於テハ第一項第一號及第二號ノ事項ハ之ヲ報告スルヲ要セス

第五條、第六條　削除

第七條　地方長官ハ法人ニ於テ民法第七十一條又ハ民法施行法第二十三條ニ該當スル行爲アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ詳具シテ文部大臣ニ報告スヘシ

附　則

第八條　本令施行前設立ノ許可若ハ民法施行法第十九條ノ認可ヲ得タル法人ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條ノ事項ヲ地方長官ニ報告スヘシ

明治三十二年一月四日
農商務省令第一號

第一條　【農商務省】ノ主管ニ屬スル社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ノ規定ニ依リ法人トシテ設立スルノ許可ヲ得ントスルモノハ其主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シテ【農商務大臣】ニ申請スヘシ

第二條　前條ノ手續ヲ經テ設立シタル法人ヨリ【農商務大臣】ニ願出又ハ届出ヲナストキハ總テ其主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

明治三十九年十二月十日
閣令第十號
改正　明治四〇年第二號

競馬開催ヲ目的トスル法人ノ設立及監督ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　競馬ノ開催ヲ目的トスル社團又ハ財團ヲ民法第三十四條ニ依リ法人ト爲サムトスル者ハ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ定メタル事項ノ外資產ノ總額調書及設計書ヲ差出スヘシ

第二條　前條設計書ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ
一　競馬開催ニ必要ナル建物及一哩以上ノ馬場ヲ設備スルコト
二　毎年二回以上定期ニ競馬ヲ行フコト
三　競走馬匹ノ年齡ハ明ケ四歲以上タルコト
四　毎年新馬ヲ競走馬匹中ニ加フルコト

前項第一號ノ事項ニ付テハ其ノ設備方法及圖面ヲ添附スヘシ

第二條ノ二　競馬開催ヲ目的トスル法人カ設立ノ許可ヲ得タル日ヨリ滿一箇年内ニ設備ヲ完成セサルトキハ主務官廳ハ設立ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第三條　競馬開催ヲ目的トスル法人ヲ設立セムトスル地方ニ於テ既ニ法人タル競馬會アルトキハ後ノ設立者ハ競馬開催ノ時期ヲ異ニスヘシ

第四條　競馬會ハ毎年度剩餘金ノ幾分ヲ以テ產馬奬勵ノ目的ニ之ヲ使用スヘシ

第五條　【馬政長官】ハ競馬開催ヲ目的トスル法人ノ業務ヲ監督シ必要ト認ムルトキハ競馬會ヨリ報告ヲ徵シ又ハ其ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第六條　競馬開催ヲ目的トスル法人カ【馬政長官】ノ命令ヲ遵守セサルトキハ主務官廳ハ設立ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

大正二年九月二十二日
遞信省令第九十號

明治四十三年遞信省令第五十六號遞信大臣ノ主管ニ屬スル公益法人ノ設立及監督ニ關スル規則左ノ通改正ス

第一條　民法第三十四條ニ依リ遞信大臣ノ許可ヲ得テ法人ヲ設立セムトスル者ハ社團ニ在リテハ定款、資產ノ種類及總額竝社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲竝資產ノ種類及總額ヲ具シ遞信大臣ニ申請スヘシ

第二條　法人ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間内ニ左ニ掲クル事項ヲ遞信大臣ニ届出ツヘシ第一號ノ事項ニ付變更ヲ生シタル場合亦同シ
一　理事及監事ノ氏名、住所
二　財產目錄

第三條　法人ハ前年末ノ現在ニ依リ毎年初ノ一月内ニ左ニ掲クル事項ヲ遞信大臣ニ届出ツヘシ但シ特ニ事業年度ヲ設クルモノニ在リテハ毎年度末ノ現在ニ依リ翌年度ノ初ノ一月内ニ之ヲ届出ツヘシ
一　法人ノ目的タル事業ノ狀況
二　財產目錄及收支計算表

社團法人ニ在リテハ前項ニ掲クル事項ノ外社員ノ員數ヲ届出ツヘシ

前二項ノ規定ニ依ル届出ハ遞信大臣ヨリ補助金ノ支給ヲ受クル法人ニシテ命令書ノ規定ニ依リ之ト同一ノ事項ヲ届出ツル場合ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條　法人ノ設立者又ハ法人ヨリ遞信大臣ニ差出ス願書又ハ届書ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ノ遞信局長ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ大正二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年三月十四日
閣令第二號
改正　大正九年鐵道省令第四號

鐵道省ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　鐵道省ノ主管ニ屬スル法人ノ設立ニ付民法第三十四條ノ規定ニ依リ許可ヲ得ムトスルトキハ社團ニ在リテハ定款及社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲ヲ以テ定ムル事項ヲ具シ申請書ヲ鐵道大臣ニ差出スヘシ

第二條　民法第四十五條、第四十六條又ハ第四十八條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ一週間内ニ登記謄本ヲ添附シ届書ヲ鐵道大臣ニ差出スヘシ

第三條　定款變更ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ變更ヲ要スル理由ヲ具シ總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附シ申請書ヲ鐵道大臣ニ差出スヘシ

第四條　法人ハ事業年度終了後三十日内ニ該年度末ノ財產目錄ヲ添附シテ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル報告書ヲ鐵道大臣ニ差出スヘシ
一　該年度ノ事業ノ狀況
二　該年度ノ收入支出金額及其ノ科目
三　社團法人ニ在リテハ該年度末ニ於ケル社員ノ員數

第五條　法人ノ設立者又ハ法人ヨリ鐵道大臣ニ差出スヘキ書類ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

明治四十五年三月三十日
朝鮮總督府令第七十一號

法人ノ設立及監督ニ關スル件左ノ通定ム

法人ノ設立及監督ニ關スル規程

第一條　民法第三十四條ニ依リ朝鮮總督ノ許可ヲ得テ社團又ハ財團ヲ法人ト爲サムトスルトキハ其ノ設立者ニ於テ社團ニ在リテハ定款、資產ノ總額及社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲及資產ノ總額ヲ具シ朝鮮總督ニ申請スヘシ

第二條　法人ハ其ノ設立ノ許可アリタルトキハ遲滯ナク左ニ掲クル事項ヲ主タル事務所所在地ノ道【長官】ニ報告スヘシ其ノ第一號及第二號ノ事項中ニ變更ヲ生シタル場合亦同シ
一　定款又ハ寄附行爲
二　理事及監事ノ氏名、住所
三　財產目錄及社團法人ニ在リテハ社員ノ員數

第三條　法人ハ毎年三月末ノ調査ニ依リ翌月中ニ財產目錄ヲ添附シ左ニ掲クル事項ヲ朝鮮總督ニ報知スヘシ但シ特ニ事業年度ヲ設クルモノハ年度末ノ調査ニ依リ其ノ年度ノ終ヨリ三十日以内ニ之ヲ報告スヘシ
一　法人ノ目的タル事業ノ狀況
二　前年中ノ處務ノ要目
三　前年中ノ經費、收入支出金額及其ノ費目

社團法人ハ前項ニ掲ケタル事項ノ外社員ノ員數ヲ報告スヘシ

第四條　道【長官】ハ法人ノ業務ヲ監督スヘシ

第五條　道【長官】ハ法人ノ監督上必要ナル報告ヲ徵シ又ハ實地ニ就キ其ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

前項ニ依リ徵シタル報告又ハ實地ニ就キ爲シタル檢査ノ成績ハ遲滯ナク之ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第六條　道【長官】ハ法人ニ於テ民法第七十一條ニ該當スル行爲アリト認ムルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ之ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前設立ノ許可ヲ得タル法人ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以內ニ第二條ニ揭クル事項ヲ道長官ニ報告スヘシ

法人ノ設立及監督ニ關スル件左ノ通相定ム

大正十五年十一月二十七日
臺灣總督府令第八十號

法人ノ設立及監督ニ關スル件

第一條　民法第三十四條ノ規定ニ依リ社團又ハ財團ヲ法人ト爲サムトスルトキハ社團ニ在リテハ定款及社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲ヲ具シ許可申請書ヲ臺灣總督ニ提出スヘシ

第二條　法人カ定款又ハ寄附行爲ヲ變更セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書及認可申請前一定ノ手續ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ手續ヲ了シタルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附シテ臺灣總督ニ提出スヘシ

第三條　法人カ民法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ登記後一週間內ニ知事又ハ廳長ニ報告スヘシ

第四條　法人ハ毎年四月三十日マテニ左ノ事項ヲ知事又ハ廳長ニ報告スヘシ但シ特ニ事業年度ヲ設クルモノハ年度經過後一月內ニ報告スヘシ

一　前年度中執行シタル業務ノ狀況
二　前年度中ノ庶務ノ要領
三　前年度收支決算ノ要領
四　前年度末ノ財產目錄
五　社團法人ニ在リテハ前各號ノ外前年度中社員異動ノ狀況

第五條　知事又ハ廳長ハ監督上必要ナル報告ヲ徵シ又ハ其ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十六年府令第十四號ハ之ヲ廢止ス

明治四十一年九月二十八日
關東都督府令第五十五號

法人ノ設立及監督ニ關スル規程左ノ通相定ム

第一條　社團又ハ財團ヲ民法第三十四條ニ依リ許可ヲ得テ法人ト爲サムトスルトキハ其ノ設立者ニ於テ社團ニ在リテハ定款、資產ノ總額及社員ノ員數、財團ニ在リテハ寄附行爲及資產ノ總額ヲ具シタル申請書ヲ關東【都督】ニ差出スヘシ社團法人ニシテ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二條　法人ノ設立者及法人ヨリ關東【都督】ニ差出スヘキ書類ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ノ民政署長ヲ經由スヘシ

第三條　法人ハ其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ左ニ揭クル事項ヲ遲滯ナク關東【都督】ニ屆出ヘシ其ノ第一號ノ事項中ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

一　理事又ハ監事ノ氏名住所
二　財產目錄及社團法人ニ在リテハ社員ノ員數

第四條　法人ハ毎年四月三十日マテニ左ニ揭クル事項ヲ關東【都督】ニ屆出ヘシ但シ特ニ事業年度ヲ設クルモノハ第一號ニ付テハ其ノ年度末ノ調査ニ依リ第二號乃至第五號ニ付テハ其ノ前年度中ノ事項ヲ其ノ年度ノ終ヨリ三十日以內ニ屆出ヘシ

一　毎年初ノ三箇月內ニ作リタル財產目錄
二　社團法人ニ在リテハ入社又ハ退社ノ社員ノ員數
三　法人ノ目的タル業務ノ狀況
四　收支金額及其ノ費目

第五條　民政署長ハ法人ノ業務ヲ監督スヘシ

第六條　民政署長ハ法人ヨリ監督上必要ナル報告ヲ徵シ又ハ實地ニ就キ其ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

前項ニ依リ徵シタル報告又ハ實地ニ就キ爲シタル檢査ノ成績ハ遲滯ナク之ヲ關東【都督】ニ報告スヘシ

第七條　民政署長ハ法人ニ於テ民法第七十一條ニ該當スル行爲アリト認ムルトキハ其ノ事由ヲ具シテ關東【都督】ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●地上權ニ關スル法律

明治三十三年三月二十七日
法律第七十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地上權ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

第一條　本法施行前他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲其ノ土地ヲ使用スル者ハ地上權者ト推定ス

第二條　第一條ノ地上權者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年內ニ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ本法施行前ニ善意ニテ取得シタル第三者ノ權利ヲ害スルコトナシ

●建物保護ニ關スル法律

明治四十二年五月一日
法律第四十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル建物保護ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

第一條　建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ土地ノ賃借權ニ因リ地上權者又ハ土地ノ賃借人カ其ノ土地ノ上ニ登記シタル建物ヲ有スルトキハ地上權又ハ土地ノ賃貸借ハ其ノ登記ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

建物カ地上權又ハ土地ノ賃貸借ノ期間滿了前ニ滅失又ハ朽廢シタルトキハ地上權者又ハ土地ノ賃借人ハ其ノ後ノ期間ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二條　民法第五百六十六條第一項第三項及第五百七十一條ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス買主カ契約ノ當時知ラサリシ地上權又ハ賃借權ノ效力ノ存スル場合亦同シ

●立木ニ關スル法律

明治四十二年四月五日
法律第二十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル立木ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、司法大臣副署）

第一條　本法ニ於テ立木ト稱スルハ一筆ノ土地又ハ一筆ノ土地ノ一部分ニ植栽ニ依リ生立セシメタル樹木ノ集團ニシテ其ノ所有者カ本法ニ依リ所有權保存ノ登記ヲ受ケタルモノヲ謂フ

第二條　立木ハ之ヲ不動產ト看做ス

立木ノ所有者ハ土地ト分離シテ立木ヲ讓渡シ又ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

土地所有權又ハ地上權ノ處分ノ效力ハ立木ニ及ハス

第三條　立木ノ所有者ハ立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テモ當事者ノ協定シタル施業方法ニ依リ其ノ樹木ヲ採取スルコトヲ妨ケス

第四條　立木ヲ目的トスル抵當權ハ前條ノ規定ニ依ル採取ノ場合ヲ除クノ外其ノ樹木カ土地ヨリ分離シタル後ト雖其ノ樹木ニ付之ヲ行フコトヲ得

抵當權者ハ債權ノ期限ノ到來前ト雖前項ノ樹木ヲ競賣スルコトヲ得但シ其ノ競落代金ハ之ヲ供託スヘシ

樹木ノ所有者ハ競賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所ニ相當ノ擔保ヲ供託シテ競賣ノ免除ヲ申立ツルコトヲ得

樹木ノ所有者ハ抵當權者ニ對シテ一箇月以上ノ期間ヲ定メ競賣ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若抵當權者カ其ノ期間內ニ競賣ヲ爲ササルトキハ其ノ樹木ニ付抵當權ヲ行フコトヲ得ス

第一項ノ規定ハ民法第百九十二條乃至第百九十四條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第五條　立木カ土地ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テ其ノ土地又ハ立木ノミカ抵當權ノ目的タルトキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付地上權ヲ設定シタルモノト看做ス但シ其ノ存續期間及地代ハ當事者ノ請求ニ依リ地方ノ慣習ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

第六條　立木カ地上權者ニ屬スル場合ニ於テ其ノ地上權又ハ立木ノミカ抵當權ノ目的タルトキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付地上權ノ存續期間內ニ於テ其ノ土地ノ賃貸借ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ存續期間及借賃ニ付テハ前條但書ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ地上權ノ存續期間ノ定ナキトキハ其ノ期間ハ當事者又ハ賃借人ノ請

求ニ依リ地方ノ慣習ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

民法第六百四條及第六百十二條ノ規定ハ第一項ノ賃貸借ニ之ヲ適用セス

第七條　前條ノ規定ハ轉貸ヲ爲スコトヲ得ル土地ノ賃借人ニ屬スル立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ之ヲ準用ス

第八條　地上權者又ハ土地ノ賃借人ニ屬スル立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テハ地上權者又ハ賃借人ハ抵當權者ノ承諾アルニ非サレハ其ノ權利ヲ拋棄シ又ハ契約ヲ解除スルコトヲ得ス

第九條　立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ所有者カ樹木ノ運搬ノ爲土地ヲ使用スル權利ヲ有スルトキハ立木ノ競落人ハ其ノ權利ヲ行使スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ相當ノ對價ヲ支拂フヘシ

前項ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第十條　第二條第三項及第三條乃至第九條ノ規定ハ先取特權ニ之ヲ準用ス

第十一條　土地又ハ地上權カ質權ノ目的タル場合ニ於テハ其ノ土地ニ生立スル樹木ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條　各登記所ニ立木登記簿ヲ備フ

不動產登記法第十四條第二項及第十九條ノ規定ハ前項ノ登記簿ニ之ヲ準用ス

第十三條　立木登記簿ハ一箇ノ立木ニ付一用紙ヲ備フ

第十四條　立木登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙ノ二區ニ分チ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各立木ニ付登記簿ニ始テ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ立木ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ先取特權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十五條　登記ノ申請書ニハ不動產登記法第三十六條ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　樹木カ一筆ノ土地ノ一部分ニ生立スル場合ニ於テハ其ノ部分ノ位置及段別、其ノ部分ヲ表示スヘキ名稱又ハ番號アルトキハ其ノ名稱又ハ番號
二　樹種、數量及樹齡

第十六條　不動產登記法第百六條及第百七條ノ規定ハ所有權保存ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十七條　所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ保存登記ニ付土地ノ登記簿上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ代ルヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第十八條　既登記ノ土地ニ生立スル樹木ニ付所有權保存ノ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ土地ノ登記用紙中土地又ハ地上權ヲ目的トスル先取特權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ立木登記簿ニ其ノ登記ヲ轉寫スヘシ但シ其ノ登記ニ抵當權カ樹木ニ及ハサル旨ノ記載アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　既登記ノ土地ニ生立スル樹木ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地ノ登記用紙中表示欄ニ立木ノ登記番號ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ立木ノ區分ノ登記ヲ爲シタルトキ又ハ立木ノ存スル土地ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

立木ノ登記用紙ヲ閉鎖シタルトキハ前項ノ規定ニ依リテ記載シタル登記番號ヲ朱抹シ登記官吏捺印スヘシ

第二十條　立木ノ分合若ハ滅失アリタルトキ又ハ第十五條第一號及第二號ニ揭ケタル事項ニ變更アリタルトキハ所有權ノ登記名義人ハ遲滯ナク其ノ登記ヲ申請スヘシ但シ樹木ノ發生若ハ成長又ハ第三條ノ施業方法ニ依ル變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

立木ノ存スル土地ノ地目、字、番號又ハ段別ニ變更アリタルトキ亦前項ニ同シ

不動產登記法中建物ノ滅失及其ノ表示ノ變更ノ登記ニ關スル規定ハ前二項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二十一條　立木ヲ目的トスル抵當權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ不動產登記法第百十七條ニ揭ケタル事項ノ外施業方法ヲ記載スヘシ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治四十三年勅令第二百二十一號ヲ以テ同年五月二十日ヨリ施行）

●立木ノ先取特權ニ關スル法律

明治四十三年四月十六日
法律第五十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル立木ノ先取特權ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

他人ノ土地ノ上ニ立木ヲ有スル者カ土地ノ所有者ニ對シ樹木伐採ノ時期ニ於テ其ノ樹木ノ價格ニ對スル一定ノ割合ノ地代ヲ支拂フヘキ契約ヲ爲シタルトキハ土地ノ所有者ハ地代ニ付其ノ立木ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ハ他ノ權利ニ對シテ優先ノ效力ヲ有ス但シ民法第三百二十九條第二項但書ノ適用ヲ妨ケス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治四十三年勅令第二百二十二號ヲ以テ同年五月二十日ヨリ施行）

●記名ノ國債ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル法律

明治三十七年四月一日
法律第十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル記名ノ國債ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、司法大臣副署）

民法第三百六十四條第一項ノ規定ハ記名ノ國債ニハ之ヲ適用セス

●利息制限法

明治十年九月十一日
太政官布告第六十六號
改正　明治三一年法律第一一號
大正八年第五九號

利息制限法左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條　凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト【法律上ノ利息】トス

第二條　契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓未滿ハ一ケ年ニ付百分ノ十五（一割五分）百圓以上千圓未滿ハ百分ノ十二（一割二分）千圓以上百分ノ十（一割）以下トス若シ此限ヲ超過スル分ハ裁判上無效ノモノトシ各其制限ニマテ引直サシムヘシ

第三條　削除

第四條　第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金棒利等ノ名目ヲ用ルモノアルモ總テ裁判上無效ノ者トス

第五條　【返還期限ヲ違フルトキハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金科料等ヲ差出スヘキヿヲ約定スルヿアルトキハ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルトキハ之レニ相當ノ減少ヲ爲スヿヲ得】

●失火ノ責任ニ關スル法律

明治三十二年三月八日
法律第四十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル失火ノ責任ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

民法第七百九條ノ規定ハ失火ノ場合ニハ之ヲ適用セス但シ失火者ニ重大ナル過失アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

●戸主ニ非サル者爵ヲ授ケラレタル場合ニ關スル法律

明治三十八年三月十三日
法律第六十二號
改正　大正三年第二八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル戸主ニ非サル者爵ヲ授ケラレタル場合ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

第一條　戸主ニ非サル者カ爵ヲ授ケラレタルトキハ一家ヲ創立ス

民法中分家ニ關スル規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二條　前條ノ規定ニ依リ一家ヲ創立シタル

者ハ授爵ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ辭令書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ市町村長ニ屆出ツヘシ

一　一家創立ノ場所

二　屆出人カ家族タリシ家ノ戶主ノ氏名、本籍及其ノ戶主ト屆出人トノ續柄

三　屆出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其ノ名、出生ノ年月日及其ノ者ト屆出人トノ續柄

四　屆出人及其ノ家族ノ父母ノ氏名、本籍及父母トノ續柄

五　授爵ノ年月日

市町村長カ前項ノ屆出ヲ受理シタルトキハ之ニ依リ戶籍記載ノ手續ヲ爲スヘシ

本條ノ場合ニ於テハ戶籍法第百五十四條ノ屆出ヲ爲スコトヲ要セス

●救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務ニ關スル法律

明治三十三年三月十三日法律第五十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

第一條　公設ノ救育所ニ在ル未成年ノ孤兒ニ付テハ其ノ所長後見人ノ職務ヲ行フ

私設ノ救育所ニ在ル未成年ノ孤兒ニ付テハ其ノ救育所所在地ノ地方長官ニ於テ後見人ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ指定ス

第二條　前條ニ依ル後見人ノ職務執行ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三條　救育所ニ在ル未成年者ニシテ孤兒ニ非サル者ト雖本法ノ規定ヲ準用スヘキモノハ主務大臣之ヲ定ム

附　則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務執行ニ關スル特例

明治三十三年四月十三日勅令第百四十四號

朕救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務執行ニ關スル特例ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（內務大臣副署）

第一條　救育所ニ在ル孤兒ニ關シ後見人ノ職務ヲ行フ者カ其ノ職務ヲ執行スルニ當リ親族會ノ同意ヲ要スル事項ハ公設ノ救育所ニ在リテハ之ヲ設立セル公共團體ノ行政廳、私設ノ救育所ニ在リテハ其ノ救育所所在地ノ市町村長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第二條　後見人ノ職務執行ニ關シ後見監督人及親族會ニ屬スル職務權限ハ公設ノ救育所ニ在ル孤兒ノ後見ニ付テハ其ノ救育所ヲ設立セル公共團體ノ行政廳、私設ノ救育所ニ在ル孤兒ニ付テハ其ノ救育所所在地ノ市町村長ニ屬ス

第三條　主務大臣又ハ地方長官ハ孤兒ノ後見職務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第四條　孤兒ニ非スシテ救育所ニ在ル未成年者ニ對シ後見人ノ職務ヲ行フヘキ場合ニ於テ其ノ者ノ父母ノ所在分明ナルトキハ身分ニ關スル事件ニ限リ其ノ父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五條　本令ニ規定スル市町村長ノ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

明治三十三年三月二十七日內務省令第十一號

棄兒、迷兒、遺兒其ノ他父又ハ母ニ於テ親權ヲ行ヒ難キ情況ニアル未成年者ニシテ救育所ニ在ルモノノ後見ニ關シテハ孤兒ニ非サル者ト雖明治三十三年法律第五十一號ノ規定ヲ準用ス

●相續人曠缺ノ爲メ國庫ニ歸屬ノ財產引渡ニ關スル件

明治三十三年十二月七日勅令第四百九號

朕相續人曠缺ノ場合ニ於テ國庫ニ歸屬シタル財產ノ引渡ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（大藏、外務、司法、內務、農商務大臣副署）

相續人曠缺ノ爲國庫ニ歸屬シタル財產ハ管理人ヨリ遲滯ナク被相續人ノ住所ヲ管轄スル地方行政官廳ニ引渡スヘシ但シ外國ニ在テハ領事又ハ貿易事務官ニ引渡スヘシ

北海道廳　府縣【大林區署】　明治三十四年一月十九日農商務省訓令第一號

相續人曠缺ノ爲メ國庫ニ歸屬シタル財產中森林原野ハ明治三十三年勅令第四百九號ニ依リ其引渡ヲ受ケタル地方行政官廳ニ於テ遲滯ナク地籍所管ノ【大林區署】ニ引渡スヘシ

地籍所管ノ【大林區署】ハ地方行政官廳ヨリ森林原野ノ引渡ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク臺帳ニ登錄スヘシ

●軍人軍屬ノ遺言ノ確認ニ關スル法律

明治三十三年二月七日法律第十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法第千七十九條及第千八十一條ノ規定ニ依ル遺言ノ確認ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、海軍、司法大臣副署）

第一條　民法第千七十九條ノ規定ニ依リ軍人軍屬ノ爲シタル遺言ノ確認ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ請求スヘシ

一　陸軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル陸軍官衙團隊ノ軍法會議ノ理事又ハ遺言ヲ爲シタル地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ若其ノ軍法會議ノ設置ナク若ハ廢セラレタル場合ニ於テハ遺言者ノ住所地又ハ相續開始地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ

二　海軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル海軍官衙團隊所在地又ハ其ノ附近ノ軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ若遺言ヲ爲シタル者カ艦船乘込員ナル場合ニ於テハ便宜海軍軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ

第二條　民法第千八十一條本文ノ場合ニ該當スル遺言ノ確認ハ便宜海軍軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ

第三條　民事訴訟法裁判所職員ノ除斥人證鑑定ニ關スル規定非訟事件手續法第六條第八條第九條第十一條第十二條第十四條第十七條乃至第十九條第三十二條第百九條第二項ノ規定及民事訴訟費用法ノ規定ハ本法ノ事件ニ之ヲ準用シ其ノ規定中裁判所及判事ニ屬スル職務ハ理事又ハ主理之ヲ行ヒ書記ニ屬スル職務ハ錄事之ヲ行フ但シ上訴ニ關スル規定ハ準用ノ限ニ在ラス

●借地法

大正十年四月八日法律第四十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル借地法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

借地法

第一條　本法ニ於テ借地權ト稱スルハ建物ノ所有ヲ目的トスル地上權及賃借權ヲ謂フ

第二條　借地權ノ存續期間ハ石造、土造、煉瓦造又ハ之ニ類スル堅固ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ六十年、其ノ他ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ三十年トス但シ建物カ此ノ期間滿了前朽廢シタルトキハ借地權ハ之ニ因リテ消滅ス

契約ヲ以テ堅固ノ建物ニ付三十年以上、其ノ他ノ建物ニ付二十年以上ノ存續期間ヲ定メタルトキハ借地權ハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第三條　契約ヲ以テ借地權ヲ設定スル場合ニ於テ建物ノ種類及構造ヲ定メサルトキハ借地權ハ堅固ノ建物以外ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノト看做ス

第四條　借地權消滅ノ場合ニ於テ建物アルトキハ借地權者ハ契約ノ更新ヲ請求スルコトヲ得

土地所有者カ契約ノ更新ヲ欲セサルトキハ時價ヲ以テ建物其ノ他借地權者カ權原ニ因リテ土地ニ附屬セシメタル物ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第五條　當事者カ契約ヲ更新スル場合ニ於テハ借地權ノ存續期間ハ更新ノ時ヨリ起算シ堅固ノ建物ニ付テハ三十年、其ノ他ノ建物ニ付テハ二十年トス此ノ場合ニ於テハ第二條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

當事者カ前項ニ規定スル期間ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ其ノ定ニ從フ

第六條　借地權者借地權ノ消滅後土地ノ使用ヲ繼續スル場合ニ於テ土地所有者カ遲滯ナク異議ヲ述ヘサリシトキハ前契約ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ借地權ヲ設定シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第七條　借地權ノ消滅前建物カ滅失シタル場合ニ於テ殘存期間ヲ超エテ存續スヘキ建物ノ築造ニ對シ土地所有者カ遲滯ナク異議ヲ述ヘサリシトキハ借地權ハ建物滅失ノ日ヨリ起算シ堅固ノ建物ニ付テハ三十年間、其ノ他ノ建物ニ付テハ二十年間存續ス但シ殘存期間之ヨリ長キトキハ其ノ期間ニ依ル

第八條　前二條ノ規定ハ借地權者カ更ニ借地權ヲ設定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　前七條ノ規定ハ臨時設備其ノ他一時使用ノ爲借地權ヲ設定シタルコト明ナル場合ニハ之ヲ適用セス

第十條　第三者カ賃借權ノ目的タル土地ノ上ニ存スル建物其ノ他借地權者カ權原ニ因リテ土地ニ附屬セシメタル物ヲ取得シタル場合ニ於テ賃貸人カ賃借權ノ讓渡又ハ轉貸ヲ承諾セサルトキハ賃貸人ニ對シ時價ヲ以テ建物其ノ他借地權者カ權原ニ因リテ土地ニ附屬セシメタル物ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第十一條　第二條、第四條乃至第八條及前條ノ規定ニ反スル契約條件ニシテ借地權者ニ不利ナルモノハ之ヲ定メサルモノト看做ス

第十二條　地代又ハ借賃カ土地ニ對スル租稅其ノ他ノ公課ノ增減若ハ土地ノ價格ノ昂低ニ因リ又ハ比隣ノ土地ノ地代若ハ借賃ニ比較シテ不相當ナルニ至リタルトキハ契約ノ條件ニ拘ラス當事者ハ將來ニ向テ地代又ハ借賃ノ增減ヲ請求スルコトヲ得但シ一定ノ期間地代又ハ借賃ヲ增加セサルヘキ特約アルトキハ其ノ定ニ從フ

第十三條　土地所有者又ハ賃貸人ハ辨濟期ニ至リタル最後ノ二年分ノ地代又ハ借賃ニ付借地權者カ其ノ土地ニ於テ所有スル建物ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ハ地上權又ハ賃貸借ノ登記ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ保存ス

第十四條　前條ノ先取特權ハ他ノ權利ニ對シテ優先ノ效力ヲ有ス但シ國稅徵收法ニ依リ徵收スルコトヲ得ヘキ請求權、共益費用不動產保存不動產工事ノ先取特權及地上權又ハ賃貸借ノ登記前登記シタル質權抵當權ニ後ル

附　則

第十五條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　本法施行前設定シタル地上權又ハ賃借權ニシテ建物ノ所有ヲ目的トスルモノノ存續期間ハ既ニ經過シタル期間ヲ算入シ堅固ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ三十年、其ノ他ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ二十年トス但シ建物カ此ノ期間滿了前朽廢シタルトキハ借地權ハ之ニ因リテ消滅シ堅固ノ建物ニ付三十年ヲ超エ、其ノ他ノ建物ニ付二十年ヲ超ユル存續期間ノ定アル地上權ハ其ノ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス

建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ賃借權ニ付存續期間ノ定ナキ場合ニ於テ本法施行前二十年以上ヲ經過シタルトキハ當事者ハ二十年毎ニ契約ヲ更新シタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第一項ノ規定ハ臨時設備其ノ他一時使用ノ爲設定シタルコト明ナル地上權及賃貸借ニ付之ヲ適用セス

第十八條　前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本法施行ノ際現ニ存スル地上權又ハ賃借權ニシテ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付亦本法ヲ適用ス

●借家法

大正十年四月八日法律第五十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル借家法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

借家法

第一條　建物ノ賃貸借ハ其ノ登記ナキモ建物ノ引渡アリタルトキハ爾後其ノ建物ニ付物權ヲ取得シタル者ニ對シ其ノ效力ヲ生ス

民法第五百六十六條第一項及第三項ノ規定ハ登記セサル賃貸借ノ目的タル建物カ賣買ノ目的物ナル場合ニ之ヲ準用ス

民法第五百三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二條　賃貸借ノ期間滿了ノ後賃借人カ建物ノ使用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃貸人カ遲滯ナク異議ヲ述ヘサリシトキハ前賃貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃貸借ヲ爲シタルモノト看做ス

第三條　賃貸人ノ解約申入ハ六月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

六月未滿ノ期間ノ定アル賃貸借ハ之ヲ期間ノ定ナキモノト看做ス

前條ノ規定ハ賃貸借カ解約申入ニ因リテ終了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條　解約申入ニ因リテ終了スヘキ轉貸借アル場合ニ於テ賃貸借カ終了スヘキトキハ賃貸人ハ轉借人ニ對シ其ノ旨ノ通知ヲ爲スニ非サレハ其ノ終了ヲ以テ轉借人ニ對抗スルコトヲ得ス

賃貸人カ前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ轉貸借ハ其ノ通知ノ後六月ヲ經過スルニ因リテ終了ス

第五條　賃貸人ノ同意ヲ得テ建物ニ附加シタル疊、建具其ノ他ノ造作アルトキハ賃借人ハ賃貸借終了ノ場合ニ於テ其ノ際ニ於ケル賃貸人ニ對シ時價ヲ以テ其ノ造作ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得賃貸人ヨリ買受ケタル造作ニ付亦同シ

第六條　前五條ノ規定ニ反スル特約ニシテ賃借人ニ不利ナルモノハ之ヲ爲ササルモノト看做ス

第七條　建物ノ借賃カ土地若ハ建物ニ對スル租稅其ノ他ノ負擔ノ增減ニ因リ、土地若ハ建物ノ價格ノ昂低ニ因リ又ハ比隣ノ建物ノ借賃ニ比較シテ不相當ナルニ至リタルトキハ契約ノ條件ニ拘ラス當事者ハ將來ニ向テ借賃ノ增減ヲ請求スルコトヲ得但シ一定ノ期間借賃ヲ增加セサルヘキ特約アルトキハ其ノ定ニ從フ

第八條　本法ハ一時使用ノ爲建物ノ賃貸借ヲ爲シタルコト明ナル場合ニハ之ヲ適用セス

附　則

第九條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　本法ハ本法施行前ニ爲シタル建物ノ賃貸借ニ付亦之ヲ適用ス但シ本法施行前ニ賃貸人ノ解約ノ申入アリタル場合ニ於テハ賃貸借ハ既ニ經過シタル期間ヲ算入シ六月ヲ經過スルニ因リテ終了ス

●借地法及借家法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件

大正十年五月十三日
勅令第二百七號

朕借地法及借家法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

左ノ地區ニハ大正十年五月十五日ヨリ借地法及借家法ヲ施行ス

東京府
　東京市
　荏原郡ノ内
　　品川町、大崎町
　豐多摩郡ノ内
　　淀橋町、大久保町、戸塚町、千駄ヶ谷町、澁谷町
　北豐島郡ノ内
　　南千住町、巣鴨町、瀧野川町、高田町、日暮里町、西巣鴨町
　南葛飾郡ノ内
　　吾嬬町、龜戸町、大島町、寺島村、砂村
京都府
　京都市
大阪府
　大阪市
　【西成郡ノ内】
　　【今宮町、鷺洲町、豐崎町、中津町、傳法町】
　【東成郡ノ内】
　　【鶴橋町、中本町、天王寺村】
神奈川縣
　横濱市
兵庫縣
　神戸市

前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建物アル場合ニ於テハ借地法及借家法ハ其ノ建物ノ存スル場所ニ付亦之ヲ適用ス

大正十三年八月十二日
勅令第百七十三號

朕借地法及借家法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

左ノ地區ニハ大正十三年八月十五日ヨリ借地法及借家法ヲ施行ス

東京府
　荏原郡ノ内
　　大森町、大井町、入新井町、目黒町、平塚村
　豐多摩郡ノ内
　　中野町、落合町、代々幡町
　北豐島郡ノ内
　　板橋町、王子町、三河島町、尾久町、長崎村
　南足立郡ノ内
　　千住町
　南葛飾郡ノ内
　　隅田町

前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建物アル場合ニ於テハ借地法及借家法ハ其ノ建物ノ存スル場所ニ付亦之ヲ適用ス

大正十四年四月十一日
勅令第百二十五號

朕借地法及借家法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

左ノ地區ニハ大正十四年四月十五日ヨリ借地法及借家法ヲ施行ス

愛知縣
　名古屋市

前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建物アル場合ニ於テハ借地法及借家法ハ其ノ建物ノ存スル場所ニ付亦之ヲ適用ス

●借地借家調停法

大正十一年四月十二日
法律第四十一號
改正　大正一三年第一七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル借地借家調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

借地借家調停法

第一條　土地又ハ建物ノ貸借、地代、家賃其ノ他借地借家關係ニ付爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地又ハ建物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ合意ヲ以テ前項ノ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第一項ニ於テ借地借家ト稱スルハ借地法及借家法ニ於ケル借地借家ヲ謂フ

第二條　調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條　當事者義務ノ回避其ノ他不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第四條　爭議ノ目的タル土地又ハ建物カ數個ノ裁判所ノ管轄區域内ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケタル地方裁判所又ハ區裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所又ハ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四條ノ二　借地借家關係ノ爭議ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ受訴裁判所ハ職權ヲ以テ事件ヲ調停ニ付スルコトヲ得

第五條　調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ繫屬スルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ事件カ調停ニ付セラレタルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス

第六條　裁判所ハ期日ヲ定メ調停申立人及相手方ヲ呼出スヘシ此ノ場合ニ於テハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第七條　當事者及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第八條　調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

第九條　費用ヲ要スル行爲ニ付テハ當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第十條　申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第十一條　調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第十二條　調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第十三條　裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル處分ヲ命スルコトヲ得

第十四條　裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ得

當事者雙方ノ申立アルトキハ裁判所ハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第十五條　調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

第十六條　調停主任ハ判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方裁判所長之ヲ指定ス

調停委員ハ特別ノ知識經驗アル者ニ就キ毎年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス

第十七條　調停委員會ハ當事者ノ意見ヲ聽キ適當ト認ムル者ヲシテ調停ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條　調停委員及前條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス

第十九條　調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任之ヲ指揮ス

第二十條　調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル

第二十一條　調停委員會ノ評議ハ之ヲ祕密トス

第二十二條　調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ第六條、第七條第一項但書第二項、第八條但書及第十三條ニ規定スル裁判所ノ權限ハ調停委員會ニ屬ス

第二十三條　調停委員會ハ當事者又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且必要ト認ムルトキハ證據調ヲ爲スコトヲ得

調停委員會ハ調停主任ヲシテ證據調ヲ爲サシメ又ハ之ヲ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

證據調ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス

證人及鑑定人ノ受クヘキ旅費、日當及止宿料ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

第二十四條　期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ爭議ノ目的タル事項及手續ノ費用ニ付適當ト認ムル調停條項ヲ定メ其ノ調書ノ正本ヲ當事者ニ送付スルコトヲ要ス

當事者カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ服シタルモノト看做ス

調停委員會ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

當事者カ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スルコトヲ要ス

第二十五條　調停委員會第三條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲ササルコトヲ得

第二十六條　調停成リタルトキ又ハ第二十四條第二項ノ規定ニ依リ當事者カ調停ニ服シタルモノト看做サレタルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

調停不認可ノ決定ニ對シテハ民事訴訟法ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　裁判所ハ調停カ著ク公正ナラスト認ムル場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條　調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ調停ハ認可決定アリタルトキニ限リ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十九條　調停ノ申立ヲ爲スニハ手數料ヲ納付スルコトヲ要ス

第三十條　當事者又ハ利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ記錄ノ閲覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ繫屬中記錄ノ閲覽又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第三十一條　第十八條ノ旅費、日當及止宿料竝前二條ノ手數料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條　調停委員會ノ呼出ヲ受ケタル當事者カ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ調停委員會ノ意見ヲ聽キ五十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件

大正十一年七月十二日
勅令第三百三十八號

朕借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

左ノ地區ニハ大正十一年十月一日ヨリ借地借家調停法ヲ施行ス

東京府
京都府
大阪府
神奈川縣
兵庫縣

大正十四年四月十一日
勅令第百二十六號

朕借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

左ノ地區ニハ大正十四年四月十五日ヨリ借地借家調停法ヲ施行ス

愛知縣

●借地借家調停ノ手數料等ニ關スル件

大正十一年七月十二日
勅令第三百三十九號

朕借地借家調停ノ手數料等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

第一條　借地借家調停法第二十九條ノ手數料ハ左ノ區別ニ從フ

調停ヲ求ムル事項ノ價額五圓迄	十五錢
同　十圓迄	二十五錢
同　二十圓迄	五十錢
同　五十圓迄	一圓二十錢
同　七十五圓迄	一圓七十錢
同　百圓迄	二圓五十錢
同　二百五十圓迄	五圓
同　五百圓迄	八圓
同　七百五十圓迄	十圓
同　千圓迄	十二圓
同　二千五百圓迄	十七圓
同　五千圓迄	二十圓
同　五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ	

調停ヲ求ムル事項ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ハ百圓ト看做ス

第二條　借地借家調停法第三十條ノ手數料ハ各一件ニ付二十錢トス

第三條　調停委員及借地借家調停法第十七條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ノ日當ハ一日六圓以内、止宿料ハ一日八圓以内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第四條　調停委員及借地借家調停法第十七條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通スル水路ニ在リテハ二等旅客運賃、運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃ニ依リ汽船ヲ通セサル水路ニ在リテハ一海里毎ニ十五錢、其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ九十錢トス但シ一海里未滿又ハ一里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

附　則

本令ハ大正十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●借地借家調停法ノ規定ニ依ル手數料納付方

大正十一年十月一日
司法省令第二十三號

借地借家調停法第二十九條及第三十條ノ手數料ハ收入印紙ヲ以テ納付セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●借地借家臨時處理法

大正十三年七月二十二日
法律第十六號
改正　昭和四年第七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル借地借家臨時處理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

借地借家臨時處理法

第一條　本法ニ於テ借地借家ト稱スルハ借地法及借家法ニ於ケル借地借家ヲ謂フ

第二條　地代、家賃、敷金其ノ他借地借家ノ條件カ著シク不當ナルトキハ當事者ノ申立ニ因リ裁判所ハ鑑定委員會ノ意見ヲ聽キ借地借家關係ヲ衡平ナラシムル爲其ノ條件ノ變更ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ裁判所ハ敷金其ノ他ノ財産上ノ給付ノ返還ヲ命シ又ハ其ノ給付ヲ地代若ハ家賃ノ前拂ト看做シ其ノ他相當ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第三條　大正十二年九月ノ震災ニ因リテ滅失シタル建物ノ借主ハ其ノ建物ノ敷地又ハ其ノ換地ノ上ニ新ニ築造セラレタル建物ニ付其ノ完成前賃借ノ申出ヲ爲シタルトキハ他ノ者ニ優先シテ之ヲ賃借スルコトヲ得滅失シタル建物ノ敷地又ハ其ノ換地ノ上ニ築造セラレタル假設建築物ノ借主亦同シ

前項ノ申出ヲ受ケタル者申出ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ拒絶ノ意思ヲ表示セサルトキハ申出ヲ承諾シタルモノト看做ス

第一項ノ申出ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ス

第四條　前條ノ場合ニ於テ借家ニ付當事者間ニ協議調ハサルトキハ裁判所ハ鑑定委員會ノ意見ヲ聽キ從前ノ貸借ノ條件、建物ノ狀況其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ借家關係ヲ定ムルコトヲ得

第五條　新ニ築造セラレタル建物ニ付第三條第一項ノ規定ニ依リ賃借ノ申出ヲ爲シタル者數人アル場合ニ於テ賃借スヘキ建物ノ割當ニ付當事者間ニ協議調ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ從前ノ建物又ハ假設建築物ノ狀況、借主ノ職業其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ其ノ割當ヲ爲ス

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ裁判所ハ抽籤ノ方法ヲ用キテ割當ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ當事者間ノ衡平ヲ維持スル爲必要アリト認ムルトキハ割當ヲ受ケサル借主又ハ著シク不利益ナル割當ヲ受ケタル借主ノ爲割當ニ因リ著シク利益ヲ受ケタル他ノ借主ニ對シ相當ナル出捐ヲ命スルコトヲ得

第六條　大正十二年九月ノ震災ニ因リテ滅失シタル建物ニ居住シタル者カ其ノ建物ノ敷地ノ上ニ假設建築物ヲ築造シタル場合ニ於テ敷地ノ借主カ之ニ同意シタルトキハ其ノ同意ニ付地主ノ承諾ヲ得サリシ場合ト雖地主ハ之ヲ理由トシテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス但シ裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ此

ノ限ニ在ラス

第七條　借地ノ上ニ存スル借地人ノ建物カ大正十二年九月ノ震災ニ因リ滅失シタル場合ニ於テハ其ノ借地權ハ借地權ノ登記及其ノ土地ノ上ニ存スル建物ノ登記ナキモ之ヲ以テ大正十三年七月一日以後其ノ土地ニ付權利ヲ取得シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得

第八條　第二條及第四條乃至第六條ノ規定ニ因ル裁判ハ借地又ハ借家ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

第九條　鑑定委員會ハ五人以上ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十條　鑑定委員ハ特別ノ知識經驗アル者其ノ他適當ナル者ニ就キ每年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付裁判所之ヲ指定ス

第十一條　鑑定委員會ノ決議ハ委員ノ過半數ノ意見ニ依ル

第十二條　鑑定委員會ノ評議ハ祕密トス

第十三條　鑑定委員ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス其ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　借地借家調停法第四條ノ二及第五條ノ規定ハ第二條、第四條及第五條ノ規定ニ依ル申立竝第六條ノ規定ニ依ル許可ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ調停ニ付スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十五條　第二條及第四條乃至第六條ノ規定ニ依ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ之ヲ二週間トス

前項ノ即時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第十六條　本法ニ依ル裁判ニシテ財產上ノ給付ヲ命スルモノハ執行力ヲ有スル債務名義タルノ效力ヲ有ス

第十七條　本法ニ依ル裁判ノ費用ニ付テハ民事訴訟費用法第十六條及民事訴訟用印紙法第十六條ノ規定ニ依ル

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ昭和十四年四月三十日迄其ノ效力ヲ有ス

本法失效ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●借地借家臨時處理法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件

大正十三年八月十二日　勅令第百七十四號

朕借地借家臨時處理法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

借地借家臨時處理法ハ大正十三年八月十五日ヨリ東京府及神奈川縣ノ內借地法及借家法ノ施行地區ニ之ヲ施行ス

前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建物アル場合ニ於テハ借地借家臨時處理法ハ其ノ建物ノ存スル場所ニ付亦之ヲ適用ス

●借地借家臨時處理法ニ規定スル鑑定委員ノ旅費、日當及止宿料ニ關スル件

大正十三年八月十二日　勅令第百七十五號

朕借地借家臨時處理法ニ規定スル鑑定委員ノ旅費、日當及止宿料ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

借地借家臨時處理法ニ規定スル鑑定委員ノ旅費、日當及止宿料ニ付テハ大正十一年勅令第三百三十九號第三條及第四條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十三年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●防火地區內借地權處理法

昭和二年四月一日　法律第四十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル防火地區內借地權處理法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

防火地區內借地權處理法

第一條　本法ニ於テ借地權ト稱スルハ建物ノ所有ヲ目的トスル地上權及土地ノ賃借權ヲ謂フ

第二條　市街地建築物法ニ依リ指定セラレタル甲種防火地區內ニ於テ同法第十三條ニ基ク命令ニ定メラレタル建物以外ノ建物ノ所有ヲ目的トスル借地權ヲ有スル者カ其ノ土地ニ建物ヲ築造セントスル場合ニ於テ借地條件ノ變更ニ關シ當事者間ニ協議調ハザルトキハ裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リ防火地區內借地委員會ノ意見ヲ聽キ借地權ノ殘存期間、從前ノ借地條件、土地ノ狀況、借地ニ關スル從前ノ經過等一切ノ事情ヲ斟酌シテ借地條件ノ變更其ノ他當事者間ノ衡平ヲ維持スル爲相當ノ措置ヲ命ズルコトヲ得甲種防火地區外ニ亙リテ借地權ヲ有スル者其ノ境界線ヲ超エテ建物ヲ築造スルノ必要アル場合亦同ジ

前項ノ申立ハ其ノ事件ニ付先ヅ借地借家調停法ニ依ル調停ノ申立アリテ其ノ調停ノ成ラザリシ場合ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三條　前條ノ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リ相當ノ出捐其ノ他適當ノ條件ニテ借地權ノ消滅ヲ命ズルコトヲ得

第四條　本法ノ裁判ハ借地ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

第五條　防火地區內借地委員會ハ五人以上ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第六條　防火地區內借地委員ハ特別ノ知識經驗アル者其ノ他適當ナル者ニ就キ每年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付裁判所之ヲ指定ス

第七條　防火地區內借地委員會ノ決議ハ委員ノ過半數ノ意見ニ依ル

第八條　防火地區內借地委員會ノ評議ハ祕密トス

第九條　防火地區內借地委員ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス其ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　本法ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ之ヲ二週間トス

前項ノ即時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第十一條　本法ノ裁判ニシテ財產上ノ給付ヲ命ズルモノハ執行力ヲ有スル債務名義タルノ效力ヲ有ス

第十二條　本法ノ裁判ノ費用ニ付テハ民事訴訟費用法第十六條及民事訴訟用印紙法第十六條ノ規定ニ依ル

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●防火地區內借地權處理法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件

昭和二年五月二十六日　勅令第百三十六號

朕防火地區內借地權處理法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

防火地區內借地權處理法ハ昭和二年六月一日ヨリ左ノ地區ニ之ヲ施行ス

東京府　東京市

神奈川縣　橫濱市

●防火地區內借地權處理法ノ借地委員ノ旅費、日當及止宿料ニ關スル件

昭和二年五月二十六日　勅令第百三十七號

朕防火地區內借地權處理法ノ借地委員ノ旅費、日當及止宿料ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

防火地區內借地權處理法ニ規定スル防火地區內借地委員ノ旅費、日當及止宿料ニ付テハ大正十一年勅令第三百三十九號第三條及第四條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●小作調停法

大正十三年七月二十二日　法律第十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル小作調停法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、司法大臣副署）

小作調停法

第一條　小作料其ノ他小作關係ニ付爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ合意ヲ以テ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二條　當事者不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第三條　調停ノ申立ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長又ハ郡長ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條　前條ノ規定ニ依ル調停ノ申立アリタルトキハ市町村長又ハ郡長ハ遲滯ナク申立ニ關スル書類ヲ裁判所ニ送付シ且町村長ニ在リテハ郡長ニ、郡長ニ在リテハ町村長ニ

申立アリタル旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

爭議ノ目的タル土地カ數郡市町村ニ亙ル場合ニ於テハ調停ノ申立ヲ受ケタル市町村長又ハ郡長ハ遲滯ナク關係市町村長及郡長ニ前項ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第五條　裁判所直接ニ調停ノ申立ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス但シ第八條第一項ノ規定ニ依リ事件ヲ移送スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スヘシ

第七條　調停ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ市町村長、郡長又ハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第八條　爭議ノ目的タル土地カ數箇ノ裁判所ノ管轄區域內ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケタル地方裁判所又ハ區裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所又ハ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第一項ノ場合ニ於テ事件ノ移送ヲ受ケタル裁判所ハ遲滯ナク爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第九條　調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス

第十條　裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス但シ爭議ノ實情ニ鑑ミ之ヲ開カスシテ調停ヲ爲スコトヲ得

當事者ノ申立アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス裁判所ハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第十一條　裁判所事情ニ依リ適當ナル者アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス之ヲシテ勸解ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條　當事者多數ナル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ代表シテ調停ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲サシムル爲總代ヲ選任スルコトヲ得

裁判所前項ノ規定ニ依ル總代ナキ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ總代ノ選任ヲ命スルコトヲ得

總代ハ當事者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

第十三條　總代ノ選任ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス總代ノ解任ハ之ヲ裁判所ニ屆出ツルニ非サレハ其ノ效ナシ

第十四條　裁判所ハ期日ヲ定メ當事者又ハ總代ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ノ呼出ヲ受ケタル當事者又ハ總代ハ正當ノ事由ナクシテ出頭ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條　調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ調停ニ參加スルコトヲ得

裁判所ハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第十六條　當事者、總代及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシメ又ハ輔佐人ヲ同伴スルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十七條　爭議ノ目的タル土地ノ所在地又ハ當事者ノ住所地ノ市町村長又ハ郡長ハ裁判所ニ對シ事件ノ經過ニ付陳述ヲ爲スコトヲ得

第十八條　裁判所必要アリト認ムルトキハ小作官、前條ノ市町村長又ハ郡長其ノ他適當ト認ムル者ニ對シ意見ヲ求ムルコトヲ得

第十九條　小作官ハ期日ニ出席シテ又ハ期日外ニ於テ裁判所ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十條　裁判所必要アリト認ムルトキハ事實ノ調査ヲ小作官ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條　裁判所ニ於ケル調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

第二十二條　裁判所ハ費用ヲ要スル行爲ニ付當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第二十三條　裁判所ニ對スル申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十四條　裁判所ノ調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十五條　裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル措置ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　裁判所ノ調停條項中ニ費用ノ負擔ニ關スル定ヲ爲ササルトキハ各當事者ハ其ノ支出シタル費用ヲ自ラ負擔ス

第二十七條　調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十八條　調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十九條　調停主任ハ判事ノ中ヨリ每年豫メ地方裁判所長之ヲ指定ス

調停委員ハ調停ニ適當ナル者ニ就キ地方裁判所長ノ選任シタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス但シ當事者カ合意ヲ以テ選定シタル者アルトキ又ハ地方裁判所長ノ選任シタル者ニ就キ當事者雙方カ各別ニ選定シタル者アルトキハ其ノ者ノ中ヨリ先ツ之ヲ指定スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十條　調停主任ハ爭議ノ實情ニ鑑ミ適當ト認ムル場所ニ於テ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第三十一條　調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任之ヲ指揮ス

第三十二條　調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル

第三十三條　調停委員會ノ評議ハ之ヲ祕密トス

第三十四條　第十一條乃至第二十六條ノ規定ハ調停委員會ノ調停手續ニ之ヲ準用ス

第三十五條　調停委員會ハ當事者、總代又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且必要ト認ムルトキハ證據調ヲ爲スコトヲ得

證據調ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス

證人及鑑定人ノ受クヘキ旅費、日當及止宿料ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

調停委員會ハ調停主任ヲシテ證據調ヲ爲サシメ又ハ之ヲ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第三十六條　期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ適當ト認ムル調停條項ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ調停條項ヲ定メタル場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ調書ノ正本ヲ當事者、總代アルトキハ總代ニ送付シ且當事者又ハ總代カ其ノ送付ヲ受ケタル後一月內ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シタルモノト看做ス旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月內ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シタルモノト看做ス

調停委員會ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得期間ノ伸長ハ之ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ調停條項ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

第三十七條　調停委員會第二條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲ササルコトヲ得

第三十八條　調停成リタルトキ又ハ第三十六條第三項ノ規定ニ依リ調停ニ同意シタルモノト看做サレタルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

調停不認可ノ決定ニ對シテハ當事者又ハ總

代ハ民事訴訟法ニ從ヒ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條　裁判所ハ調停カ著シク公正ナラスト認ムル場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス

第四十條　調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ調停ハ認可決定アリタルトキニ限リ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第四十一條　裁判所調停認可ノ決定ヲ總代ニ告知シタル場合ニ於テハ調停條項ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ揭示スルコトヲ要ス

第四十二條　調停委員會必要アリト認ムルトキハ調停ノ經過ヲ公表スルコトヲ得

第四十三條　調停事件終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ結果ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス

第四十四條　當事者又ハ利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ記錄ノ閲覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ繫屬中記錄ノ閲覽又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第四十五條　調停委員及第十一條又ハ第三十四條ノ規定ニ依リ勸解ヲ爲シタル者ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス

第四十六條　第四十四條ノ手數料並前條ノ旅費、日當及止宿料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條　本法中郡トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳管轄區域、郡長トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司トス

本法中町村、町村長又ハ町村役場トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村、町村長又ハ町村役場ニ準スルモノトス

第四十八條　第三十四條ノ規定ニ依ル呼出ヲ受ケタル者正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ調停委員會ノ意見ヲ聽キ五拾圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第四十九條　調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク評議ノ顚末又ハ調停主任、調停委員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ勅令ヲ以テ指定スル地區ニ之ヲ施行セス

●小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件

（大正十三年九月二十六日 勅令第二百二十八號）
改正　大正一五年第六五號　昭和四年第一四一號

朕小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、司法大臣副署）

小作調停法ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

小作調停法附則第二項ノ規定ニ依リ同法ヲ施行セサル地區ヲ指定スルコト左ノ如シ

沖繩縣

●小作調停ノ手數料等ニ關スル件

（大正十三年十一月三日 勅令第二百五十三號）

朕小作調停ノ手數料等ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

大正十一年勅令第三百三十九號第二條乃至第四條ノ規定ハ小作調停法第四十四條ノ手數料並第四十五條ノ旅費、日當及止宿料ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●小作調停法ノ規定ニ依ル手數料納付方ノ件

（大正十三年十一月三日 司法省令第十五號）

小作調停法ノ規定ニ依ル手數料納付方ノ件

小作調停法第四十四條ノ手數料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

附　則

本令ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●外國人土地法

（大正十四年四月一日 法律第四十二號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國人土地法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、內務、司法大臣副署）

外國人土地法

第一條　帝國臣民又ハ帝國法人ニ對シ土地ニ關スル權利ノ享有ニ付禁止ヲ爲シ又ハ條件若ハ制限ヲ附スル國ニ屬スル外國人又ハ外國法人ニ對シテハ勅令ヲ以テ帝國ニ於ケル土地ニ關スル權利ノ享有ニ付同一若ハ類似ノ禁止ヲ爲シ又ハ同一若ハ類似ノ條件若ハ制限ヲ附スルコトヲ得

第二條　帝國法人又ハ外國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數カ前條ノ外國人又ハ外國法人ニ屬スルモノニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ外國人又ハ外國法人ト同一ノ國ニ屬スルモノト看做シ前條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ資本ノ額又ハ議決權ノ數ノ計算ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第三條　外國ノ一部ニシテ土地ニ關シ特別ノ立法權ヲ有スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ國ト看做ス

第四條　國防上必要ナル地區ニ於テハ勅令ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ土地ニ關スル權利ノ取得ニ付禁止ヲ爲シ又ハ條件若ハ制限ヲ附スルコトヲ得

前項ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第五條　帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數カ外國人又ハ外國法人ニ屬スルモノニ對シテハ前條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ資本ノ額又ハ議決權ノ數ノ計算ニ付テハ第二條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條　土地ニ關スル權利ヲ有スル者カ本法ニ依リ其ノ權利ヲ享有スルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テハ一年內ニ之ヲ讓渡スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル權利ノ讓渡ナカリシ場合ニ於テ其ノ權利ノ處分ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ土地ニ關スル權利ヲ有スル者ノ相續人其ノ他ノ包括承繼人カ本法ニ依リ其ノ權利ヲ取得スルコトヲ得サル場合ニ之ヲ準用ス但シ第一項ニ規定スル期間ハ之ヲ三年トス

第一項及前項ニ規定スル期間ハ通シテ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

附　則

第七條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　本法ノ施行ニ伴フ不動產登記法ニ關スル特例ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　明治六年第十八號布告及明治四十三年法律第五十一號ハ之ヲ廢止ス

第十條　明治三十二年法律第六十七號中「土地ノ抵當權者ナル外國人カ」ヲ「抵當權者カ抵當權ノ目的タル權利ヲ享有スルコトヲ得サル場合ニ於テ」ニ、「抵當不動產」ヲ「抵當權ノ目的タル權利」ニ改ム

第十一條　民法第九百九十條中「日本人ニ非サレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合」ヲ「國籍ノ喪失ニ因リテ其有スル權利ヲ享有スルコトヲ得サルニ至リタル場合」ニ改メ「日本人ニ」ヲ削ル

（大正十五年勅令第三百三十二號ヲ以テ同年十一月十日ヨリ施行）

●外國人土地法施行令

（大正十五年十一月三日 勅令第三百三十四號）

朕外國人土地法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、海軍、外務、內務、司法大臣副署）

外國人土地法施行令

第一條　外國人土地法第四條第二項ノ規定ニ依リ別表ニ揭ケル地域ヲ國防上必要ナル地區ニ指定ス

第二條　外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人ハ別表ニ揭ケル地域ニ於テ土地所有權、地上權又ハ永小作權ヲ取得セントスルトキハ地方長官（樺太ニ在リテハ樺太廳長官）ヲ經由シテ陸軍大臣及海軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　帝國臣民又ハ帝國法人カ別表ニ揭ケル地域ニ土地所有權、地上權又ハ永小作權ヲ有スル場合ニ於テ其ノ帝國臣民カ外國人ト爲リ又ハ帝國法人カ外國人土地法第五條ニ規定スル法人ト爲リタルトキハ六月內ニ前條ノ規定ニ準シ許可ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ外國人土地法第六條第一項ノ期間ハ申請期間滿了ノ時又ハ申請却下ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第四條　前條第一項ノ規定ハ外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人カ別表ニ揭ケル地域ニ於テ土地所有權、地上權又ハ永小作權ニ付相續其ノ他ノ包括承繼ヲ爲シタルトキニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ外國人土地法第六條第三項ノ期間ノ計算ニ付テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五條　外國人土地法第五條第二項ノ規定ニ依ル資本ノ額又ハ議決權ノ數ノ計算ニ付テハ株式會社又ハ株式合資會社ノ無記名式ノ株券ハ外國人ニ屬スルモノト看做ス

第六條　株式合資會社ニシテ無限責任社員又ハ株主ノ議決權ノ過半數カ外國人又ハ外國法人ニ屬スルモノハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人トス

第七條　外國人土地法第六條ノ規定ニ依ル土地所有權、地上權又ハ永小作權ノ讓渡ナカリシ場合ニ於テハ其ノ權利ハ競賣法ニ依リ之ヲ競賣ニ付ス

第八條　競賣ハ本人若ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第九條　競賣セラレタル土地ヲ所有シタル外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人カ其ノ土地ノ上ニ建物ヲ所有スルトキハ競落人ハ其ノ外國人、外國法人又ハ帝國法人ノ爲ニ建物ノ所有ヲ目的トスル賃借權ヲ設定シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ借賃其ノ他ノ賃貸借ノ條件ハ當事者ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ定ム

第十條　外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人カ別表ニ揭ケル地域ニ於テ土地所有權、地上權又ハ永小作權ノ取得ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ權利ヲ享有シ得ル者ナルコトヲ證スル書面ヲ提出スヘシ

第十一條　區裁判所競賣開始ノ登記ヲ囑託スル場合ニ於テ必要アルトキハ登記名義人又ハ相續人其ノ他ノ包括承繼人ニ代リ土地ノ表示若ハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續其ノ他ノ包括承繼ニ因ル權利移轉ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得

不動產登記法第四十六條ノ二、第五十條第三項、第六十條ノ二及第六十三條ノ三ノ規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十五年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

外國人土地法第四條第二項ノ規定ニ依ル指定地區

東京府
大島　元村、岡田村、泉津村、野增村、差木地村、波浮港村
利島　利島村
新島　若鄕村、本村
神津島　神津島村
三宅島　神着村、伊豆村、伊ヶ谷村、阿古村、坪田村
御藏島　御藏島村
八丈島　大賀鄕村、三根村、樫立村、中之鄕村、末吉村、靑ヶ島、鳥島、小島
小笠原島
南鳥島
中ノ鳥島

京都府
何鹿郡　志賀鄕村、西八田村（七百石、上八田、中筋）、東八田村、口上林村（十根）、中上林村、奥上林村
加佐郡　有路下村、岡田上村、岡田中村、岡田下村、丸八江村、東雲村、由良村、神崎村、四所村、舞鶴町、高野村、中筋村、池內村、餘內村、中舞鶴町、新舞鶴町、倉梯村、與保呂村、志樂村、朝來村、東大浦村、西大浦村
與謝郡　宮津町、栗田村、上宮津村、養老村、伊根村、朝妻村、本庄村、筒川村、日ヶ谷村
竹野郡　豐榮村、間人町、竹野村、上宇川村、下宇川村

大阪府
泉南郡　淡輪村、深日村、孝子村、多奈川村

神奈川縣
橫須賀市
三浦郡　田浦町、浦賀町、久里濱村、衣笠村、葉山町、逗子町（逗子、沼間、櫻山、池子、山野根、久木）、北下浦村、南下浦村、三崎町、初聲村、長井町、武山村、西浦村
鎌倉郡　本鄕村（鍛冶ヶ谷、中野、上野、公田、桂）、小坂村（大船、岩瀨、今泉）、鎌倉町（淨明寺、二階堂、十二所）
久良岐郡　屏風浦村、日下村、六浦莊村、金澤町

兵庫縣
津名郡　上灘村、由良町、洲本町
三原郡　加茂村（加茂）、大野村、廣田村（中條）、松帆村、湊村、津井村、阿那賀村、伊加利村、志知村、八木村、市村、神代村、賀集村、福良町、北阿萬村、灘村、阿萬村、沼島村

長崎縣
長崎市　但シ麹屋町、八幡町、本紙屋町、伊勢町、新大工町、櫻馬場町、袋町、酒屋町、今魚町、本大工町、紺屋町、新橋町、諏訪町、桶屋町、古町、今博多町、大井手町、出來大工町、馬町、勝山町、櫻町、引地町、豐後町、新町、本興善町、興善町、金屋町、今町、堀町、本博多町、萬歲町、大村町、外浦町、平戶町、樺島町、本五島町、浦五島町、元船町、玉江町、江戸町、出島町、入江町、千馬町、要町、末廣町、羽衣町、築町、本下町、今下町、材木町、本紺屋町、西古川町、磨屋町、銀屋町、東古川町、本古川町、榎津町、萬屋町、西濱町、東濱町、銅座町、船大工町、本石灰町、鍛冶屋町、八坂町、油屋町、寄合町、西小島町、舘內町、稻田町、十人町、中新町、東山手町、大浦下町、大浦東町、新地町、廣馬場町、本籠町、梅ヶ崎町、常盤町、大浦町、大浦相生町、大浦上田町、松ヶ枝町、南山手町、小曾根町、浪ノ平町、惠美須町、小川町、八百屋町、內中町、船津町、臺場町、大黑町及片淵町一丁目ヲ除ク
佐世保市
東彼杵郡　川棚村、下波佐見村、上波佐見村、宮村、廣田村、折尾瀨村、早岐町、江上村、崎針尾村、日宇村、佐世村
西彼杵郡　福田村、小ヶ倉村、土井首村、深堀村、香焼村、小榊村、伊王島村、蚊焼村、式見村、三重村、時津村、長與村、西浦上村、日見村、川原村、高濱村、矢上村、茂木町、爲石村、高島村、黑瀨村、崎戸村、江島村、平島村、松島村、面高村、瀨川村、大串村、七釜村、野母村、樺島村、脇岬村
上縣郡
下縣郡
壹岐郡
南松浦郡
北松浦郡

新潟縣
佐渡郡

千葉縣
君津郡　飯野村、靑堀町、富津町、吉野村、大貫町、佐貫町、湊町、天神山村、

安房郡　竹岡村、金谷村、環村(山島、大森、六野、田原)、駒山村
北條町、館山町、西岬村、神戸村、富崎村、長尾村、豊房村、那古町、船形町、八束村、富浦村、岩井村、勝山町、保田町、佐久間村、白濱村、七浦村

青森縣
下北郡
上北郡　横濱村
東津輕郡　平舘村、一本木村、今別村、三厩村
北津輕郡　脇元村、小泊村

島根縣
知夫郡
海士郡
隱地郡
周吉郡

福井縣
遠敷郡　奥名田村(奥坂本、納田終)
大飯郡　高濱町、内浦村、青郷村、佐分利村、和田村

廣島縣
廣島市　元宇品町、宇品町、東新開町、皆實町、段原町
呉市
安藝郡　海田市町、警固屋町、音戸町、吉浦町、矢野町、熊野町、奥海田村、仁保村、本庄村、大屋村、江田島村、焼山村、坂村、渡子島村、倉橋島村、下蒲刈島村
佐伯郡　嚴島町、五日市町(津久根島)、飛渡瀬村、深江村、大柿村、沖村、三高村、鹿川村、中村、高田村、小方村(阿多田島、猪ノ子島、白石、甲島)
賀茂郡　阿賀町、仁方町、川尻町、郷原村、廣村

山口縣
下關市　但シ阿彌陀寺町、外濱町、中之町、赤間町、稲荷町、裏町、奥小路町、田中町、西之端町、唐戸町、東南部町、西南部町、觀音崎町、岬之町及入江町ヲ除ク
都濃郡　久保村、下松町、末武南村、末武北村、米川村、久米村、太華村、徳山町、加見村、富岡村、富田町、福川町、夜市村、大津島村、戸田村
佐波郡　防府町(野島)
豊浦郡　彦島町、安岡町、長府町、内日村(内日上)、清末村、王司村、勝山村、川中村、吉見村(吉見下、永田郷)、豊西村、神玉村、角島村、神田村
大津郡　仙崎町、通村
阿武郡　六島村、見島村
大島郡　油田村、和田村、日良居村(浮島)
玖珂郡　由宇町(甲島)、麻里布村(柱島)

和歌山縣
和歌山市
海草郡　加太町、西脇野村、木本村、松江村、貴志村、野崎村、湊村、楠見村、有功村、宮村、四箇郷村、中之島村、岡町村、宮前村、雑賀村、和歌浦町、雑賀崎村

徳島縣
那賀郡　立江町、坂野村、今津村、羽ノ浦町、平島村、中野島村、富岡町、寳田村、見能林村、橘町、福井村、椿村、桑野村、長生村、新野町
板野郡　撫養町、里浦村、鳴門村、瀬戸村

愛媛縣
北宇和郡　高近村、岩松町、下灘村、北灘村、下波村、蒋淵村、戸島村、日振島村、遊子村、三浦村、九島村
西宇和郡　三崎村、神松名村
温泉郡　西中島村、神和村(津和地、元怒和、上怒和)
南宇和郡　内海村、御莊町、城邊町、東外海村、西外海村

福岡縣
若松市
八幡市
戸畑市
小倉市
門司市　但シ大字門司字海岸通リ九ノ二、字濱町一四ノ一、字馬場三一二〇ノ一、三一二〇ノ四、三一二四ノ三、字竹ツエ三〇九五ノ二、字久保田一九〇四、字切通シ一八九七、一八九三、字五反田一七三八ノ二、字坂ノ本一六九二ノ四、字クレイ一一三二ノ一、字ホウサイダ竹ノ下一〇九八ノ一、字棧橋通リ一四、ヌノ一ノ外側ヲ連ヌル線ヨリ海ニ至ル地域内ヲ除ク
企救郡
京都郡　白川村、苅田町
遠賀郡
鞍手郡　頓野村、木屋瀬町、植木町、劍村(小牧)、古月村(上木月)
宗像郡　岬村(地島)、大島村
糟屋郡　新宮村(相島)、志賀島村
早良郡　殘島村
糸島郡　北崎村(玄界島、小呂島)

大分縣
北海部郡　佐賀關町、坂ノ市町、佐志生村、下ノ江村(下ノ江、田井)、下北津留村(藤河内)、上北津留村(嶽谷)、大在村(竹下、城原)、小佐井村、神崎村、一尺屋村、日代村、四浦村、保戸島村
南海部郡　東上浦村、大入島村、西中浦村、中浦村、東中浦村、米水津村

佐賀縣
東松浦郡　唐津町、鏡村、濱崎町、久里村、鬼塚村、唐津村、入野村、有浦村、値賀村、湊村、名護屋村、呼子村、打上村、佐志村
西松浦郡　伊萬里町、牧島村、黒川村、有田村、曲川村、大山村、二里村、東山代村、西山代村

鹿兒島縣
薩摩郡　里村、上甑村、下甑村、藺牟田村
熊毛郡
大島郡
川邊郡　笠砂村(草垣島、宇治列島)

沖縄縣

北海道
函館市　但シ幸町、鰪澗町、壽町、地藏町、臺場町、若松町、大町、富岡町、曙町、末廣町、汐留町、仲町、音羽町、仲濱町、鍛冶町、東濱町、豐川町、帆影町、高砂町、辨天町、旅籠町、船場町、西川町、小舟町、海岸町、西濱町、天神町、會所町、惠比須町、大黒町、大繩町、駒止町、新濱町、鶴岡町及眞砂町ヲ除ク
室蘭市
龜田郡　湯川村、錢龜澤村、戸井村、尻岸内村、龜田村、七飯村、大野村
上磯郡　上磯町、茂別村
松前郡
幌別郡
有珠郡
釧路郡
厚岸郡
花咲郡
根室郡
宗谷郡
利尻郡
禮文郡
得撫郡
新知郡
占守郡
國後郡
色丹郡
紗那郡
擇捉郡
蘂取郡

樺太
本斗郡
留多加郡
大泊郡
長濱郡
散江郡
敷香郡　敷香村

名好郡　名好村
眞岡郡　眞岡町

備考

一　本表ノ地域ハ行政區劃ノ變更ニ因リ本表ニ掲ゲル地區ヲ包含スルニ至レル市、町、村又ハ之ニ準ズルモノニ及ブモノトス大字、字、島又ハ番地ノ變更アリタルトキ亦同ジ

二　本表中町、村名ノ次ニ括弧ヲ以テ記載セルハ大字、字又ハ島ヲ示ス

●外國人土地法施行令第二條乃至第四條ノ規定ニ依ル許可申請ニ關スル件

大正十五年十一月十一日
陸軍省海軍省令第一號

外國人土地法施行令第二條乃至第四條ノ規定ニ依ル許可申請ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人カ外國人土地法施行令第二條ニ依リ陸軍大臣及海軍大臣ノ許可ヲ申請セントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル書面四通ヲ當該土地ノ所在地ヲ管轄スル地方長官(樺太ニ在リテハ樺太廳長官)ヲ經由シ提出スヘシ

一　取得セントスル權利ノ種類(地上權又ハ永小作權ニ在リテハ其ノ存續期間共)
二　權利取得ノ目的
三　土地所在ノ道府縣(樺太)、郡、市、區、町、村、字及土地ノ番號
四　地目及段別又ハ坪數
五　申請人ノ氏名、國籍、住所又ハ居所(日本ニ於テ住所又ハ居所ヲ有セザル者ニ在リテハ本國ノ住所)及職業(法人ニ在リテハ其ノ名稱、目的、事務所及代表者ノ氏名、住所又ハ居所)

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一　土地所在ノ位置概見圖(一般圖及細部圖但シ地貌ヲ表示セザルモノ)
二　外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人ニ在リテハ其ノ登記ノ謄本
三　土地所有權取得ノ申請ニ在リテハ讓渡人、地上權又ハ永小作權ノ申請ニ在リテハ所有權者及當該權利ノ讓渡人ノ承諾書
四　申請人及前號ノ承諾ヲ爲ス者外國人ナルトキハ前項第五號ニ規定スル事項ニ付日本ニ在ル領事又ハ本國管轄官廳ノ認證

前項第二號ノ謄本及第三號ノ承諾書ハ各一通之ヲ提出シ同第四號ノ認證ハ申請書一通ニ付之ヲ受クヘシ

第二條　前條ノ規定ハ帝國臣民カ外國人ト爲リ又ハ帝國法人カ外國人土地法第五條ニ規定スル法人ト爲リタルトキ外國人土地法施行令第三條ニ依リ許可ヲ申請スル場合竝外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人カ同施行令第四條ニ依リ許可ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●外國人永代借地權ニ關スル法律

明治三十四年九月二十一日
法律第三十九號
改正　明治四一年第六二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル永代借地權ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
(各大臣副署)

第一條　政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ハ之ヲ物權トシ民法中所有權ニ關スル規定ヲ準用ス

永代借地權ハ民法ノ規定ニ從ヒ他ノ權利ノ目的タルコトヲ得

地券、條約又ハ法令ニ別段ノ定メアル場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第二條　永代借地權ノ移轉アリタルトキハ其ノ土地ノ所在地ヲ管轄スル地方廳ニ於テ地券ニ其ノ旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二條ノ二　永代借地權ノ競賣ニ付テハ本法ニ別段ノ定メアルモノヲ除クノ外民事訴訟法及競賣法中不動産ノ競賣ニ關スル規定ヲ準用ス

第二條ノ三　競賣ノ申立書ニハ永代借地券ヲ添附スヘシ申立人地券ヲ提出スルコト能ハサルトキハ地方廳ノ認證アル地券ノ謄本ヲ添附スヘシ

第二條ノ四　裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ地方廳ニ通知スヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ競賣手續中地券ニ移轉ノ記載ヲ爲スコトヲ得ス

第二條ノ五　民事訴訟法第七百條第一項又ハ競賣法第三十三條第一項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ競落人カ取得シタル永代借地權ノ移轉ノ記載ヲ地方廳ニ囑託スヘシ

前項ノ場合ニ於テ申立人ヨリ提出シタル地券アルトキハ囑託書ニ之ヲ添附スヘシ

第二條ノ六　地方廳ニ於テ前條ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク地券ニ永代借地權ノ移轉ノ記載ヲ爲シ之ヲ裁判所ニ返還スヘシ

第二條ノ七　地方廳カ第二條ノ五ノ囑託ヲ受ケタル場合ニ於テ囑託書ニ地券ノ添附ナキトキハ地券名義人ニ對シ地券ノ提出ヲ命スヘシ

地券名義人カ地券ヲ提出シタルトキハ遲滯ナク其ノ地券ニ永代借地權ノ移轉ノ記載ヲ爲シ之ヲ裁判所ニ送付スヘシ

第二條ノ八　地券名義人カ地券ヲ提出セサルトキハ地方廳ハ競落人ニ對シ更ニ新地券ヲ發給スヘシ

提出セサル地券ハ新地券ノ發給ニ因リテ其ノ效力ヲ失フ

第二條ノ九　前條第一項ノ規定ニ依リ發給スヘキ地券ハ地方廳ノ記録ニ基キ原地券ノ全文ヲ掲ケテ之ヲ作成シ且競落人ノ氏名、國籍、住所、新地券發給ノ原因、其ノ日附及地方長官ノ官氏名ヲ記入シ官印ヲ押捺スヘシ

第二條ノ十　地方廳カ第二條ノ八第一項ノ規定ニ依リ新地券ヲ發給スルトキハ其ノ地券ニ永代借地權ノ移轉ノ記載ヲ爲シ遲滯ナク之ヲ裁判所ニ送付スヘシ

第二條ノ十一　地券カ第二條ノ八第二項ノ規定ニ依リ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ地方廳ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ舊地券名義人ニ通知シ且官報及新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第二條ノ十二　地方廳ニ於テ永代借地權ノ移轉ヲ地券ニ記載シタルトキハ遲滯ナク其ノ永代借地ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知書ニハ地券ノ謄本ヲ添附スヘシ

第二條ノ十三　管轄登記所ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ永代借地權ノ移轉、競落ニ因リテ消滅シタル永代借地權上負擔記入ノ抹消及競賣申立記入ノ抹消ノ登記ヲ爲スヘシ

第二條ノ十四　裁判所ハ第二條ノ六ノ規定ニ依リ地券ノ返還ヲ受ケタルトキ又ハ第二條ノ七第二項及第二條ノ十ノ規定ニ依リ地券ノ送付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ競落人ニ交付スヘシ

第二條ノ十五　競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方廳ニ通知スヘシ

第二條ノ十六　永代借地權ノ競賣ニ關スル規定ハ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三條　永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ニ付テハ登録稅ヲ課セス

第四條　永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記及永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附　則

第五條　本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條　民法施行法第四十五條ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七條　永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニシテ本法施行前ニ地上權又ハ之ヲ目的トスル權利トシテ登記セラレタルモノハ永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利トシテ登記セラレタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

●外國人ノ永代借地權ヲ帝國臣民取得ノ場合ニ關スル件

明治三十四年九月二十一日
勅令第百七十九號

朕帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタル場合ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（内務、司法、外務大臣副署）

第一條　帝國ノ臣民又ハ法人カ政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク其ノ土地所在地ヲ管轄スル地方廳ニ永代借地券ヲ提出シテ抹消ヲ受クヘシ

前項ニ依リ永代借地券ノ抹消ヲ受ケタルトキハ帝國ノ臣民又ハ法人ハ其ノ土地ノ所有權ヲ取得ス

第二條　帝國ノ臣民又ハ法人カ前條第一項ノ規定ニ依リ永代借地券ノ抹消ヲ受ケタルトキハ地方廳ハ其ノ土地所在地ヲ管轄スル登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三條　第一條ノ場合ニ於テ永代借地權ヲ目的トシタル權利ヲ有スル第三者アルトキハ其ノ權利ハ所有權ヲ目的トシタルモノトシテ存續ス

附　則

第四條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條　明治三十二年勅令第三百三十三號ハ之ヲ廢止ス

第六條　政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ニシテ本令施行前帝國法人ノ取得シタルモノハ其ノ土地ニ付既ニ所有權ノ登記アリタル場合ヲ除キ永代借地權トシテ存續ス但シ第一條ニ依リ所有權ヲ取得スルコトヲ妨ケス

明治三十四年九月二十五日 内務省令第二十四號

政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ヲ取得シタル帝國ノ臣民又ハ法人明治三十四年勅令第百七十九號第一條ニ依リ地券ノ抹消ヲ受ケ其ノ土地ノ所有權ヲ取得シタルトキハ地方廳ハ遲滯ナク其ノ土地所在地ヲ管轄スル稅務署ニ其ノ旨ヲ通知ス可シ

明治三十四年九月二十五日 大藏省訓令第三十四號　改正 明治四三年第二七號

明治三十四年内務省令第二十四號ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ稅務署ハ其ノ土地ニ付土地臺帳登錄ノ手續ヲ爲スヘシ【稅務管理局】・

●信託法　大正十一年四月二十一日 法律第六十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル信託法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣、司法大臣副署）

信託法

第一條　本法ニ於テ信託ト稱スルハ財產權ノ移轉其ノ他ノ處分ヲ爲シ他人ヲシテ一定ノ目的ニ從ヒ財產ノ管理又ハ處分ヲ爲サシムルヲ謂フ

第二條　信託ハ遺言ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三條　登記又ハ登錄スヘキ財產權ニ付テハ信託ハ其ノ登記又ハ登錄ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

有價證券ニ付テハ信託ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ證券ニ信託財產ナルコトヲ表示シ株券及社債券ニ付テハ尙株主名簿又ハ社債原簿ニ信託財產タル旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四條　受託者ハ信託行爲ノ定ムル所ニ從ヒ信託財產ノ管理又ハ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第五條　未成年者、禁治產者、準禁治產者及破產者ハ受託者ト爲ルコトヲ得ス

妻カ信託ノ引受ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

民法第十四條第二項及第十五條乃至第二十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條　信託ノ引受ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス

第七條　信託行爲ニ依リ受益者トシテ指定セラレタル者ハ當然信託ノ利益ヲ享受ス但シ信託行爲ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

第八條　不特定ノ受益者又ハ未タ存在セサル受益者アル場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ信託管理人ヲ選任スルコトヲ得但シ信託行爲ヲ以テ信託管理人ヲ指定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

信託管理人ハ前項ノ受益者ノ爲自己ノ名ヲ以テ信託ニ關スル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

裁判所ハ事情ニ依リ信託財產中ヨリ相當ノ報酬ヲ信託管理人ニ與フルコトヲ得

第九條　受託者ハ共同受益者ノ一人タル場合ヲ除クノ外何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス信託ノ利益ヲ享受スルコトヲ得ス

第十條　法令ニ依リ或財產權ヲ享有スルコトヲ得サル者ハ受益者トシテ其ノ權利ヲ有スルト同一ノ利益ヲ享受スルコトヲ得ス

第十一條　信託ハ訴訟行爲ヲ爲サシムルコトヲ主タル目的トシテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條　債務者カ其ノ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ信託ヲ爲シタル場合ニ於テハ債權者ハ受託者カ善意ナルトキト雖民法第四百二十四條第一項ニ規定スル取消權ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ受益者カ既ニ受ケタル利益ニ影響ヲ及ホサス但シ受益者ノ債權カ辨濟期ニ到ラサルトキ又ハ受益者カ其ノ利益ヲ受ケタル當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知リタルトキ若ハ重大ナル過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　受託者ハ信託財產ノ占有ニ付委託者ノ占有ノ瑕疵ヲ承繼ス

前項ノ規定ハ金錢其ノ他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ付之ヲ準用ス

第十四條　信託財產ノ管理、處分、滅失、毀損其ノ他ノ事由ニ因リ受託者ノ得タル財產ハ信託財產ニ屬ス

第十五條　信託財產ハ受託者ノ相續財產ニ屬セス

第十六條　信託財產ニ付信託前ノ原因ニ因リテ生シタル權利又ハ信託事務ノ處理ニ付生シタル權利ニ基ク場合ヲ除クノ外信託財產ニ對シ强制執行ヲ爲シ又ハ之ヲ競賣スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ反シテ爲シタル强制執行又ハ競賣ニ對シテハ委託者、其ノ相續人、受益者及受託者ハ異議ヲ主張スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第十七條　信託財產ニ屬スル債權ト信託財產ニ屬セサル債務トハ相殺ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條　信託財產カ所有權以外ノ權利ナル場合ニ於テハ受託者カ其ノ目的タル財產ヲ取得スルモ其ノ權利ハ混同ニ因リテ消滅スルコトナシ

第十九條　受託者カ信託行爲ニ因リ受益者ニ對シテ負擔スル債務ニ付テハ信託財產ノ限度ニ於テノミ其ノ履行ノ責ニ任ス

第二十條　受託者ハ信託ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スルコトヲ要ス

第二十一條　信託財產ニ屬スル金錢ノ管理方法ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條　受託者ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス信託財產ヲ固有財產ト爲シ又ハ之ニ付權利ヲ取得スルコトヲ得ス但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケ信託財產ヲ固有財產ト爲スハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ受託者カ相續其ノ他包括名義ニ因リ信託財產ニ付權利ヲ承繼スルコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條　信託行爲ノ當時豫見スルコトヲ得サリシ特別ノ事情ニ因リ信託財產ノ管理方法カ受益者ノ利益ニ適セサルニ至リタルトキハ委託者、其ノ相續人、受益者又ハ受託者ハ其ノ變更ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ裁判所ノ定メタル管理方法ニ付之ヲ準用ス

第二十四條　受託者數人アルトキハ信託財產

ハ其ノ合有トス

前項ノ場合ニ於テ信託行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外信託事務ノ處理ハ受託者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ一人ニ對シテ爲シタル意思表示ハ他ノ受託者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第二十五條　受託者數人アルトキハ信託行爲ニ因リ受益者ニ對シテ負擔スル債務ハ之ヲ連帶トス信託事務ノ處理ニ付負擔スル債務亦同シ

第二十六條　受託者ハ信託行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限リ他人ヲシテ自己ニ代リテ信託事務ヲ處理セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ受託者ハ選任及監督ニ付テノミ其ノ責ニ任ス信託行爲ニ依リ他人ヲシテ信託事務ヲ處理セシメタルトキ亦同シ

受託者ニ代リテ信託事務ヲ處理スル者ハ受託者ト同一ノ責任ヲ負フ

第二十七條　受託者カ管理ノ失當ニ因リテ信託財產ニ損失ヲ生セシメタルトキ又ハ信託ノ本旨ニ反シテ信託財產ヲ處分シタルトキハ委託者、其ノ相續人、受益者及他ノ受託者ハ其ノ受託者ニ對シ損失ノ塡補又ハ信託財產ノ復舊ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條　信託財產ハ固有財產及他ノ信託財產ト分別シテ之ヲ管理スルコトヲ要ス但シ信託財產タル金錢ニ付テハ各別ニ其ノ計算ヲ明ニスルヲ以テ足ル

第二十九條　第二十七條ノ規定ハ受託者カ前條ノ規定ニ違反シテ信託財產ヲ管理シタル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ信託財產ニ損失ヲ生シタルトキハ受託者ハ分別シテ管理ヲ爲シタル場合ニ於テモ損失ヲ生スヘカリシコトヲ證明スルニ非サレハ不可抗力ヲ理由トシテ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十條　信託財產ニ付附合、混和又ハ加工アリタル場合ニ於テハ各信託財產及固有財產ハ各別ノ所有者ニ屬スルモノト看做シ民法第二百四十二條乃至第二百四十八條ノ規定ヲ適用ス

第三十一條　受託者カ信託ノ本旨ニ反シテ信託財產ヲ處分シタルトキハ受益者ハ相手方又ハ轉得者ニ對シ其ノ處分ヲ取消スコトヲ得但シ信託ノ登記若ハ登錄アリタルトキ又ハ登記若ハ登錄スヘカラサル信託財產ニ付テハ相手方及轉得者ニ於テ其ノ處分カ信託ノ本旨ニ反スルコトヲ知リタルトキ若ハ重大ナル過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキニ限ル

第三十二條　受益者數人アル場合ニ於テ其ノ一人カ前條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ他ノ受益者ノ爲ニ其ノ效力ヲ生ス

第三十三條　第三十一條ニ規定スル取消權ハ受益者又ハ信託管理人カ取消ノ原因アルコトヲ知リタル時ヨリ一月內ニ之ヲ行ハサルトキハ消滅ス處分ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三十四條　受託者タル法人カ其ノ任務ニ背キタルトキハ之ニ干與シタル理事又ハ之ニ準スヘキ者亦連帶シテ其ノ責ニ任ス

第三十五條　受託者ハ營業トシテ信託ノ引受ヲ爲ス場合ヲ除クノ外特約アルニ非サレハ報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第三十六條　受託者ハ信託財產ニ關シテ負擔シタル租稅、公課其ノ他ノ費用又ハ信託事務ヲ處理スル爲自己ニ過失ナクシテ受ケタル損害ノ補償ニ付テハ信託財產ヲ賣却シ他ノ權利者ニ先チテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

受託者ハ受益者ニ對シ前項ノ費用又ハ損害ニ付其ノ補償ヲ請求シ又ハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得但シ受益者カ不特定ナルトキ及未タ存在セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ受益者カ其ノ權利ヲ拋棄シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三十七條　前條ノ規定ハ受託者カ信託財產ヨリ報酬ヲ受クヘキ場合ニ其ノ報酬ニ付之ヲ準用ス受託者カ受益者ヨリ報酬ヲ受クヘキ場合亦同シ

第三十八條　第三十六條又ハ前條ニ規定スル受託者ノ權利ハ受託者カ第二十七條又ハ第二十九條ノ規定ニ依ル損失ノ塡補及信託財產復舊ノ義務ヲ履行シタル後ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第三十九條　受託者ハ帳簿ヲ備ヘ各信託ニ付其ノ事務ノ處理及計算ヲ明ニスルコトヲ要ス

受託者ハ信託引受ノ時及每年一回一定ノ時期ニ於テ各信託ニ付財產目錄ヲ作ルコトヲ要ス

第四十條　利害關係人ハ何時ニテモ前條ノ書類ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

委託者、其ノ相續人及受益者ハ信託事務ノ處理ニ關スル書類ノ閱覽ヲ請求シ且信託事務ノ處理ニ付說明ヲ求ムルコトヲ得

第四十一條　信託事務ハ營業トシテ信託ノ引受ヲ爲ス場合ヲ除クノ外裁判所ノ監督ニ屬ス

裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ信託事務ノ處理ニ付檢査ヲ爲シ且檢査役ヲ選任シ其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四十二條　受託者カ死亡シタルトキ又ハ破產、禁治產若ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其ノ任務ハ之ニ因リテ終了ス受託者タル法人カ解散シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ受託者ノ相續人、其ノ法定代理人、破產管財人、後見人、保佐人又ハ淸算人ハ新受託者カ信託事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ル迄信託財產ヲ保管シ且信託事務ノ引繼ニ必要ナル行爲ヲ爲スコトヲ要ス法人合併ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ合併後存續スル法人亦同シ

第四十三條　受託者ハ信託行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外受益者及委託者ノ承諾アルニ非サレハ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十四條　信託行爲ニ依リ特定ノ資格ニ基キ受託者ト爲リタル者其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ任務ハ之ニ因リテ終了ス

第四十五條　第四十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ任務終了シタル者ハ新受託者カ信託事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ル迄仍受託者ノ權利義務ヲ有ス

第四十六條　已ムコトヲ得サル事由アルトキハ受託者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得

第四十七條　受託者カ其ノ任務ニ背キタルトキ其ノ他重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ委託者、其ノ相續人又ハ受益者ノ請求ニ因リ受託者ヲ解任スルコトヲ得

第四十八條　第四十六條又ハ前條ノ規定ニ依リ受託者其ノ任務ヲ辭シ又ハ解任セラレタルトキハ裁判所ハ信託財產ノ管理人ヲ選任シ其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四十九條　受託者ノ任務終了ノ場合ニ於テハ利害關係人ハ新受託者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ遺言ニ依リ受託者トシテ指定セラレタル者カ信託ノ引受ヲ爲サス又ハ之ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ信託行爲ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

第八條第三項ノ規定ハ受託者ニ付之ヲ準用ス

第五十條　受託者ノ更迭アリタルトキハ信託財產ハ前受託者ノ任務終了ノ時ニ於テ新受託者ニ讓渡サレタルモノト看做ス

受託者數人アル場合ニ於テ其ノ一人ノ任務終了シタルトキハ信託財產ハ當然他ノ受託者ニ歸ス

第五十一條　第二十七條又ハ第二十九條ニ規定スル權利ハ新受託者亦之ヲ行フコトヲ得

第五十二條　受託者ノ更迭アリタルトキハ新受託者ハ前受託者カ信託行爲ニ因リ受益者ニ對シテ負擔シタル債務ヲ承繼ス

前項ノ規定ハ第五十條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

信託事務ノ處理ニ付生シタル債權ハ信託財

産ノ限度ニ於テ新受託者ニ對シテモ亦之ヲ行フコトヲ得

第五十三條　信託財産ニ對スル強制執行又ハ競賣手續ハ新受託者ニ對シテ之ヲ續行スルコトヲ得

第五十四條　前受託者ハ第三十六條第一項ニ規定スル費用若ハ損害ノ補償ヲ受クル權利又ハ第三十七條ニ規定スル報酬ヲ受クル權利ニ基キ新受託者ニ對シ信託財産ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ之ヲ競賣スルコトヲ得

前受託者ハ前項ノ權利ヲ行フ爲信託財産ヲ留置スルコトヲ得

第五十五條　受託者更迭ノ場合ニ於テハ信託事務ノ計算ヲ爲シ受益者又ハ信託管理人ノ立會ヲ以テ事務ノ引繼ヲ爲スコトヲ要ス

受益者又ハ信託管理人カ前項ノ計算ヲ承認シタルトキハ前受託者ノ其ノ受益者ニ對スル引繼ニ關スル責任ハ之ニ因リテ解除セラレタルモノト看做ス但シ不正ノ行爲アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條　信託行爲ヲ以テ定メタル事由發生シタルトキ又ハ信託ノ目的ヲ達シ若ハ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ信託ハ之ニ因リテ終了ス

第五十七條　委託者カ信託利益ノ全部ヲ享受スル場合ニ於テハ委託者又ハ其ノ相續人ハ何時ニテモ信託ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民法第六百五十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五十八條　前條ノ場合ヲ除クノ外受益者カ信託利益ノ全部ヲ享受スル場合ニ於テ信託財産ヲ以テスルニ非サレハ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサルトキ其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキハ裁判所ハ受益者又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ信託ノ解除ヲ命スルコトヲ得

第五十九條　第五十七條及前條ノ規定ニ拘ラス信託ノ解除ニ關シ信託行爲ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

第六十條　信託ノ解除ハ將來ニ向テノミ其ノ效力ヲ生ス

第六十一條　第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ信託カ解除セラレタルトキハ信託財産ハ受益者ニ歸屬ス

第六十二條　信託終了ノ場合ニ於テ信託行爲ニ定メタル信託財産ノ歸屬權利者ナキトキハ其ノ信託財産ハ委託者又ハ其ノ相續人ニ歸屬ス

第六十三條　信託終了ノ場合ニ於テ信託財産カ其ノ歸屬權利者ニ移轉スル迄ハ仍信託ハ存續スルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ歸屬權利者ヲ受益者ト看做ス

第六十四條　第五十三條及第五十四條ノ規定ハ信託ノ終了ニ因リ信託財産カ受益者其ノ他ノ者ニ歸屬シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　信託終了ノ場合ニ於テハ受託者ハ信託事務ノ最終ノ計算ヲ爲シ受益者ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第五十五條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六十六條　祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其ノ他公益ヲ目的トスル信託ハ之ヲ公益信託トシ其ノ監督ニ付テハ後六條ノ規定ヲ適用ス

第六十七條　公益信託ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第六十八條　公益信託ノ引受ニ付テハ受託者ハ主務官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第六十九條　主務官廳ハ何時ニテモ公益信託事務ノ處理ニ付検査ヲ爲シ且財産ノ供託其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

受託者ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ信託事務及財産ノ狀況ヲ公告スルコトヲ要ス

第七十條　公益信託ニ付信託行爲ノ當時豫見スルコトヲ得サリシ特別ノ事情ヲ生シタルトキハ主務官廳ハ信託ノ本旨ニ反セサル限リ信託ノ條項ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第七十一條　公益信託ノ受託者ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限リ主務官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得

第七十二條　公益信託ニ付テハ第八條第一項第三項、第二十二條第一項但書及第四十七條乃至第四十九條ニ規定スル裁判所ノ權限ハ主務官廳ニ屬ス但シ第四十七條及第四十九條ニ規定スル權限ニ付テハ職權ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

第七十三條　公益信託終了ノ場合ニ於テ信託財産ノ歸屬權利者ナキトキハ主務官廳ハ其ノ信託ノ本旨ニ從ヒ類似ノ目的ノ爲ニ信託ヲ繼續セシムルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

信託法ハ大正十二年一月一日ヨリ施行（大正十一年勅令第五百十二號）

●有價證券ノ信託財産表示及信託財産ニ屬スル金錢ノ管理ニ關スル件

大正十一年十二月二十九日 勅令第五百十九號

朕有價證券ノ信託財産表示及信託財産ニ屬スル金錢ノ管理ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法、大藏大臣副署）

第一條　信託法第三條第二項ノ規定ニ依ル信託財産ナルコトノ表示ハ委託者又ハ受託者ノ請求ニ因リ公債、株式又ハ社債ニ付テハ發行者又ハ公證人、其ノ他ノ有價證券ニ付テハ公證人之ヲ爲ス但シ國債ニ付テハ日本銀行ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二條　公證人前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ信託表示簿ニ證券ノ種類及番號竝委託者及受託者ノ氏名ヲ記載シ證券ニハ信託財産ナルコト及登簿番號ヲ記載シテ日附アル印章ヲ押捺シ尙其ノ印章ヲ以テ信託表示簿ト證券トニ割印ヲ爲スヘシ

信託表示簿ニハ豫メ登簿番號ヲ印刷シ請求順ヲ以テ前項ノ規定ニ從ヒ記入ヲ爲スコトヲ要ス

信託表示簿ニハ地方裁判所長其ノ紙數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ且職印ヲ以テ毎紙ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第三條　發行者又ハ日本銀行第一條ノ請求ヲ受ケタルトキハ證券ニ信託財産ナルコトヲ記載シ其ノ年月日ヲ附記シ記名捺印スヘシ

第四條　第一條、第二條第一項及前條ノ規定ハ受託者カ信託財産ナルコトノ表示ノ抹消ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス

前項ニ規定スル表示ノ抹消ハ受益者モ亦之ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス

第五條　信託財産ニ屬スル金錢ノ運用ハ信託行爲ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外左ノ方法ニ依ルコトヲ要ス

一　公債及特別ノ法令ニ依リテ設立シタル會社ノ社債ノ應募、引受又ハ買入
二　國債其ノ他前號ノ有價證券ヲ擔保トスル貸付
三　郵便貯金
四　貯蓄銀行及特別ノ法令ニ依リテ設立シタル銀行ヘノ預金
五　前號ノ銀行以外ノ銀行ヘノ預金

前項第五號ノ方法ニ依ル運用ハ當該方法ニ依ルノ已ムコトヲ得サル事由アリト認メラルル場合ニ限ル

附　則

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●鐵道抵當法

明治三十八年三月十三日 法律第五十三號
改正　大正八年第五六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鐵道抵當法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法、遞信大臣副署）

鐵道抵當法

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ會社ト稱スルハ地方鐵道株式會社ヲ謂フ

第二條　會社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲鐵道ノ全部又ハ一部ニ付鐵道財團ヲ設クルコトヲ得

鐵道財團ニ屬スルモノハ同時ニ他ノ鐵道財團ニ屬スルコトヲ得ス

鐵道財團ハ之ヲ一箇ノ物ト看做ス

第三條　鐵道財團ハ左ニ掲クルモノニシテ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一　鐵道線路、其ノ他ノ鐵道用地及其ノ上ニ存スル工作物竝之ニ屬スル器具機械
二　工場、倉庫、發電所、變壓所、配電所、事務所、舍宅其ノ他工事又ハ運輸ニ要スル建物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械
三　用水ニ關スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械
四　鐵道用通信、信號又ハ送電ニ要スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械
五　前四號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動産ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前四號ニ掲ケタル土地ノ爲ニ存スル地役權
六　車輛及之ニ屬スル器具機械
七　保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料及器具機械

會社カ鐵道ニ要スル電氣ノ餘力ヲ以テ電氣供給ノ業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ供給ノ爲要スル第二號乃至第五號及第七號ニ掲ケタルモノニシテ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノハ之ヲ鐵道財團ニ屬セシムルコトヲ得

第四條　鐵道財團ハ所有權及抵當權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

鐵道財團ニ屬スルモノハ所有權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

鐵道財團ニ屬スヘキモノニシテ所有權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルトキ又ハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動産ニシテ賃借權ノ目的タルトキハ會社ハ鐵道財團ヲ設クルコトヲ得ス但シ不動産ニ關スル權利ニ付其ノ登記ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　抵當權ノ設定又ハ變更ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後定款變更ト同一方法ノ決議ヲ經監督官廳ノ認可ヲ受クルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第六條　鐵道財團ヲ抵當ト爲ス債務ノ額ハ社債ノ額ト合セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ舊債務ノ額ハ之ヲ算入セス

第七條　抵當權設定ノ認可ヲ申請スルニハ抵當證書及鐵道財團目錄ヲ差出スヘシ但シ擔保附社債ヲ發行スル場合ニ在リテハ信託證書ヲ以テ抵當證書ニ代フ

抵當證書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示
二　抵當權者、債務者及鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所
三　抵當權ノ順位
四　債權額及償還ノ方法竝期限
五　利率及利息支拂ノ方法竝期限

抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生スヘキ契約ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第八條　抵當權ノ設定認可ノ申請アリタルトキハ監督官廳ハ直ニ官報ヲ以テ鐵道財團ニ屬スヘキモノニ關シ第四條第三項ノ權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ一定ノ期間內ニ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ但シ其ノ期間ハ一箇月ヲ下ルコトヲ得ス

監督官廳ハ抵當權ノ設定認可ノ申請前ニ於テモ會社ノ申請ニ因リ豫メ前項ノ公告ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告後六箇月內ニ抵當權設定認可ノ申請ナキトキハ公告ハ其ノ效力ヲ失フ

會社カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ鐵道財團目錄ヲ差出スヘシ

第九條　前條第二項ニ依ル公告ヲ爲シタルトキ又ハ抵當權ノ設定認可ノ申請ヲ爲シタルトキハ鐵道財團ニ屬スヘキモノハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十條　第八條ノ公告アリタル後ハ同條第二項ニ依ル公告カ效力ヲ失ハサル間、抵當權ノ設定認可ノ申請カ却下セラレサル間及其ノ認可カ效力ヲ失ハサル間ハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動産ニ關スル權利ニ付競落ヲ許ス決定ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ動産ニ對スル競賣ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　抵當權設定ノ認可アリタルトキハ其ノ鐵道ニ關スルモノニシテ第三條第一項ニ掲ケタルモノハ當然鐵道財團ニ屬ス其ノ抵當權設定後新ニ鐵道財團ノ所有者ニ屬シタルモノ亦同シ

前項ノ規定ハ第三條第二項ニ依リテ鐵道財團ニ屬セシメタルモノニ之ヲ準用ス

前二項ニ掲ケタルモノニ關シ第四條第三項ノ權利アルトキハ不動産ニ關スルモノノ登記ハ其ノ效力ヲ失ヒ動産ニ關スルモノハ存セサルモノト看做シ差押、假差押若ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ但シ抵當權設定ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ第四條第三項ノ權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ鐵道財團ノ所有者ニ對シ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第八條ノ公告アリタルモノニ付期間內ニ申出ヲ爲ササル權利者竝期間經過後ニ於テ登記ノ申請ヲ爲シタル者、動産ニ關シ所有權以外ノ物權ヲ取得シタル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ヲ爲シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　第八條第二項ニ依ル公告カ效力ヲ失ヒタルトキ、抵當權ノ設定カ認可セラレサルトキ又ハ其ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ監督官廳ハ直ニ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第十三條　抵當權設定ノ認可アリタル後二箇月內ニ其ノ登錄ノ申請ナキトキハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十四條　抵當權ハ債權成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス

第十五條　抵當權ノ得喪若ハ變更又ハ鐵道財團ノ所有權ノ移轉ハ登錄ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十六條　數箇ノ債權ヲ擔保スル爲同一ノ鐵道財團ニ付抵當權ヲ設定シタルトキハ其ノ抵當權ノ順位ハ登錄ノ前後ニ依ル

第十七條　抵當權者ハ鐵道財團ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第十八條　抵當權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クル迄ハ鐵道財團ノ全部ニ付其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第十九條　抵當權ハ鐵道財團又ハ之ニ屬スルモノノ讓渡、貸付、滅失又ハ毀損ニ因リテ會社カ受クヘキ金錢其ノ他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ抵當權者ハ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條　會社カ鐵道財團ヲ讓渡シ、貸付シ若ハ抵當ト爲シ、鐵道財團ニ關スル營業ノ管理委託ヲ爲シ、其ノ線路ヲ變更シ又ハ其ノ線路ノ全部若ハ一部ニ付營業ヲ休止セムトスルトキ又ハ鐵道財團ニ屬スルモノヲ處分セムトスルトキハ抵當權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間內ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

抵當權者カ前項ノ期間內ニ異議ヲ述ヘタル

トキハ會社ハ監督官廳ノ裁定ヲ求ムヘシ此ノ裁定ハ終局トス

抵當權者カ外國ニ住所ヲ有スル場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ四箇月ヲ下ルコトヲ得ス

本條ノ規定ハ抵當權者カ豫メ同意ヲ與ヘタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十一條　會社カ鐵道財團ニ關スル工事方法ノ變更ニ付認可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ變更カ鐵道財團ノ價額ヲ著シク減スヘキ虞アリト認ムルトキハ監督官廳ハ會社ヲシテ抵當權者ニ對シ異議アラハ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告セシムヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條　免許ノ失效又ハ取消ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

前項ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵當權者ハ免許ノ失效又ハ取消ノ日ヨリ六箇月內ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

免許ハ前項ノ期間及抵當權實行ノ終了ニ至ル迄仍存續スルモノト看做ス

第二十三條　債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其ノ代價ヲ配當スヘキトキハ其ノ各鐵道財團ノ價額ニ準シテ其ノ債權ノ負擔ヲ分ツ

或鐵道財團ノ代價ノミヲ配當スヘキトキハ抵當權者ハ其ノ代價ニ付債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ順位ニ在ル抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ鐵道財團ニ付辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿ツル迄之ニ代位シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

第二十四條　前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其ノ抵當權ノ登錄ニ其ノ代位ヲ附記スルコトヲ得

第二十五條　抵當權者ハ鐵道財團ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ財產ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ鐵道財團ノ代價ニ先チテ他ノ財產ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス但シ他ノ債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケシムルカ爲之ニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條　政府カ鐵道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テ抵當權設定後二十箇年又ハ据置年限ヲ經過シタルトキハ抵當附債務ヲ辨濟スルコトヲ得但シ少クトモ一箇年前ニ豫告スヘシ

第二十六條ノ二　株式會社ニ非サル地方鐵道業者ノ鐵道ノ抵當ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二章　登錄

第二十七條　鐵道財團ニ關スル登錄ヲ爲ス爲監督官廳ニ鐵道抵當原簿ヲ備フ

鐵道抵當原簿ハ一箇ノ鐵道財團ニ付一用紙ヲ設ク

第二十八條　登錄ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外當事者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十九條　抵當權設定ノ登錄申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ

一　抵當權ノ設定ニ關スル證書

二　鐵道財團目錄

當事者ハ抵當權設定認可ノ申請書ニ添附シタル鐵道財團目錄ヲ前項第二號ノ書面トシテ引用スルコトヲ得

第一項第二號ノ書面ハ第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ登錄申請書ニハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第三十條　抵當權設定ノ登錄ハ鐵道抵當原簿ニ左ノ事項ヲ記載スルニ依リテ之ヲ爲ス

一　第七條第二項第一號乃至第五號ニ揭ケタル事項

二　免許ニ附シタル條件

三　抵當權ヲ設定シタルコト

四　抵當權設定認可ノ年月日

五　登錄ノ年月日

第七條第二項第一號及前項第二號ニ揭ケタル事項ハ第二以下ノ順位ノ抵當權ニ付テハ之ヲ登錄スルコトヲ要セス

第三十一條　登錄シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項消滅シタルトキハ當事者ハ遲滯ナク變更又ハ消滅ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ之ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

變更又ハ消滅カ監督官廳ノ命令又ハ認可ニ因リテ生シタル場合ニ於テハ前項ノ證明書ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第三十二條　同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テハ其ノ各鐵道財團ノ用紙ニ他ノ鐵道財團ヲ表示シ之ト共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

他ノ鐵道財團ニ關スル變更又ハ消滅ノ登錄カ前項ノ記載ヲ變更スルコトヲ要スルニ至リタルトキハ其ノ記載ニ變更ヲ附記シ他ノ鐵道財團ニ關スル消滅ノ登錄カ前項ノ記載ヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ記載ヲ抹消スヘシ

第三十三條　鐵道抵當原簿ニ抵當權ノ設定ヲ登錄シタルトキハ鐵道財團目錄ニ爲シタル記載ハ登錄ト同一ノ效力ヲ生ス

第三十四條　鐵道財團目錄ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項消滅シタルトキハ會社ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ屆出ヘシ

前項ノ屆書ハ鐵道財團目錄ニ編綴スルニ依リテ前條ノ效力ヲ生ス

第三十五條　一用紙ノ抵當權ノ登錄カ全部抹消セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第三十六條　左ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ直ニ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ但シ第二號ノ場合ニ於テハ新ナル管轄登記所ニノミ通知スヘシ

一　第一順位ノ抵當權ノ設定ヲ登錄シタルトキ

二　不動產ニ關スル權利カ新ニ鐵道財團ニ屬シタルトキ

三　鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキ

前項第一號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ直ニ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第三十七條　登記官吏カ前條第一號又ハ第二號ノ通知ヲ受ケタルトキハ第三號ノ通知ヲ受クル迄ハ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノニ付所有權以外ノ物權、賃借權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス但シ所有權以外ノ物權、賃借權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルモノカ監督官廳ノ證明書ニ依リ鐵道財團ニ屬セサルコト明白ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條　何人ト雖鐵道抵當原簿及鐵道財團目錄ノ閱覽ヲ請求シ又ハ手數料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第三十九條　鐵道抵當原簿ノ調製、鐵道財團目錄ノ樣式其ノ他登錄ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

第三章　强制競賣及强制管理

第四十條　鐵道財團ニ對スル抵當權ノ强制執行ハ强制競賣又ハ强制管理ニ依リテ之ヲ爲ス

抵當權者ハ自己ノ選擇ニ依リ前項ニ揭ケタル一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ倂セテ强制執行ヲ爲スコトヲ得

第四十一條　抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載シタル事項ヲ變更スル契約證書ハ强制執行ニ關シテハ公證人ノ作成シタル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ監督官廳ノ官吏之ヲ付與ス

第四十二條　强制執行ハ鐵道財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第四十三條　强制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之ニ署名捺印スヘシ

一　債務者タル會社及鐵道財團ノ所有者タル會社ノ商號及其ノ本店ノ所在地

二　競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示

三　競賣ノ原因タル事由

四　年月日

五　裁判所

申立書ニハ執行力アル正本ノ外鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ强制管理ノ開始アリタル場合ニ於テハ鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要セス

第四十四條　强制競賣ノ申立ハ競落期日迄ハ競買人ノ同意アル場合ニ限リ之ヲ取下クルコトヲ得

第四十五條　競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

開始決定ニハ申立人ノ名稱、住所及第四十三條第二項第一號乃至第四號ニ揭ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名捺印スヘシ

第四十六條　裁判所カ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ鐵道抵當原簿ニ競賣申立ノ登錄ヲ爲スヘキ旨ヲ監督官廳ニ囑託スヘシ

監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ直ニ登錄ヲ爲シ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第四十七條　裁判所カ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ租稅其ノ他ノ公課ヲ主管スル官廳及公署ニ對シ一定ノ期間內ニ鐵道財團ノ所有者ニ對スル權利ノ有無及其ノ限度ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ

第四十八條　裁判所ハ監督官廳ノ意見ヲ聽キ鑑定人ヲ選定シ競賣ニ付スヘキ鐵道財團ヲ評價セシメ其ノ評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲スヘシ

第四十九條　裁判所ハ競賣期日ヲ定メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示

二　競賣期日ノ場所、日時及入札締切ノ時

三　最低競賣價額

四　競落期日ノ場所及日時

五　執行記錄ヲ閱覽シ得ヘキ場所

第五十條　削除

第五十一條　鐵道事業ヲ營ム者ニ非スシテ競賣ニ加入スル者ハ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ

前項ノ規定ハ競買人ニシテ抵當權者カ之ニ加ハルモノニ付テハ其ノ債權額カ最低競賣價額ノ百分ノ五以上ニ相當スル場合ニ限リ之ヲ適用セス

第五十二條　競賣ハ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ

第五十三條　裁判所ハ競買人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封スヘシ

競落ト爲ルヘキ同價額ノ入札二箇以上アルトキハ裁判所ハ同價額ノ競買人ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ仍同價額ノ入札アルトキハ裁判所ハ直ニ抽籤ヲ以テ最高價競買人ヲ定ムヘシ

第五十四條　削除

第五十五條　競賣期日ニ於テ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ更ニ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ鑑定人ノ意見ヲ聽キ最低競賣價額ヲ低減スルコトヲ得

第五十六條　入札ハ之ヲ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス

入札ハ其ノ入札ヲ爲シタル競買人以外ノ者ニ競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキ、競落ヲ許ササル決定カ確定シタルトキ又ハ競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ終了シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第五十七條　裁判所ハ最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額ヲ表示シ競賣ノ終局ヲ告知スヘシ

第五十八條　裁判所ハ競賣ニ關スル調書ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　競賣ニ付セラレタル鐵道財團ノ表示

二　競賣申立人ノ表示

三　入札及開札ノ日時

四　總テノ競買價額及競買人ノ名稱、住所又ハ入札ナキコト、許スヘキ入札ナキコト若ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキコト竝第五十三條第二項又ハ第三項ノ手續ヲ爲シタルコト

五　競賣ノ終局ヲ告知シタル日時竝最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額

第五十九條　裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及競買人ニ競落ノ許可ニ付陳述ヲ爲サシムヘシ

第六十條　强制競賣申立ノ取下若ハ强制執行ノ取消アリタル場合又ハ第四十八條乃至第五十三條若ハ第五十七條ノ規定ニ違反シテ競賣ヲ爲シタル場合ニ限リ債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者又ハ競買人ハ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六十一條　裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許スヘキトキハ職權ヲ以テ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ノ許否ハ決定ヲ以テ之ヲ言渡スヘシ

第六十二條　競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲シタル者ハ第六十條ニ揭ケタル理由アル場合ニ限リ競落ヲ許ス決定ニ對シ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落期日ニ出頭シ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲ササル者ハ競落ヲ許ササル理由ナキ場合ニ限リ競落ヲ許ササル決定ニ對シ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十三條　裁判所ハ競落ニ關スル調書ヲ作成スヘシ

第六十四條　競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本ヲ監督官廳ニ送付スヘシ

第六十五條　競落代金ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日又ハ第七十三條ノ許可ヲ受クルコトヲ要スル者ニ在リテハ其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一週間以內ニ之ヲ裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル

第六十六條　競落代金ノ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鐵道財團ニ關スル權利ハ競落人ニ、競落人カ會社ノ發起人ナルトキハ其ノ競落人ニ依リテ發起セラレタル會社ニ移轉ス

抵當權ハ前項ニ依リ鐵道財團ニ關スル權利カ移轉シタルトキニ消滅ス

第六十七條　第七十三條ノ許可ヲ受ケサルトキ第七十三條ノ期間內ニ許可ノ申請ナキトキ又ハ第六十五條ノ期間內ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ競落ヲ許ス決定ヲ取消シ更ニ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競落ヲ許ス決定カ取消サレタルトキハ許可ハ取消サレタルモノトス

競落人ハ新競賣ニ加入スルコトヲ得ス且新競賣ニ於ケル競落代金カ最初ノ競落代金ヨリ少ナキトキハ其ノ不足額及手續ノ費用ヲ賠償スヘシ

第六十八條　裁判所ハ競落代金ノ中ヨリ順次ニ競賣ノ費用及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ハ抵當權ノ順位ニ從ヒ之ヲ抵當權者ニ配當シ仍殘餘アルトキハ之ヲ鐵道財團ノ所有者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ旨ヲ監督官廳ニ通知シ競賣申立ノ登錄ノ抹消ヲ囑託スヘシ

監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　第四十六條第二項ニ依リテ爲シタル登錄及抵當權ノ登錄ヲ抹消スルコト

二　競落ヲ許ス決定アリタルコトヲ管轄登記所ニ通知シ競落人又ハ競落人ニ依リ

テ發起セラレタル會社カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ登記竝第十一條第二項ニ依リ效力ヲ失ヒタル登記ノ抹消ヲ囑託スルコト

第六十九條　競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ監督官廳ニ通知シ競賣申立ノ登錄ノ抹消ヲ囑託スヘシ

監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ第四十六條第二項ニ依リ爲シタル登錄ヲ抹消スヘシ

第七十條　裁判所ハ二回以上競賣期日ヲ開始シタルモ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ抵當權者ノ同意アル場合ニ限リ競賣ニ付シタル鐵道財團ヲ個個ノモノトシテ競賣ニ付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ抵當權者ノ意見ヲ聽キ鐵道財團ニ屬スルモノヲ分割シテ競賣ニ付スルコトヲ得

第七十一條　前條ノ競賣ニ關シテハ第四十八條、第四十九條、第五十二條乃至第六十六條、第六十七條第一項、第三項、第六十八條及第六十九條ノ規定ヲ準用ス

競買人ハ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ

第七十二條　削除

第七十三條　競落人カ政府ニ非サル場合ニ於テハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ三箇月內ニ許可ヲ申請スヘシ

第七十四條　競落人カ會社ノ發起人ナルトキハ前條ノ許可ノ申請ニハ定款及會社ノ設立登記謄本ヲ添附スヘシ

第七十五條　削除

第七十六條　監督官廳ハ第七十三條及第七十四條ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ許可スヘシ

第七十七條　第七十三條ノ許可ハ競落人又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル會社カ競落代金ヲ支拂ヒタルトキニ其ノ效力ヲ生ス

第七十三條ノ許可カ效力ヲ生シタルトキハ競落人又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル會社ハ免許ニ屬スル權利及義務ヲ承繼ス

第七十八條　强制管理ニ付テハ第四十三條、第四十五條乃至第四十七條ノ規定ヲ準用ス

第七十九條　强制管理開始ノ決定確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本ヲ監督官廳ニ送付スヘシ

第八十條　前條決定ノ謄本ノ送付アリタルトキハ監督官廳ハ一人又ハ數人ノ管理人ヲ選任スヘシ但シ强制管理ノ申立人ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

商事會社ハ管理人タルコトヲ得

第八十一條　監督官廳ハ管理人ヲ監督シ、管理方法ニ付指揮ヲ爲シ且管理人ニ與フヘキ報酬ノ額ヲ定ムヘシ

監督官廳ハ前項ニ揭ケタル事項ニ付債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及鑑定人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

監督官廳ハ管理人ニ擔保ヲ供スヘキコトヲ命シ又ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第八十二條　監督官廳カ管理人ヲ任免シタルトキハ其ノ旨ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及裁判所ニ通知スヘシ

第八十三條　鐵道財團ノ所有者カ管理人選任ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ鐵道財團ヲ管理人ニ引渡スヘシ

管理人ハ鐵道財團ノ所有者ニ對シ管理ニ必要ナル書類其ノ他ノ物ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得

鐵道財團ノ所有者カ前二項ノ引渡ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ執達吏ヲシテ其ノ引渡ヲ爲サシムヘシ

第八十四條　强制管理ノ申立人ハ管理人ノ請求ニ因リ管理ノ費用ヲ立替支辨スヘシ

第八十五條　管理人ハ鐵道財團ノ管理及收益ニ付必要ナル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スヘシ

第八十六條　鐵道財團ノ管理ニ付官廳ニ對スル取締役ノ責任ハ管理人之ヲ負フ

第八十七條　管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ鐵道財團ノ收入ヨリ順次ニ管理ノ費用、管理人ノ報酬及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ヲ抵當權者ニ交付スヘシ

第八十八條　管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ計算報告書ヲ監督官廳ニ差出スヘシ

監督官廳ハ前項計算報告書ノ謄本ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者及抵當權者ニ送付シ且一定ノ期間內ニ異議アラハ之ヲ申出ツヘキ旨ヲ催告スヘシ

前項ノ期間內ニ異議ヲ申出テサリシ者ハ計算ヲ承認シタルモノト看做ス

異議ヲ申出テタル者アリタルトキハ監督官廳ハ管理人ノ陳述ヲ聽キタル後之ヲ裁定ス此ノ裁定ハ終局トス

第八十九條　管理人ハ前條第二項ノ期間ヲ過キ又ハ前條第四項ノ裁定ヲ經タル後ニ非サレハ抵當權者ニ對シ配當額ノ交付ヲ爲スコトヲ得ス

管理人カ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキハ抵當權者ノ名稱及配當額ヲ監督官廳及裁判所ニ通知スヘシ

第九十條　强制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

强制管理ノ申立ヲ爲シタル抵當權者カ辨濟ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ强制管理ノ取消ヲ命スヘシ

强制管理ノ申立人カ管理費用ノ立替支辨ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ强制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

第九十一條　前條第二項ノ場合ニ關シテハ第六十八條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ヲ除クノ外强制管理ノ取消ニ關シテハ第六十九條ノ規定ヲ準用ス

第四章　罰則

第九十二條　左ノ場合ニ於テハ取締役又ハ管理人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法ニ定メタル裁定ヲ遵守セサルトキ
二　第九條ノ規定ニ違反シタルトキ
三　第二十條又ハ第二十一條ノ催告ヲ爲ササルトキ
四　登錄ニ關シ不正ノ申請ヲ爲シタルトキ又ハ第三十一條ノ登錄ノ申請ヲ爲ササルトキ
五　鐵道財團目錄ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ、第三十四條ノ屆出ヲ爲ササルトキ又ハ不正ノ屆出ヲ爲シタルトキ
六　管理方法ニ付監督官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
七　第八十八條ノ計算報告書ヲ差出ササルトキ又ハ不正ノ報告ヲ爲シタルトキ
八　配當額ノ交付ヲ爲ササルトキ又ハ第八十七條若ハ第八十九條第一項ノ規定ニ違反シテ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキ
九　第八十九條第二項ノ通知ヲ爲ササルトキ

第九十三條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治三十八年勅令第百八十六號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

●鐵道抵當法施行規則

明治三十八年五月二十二日
遞信省令第三十七號

改正　明治四三年閣令第一七號
大正三年第一號、八年第一七號
昭和二年鐵道省令第一號

鐵道抵當法施行規則左ノ通定ム

鐵道抵當法施行規則

第一條　鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當負債ヲ要スル事由ヲ記載シ會社ノ取締役署名捺印シ監督官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第二條　鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當證書又ハ信託證書及鐵道財團目錄ノ外尙ホ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　抵當證書又ハ信託證書ノ謄本
二　株主總會ノ議事及決議ノ要領書
三　最終ノ貸借對照表
四　元利支拂ノ豫算
五　株金總額及拂込額ノ登記抄本

六　社債ノ總額及其ノ償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本

前項ニ依リ差出シタル抵當證書又ハ信託證書ハ抵當權設定ノ認可アリタルトキハ認可ノ證印ヲ附シテ之ヲ還付ス

第三條　鐵道抵當權設定ノ認可申請前會社ノ申請ニ因リ豫メ鐵道財團ノ公告ヲ爲シタル場合ニ於テ鐵道抵當法第八條ニ依リ鐵道財團目錄ヲ差出シタルモノニ付テハ鐵道抵當權設定ノ認可申請書ニ鐵道財團目錄ヲ添附スルコトヲ要セス

第四條　第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當權者ニ對スル催告ノ始末書及催告アリタルコトヲ證スル書面又ハ抵當權者ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　第二條第一項第四號ニ記載セル事項ヲ變更セントスルトキハ認可ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ變更ノ事項カ株主總會ノ決議ヲ要スルモノニ係ルトキハ認可申請書ニ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スルコトヲ要ス

第六條　抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項變更ノ認可申請書ニハ契約證書及其ノ謄本ヲ添附シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

第二條第二項及前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ノ變更ニシテ契約ニ基カサル場合ニ於テハ變更ノ事由竝年月日ヲ記載シ利害關係人署名捺印シテ屆出ツヘシ

第七條　鐵道抵當權設定ノ認可申請前ニ於ケル鐵道財團公告ノ申請書ニハ抵當負債ヲ要スル事由及其ノ總額ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シテ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ鐵道財團目錄ノ外第二條第一項第三號及第四號ニ揭クル書類ヲ添附スヘシ

第八條　鐵道抵當法第二十六條ノ場合ニ於テ其ノ債務ニ付据置年限經過後ニ於ケル辨濟期ニ關シ特約アルトキハ抵當權設定後二十箇年ニ滿ツル迄其ノ特約ニ依ルモノトス

第九條　鐵道抵當原簿ハ別記第一號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十條　鐵道財團目錄ハ別記第二號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十一條　鐵道財團目錄ニハ其ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シ且每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條　鐵道財團目錄ニ記載シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ屆書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ屆書ハ鐵道財團目錄ノ樣式ニ依リ揭クヘキ事項ヲ記載シ目錄ノ部門及舊事項ヲ附記スヘシ

保線ニ要スル材料及未開業線ノ鐵道財團ニ屬スルモノニ付テハ決算期每ニ之カ調査ヲ爲シ變更及消滅ノ屆出ヲ爲スヘシ

第十三條　鐵道抵當權設定ノ登錄申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ債權者及會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

一　鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示
二　抵當權者、債務者及鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所
三　抵當權ノ順位
四　債權額及償還ノ方法竝期限
五　利率及利息支拂ノ方法竝期限
六　免許ニ附シタル條件
七　抵當權ヲ設定シタルコト
八　抵當權設定認可ノ年月日
九　登錄稅額

第十四條　登錄ハ申請書受附ノ順序ニ依リテ之ヲ爲ス

第十五條　登錄申請書其ノ他ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

前項ノ受領證ハ登錄濟證ヲ交付スルトキハ之ヲ還納セシムヘシ

第十六條　第十三條ノ規定ハ登錄シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ登錄申請ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登錄申請書ハ正本一通及副本一通ヲ差出スヘシ

第十七條　鐵道抵當原簿ニ登錄ヲ完了シタルトキハ抵當權設定ノ場合ニ在リテハ抵當證書又ハ信託證書ニ、登錄事項ノ變更又ハ消滅ノ場合ニ在リテハ申請書ノ副本ニ登錄番號、申請書受附ノ年月日、受附番號及登錄濟ノ旨ヲ記載シ官印ヲ押捺シテ之ヲ申請者ニ還付スヘシ

第十七條ノ二　登錄稅法施行規則第四條ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ徵收シタルトキハ登錄官吏ハ後ニ登錄又ハ登記ヲ申請スヘキ官廳ノ數ニ應シ課稅價格ヲ記載シタル登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

登錄稅法施行規則第四條ノ場合ニ於テ既ニ他ノ官廳ニ於テ登記又ハ登錄ヲ受ケタルトキハ登錄申請書ニ當該官廳ノ交付シタル登錄稅ノ受領證ヲ添附スヘシ

第十八條　登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ付錯誤又ハ遺漏ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スルモノアルトキハ申請書ニ署名捺印シ又ハ其ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ書類ヲ添附スヘシ

第十九條　鐵道抵當原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ鐵道抵當原簿若ハ鐵道財團目錄ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ニ署名捺印シテ之ヲ差出スヘシ但シ抄本ヲ請求スル場合ニ於テハ抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載スヘシ

第二十條　鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其ノ用紙一枚ニ付手數料金十錢ヲ納ムヘシ但シ一枚ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ之ヲ一枚ニ計算ス

手數料ハ收入印紙ヲ以テ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

第二十一條　鐵道抵當法第二十條ニ依ル裁定申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ正副二通ヲ差出スヘシ

一　申請者及對手人ノ名稱、住所
二　裁定事件ノ表示
三　申請ノ要旨及理由

第二十二條　前條ノ申請書ヲ受取リタルトキハ其ノ副本ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シ答辯書ヲ差出サシムヘシ但シ裁定申請カ其ノ理由ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

必要ト認ムルトキハ期限ヲ附シテ更ニ申請者、對手人ヨリ辯駁書、答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第二十三條　答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載シ二通ヲ差出スヘシ

一　申請者及對手人ノ名稱、住所
二　裁定事件ノ表示
三　答辯又ハ辯駁ノ要旨及理由

第二十四條　必要ト認ムルトキ又ハ當事者一方ノ申立アルトキハ口頭審理ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　裁定申請者若ハ對手人期間內ニ答辯書若ハ辯駁書ヲ差出ササルトキ又ハ指定ノ審理期日ニ出頭セサルトキハ相手方ノ意見ヲ聽キ裁定ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　第二十一條乃至第二十五條ノ規定ハ管理人ノ計算報告書ニ對スル異議ノ裁定ニ之ヲ準用ス

第二十七條　執行力アル正本付與ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請者署名捺印シ抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載ノ事項ヲ變更シタル契約書ヲ添附シテ之ヲ差出スヘシ

一　債務者及鐵道財團所有者ノ名稱及住所
二　强制執行ヲ要スル事由

第二十八條　管理人推薦ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人之ニ署名捺印スヘシ

一　管理人タルヘキ者ノ名稱、住所
二　管理人タルニ適當ト認メタル事由及經歷

第二十九條　削除

附則

第三十條　本規則ハ鐵道抵當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

（第一號樣式）

鐵道抵當原簿

【逓信省鐵道局】

登錄番號第　號	
表題部	備考
第一號　財團所屬線路	
第二號　免許條件	
第三號　鐵道財團所有者ノ名稱及住所	
第四號　債務者ノ名稱及住所	
第五號　抵當權者ノ名稱及住所	
第六號　抵當權ノ順位	
第七號　債權額	
第八號　元金償還ノ方法並期限	
第九號　利率	
第十號　利息支拂ノ方法並期限	
第十一號　抵當權設定ノ認可年月日	

（第二號樣式）

鐵道財團目錄

某鐵道株式會社

線路

區間	本線	複線	三線以上本線側線	軌道	軌條重量
單線					
、、、、間	一〇・〇哩	九・一〇哩	七・〇〇哩	四・〇〇哩	七〇封度
、、、、間	九・一〇哩	七・〇〇哩	二六・一〇哩	五・六〇哩	三六呎
、、、、間	七・〇〇哩	二・六六哩	一三・六六哩	一五・〇〇哩	二・六哩
、、、、間	二・六六哩	一三・六六哩	一五・〇〇哩	二・六哩	三〇封度

抵當權ヲ設定シタル事務所

第十二號	第十三號
以上登錄ノ年月日	

本社用

事務所用

何々用

地上權、貸借權、地役權

國、郡、市町村大字	字番地	地目	段別坪數	用方	期限	使用料金	權利種別	設定及登記年月日	土地所有者氏名
、、國、郡、町村	三百五番	田	五〇〇坪	線路用	【明治卅五年】マデ	【明治卅五年一月ニ付金壹圓八拾錢】	地上權	明治三十七年五月五日	鈴木某外壹名
、、國、郡、町村	七二〇番	畑	一〇〇〇坪	工場用	【明治百年】マデ	【明治卅五年一月ニ付金壹圓五拾錢】	貸借權	明治三十八年三月十日	古井　榮作

備考　鐵道用地以外ノ用地ハ國郡市町村ノ順序ニ依リ種類ヲ追フテ一筆毎ニ之ヲ記載スヘシ

備考　鐵道用地ハ使用地ノ種類ニ應ジ線路別又ハ線坪數ヲ以テ之ヲ記載スヘシ

鐵道用地

區間	線路	停車場	工場	舍宅	何々
、、、、、、間	一三、七〇七・三一五段歩	一三、六〇〇・五一〇段歩	一五〇、〇〇〇坪	四五〇、〇〇〇坪	一〇、〇〇〇坪

鐵道用地以外ノ用地

國、郡、市町村大字	字番地	地目	段別坪數	使用種類
、、國、郡、村	一二一番	宅地	一二三坪	工場用
、、國、郡、村	一三三番	畑地	一三一一坪	工場用
、、、、、、	二一五番	宅地	一五六五坪	工場用
、、、、、、				舍宅用
、、、、、、				用水用

橋梁

名稱	哩程	桁又ハ拱橋臺橋脚構造	單線、複線又ハ何線	經間長	數
、、、、、、川	九九・五四〇哩	鐵壓梁、鐵ノ種類	單線	一三・三呎	一
、、、、、、川	一九一・〇一・〇〇	煉瓦造	單線	一三・三呎	一
、、、、、、川	三〇九・一〇・〇〇	版桁、鋼	複線	七〇・〇	一基
、、、、、、川	三一六・五九・〇〇	中圓形、拱	單線	一五・〇	一
、、、、、、川	三一六・五九・〇〇	プラット式構桁石及煉瓦混造	同上	二〇〇・〇	一〇

備考　權利ノ種類ニ依リ一筆毎ニ之ヲ記載スヘシ

備考　徑間十二呎未滿ノモノハ次表ニ之ヲ記載スヘシ

溝橋

區間	徑間	箇所
、、、間	三呎乃至十一呎	八五

隧道

名稱	哩程	構造	單線又ハ複線	延長
、、	自 〇〇・一九・三五 至 〇〇・二一・二五（哩・鎖・節）	石及煉瓦混造	複線	一・八〇（呎）
、、	〃 二〇七・七八・一三 〃 二〇八・〇二・五〇	煉瓦造	單線	二八九・〇一

電線

種類	區間	線數	延長	所屬器具機械
電信	、、、、、、、間	二	一三二、一五、五〇（里・丁・間）	一〇〇（臺）
電話	、、、、、、、間	三	一三二、一五、五〇	一五〇
ブロック線	、、、、、、、間	二	、、、、、、	一〇〇
電車用架空線	、、、、、、、間	單線	、、、、、、	
送電線	、、、、、、、間	二	、、、、、、	

建物其他工作物

種類	構造	坪又ハ延長等	所在地郡市町村番地	所屬器具機械
停車場本家附屬建物	煉瓦造瓦葺平家木造亞鉛葺平家三棟	合セテ二〇〇坪	、、市、、町、、番地	椅子、、、脚、机、、、脚、金庫、、、箇、、、其他器具一切
乘降場附屬上屋	擁壁石造木造柿葺平家	五、五〇〇呎 一五坪	同所	
發電所	木造瓦葺二階家煉瓦造瓦葺平家	外二階 五〇坪 二〇〃	同所	横置二回膨張凝汽機關、、臺、水管式汽鑵、、臺、横置給水喞筒、、臺、交番式發電機、、臺、變壓機、、臺、配電盤、、臺、、其他器具機械一切

原動機室	、、、、	、、、	、、、、	竪置二回膨張汽關、、臺、コルニッシュ汽鑵、、箇、ウオルシントン給水喞筒、、、ルーツ送風機、、臺、、直流發電機、、臺、、其他器具機械一切
煙突	煉瓦造八角	高 四〇呎、底部面積 二・三坪	、、、、	
鑄物工場	、、、、	、、、	、、、、	熔鑛爐、、臺、木製扛重機械一切臺、、、其他器具
木型工場	、、、、	、、、	、、、、	木削旋盤、、臺、、、其他器具機械一切
鍛冶工場	、、、、	、、、	、、、、	火床、、、箇、金敷、、、箇、水力壓搾機、、臺、汽鎚、、臺、鐵製扛重機、、臺、、、其他器具機械一切
機械工場	、、、、	、、、	、、、、	旋盤、、、臺、プレーニング機械、、、臺、車輪旋盤、、臺、ミリング機械、、、臺、穿孔盤、、、臺、シエーピング機械、、、臺、スロッチング機械、、、臺、車軸嵌入機械、、、臺、、其他器具機械一切
組立工場	、、、、	、、、	、、、、	
製罐工場	、、、、	、、、	、、、、	易搬扛重機、、、臺、穿孔及剪裁盤、、、臺、水力鋲締機、、、臺、、、其他器具機械一切
木工場	、、、、	、、、	、、、、	帶鋸機械、、、臺、丸鋸機械、、、臺、、、其他器具機械一切
塗工場	、、、、	、、、	、、、、	ペイントミル、、、、、臺、、、其他器具機械一切
、、、	、、、	、、、	、、、	、、、

備考

一　建建及工作物ハ停車場本屋、乘降場、機關庫、客車庫、信號所、跨線橋、別切番所、發電所、配電所、變壓所、本社、事務所、工場（各種ニ區別シ）舍宅、倉庫、給水場、轉車臺、遷車盤、貨物揚卸場、棧橋、用水池等重ナルモノヲ掲ケ一棟又ハ一箇每ニ種類ヲ追フテ之ヲ記載シ又所屬器具機械ハ馬力又ハ噸數等ノ明瞭ナルモノハ之ヲ附記スヘシ

二　附屬建物ハ本建物ノ欄ニ其棟數及坪數ヲ合記シ小建造物ハ末尾ノ欄ニ其棟數及坪數ヲ合記スヘシ

三　所屬器具機械ハ重ナルモノ、種類數量ヲ掲ケ「其他器具機械一切」ト記載スヘシ以下諸表亦同シ
煙突ハ獨立セル大ナルモノヲ記載シ各建造物ニ附屬セルモノ、如キハ之ヲ記載スルニ及ハス

機關車

種類	形式	記號番號	製造所名	製造年	重量	輛數	所屬器具機械
テンダーエンジン	六輪聯働單式八輪車	A 一	米國ボルター	一八八〇	三二・一五（噸）	一	ジャック、スパンナ、油差等其他器具一切
タンクエンジン	四輪聯働單式四輪車	B 一五乃至二〇	米國ボールドウ井ン	一八九八	二二・一五	五	
テンダーエンジン	八輪聯働單式十輪車	C 五〇 五一	同上	一八九八	五八・一二	二	

客車

種類	形式	記號番號	製造所名	製造年	定員	手小荷物室、郵便室容積	輛數	所屬器具機械
一等	八輪ボギー端扉	い 二乃至七	、、、工場	明治二十五年	五〇		五	眞空制動機、暖房器、點燈器等一切
二、三等合造	八輪ボギー端扉	に、さ 三〇	、、、、	、、、、	二等三六 三等五六		一	同上
緩急合造郵便車	四輪車	ゆ、り 三乃至八	、、、、	、、、、		手小荷物室二・七四（噸） 郵便室六・七〇	五	手用制動機、暖房器等一切
一等	四輪電動車	て 五乃至八	、、、、	、、、、	五〇		三	電氣制動機、コンプローラー、電動器、點燈器等一切

貨車

種類	形式	記號番號	製造所名	製造年	積量	輛數	所屬器具機械
貨車緩急車	八輪ボギー車	ワフ 一	、、、工場	明治二十二年	重量 五・〇〇噸 容量 四四〇立方呎	二	手用制動機及信號燈
有蓋貨車	四輪車	ワ 八、四八八乃至八、五〇三	、、、	、、、	〃 七・〇〇 〃 九八〇	一五	車側制動機
無蓋貨車	四枚側四輪車	ト 四二二乃至四三七	、、、	、、、	〃 七・〇〇	一五	眞空制動機
土運車	二枚側四輪車	ツチ 五〇一乃至五一〇	、、、	、、、	重量 四・〇〇	一〇	車側制動機

保線材料及器具機械

材料名稱	現在數	所在地
軌條	三十呎(六十磅) 一、〇〇〇本 二十四呎(五十磅) 五〇〇	、、、停車場内
枕木	普通 三、〇〇〇挺 ポイント用 二〇〇〃 橋梁用 一、〇〇〇〃	、、、
砂利	三〇〇坪	、、停車場附近
石材	一〇、〇〇〇切	、、、

器具機械名稱	現在數	所在地
杭打器械	一〇臺	、、倉庫
ブロック	五〇個	、、、
ショベル	一〇〇個	、、、
ジャック、トラベリング	五個	、、、

備考 線路ニ要スル材料ハ軌條、枕木、砂利、鐵材、石材、煉瓦、セメント等重ナルモノヲ記載スヘシ
保線材料及器具機械ハ表記ノ外末尾ニ其ノ他一切所屬ノ旨ヲ記載スヘシ

電氣供給用電線路

種類	區間及電氣供給區域	線條數	支持物	亙長	所屬器具機械
送電線	何々發電所ヨリ何々變壓所ニ至ル間	三	專用	、里、町、間	
送電線	何々變壓所ヨリ何々、、、ニ至ル間	六	專用	、、、	
配電線	供給區域何々市内一圓	三條乃至、、、條	專用一部何々會社電燈線ヲ添架セシム	、、、	柱上變壓器、、、臺
、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、

●軌道ノ抵當ニ關スル法律

明治四十二年四月十三日法律第二十八號
(總理、内務、司法、遞信大臣副署)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軌道ノ抵當ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條 軌道ノ抵當ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外鐵道抵當法ヲ準用ス

第二條 軌道財團ハ左ニ揭クルモノニシテ軌道財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一 軌道線路、其ノ他ノ軌道用地及其ノ上ニ存スル工作物並之ニ屬スル器具機械
二 工場、倉庫、廐舍、發電所、變壓所、配電所、事務所、舍宅其ノ他工事又ハ運輸ニ要スル建物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械
三 用水ニ關スル工作物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械
四 軌道用通信、信號又ハ送電ニ要スル工作物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械
五 前四號ニ揭ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前四號ニ揭ケタル土地ノ爲ニ存スル地役權
六 車輛及馬匹並之ニ屬スル器具機械
七 保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料及器具機械

軌道營業者カ軌道ニ要スル電氣ノ餘力ヲ以テ電氣供給ノ業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ供給ノ爲要スル第二號乃至第五號及第七號ニ揭ケタルモノヲ軌道財團ニ屬セシムルコトヲ得

第三條 公共團體カ軌道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テハ鐵道抵當法第二十六條ノ規定ヲ準用ス

特許ニ附シタル條件ニ依リ軌道財團ニ屬スルモノヲ無償ニテ國又ハ公共團體ニ引渡スヘキトキハ其ノ財團ヲ目的トスル抵當權ハ消滅ス

第四條 軌道營業者カ株式會社ニ非サル場合ニ於ケル軌道ノ抵當ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(明治四十二年勅令第百九十一號ヲ以テ同年七月二十二日ヨリ施行)

●軌道抵當取扱規則

明治四十二年七月二十一日閣令第六號
改正 大正三年第二號、八年第一八號

軌道抵當取扱規則左ノ通定ム

軌道抵當取扱規則

第一條 軌道抵當ノ取扱ニ關シテハ鐵道抵當法施行規則ヲ準用ス

第二條 抵當權ノ設定若ハ變更又ハ抵當證書若ハ信託證書ニ記載セル事項ノ變更ニ關スル書類ハ内閣總理大臣及内務大臣宛トシ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ但シ動力ニ電氣ヲ使用スル場合ニ於テハ内閣總理大臣、内務大臣及遞信大臣宛トス

第三條 軌道抵當權設定ノ認可申請書ニハ鐵道抵當法施行規則第二條第一項ニ揭クル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 物件擔保ノ負債アルトキハ其ノ總額及償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本又ハ證明書

第四條 軌道財團ニ關スル公告ノ申請書、抵當權ノ登錄ニ關スル申請書及軌道財團目錄ニ關スル書類ハ内閣總理大臣宛トシ之ヲ差出スヘシ

第五條 馬匹ノ財團目錄ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第六條 馬匹、保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料及未開業線ノ軌道財團ニ屬スルモノノ變更又ハ消滅ノ屆出ハ決算期ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第七條 執行力アル正本付與ノ申請書ハ内閣總理大臣宛トシ之ヲ差出スヘシ

第八條 競落人ニ依リテ發起セラレタル會社又ハ競落人タル會社ヨリ差出ス特許及許可ノ申請書ハ内閣總理大臣及内務大臣宛トシ地方長官ヲ經由スヘシ

第二條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 裁定申請書、管理人推薦ノ申立書、計算報告書及配當報告書ハ内閣總理大臣及内務大臣宛トシ之ヲ差出スヘシ

第二條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治四十二年法律第二十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

馬匹

種類	名稱	性	毛色	年齢	體尺	產地	特徴
内國種	、、	牡	青	五歲	五尺	熊本縣	頸ニ毛旋アリ
雜種	、、	、	、	、	、	、、、	、、、、
外國種	、、	、	、	、	、	、、、	、、、、

●工場抵當法

明治三十八年三月十三日法律第五十四號
(總理、農商務、司法大臣副署)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル工場抵當法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

工場抵當法

第一條 本法ニ於テ工場ト稱スルハ營業ノ爲物品ノ製造若ハ加工又ハ印刷若ハ撮影ノ目的ニ使用スル場所ヲ謂フ

營業ノ爲電氣又ハ瓦斯ノ供給ノ目的ニ使用スル場所ハ之ヲ工場ト看做ス

第二條 工場ノ所有者カ工場ニ屬スル土地ノ上ニ設定シタル抵當權ハ建物ヲ除クノ外其ノ土地ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物及其ノ土地ニ備附ケタル機械、器具其ノ他工場ノ用ニ供スル物ニ及フ但シ設定行爲ニ別段ノ定アルトキ及民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行爲ヲ取消スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ工場ノ所有者カ工場ニ屬スル建物ノ上ニ設定シタル抵當權ニ之ヲ準用ス

第三條 工場ノ所有者カ工場ニ屬スル土地又ハ建物ニ付抵當權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ土地又ハ建物ニ備附ケタル機械、器具其ノ他工場ノ用ニ供スル物ニシテ前條ノ規定ニ依リ抵當權ノ目的タルモノノ目錄ヲ提出スヘシ

第二十二條第二項、第三十五條及第三十八條乃至第四十二條ノ規定ハ前項ノ目錄ニ之ヲ準用ス

第四條 第二條第一項但書ニ揭ケタル別段ノ定アルトキハ抵當權設定ノ登記ノ申請書ニ之ヲ記載スヘシ

第五條 抵當權ハ第二條ノ規定ニ依リテ其ノ目的タル物カ第三取得者ニ引渡サレタル後ト雖其ノ物ニ付之ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ民法第百九十二條乃至第百九十四條ノ適用ヲ妨ケス

第六條 工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ土地又ハ建物ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ヲ土地又ハ建物ト分離シタルトキハ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス

工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ土地又ハ建物ニ備附ケタル機械、器具其ノ他ノ物ノ備附ヲ止メタルトキハ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス

工場ノ所有者カ抵當權者ノ爲差押、假差押又ハ假處分アル前ニ於テ正當ナル事由ニ因リ前二項ノ同意ヲ求メタルトキハ抵當權者ハ其ノ同意ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條 抵當權ノ目的タル土地又ハ建物ノ差押、假差押又ハ假處分ハ第二條ノ規定ニ依リテ抵當權ノ目的タル物ニ及フ

第二條ノ規定ニ依リテ抵當權ノ目的タル物ハ土地又ハ建物ト共ニスルニ非サレハ差押、假差押又ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第八條 工場ノ所有者ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲一箇又ハ數箇ノ工場ニ付工場財團ヲ設クルコトヲ得數箇ノ工場カ各別ノ所有者ニ屬スルトキ亦同シ

工場財團ニ屬スルモノハ同時ニ他ノ財團ニ屬スルコトヲ得ス

工場財團ハ抵當權ノ消滅ニ因リテ消滅ス

第九條 工場財團ノ設定ハ工場財團登記簿ニ所有權保存ノ登記ヲ爲スニ依リテ之ヲ爲ス

第十條 工場財團ノ所有權保存ノ登記ハ其ノ登記後六箇月内ニ抵當權設定ノ登記ヲ受ケサルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第十一條 工場財團ハ左ニ揭クルモノノ全部又ハ一部ヲ以テ之ヲ組成スルコトヲ得

一 工場ニ屬スル土地及工作物
二 機械、器具、電柱、電線、配置諸管、軌條其ノ他ノ附屬物
三 地上權
四 賃貸人ノ承諾アルトキハ物ノ賃借權
五 工業所有權

第七條　鑛業財團ノ競落人カ前條第一項ノ規定ニ依リ競賣ニ加入シタル者ナルトキハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ三箇月內ニ法人ヲ設立シ之ヲ執行裁判所ニ屆出ツヘシ

第八條　前條ノ競落人ハ法人設立ノ日ヨリ一週間以內ニ競落代金ヲ執行裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル

第九條　前條ノ規定ニ依リ競落代金ノ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鑛業財團ノ所有權ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル法人ニ移轉ス

第十條　第七條ノ期間內ニ法人設立ノ屆出ナキトキ又ハ第八條ノ期間內ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ執行裁判所ハ職權ヲ以テ鑛業財團ノ再競賣ヲ命スヘシ

前項ノ再競賣ニ關シテハ民事訴訟法第六百八十八條ノ規定ヲ準用ス

第十一條　工場抵當法中工場財團ニ關スル規則ハ鑛業財團ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治三十八年勅令第百八十八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

●漁業財團抵當法

大正十四年三月二十八日
法律第九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル漁業財團抵當法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、司法大臣副署）

漁業財團抵當法

第一條　漁業權若ハ其ノ登錄シタル賃借權ヲ有スル者、漁業ノ用ニ供スル登記シタル船舶ヲ有スル者又ハ水產物ノ養殖場ヲ有スル者ハ之ニ付抵當權ノ目的ト爲ス爲漁業財團ヲ設クルコトヲ得

第二條　漁業財團ハ左ニ揭クルモノニシテ同一人ニ屬スルモノノ全部又ハ一部ヲ以テ之ヲ組成スルコトヲ得

一　漁業權又ハ其ノ登錄シタル賃借權
二　船舶竝其ノ屬具及附屬設備
三　土地及工作物
四　地上權及土地若ハ水面ノ使用又ハ引水若ハ排水ニ關スル權利
五　漁具及副漁具
六　機械、器具其ノ他ノ附屬物
七　物ノ賃借權
八　工業所有權

前項ノ權利ニシテ其ノ移轉ニ付行政廳ノ許可又ハ認可ヲ要スルモノニ付テハ其ノ許可又ハ認可ヲ、賃借權ニ付テハ賃貸人ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ之ヲ漁業財團ニ屬セシムルコトヲ得ス

第三條　漁業權又ハ其ノ登錄シタル賃借權カ漁業財團ニ屬スル場合ニ於テハ抵當權ハ其ノ漁場ニ定著シタル工作物ニ及フ

船舶カ漁業財團ニ屬スル場合ニ於テハ抵當權ハ其ノ船舶ノ屬具ニ及フ

前二項ノ規定ハ設定行爲ニ別段ノ定アルトキ又ハ民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行爲ヲ取消スコトヲ得ル場合ニハ之ヲ適用セス

第四條　漁業權ニ付漁業財團ヲ設定シタル場合ニ於テ其ノ漁業免許ノ取消アリタルトキハ其ノ處分ヲ爲シタル行政官廳ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵當權者ハ第一項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六月內ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

漁業權ハ前項ノ期間內又ハ抵當權實行ノ終了ニ至ル迄抵當權實行ノ目的ノ範圍內ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ漁業免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生セサリシモノト看做ス

前四項ノ規定ハ水產物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊繫留、水底電線ノ敷設若ハ國防其ノ他ノ軍事上必要アル場合、公益上害アル場合又ハ錯誤ニ依リ漁業ノ免許カ與ヘラレタル場合ニ於ケル漁業免許ノ取消ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五條　前條第一項ノ規定ハ漁業權ノ登錄シタル賃借權ニ付漁業財團ヲ設定シタル場合ニ於テ其ノ漁業免許ノ取消アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條　漁業財團ニ付テハ本法ニ規定スルモノ及罰則ヲ除クノ外工場抵當法中工場財團ニ關スル規定ヲ準用ス但シ工場抵當法第十七條及第四十五條ノ規定ノ準用ニ付テハ漁業權又ハ其ノ登錄シタル賃借權ハ其ノ漁場ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃、漁業ノ用ニ供スル登記シタル船舶ハ其ノ船籍港ヲ以テ其ノ所在地ト看做ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十四年勅令第二百四十四號ヲ以テ同年七月六日ヨリ施行）

●確定日附簿及日附印章調製方

明治三十一年七月八日
司法省令第七號

確定日附簿及ヒ日附アル印章調製方左ノ通相定ム

第一條　登記所及ヒ公證人役場ニ備フヘキ確定日附簿及ヒ日附アル印章ハ左記雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　登記所ニ備フヘキ確定日附簿ハ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製シ登記所ノ請求ニ因リテ之ヲ渡スヘシ

第三條　公證人ニ於テ確定日附簿ヲ調製シタルトキハ記入前管轄地方裁判所長ニ差出シ其契印ヲ請フヘシ

確　定　日　附　簿

紙數表紙ヲ除キ　　枚

地方裁判所長

第壹號

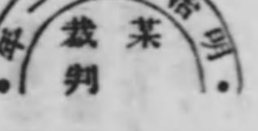
件名	署名者ノ氏名

第貳號

件名	署名者ノ氏名

第參號

件名	署名者ノ氏名	日附アル印章及ヒ割印



第四號

件名	署名者ノ氏名	日附アル印章及ヒ割印

第五號

件名	署名者ノ氏名	日附アル印章及ヒ割印

第六號

件名	署名者ノ氏名	日附アル印章及ヒ割印

第七號

件名	署名者ノ氏名	日附アル印章及ヒ割印

第八號

件名	署名者ノ氏名	日附アル印章及ヒ割印

日附アル印章雛形

外圓徑　一寸
內圓徑　六分

外圓徑　一寸
內圓徑　六分

●私署證書確定日附請求手數料及納付方

明治四十二年七月二十日
司法省令第十六號

私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所ニ請求スル者ノ納ムル手數料ニ關スル件左ノ通相定ム

私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所ニ請求スル者ハ每一件ニ付手數料三十錢ヲ納ムヘシ

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ請求書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ明治四十二年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年司法省令第十一號ハ之ヲ廢止ス

●朝鮮民事令

明治四十五年三月十八日
制令第七號

改正　大正七年第八號、一〇年第一四號、一一年第一號、第一三號

朝鮮民事令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮民事令

第一條　民事ニ關スル事項ハ本令其ノ他ノ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外左ノ法律ニ依ル

一　民法
二　明治三十五年法律第五十號
三　明治三十七年法律第十七號
四　明治三十二年法律第四十號
五　明治三十三年法律第五十一號
六　明治三十三年法律第十三號
七　民法施行法
八　商法
九　明治三十三年法律第十七號
十　商法施行法
十一　破產法
十二　和議法
十三　民事訴訟法
十四　外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法
十五　明治三十二年法律第五十號
十六　削除
十七　人事訴訟手續法
十八　非訟事件手續法
十九　民事訴訟費用法
十九ノ二　民事訴訟用印紙法
二十　商事非訟事件印紙法
二十一　執達吏手數料規則
二十二　競賣法

第二條　前條ノ法律中勅令ニ委任シタル事項ハ朝鮮總督府令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　第一條ノ法律中主務官廳ニ屬スル職務ハ民事訴訟法第百五十二條ノ場合ヲ除クノ外朝鮮總督、控訴院長ニ屬スル職務ハ覆審法院長、地方裁判所長ニ屬スル職務ハ地方法院長、市町村長ニ屬スル職務ハ府尹又ハ郡守之ヲ行フ

第四條　第一條ノ法律中公證人及執達吏ニ屬スル職務ハ裁判所書記之ヲ行フ

裁判所及檢事局ノ長ハ警察官吏其ノ他適當ト認ムル者ヲシテ執達吏ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第五條　執達吏ノ職務ヲ行フ者ハ執達吏規則第二條及第三條ノ事務モ亦之ヲ取扱フ

第六條　執達吏ノ職務ヲ行フ者ハ第一條ノ法律ノ適用ニ付テハ之ヲ執達吏ト看做ス但シ國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ受クル者カ執達吏ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ受クヘキ手

數料及旅費ハ國庫ノ收入トス

第七條　執達吏ノ職務ヲ行フ裁判所書記、警察官吏又ハ警察事務ヲ取扱フ官吏ハ書類ノ送達ニ限リ所屬廳ノ吏員ヲシテ臨時其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

官吏ニ非スシテ執達吏ノ職務ヲ行フコトヲ命セラレタル者ハ裁判所及檢事局ノ長ノ認可ヲ得テ代理者ヲ置クコトヲ得

第八條　第一條ノ法律ノ適用ニ付テハ府縣ハ道ニ、郡ハ郡ニ、市ハ府ニ、町村ハ府外ニ在ル面又ハ之ニ準スルモノニ該當ス

第九條　第一條ノ法律中官報ニ掲載シテ爲スヘキ公告ハ公示催告手續及失踪ニ關スル事項ニ付テハ官報及朝鮮總督府官報ニ、其ノ他ノ事項ニ付テハ朝鮮總督府官報ニ掲載シテ之ヲ爲ス

第十條　朝鮮人相互間ノ法律行爲ニ付テハ法令中公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異リタル慣習アル場合ニ於テハ其ノ慣習ニ依ル

第十一條　朝鮮人ノ親族及相續ニ關シテハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外第一條ノ法律ニ依ラス慣習ニ依ル但シ婚姻年齡、裁判上ノ離婚、認知、親權、後見、保佐人、親族會、相續ノ承認及財産ノ分離ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

分家、絶家再興、婚姻、協議上ノ離婚、緣組及協議上ノ離緣ハ之ヲ府尹又ハ面長ニ届出ツルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス但シ遺言ニ依ル緣組ニ付テハ其ノ届出ハ養親ノ死亡ノ時ニ遡リテ其ノ效力ヲ生ス

第十一條ノ二　朝鮮人ノ戸籍ニ關シテハ後七條ノ規定ニ依ル

第十一條ノ三　戸籍事務ノ管掌ニ付テハ戸籍法第一條、第二條、第四條及第七條ノ規定ニ、戸籍ノ訂正ニ付テハ戸籍法第百六十四條及第百六十五條ノ規定ニ、戸籍事件ノ抗告ニ付テハ戸籍法第百六十九條乃至第百七十五條ノ規定ニ、過料ノ裁判ニ付テハ戸籍法第百七十九條ノ規定ニ依ル但シ戸籍法中市町村長トアルハ府尹又ハ面長ニ、市役所又ハ町村役場トアルハ府廳又ハ面事務所ニ、區裁判所トアルハ地方法院ニ該當ス

第十一條ノ四　戸籍事務ハ府廳又ハ面事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方法院ノ院長之ヲ監督ス

戸籍事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條ノ五　正當ノ理由ナクシテ期間内ニ爲スヘキ届出又ハ申請ヲ爲ササル者ハ十圓以下ノ過料ニ處ス

第十一條ノ六　朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ府尹又ハ面長カ戸籍事務ニ關シ期間ヲ定メテ届出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其ノ期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲ササル者ハ二十圓以下ノ過料ニ處ス

第十一條ノ七　府尹又ハ面長ハ左ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處ス

一　正當ノ理由ナクシテ届出又ハ申請ヲ受理セサルトキ

二　戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

三　正當ノ理由ナクシテ戸籍簿、除籍簿又ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ閲覽ヲ許シタル書類ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ

四　正當ノ理由ナクシテ戸籍若ハ除カレタル戸籍ノ謄本、抄本又ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ交付スヘキ證明書ノ交付ヲ爲ササルトキ

五　其ノ他戸籍事件ニ付職務ヲ怠リタルトキ

第十一條ノ八　戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付虚僞ノ届出ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條ノ九　第十一條ノ三及第十一條ノ四ニ規定スルモノノ外戸籍簿、戸籍ノ記載手續、届出其ノ他戸籍ニ關シ必要ナル事項ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル

第十二條　不動産ニ關スル物權ノ種類及效力ニ付テハ第一條ノ法律ニ定メタル物權ヲ除クノ外慣習ニ依ル

第十三條　不動産ニ關スル物權ノ得喪及變更ニ付朝鮮不動産登記令又ハ朝鮮不動産證明令ニ於テ登記又ハ證明ノ規定ヲ設ケタルモノハ其ノ登記又ハ證明ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十四條　朝鮮不動産證明令ニ依リ證明ヲ受ケタル典當權ハ第一條ノ法律ノ適用ニ付テハ其ノ性質ニ從ヒ之ヲ不動産質權又ハ抵當權ト看做ス朝鮮不動産登記令ニ依リ不動産質權又ハ抵當權トシテ登記ヲ受ケタルモノ亦同シ

第十五條　民法第四十九條ノ規定ハ朝鮮外ニ住所ヲ有スル法人カ朝鮮ニ事務所ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第十六條　地方法院ニ於テ合議シテ裁判ヲ爲スヘキ事件ニ付テハ第一條ノ法律中其ノ事件ニ付定メタル地方裁判所ノ裁判手續ニ關スル規定ヲ準用シ其ノ他ノ事件ニ付テハ區裁判所ノ裁判手續ニ關スル規定及非訟事件手續法中地方裁判所ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ外區裁判所又ハ地方裁判所ニ關スル規定ハ之ヲ地方法院ニ、區裁判所判事ニ關スル規定ハ之ヲ地方法院判事ニ準用ス

第十七條　地方法院判事ハ事件カ朝鮮總督府裁判所令第四條第一項但書ニ該當スト認ムルトキハ決定ヲ以テ其ノ事件ヲ合議部ニ移付スヘシ

第十八條　第一條ノ法律ノ適用ニ付管轄裁判所ノ指定ヲ必要トスル場合ニ於テハ關係アル各裁判所ヲ併セテ管轄スル直近上級ノ裁判所指定ノ裁判ヲ爲ス

第十九條　檢事ハ民事事件ニ付必要ト認ムルトキハ裁判所ノ通知ヲ求メ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十條　裁判所又ハ裁判長カ職權ヲ以テ訴訟代理人又ハ訴訟ノ承繼人ヲ選定スヘキ場合ニ於テハ辯護士ニ非サル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二十一條　當事者ハ辯護士ノ在ルトキト雖裁判所ノ許可ヲ得テ訴訟能力者ヲ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十二條　假住所ニ於テスル送達ハ之ヲ受クヘキ人ニ出會ハサルトキハ成長シタル假住所ノ主人、其ノ同居ノ親族又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ送達ヲ受クヘキ者在ラサルトキハ假住所選定ノ届出ナキモノト看做ス

第二十三條　民事訴訟法第百四十五條第二項ノ規定ニ依リ市町村長ニ書類ヲ預置クヘキ場合ニ於テハ送達ヲ爲スヘキ地ヲ管轄スル警察事務ヲ取扱フ官署(巡査駐在所ヲ含ム)ノ長ニ之ヲ預置クヘシ

第二十四條　裁判所書記其ノ廳内ニ於テ送達ヲ受クヘキ者ニ書類ヲ交付シ受取證ヲ徵シタルトキハ送達ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第二十五條　公示送達ハ裁判所職權ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

第二十六條　訴訟關係人カ裁判長ノ定メタル期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シタルトキハ期日呼出ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生ス

第二十七條　裁判所又ハ裁判長ハ職權ヲ以テ期間ヲ相當ニ伸長スルコトヲ得但シ不變期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條　期日ノ變更又ハ期間ノ伸長ハ當事者合意ノ場合ニ於テモ相當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ許サス

第二十九條　口頭辯論期日ニ當事者雙方出頭セサルトキハ裁判長ハ更ニ期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出スヘシ

天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因ル場合ヲ除クノ外前項ノ新期日ニ當事者雙方出頭セサルトキハ本訴及反訴ハ之ヲ取下ケタルモノト看做ス

第三十條　訴訟手續休止ノ合意ハ書面ヲ以テ之ヲ裁判所ニ届出ツヘシ

前項届出ノ日ヨリ三月内ニ當事者ノ一方ヨリ口頭辯論期日ノ指定ノ申立ヲ爲ササルトキハ本訴及反訴ハ之ヲ取下ケタルモノト看做ス其ノ申立ヲ爲シタルトキト雖期日前重ネテ休止ヲ爲シ其ノ期間前後ヲ通算シテ三月ヲ超ユルトキ亦同シ

第三十一條　事件ノ移送又ハ差戻ノ判決確定シタルトキハ其ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ハ速ニ訴訟記錄ヲ移送又ハ差戻ヲ受ケタル裁判所ニ送付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ事件ノ移送又ハ差戻ヲ受ケタル裁判所ノ裁判長ハ職權ヲ以テ口頭辯論期日ヲ定メ當事者ヲ呼出スコトヲ得

第三十二條　裁判所ノ開廷ニ關シテハ裁判所構成法第百四條乃至第百十三條ノ規定ニ依ル

第三十三條　裁判長ハ必要ト認ムルトキハ訴訟關係人ニ對シ訴訟行爲ニ付注意ヲ爲スコトヲ得

第三十四條　裁判所ハ闕席判決ノ申立アリタルトキト雖職權ヲ以テ辯論ヲ延期スルコトヲ得

第三十五條　再度ノ闕席判決ニ對シテハ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十六條　判決ハ職權ヲ以テ之ヲ送達スルコトヲ得

前項ノ送達ハ判決ノ正本ノ交付ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十七條　闕席判決ヲ受ケタル當事者ニ送達スヘキ判決正本ニハ故障ヲ申立ツルコトヲ得サル場合ヲ除クノ外其ノ判決ニ對シ故障ノ申立ヲ爲シ得ヘキコト及其ノ期間ヲ附記スヘシ

前項ノ附記ナキトキハ更ニ其ノ通知アル迄故障期間ノ進行ヲ停止ス

第三十八條　削除

第三十九條　證據決定中一部ノ證據調ニ依リ結果ヲ得タルトキハ他ノ證據調ヲ省略スル決定ヲ爲スコトヲ得

第四十條　受命判事又ハ受託判事檢證ヲ爲ス場合ニ於テハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ決定ヲ待タスシテ檢證事項ニ關シ證人ヲ訊問シ又ハ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第四十一條　民事訴訟法第二百九十六條第一項ノ規定ハ之ヲ王族ニ、第二項ノ規定ハ之ヲ朝鮮總督ニ準用ス

第四十二條　裁判所ハ職權ヲ以テ民事訴訟法第三百五十一條ノ中間判決又ハ同法第三百五十二條ノ檢眞ヲ爲スコトヲ得

第四十三條　當事者ノ提出シタル許スヘキ證據ヲ調ヘタル結果ニ因リ證スヘキ事實ノ眞否ニ付裁判所カ心證ヲ得ルニ足ラサルトキハ職權ヲ以テ證人訊問ヲ爲スコトヲ得

第四十四條　職權ヲ以テ爲ス證據調ノ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フルコトヲ得

第四十五條　職權ヲ以テ爲シタル證據調ノ費用ノ全部又ハ一部ハ之ヲ國庫ノ負擔ト爲スコトヲ得

職權ヲ以テ爲シタル證據調ノ費用ヲ當事者ノ負擔ニ歸セシムヘキ場合ニ於テハ裁判所ハ判決ヲ以テ其ノ負擔者及金額ヲ定ムヘシ若訴又ハ上訴ノ取下アリタルトキハ決定ヲ以テ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ハ職權ヲ以テ爲シタル證據調ノ費用ヲ國庫ノ負擔ト爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條　控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ原裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス

第四十七條　判然許スヘカラサル控訴又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若ハ期間ノ經過後ニ起シタル控訴ハ原裁判所決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十八條　控訴ノ提起アリタルトキハ原裁判所ハ前條ノ規定ニ依リ控訴ヲ却下シタル場合ヲ除クノ外速ニ控訴狀ト共ニ訴訟記錄ヲ控訴裁判所ニ送付スヘシ前條ノ即時抗告ニ付民事訴訟法第四百六十四條第一項ノ裁判ノ通知アリタルトキ亦同シ

第四十九條　控訴裁判所ハ民事訴訟法第四百二十二條ノ場合ニ於テ當事者合意ノ申立アルトキハ直ニ第二審トシテ本案ノ辯論及判決ヲ爲スコトヲ得

第五十條　民事訴訟法第四百六十五條第三項ノ適用ニ付テハ大審院ハ高等法院ニ該當ス

第五十一條　第四十六條乃至第四十八條ノ規定ハ上告ニ之ヲ準用ス

第五十二條　上告完結ノ後其ノ記錄ハ上告審ニ於テ爲シタル判決ノ認證アル謄本ト共ニ直ニ之ヲ第一審裁判所ニ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ原裁判所ニ認證アル謄本ヲ送付スヘシ

第五十三條　民事訴訟法第三百三條乃至第三百五條及第五編ノ規定ハ之ヲ適用セス

第五十四條　民事訴訟法第五百二條各號ノ場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得

第五十五條　民事訴訟法第六百四十三條第一項第二號ノ證書ハ左ノ書面ノ一ヲ以テ之ニ充ツ

一　不動産證明簿ニ債務者ノ所有トシテ記載シアル不動産ニ付テハ證明官吏ノ認證シタル證明簿ノ抄本

二　不動産證明簿ニ記載シアラサル不動産ニ付テハ府尹又ハ郡守ニ於テ債務者ノ所有タルコトヲ證明シタル書面

同條第一項第三號及第四號ノ證書ハ左ノ書面ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

一　土地ニ付テハ府尹又ハ郡守ニ於テ其ノ所在地名、地番號(字號、四標等)、種目、面積(段別、坪數又ハ斗落、卜數等)、價額及其ノ土地ニ付納ムヘキ一年ノ公課ヲ證明シタル書面

二　建物ニ付テハ府尹又ハ郡守ニ於テ其ノ所在地名、敷地番號(字號、四標等)、戸番號、種類、構造、建坪、價額及其ノ建物ニ付納ムヘキ一年ノ公課ヲ證明シタル書面

前項ノ書面ニハ其ノ土地又ハ建物ノ圖面ヲ添附スヘシ

第五十六條　不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ不動産證明簿ニ記載シアル典當權者ハ之ヲ登記簿ニ記入アル不動産上權利者ト看做ス

第五十七條　民事訴訟法第六百五十一條乃至第六百五十三條、第六百五十五條、第六百八十九條第一項、第六百九十條、第七百條、第七百六條、第七百十六條第四項、第七百五十一條及第七百五十八條第三項ノ適用ニ付テハ不動産證明簿ハ登記簿ニ、證明ハ登記ニ、證明官吏ハ登記判事ニ準ス

第五十八條　執達吏ノ職務ヲ行フ者必要ト認ムルトキハ利害關係人ノ申立ナシト雖モ競賣人ニ對シ民事訴訟法第六百六十四條ノ保證ヲ立ツヘキコトヲ命スルコトヲ得

第五十九條　民事訴訟法第六百八十八條第五項ノ規定ニ依リ前競落人ノ負擔ニ歸シタル

金額ハ同法第六百六十四條又ハ前條ノ規定ニ依リ預リタル保證金又ハ有價證券ノ賣却代金ノ中ヨリ之ヲ徴收シ不動產ノ賣却代金ニ加フ

前項ノ有價證券ノ賣却ニ付テハ民事訴訟法第五百八十一條乃至第五百八十三條ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依リ處分シタル保證金又ハ有價證券ノ賣却代金ノ殘額ハ保證ヲ立テタル者ニ之ヲ返還スヘシ

第六十條　前二條ノ規定ニ依リ爲シタル手續ハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニスヘシ

第六十一條　前三條ノ規定ハ入札拂ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十二條　交通至難ノ地ニ在ル不動產ノ强制競賣ニ付テハ裁判所ハ開始決定ノ送達及民事訴訟法第六百五十一條第一項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲シタル後不動產ノ所在地ヲ管轄スル那守ニ執行記錄ヲ送付シテ其ノ後ノ手續ヲ囑託スルコトヲ得但シ競賣手續ヲ取消ス裁判及配當異議ノ訴ニ對スル裁判ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ囑託アリタル場合ニ於テハ發九條ノ規定ニ依ル外通當ノ手續ニ從フ

第六十三條　執行裁判所及配當裁判所ニ屬スル職務ハ那守之ヲ行フ

第六十四條　那守ハ民事訴訟法第六百五十三條及第六百五十六條ノ規定ニ依リ競賣手續ヲ取消スヘキモノト認メタルトキハ執行記錄ヲ裁判所ニ返還スヘシ

裁判所配當異議ノ訴ヲ受理シタルトキハ那守ニ通知シテ執行記錄ノ送付ヲ求ムヘシ

第六十五條　執達吏ノ職務ヲ行フヘキ者ハ那守其ノ廳ノ吏員中ニ就キ之ヲ命ス

第六十六條　競賣、競賣、代金支拂及配當ノ期日ハ那廳ニ於テ之ヲ開タ

第六十七條　競賣期日ノ公告ハ那廳ノ揭示場及適當ノ場所ニ其他ノ公告ハ那廳ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス

第六十八條　民事訴訟法第六百六十八條ノ規定ニ依リ裁判所書記ニ渡スヘキ調書、金錢又ハ有價證券ハ之ヲ那守ニ渡スヘシ

第六十九條　民事訴訟法第六百六十九條ノ適用ニ付テハ執行裁判所ノ所在地ハ那廳ノ所在地ニ該當ス

第七十條　民事訴訟法第六百八十條ノ抗告ニ付テハ囑託ヲ爲シタル裁判所ヲ以テ抗告裁判所トス

前項ノ抗告裁判所ノ裁判ニ對スル抗告ニ付テハ覆審法院ヲ以テ終審トス

第七十一條　執行手續ヲ完結シタルトキハ那守ハ執行記錄ヲ裁判所ニ返還スヘシ

第七十二條　前十七條ノ規定ハ不動產ノ任意競賣ニ之ヲ準用ス

第七十三條　人事訴訟手續法第十條及第十一條ノ規定ハ人事訴訟ニ付テハ裁判所ノ裁判ニ對スル抗告ニ付テハ覆審法院ヲ以テ終審トス

第七十一條　執行手續ヲ完結シタルトキハ那守ハ執行記錄ヲ裁判所ニ返還スヘシ

第七十二條　前十七條ノ規定ハ不動產ノ任意競賣ニ之ヲ準用ス

第七十三條　人事訴訟手續法第十條及第十一條ノ規定ハ人事訴訟ニ付テハ裁判所ノ裁判ニ對スル抗告ニ付前項ノ抗告裁判所ノ裁判ニ對スル抗告ニ付テハ覆審法院ヲ以テ終審トス

第七十四條　非訟事件手續法中外國會社及外國法人ノ登記ニ關スル規定ハ朝鮮外ニ住所ヲ有スル會社其ノ他ノ法人カ朝鮮ニ支店又ハ事務所ヲ設ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條　民事訴訟費用法第十四條ノ規定ハ裁判所ノ通譯官及通譯生カ檢證ノ爲實地ニ臨檢ヲ爲ス場合ニ於ケル旅費及滯在費ニ之ヲ準用ス

附　則

第七十七條　本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十八條　左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

一　統監府裁判所訴訟手續法中外國會社及外國法人ノ登記ニ關スル規定ハ朝鮮外ニ住所ヲ有スル會社其ノ他ノ法人カ朝鮮ニ支店又ハ事務所ヲ設ケタル場合ニ之ヲ準用ス

二　明治四十二年勅令第二百三十八號

三　手形條例

四　民刑訴訟規則

五　民事訴訟期限規則

六　民事訴訟費用規則

七　隆熙三年法律第十五號

八　非訟事件手續規則

第七十九條　本令施行前法令ニ依リ爲シタル裁判、命令、處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第八十條　本令施行前既ニ著手シタル强制執行ハ舊法ニ從ヒ之ヲ完結ス

第八十一條　本令施行前ニ生シタル事項ニ付テハ朝鮮人ノ外關係者ナキ場合ニ限リ民法施行法及商法施行法中民法及商法ノ施行前ニ生シタル事項ニ關スル規定ヲ準用シ其ノ規定ニ依リ舊法ヲ適用スヘキ場合ニ於テハ朝鮮ニ於ケル從來ノ例ニ依ル

第八十二條　訴訟手續ニ關スル規定中親族ト稱スルハ當分ノ內朝鮮人ニ付テハ四親等內ノ者ヲ謂フ

附　則（大正十年制令第十四號）

本令ハ大正十年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前生シタル事項ニ付テハ民法施行法及商法施行法中無能力者、親權、後見及禁治產ニ關スル規定ヲ準用シ其ノ規定ニ依ル能力ヲ有ス

附　則（大正十一年制令第十三號）

本令施行ノ期日ハ各條ニ付朝鮮總督之ヲ定ム

本令施行前生シタル事項ニ付テハ民法施行法中離婚、相續ノ承認及財產ノ分離ニ關スル規定ヲ準用ス

大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第一條、第三十八條及第七十二條ノ改正ニ關スル規定ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十一年朝鮮總督府令第百五十二號）

大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第十一條乃至第十一條ノ九及第七十三條第一項ノ改正ニ關スル規定ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十二年朝鮮總督府令第六十四號）

朝鮮民事令中改正ノ件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮民事令中左ノ通改正ス

第一條第十三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

十三ノ二　民事訴訟法中改正法律施行法第三條中「民事訴訟法第百五十二條ノ場合ヲ除クノ外」及「市町村長ニ關スル職務ハ府尹又ハ那守」ヲ削ル

第四條第二項第七條第二項中「裁判所及檢事局ノ長」ヲ「地方法院長」ニ改ム

第八條中「府外ニ在ル面又ハ之ニ準スルモノ」ヲ「面」ニ改ム

第十三條中「又ハ朝鮮不動產證明令」及「又ハ證明」ヲ削ル

第十八條　朝鮮總督府裁判所令第四條第一項第一號ノ訴訟物ノ價額ハ訴ヲ以テ主張スル利益ニ依リテ之ヲ算定ス

前項ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ハ千圓ヲ超過スルモノト看做ス

第二十一條　當事者ハ合議裁判所ニ參テモ許可ヲ得テ辯護士ニ非サル者ヲ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

前項ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第二十二條　削除

第二十三條　削除

第二十四條　削除

第二十五條　民事訴訟法第百七十八條第一項ノ事由アル場合ニ於テハ申立ナキモ裁判長ノ許可ヲ得テ公示送達ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　削除

第二十八條　當事者雙方カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲ササルトキハ裁判長ハ更ニ期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出スヘシ

前項ノ新期日又ハ其ノ後ノ期日ニ當事者雙方カ出頭セス又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲ササルトキハ訴ノ取下アリタルモノト看做ス

當事者カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ前項ノ期日ニ出頭スルコト能ハサリシ場合ニ於テハ其ノ事由ノ止ミタル後一週間內ニ限リ期日指定ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前三項ノ規定ハ準備手續及上訴審ノ訴訟手

續ニ之ヲ準用ス但シ上訴審ニ於テハ上訴ノ取下ヲ看做ス

第三十條　削除

第三十一條　削除

第三十三條　裁判所ノ通譯官、通譯生又ハ書記ヲ通事ト爲ス場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ要セス

第三十四條　地方法院ニ於テ判事單獨ニテ裁判ヲ爲ス事件ニ付原告又ハ被告カ最初ニ爲スヘキ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲ササルトキハ出頭シタル當事者ノ陳述ヲ聽キ開席判決ヲ以テ相手方ノ敗訴ヲ言渡スコトヲ得

第三十五條　開席判決ノ言渡ハ口頭辯論終結後直ニ之ヲ爲ス場合ニ限リ其ノ主文ヲ作ラサル前ト雖之ヲ爲スコトヲ得

第三十六條　開席判決ニ對シテハ開席者ヨリ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得

故障ノ申立ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ一週間內ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ期間前申立タル故障ノ效力ヲ妨ケス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

第三十七條　故障ノ申立ハ故障申立書ヲ開席判決ヲ爲シタル裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

故障申立書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者及法定代理人

二　開席判決ノ表示及其ノ判決ニ對シ故障ノ申立ヲ爲ス旨

第三十八條　民事訴訟法第二百二十八條ノ規定ハ故障申立書ニ之ヲ準用ス

第三十九條　不適法ナル故障ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ判決定ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

前項ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十八條ノ三　前二條ノ場合ヲ除クノ外裁判所ハ故障申立書ヲ相手方ニ送達シ且故障ニ付口頭辯論期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出スヘシ

第三十八條ノ四　故障ヲ申立テタル原告又ハ被告カ前條ノ口頭辯論期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲ササルトキハ故障ノ取下アリタルモノト看做ス

第二十九條第三項ノ規定ハ故障ヲ申立テタル原告又ハ被告カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ前項ノ期日ニ出頭スルコト能ハサリシ場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條ノ五　適法ナル故障ノ申立アリタルトキハ訴訟ハ開席前ノ程度ニ復ス

第三十四條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ開席前ノ程度ニ復シタル訴訟ニ付之ヲ適用セス

第三十八條ノ六　故障後ニ爲スヘキ判決カ開席判決ト符合スルトキハ開席判決ヲ維持シ符合セサルトキハ開席判決ヲ廢棄スヘシ

第三十八條ノ七　控訴權ヲ拋棄又ハ控訴ノ取下ヲ爲スル規定ハ故障ヲ爲ス權利ノ拋棄及故障ノ取下ニ之ヲ準用ス

第三十八條ノ八　開席判決ニ對シテハ開席者ヨリ控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十八條ノ九　民事訴訟法第五百條ノ規定ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル開席判決ニ之ヲ故障申立ニ付之ヲ準用ス

第三十九條　當事者ノ一人、鑑定人、通事又ハ當事者本人ヲ訊問シ裁判長ニ請求スヘシ

第四十條　受命判事又ハ受託判事ハ檢證ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ證人ヲ訊問スルコトヲ得

第四十一條　朝鮮總督證人ナルトキハ其ノ現在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

第四十二條　削除

第四十三條　財產權上ノ請求ニ關スル判決ニ對シテハ控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ價額カ五十圓ヲ超過セサル場合ニ於テハ再審ノ事由アルニ非レハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ訴訟ノ目的ノ價額カ五十圓ヲ超過スル事件ニ付裁判所カ訴訟ノ一部ニ付爲シタル判決ニ之ヲ適用セス

第四十四條　削除

第四十五條　削除

第四十六條　削除

第四十七條　附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第八條　永代借地權ヲ有スル帝國ノ臣民又ハ法人ハ本令施行ノ日ニ於テ其ノ土地ノ所有權ヲ取得シ永代借地權ハ消滅ス
第四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第三條第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ、第五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

●利息制限令　明治四十四年十一月一日 制令第十三號

利息制限令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

利息制限令

第一條　金錢貸借ニ關スル契約上ノ利息ハ左ノ制限ニ依ル
元金百圓未滿　年三割以下
元金百圓以上千圓未滿　年二割五分以下
元金千圓以上　年二割以下
質屋營業者ノ貸借元金五十圓未滿及市場ニ於ケル貸借元金三十圓未滿ノ利息ニ付テハ前項第一號ノ規定ヲ適用セス
第二條　契約上ノ利息ニシテ前條ニ定メタル制限ヲ超過シタルトキハ其ノ超過部分ヲ無效トス
第三條　禮金、割引金、手數料、引去金、借替金其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス金錢ノ貸借ニ關シ債權者ノ受クルモノハ之ヲ利息ト看做ス
第四條　裁判所ハ當事者カ金錢ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ付豫定シタル賠償額ヲ不當ト認ムルトキハ相當ノ額迄之ヲ減少スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮財團抵當令　大正八年四月二十一日 制令第八號 改正 大正九年第一〇號 昭和三年第二號

朝鮮財團抵當令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮財團抵當令

第一條　工場ニ屬スル土地又ハ建物及工場財團ノ抵當ニ關シテハ工場抵當法ニ依ル但シ同法中區裁判所トアルハ地方法院又ハ其ノ支廳トス
第二條　鑛業財團抵當ニ關シテハ鑛業抵當法ニ依ル但シ同法中採掘權トアルハ鑛業權、採掘權者トアルハ鑛業權者、鑛山監督署長トアルハ朝鮮總督トス
第三條　鐵道及軌道ノ抵當ニ關シテハ明治四十二年法律第二十八號ニ依ル但シ同法中軌道トアルハ鐵道又ハ軌道、軌道營業者トアルハ鐵道營業者又ハ軌道營業者、特許トアルハ許可、勅令トアルハ朝鮮總督府令トス
第三條ノ二　私設鐵道會社ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲本令ニ於テ依ルコトヲ定メタル明治四十二年法律第二十八號ニ依リ準用スル鐵道抵當法第六條ニ規定スル制限ヲ超エテ鐵道財團ヲ抵當ト爲ス債務ヲ負擔スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ本令ニ依ル債務ノ總額ハ社債ノ額ト合セテ總株金拂込額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ舊債務ノ額ハ之ヲ算入セス
最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產カ總株金拂込額ニ滿タサルトキハ前二項ノ規定ニ依リ債務ヲ負擔スルコトヲ得ス
第四條　鐵道財團又ハ軌道財團ニ對スル強制執行ハ其ノ財團ノ所有者タル會社ノ本店ノ所在地ヲ管轄スル地方法院又ハ其ノ支廳ノ管轄ニ專屬ス
朝鮮外ニ本店ヲ有スル場合ニ於テハ前項ノ管轄裁判所ハ京城地方法院トス
第五條　鐵道抵當原簿及軌道抵當原簿ノ調製、鐵道財團目錄及軌道財團目錄ノ樣式其ノ他登錄ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム
第六條　本令ニ依リ官報ニ揭載シテ爲スヘキ公告ハ朝鮮總督府官報ニ揭載シテ之ヲ爲ス

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム
（大正八年朝鮮總督府令第七十八號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

附　則（昭和三年制令第二號）

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム
（昭和三年朝鮮總督府令第四十六號ヲ以テ同年七月十日ヨリ施行）

●朝鮮私設鐵道及軌道抵當取扱規則　大正八年五月一日 朝鮮總督府令第八十四號 改正 大正九年第一八三號、一五年第八八號 昭和三年第四五號

朝鮮私設鐵道及軌道抵當取扱規則左ノ通定ム

朝鮮私設鐵道及軌道抵當取扱規則

第一條　本令ニ於テ抵當權ト稱スルハ鐵道抵當權又ハ軌道抵當權、財團ト稱スルハ鐵道財團又ハ軌道財團、財團目錄ト稱スルハ鐵道財團目錄又ハ軌道財團目錄、抵當原簿ト稱スルハ鐵道抵當原簿又ハ軌道抵當原簿ヲ謂フ
第二條　抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當負債ヲ要スル事由ヲ記載シ會社ノ取締役署名捺印シ之ヲ提出スヘシ
第三條　抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當證書又ハ信託證書及財團目錄ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ
一　抵當證書又ハ信託證書ノ謄本
二　株主總會ノ議事及決議ノ要領書
三　最終ノ貸借對照表
四　元利支拂ノ豫算
五　株金總額及拂込額ノ登記抄本
六　社債ノ總額及償還ノ了ヘサル金額ノ登記抄本
前項ニ依リ差出シタル抵當證書又ハ信託證書ハ抵當權設定ノ認可アリタルトキハ認可ノ證印ヲ附シテ之ヲ還付ス
第三條ノ二　軌道抵當權設定ノ認可申請書ニハ前條第一項ニ揭クル書類ノ外物件擔保ノ負債アルトキハ其ノ總額及償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本又ハ證明書ヲ添附スヘシ
第四條　抵當權設定ノ認可申請前會社ノ申請ニ因リ豫メ財團ノ公告ヲ爲シタル場合ニ於テ鐵道抵當法第八條ニ依リ財團目錄ヲ差出シタルモノニ付テハ抵當權設定ノ認可申請書ニ財團目錄ヲ添附スルコトヲ要セス
第五條　第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當權者ニ對スル催告ノ始末書及催告アリタルコトヲ證スル書面又ハ抵當權者ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
第六條　第三條第一項第四號ニ記載セル事項ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ於テ變更ノ事項カ株主總會ノ決議ヲ要スルモノニ係ルトキハ認可申請書ニ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スヘシ
第七條　抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ノ變更ノ認可申請書ニハ契約證書及其ノ謄本ヲ添附シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ
第三條第二項及前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ノ變更ニシテ契約ニ基カサル場合ニ於テハ變更ノ事由及年月日ヲ記載シ利害關係人署名捺印シテ屆出ツヘシ
第八條　抵當權設定ノ認可申請前ニ於ケル財團公告ノ申請書ニハ抵當負債ヲ要スル事由及其ノ總額ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シテ差出スヘシ
前項ノ申請書ニハ財團目錄ノ外第三條第一項第三號及第四號ニ揭クル書類ヲ添附スヘシ
第九條　鐵道抵當法第二十六條ノ場合ニ於テ其ノ債務ニ付据置年限經過後ニ於ケル辨濟期ニ關シ特約アルトキハ抵當權設定後二十箇年ニ滿ツル迄其ノ特約ニ依ルモノトス
第十條　抵當原簿ハ別記第一號樣式ニ依ル
第十一條　財團目錄ハ別記第二號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
第十二條　財團目錄ニハ其ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シ且每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ
第十三條　財團目錄ニ記載シタル事項ノ變更

又ハ消滅ノ屆書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ
前項ノ屆書ハ財團目錄ノ樣式ニ依リ揭クヘキ事項ヲ記載シ目錄ノ部門及舊事項ヲ附記スヘシ
馬匹、保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料及未開業線ノ財團ニ屬スルモノノ變更又ハ消滅ノ屆出ハ決算期ニ於テ之ヲ爲スヘシ
第十四條　抵當權設定ノ登錄申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ債權者及會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ
一　財團ニ屬スル線路ノ表示
二　抵當權者、債務者及財團ノ所有者ノ名稱及住所
三　抵當權ノ順位
四　債權額及償還ノ方法竝期限
五　利率及利息支拂ノ方法竝期限
六　許可ニ附シタル條件
七　抵當權ヲ設定シタルコト
八　抵當權設定認定ノ年月日
九　課稅標準ノ價格
十　登錄稅額
第十五條　登錄ハ申請書受附ノ順序ニ依リテ之ヲ爲ス
第十六條　登錄申請書其ノ他ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ
前項ノ受領證ハ登錄濟證ヲ交付スルトキハ之ヲ還納セシムヘシ
第十七條　第十四條ノ規定ハ登錄シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ登錄申請ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登錄申請書ハ正副二通ヲ差出スヘシ
第十八條　抵當原簿ニ登錄ヲ完了シタルトキハ抵當權設定ノ場合ニ在リテハ抵當證書又ハ信託證書ニ登錄事項ノ變更又ハ消滅ノ場合ニ在リテハ申請書ノ副本ニ登錄番號、申請書受附ノ年月日、受附番號及登錄濟ノ旨ヲ記載シ官印ヲ押捺シテ之ヲ申請者ニ還付スヘシ
第十八條ノ二　朝鮮登錄稅令施行規則第三條ノ二ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ徵收スル場合ニ於テ登錄官吏ハ後ニ登記又ハ登錄ヲ申請スヘキ登記所又ハ登錄官廳ノ數ニ應シ課稅價格ヲ記載シタル登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ
朝鮮登錄稅令施行規則第三條ノ二第一項ノ場合ニ於テ既ニ登記所又ハ登錄官廳ニ於テ登記又ハ登錄ヲ受ケタルトキハ登錄申請書ニ其ノ登記所又ハ登錄官廳ノ交付シタル登錄稅ノ受領證ヲ添附スヘシ
第十九條　登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ付錯誤又ハ遺漏ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スル者アルトキハ申請書ニ署名捺印シ又ハ其ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ書類ヲ添附スヘシ
第二十條　抵當原簿若ハ財團目錄ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ抵當原簿若ハ財團目錄ノ閲覽ヲ請求スル者ハ申請書ニ署名捺印シテ之ヲ差出スヘシ
但シ抄本ヲ請求スル場合ニ於テハ抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載スヘシ
第二十一條　抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其ノ用紙一枚ニ付手數料金十錢ヲ納ムヘシ但シ一枚ニ滿タサルモノト雖仍之ヲ一枚ニ計算ス
手數料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ
第二十二條　鐵道抵當法第二十條ニ依ル裁定申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ正副二通ヲ差出スヘシ
一　申請者及對手人ノ名稱、住所
二　裁定事件ノ表示
三　申請ノ要旨及理由
第二十三條　前條ノ申請書ヲ受取リタルトキハ其ノ副本ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シ答辯書ヲ差出サシムヘシ但シ裁定申請カ其ノ理由ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
必要ト認ムルトキハ期限ヲ附シテ更ニ申請者又ハ對手人ヨリ辯駁書又ハ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得
第二十四條　答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載シ二通ヲ差出スヘシ
一　申請者及對手人ノ名稱、住所
二　裁定事件ノ表示
三　答辯又ハ辯駁ノ要旨及理由
第二十五條　必要ト認ムルトキ又ハ當事者一方ノ申立アルトキハ口頭審理ヲ爲スコトヲ得
第二十六條　裁定申請者若ハ對手人期間內ニ答辯書若ハ辯駁書ヲ差出ササルトキ又ハ指定ノ審理期日ニ出頭セサルトキハ相手方ノ意見ヲ聽キ裁定ヲ爲スコトヲ得
第二十七條　第二十二條乃至第二十六條ノ規定ハ管理人ノ計算報告書ニ對スル異議ノ裁定ニ之ヲ準用ス
第二十八條　執行力アル正本付與ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請者署名捺印シ抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載ノ事項ヲ變更シタル契約書ヲ添附シテ之ヲ差出スヘシ
一　債務者及財團所有者ノ名稱、住所
二　強制執行ヲ要スル事由
第二十九條　管理人推薦ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人之ニ署名捺印スヘシ
一　管理人タルヘキ者ノ名稱、住所
二　管理人タルニ適當ト認メタル事由及經歷

附　則

本令ハ朝鮮財團抵當令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式略ス）

●臺灣永代借地權令　明治四十五年二月二十三日 律令第一號

臺灣永代借地權令明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

臺灣永代借地權令

第一條　永代借地權ハ臺灣永代借地整理簿ニ登錄セラレタル永代借地權ニハ業主權ニ關スル規定ヲ準用ス
前項ノ永代借地權ヲ有スル者ハ業主ト同一ノ義務ヲ負フ
永代借地權ハ外國人又ハ外國法人ニ限リ之ヲ有スルコトヲ得
第二條　帝國ノ臣民又ハ法人カ永代借地權ヲ取得シタルトキハ其ノ土地ノ業主權ヲ取得シ永代借地權ハ消滅ス
永代借地權者カ帝國ノ臣民ト爲リタルトキ亦前項ニ同シ
前二項ノ場合ニ於テ永代借地權ヲ目的トスル權利ハ業主權ヲ目的トシタルモノトシテ存續ス
第三條　永代借地及其ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ニ付テハ臺灣總督ハ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
第四條　本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

第五條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第六條　永代借地整理簿ニ登錄セラレタル永代借地權者カ帝國ノ臣民又ハ法人ナルトキハ第二條ノ規定ヲ準用ス
第七條　永代借地權ノ設定セラレタル土地ニシテ私業ニ屬スルモノニ付テハ其ノ業主權ハ消滅シ其ノ土地ノ業主權ハ國庫ニ歸屬ス
第八條　第六條ノ規定ニ依リ業主ト爲リタル者又ハ前條ノ場合ニ於ケル永代借地權者ハ舊私業主カ借地料ノ支拂ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル爲生シタル損失ヲ補償シ又ハ從前ノ例ニ依リ舊私業主ニ借地料ニ相當スル金額ヲ支拂フヘシ
前項ノ補償ニ關シテハ臺灣土地收用規則ヲ準用ス
第九條　第七條ノ土地ニ付第二條第一項ノ規定ニ依リ業主ト爲リタル者ハ前條ノ義務ヲ承繼シ第二條第二項ノ規定ニ依リ業主ト爲リタル者ハ之レカ爲前條ノ義務ヲ免ルルコトヲ得
第十條　前二條ノ義務ハ永代借地權又ハ業主權ト共ニ移轉ス
第十一條　永代借地權者ハ本令施行ノ日ヨリ國庫ニ對シテ借地料ヲ支拂フノ義務ヲ免ル本令施行前ノ借地料ニシテ未タ國庫ニ支拂ハサルモノニ付亦同シ
第十二條　本令施行ノ際永代借地權ヲ目的トスル典權、胎權又ハ贌耕權ヲ有スル者ハ本令施行ノ日ヨリ六月內ニ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ

得ス

●臺灣永代借地權令施行規則 明治四十五年二月二十三日 臺灣總督府令第十三號

臺灣永代借地權令施行規則左ノ通相定ム

臺灣永代借地權令施行規則

第一條 本令ニ於テ本則ト稱スルハ臺灣永代借地權令ヲ謂フ

第二條 本則第六條ノ規定ニ依リ業主權ヲ取得シタルモノアルトキハ廳長ハ永代借地整理簿ノ登錄ヲ取消シ其ノ土地カ未登記ナルトキハ土地臺帳ノ業主名ヲ其ノ取得者ニ更正シ其ノ土地カ既登記ナルトキハ登記官廳ニ業主權移轉ノ登記ヲ囑託スヘシ

登記官廳ハ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ業主權移轉ノ登記ヲ爲スヘシ

廳長ハ土地臺帳ヲ更正シ又ハ移轉登記ヲ囑託シタルトキハ之ヲ業主權取得者ニ通知スヘシ

第三條 本則第六條ノ場合ニ於テ永代借地權カ帝國臣民ト外國人トノ共有ニ屬スルトキハ廳長ハ其ノ土地ヲ分割シ帝國臣民ノ取得地ニ付テハ永代借地整理簿中之ヲ削除シ前條ノ規定ニ依リ土地臺帳ノ更正若ハ移轉登記ノ手續ヲ爲シ業主權取得者ニ之ヲ通知スヘシ

土地ノ分割ニ因リテ著シク其ノ土地ノ價格ヲ損スル虞アルトキハ共有權者若ハ利害關係人ノ申立ニ依リ廳長ハ法院ニ競賣ヲ囑託スルコトヲ得

本則第二條ノ場合ニ於テモ亦前二項ヲ適用ス

第四條 本則第七條ノ規定ニ依リ業主權消滅シタル土地アルトキハ廳長ハ其ノ土地カ未登記ナルトキハ土地臺帳ノ業主ヲ國庫ト更正シ其ノ土地カ既登記ナルトキハ國庫ニ歸屬シタル旨ヲ登記官廳ニ通知スヘシ

登記官廳ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ業主權取得ノ登記ヲ爲スヘシ

第五條 本則第八條ノ規定ニ依リ借地料ニ相當スル金額ノ支拂ヲ受クヘキ舊私業主ハ永代借地及其ノ上ニ存スル建物登記規則第十三條ノ規定ニ依リ附記登記ヲ爲スニ非サレハ本則第二條ニ依リ業主權ヲ取得シタル者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六條 永代借地權ノ競賣ニ付テハ競賣法中不動產ノ競賣ニ關スル規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●利息制限規則 明治三十七年二月十八日 律令第二號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル利息制限規則勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

利息制限規則

第一條 金錢貸借ニ關スル契約ノ利息ハ左ノ制限ニ依ル

一 元金百圓未滿 年三割以下

但シ質屋營業者ノ貸物元金五十圓以下ノ利息ヲ除ク

一 元金百圓以上千圓未滿 年二割五分以下

一 元金千圓以上 年二割以下

若シ此ノ制限ヲ超過シタルトキハ其ノ超過部分ヲ無效トス

第二條 禮金、割引、手數料、引去金、借替金其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス利息ト認ムヘキ給付ヲ受クルノ契約ハ之ヲ利息契約ト看做ス

附 則

本令ハ明治三十七年二月二十日ヨリ施行ス

●確定日附簿及日附アル印章調製方 大正十一年十二月十三日 臺灣總督府令第百七十五號

明治三十一年府令第七十四號確定日附簿及日附アル印章調製方左ノ通改正ス

確定日附簿及日附アル印章調製方ハ明治三十一年司法省令第七號ニ依ル但シ地方裁判所トアルハ地方法院トス

附 則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●私署證書確定日附請求手數料 昭和二年七月七日 臺灣總督府令第四十五號

私署證書ニ確定日附請求手數料左ノ通相定ム

私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所ニ請求スル者ハ每一件ニ付手數料三十錢ヲ納ムヘシ

附 則

本令ハ昭和二年七月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年府令第七十五號ハ之ヲ廢止ス

●蕃地ニ關スル律令 明治三十三年二月二十二日 律令第七號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル蕃地ニ關スル律令勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

蕃人ニアラサル者ハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス蕃地ヲ占有シ使用シ其他權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス但別段ノ規定アルモノ又ハ臺灣總督ノ許可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

前項ノ規程ニ違背シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ十一日以上六月以下ノ【重禁錮】ニ處ス

●出典地業主權ニ關スル律令 明治三十七年十月七日 律令第十號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル出典地業主權ニ關スル律令勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

臺灣土地調查規則ニ依リ國庫ニ歸屬シタル土地ニシテ出典地ニ係ルモノハ土地臺帳ニ登錄シタル典主ヲ以テ其ノ業主トス

●外國人土地取得ニ關スル律令 明治三十三年一月二十一日 律令第一號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル外國人ノ土地取得ニ關スル律令勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

外國人ハ土地ヲ取得スルコトヲ得ス但外國人カ現ニ所有スル土地ハ此限ニアラス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州ニ於ケル鐵道抵當法施行ニ關スル件 大正十五年九月八日 關東廳令第三十九號

關東州ニ於ケル鐵道抵當法施行ニ關シテハ明治三十八年遞信省令第三十七號鐵道抵當法施行規則ニ依ル

附 則

本令ハ大正十五年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●露國租借時代ニ於テ一定期限經過後旅順市有ニ歸屬ノ條件ヲ以テ建築許可ノ家屋ニ對シ其ノ期間延期 明治四十一年七月八日 關東都督府告示第六十六號

露國租借時代ニ於テ一定ノ期限經過後ハ旅順市有ニ歸屬スル條件ヲ以テ建築ヲ許可シタル家屋ニ對シテハ明治三十七年二月十日ヨリ所有權確認ヲ受ケタル迄ノ期間ハ順次之ヲ延期ス

第二款 商法

●商法 明治三十二年三月九日 法律第四十八號

改正 明治四四年第七三號 大正一一年第七一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法修正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

商法別册ノ通之ヲ定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十三年法律第三十二號商法ハ第三編ヲ除ク外此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別册）

商法

第一編 總則
第一章 法例
第二章 商人
第三章 商業登記
第四章 商號
第五章 商業帳簿
第六章 商業使用人
第七章 代理商
第二編 會社
第一章 總則
第二章 合名會社
第一節 設立
第二節 會社ノ內部ノ關係
第三節 會社ノ外部ノ關係
第四節 社員ノ退社
第五節 解散
第六節 淸算
第三章 合資會社
第四章 株式會社
第一節 設立
第二節 株式
第三節 會社ノ機關
第一款 株主總會
第二款 取締役
第三款 監査役
第四節 會社ノ計算

第五節 社債
第六節 定款ノ變更
第七節 解散
第八節 淸算
第五章 株式合資會社
第六章 外國會社
第七章 罰則
第三編 商行爲
第一章 總則
第二章 賣買
第三章 交互計算
第四章 匿名組合
第五章 仲立營業
第六章 問屋營業
第七章 運送取扱營業
第八章 運送營業
第一節 物品運送
第二節 旅客運送
第九章 寄託
第一節 總則
第二節 倉庫營業
第十章 保險
第一節 損害保險
第一款 總則
第二款 火災保險
第三款 運送保險
第二節 生命保險
第四編 手形
第一章 總則
第二章 爲替手形
第一節 振出
第二節 裏書
第三節 引受
第四節 擔保ノ請求
第五節 支拂
第六節 償還ノ請求
第七節 保證
第八節 參加
第一款 參加引受
第二款 參加支拂
第九節 拒絕證書
第十節 爲替手形ノ複本及ヒ謄本
第三章 約束手形
第四章 小切手
第五編 海商
第一章 船舶及ヒ船舶所有者
第二章 船員
第一節 船長
第二節 海員
第三章 運送
第一節 物品運送
第一款 總則
第二款 船荷證券
第二節 旅客運送
第四章 海損
第五章 海難救助
第六章 保險
第七章 船舶債權者

商法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 商事ニ關シ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習法ヲ適用シ商慣習法ナキトキハ民法ヲ適用ス

第二條 公法人ノ商行爲ニ付テハ法令ニ別段ノ定ナキトキニ限リ本法ノ規定ヲ適用ス

第三條 當事者ノ一方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ付テハ本法ノ規定ヲ雙方ニ適用ス

第二章 商人

第四條 本法ニ於テ商人トハ自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第五條 未成年者又ハ妻カ商業ヲ營ムトキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六條 會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者又ハ妻ハ其會社ノ業務ニ關シテハ之ヲ能力者ト看做ス

第七條 法定代理人カ親族會ノ同意ヲ得テ無能力者ノ爲メニ商業ヲ營ムトキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス

法定代理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第八條 戶戶ニ就キ又ハ道路ニ於テ物ヲ賣買スル者其他小商人ニハ商業登記、商號及ヒ商業帳簿ニ關スル規定ヲ適用セス

第三章 商業登記

第九條 本法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ハ當事者ノ請求ニ因リ其營業所ノ裁判所ニ備ヘタル商業登記簿ニ之ヲ登記ス

第十條 本店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記スルコトヲ要ス

第十一條 登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第十二條 登記スヘキ事項ハ登記及ヒ公告ノ後ニ非サレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス登記及ヒ公告ノ後ト雖モ第三者カ正當ノ事由ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキ亦同シ

第十三條 支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ヲ登記セサリシトキハ前條ノ規定ハ其支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テノミ之ヲ適用ス

第十四條 登記ハ其公告ト牴觸スルトキト雖モ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第十五條 登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタルトキハ當事者ハ遲滯ナク變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四章 商號

第十六條 商人ハ其氏、氏名其他ノ名稱ヲ以テ商號ト爲スコトヲ得

第十七條 會社ノ商號中ニハ其種類ニ從ヒ合名會社、合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ナル文字ヲ用ユルコトヲ要ス

第十八條 會社ニ非スシテ商號中ニ會社タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ユルコトヲ得ス會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同シ

前項ノ規定ニ違反シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第十九條 他人カ登記シタル商號ハ同市町村內ニ於テ同一ノ營業ノ爲メニ之ヲ登記スルコトヲ得ス

第二十條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテ其使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

同市町村內ニ於テ同一ノ營業ノ爲メニ他人ノ登記シタル商號ヲ使用スル者ハ不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ之ヲ使用スルモノト推定ス

第二十一條 商號ノ讓渡ハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十二條 商號ト共ニ營業ヲ讓渡シタル場合ニ於テ當事者カ別段ノ意思ヲ表示セサリシトキハ讓渡人ハ同市町村內ニ於テ二十年間同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲ササル特約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣內且三十年ヲ超エサル範圍內ニ於テノミ其效力ヲ有ス

讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ハラス不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 前條ノ規定ハ營業ノミヲ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 商號ノ登記ヲ爲シタル者カ其商號ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テ其廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲ササルトキハ利害關係人ハ其登記ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ異議アラハ其期間內ニ之ヲ申立ツヘキ旨ヲ催告シ若シ其期間內ニ異議ノ申立ナキトキハ直チニ其登記ヲ抹消スルコトヲ得

第五章 商業帳簿

第二十五條 商人ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ日日ノ取引其他財產ニ影響ヲ及ホスヘキ一切ノ事項ヲ整然且明瞭ニ記載スルコトヲ要ス但家事費用ハ一个月每ニ其總額ヲ記載スルヲ以テ足ル

小賣ノ取引ハ現金賣ト掛賣トヲ分チ日日ノ賣上總額ノミヲ記載スルコトヲ得

第二十六條 動產、不動產、債權、債務其他ノ財產ノ總目錄及ヒ貸方借方ノ對照表ハ商人ノ開業ノ時又ハ會社ノ設立登記ノ時及ヒ每年一回一定ノ時期ニ於テ之ヲ作リ特ニ設ケタル帳簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

財產目錄ニハ動產、不動產、債權其他ノ財產ニ價額ヲ附シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス其

價額ハ財産目錄調製ノ時ニ於ケル價額ニ超ユルコトヲ得ス

第二十七條　年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ前條ノ規定ニ從ヒ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第二十七條ノ二　裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ訴訟ノ當事者ニ其商業帳簿ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第二十八條　商人ハ十年間其商業帳簿及ヒ其營業ニ關スル信書ヲ保存スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ商業帳簿ニ付テハ其帳簿閉鎖ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六章　商業使用人

第二十九條　商人ハ支配人ヲ選任シ其本店又ハ支店ニ於テ其商業ヲ營マシムルコトヲ得

第三十條　支配人ハ主人ニ代ハリテ其營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

支配人ハ番頭、手代其他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得

支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十條ノ二　商人ハ數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シタル意思表示ハ主人ニ對シテ其效力ヲ生ス

第三十一條　支配人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ置キタル本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ主人之ヲ登記スルコトヲ要ス前條第一項ニ定メタル事項及ヒ其變更亦同シ

第三十二條　支配人ハ主人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ商行爲ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

支配人カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ主人ハ之ヲ以テ自己ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ主人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三十三條　商人ハ番頭又ハ手代ヲ選任シ其營業ニ關スル或種類又ハ特定ノ事項ヲ委任スルコトヲ得

番頭又ハ手代ハ其委任ヲ受ケタル事項ニ關シ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十四條　支配人、番頭又ハ手代ニ非サル使用人ハ主人ニ代ハリテ法律行爲ヲ爲ス權限ヲ有セサルモノト推定ス

第三十五條　本章ノ規定ハ主人ト商業使用人トノ間ニ生スル雇傭關係ニ付キ民法ノ規定ヲ適用スルコトヲ妨ケス

第七章　代理商

第三十六條　代理商トハ使用人ニ非スシテ一定ノ商人ノ爲メニ平常其營業ノ部類ニ屬スル商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者ヲ謂フ

第三十七條　代理商カ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク本人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三十八條　代理商ハ本人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ本人ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

第三十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ代理商カ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條　物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商ハ賣買ノ目的物ノ瑕疵又ハ其數量ノ不足其他賣買ノ履行ニ關スル通知ヲ受クル權限ヲ有ス

第四十條　當事者カ契約ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ二个月前ニ豫告ヲ爲シテ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

當事者カ契約ノ期間ヲ定メタルト否トヲ問ハス已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第四十一條　代理商ハ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リテ生シタル債權ニ付キ本人ノ爲メニ占有スル物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二編　會社

第一章　總則

第四十二條　本法ニ於テ會社トハ商行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ設立シタル社團ヲ謂フ

營利ヲ目的トスル社團ニシテ本編ノ規定ニ依リ設立シタルモノハ商行爲ヲ爲スヲ業トセサルモ之ヲ會社ト看做ス

第四十三條　會社ハ合名會社、合資會社、株式會社及ヒ株式合資會社ノ四種トス

第四十四條　會社ハ之ヲ法人トス

會社ノ住所ハ其本店ノ所在地ニ在ルモノトス

第四十四條ノ二　會社ハ他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

第四十四條ノ三　會社ハ合併ヲ爲スコトヲ得

合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其他設立ニ關スル行爲ハ各會社ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條、第二百九條及ヒ第二百四十四條ノ規定ハ前項ノ選任ニ之ヲ準用ス

第四十五條　會社ハ其本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十六條　會社ハ其本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ開業ノ準備ニ著手スルコトヲ得ス

第四十七條　會社カ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後六个月内ニ開業ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコトヲ得但正當ノ事由アルトキハ其會社ノ請求ニ因リ此期間ヲ伸長スルコトヲ得

第四十八條　會社カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコトヲ得

第四十八條ノ二　本編ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第二章　合名會社

第一節　設立

第四十九條　合名會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第五十條　合名會社ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ各社員之ニ署名スルコトヲ要ス

一　目的
二　商號
三　社員ノ氏名、住所
四　本店及ヒ支店ノ所在地
五　社員ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準

第五十一條　會社ハ定款ヲ作リタル日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　前條第一號乃至第三號ニ揭ケタル事項
二　本店及ヒ支店
三　設立ノ年月日
四　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由
五　社員ノ出資ノ種類及ヒ財産ヲ目的トスル出資ノ價格
六　會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メタルトキハ其氏名
七　數人ノ社員カ共同シ又ハ社員カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

會社設立ノ後支店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テハ二週間内ニ前項ニ定メタル登記ヲ爲シ本店及ヒ他ノ支店ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス

本店又ハ支店ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ支店ヲ設ケタルトキハ其支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第五十二條　會社カ其本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間内

ニ前條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條　第五十一條第一項ニ揭ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二節　會社ノ内部ノ關係

第五十四條　會社ノ内部ノ關係ニ付テハ定款又ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用ス

第五十五條　社員カ債權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ債務者カ辨濟期ニ辨濟ヲ爲ササリシトキハ社員ハ其辨濟ノ責ニ任ス此場合ニ於テハ其利息ヲ拂フ外尚ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第五十六條　各社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第五十七條　支配人ノ選任及ヒ解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五十八條　定款ノ變更其他會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス

第五十九條　社員カ他ノ社員ノ承諾ヲ得スシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ其讓渡ハ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第六十條　社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

社員カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ他ノ社員ハ過半數ノ決議ニ依リ之ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ他ノ社員ノ一人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三節　會社ノ外部ノ關係

第六十一條　定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メサルトキハ各社員會社ヲ代表ス

第六十一條ノ二　會社ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ數人ノ社員カ共同シ又ハ社員カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得

第三十條ノ二第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十二條　會社ヲ代表スヘキ社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

民法第四十四條第一項及ヒ第五十四條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス

第六十三條　會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサルトキハ各社員連帶シテ其辨濟ノ責ニ任ス

第六十四條　設立ノ後會社ニ加入シタル社員ハ其加入前ニ生シタル會社ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負フ

第六十五條　社員ニ非サル者ニ自己ヲ社員ナリト信セシムヘキ行爲アリタルトキハ其者ハ善意ノ第三者ニ對シテ社員ト同一ノ責任ヲ負フ

第六十六條　社員ノ出資ノ減少ハ之ヲ以テ會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス但本店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲シタル後二年間債權者カ之ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ此限ニ在ラス

第六十七條　會社ハ損失ヲ塡補シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第四節　社員ノ退社

第六十八條　定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メサリシトキ又ハ或社員ノ終身間會社ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六个月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得

第六十九條　前條ニ揭ケタル場合ノ外社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

一　定款ニ定メタル事由ノ發生
二　總社員ノ同意
三　死亡
四　破産
五　禁治産
六　除名

第七十條　社員ノ除名ハ左ノ場合ニ限リ他ノ社員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル社員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其社員ニ對抗スルコトヲ得ス

一　社員カ出資ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ催告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ出資ヲ爲ササルトキ
二　社員カ第六十條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
三　社員カ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ當タリ會社ニ對シテ不正ノ行爲ヲ爲シタルトキ
四　社員カ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサル場合ニ於テ其業務ノ執行ニ干與シタルトキ
五　其他社員カ重要ナル義務ヲ盡ササルトキ

第七十一條　退社員ハ勞務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキト雖モ其持分ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七十二條　會社ノ商號中ニ退社員ノ氏又ハ氏名ヲ用ヰタルトキハ退社員ハ其氏又ハ氏名ノ使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第七十三條　退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ此責任ハ其登記後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

前項ノ規定ハ他ノ社員ノ承諾ヲ得テ持分ヲ讓渡シタル社員ニ之ヲ準用ス

第五節　解散

第七十四條　會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生
二　會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
三　總社員ノ同意
四　會社ノ合併
五　社員カ一人ト爲リタルコト
六　會社ノ破産
七　裁判所ノ命令

第七十五條　前條第一號ノ場合ニ於テハ社員ノ全部又ハ一部ノ同意ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得但同意ヲ爲ササリシ社員ハ退社ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十六條　會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條　會社ノ合併ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十八條　會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

會社ハ前項ノ期間内ニ其債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條　債權者カ前條第二項ノ期間内ニ會社ノ合併ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ反シテ合併ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第八十條　會社カ第七十八條第二項ニ定メタル公告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

會社カ知レタル債權者ニ催告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其催告ヲ受ケサリシ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第八十一條　會社カ合併ヲ爲シタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合併後存續スル會社ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十二條　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼ス

第八十三條　已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ會社ノ解散ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但裁判所ハ社員ノ請求ニ因リ會社ノ解散ニ代ヘテ或社員ヲ除名スルコトヲ得

第八十三條ノ二　合名會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ其組織ヲ變更シテ之ヲ合資會社ト爲スコトヲ得

第七十八條及ヒ第七十九條第一項、第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十三條ノ三　前條ノ場合ニ於テ會社ハ組織變更ニ付キ債權者ノ承認ヲ得又ハ第七十九條第二項ニ定メタル義務ヲ履行シタル後二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合名會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合資會社ニ付テハ第百七條ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十三條ノ四　合名會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ有限責任社員ヲ加入セシメ之ヲ合資會社ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ合資會社ト爲リタル時ヨリ二週間内ニ前條ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六節　清算

第八十四條　會社ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍ホ存續スルモノト看做ス

第八十五條　解散ノ場合ニ於ケル會社財産ノ處分方法ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テハ解散ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第七十八條第二項、第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十六條　前條ノ規定ニ依リテ會社財産ノ處分方法ヲ定メサリシトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外後十五條ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條　清算ハ總社員又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス

清算人ノ選任ハ社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第八十八條　第七十四條第五號ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第八十九條　會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第九十條　清算人ノ選任アリタルトキハ其清算人ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　清算人ノ氏名、住所
二　會社ヲ代表スヘキ清算人ヲ定メタルトキハ其氏名
三　數人ノ清算人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第九十一條　清算人ノ職務左ノ如シ

一　現務ノ結了
二　債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟
三　殘餘財産ノ分配

會社ヲ代表スヘキ清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

民法第八十一條ノ規定ハ合名會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十一條ノ二　會社ハ辨濟期ニ至ラサル債務ト雖モ之ヲ辨濟スルコトヲ得

條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

第九十二條　會社ニ現存スル財産カ其債務ヲ完濟スルニ不足ナルトキハ清算人ハ辨濟期ニ拘ハラス社員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十三條　清算人數人アルトキハ清算ニ關スル行爲ハ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第九十三條ノ二　第六十一條及ヒ第六十一條ノ二ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

裁判所カ數人ノ清算人ヲ選任スル場合ニ於テハ會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メ又ハ數人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定ムルコトヲ得

第九十四條　清算人ハ就職ノ後遲滯ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作リ之ヲ社員ニ交付スルコトヲ要ス

清算人ハ社員ノ請求ニ因リ毎月清算ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第九十五條　清算人ハ會社ノ債務ヲ辨濟シタル後ニ非サレハ會社財産ヲ社員ニ分配スルコトヲ得ス

第九十六條　社員カ選任シタル清算人ハ何時ニテモ之ヲ解任スルコトヲ得此解任ハ社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第九十七條　第九十條ニ揭ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ清算人ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第九十八條　清算人ノ任務カ終了シタルトキハ清算人ハ遲滯ナク計算ヲ爲シテ各社員ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

前項ノ計算ニ對シ社員カ一个月内ニ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス但清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス

第九十九條　清算カ結了シタルトキハ清算人ハ遲滯ナク本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九十九條ノ二　會社カ事業ニ著手シタル後社員カ其設立ノ無效ナルコトヲ發見シタルトキハ訴ヲ以テノミ其無效ヲ主張スルコトヲ得

第九十九條ノ三　前條ノ訴ハ本店ノ所在地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

數個ノ訴カ同時ニ繫屬スルトキハ辯論及ヒ裁判ハ併合シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十九條ノ四　設立ヲ無效トスル判決ハ當事者ニ非サル社員ニ對シテモ其效力ヲ有ス

原告カ敗訴シタル場合ニ於テ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第九十九條ノ五　設立ヲ無效トスル判決カ確定シタルトキハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九十九條ノ六　設立ヲ無效トスル判決カ確定シタルトキハ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

設立ヲ無效トスル判決ハ會社ト第三者トノ間ニ成立シタル行爲ノ效力ニ影響ヲ及ホサス

第百條　會社カ事業ニ著手シタル後其設立カ取消サレタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第百一條　會社ノ帳簿、其營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ第八十五條ノ場合ニ在リテハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後其他ノ場合ニ在リテハ清算結了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ定ム

第百二條　社員カ死亡シタル場合ニ於テ其相續人數人アルトキハ清算ニ關シテ社員ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

第百三條　第六十三條ニ定メタル社員ノ責任ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後五年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

前項ノ期間經過ノ後ト雖モ分配セサル殘餘財産仍ホ存スルトキハ會社ノ債權者ハ之ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

第三章　合資會社

第百四條　合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ之ヲ組織ス

第百五條　合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外合名會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第百六條　合資會社ノ定款ニハ第五十條ニ揭ケタル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第百七條　會社ハ定款ヲ作リタル日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ第五十一條第一項ニ揭ケタル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ登記スルコトヲ要ス

第百八條　有限責任社員ハ金錢其他ノ財産ノミヲ以テ其出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第百九條　各無限責任社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ

無限責任社員數人アルトキハ會社ノ業務執行ハ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第百十條　支配人ノ選任及ヒ解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ無限責任社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第百十一條　有限責任社員ハ營業年度ノ終ニ於テ營業時間内ニ限リ會社ノ財産目錄及ヒ貸借對照表ノ閲覽ヲ求メ且會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ有限責任社員ノ請求ニ因リ何時ニテモ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ノ檢査ヲ許スコトヲ得

第百十二條　有限責任社員ハ無限責任社員全員ノ承諾アルトキハ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得

第百十三條　有限責任社員ハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得

第百十四條　定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定メサルトキハ各無限責任社員會社ヲ代表ス

第百十五條　有限責任社員ハ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルコトヲ得ス

第百十六條　有限責任社員ニ自己ヲ無限責任社員ナリト信セシムヘキ行爲アリタルトキハ其社員ハ善意ノ第三者ニ對シテ無限責任社員ト同一ノ責任ヲ負フ

第百十七條　有限責任社員カ死亡シタルトキハ其相續人之ニ代ハリテ社員ト爲ル

有限責任社員ハ禁治産ノ宣告ヲ受クルモ之ニ因リテ退社セス

第百十八條　合資會社ハ無限責任社員又ハ有限責任社員ノ全員カ退社シタルトキハ解散ス但有限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テ無限責任社員ノ一致ヲ以テ合名會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ妨ケス

前項但書ノ場合ニ於テハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合資會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合名會社ニ付テハ第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百十八條ノ二　合資會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ其組織ヲ變更シテ之ヲ合名會社ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四章　株式會社

第一節　設立

第百十九條　株式會社ノ設立ニハ七人以上ノ發起人アルコトヲ要ス

第百二十條　發起人ハ定款ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

一　目的
二　商號
三　資本ノ總額
四　一株ノ金額
五　取締役カ有スヘキ株式ノ數
六　本店及ヒ支店ノ所在地
七　會社カ公告ヲ爲ス方法
八　發起人ノ氏名、住所

第百二十一條　前條第五號乃至第七號ニ揭ケタル事項ヲ定款ニ記載セサリシトキハ創立總會又ハ株主總會ニ於テ之ヲ補足スルコトヲ得

前項ノ株主總會ノ決議ハ第二百九條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十二條　左ニ揭ケタル事項ヲ定メタルトキハ之ヲ定款ニ記載スルニ非サレハ其效力ナシ

一　存立時期又ハ解散ノ事由
二　株式ノ額面以上ノ發行
三　發起人カ受クヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受クヘキ者ノ氏名
四　金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ氏名、其財産ノ種類、價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數
五　會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及ヒ發起人カ受クヘキ報酬ノ額

第百二十三條　發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ會社ハ之ニ因リテ成立ス此場合ニ於テハ發起人ハ遲滯ナク株金ノ四分ノ一ヲ下ラサル第一回ノ拂込ヲ爲シ且取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス此選任ハ發起人ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第百二十四條　取締役ハ其選任後遲滯ナク第百二十二條第三號乃至第五號ニ揭ケタル事項及ヒ第一回ノ拂込ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査セシムル爲メ檢査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

裁判所ハ檢査役ノ報告ヲ聽キ第百三十五條ノ規定ニ準據シテ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第百二十五條　發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサルトキハ株主ヲ募集スルコトヲ要ス

第百二十六條　株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證二通ニ其引受クヘキ株式ノ數及ヒ住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

株式申込證ハ發起人之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　定款作成ノ年月日
二　第百二十條及ヒ第百二十二條ニ揭ケタル事項
三　各發起人カ引受ケタル株式ノ數
四　第一回拂込ノ金額
五　一定ノ時期マテニ會社カ成立セサルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ヘキコト

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込人ハ株式申込證ニ引受價額ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十六條ノ二　第百七十二條ノ二ノ規定ハ株式申込人又ハ株式引受人ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス

第百二十七條　株式ノ申込ヲ爲シタル者ハ其引受クヘキ株式ノ數ニ應シテ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第百二十八條　株式發行ノ價額ハ券面額ヲ下ルコトヲ得ス

第一回拂込ノ金額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第百二十九條　株式總數ノ引受アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク各株ニ付キ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ第一回ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込マシムルコトヲ要ス

第百三十條　株式引受人カ前條ノ拂込ヲ爲ササルトキハ發起人ハ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株式引受人ニ通知スルコトヲ得但其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス

發起人カ前項ノ通知ヲ爲シタルモ株式引受人カ拂込ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フ此場合ニ於テ發起人ハ其者カ引受ケタル株式ニ付キ更ニ株主ヲ募集スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ株式引受人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第百三十一條　各株ニ付キ第百二十九條ノ拂込アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スルコトヲ要ス

創立總會ニハ株式引受人ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ヲ引受ケタル者出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第百五十六條第一項、第二項、第百六十一條第三項、第四項及ヒ第百六十二條乃至第百六十三條ノ四ノ規定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス

第百三十二條　發起人ハ會社ノ創立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第百三十三條　創立總會ニ於テハ取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

第百三十四條　取締役及ヒ監査役ハ左ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

一　株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ

二　各株ニ付キ第百二十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ

三　第百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ノ正當ナルヤ否ヤ

取締役又ハ監査役中發起人ヨリ選任セラレタル者アルトキハ創立總會ハ特ニ檢査役ヲ選任シ其者ニ代ハリテ前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百三十五條　創立總會ニ於テ第百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得但金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アル場合ニ於テ之ニ對シテ與フル株式ノ數ヲ減シタルトキハ其者ハ金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スコトヲ得

第百三十六條　引受ナキ株式又ハ第百二十九條ノ拂込ノ未濟ナル株式アルトキハ發起人ハ連帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込カ取消サレタルトキ亦同シ

第百三十七條　前二條ノ規定ハ發起人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第百三十八條　創立總會ニ於テハ定款ノ變更又ハ設立ノ廢止ノ決議ヲモ爲スコトヲ得

第百三十九條　發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

第百四十條　削除

第百四十一條　會社ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ第百二十四條ニ定メタル調査終了ノ日ヨリ又發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　第百二十條第一號乃至第四號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項

二　本店及ヒ支店

三　設立ノ年月日

四　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

五　各株ニ付キ拂込ミタル株金額

六　開業前ニ利息ヲ配當スヘキコトヲ定メタルトキハ其利率

七　取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所

八　會社ヲ代表スヘキ取締役ヲ定メタルトキハ其氏名

九　數人ノ取締役カ共同シ又ハ取締役カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第五十一條第二項、第三項、第五十二條及ヒ第五十三條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第百四十二條　會社カ前條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後ハ株式引受人ハ詐欺又ハ強迫ニ因リテ其申込ヲ取消スコトヲ得ス

第百四十二條ノ二　發起人カ會社ノ設立ニ關シ其任務ヲ怠リタルトキハ其發起人ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

發起人ニ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ其發起人ハ第三者ニ對シテモ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第百四十二條ノ三　會社カ成立セサル場合ニ於テハ發起人ハ會社ノ設立ニ關シテ爲シタル行爲ニ付キ連帶シテ其責ニ任ス

前項ノ場合ニ於テ會社ノ設立ニ關シテ支出シタル費用ハ發起人ノ負擔トス

第百四十二條ノ四　取締役又ハ監査役カ第百三十四條第一項ニ定メタル任務ヲ怠リタルニ因リ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テ發起人モ亦其責ニ任スヘキトキハ其取締役、監査役及ヒ發起人ハ之ヲ連帶債務者トス

第二節　株式

第百四十三條　株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ分ツコトヲ要ス

第百四十四條　株主ノ責任ハ其引受ケ又ハ讓受ケタル株式ノ金額ヲ限度トス

株主ハ株金ノ拂込ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第百四十五條　株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要ス

株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス但一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムヘキ場合ニ限リ之ヲ二十圓マテニ下スコトヲ得

第百四十六條　株式カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第百四十七條　株券ハ第百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ反シテ發行シタル株券ハ無效トス但株券ヲ發行シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第百四十八條　株券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

一　會社ノ商號

二　第百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル年月日

三　資本ノ總額

四　一株ノ金額

一時ニ株金ノ全額ヲ拂込マシメサル場合ニ於テハ拂込アル毎ニ其金額ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

第百四十九條　株式ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ承諾ナクシテ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但第百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ之ヲ讓渡シ又ハ其讓渡ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス

第百五十條　記名株式ノ移轉ハ取得者ノ氏名、住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其氏名ヲ株券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第百五十一條　會社ハ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

株式ハ資本減少ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ消却スルコトヲ得ス但定款ノ定ムル所ニ從ヒ株主ニ配當スヘキ利益ヲ以テスルハ此限ニ在ラス

第百五十二條　株金ノ拂込ハ二週間前ニ之ヲ各株主ニ催告スルコトヲ要ス

株主カ期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ更ニ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株主ニ通知スルコトヲ得但其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ會社カ株主ニ對シ其權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルトキハ其通知スヘキ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

第百五十三條　會社カ前條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ拂込ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ株式ノ各讓渡人ニ對シ二週間ヲ下ラサル期間内ニ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ最モ先ニ滯納金額ノ拂込ヲ爲シタル讓渡人株式ヲ取得ス

讓渡人カ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ株式ヲ競賣スルコトヲ要ス此場合ニ於テ競賣ニ依リテ得タル金額カ滯納金額ニ滿タサルトキハ從前ノ株主ヲシテ其不足額ヲ辨濟セシムルコトヲ得若シ從前ノ株主カ二週間内ニ之ヲ辨濟セサルトキハ會社ハ讓渡人ニ對シテ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ會社カ損害賠償及ヒ定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百五十三條ノ二　前條第一項ノ規定ニ依リ株主カ其權利ヲ失ヒタルトキハ會社ハ遲滯ナク其株主ノ氏名、住所及ヒ株券ノ番號ヲ公告スルコトヲ要ス

第百五十四條　第百五十三條ニ定メタル讓渡人ノ責任ハ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第百五十五條　株金全額ノ拂込アリタルトキハ株主ハ其株券ヲ無記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

株主ハ何時ニテモ其無記名式ノ株券ヲ記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

第百五十五條ノ二　無記名式ノ株券ヲ有スル者カ株主ノ權利ヲ行ハントスルトキハ其權利ノ行使ニ必要ナル員數ノ株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要ス

第三節　會社ノ機關

第一款　株主總會

第百五十六條　總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ通知ニハ會議ノ目的タル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

會社カ無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ會日ヨリ三週間前ニ總會ヲ開クヘキ旨及ヒ前項ニ掲ケタル事項ヲ公告スルコトヲ要ス

第百五十七條　定時總會ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ取締役之ヲ招集スルコトヲ要ス

年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ總會ヲ招集スルコトヲ要ス

第百五十八條　削除

第百五十九條　臨時總會ハ必要アル毎ニ取締役之ヲ招集ス

第百六十條　資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ハ會議ノ目的タル事項及ヒ其招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

取締役カ前項ノ請求アリタル後二週間内ニ總會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其請求ヲ爲シタル株主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ其招集ヲ爲スコトヲ得

第百六十條ノ二　總會ハ取締役ノ提出シタル書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ調査セシムル爲メ特ニ檢査役ヲ選任スルコトヲ得

第百六十一條　總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ其株券ヲ會社ニ供託スルニ非サレハ其議決權ヲ行フコトヲ得ス

株主ハ代理人ヲ以テ其議決權ヲ行フコトヲ得但其代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ會社ニ差出タスコトヲ要ス

總會ノ決議ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其議決權ヲ行フコトヲ得ス

第百六十二條　各株主ハ一株ニ付キ一個ノ議決權ヲ有ス但十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ハ定款ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第百六十三條　總會招集ノ手續又ハ其決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ反スルトキハ株主、取締役又ハ監査役ハ訴ヲ以テノミ其決議ノ無效ヲ主張スルコトヲ得

株主ハ總會ニ於テ決議ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ總會ニ出席スルコトヲ拒マレタルトキニ限リ又株主カ總會ニ出席セサル場合ニ於テハ自己ニ對スル總會招集ノ手續カ法令又ハ定款ニ反スルコトヲ理由トスルトキニ限リ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第九十九條ノ三及ヒ第九十九條ノ四ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百六十三條ノ二　決議無效ノ訴ハ決議ノ日ヨリ一个月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

口頭辯論ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ開始スルコトヲ得ス

訴ノ提起及ヒ口頭辯論ノ期日ハ取締役遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第百六十三條ノ三　株主カ決議無效ノ訴ヲ提起シタルトキハ會社ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但其株主カ取締役又ハ監査役ナルトキハ此限ニ在ラス

第百六十三條ノ四　決議シタル事項ノ登記アリタル場合ニ於テ其決議ヲ無效トスル判決カ確定シタルトキハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二款　取締役

第百六十四條　取締役ハ株主總會ニ於テ株主中ヨリ之ヲ選任ス

會社ト取締役トノ間ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從フ

第百六十五條　取締役ハ三人以上タルコトヲ要ス

第百六十六條　取締役ノ任期ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス但定款ヲ以テ任期中ノ最終ノ配當期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ルマテ其任期ヲ伸長スルコトヲ妨ケス

第百六十七條　取締役ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得但任期ノ定アル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其任期前ニ之ヲ解任シタルトキハ其取締役ハ會社ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第百六十七條ノ二　取締役ノ任務カ終了シタル場合ニ於テ法律又ハ定款ニ定メタル員數ヲ缺クニ至リタルトキハ其取締役ハ新ニ選任セラレタル取締役カ就職スルマテ仍ホ取締役ノ權利義務ヲ有ス

第百六十八條　取締役ハ定款ニ定メタル員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第百六十九條　會社ノ業務執行ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ取締役ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス支配人ノ選任及ヒ解任亦同シ

第百七十條　定款又ハ株主總會ノ決議ヲ以テ取締役中會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メス又ハ數人ノ取締役カ共同シ若クハ取締役カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メサルトキハ取締役ハ各自會社ヲ代表ス

第三十條ノ二第二項及ヒ第六十二條ノ規定ハ取締役ニ之ヲ準用ス

第百七十一條　取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議ヲ本店及ヒ支店ニ備ヘ置キ且株主名簿及ヒ社債原簿ヲ本店ニ備ヘ置クコトヲ要ス

株主及ヒ會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第百七十二條　株主名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　株主ノ氏名、住所

二　各株主ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號

三　各株ニ付キ拂込ミタル株金額及ヒ拂込ノ年月日

四　各株式ノ取得ノ年月日

五　無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其數、番號及ヒ發行ノ年月日

第百七十二條ノ二　會社ノ株主ニ對スル通知又ハ催告ハ株主名簿ニ記載シタル株主ノ住所又ハ其者カ會社ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前項ノ通知又ハ催告ハ通常其到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

第百七十三條　社債原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　社債權者ノ氏名、住所

二　債券ノ番號

三　社債ノ總額

四　各社債ノ金額

五　社債ノ利率

六　社債償還ノ方法及ヒ期限

七　數回ニ分チテ社債ノ拂込ヲ爲サシムルトキハ其拂込ノ金額及ヒ時期

八　各社債ニ付キ拂込ミタル金額及ヒ拂込ノ年月日

九　債券發行ノ年月日

十　各社債ノ取得ノ年月日

十一　無記名式ノ債券ヲ發行シタルトキハ其數、番號及ヒ發行ノ年月日

第百七十四條　會社カ其資本ノ半額ヲ失ヒタルトキハ取締役ハ遲滯ナク株主總會ヲ招集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス

會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサルニ至リタルトキハ取締役ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第百七十五條　取締役ハ株主總會ノ認許アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

取締役カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會ハ之ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ監査役ノ一人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ二个月間之ヲ行ハサル

トキハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第百七十六條　取締役ハ監査役ノ承認ヲ得タルトキニ限リ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ民法第百八條ノ規定ヲ適用セス

第百七十七條　取締役カ其任務ヲ怠リタルトキハ其取締役ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

取締役カ法令又ハ定款ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會ノ決議ニ依リタル場合ト雖モ其取締役ハ第三者ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第百七十八條　株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ監査役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第百七十九條　取締役カ受クヘキ報酬ハ定款ニ其額ヲ定メサリシトキハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第三款　監査役

第百八十條　監査役ノ任期ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス

第百八十一條　監査役ハ何時ニテモ取締役ニ對シテ營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第百八十二條　監査役ハ株主總會ヲ招集スル必要アリト認メタルトキハ其招集ヲ爲スコトヲ得此總會ニ於テハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ特ニ檢査役ヲ選任スルコトヲ得

第百八十三條　監査役ハ取締役カ株主總會ニ提出セントスル書類ヲ調査シ株主總會ニ其意見ヲ報告スルコトヲ要ス

第百八十四條　監査役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼ヌルコトヲ得ス但取締役中ニ缺員アルトキハ取締役及ヒ監査役ノ協議ヲ以テ監査役中ヨリ一時取締役ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ取締役ノ職務ヲ行フ監査役ハ第百九十二條第一項ノ規定ニ從ヒ株主總會ノ承認ヲ得ルマテハ監査役ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第百八十五條　會社カ取締役ニ對シ又ハ取締役カ會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其訴ニ付テハ監査役會社ヲ代表ス但株主總會ハ他人ヲシテ之ヲ代表セシムルコトヲ得

資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ請求シタルトキハ特ニ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第百八十六條　監査役カ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テ取締役モ亦其責ニ任スヘキトキハ其監査役及ヒ取締役ハ之ヲ連帶債務者トス

第百八十七條　株主總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第百八十五條第一項但書及ヒ第二項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第百八十八條　削除

第百八十九條　第百六十四條、第百六十六條但書、第百六十七條、第百六十七條ノ二、第百七十七條及ヒ第百七十九條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス

第四節　會社ノ計算

第百九十條　取締役ハ定時總會ノ會日ヨリ一週間前ニ左ノ書類ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

一　財産目錄
二　貸借對照表
三　營業報告書
四　損益計算書
五　準備金及ヒ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案

第百九十一條　取締役ハ定時總會ノ會日前ニ前條ニ揭ケタル書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ本店ニ備フルコトヲ要ス

株主及ヒ會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ揭ケタル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第百九十二條　取締役ハ第百九十條ニ揭ケタル書類ヲ定時總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス

取締役ハ前項ノ承認ヲ得タル後貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第百九十三條　定時總會ニ於テ前條第一項ノ承認ヲ爲シタルトキハ會社ハ取締役及ヒ監査役ニ對シテ其責任ヲ解除シタルモノト看做ス但取締役又ハ監査役ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス

第百九十四條　會社ハ其資本ノ四分ノ一ニ達スルマテハ利益ヲ配當スル每ニ準備金トシテ其利益ノ二十分ノ一以上ヲ積立ツルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ前項ノ額ニ達スルマテ之ヲ準備金ニ組入ルルコトヲ要ス

第百九十五條　會社ハ損失ヲ塡補シ且前條第一項ニ定メタル準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第百九十六條　會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ第百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ開業ヲ爲スニ至ルマテ一定ノ利息ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ得但其利率ハ法定利率ニ超ユルコトヲ得ス

前項ニ揭ケタル定款ノ規定ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第百九十七條　利益又ハ利息ノ配當ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ之ヲ爲ス但會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アルトキハ此限ニ在ラス

第百九十八條　裁判所ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ノ請求ニ因リ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ檢査役ヲ選任スルコトヲ得

檢査役ハ其調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス此場合ニ於テ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ監査役ヲシテ株主總會ヲ招集セシムルコトヲ得此總會ニ於テハ前項ノ調査ヲ爲サシムル爲メ特ニ檢査役ヲ選任スルコトヲ得

第五節　社債

第百九十九條　社債ハ第二百九條ニ定メタル決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

第二百條　社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ニ超ユルコトヲ得ス

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産カ前項ノ金額ニ滿タサルトキハ社債ノ總額ハ其財産ノ額ニ超ユルコトヲ得ス

第二百條ノ二　會社ハ前ニ募集シタル社債總額ノ拂込ヲ爲サシメタル後ニ非サレハ更ニ社債ヲ募集スルコトヲ得ス

第二百一條　各社債ノ金額ハ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二百二條　社債權者ニ償還スヘキ金額カ券面額ニ超ユヘキコトヲ定メタルトキハ其金額ハ各社債ニ付キ同一ナルコトヲ要ス

第二百三條　社債ノ募集ニ應セントスル者ハ社債申込證二通ニ其引受クヘキ社債ノ數及ヒ住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

社債申込證ハ取締役之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　會社ノ商號
二　第百七十三條第三號乃至第七號ニ揭ケタル事項
三　社債發行ノ價額又ハ其最低價額
四　會社ノ資本及ヒ拂込ミタル株金ノ總額

五　最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額
六　前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其償還ヲ了ヘサル總額

社債發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ社債應募者ハ社債申込證ニ應募價額ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百三條ノ二　前條ノ規定ハ契約ニ依リ社債ノ總額ヲ引受クル場合ニハ之ヲ適用セス社債募集ノ委託ヲ受ケタル者カ自ラ社債ノ一部ヲ引受クル場合ニ於テ其一部ニ付キ亦同シ

第二百四條　社債ノ募集カ完了シタルトキハ取締役ハ遲滯ナク各社債ニ付キ其全額又ハ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第二百四條ノ二　社債募集ノ委託ヲ受ケタル者ハ自己ノ名ヲ以テ會社ノ爲メニ第二百三條第二項及ヒ前條ニ定メタル行爲ヲ爲スコトヲ得

第二百四條ノ三　取締役ハ第二百四條ノ拂込アリタル日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　第百七十三條第三號乃至第六號ニ揭ケタル事項
二　各社債ニ付キ拂込ミタル金額

第五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

外國ニ於テ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ登記スヘキ事項カ外國ニ於テ生シタルトキハ登記ノ期間ハ其通知ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二百五條　債券ハ社債全額ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

債券ニハ會社ノ商號及ヒ第百七十三條第二號乃至第六號ニ揭ケタル事項ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

第二百六條　記名社債ノ移轉ハ取得者ノ氏名、住所ヲ社債原簿ニ記載シ且其氏名ヲ債券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二百七條　第百五十五條ノ規定ハ債券ニ之ヲ準用ス

第二百七條ノ二　第百七十二條ノ二ノ規定ハ社債應募者又ハ社債權者ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス

第六節　定款ノ變更

第二百八條　定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ變更スルコトヲ得

定款ノ變更ニ關スル議案ノ要領ハ第百五十六條ニ定メタル通知及ヒ公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百九條　定款ノ變更ハ總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當タル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス但第百六十一條第二項ノ規定ニ依リテ株券ヲ供託セサル者ハ總株主ノ員數ニ之ヲ算入セス

前項ニ定メタル員數ノ株主カ出席セサルトキハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各株主ニ對シテ其假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其趣旨ヲ公告シ更ニ一个月内ニ第二回ノ株主總會ヲ招集スルコトヲ要ス

第二回ノ株主總會ニ於テハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス

前二項ノ規定ハ會社ノ目的タル事業ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百十條　會社ノ資本ハ株金全額拂込ノ後ニ非サレハ之ヲ增加スルコトヲ得ス

第二百十一條　會社ハ其資本ヲ增加スル場合ニ限リ優先株ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其旨ヲ定款ニ記載スルコトヲ要ス

第二百十二條　會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ定款ノ變更カ優先株主ニ損害ヲ及ホスヘキトキハ株主總會ノ決議ノ外優先株主ノ總會ノ決議アルコトヲ要ス

優先株主ノ總會ニハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百十二條ノ二　會社カ其資本ヲ增加スル場合ニ於テ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アルトキハ其者、其財産ノ種類、價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數ハ資本增加ノ決議ト同時ニ之ヲ決議スルコトヲ要ス

第二百十二條ノ三　株式申込證ハ取締役之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　會社ノ商號
二　增加スヘキ資本ノ總額
三　資本增加ノ決議ノ年月日
四　第一回拂込ノ金額
五　額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ其旨
六　前條ノ規定ニ依リテ決議シタル事項
七　優先株ヲ發行スル場合ニ於テハ其種類及ヒ其各種ノ株式ノ數
八　一定ノ時期マテニ資本增加ノ登記ヲ爲サルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ヘキコト

數種ノ優先株ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込人ハ株式申込證ニ其引受クヘキ株式ノ種類及ヒ各種ノ株式ノ數ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百十三條　會社カ其資本ヲ增加シタル場合ニ於テ各新株ニ付キ第百二十九條ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ遲滯ナク株主總會ヲ招集シテ之ニ新株ノ募集ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス

第二百十四條　監査役ハ左ニ揭ケタル事項ヲ調査シ之ヲ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス

一　新株總數ノ引受アリタルヤ否ヤ
二　各新株ニ付キ第百二十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ

株主總會ハ前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムル爲メ特ニ檢査役ヲ選任スルコトヲ得

第二百十五條　削除

第二百十六條　引受ナキ株式又ハ第百二十九條ノ拂込ノ未濟ナル株式アルトキハ取締役ハ連帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込カ取消サレタルトキ亦同シ

第二百十七條　會社ハ第二百十三條ノ規定ニ依リテ招集シタル株主總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　增加シタル資本ノ總額
二　資本增加ノ決議ノ年月日
三　各新株ニ付キ拂込ミタル株金額
四　優先株ヲ發行シタルトキハ其種類及ヒ其各種ノ株式ノ數

第五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ新株券ノ發行及ヒ新株ノ讓渡又ハ其豫約ヲ爲スコトヲ得ス

第二百十八條　新株ヲ發行シタルトキハ前條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル年月日ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

優先株ヲ發行シタルトキハ其株主ノ權利ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

第二百十九條　第百二十六條第一項、第三項、第百二十六條ノ二乃至第百三十條、第百四十二條及ヒ第百四十七條第二項ノ規定ハ新株發行ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十條　株主總會ニ於テ資本減少ノ決議ヲ爲ストキハ同時ニ其減少ノ方法ヲ決議スルコトヲ要ス

第七十八條乃至第八十條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十條ノ二　資本減少ノ爲メ株式ヲ併合スヘキ場合ニ於テハ會社ハ株主ニ對シ一定ノ期間内ニ株券ヲ會社ニ提供スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ提供セサルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルコトヲ得但其期間ハ三个月ヲ下ルコトヲ得ス

第二百二十條ノ三　會社カ前條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式ヲ競賣シ且株數ニ應シテ其代金ヲ從前ノ株主ニ交付スルコトヲ要ス

第二百二十條ノ四　第百五十二條第三項及ヒ第百五十三條ノ二ノ規定ハ前二條ノ場合ニ

之ヲ準用ス

第二百二十條ノ五　株式併合ノ場合ニ於テ從前ノ株式ヲ目的トスル質權ハ併合ニ因リテ株主カ受クヘキ株式及ヒ金錢ノ上ニ存在ス

第七節　解散

第二百二十一條　會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス
一　第七十四條第一號、第二號、第四號、第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事由
二　株主總會ノ決議
三　株主カ七人未滿ニ減シタルコト

第二百二十二條　前條第二號及ヒ合併ノ決議ハ第二百九條ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十三條　削除

第二百二十四條　會社カ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外取締役ハ遲滯ナク株主ニ對シテ其通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百二十五條　第七十六條及ヒ第七十八條乃至第八十二條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス
第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ之ヲ準用ス
第二百二十條ノ五ノ規定ハ株式ヲ併合セサル場合ニ於テ合併ニ因リ消滅スル會社ノ株式ヲ目的トスル質權ニ之ヲ準用ス

第八節　清算

第二百二十六條　會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外取締役其清算人ト爲ル但定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ株主總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第二百二十七條　清算人ハ就職ノ後遲滯ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作リ之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第二百二十七條ノ二　清算人ハ財産目録、貸借對照表及ヒ事務報告書ヲ作リ定時總會ノ會日ヨリ一週間前ニ之ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

第二百二十八條　株主總會ニ於テ選任シタル清算人ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得
重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第二百二十九條　殘餘財産ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ之ヲ株主ニ分配スルコトヲ要ス但會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アルトキハ此限ニ在ラス

第二百三十條　清算事務カ終ハリタルトキハ清算人ハ遲滯ナク決算報告書ヲ作リ之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第二百三十一條　削除

第二百三十二條　會社カ事業ニ著手シタル後株主、取締役又ハ監査役カ其設立ノ無效ナルコトヲ發見シタルトキハ訴ヲ以テノミ其無效ヲ主張スルコトヲ得
第九十九條ノ三乃至第九十九條ノ六及ヒ第百六十三條ノ二第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十三條　會社ノ帳簿、其營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ本店ノ所在地ニ於テ清算結了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ清算人其他ノ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ選任ス

第二百三十四條　第八十四條、第八十九條乃至第九十三條、第九十三條ノ二第二項、第九十五條、第九十七條、第九十九條、第百五十七條乃至第百六十條ノ二、第百六十三條乃至第百六十三條ノ四、第百六十四條第二項、第百六十七條ノ二、第百七十條、第百七十一條、第百七十六條乃至第百七十九條、第百八十一條、第百八十三條乃至第百八十七條、第百九十一條乃至第百九十三條及ヒ民法第七十九條、第八十條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五章　株式合資會社

第二百三十五條　株式合資會社ハ無限責任社員ト株主トヲ以テ之ヲ組織ス

第二百三十六條　左ノ事項ニ付テハ合資會社ニ關スル規定ヲ準用ス
一　無限責任社員相互間ノ關係
二　無限責任社員ト株主及ヒ第三者トノ關係
三　無限責任社員ノ退社
此他株式合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外株式會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百三十七條　無限責任社員ハ發起人ト爲リテ定款ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス
一　第百二十條第一號、第二號、第四號、第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項
二　株金ノ總額
三　無限責任社員ノ氏名、住所
四　無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準

第二百三十八條　無限責任社員ハ株主ヲ募集スルコトヲ要ス
株式申込證ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一　第百二十二條、第百二十六條第二項第一號、第四號、第五號及ヒ前條ニ掲ケタル事項
二　無限責任社員カ株式ヲ引受ケタルトキハ其各自カ引受ケタル株式ノ數

第二百三十九條　創立總會ニ於テハ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス
無限責任社員ハ監査役ト爲ルコトヲ得ス

第二百四十條　無限責任社員ハ創立總會ニ出席シテ其意見ヲ述フルコトヲ得但株式ヲ引受ケタルトキト雖モ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス
無限責任社員カ引受ケタル株式其他ノ出資ハ議決權ニ關シテハ之ヲ算入セス
前二項ノ規定ハ株主總會ニ之ヲ準用ス

第二百四十一條　監査役ハ第百三十四條第一項及ヒ第二百三十七條第四號ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第二百四十二條　會社ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス
一　第百二十條第一號、第二號、第四號、第七號及ヒ第百四十一條第一項第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項
二　株金ノ總額
三　無限責任社員ノ氏名、住所
四　無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ種類及ヒ財産ヲ目的トスル出資ノ價格
五　會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定メタルトキハ其氏名
六　監査役ノ氏名、住所
七　數人ノ無限責任社員カ共同シ又ハ無限責任社員カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第二百四十三條　會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ニハ株式會社ノ取締役ニ關スル規定ヲ準用ス但第百六十四條乃至第百六十八條、第百七十五條及ヒ第百七十九條ノ規定ハ此限ニ在ラス

第二百四十四條　合資會社ニ於テ總社員ノ同意ヲ要スル事項ニ付テハ株主總會ノ決議ノ外無限責任社員ノ一致アルコトヲ要ス
第二百九條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第二百四十五條　監査役ハ無限責任社員ヲシテ株主總會ノ決議ヲ執行セシムル責ニ任ス

第二百四十六條　株式合資會社ハ合資會社ト同一ノ事由ニ因リテ解散ス但第八十三條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第二百四十七條　無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テ株主ハ第二百九條ニ定メタル決議ニ依リ株式會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス
第百十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十八條　會社カ解散シタルトキハ合併、破産又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ヲ除ク外清算ハ無限責任社員ノ全員又ハ其選任シタル者及ヒ株主總會ニ於テ選任シタル者之ヲ爲ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
無限責任社員カ清算人ヲ選任スルトキハ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス
株主總會ニ於テ選任スル清算人ハ無限責任社員ノ全員若クハ其相續人又ハ其選任スル者ト同數ナルコトヲ要ス

第二百四十九條　無限責任社員ハ何時ニテモ其選任シタル清算人ヲ解任スルコトヲ得
前條第二項ノ規定ハ清算人ノ解任ニ之ヲ準用ス

第二百五十條　第百二條ノ規定ハ株式合資會社ノ無限責任社員ニ之ヲ準用ス

第二百五十一條　清算人ハ第二百二十七條、第二百二十七條ノ二及ヒ第二百三十條ニ定メタル計算ニ付キ株主總會ノ承認ノ外無限責任社員全員ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第二百五十二條　株式合資會社ハ第二百四十四條ノ規定ニ從ヒ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲スコトヲ得

第二百五十三條　前條ノ場合ニ於テハ株主總會ハ直チニ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス此總會ニ於テハ無限責任社員モ亦其引受クヘキ株式ノ數ニ應シテ議決權ヲ行フコトヲ得
第七十八條、第七十九條第一項、第二項及ヒ第八十三條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百五十四條　削除

第六章　外國會社

第二百五十五條　外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ日本ニ成立スル同種ノモノ又ハ最モ之ニ類似セルモノト同一ノ登記及ヒ公告ヲ爲スコトヲ要ス
右ノ外日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ハ其日本ニ於ケル代表者ヲ定メ且支店設立ノ登記ト同時ニ其氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス
第六十二條ノ規定ハ外國會社ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第二百五十六條　前條第一項及ヒ第二項ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項カ外國ニ於テ生シタルトキハ登記ノ期間ハ其通知ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二百五十七條　外國會社カ始メテ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ第三者ハ其會社ノ成立ヲ否認スルコトヲ得

第二百五十八條　日本ニ本店ヲ設ケ又ハ日本ニ於テ商業ヲ營ムヲ以テ主タル目的トスル會社ハ外國ニ於テ設立スルモノト雖モ日本ニ於テ設立スル會社ト同一ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第二百五十九條　第百四十七條、第百四十九條、第百五十條、第百五十五條第一項、第二百五條第一項、第二百六條、第二百七條及ヒ第二百十七條第二項ノ規定ハ日本ニ於テスル外國會社ノ株券又ハ債券ノ發行及ヒ其株式又ハ社債ノ移轉ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ始メテ日本ニ設ケタル支店ヲ以テ本店ト看做ス

第二百六十條　外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其代表者カ會社ノ業務ニ付キ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其支店ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

第七章　罰則

第二百六十一條　發起人、取締役、株式合資會社ノ業務ヲ執行スル社員、監査役、檢査役又ハ株式會社若クハ株式合資會社ノ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
一　會社ノ設立若クハ資本ノ增加又ハ其登記ヲ爲シ若クハ之ヲ爲サシムル目的ヲ以テ株式總數ノ引受又ハ資本ニ對スル拂込額ニ付キ裁判所又ハ總會ヲ欺罔シタルトキ
二　何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス會社ノ計算ニ於テ不正ニ其株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ
三　法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益又ハ利息ノ配當ヲ爲シタルトキ
四　會社ノ營業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲メニ會社財産ヲ處分シタルトキ
前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百六十二條　發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス
一　官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
二　第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ違反シテ合併、會社財産ノ處分、資本ノ減少又ハ組織ノ變更ヲ爲シタルトキ
三　檢査役ノ調査ヲ妨ケタルトキ
四　第百五十一條第二項ノ規定ニ違反シテ株式ヲ消却シタルトキ
五　第百五十五條第一項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ無記名式ト爲シタルトキ
六　第百七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ違反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
七　第百九十四條ノ規定ニ違反シテ準備金ヲ積立テサルトキ
八　第二百條ノ規定ニ違反シテ社債ヲ募集シ又ハ第二百五條第一項ノ規定ニ違反シテ債券ヲ發行シタルトキ
九　第二百六十條ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ
十　會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ニ於テ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲ササルトキ
十一　清算ノ結了ヲ遲延セシムル目的ヲ以テ民法第七十九條ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ
十二　民法第七十九條ノ期間內ニ或債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ第九十五條ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ分配シタルトキ

第二百六十二條ノ二　發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス
一　本編ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
二　本編ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ爲シタルトキ
三　本編ノ規定ニ依リ閲覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閲覽セシメサリシトキ
四　本編ノ規定ニ依ル檢査又ハ調査ヲ妨ケタルトキ
五　第四十六條ノ規定ニ違反シテ開業ノ準備ニ著手シタルトキ
六　第百二十六條第二項、第二百三條第二項、第二百十二條ノ三第一項及ヒ第二百三十八條第二項ノ規定ニ違反シ株式申込證又ハ社債申込證ヲ作ラス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
七　第百四十七條第一項又ハ第二百十七條第三項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ發行シタルトキ
八　株券又ハ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
九　定款、株主名簿、社債原簿、總會ノ決議録、財産目録、貸借對照表、營業報告書、事務報告書、損益計算書及ヒ準備金並ニ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案ヲ本店若クハ支店ニ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
十　第百七十四條第一項又ハ第百九十八條第二項ノ規定ニ違反シ株主總會ヲ招集セサルトキ

第二百六十二條ノ三　第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ハ本章ノ適用ニ付テハ之ヲ發起人ト看做ス

第三編　商行爲

第一章　總則

第二百六十三條　左ニ掲ケタル行爲ハ之ヲ商行爲トス

第十四輯　法務　第二章　民事　第二款　商法

一 利益ヲ得テ讓渡ス意思ヲ以テスル動產、不動產若クハ有價證券ノ有償取得又ハ其取得シタルモノノ讓渡ヲ目的トスル行爲
二 他人ヨリ取得スヘキ動產又ハ有價證券ノ供給契約及ヒ其履行ノ爲メニスル有償取得ヲ目的トスル行爲
三 取引所ニ於テスル取引
四 手形其他ノ商業證券ニ關スル行爲

第二百六十四條 左ニ揭ケタル行爲ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス但專ラ賃金ヲ得ルノ目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服スル者ノ行爲ハ此限ニ在ラス
一 賃貸スル意思ヲ以テスル動產若クハ不動產ノ有償取得若クハ賃借又ハ其取得若クハ賃借シタルモノノ賃貸ヲ目的トスル行爲
二 他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ關スル行爲
三 電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行爲
四 運送ニ關スル行爲
五 作業又ハ勞務ノ請負
六 出版、印刷又ハ撮影ニ關スル行爲
七 客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引
八 兩替其他ノ銀行取引
九 保險
十 寄託ノ引受
十一 仲立又ハ取次ニ關スル行爲
十二 商行爲ノ代理ノ引受

第二百六十五條 商人カ其營業ノ爲メニスル行爲ハ之ヲ商行爲トス
商人ノ行爲ハ其營業ノ爲メニスルモノト推定ス

第二百六十六條 商行爲ノ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示ササルトキト雖モ其行爲ハ本人ニ對シテ其效力ヲ生ス但相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラサリシトキハ代理人ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二百六十七條 商行爲ノ受任者ハ委任ノ本旨ニ反セサル範圍內ニ於テ委任ヲ受ケサル行爲ヲ爲スコトヲ得

第二百六十八條 商行爲ノ委任ニ因ル代理權ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅セス

第二百六十九條 對話者間ニ於テ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ直チニ承諾ヲ爲ササルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

第二百七十條 隔地者間ニ於テ承諾期間ノ定ナクシテ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ相當ノ期間內ニ承諾ノ通知ヲ發セサルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ
民法第五百二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百七十一條 商人カ平常取引ヲ爲ス者ヨリ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク諾否ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス若シ之ヲ發スルコトヲ怠リタルトキハ申込ヲ承諾シタルモノト看做ス

第二百七十二條 商人カ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ申込ト共ニ受取リタル物品アルトキハ其申込ヲ拒絕シタルトキト雖モ申込者ノ費用ヲ以テ其物品ヲ保管スルコトヲ要ス但其物品ノ價額カ其費用ヲ償フニ足ラサルトキ又ハ商人カ其保管ニ因リテ損害ヲ受クヘキトキハ此限ニ在ラス

第二百七十三條 數人カ其一人又ハ全員ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ債務ヲ負擔シタルトキハ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス
保證人アル場合ニ於テ債務カ主タル債務者ノ商行爲ナルトキ又ハ保證カ商行爲ナルトキハ主タル債務者及ヒ保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス

第二百七十四條 商人カ其營業ノ範圍內ニ於テ他人ノ爲メニ或行爲ヲ爲シタルトキハ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十五條 商人間ニ於テ金錢ノ消費貸借ヲ爲シタルトキハ貸主ハ法定利息ヲ請求スルコトヲ得
商人カ其營業ノ範圍內ニ於テ他人ノ爲メニ金錢ノ立替ヲ爲シタルトキハ其立替ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十六條 商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ關シテハ法定利率ハ年六分トス

第二百七十七條 民法第三百四十九條ノ規定ハ商行爲ニ因リテ生シタル債權ヲ擔保スル爲メニ設定シタル質權ニハ之ヲ適用セス

第二百七十八條 商行爲ニ因リテ生シタル債務ノ履行ヲ爲スヘキ場所カ其行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ定マラサルトキハ特定物ノ引渡ハ行爲ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ履行ハ債權者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
指圖債權及ヒ無記名債權ノ辨濟ハ債務者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ其支店ヲ以テ營業所ト看做ス

第二百七十九條 指圖債權又ハ無記名債權ノ債務者ハ其履行ニ付キ期限ノ定アルトキト雖モ其期限カ到來シタル後所持人カ其證券ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲シタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス

第二百八十條 削除

第二百八十一條 金錢其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ノ所持人カ其證券ヲ喪失シタル場合ニ於テ公示催告ノ申立ヲ爲シタルトキハ債務者ヲシテ其債務ノ目的物ヲ供託セシメ又ハ相當ノ擔保ヲ供シテ其證券ノ趣旨ニ從ヒ履行ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十二條 第四百四十一條、第四百四十九條ノ二、第四百五十七條、第四百六十一條及ヒ第四百六十四條ノ規定ハ金錢其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ之ヲ準用ス

第二百八十三條 法令又ハ慣習ニ依リ取引時間ノ定アルトキハ其取引時間內ニ限リ債務ノ履行ヲ爲シ又ハ其履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二百八十四條 商人間ニ於テ其雙方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權カ辨濟期ニ在ルトキハ債權者ハ辨濟ヲ受クルマテ其債務者トノ間ニ於ケル商行爲ニ因リ自己ノ占有ニ歸シタル債務者所有ノ物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二百八十五條 商行爲ニ因リテ生シタル債權ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外五年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス但他ノ法令ニ之ヨリ短キ時效期間ノ定アルトキハ其規定ニ從フ

第二百八十五條ノ二 第四十二條第二項ニ定メタル會社ノ行爲ニハ商行爲ニ關スル規定ヲ準用ス

第二章 賣買

第二百八十六條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滯ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
損敗シ易キ物ハ前項ノ催告ヲ爲サスシテ之ヲ競賣スルコトヲ得
前二項ノ規定ニ依リ賣主カ賣買ノ目的物ヲ競賣シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス

第二百八十七條 賣買ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間內ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ直チニ其履行ヲ請求スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第二百八十八條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取リタルトキハ遲滯ナク之ヲ檢査シ若シ之ニ瑕疵アルコト又ハ其數量ニ不足アルコトヲ發見シタルトキハ直チニ賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルニ非サレハ其瑕疵又ハ不足ニ因リテ契約ノ解除又ハ代金減額若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス賣買ノ目的物ニ直チニ發見スルコト能ハサ

ル瑕疵アリタル場合ニ於テ買主カ六个月內ニ之ヲ發見シタルトキ亦同シ
前項ノ規定ハ賣主ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百八十九條 前條ノ場合ニ於テ買主ハ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ賣主ノ費用ヲ以テ賣買ノ目的物ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス但其物ニ付キ滅失又ハ毀損ノ虞アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ買主カ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
前二項ノ規定ハ賣主及ヒ買主ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所カ同市町村內ニ在ル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百九十條 前條ノ規定ハ賣主ヨリ買主ニ引渡シタル物品カ注文シタル物品ト異ナリタル場合ニ之ヲ準用ス其物品カ注文シタル數量ヲ超過シタル場合ニ於テ其超過額ニ付キ亦同シ

第三章 交互計算

第二百九十一條 交互計算ハ商人間又ハ商人ト商人ニ非サル者トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間內ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其殘額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十二條 手形其他ノ商業證券ヨリ生シタル債權債務ヲ交互計算ニ組入レタル場合ニ於テ證券ノ債務者カ辨濟ヲ爲ササリシトキハ當事者ハ其債務ニ關スル項目ヲ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得

第二百九十三條 當事者カ相殺ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサリシトキハ其期間ハ之ヲ六个月トス

第二百九十四條 當事者カ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ノ承認ヲ爲シタルトキハ其各項目ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得ス但錯誤又ハ脫漏アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二百九十五條 相殺ニ因リテ生シタル殘額ニ付テハ債權者ハ計算閉鎖ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ規定ハ各項目ヲ交互計算ニ組入レタル日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨ケス

第二百九十六條 各當事者ハ何時ニテモ交互計算ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ計算ヲ閉鎖シテ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第四章 匿名組合

第二百九十七條 匿名組合契約ハ當事者ノ一方カ相手方ノ營業ノ爲メニ出資ヲ爲シ其營業ヨリ生スル利益ヲ分配スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十八條 匿名組合員ノ出資ハ營業者ノ財產ニ歸ス
匿名組合員ハ營業者ノ行爲ニ付キ第三者ニ對シテ權利義務ヲ有セス

第二百九十九條 匿名組合員カ其氏若クハ氏名ヲ營業者ノ商號中ニ用井又ハ其商號ヲ營業者ノ商號トシテ用ユルコトヲ許諾シタルトキハ其使用以後ニ生シタル債務ニ付テハ營業者ト連帶シテ其責ニ任ス

第三百條 出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其塡補ノ後ニ非サレハ匿名組合員ハ利益ノ配當ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百一條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メサリシトキ又ハ或當事者ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各當事者ハ營業年度ノ終ニ於テ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但六个月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス
組合ノ存續期間ヲ定メタルト否トヲ問ハス已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第三百二條 前條ニ揭ケタル場合ノ外組合契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス
一 組合ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
二 營業者ノ死亡又ハ禁治產
三 營業者又ハ匿名組合員ノ破產

第三百三條 組合契約カ終了シタルトキハ營業者ハ匿名組合員ニ其出資ノ價額ヲ返還スルコトヲ要ス但出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其殘額ヲ返還スルヲ以テ足ル

第三百四條 第百八條、第百十一條及ヒ第百十五條ノ規定ハ匿名組合員ニ之ヲ準用ス

第五章 仲立營業

第三百五條 仲立人トハ他人間ノ商行爲ノ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百六條 仲立人ハ其媒介シタル行爲ニ付キ當事者ノ爲メニ支拂其他ノ給付ヲ受クルコトヲ得ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第三百七條 仲立人カ其媒介スル行爲ニ付キ見本ヲ受取リタルトキハ其行爲カ完了スルマテ之ヲ保管スルコトヲ要ス

第三百八條 當事者間ニ於テ行爲カ成立シタルトキハ仲立人ハ遲滯ナク各當事者ノ氏名又ハ商號、行爲ノ年月日及ヒ其要領ヲ記載シタル書面ヲ作リ署名ノ後之ヲ各當事者ニ交付スルコトヲ要ス
當事者カ直チニ履行ヲ爲スヘキ場合ヲ除ク外仲立人ハ各當事者ヲシテ前項ノ書面ニ署名セシメタル後之ヲ其相手方ニ交付スルコトヲ要ス
前二項ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ書面ヲ受領セス又ハ之ニ署名セサルトキハ仲立人ハ遲滯ナク相手方ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百九條 仲立人ハ其帳簿ニ前條第一項ニ揭ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
當事者ハ何時ニテモ仲立人カ自己ノ爲メニ媒介シタル行爲ニ付キ其帳簿ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三百十條 當事者カ其氏名又ハ商號ヲ相手方ニ示ササルヘキ旨ヲ仲立人ニ命シタルトキハ仲立人ハ第三百八條第一項ノ書面及ヒ前條第二項ノ謄本ニ其氏名又ハ商號ヲ記載スルコトヲ得ス

第三百十一條 仲立人カ當事者ノ一方ノ氏名又ハ商號ヲ其相手方ニ示ササリシトキハ之ニ對シテ自ラ履行ヲ爲ス責ニ任ス

第三百十二條 仲立人ハ第三百八條ノ手續ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス
仲立人ノ報酬ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス

第六章 問屋營業

第三百十三條 問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百十四條 問屋ハ他人ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ因リ相手方ニ對シテ自ラ權利ヲ得義務ヲ負フ
問屋ト委託者トノ間ニ於テハ本章ノ規定ノ外委任及ヒ代理ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百十五條 問屋ハ委託者ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ付キ相手方カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ自ラ其履行ヲ爲ス責ニ任ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第三百十六條 問屋カ委託者ノ指定シタル金額ヨリ廉價ニテ販賣ヲ爲シ又ハ高價ニテ買入ヲ爲シタル場合ニ於テ自ラ其差額ヲ負擔スルトキハ其販賣又ハ買入ハ委託者ニ對シテ其效力ヲ生ス

第三百十七條 問屋カ取引所ノ相場アル物品ノ販賣又ハ買入ノ委託ヲ受ケタルトキハ自ラ買主又ハ賣主ト爲ルコトヲ得此場合ニ於テハ賣買ノ代價ハ問屋カ買主又ハ賣主ト爲リタルコトノ通知ヲ發シタル時ニ於ケル取引所ノ相場ニ依リテ之ヲ定ム
前項ノ場合ニ於テモ問屋ハ委託者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第三百十八條 問屋カ買入ノ委託ヲ受ケタル場合ニ於テ委託者カ買入レタル物品ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ第二百八十六條ノ規定ヲ準用ス

第三百十九條 第三百十七條及ヒ第四十一條ノ規定ハ問屋ニ之ヲ準用ス

第三百二十條 本章ノ規定ハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ販賣又ハ買入ニ非サル行爲ヲ爲スヲ業トスル者ニ之ヲ準用ス

第七章 運送取扱營業

第三百二十一條 運送取扱人トハ自己ノ名ヲ以テ物品運送ノ取次ヲ爲スヲ業トスル者ヲ

謂フ

運送取扱人ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外問屋ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百二十二條　運送取扱人ハ自己又ハ其使用人カ運送品ノ受取、引渡、保管、運送人又ハ他ノ運送取扱人ノ選擇其他運送ニ關スル注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百二十三條　運送取扱人カ運送品ヲ運送人ニ引渡シタルトキハ直チニ其報酬ヲ請求スルコトヲ得

運送取扱契約ヲ以テ運送賃ノ額ヲ定メタルトキハ運送取扱人ハ特約アルニ非サレハ別ニ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百二十四條　運送取扱人ハ運送品ニ關シ受取ルヘキ報酬、運送賃其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第三百二十五條　數人相次テ運送ノ取次ヲ爲ス場合ニ於テハ後者ハ前者ニ代ハリテ其權利ヲ行使スル義務ヲ負フ

前項ノ場合ニ於テ後者カ前者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ前者ノ權利ヲ取得ス

第三百二十六條　運送取扱人カ運送人ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ運送人ノ權利ヲ取得ス

第三百二十七條　運送取扱人ハ特約ナキトキハ自ラ運送ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ運送取扱人ハ運送人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

運送取扱人カ委託者ノ請求ニ因リテ貨物引換證ヲ作リタルトキハ自ラ運送ヲ爲スモノト看做ス

第三百二十八條　運送取扱人ノ責任ハ荷受人カ運送品ヲ受取リタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ其引渡アルヘカリシ日ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ運送取扱人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三百二十九條　運送取扱人ノ委託者又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第三百三十條　第三百三十八條及ヒ第三百四十三條ノ規定ハ運送取扱營業ニ之ヲ準用ス

第八章　運送營業

第三百三十一條　運送人トハ陸上又ハ湖川、港灣ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第一節　物品運送

第三百三十二條　荷送人ハ運送人ノ請求ニ因リ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

運送狀ニハ左ノ事項ヲ記載シ荷送人之ニ署名スルコトヲ要ス

一　運送品ノ種類、重量又ハ容積及ヒ其荷造ノ種類、個數並ニ記號
二　到達地
三　荷受人ノ氏名又ハ商號
四　運送狀ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第三百三十三條　運送人ハ荷送人ノ請求ニ因リ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ記載シ運送人之ニ署名スルコトヲ要ス

一　前條第二項第一號乃至第三號ニ揭ケタル事項
二　荷送人ノ氏名又ハ商號
三　運送賃
四　貨物引換證ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第三百三十四條　貨物引換證ヲ作リタルトキハ運送ニ關スル事項ハ運送人ト所持人トノ間ニ於テハ貨物引換證ノ定ムル所ニ依ル

第三百三十四條ノ二　貨物引換證ヲ作リタルトキハ運送品ニ關スル處分ハ貨物引換證ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百三十四條ノ三　貨物引換證ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但貨物引換證ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第三百三十五條　貨物引換證ニ依リ運送品ヲ受取ルコトヲ得ヘキ者ニ貨物引換證ヲ引渡シタルトキハ其引渡ハ運送品ノ上ニ行使スル權利ノ取得ニ付キ運送品ノ引渡ト同一ノ效力ヲ有ス

第三百三十六條　運送品ノ全部又ハ一部カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ其運送賃ヲ請求スルコトヲ得ス若シ運送人カ既ニ其運送賃ノ全部又ハ一部ヲ受取リタルトキハ之ヲ返還スルコトヲ要ス

運送品ノ全部又ハ一部カ其性質若クハ瑕疵又ハ荷送人ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ運送賃ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第三百三十七條　運送人ハ自己若クハ運送取扱人又ハ其使用人其他運送ノ爲メ使用シタル者カ運送品ノ受取、引渡、保管及ヒ運送ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百三十八條　貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ荷送人カ運送ヲ委託スルニ當タリ其種類及ヒ價額ヲ明告シタルニ非サレハ運送人ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第三百三十九條　數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ各運送人ハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第三百四十條　運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アルヘカリシ日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム

運送品ノ一部滅失又ハ毀損ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アリタル日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但延著ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

運送品ノ滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セサル運送賃其他ノ費用ハ前二項ノ賠償額ヨリ之ヲ控除ス

第三百四十一條　運送品カ運送人ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ滅失、毀損又ハ延著シタルトキハ運送人ハ一切ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第三百四十二條　荷送人又ハ貨物引換證ノ所持人ハ運送人ニ對シ運送ノ中止、運送品ノ返還其他ノ處分ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ運送人ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應スル運送賃、立替金及ヒ其處分ニ因リテ生シタル費用ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ定メタル荷送人ノ權利ハ運送品カ到達地ニ達シタル後荷受人カ其引渡ヲ請求シタルトキハ消滅ス

第三百四十三條　運送品カ到達地ニ達シタル後ハ荷受人ハ運送契約ニ因リテ生シタル荷送人ノ權利ヲ取得ス

荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送人ニ對シ運送賃其他ノ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第三百四十四條　貨物引換證ヲ作リタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非サレハ運送品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百四十五條　荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキハ運送人ハ運送品ヲ供託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ運送人カ荷送人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ運送品ノ處分ニ付キ指圖ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルモ荷送人カ其指圖ヲ爲ササルトキハ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

運送人カ前二項ノ規定ニ從ヒテ運送品ノ供託又ハ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百四十六條　前條ノ規定ハ運送品ノ引渡ニ關シテ爭アル場合ニ之ヲ準用ス

運送人カ競賣ヲ爲スニハ豫メ荷受人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ運送品ノ受取ヲ催告シ其期間經過ノ後更ニ荷送人ニ對スル催告ヲ爲スコトヲ要ス

運送人ハ遲滯ナク荷受人ニ對シテモ運送品ノ供託又ハ競賣ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百四十七條　第二百八十六條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百四十八條　運送人ノ責任ハ荷受人カ留保ヲ爲サスシテ運送品ヲ受取リ且運送賃其他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但運送品ニ直チニ發見スルコト能ハサル毀損又ハ一部滅失アリタル場合ニ於テ荷受人カ引渡ノ日ヨリ二週間內ニ運送人ニ對シテ其通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ運送人ニ惡意アリタル場合ニ

ハ之ヲ適用セス

第三百四十九條　第三百二十四條、第三百二十五條、第三百二十八條及ヒ第三百二十九條ノ規定ハ運送人ニ之ヲ準用ス

第二節　旅客運送

第三百五十條　旅客ノ運送人ハ自己又ハ其使用人カ運送ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ旅客カ運送ノ爲メニ受ケタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付テハ裁判所ハ被害者及ヒ其家族ノ情況ヲ斟酌スルコトヲ要ス

第三百五十一條　旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケタル手荷物ニ付テハ特ニ運送賃ヲ請求セサルトキト雖モ物品ノ運送人ト同一ノ責任ヲ負フ

手荷物カ到達地ニ達シタル日ヨリ一週間內ニ旅客カ其引渡ヲ請求セサルトキハ第二百八十六條ノ規定ヲ準用ス但住所又ハ居所ノ知レサル旅客ニハ催告及ヒ通知ヲ爲スコトヲ要セス

第三百五十二條　旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケサル手荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ自己又ハ其使用人ニ過失アル場合ヲ除ク外損害賠償ノ責ニ任セス

第九章　寄託

第一節　總則

第三百五十三條　商人カ其營業ノ範圍內ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケサルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第三百五十四條　旅店、飮食店、浴場其他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

客カ特ニ寄託セサル物品ト雖モ場屋中ニ携帶シタル物品カ場屋ノ主人又ハ其使用人ノ不注意ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ場屋ノ主人ハ損害賠償ノ責ニ任ス

客ノ携帶品ニ付キ責任ヲ負ハサル旨ヲ告示シタルトキト雖モ場屋ノ主人ハ前二項ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百五十五條　貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ客カ其種類及ヒ價額ヲ明告シテ之ヲ前條ノ場屋ノ主人ニ寄託シタルニ非サレハ其場屋ノ主人ハ其物品ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス

第三百五十六條　前二條ノ責任ハ場屋ノ主人カ寄託物ヲ返還シ又ハ客カ携帶品ヲ持去リタル後一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ物品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ客カ場屋ヲ去リタル時ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ場屋ノ主人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二節　倉庫營業

第三百五十七條　倉庫營業者トハ他人ノ爲メニ物品ヲ倉庫ニ保管スルヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百五十八條　倉庫營業者ハ寄託者ノ請求ニ因リ寄託物ノ預證券及ヒ質入證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第三百五十九條　預證券及ヒ質入證券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ倉庫營業者之ニ署名スルコトヲ要ス

一　受寄物ノ種類、品質、數量及ヒ其荷造ノ種類、個數並ニ記號
二　寄託者ノ氏名又ハ商號
三　保管ノ場所
四　保管料
五　保管ノ期間ヲ定メタルトキハ其期間
六　受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ保險金額、保險期間及ヒ保險者ノ氏名又ハ商號
七　證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第三百六十條　倉庫營業者カ預證券及ヒ質入證券ヲ寄託者ニ交付シタルトキハ其帳簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　前條第一號、第二號及ヒ第四號乃至第六號ニ揭ケタル事項
二　證券ノ番號及ヒ其作成ノ年月日

第三百六十一條　預證券及ヒ質入證券ノ所持人ハ倉庫營業者ニ對シ寄託物ヲ分割シ且其各部分ニ對スル預證券及ヒ質入證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ所持人ハ前ノ預證券及ヒ質入證券ヲ倉庫營業者ニ返還スルコトヲ要ス

前項ニ定メタル寄託物ノ分割及ヒ證券ノ交付ニ關スル費用ハ所持人之ヲ負擔ス

第三百六十二條　預證券及ヒ質入證券ヲ作リタルトキハ寄託ニ關スル事項ハ倉庫營業者ト所持人トノ間ニ於テハ其證券ノ定ムル所ニ依ル

第三百六十三條　削除

第三百六十四條　預證券及ヒ質入證券ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ質入スルコトヲ得但證券ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

預證券ノ所持人カ未タ質入ヲ爲ササル間ハ預證券及ヒ質入證券ハ各別ニ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第三百六十五條　第三百三十四條ノ二及ヒ第三百三十五條ノ規定ハ預證券及ヒ質入證券ニ之ヲ準用ス

第三百六十六條　預證券又ハ質入證券カ滅失シタルトキハ其所持人ハ相當ノ擔保ヲ供シテ更ニ其證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ倉庫營業者ハ其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百六十七條　質入證券ニ第一ノ質入裏書ヲ爲スニハ債權額、其利息及ヒ辨濟期ヲ記載スルコトヲ要ス

第一ノ質權者カ前項ニ揭ケタル事項ヲ預證券ニ記載シテ之ニ署名スルニ非サレハ質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百六十七條ノ二　預證券ノ所持人ハ寄託物ヲ以テ預證券ニ記載シタル債權額及ヒ利息ヲ辨濟スル義務ヲ負フ

第三百六十七條ノ三　質入證券所持人ノ債權ノ辨濟ハ倉庫營業者ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百六十八條　質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサルトキハ手形ニ關スル規定ニ從ヒテ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第三百六十九條　質入證券ノ所持人ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタル後ニ非サレハ寄託物ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百七十條　倉庫營業者ハ競賣代金ノ中ヨリ競賣ニ關スル費用、受寄物ニ課スヘキ租稅、保管料其他保管ニ關スル費用及ヒ立替金ヲ控除シタル後其殘額ヲ質入證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

競賣代金ノ中ヨリ前項ニ揭ケタル費用、租稅、保管料、立替金及ヒ質入證券所持人ノ債權額、利息、拒絕證書作成ノ費用ヲ控除シタル後餘剩アルトキハ倉庫營業者ハ之ヲ預證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

第三百七十一條　競賣代金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ全部ヲ辨濟スルコト能ハサリシトキハ倉庫營業者ハ其支拂ヒタル金額ヲ質入證券ニ記載シテ其證券ヲ返還シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百七十二條　質入證券ノ所持人ハ先ツ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルトキハ其裏書人ニ對シテ不足額ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十七條ノ二乃至第四百八十八條ノ四、第四百九十一條、第四百九十二條及ヒ第四百九十五條ノ規定ハ前項ニ定メタル不足額ノ請求ニ之ヲ準用ス

第三百七十三條　質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサリシ場合ニ於テ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキ又ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ二週間內ニ寄託物ノ競賣ヲ請求セサリシトキハ裏書人ニ對スル請求權ヲ失フ

第三百七十四條　質入證券所持人ノ預證券所持人ニ對スル請求權ハ辨濟期ヨリ一年質入證券裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケタル日ヨリ六个月質入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六个月ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第三百七十五條　寄託者又ハ預證券ノ所持人ハ營業時間內何時ニテモ倉庫營業者ニ對シ

テ寄託物ノ點檢若クハ其見本ノ摘出ヲ求メ又ハ其保存ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

質入證券ノ所持人ハ營業時間內何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢ヲ求ムルコトヲ得

第三百七十六條　倉庫營業者ハ自己又ハ其使用人カ受寄物ノ保管ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其滅失又ハ毀損ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百七十七條　倉庫營業者ハ受寄物出庫ノ時ニ非サレハ保管料及ヒ立替金其他受寄物ニ關スル費用ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

但受寄物ノ一部出庫ノ場合ニ於テハ割合ニ應シテ其支拂ヲ請求スルコトヲ得

第三百七十八條　當事者カ保管ノ期間ヲ定メサリシトキハ倉庫營業者ハ受寄物入庫ノ日ヨリ六个月ヲ經過シタル後ニ非サレハ其返還ヲ爲スコトヲ得ス但已ムコトヲ得サル事由アルトキハ此限ニ在ラス

第三百七十九條　預證券及ヒ質入證券ヲ作リタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非サレハ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百八十條　預證券ノ所持人ハ質入證券ニ記載シタル債權ノ辨濟期前ト雖モ其債權ノ全額及ヒ辨濟期マテノ利息ヲ倉庫營業者ニ供託シテ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三百八十條ノ二　寄託物カ同種類ニシテ同一ノ品質ヲ有シ且分割スルコトヲ得ヘキ物ナルトキハ預證券ノ所持人ハ債權額ノ一部及ヒ其辨濟期マテノ利息ヲ供託シ其割合ニ應シテ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ倉庫營業者ハ供託ヲ受ケタル金額及ヒ返還シタル寄託物ノ數量ヲ預證券ニ記載シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

前項ニ定メタル寄託物ノ一部出庫ニ關スル費用ハ預證券ノ所持人之ヲ負擔ス

第三百八十條ノ三　前二條ノ場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ供託金ノ上ニ存在ス

第三百七十一條ノ規定ハ前條第一項ノ供託金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ一部ヲ辨濟シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百八十一條　第二百八十六條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ寄託者又ハ預證券ノ所持人カ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ競賣代金ノ上ニ存在ス

第三百七十條及ヒ第三百七十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百八十二條　第三百四十八條ノ規定ハ倉庫營業者ニ之ヲ準用ス

第三百八十三條　寄託物ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル倉庫營業者ノ責任ハ出庫ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ寄託物ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ倉庫營業者カ預證券ノ所持人、若シ其所持人カ知レサルトキハ寄託者ニ對シテ其滅失ノ通知ヲ發シタル日ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ倉庫營業者ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三百八十三條ノ二　倉庫營業者ハ寄託者ノ請求アルトキハ預證券及ヒ質入證券ニ代ヘテ倉荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

倉荷證券ニハ預證券ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百八十三條ノ三　倉荷證券ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ質權者ノ承諾アルトキハ寄託者ハ債權ノ辨濟期前ト雖モ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ倉庫營業者ハ返還シタル寄託物ノ種類、品質及ヒ數量ヲ倉荷證券ニ記載シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第十章　保險

第一節　損害保險

第一款　總則

第三百八十四條　損害保險契約ハ當事者ノ一方カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ塡補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八十五條　保險契約ハ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ニ限リ之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第三百八十六條　保險金額カ保險契約ノ目的ノ價額ニ超過シタルトキハ其超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無效トス

第三百八十七條　同一ノ目的ニ付キ同時ニ數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其保險金額カ保險價額ニ超過シタルトキハ各保險者ノ負擔額ハ其各自ノ保險金額ノ割合ニ依リテ之ヲ定ム

數箇ノ保險契約ノ日附カ同一ナルトキハ其契約ハ同時ニ爲シタルモノト推定ス

第三百八十八條　相次テ數箇ノ保險契約ヲ爲シタルトキハ前ノ保險者先ツ損害ヲ負擔シ若シ其負擔額カ損害ノ全部ヲ塡補スルニ足ラサルトキハ後ノ保險者之ヲ負擔ス

第三百八十九條　保險價額ノ全部ヲ保險ニ付シタル後ト雖モ左ノ場合ニ限リ更ニ保險契約ヲ爲スコトヲ得

一　前ノ保險者ニ對スル權利ヲ後ノ保險者ニ讓渡スコトヲ約シタルトキ

二　前ノ保險者ニ對スル權利ノ全部又ハ一部ヲ拋棄スヘキコトヲ後ノ保險者ニ約シタルトキ

三　前ノ保險者カ損害ノ塡補ヲ爲ササルコトヲ條件トシタルトキ

第三百九十條　同時ニ又ハ相次テ數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險者ノ一人ニ對スル權利ノ拋棄ハ他ノ保險者ノ權利義務ニ影響ヲ及ホサス

第三百九十一條　保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第三百九十二條　保險價額カ保險期間中著シク減少シタルトキハ保險契約者ハ保險者ニ對シテ保險金額及ヒ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得但保險料ノ減額ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

第三百九十三條　保險者カ塡補スヘキ損害ノ額ハ其損害カ生シタル地ニ於ケル其時ノ價額ニ依リテ之ヲ定ム

前項ノ損害額ヲ計算スルニ必要ナル費用ハ保險者之ヲ負擔ス

第三百九十四條　當事者カ保險價額ヲ定メタルトキハ保險者ハ其價額ノ著シク過當ナルコトヲ證明スルニ非サレハ其塡補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百九十五條　戰爭其他ノ變亂ニ因リテ生シタル損害ハ特約アルニ非サレハ保險者之ヲ塡補スル責ニ任セス

第三百九十六條　保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之ヲ塡補スル責ニ任セス

第三百九十七條　保險契約ノ當時當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生セサルヘキコト又ハ既ニ生シタルコトヲ知レルトキハ其契約ハ無效トス

第三百九十八條　削除

第三百九十九條　保險契約ノ全部又ハ一部カ無效ナル場合ニ於テ保險契約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ保險者ニ對シテ保險料ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三百九十九條ノ二　保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其事實ヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

前項ノ解除權ハ保險者カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一个月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス契約ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三百九十九條ノ三　前條ノ規定ニ依リ保險者カ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

保險者ハ危險發生ノ後解除ヲ爲シタル場合ニ於テモ損害ヲ塡補スル責ニ任セス若シ既ニ保險金額ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其返還

ヲ請求スルコトヲ得但保險契約者ニ於テ危險ノ發生カ其告ケ又ハ告ケサリシ事實ニ基カサルコトヲ證明シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百條　保險契約ノ當事者カ特別ノ危險ヲ斟酌シテ保險料ノ額ヲ定メタル場合ニ於テ保險期間中其危險カ消滅シタルトキハ保險契約者ハ將來ニ向テ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

第四百一條　保險契約ハ他人ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ保險契約者ハ保險者ニ對シ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第四百二條　保險契約者カ委任ヲ受ケスシテ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨ヲ保險者ニ告ケサルトキハ其契約ハ無效トス若シ之ヲ告ケタルトキハ被保險者ハ當然其契約ノ利益ヲ享受ス

第四百三條　保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險證券ヲ交付スルコトヲ要ス

保險證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ保險者之ニ署名スルコトヲ要ス

一　保險ノ目的

二　保險者ノ負擔シタル危險

三　保險價額ヲ定メタルトキハ其價額

四　保險金額

五　保險料及ヒ其支拂ノ方法

六　保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期

七　保險契約者ノ氏名又ハ商號

八　保險契約ノ年月日

九　保險證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第四百四條　被保險者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ同時ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルモノト推定ス

前項ノ場合ニ於テ保險ノ目的ノ讓渡カ著シク危險ヲ變更又ハ增加シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第四百五條　保險者カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前項ノ規定ニ依リテ解除ヲ爲ササル保險契約ハ破產宣告ノ後三个月ヲ經過シタルトキハ其效力ヲ失フ

第四百六條　他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險契約者カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險者ハ被保險者ニ對シテ保險料ヲ請求スルコトヲ得但被保險者カ其權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百七條　保險者ノ責任カ始マル前ニ於テハ保險契約者ハ契約ノ全部又ハ一部ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第四百八條　保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ保險契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ因ラスシテ保險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付キ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險カ生セサルニ至リタルトキハ保險者ハ保險料ノ全部又ハ一部ヲ返還スルコトヲ要ス

第四百九條　前二條ノ場合ニ於テハ保險者ハ其返還スヘキ保險料ノ半額ニ相當スル金額ヲ請求スルコトヲ得

第四百十條　保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ著シク變更又ハ增加シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第四百十一條　保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ著シク變更又ハ增加シタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前項ノ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ危險ノ著シク變更又ハ增加シタルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク之ヲ保險者ニ通知スルコトヲ要ス若シ其通知ヲ怠リタルトキハ保險者ハ危險ノ變更又ハ增加ノ時ヨリ保險契約カ其效力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得

保險者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ危險ノ變更若クハ增加ヲ知リタル後遲滯ナク契約ノ解除ヲ爲ササルトキハ其契約ヲ承認シタルモノト看做ス

第四百十二條　保險者ノ負擔シタル危險ノ發生ニ因リテ損害カ生シタル場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其損害ノ生シタルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百十三條　保險ノ目的ニ付キ保險者ノ負擔スヘキ損害カ生シタルトキハ其後ニ至リ其目的カ保險者ノ負擔セサル危險ノ發生ニ因リテ滅失シタルトキト雖モ保險者ハ其損害ヲ塡補スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第四百十四條　被保險者ハ損害ノ防止ヲ力ムルコトヲ要ス但之カ爲メニ必要又ハ有益ナリシ費用及ヒ塡補額カ保險金額ニ超過スルトキト雖モ保險者之ヲ負擔ス

第三百九十一條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百十五條　保險ノ目的ノ全部カ滅失シタル場合ニ於テ保險者カ保險金額ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ被保險者カ其目的ニ付キ有セル權利ヲ取得ス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ權利ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第四百十六條　損害カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ヲ支拂ヒタルトキハ其支拂ヒタル金額ノ限度ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ第三者ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス

保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ノ一部ヲ支拂ヒタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ノ權利ヲ害セサル範圍內ニ於テノミ前項ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第四百十七條　保險金額支拂ノ義務及ヒ保險料返還ノ義務ハ二年保險料支拂ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第四百十八條　本節ノ規定ハ相互保險ニ之ヲ準用ス但其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第二款　火災保險

第四百十九條　火災ニ因リテ生シタル損害ハ其火災ノ原因如何ヲ問ハス保險者之ヲ塡補スル責ニ任ス但第三百九十五條及ヒ第三百九十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第四百二十條　消防又ハ避難ニ必要ナル處分ニ因リ保險ノ目的ニ付キ生シタル損害ハ保險者之ヲ塡補スル責ニ任ス

第四百二十一條　賃借人其他他人ノ物ヲ保管スル者カ其支拂フコトアルヘキ損害賠償ノ爲メ其物ヲ保險ニ付シタルトキハ所有者ハ保險者ニ對シテ直接ニ其損害ノ塡補ヲ請求スルコトヲ得

第四百二十二條　火災保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　保險ニ付シタル建物ノ所在、構造及ヒ用方

二　動產ヲ保險ニ付シタルトキハ之ヲ納ルル建物ノ所在、構造及ヒ用方

第三款　運送保險

第四百二十三條　保險者ハ特約ナキトキハ運送人カ運送品ヲ受取リタル時ヨリ之ヲ荷受人ニ引渡ス時マテニ生スルコトアルヘキ損害ヲ塡補スル責ニ任ス

第四百二十四條　運送品ノ保險ニ付テハ發送ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ到達地マテノ運送賃其他ノ費用ヲ以テ保險價額トス

運送品ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益ハ特約アルトキニ限リ之ヲ保險價額中ニ算入ス

第四百二十五條　運送保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　運送ノ道筋及ヒ方法

二　運送人ノ氏名又ハ商號

三　運送品ノ受取及ヒ引渡ノ場所

四　運送期間ノ定アルトキハ其期間

第四百二十六條　保險契約ハ特約アルニ非サレハ運送上ノ必要ニ因リ一時運送ヲ中止シ又ハ運送ノ道筋若クハ方法ヲ變更シタルトキト雖モ其效力ヲ失ハス

第二節　生命保險

第四百二十七條　生命保險契約ハ當事者ノ一方カ相手方又ハ第三者ノ生死ニ關シ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十八條　他人ノ死亡ニ因リテ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ定ムル保險契約

ニハ其者ノ同意アルコトヲ要ス但被保險者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ナルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ保險契約ニ因リテ生シタル權利ノ讓渡ニハ被保險者ノ同意アルコトヲ要ス

保險契約者カ被保險者ナル場合ニ於テ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ其權利ヲ讓渡ストキ又ハ第一項但書ノ場合ニ於テ權利ヲ讓受ケタル者カ更ニ之ヲ讓渡ストキ亦同シ

第四百二十八條ノ二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ第三者ナルトキハ其第三者ハ當然保險契約ノ利益ヲ享受ス但保險契約者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

前項但書ノ規定ニ依リ保險契約者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更スル權利ヲ有スル場合ニ於テ其權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ハ之ニ因リテ確定ス

第四百二十八條ノ三 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ニ非サル第三者ナル場合ニ於テ其者カ死亡シタルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

保險契約者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ相續人ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス

第四百二十八條ノ四 保險契約者カ契約後保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更シタルトキハ保險者ニ其指定又ハ變更ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ保險者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百二十八條第一項ノ規定ハ前項ノ指定及ヒ變更ニ之ヲ準用ス

第四百二十九條 保險契約ノ當時保險契約者又ハ被保險者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其事實ヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

第三百九十九條ノ二第二項及ヒ第三百九十九條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百三十條 生命保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 保險契約ノ種類
二 被保險者ノ氏名
三 保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタルトキハ其者ノ氏名

第四百三十一條 左ノ場合ニ於テハ保險者ハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セス

一 被保險者カ自殺、決鬪其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ
二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ但其者カ保險金額ノ一部ヲ受取ルヘキ場合ニ於テハ保險者ハ其殘額ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス
三 保險契約者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ

前項第一號及ヒ第二號ノ場合ニ於テハ保險者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ保險契約者ニ拂戻スコトヲ要ス

第四百三十二條 保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百三十二條ノ二 被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻ス義務ハ二年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第四百三十三條 第三百九十五條、第三百九十七條、第三百九十九條、第四百條、第四百一條、第四百三條第一項、第四百五條乃至第四百七條、第四百十條、第四百十一條、第四百十七條及ヒ第四百十八條ノ規定ハ生命保險ニ之ヲ準用ス

第三百九十五條、第四百五條、第四百七條、第四百十條及ヒ第四百十一條ノ場合ニ於テ保險者カ保險金額ヲ支拂フコトヲ要セサルトキハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ保險契約者ニ拂戻スコトヲ要ス

第四編 手形

第一章 總則

第四百三十四條 本法ニ於テ手形トハ爲替手形、約束手形及ヒ小切手ヲ謂フ

第四百三十五條 手形ニ署名シタル者ハ其手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四百三十六條 代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ記載セスシテ手形ニ署名シタルトキハ本人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百三十七條 僞造又ハ變造シタル手形ニ署名シタル者ハ其僞造又ハ變造シタル手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

變造シタル手形ニ署名シタル者ハ變造前ニ署名シタルモノト推定ス

第四百三十八條 無能力者カ手形ヨリ生シタル債務ヲ取消シタルトキト雖モ他ノ手形上ノ權利義務ニ影響ヲ及ホサス

第四百三十九條 本編ニ規定ナキ事項ハ之ヲ手形ニ記載スルモ手形上ノ效力ヲ生セス

第四百四十條 手形ノ債務者ハ本編ニ規定ナキ事由ヲ以テ手形上ノ請求ヲ爲ス者ニ對抗スルコトヲ得ス但直接ニ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ハ此限ニ在ラス

第四百四十一條 何人ト雖モ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ手形ヲ取得シタル者ニ對シ其手形ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百四十二條 手形ノ引受又ハ支拂ヲ求ムル爲メニスル呈示、拒絶證書ノ作成其他手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ付キ利害關係人ニ對シテ爲スヘキ行爲ハ其營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所又ハ居所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但其者ノ承諾アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

利害關係人ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ拒絶證書ヲ作ルヘキ公證人又ハ執達吏ハ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ要ス若シ問合ヲ爲スモ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ其役場又ハ官署若クハ公署ニ於テ拒絶證書ヲ作ルコトヲ得

第四百四十三條 引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對スル債權ハ滿期日ヨリ三年所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絶證書作成ノ日ヨリ一年裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第四百四十四條 手形ヨリ生シタル債權カ時效又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人又ハ引受人ニ對シ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二章 爲替手形

第一節 振出

第四百四十五條 爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之ニ署名スルコトヲ要ス

一 其爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字
二 一定ノ金額
三 支拂人ノ氏名又ハ商號
四 受取人ノ氏名又ハ商號
五 單純ナル支拂ノ委託
六 振出ノ年月日
七 一定ノ滿期日
八 支拂地

第四百四十六條 爲替手形ノ主タル部分ニ記載シタル金額カ他ノ部分ニ記載シタル金額ト異ナルトキハ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ以テ手形金額トス

第四百四十七條 振出人ハ自己ヲ受取人又ハ支拂人ト定ムルコトヲ得

第四百四十八條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百四十九條 爲替手形ハ其金額三十圓以上ノモノニ限リ之ヲ無記名式ト爲スコトヲ得

第四百四十九條ノ二 振出人ハ爲替手形ニ受取人ノ氏名又ハ商號ト共ニ其爲替手形ノ所持人カ支拂ヲ受クルコトヲ得ヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得

前項ノ爲替手形ハ無記名式ノモノト同一ノ效力ヲ有ス

第四百四十九條ノ三 第四百四十九條ノ規定ハ前條第一項ニ定メタル爲替手形ニ之ヲ準用ス

第四百五十條 滿期日ハ左ニ掲ケタル種類ノ一タルコトヲ要ス

一 確定セル日
二 日附後確定セル期間ヲ經過シタル日
三 一覽ノ日
四 一覽後確定セル期間ヲ經過シタル日

第四百五十一條 振出人カ爲替手形ニ滿期日ヲ記載セサリシトキハ一覽ノ日ヲ以テ其爲替手形ノ滿期日トス

第四百五十二條 振出人カ爲替手形ニ支拂地ヲ記載セサリシトキハ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ヲ以テ其支拂地トス

第四百五十二條ノ二 支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ハ之ヲ其營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ス

第四百五十三條 振出人ハ支拂人ニ非サル者ヲ以テ支拂擔當者トシテ爲替手形ニ記載スルコトヲ得

第四百五十四條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第二節 裏書

第四百五十五條 爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但振出人カ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百五十六條 振出人、引受人又ハ裏書人カ裏書ニ依リテ爲替手形ヲ讓受ケタルトキハ更ニ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百五十七條 裏書ハ爲替手形、其謄本又ハ補箋ニ被裏書人ノ氏名又ハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

裏書ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ爾後爲替手形ハ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百五十八條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百五十九條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルコトヲ得

第四百六十條 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ爾後裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ其裏書人ハ被裏書人ノ後者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百六十一條 裏書人カ其署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタルトキハ所持人ハ自己ヲ其被裏書人ト爲スコトヲ得

第四百六十二條 支拂拒絶證書作成ノ期間經過ノ後所持人カ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス此場合ニ於テハ其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百六十三條 所持人ハ裏書ニ依リテ爲替手形ノ取立ヲ委任スルコトヲ得此場合ニ於テハ裏書ニ其目的ヲ附記スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ被裏書人ハ同一ノ目的ヲ以テ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得

第四百六十四條 裏書アル爲替手形ノ所持人ハ其裏書カ連續スルニ非サレハ其權利ヲ行フコトヲ得ス但署名ノミヲ以テ爲シタル裏書アルトキハ次ノ裏書人ハ其裏書ニ因リテ爲替手形ヲ取得シタルモノト看做ス

抹消シタル裏書ハ裏書ノ連續ニ付テハ其記載ナキモノト看做ス

第三節 引受

第四百六十五條 所持人ハ何時ニテモ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ得

第四百六十六條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年内ニ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絶證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百六十七條 所持人カ一覽後定期拂ノ爲替手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂人カ其引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ呈示期間内ニ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絶證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

引受人カ引受ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

第四百六十八條 引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ支拂人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

支拂人カ爲替手形ニ署名シタルトキハ其引受ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百六十九條 支拂人ハ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ヲ除ク外支拂人カ爲替手形ノ單純ナル引受ヲ爲サリシトキハ其引受ヲ拒絶シタルモノト看做ス但引受人ハ其引受ノ文言ニ從ヒ責任ヲ負フ

第四百七十條 支拂人ハ爲替手形ノ引受ニ因リ滿期日ニ於テ其引受ケタル金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第四百七十一條 引受人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲サリシ場合ニ於テ其所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人ニ對シテ支拂フヘキ金額ハ第四百九十一條又ハ第四百九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第四百七十二條 振出人カ爲替手形ニ支拂擔當者ヲ記載セサリシトキハ支拂人ハ其引受ヲ爲スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得若シ支拂人カ之ヲ記載セサリシトキハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス責ニ任ス

前項ノ場合ニ於テ振出人ハ爲替手形ニ其引受ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得此場合ニ於テ所持人カ拒絶證書ニ依リ其呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百七十三條 支拂人ハ引受ヲ爲スニ當タリ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第四節 擔保ノ請求

第四百七十四條 支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲サリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

支拂人カ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲シタルトキハ所持人ハ其殘額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十五條 爲替手形ノ所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ引受拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第四百七十六條 擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ其前者ニ對シ其擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十七條 前三條ノ規定ニ依リテ擔保ノ請求ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク引受拒絶證書ト引換ニ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但擔保ニ代ヘテ相當ノ金額ヲ供託スルコトヲ得

第四百七十八條 前者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其後者全員ノ爲メ且其後者全員ニ對シテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百七十九條 左ノ場合ニ於テハ第四百七十七條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得

一 後日ニ至リ爲替手形ノ單純ナル引受アリタルトキ
二 手形金額及ヒ費用ノ支拂アリタルトキ
三 擔保ヲ供シ若クハ供託ヲ爲シタル者又ハ其前者カ償還ヲ爲シタルトキ
四 手形上ノ權利カ時效又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキ
五 擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ滿期日ヨリ一年内ニ償還ノ請求ヲ受ケサリシトキ

第四百八十條 引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ擔保ヲ供セサルトキハ所持人ハ豫備支拂人ノ引受ヲ求ムルコトヲ得但拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

豫備支拂人ナキトキ又ハ豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十四條乃至第四百七十八條ノ規定ヲ準用ス

第四百八十一條 左ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ

失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得

一　豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ

二　引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ

三　第四百七十九條第二號乃至第五號ノ場合

第五節　支拂

第四百八十二條　一覽拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百八十三條　支拂ハ爲替手形ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス

支拂ヲ爲ス者ハ所持人ヲシテ爲替手形ニ其支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

第四百八十四條　手形金額ノ全部ニ付キ引受アリタルトキト雖モ所持人ハ其一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス

一部ノ支拂アリタルトキハ所持人ハ其旨ヲ爲替手形ニ記載シ且其寫本ヲ作リ署名ノ後之ヲ交付スルコトヲ要ス

第四百八十五條　爲替手形ノ支拂ノ請求ナキトキハ引受人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間經過ノ後手形金額ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得

第六節　償還ノ請求

第四百八十六條　支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百八十七條　所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シ、若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ同一期間內ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス但此期間ニハ休日ヲ算入セス

所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百八十七條ノ二　前條第一項ノ場合ニ於テハ所持人ハ其直接ノ前者ニ對シ拒絕證書作成ノ日又ハ其後二日內ニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百八十八條　裏書人カ其後者ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタルトキハ其直接ノ前者ニ對シ通知ヲ受ケタル日又ハ其後二日內ニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百八十八條ノ二　所持人又ハ裏書人カ其直接ノ前者ニ非サル前者ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ發シタルトキハ其者ノ後者ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任シ且利息及ヒ費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ失フ

第四百八十八條ノ三　裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ裏書地ヲ記載セサリシトキハ償還請求ノ通知ハ其直接ノ前者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

所持人又ハ裏書人カ其前者ノ何レニ對シテモ通知ヲ發セサリシトキハ其前者全員ニ對スル權利義務ニ付キ前項ノ規定ヲ準用ス

前條ノ規定ハ裏書地ヲ記載セサリシ裏書人ニ對スル權利義務ニハ之ヲ適用セス振出人カ振出地ヲ記載セサリシトキ亦同シ

第四百八十八條ノ四　所持人又ハ裏書人カ其前者ニ對シ第四百八十七條ノ二又ハ第四百八十八條ノ期間內ニ書面ヲ發送シタル事實アルトキハ其事實ニ付キ通信官署又ハ公衆通信取扱所ノ證アル場合ニ限リ其書面ハ之ヲ償還請求ノ通知書ト推定ス

第四百八十九條　爲替手形ノ所持人ハ支拂拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキト雖モ其作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ失フコトナシ

所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタルトキハ其作成ヲ免除シタル者ト雖モ其費用ヲ償還スル義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第四百八十九條ノ二　支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ所持人ハ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ呈示シタルモノト推定ス

第四百九十條　所持人カ償還ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ支拂擔當者ニ、若シ爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂地ニ於テ支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス此場合ニ於テ支拂擔當者又ハ支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ支拂地ニ於テ第四百八十七條第一項ノ規定ニ從ヒ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ於テ所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ引受人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ失フ

第四百九十一條　爲替手形ノ所持人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一　支拂アラサリシ手形金額及ヒ滿期日以後ノ法定利息

二　拒絕證書作成ノ手數料其他ノ費用

前項ノ金額ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ支拂地ト異ナル場合ニ於テハ支拂地ヨリ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ之ヲ計算ス若シ支拂地ニ於テ其相場ナキトキハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ最モ近キ地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依ル

第四百九十二條　償還ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一　其支拂ヒタル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息

二　其支出シタル費用

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百九十三條　爲替手形ノ所持人又ハ裏書人ハ償還ノ請求ヲ爲ス爲メ其前者ヲ支拂人トシテ更ニ爲替手形ヲ振出スコトヲ得

第四百九十四條　所持人又ハ裏書人カ前條ノ規定ニ依リテ振出ス爲替手形ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ其支拂地ト定メタル一覽拂ノモノタルコトヲ要ス

所持人カ振出ス爲替手形ニハ本爲替手形ノ支拂地ヲ以テ振出地ト定メ裏書人カ振出ス爲替手形ニハ其營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ振出地ト定ムルコトヲ要ス

第四百九十五條　償還ハ爲替手形、支拂拒絕證書及ヒ償還計算書ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス

償還ヲ爲ス者ハ之ヲ受クル者ヲシテ償還計算書ニ償還ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

第四百九十六條　削除

第七節　保證

第四百九十七條　爲替手形ヨリ生シタル債務ヲ保證スル爲メ爲替手形、其謄本又ハ補箋ニ署名シタル者ハ其債務者カ無效ナルトキト雖モ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フ

第四百九十八條　何人ノ爲メニ保證ヲ爲シタルカ分明ナラサルトキハ其保證ハ引受人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス但未タ引受アラサリシトキハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百九十九條　保證人カ其債務ヲ履行シタルトキハ所持人カ主タル債務者ニ對シテ有セシ權利及ヒ主タル債務者カ其前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲ取得ス

第八節　參加

第一款　參加引受

第五百條　爲替手形ノ所持人カ引受拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人アルトキハ其豫備支拂人ニ引受ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得ス

豫備支拂人カ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ引受拒絕證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

第五百一條　爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人ニ非サル者ノ參加引受ヲ拒ムコトヲ得

第五百二條　參加引受ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ其選擇ニ從ヒ其一人ヲシテ引受ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百三條　參加引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ參加引受人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

參加引受人カ爲替手形ニ被參加人ヲ定メサリシトキハ其引受ハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百四條　所持人ハ引受拒絕證書ニ參加引受アリタル旨ヲ記載セシメ且其證書作成ノ費用ノ支拂ト引換ニ之ヲ參加引受人ニ交付スルコトヲ要ス參加引受人ハ遲滯ナク前項ノ拒絕證書ヲ被參加人ニ送付スルコトヲ要ス

第五百五條　參加引受人ハ支拂人カ手形金額ノ支拂ヲ爲ササル場合ニ於テ被參加人ノ後者ニ對シ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ但所持人カ支拂拒絕證書作成ノ期間內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ參加引受人ニ呈示セサルトキハ參加引受人ハ其義務ヲ免ル

第五百六條　爲替手形ノ所持人其他被參加人ノ後者ハ參加引受ニ因リテ擔保ヲ請求スル權利ヲ失フ

第五百七條　被參加人ハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十六條乃至第四百七十九條ノ規定ヲ準用ス

第二款　參加支拂

第五百八條　爲替手形ノ所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ所持人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間內ニ參加引受人ニ、若シ參加引受人ナキトキ又ハ參加引受人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

參加引受人又ハ豫備支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ支拂拒絕證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

所持人カ前二項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ヲ指定シタル者又ハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百九條　爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル者ノ參加支拂ト雖モ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百十條　參加支拂ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ最モ多數ノ者ヲシテ債務ヲ免レシムル效力ヲ有スル支拂ヲ受クルコトヲ要ス

第五百十一條　豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル參加支拂人カ被參加人ヲ示ササリシトキハ其支拂ハ支拂人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百十二條　所持人ハ支拂拒絕證書ニ參加支拂アリタル旨ヲ記載セシメ且手形金額及ヒ費用ノ支拂ト引換ニ其拒絕證書及ヒ爲替手形ヲ參加支拂人ニ交付スルコトヲ要ス

第五百十三條　參加支拂人カ支拂ヲ爲シタルトキハ引受人、被參加人及ヒ其前者ニ對スル所持人ノ權利ヲ取得ス

第九節　拒絕證書

第五百十四條　拒絕證書ハ爲替手形ノ所持人ノ請求ニ因リ公證人又ハ執達吏之ヲ作ル

第五百十五條　拒絕證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人又ハ執達吏之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一　拒絕者及ヒ被拒絕者ノ氏名又ハ商號

二　拒絕者ニ對スル請求ノ趣旨及ヒ拒絕者カ其請求ニ應セサリシコト、拒絕者ニ面會スルコト能ハサリシコト又ハ其營業所、住所若クハ居所カ知レサリシコト

三　前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及ヒ年月日

四　法定ノ場所外ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ拒絕者カ之ヲ承諾シタルコト

五　參加引受又ハ參加支拂アルトキハ參加ノ種類及ヒ參加人竝ニ被參加人ノ氏名又ハ商號

六　拒絕證書作成ノ場所及ヒ年月日

第五百十五條ノ二　支拂拒絕證書ノ作成ハ爲替手形又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス

第五百十五條ノ三　爲替手形ノ數通ノ複本又ハ原本及ヒ謄本ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂拒絕證書ヲ作ルトキハ其作成ハ一通ノ複本若クハ原本又ハ附箋ニ依リ之ヲ爲スヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リテ支拂拒絕證書ヲ作リタルトキハ他ノ複本又ハ謄本ニ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第五百十五條ノ四　支拂拒絕ノ場合ヲ除ク外拒絕證書ノ作成ハ爲替手形若クハ其謄本ノ寫本又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス

第五百十五條ノ五　爲替手形、複本、原本又ハ謄本ノ寫本ニ依リテ拒絕證書ヲ作ル場合ニ於テハ第五百十五條ニ揭ケタル事項ハ其裏面ニ記載シタル事項ニ接續シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

附箋ニ依ル場合ニ於テハ公證人又ハ執達吏ハ其接目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第五百十六條　數人ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲スヘキトキハ其請求ニ付キ一通ノ拒絕證書ヲ作ラシムルヲ以テ足ル

第五百十七條　公證人又ハ執達吏カ拒絕證書ヲ作リタルトキハ其謄本ニ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ其役場ニ備フルコトヲ要ス

一　手形金額

二　振出人、支拂人及ヒ受取人ノ氏名又ハ商號

三　振出ノ年月日

四　滿期日及ヒ支拂地

五　支拂擔當者、豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ其氏名又ハ商號

拒絕證書カ滅失シタルトキハ利害關係人ハ其謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此謄本ハ原本ト同一ノ效力ヲ有ス

第十節　爲替手形ノ複本及ヒ謄本

第五百十八條　爲替手形ノ所持人ハ振出人ニ對シテ其爲替手形ノ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但所持人カ受取人ニ非サルトキハ順次ニ其前者ヲ經由シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス

振出人カ爲替手形ノ複本ヲ作リタルトキハ各裏書人ハ各通ニ其裏書ヲ爲スコトヲ要ス

第五百十九條　爲替手形ノ複本ニ其複本タルコトヲ示ササルトキハ其各通ハ獨立ノ爲替手形トシテ其效力ヲ有ス

第五百二十條　爲替手形ノ複本ヲ作リタル場合ニ於テ其一通ノ支拂アリタルトキハ他ノ各通ハ其效力ヲ失フ但引受アルモノハ此限ニ在ラス

二人以上ニ各別ニ數通ノ爲替手形ノ裏書ヲ爲シタル者又ハ數通ノ爲替手形ニ引受ヲ爲シタル者ハ支拂ノ時ニ於テ返還アラサリシ各通ニ付キ手形上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百二十一條　爲替手形ノ複本ノ所持人カ引受ヲ求ムル爲メ其一通ヲ送付シタルトキハ他ノ各通ニ其送付先ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ記載アル爲替手形ノ所持人ハ引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル一通ノ爲替手形ヲ受取リタル者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得若シ其者カ之ヲ返還セサルトキハ拒絕證書ニ依リ其事實及ヒ他ノ一通又ハ數通ノ爲替手形ヲ以テ引受又ハ支拂ヲ受クルコト能ハサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其前者ニ對シテ擔保又ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百二十二條　爲替手形ノ所持人ハ其謄本ヲ作ルコトヲ得

爲替手形ノ謄本ニ或事項ヲ記載シタルトキハ其事項ト原本ニ記載シタル事項トヲ區別スルコトヲ要ス

第五百二十三條　所持人カ爲替手形ノ引受ヲ求ムル爲メ其原本ヲ送付シタル場合ニ於テ其謄本ヲ作リタルトキハ之ニ其原本ノ送付先ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ記載アル謄本ノ所持人ハ原本ヲ受取リタル者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得

第五百二十四條　引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル爲替手形ヲ受取リタル者カ之ヲ返還セサル場合ニ於テ其謄本ノ所持人カ拒絕證書ニ依リテ其事實ヲ證明スルトキハ謄本ニ署

名シタル者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲シ又際本ニ記載シタル滿期日カ到來シタル後ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三章　約束手形

第五百二十五條　約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之ニ署名スルコトヲ要ス

一　其約束手形タルコトヲ示スヘキ文字
二　一定ノ金額
三　受取人ノ氏名又ハ商號
四　單純ナル支拂ノ約束
五　振出ノ年月日
六　一定ノ滿期日
七　振出地

第五百二十六條　振出人カ約束手形ニ支拂地ヲ記載セサリシトキハ振出地ヲ以テ其支拂地トス

第五百二十六條ノ二　振出地ハ之ヲ振出人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ス

第五百二十七條　一覽後定期拂ノ約束手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ振出人ニ約束手形ヲ呈示スルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絶證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百二十八條　所持人カ一覽後定期拂ノ約束手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ振出人カ呈示ヲ受ケタル旨又ハ其日附ヲ約束手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ呈示期間內ニ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絶證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

振出人カ呈示ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

第五百二十九條　第四百四十四條乃至第四百五十一條、第四百四十六條、第四百五十三條乃至第四百六十四條、第四百七十一條、第四百八十條乃至第四百九十九條、第五百八條乃至第五百十七條及ヒ第五百二十二條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ準用ス

第四章　小切手

第五百三十條　小切手ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之ニ署名スルコトヲ要ス

一　其小切手タルコトヲ示スヘキ文字
二　一定ノ金額
三　支拂人ノ氏名又ハ商號
四　受取人ノ氏名若クハ商號又ハ所持人ニ支拂フヘキコト
五　單純ナル支拂ノ委託
六　振出ノ年月日
七　支拂地

第五百三十一條　削除

第五百三十二條　小切手ハ一覽拂ノモノトス

第五百三十三條　小切手ノ所持人ハ其日附ヨリ十日內ニ小切手ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス

所持人カ前項ニ定メタル呈示ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百三十三條ノ二　小切手ノ振出人ハ呈示期間經過前ニハ支拂ノ委託ヲ取消スコトヲ得ス

支拂人ハ呈示期間經過ノ後ト雖モ小切手ノ支拂ヲ爲スコトヲ得

第五百三十三條ノ三　小切手ノ所持人カ支拂人ノ加入シタル手形交換所ニ小切手ヲ提出シタルトキハ支拂地ニ於テ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第五百三十四條　小切手ノ所持人カ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スニハ支拂拒絶證書ノ作成ニ代ヘ支拂人ヲシテ呈示期間內ニ支拂拒絶ノ旨及ヒ其年月日ヲ小切手ニ記載セシメ且之ニ署名セシムルヲ以テ足ル

手形交換所ニ於テ呈示期間內ニ小切手ノ提出及ヒ支拂拒絶アリタル旨ヲ證明シタルトキ亦同シ

第五百三十四條ノ二　前二條ノ手形交換所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第五百三十五條　小切手ノ振出人又ハ所持人カ其表面ニ二條ノ平行線ヲ畫キ其線內ニ銀行又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ記載シタルトキハ支拂人ハ銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スコトヲ得

振出人又ハ所持人カ平行線內ニ特定セル銀行ノ商號ヲ記載シタルトキハ支拂人ハ其銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スコトヲ得但其銀行カ其商號ヲ抹消シテ他ノ銀行ノ商號ヲ記載シ之ニ取立ノ委任ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百三十六條　振出人カ支拂人ヲシテ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得ル金額ヲ超エテ小切手ヲ振出シタルトキハ五圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第五百三十七條　第四百四十六條、第四百四十七條、第四百四十九條ノ二、第四百五十二條、第四百五十七條、第四百五十九條乃至第四百六十四條、第四百八十三條、第四百八十四條、第四百八十六條乃至第四百八十九條ノ二、第四百九十一條、第四百九十二條、第四百九十五條、第五百十四條乃至第五百十五條ノ二、第五百十五條ノ五及ヒ第五百十七條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス

第五編　海商

第一章　船舶及ヒ船舶所有者

第五百三十八條　本法ニ於テ船舶トハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

本編ノ規定ハ端舟其他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第五百三十九條　船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其從物ト推定ス

第五百四十條　船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿ノ船舶又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第五百四十一條　船舶所有權ノ移轉ハ其登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百四十二條　航海中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノトス

第五百四十三條　差押及ヒ假差押ハ發航ノ準備ヲ終ハリタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス

但其船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限ニ在ラス

第五百四十四條　船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限內ニ於テ爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶、運送賃及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セス

第五百四十四條ノ二　登記シタル船舶ノ委付ハ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百四十五條　船舶所有者カ債權者ノ同意ヲ得スシテ更ニ航海ヲ爲サシメタルトキハ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第五百四十六條　船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五百四十七條　船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應シ船舶ノ利用ニ關スル費用ヲ負擔スルコトヲ要ス

第五百四十八條　船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シテ異議アル者ハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日內ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラサリシ者ニ付テハ其決議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第五百四十九條　船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應シ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ辨濟スル責ニ任ス

第五百五十條　損益ノ分配ハ每航海ノ終ニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價格ニ應シテ之ヲ爲ス

第五百五十一條　船舶共有者間ニ組合關係アルトキト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得スシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但船舶管理人ハ此限ニ在ラス

第五百五十二條　船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

船舶共有者ニ非サル者ヲ船舶管理人ト爲スニハ共有者全員ノ同意アルコトヲ要ス

船舶管理人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第五百五十三條　船舶管理人ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ除ク外船舶共有者ニ代ハリテ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

一　船舶ノ讓渡、委付若クハ賃貸ヲ爲シ又ハ之ヲ抵當ト爲スコト
二　船舶ヲ保險ニ付スルコト
三　新ニ航海ヲ爲スコト
四　船舶ノ大修繕ヲ爲スコト
五　借財ヲ爲スコト

船舶管理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百五十四條　船舶管理人ハ特ニ帳簿ヲ備ヘ之ニ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

船舶管理人ハ每航海ノ終ニ於テ遲滯ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ各船舶共有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第五百五十五條　船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ其國籍喪失ニ因リテ船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取リ又ハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

社員ノ持分ノ移轉ニ因リ會社ノ所有ニ屬スル船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ合名會社ニ在テハ他ノ社員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在テハ他ノ無限責任社員ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取ルコトヲ得

第五百五十六條　船舶ノ賃貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第五百五十七條　船舶ノ賃借人カ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ船舶ノ利用ニ付キ生シタル先取特權ハ船舶所有者ニ對シテモ其效力ヲ生ス但先取特權者カ其利用ノ契約ニ反スルコトヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第二章　船員

第一節　船長

第五百五十八條　船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ船舶所有者、傭船者、荷送人其他ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

船長ハ船舶所有者ノ指圖ニ從ヒタルトキト雖モ船舶所有者以外ノ者ニ對シテハ前項ニ定メタル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百五十九條　海員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監督ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百六十條　船長カ已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコト能ハサルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ船長ハ其選任ニ付キ船舶所有者ニ對シテ其責ニ任ス

第五百六十一條　船長ハ發航前船舶ノ航海ニ支障ナキヤ否ヤ其他航海ニ必要ナル準備ノ整頓セルヤ否ヤヲ檢査スルコトヲ要ス

第五百六十二條　船長ハ左ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス

一　船舶國籍證書
二　海員名簿
三　屬具目錄
四　航海日誌
五　旅客名簿
六　運送契約及ヒ積荷ニ關スル書類
七　稅關ヨリ交付シタル書類

前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類ハ外國ニ航行セサル船舶ニ限リ命令ヲ以テ之ヲ備フルコトヲ要セサルモノト定ムルコトヲ得

第五百六十三條　船長ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外自己ニ代ハリテ船舶ヲ指揮スヘキ者ニ其職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ荷物ノ船積及ヒ旅客ノ乘込ノ時ヨリ荷物ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸ノ時マテ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百六十四條　船長ハ航海ノ準備カ終ハリタルトキハ遲滯ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セスシテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第五百六十五條　船長ハ航海中最モ利害關係人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ積荷ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

利害關係人ハ船長ノ行爲ニ因リ其積荷ニ付テ生シタル債權ノ爲メ之ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得但利害關係人ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十六條　船籍港外ニ於テハ船長ハ航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

船籍港ニ於テハ船長ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ノミヲ有ス

第五百六十七條　船長ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百六十八條　船長ハ船舶ノ修繕費、救助料其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一　船舶ヲ抵當ト爲スコト
二　借財ヲ爲スコト
三　積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ質入スルコト但第五百六十五條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

船長カ積荷ヲ賣却又ハ質入シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其積荷ノ到達スヘカリシ時ニ於ケル陸揚港ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但其價格中ヨリ支拂フコトヲ要セサリシ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第五百六十九條　船長カ特ニ委任ヲ受ケスシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出タシ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有者ハ船長ニ對シテ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第五百七十條　船籍港外ニ於テ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ船長ハ管海官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ競賣スルコトヲ得

第五百七十一條　左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス

一　船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地ニ到ルコト能ハサルトキ
二　修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユルトキ

前項第二號ノ價額ハ船舶カ航海中毀損シタル場合ニ於テハ其發航ノ時ニ於ケル價額トシ其他ノ場合ニ於テハ其毀損前ニ有セシ價額トス

第五百七十二條　船長ハ航海ヲ繼續スル爲メ必要ナルトキハ積荷ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ得此場合ニ於テハ第五百六十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百七十三條　船長ハ遲滯ナク航海ニ關スル重要ナル事項ヲ船舶所有者ニ報告スルコトヲ要ス

船長ハ每航海ノ終ニ於テ遲滯ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ船舶所有者ノ承認ヲ求メ又船舶所有者ノ請求アルトキハ何時ニテモ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第五百七十四條　船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得但正當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船舶所有者

ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

船長カ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滯ナク他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百七十五條　船長ノ船舶所有者ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第二節　海員

第五百七十六條　海員ハ其雇入ノ手續カ終ハリタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乘込ムコトヲ要ス

海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乘込ミタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百七十七條　海員ノ服役中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百七十八條　海員カ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三个月ヲ超エサル期間內ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ負擔ス

前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得但其職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ其給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十九條　一航海ニ付キ給料ヲ定メタル場合ニ於テ航海ノ日數ヲ延長シ又ハ不可抗力ニ因ラスシテ其里程ヲ延長シタルトキハ海員ハ其割合ニ應シテ給料ノ增加ヲ請求スルコトヲ得但航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタルトキト雖モ給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十條　海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス

海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百八十一條　左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

一　發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ
二　海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シ之ニ重大ナル過失アリタルトキ
三　海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
四　海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
五　不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得

第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百八十二條　海員カ前條第一項ニ掲ケタル事由ニ因ラスシテ雇止メラレタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ノ外一个月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止メラレタルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十三條　左ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得

一　船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ
二　自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
三　船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十四條　航海中船舶ノ所有者カ變更シタルトキハ海員ハ新所有者ニ對シ雇傭契約ニ因リテ生シタル權利義務ヲ有ス

第五百八十五條　海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入レタルトキハ其期間ハ之ヲ一年ニ短縮ス

海員ノ雇入ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五百八十六條　雇入期間ノ定ナキトキハ海員ハ特約アル場合ヲ除ク外船舶カ安全ニ碇泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸カ終ハリタル後ニ非サレハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百八十七條　海員ノ雇入契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一　船舶カ沈沒シタルコト
二　船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルコト
三　船舶カ捕獲セラレタルコト

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十八條　海員カ雇入港マテノ送還ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テハ送還ニ代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十九條　第五百七十五條ノ規定ハ海員ノ債權ニ之ヲ準用ス

第三章　運送

第一節　物品運送

第一款　總則

第五百九十條　船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ各當事者ハ相手方ノ請求ニ因リ運送契約書ヲ交付スルコトヲ要ス

第五百九十一條　船舶所有者ハ傭船者又ハ荷送人ニ對シ發航ノ當時船舶カ安全ニ航海ヲ爲スニ堪フルコトヲ擔保ス

第五百九十二條　船舶所有者ハ特約ヲ爲シタルトキト雖モ自己ノ過失、船員其他ノ使用人ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海ニ堪ヘサルニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百九十三條　法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラスシテ船積シタル運送品ハ船長ニ於テ何時ニテモ之ヲ陸揚シ、若シ船舶又ハ積荷ニ危害ヲ及ホス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコトヲ得但船長カ之ヲ運送スルトキハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル同種ノ運送品ノ最高ノ運送賃ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ船舶所有者其他ノ利害關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百九十四條　船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ船積スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船舶所有者ハ遲滯ナク傭船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

傭船者カ運送品ヲ船積スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ船積シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ船積ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス

第五百九十五條　船長カ第三者ヨリ運送品ヲ受取ルヘキ場合ニ於テ其者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ其者カ運送品ヲ船積セサルトキハ船長ハ直チニ傭船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ船積期間內ニ限リ傭船者ニ於テ運送品ヲ船積スルコトヲ得

第五百九十六條　傭船者ハ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ニ對シテ發航ノ請求ヲ爲スコトヲ得

傭船者カ前項ノ請求ヲ爲シタルトキハ運送賃ノ全額ノ外運送品ノ全部ヲ船積セサルニ因リテ生シタル費用ヲ支拂ヒ尚ホ船舶所有者ノ請求アルトキハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第五百九十七條　船積期間經過ノ後ハ傭船者カ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百九十八條　發航前ニ於テハ傭船者ハ運送賃ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

往復航海ヲ爲ス場合ニ於テ傭船者カ其歸航ノ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送賃ノ三分ノ二ヲ支拂フコトヲ要ス他港ヨリ船積港ニ航行スヘキ場合ニ於テ傭船者カ其船積港ヲ發スル前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキ亦同シ

運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタル後前二項ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其船積及ヒ陸揚ノ費用ハ傭船者之ヲ負擔ス

傭船者カ船積期間內ニ運送品ノ船積ヲ爲ササリシトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百九十九條　傭船者カ前條ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ附隨ノ費用及ヒ立替金ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス

前條第二項ノ場合ニ於テハ傭船者ハ前項ニ揭ケタルモノノ外運送品ノ價格ニ應シ共同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百條　發航後ニ於テハ傭船者ハ運送賃ノ全額ヲ支拂フ外第六百六條第一項ニ定メタル債務ヲ辨濟シ且陸揚ノ爲メニ生スヘキ損害ヲ賠償シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

第六百一條　船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ傭船者カ他ノ傭船者及ヒ荷送人ト共同セスシテ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送賃ハ之ヲ控除ス

發航前ト雖モ傭船者カ既ニ運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタルトキハ他ノ傭船者及ヒ荷送人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

前七條ノ規定ハ船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百二條　個個ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ遲滯ナク運送品ヲ船積スルコトヲ要ス

荷送人カ運送品ノ船積ヲ怠リタルトキハ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ荷送人ハ運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送賃ハ之ヲ控除ス

第六百三條　第六百一條ノ規定ハ荷送人カ契約ノ解除ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六百四條　傭船者又ハ荷送人ハ船積期間內ニ運送ニ必要ナル書類ヲ船長ニ交付スルコトヲ要ス

第六百五條　船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ陸揚スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船長ハ遲滯ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

運送品ヲ陸揚スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス

個個ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷受人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ遲滯ナク運送品ヲ陸揚スルコトヲ要ス

第六百六條　荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送契約又ハ船荷證券ノ趣旨ニ從ヒ運送賃、附隨ノ費用、立替金、碇泊料及ヒ運送品ノ價格ニ應シ共同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

船長ハ前項ニ定メタル金額ノ支拂ト引換ニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ要セス

第六百七條　荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ怠リタルトキハ船長ハ之ヲ供託スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滯ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ船長ハ運送品ヲ供託スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ遲滯ナク傭船者又ハ荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百八條　運送品ノ重量又ハ容積ヲ以テ運送賃ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品引渡ノ當時ニ於ケル重量又ハ容積ニ依リテ之ヲ定ム

第六百九條　期間ヲ以テ運送賃ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品ノ船積著手ノ日ヨリ其陸揚終了ノ日マテノ期間ニ依リテ之ヲ定ム但船舶カ不可抗力ニ因リ發航港若クハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲スヘキトキ又ハ航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ其期間ハ之ヲ算入セス第五百九十四條第二項又ハ第六百五條第二項ノ場合ニ於テ船積期間又ハ陸揚期間經過ノ後運送品ノ船積又ハ陸揚ヲ爲シタル日數亦同シ

第六百十條　船舶所有者ハ第六百六條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ受クル爲メ裁判所ノ許可ヲ得テ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

船長カ荷受人ニ運送品ヲ引渡シタル後ト雖モ船舶所有者ハ其運送品ノ上ニ權利ヲ行使スルコトヲ得但引渡ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキ又ハ第三者カ其占有ヲ取得シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百十一條　船舶所有者カ前條ニ定メタル權利ヲ行ハサルトキハ傭船者又ハ荷送人ニ對スル請求權ヲ失フ但傭船者又ハ荷送人ハ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ヲ爲スコトヲ要ス

第六百十二條　船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ傭船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタルトキハ其契約ノ履行カ船長ノ職務ニ屬スル範圍內ニ於テハ船舶所有者ノミ其第三者ニ對シテ履行ノ責ニ任ス但第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第六百十三條　船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ其契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一　第五百八十七條第一項ニ揭ケタル事由
二　運送品カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルコト

第五百八十七條第一項ニ揭ケタル事由カ航海中ニ生シタルトキハ傭船者ハ運送ノ割合ニ應シ運送品ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ運送賃ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十四條　航海又ハ運送カ法令ニ反スルニ至リタルトキ其他不可抗力ニ因リテ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ各當事者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ニ揭ケタル事由カ發航後ニ生シタル場合ニ於テ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ傭船者ハ運送ノ割合ニ應シテ運送賃ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十五條　第六百十三條第一項第二號及ヒ前條第一項ニ揭ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキハ傭船者ハ船舶所有者ノ負擔ヲ重カラシメサル範圍內ニ於テ他ノ運送品ヲ船積スルコトヲ得

傭船者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハント欲スルトキハ遲滯ナク運送品ノ陸揚又ハ船積ヲ爲スコトヲ要ス若シ其陸揚又ハ船積ヲ怠リタルトキハ運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十六條　第六百十三條及ヒ第六百十四條ノ規定ハ船舶ノ一部又ハ個個ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百十三條第一項第二號及ヒ第六百十四條第一項ニ揭ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキト雖モ傭船者又ハ荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十七條　船舶所有者ハ左ノ場合ニ於テハ運送賃ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

一　船長カ第五百六十八條第一項ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ賣却又ハ質入シタルトキ
二　船長カ第五百七十二條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタルトキ
三　船長カ第六百四十一條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ處分シタルトキ

第六百十八條　船舶所有者ノ傭船者、荷送人

又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六百十九條　第三百二十八條、第三百三十六條乃至第三百四十一條及ヒ第三百四十八條ノ規定ハ船舶所有者ニ之ヲ準用ス

第二款　船荷證券

第六百二十條　船長ハ傭船者又ハ荷送人ノ請求ニ因リ運送品ノ船積後遲滯ナク一通又ハ數通ノ船荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十一條　船舶所有者ハ船長以外ノ者ニ船長ニ代ハリテ船荷證券ヲ交付スルコトヲ委任スルコトヲ得

第六百二十二條　船荷證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長又ハ之ニ代ハル者署名スルコトヲ要ス

一　船舶ノ名稱及ヒ國籍

二　船長カ船荷證券ヲ作ラサルトキハ船長ノ氏名

三　運送品ノ種類、個數竝ニ記號

四　傭船者又ハ荷送人ノ氏名若クハ商號

五　荷受人ノ氏名若クハ商號

六　船積港

七　陸揚港但發航後傭船者又ハ荷送人カ陸揚港ヲ指定スヘキトキハ其之ヲ指定スヘキ港

八　運送賃

九　數通ノ船荷證券ヲ作リタルトキハ其員數

十　船荷證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第六百二十三條　傭船者又ハ荷送人ハ船長又ハ之ニ代ハル者ノ請求ニ因リ船荷證券ノ謄本ニ署名シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十四條　陸揚港ニ於テハ船長ハ數通ノ船荷證券中ノ一通ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ其引渡ヲ拒ムコトヲ得ス

第六百二十五條　陸揚港外ニ於テハ船長ハ船荷證券ノ各通ノ返還ヲ受クルニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ得ス

第六百二十六條　二人以上ノ船荷證券所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ船長ハ各所持人ニ對シテ其一人カ他ノ所持人ニ先チテ船長ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ他ノ所持人ノ船荷證券ハ其效力ヲ失フ

第六百二十七條　二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ其一人カ他ノ所持人ニ先チテ船長ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ他ノ所持人ノ船荷證券ハ其效力ヲ失フ若シ其事由カ航海中ニ生シタルトキハ旅客ハ運送ノ割合ニ應シテ運送賃ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百二十八條　旅客カ死亡シタルトキハ船長ハ最モ其相續人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其船中ニ在ル手荷物ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十九條　第三百五十條、第三百五十一條第一項、第三百五十二條、第五百九十一條、第五百九十二條、第六百十四條及ヒ第六百十八條ノ規定ハ海上ノ旅客運送ニ之ヲ準用ス

第五百九十三條及ヒ第六百十七條ノ規定ハ旅客ノ手荷物ニ之ヲ準用ス

第六百四十條　旅客運送ヲ爲ス爲メ船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ船舶所有者ト傭船者トノ關係ニ付テハ前節第一款ノ規定ヲ準用ス

第四章　海損

第六百四十一條　船長カ船舶及ヒ積荷ヲシテ共同ノ危險ヲ免レシムル爲メ船舶又ハ積荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リテ生シタル損害及ヒ費用ハ之ヲ共同海損トス

前項ノ規定ハ危險カ過失ニ因リテ生シタル場合ニ於テ利害關係人ノ過失者ニ對スル求償ヲ妨ケス

第六百四十二條　共同海損ハ之ニ因リテ保存セラレタル船舶又ハ積荷ノ價格ト運送賃ノ半額ト共同海損タル損害ノ額トノ割合ニ應シテ各利害關係人之ヲ分擔ス

第六百四十三條　共同海損タル損害ノ額ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル船舶ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但積荷ニ付テハ其減失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セサリシ一切ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第三百三十八條ノ規定ハ共同海損ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十四條　船舶ノ價格ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トシ積荷ノ價格ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トス但積荷ニ付テハ其價格中ヨリ減失ノ場合ニ於テ支拂フコトヲ要セサル運送賃其他ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第六百四十四條　前二條ノ規定ニ依リ共同海損ヲ分擔スヘキ者ハ船舶ノ到達又ハ積荷ノ引渡ノ時ニ於テ現存スル價額ノ限度ニ於テノミ其責ニ任ス

第六百四十五條　船舶ニ備附ケタル武器、船員ノ給料、船員及ヒ旅客ノ食料竝ニ衣類ハ共同海損ノ分擔ニ付キ其價額ヲ算入セス但此等ノ物ニ加ヘタル損害ハ他ノ利害關係人之ヲ分擔ス

第六百四十六條　船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ナクシテ船積シタル荷物又ハ屬具目錄ニ記載セサル屬具ニ加ヘタル損害ハ利害關係人ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ要セス

甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害亦同シ但治岸ノ小航海ニ在リテハ此限ニ在ラス

前二項ニ揭ケタル積荷ノ利害關係人ト雖モ共同海損ヲ分擔スル責ヲ免ルコトヲ得ス

第六百四十七條　共同海損タル損害ノ額ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル船舶ノ價格又ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但積荷ニ付テハ其減失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セサリシ一切ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第三百三十八條ノ規定ハ共同海損ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十八條　船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ニ積荷ノ實價ヨリ低キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ニ加ヘタル損害ノ額ハ其記載シタル價額ニ依リテ之ヲ定ム

積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ノ其記載シタル價額

ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス

前二項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ホスヘキ事項ニ付キ虛僞ノ記載ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十九條　第六百四十二條ノ規定ニ依リテ利害關係人カ共同海損ヲ分擔シタル後船舶、其屬具若クハ積荷ノ全部又ハ一部カ其所有者ニ復シタルトキハ其所有者ハ償金中ヨリ救助料及ヒ一部滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ノ額ヲ控除シタルモノヲ返還スルコトヲ要ス

第六百五十條　船舶カ雙方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ニ於テ雙方ノ過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハサルトキハ其衝突ニ因リテ生シタル損害ハ各船舶ノ所有者平分シテ之ヲ負擔ス

第六百五十一條　共同海損又ハ船舶ノ衝突ニ因リテ生シタル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ共同海損ニ付テハ其計算終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六百五十二條　本章ノ規定ハ船舶カ不可抗力ニ因リ發航港又ハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲スタメニ要スル費用ニ之ヲ準用ス

第五章　海難救助

第六百五十三條　船舶又ハ積荷ノ全部又ハ一部カ海難ニ遭遇セル場合ニ於テ義務ナクシテ之ヲ救助シタル者ハ其結果ニ對シテ相當ノ救助料ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十四條　救助料ニ付キ特約ナキ場合ニ於テ其額ニ付キ爭アルトキハ危險ノ程度、救助ノ結果、救助ノ爲メニ要シタル勞力及ヒ費用其他一切ノ事情ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

第六百五十五條　救助料ヲ定メタル場合ニ於テ其額カ著シク不相當ナルトキハ當事者ハ其增加又ハ減少ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百五十六條　海難ニ際シ契約ヲ以テ救助料ヲ定メタル場合ニ於テ其額カ著シク不相當ナルトキハ當事者ハ其增加又ハ減少ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百五十七條　救助シタル物品ヲ隱匿シ又ハ濫ニ之ヲ處分シタルトキハ其報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百五十八條　救助者ハ其債權ニ付キ救助シタル積荷ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ニハ船舶債權者ノ先取特權ニ關スル規定ヲ準用ス

第六百五十九條　船長ハ救助料ノ債務者ニ代ハリテ其支拂ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

救助料ニ關スル訴ニ於テハ船長ハ自ラ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得但其訴ニ付キ言渡シタル判決ハ救助料ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ有ス

第六百五十二條ノ十四　積荷ノ所有者ハ救助セラレタル物ヲ以テ救助料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第六百五十二條ノ十五　積荷ノ上ニ存スル先取特權ハ債務者カ其積荷ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其債務ノ辨濟ニ因リテ消滅ス

第六百五十二條ノ十六　救助料ノ請求權ハ救助ヲ爲シタル時ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六章　保險

第六百五十三條　海上保險契約ハ航海ニ關スル事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ノ塡補ヲ以テ其目的トス

海上保險契約ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第三編第十章第一節第一款ノ規定ヲ適用ス

第六百五十四條　保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ塡補スル責ニ任ス

第六百五十五條　保險者ハ被保險者カ支拂フヘキ共同海損ノ分擔額ヲ塡補スル責ニ任ス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第六百五十六條　船舶ノ保險ニ付テハ保險者ノ責任カ始マル時ニ於ケル其價額ヲ以テ保險價額トス

第六百五十七條　積荷ノ保險ニ付テハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ船積竝ニ保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス

第六百五十八條　積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬ノ保險ニ付テハ契約ヲ以テ保險價額ヲ定メサリシトキハ保險金額ヲ以テ保險價額トス

第六百五十九條　一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ荷物又ハ底荷ノ船積ニ著手シタル時ヲ以テ始マル

前二項ノ場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ到達港ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル但其陸揚カ不可抗力ニ因ラスシテ遲延シタルトキハ其終了スヘカリシ時ヲ以テ終ハル

第六百六十條　積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ其積荷カ陸地ヲ離レタル時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル

前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百六十一條　海上保險證券ニハ第四百三條第二項ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ其船舶ノ名稱、國籍竝ニ種類、船長ノ氏名及ヒ發航港、到達港又ハ寄航港ノ定アルトキハ其港名

二　積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱、國籍竝ニ種類、船積港及ヒ陸揚港

第六百六十二條　保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ航海ヲ變更シタルトキハ保險契約ハ其

效力ヲ失フ

保險者ノ責任カ始マリタル後航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

到達港ヲ變更シ其實行ニ著手シタルトキハ保險シタル航路ヲ離レサルトキト雖モ航海ヲ變更シタルモノト看做ス

第六百六十三條　被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコトヲ怠リ又ハ航路ヲ變更シ其他著シク危險ヲ變更若クハ增加シタルトキハ保險者ハ其變更又ハ增加以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更又ハ增加カ事故ノ發生ニ影響ヲ及ホササリシトキ又ハ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可抗力若クハ正當ノ理由ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十四條　保險契約中ニ船長ヲ指定シタルトキト雖モ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ホサス

第六百六十五條　積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十六條　保險契約ヲ爲スニ當タリ荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサリシ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其荷物ヲ船積シタルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク保險者ニ對シテ船舶ノ名稱及ヒ國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

保險契約者又ハ被保險者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第六百六十七條　保險者ハ左ニ揭ケタル損害又ハ費用ヲ塡補スル責ニ任セス

一　保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

二　船舶又ハ運送賃ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害

三　積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ傭船者、荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

四　水先案內料、入港料、燈臺料、檢疫料其他船舶又ハ積荷ニ付キ航海ノ爲メニ出タシタル通常ノ費用

第六百六十八條　共同海損ニ非サル損害又ハ費用カ其計算ニ關スル費用ヲ算入セスシテ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エサルトキハ保險者ハ之ヲ塡補スル責ニ任セス

右ノ損害又ハ費用カ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エタルトキハ保險者ハ其全額ヲ支拂フコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ當事者カ契約ヲ以テ保險者ノ負擔セサル損害又ハ費用ノ割合ヲ定メタル場合ニ之ヲ準用ス

前三項ニ定メタル割合ハ各航海ニ付キ之ヲ計算ス

第六百六十九條　保險ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタルトキハ保險者ハ其積荷カ毀損シタル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セサル狀況ニ於テ有スヘカリシ價額ニ對スル割合ヲ以テ保險價額ノ一部ヲ塡補スル責ニ任ス

第六百七十條　航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ其賣却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送賃其他ノ費用ヲ控除シタルモノト保險價額トノ差ヲ以テ保險者ノ負擔トス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ第三百九十一條ノ適用ヲ妨ケス

前項ノ場合ニ於テ買主カ代價ヲ支拂ハサルトキハ保險者ハ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス但其支拂ヲ爲シタルトキハ被保險者ノ買主ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス

第六百七十一條　左ノ場合ニ於テハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

一　船舶カ沈沒シタルトキ

二　船舶ノ行方カ知レサルトキ

三　船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ

四　船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ

五　船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六个月間解放セラレサルトキ

第六百七十二條　船舶ノ存否カ六个月間分明ナラサルトキハ其船舶ハ行方ノ知レサルモノトス

保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間內ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得但船舶カ保險期間內ニ滅失セサリシコトノ證明アリタルトキハ其委付ハ無效トス

第六百七十三條　第六百七十一條第三號ノ場合ニ於テ船長カ遲滯ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ委付スルコトヲ得ス

第六百七十四條　被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三个月內ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ第六百七十一條第一號、第三號及ヒ第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百七十五條　委付ハ單純ナルコトヲ要ス

委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テノミ之ヲ爲スコトヲ得

保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ應シテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十六條　保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第六百七十七條　保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス

被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

第六百七十八條　被保險者ハ委付ヲ爲スニ當タリ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約並ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス

保險者ハ前項ノ通知ヲ受クルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス

保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百七十九條　保險者カ委付ヲ承認セサルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

第七章　船舶債權者

第六百八十條　左ニ揭ケタル債權ヲ有スル者ハ船舶、其屬具及ヒ未タ受取ラサル運送賃ノ上ニ先取特權ヲ有ス

一　船舶並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費

二　最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費

三　航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅

四　水先案內料及ヒ挽船料

五　救助料及ヒ船舶ノ負擔ニ屬スル共同海損

六　航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權

七　雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權

八　船舶カ其賣買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合ニ於テ其賣買又ハ製造並ニ艤裝ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ艤裝、食料並ニ燃料ニ關スル債權

九　第二號、第四號乃至第六號及ヒ前號ニ揭ケタルモノヲ除ク外第五百四十四條ノ規定ニ依リ委付ヲ許シタル債權

第六百八十一條　船舶債權者ノ先取特權ハ運送賃ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送賃ノ上ニノミ存在ス

第六百八十二條　船舶債權者ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第六百八十條ニ揭ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ノ債權間ニ在リテハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ

同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク但第六百八十條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セサリシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ

先取特權カ數回ノ航海ニ付テ生シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラス後ノ航海ニ付テ生シタルモノ前ノ航海ニ付テ生シタルモノニ先ツ

第六百八十三條　船舶債權者ノ先取特權ト他ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

第六百八十四條　船舶所有者カ其船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓受人ハ其讓渡ヲ登記シタル後先取特權者ニ對シ一定ノ期間內ニ其債權ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一个月ヲ下ルコトヲ得ス

先取特權者カ前項ノ期間內ニ其債權ノ申出ヲ爲ササリシトキハ其先取特權ハ消滅ス

第六百八十五條　船舶債權者ノ先取特權ハ其發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第六百八十條第八號ノ先取特權ハ船舶ノ發航ニ因リテ消滅ス

第六百八十六條　登記シタル船舶ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

船舶ノ抵當權ハ其屬具ニ及フ

船舶ノ抵當權ニハ不動產ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス

第六百八十七條　船舶ノ先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得

第六百八十八條　登記シタル船舶ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第六百八十九條　本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

（明治三十二年勅令第百三十三號ヲ以テ同年六月十六日ヨリ施行）

附　則（明治四十四年法律第七十三號）

（明治四十四年勅令第二百十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

第一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　本法ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ其施行前ニ生シタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但從前ノ規定ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス

第三條　本法施行前ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ第四十四條ノ三第二項及ヒ第三項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス

第四條　第九十一條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ清算結了ノ登記ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五條　第九十九條ノ三第二項及ヒ第九十九條ノ四乃至第九十九條ノ六ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル設立無效ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但其訴ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラス

第六條　前二條ノ規定ハ合資會社ニ之ヲ準用ス

第七條　本法施行前ニ株式會社ノ發起人カ定款ヲ作リタル場合ニ於テハ其設立ニハ從前ノ規定ヲ適用ス

前項ノ規定ハ第百二十六條ノ二及ヒ第百四十二條ノ二乃至第百四十二條ノ四ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第八條　第百五十二條第三項及ヒ第百五十三條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ第百五十二條第一項ノ催告ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第九條　第百六十三條及ヒ第百六十三條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル事由ニ基キ其施行後ニ決議無效ノ訴ヲ提起スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十條　第九十九條ノ三第二項、第九十九條ノ四及ヒ第百六十三條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル決議無效ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但其訴ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラス

第十一條　前二條ノ規定ハ創立總會ノ決議無效ノ訴ニ之ヲ準用ス

第百六十三條ノ三ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル創立總會ノ決議無效ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス

第十二條　第百六十七條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監查役ノ任務カ本法施行後ニ終了シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十三條　第百七十七條及ヒ第百八十六條ノ規定ハ本法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監查役ノ行爲カ本法施行後ニ在リタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條　本法施行前ニ株式會社カ社債募集ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ從ヒテ其募集ヲ爲スコトヲ得但未タ社債募集ノ公告ヲ爲ササルトキハ第二百三條、第二百三條ノ二、第二百四條ノ二及ヒ第二百七條ノ二ノ規定ヲ適用ス

第十五條　本法施行前ニ株式會社カ資本增加ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ從ヒテ其增加ヲ爲スコトヲ得

第十六條　第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ本法施行前ニ資本減少ノ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但株主總會ノ決議ニ反スルトキハ此限ニ在ラス

第十七條　第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ券面額五十圓未滿ノ株式ヲ併合スル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　本法施行前ニ株式會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テモ株主ハ其記名株式ヲ讓渡スコトヲ得

第十九條　附則第十六條ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條第三項ノ規定ハ本法施行前ニ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十條　本法施行前ニ株式會社ノ設立ノ無效ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テ裁判所カ未タ清算人ヲ選任セサリシトキハ設立無效ノ主張ニ付テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第二十一條　附則第九條、第十條、第十二條及ヒ第十三條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條　附則第四條及ヒ第五條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第二十三條　前十六條ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二十四條　本法施行前ニ會社ニ關スル從前ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第二十五條　第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二及ヒ第四百八十八條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ第一ノ質入裏書アリタル質入證券ノ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ其證券ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十六條　質入證券所持人ノ裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケタル日カ本法施行前ニ在リタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六个月本法施行後ニ在ル場合ニ於テハ辨濟ヲ受ケタル日ヨリ六个月ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

質入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請求權ハ本法施行前ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六个月本法施行後ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其償還ノ日ヨリ六个月ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

本法施行前ニ進行ヲ始メタル時效ノ殘期カ其施行ノ日ヨリ起算シテ六个月ヨリ短キトキハ時效ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第二十七條　第三百六十七條ノ三、第三百八十條ノ二及ヒ第三百八十條ノ三ノ規定ハ本法施行前ニ作リタル預證券又ハ質入證券ニモ亦之ヲ適用ス但其證券ニ別段ノ意思表示アルトキハ此限ニ在ラス

第二十八條　第四百十七條ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル保險料返還ノ義務ニ付キ其施行

行後ニ時效カ進行ヲ始ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス

本法施行前ニ進行ヲ始メタル時效ノ殘期カ其施行ノ日ヨリ起算シテ二年ヨリ長キトキハ時效ハ其施行ノ日ヨリ二年ヲ經過スルニ因リ二年ヨリ短キトキハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

前二項ノ規定ハ第四百三十二條ノ二ノ義務ニ之ヲ準用ス

第二十九條　第四百二十八條乃至第四百二十八條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ爲シタル保險契約ニハ之ヲ適用セス

第三十條　本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ引受拒絶證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テハ擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要セス本法施行後ニ擔保ヲ供セサル爲メ拒絶證書ヲ作ラシメタル場合亦同シ

第三十一條　第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二、第四百八十八條ノ四及ヒ第四百八十九條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條　第五百十五條乃至第五百十五條ノ五及ヒ第五百十七條第一項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ拒絶證書ヲ作ル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十三條　前三條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ準用ス

第三十四條　第五百三十三條ノ三及ヒ第五百三十四條第二項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル小切手ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

附則第三十一條及第三十二條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス

第三十五條　第五百四十四條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル原因ニ基キ其施行後ニ委付ヲ爲ス場合ニモ亦之ヲ適用ス

● 商法施行法

明治三十二年三月九日 法律第四十九號

改正　明治三三年第六九號　大正一一年第七一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法施行法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

商法施行法

第一條　商法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊法ノ規定ヲ適用ス

第二條　商事ニ關スル特別ノ法令ハ商法施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ有ス

第三條　特別ノ法令中舊商法ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テハ舊商法ハ商法施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ有ス

第四條　商法施行前ヨリ商業ヲ營ム未成年者、妻及ヒ後見人ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五條　商法施行前ニ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者又ハ妻ハ商法施行ノ日ヨリ其會社ノ業務ニ關シ之ヲ能力者ト看做ス

第六條　商法第七條第二項ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル制限ニモ亦之ヲ適用ス

第七條　商法第八條ニ定メタル小商人ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　商法施行前ニ舊法ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ハ商法ノ規定ニ從ヒテ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第九條　商法施行前ニ登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲サザリシトキハ當事者ハ其施行ノ後遲滯ナク登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十條　商法施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ノ社名ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記シタル商號ト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條　商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ其社名中ニ合名會社ナル文字ヲ用井サルモノハ其施行ノ日ヨリ三个月内ニ商法第十七條ノ規定ニ從ヒテ其社名ヲ改メ且其登記ヲ爲スコトヲ要ス

會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第十二條　商法第十八條ノ規定ハ商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

第十三條　商法第十九條ノ規定ハ舊商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

商法施行後ニ商號ノ登記ヲ爲シタル者ト雖モ舊商法施行前ヨリ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十四條　商法第十九條、第二十條第二項、第二十二條第一項及ヒ第二百八十九條第三項ニ揭ケタル市町村ハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域トシ東京市、京都市及ヒ大阪市ニ在リテハ其各區トス

第十五條　商法施行前ニ東京市又ハ大阪市ニ於テ商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ商法施行ノ日ヨリ六个月内ニ其市ニ存スル他ノ登記所ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登記ヲ爲ササリシ者ハ其登記所ノ管轄區域内ニ於テハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十六條　商法第二十二條第二項ノ適用ニ付テハ北海道ハ之ヲ一府縣ト看做ス

第十七條　商法第二十八條ノ規定ハ商法施行前ニ作リタル商業帳簿ニモ亦之ヲ適用ス

第十八條　代務人ニハ商法施行ノ日ヨリ支配人ニ關スル規定ヲ適用ス

第十九條　商法施行前ヨリ支配人又ハ支配役ト稱スル者カ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有セサルトキハ主人ハ商法施行ノ日ヨリ三个月内ニ其名稱ヲ改ムルコトヲ要ス

主人カ前項ノ期間内ニ支配人又ハ支配役ノ名稱ヲ改メサリシトキハ其者ハ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有スルモノト看做ス

第二十條　商法第三十二條第三項ノ規定ハ舊商法第五十條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス但一年ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

主人カ商法施行前ニ前項ノ行爲ヲ知リタルトキハ二週間ノ期間モ亦其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條　商法中代理商ニ關スル規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル代理商ニモ亦之ヲ適用ス

第二十二條　商法中會社ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ設立シタル會社ニモ亦之ヲ適用ス

第二十三條　商法第四十七條ニ定メタル期間ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條　商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ未タ設立ノ登記ヲ爲ササルモノハ商法施行ノ日ヨリ一个月内ニ商法ノ規定ニ從ヒ定款ヲ作リ且商法第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條　商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル合名會社ハ商法施行ノ日ヨリ一个月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店竝ニ他ノ支店及ヒ社員ノ出資ノ種類竝ニ財産ヲ目的トスル出資ノ價格ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十六條　商法第五十一條第二項、第三項及ヒ第五十二條ノ規定ハ合名會社カ設立ノ登記ヲ爲シタル後商法施行前ニ支店ヲ設ケ又ハ其本店若クハ支店ヲ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス但登記期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十七條　會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前二條ノ規定ニ依リ爲スヘキ登記ヲ怠リタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十八條　商法第六十條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ舊商法第百四條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス

第二十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　商法第七十一條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社ニハ之ヲ適用セ

ス

第三十條　合名會社ノ目的タル事業ノ成功カ商法施行前ニ不能ト爲リタルトキハ裁判所カ解散ヲ命シタル場合ヲ除ク外其會社ハ商法ノ施行ト同時ニ解散シタルモノト看做ス

第三十一條　合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ清算人ヲ選任セサルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十二條　合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ既ニ清算人ヲ選任シタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條及ヒ第九十條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條　商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十四條　合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ清算人ヲ選任セサルトキハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財産ノ處分方法ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テハ商法施行ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

商法第七十八條第二項、第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條　合名會社カ商法施行前ニ解散ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ清算ハ舊商法ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス

第三十六條　合名會社ニ於テ商法施行前ニ清算人ノ解任又ハ變更アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第九十七條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十七條　商法第百三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル合名會社ニモ亦之ヲ適用ス

第三十八條　商法施行前ニ設立シタル合資會社ニハ舊商法ノ規定ヲ適用ス

第二十三條、第二十五條乃至第三十二條及ヒ前三條ノ規定ハ前項ノ會社ニ之ヲ準用ス

第三十九條　商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ其取引ニ關スル一切ノ書類ニ商法施行前ニ設立シタル會社タルコトヲ示スコトヲ要ス

業務擔當社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第四十條　商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ舊商法第百五十一條第二項ノ規定ニ從ヒ其組織ヲ變更シテ之ヲ商法ニ定メタル合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ總會ハ直チニ新會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第四十一條　商法第七十八條、第七十九條第一項、第二項及ヒ第二百五十四條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條　商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ商法ノ規定ニ從ヒテ合併ヲ爲スコトヲ得但合併後存續シ又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ商法ニ定メタル種類ノ一タルコトヲ要ス

合併ノ決議ハ舊商法第百五十一條第二項ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條　商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ニ於テハ其發起人ハ七人以上ナルコトヲ要セス

第四十四條　商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ト雖モ其發起人カ未タ株主ノ募集ニ著手セサルトキハ之ニ商法ノ規定ヲ適用ス

第四十五條　株式會社ノ發起人カ商法施行前ニ株主ノ募集ニ著手シタルトキハ舊商法ノ規定ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得但商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第四十六條　商法施行前ニ創業總會ニ於テ定款ヲ確定シタル場合ニ於テハ商法ノ規定ニ從ヒテ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第四十七條　商法第百三十條ノ規定ハ前二條ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第四十八條　商法第百六十三條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依リテ招集シタル創業總會ノ決議ニ之ヲ準用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十九條　第四十五條ノ場合ニ於テ商法施行前ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其日ヨリ六个月内ニ發起人カ創業總會ヲ招集セサルトキハ株式申込人ハ其申込ヲ取消スコトヲ得

第五十條　第四十五條及ヒ第四十六條ノ場合ニ於テハ株式會社ハ各株ニ付キ株金ノ四分ノ一ノ拂込アリタル後二週間内ニ商法第百四十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條　商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ニシテ其定款ニ商法第百二十條第一號乃至第七號ニ揭ケタル事項ヲ定メサルモノハ商法施行ノ日ヨリ三个月内ニ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第五十二條　商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社ハ商法施行ノ日ヨリ三个月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店竝ニ他ノ支店及ヒ會社カ公告ヲ爲ス方法竝ニ監査役ノ氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第五十三條　商法施行前ニ設立シタル株式會社カ登記シタル事項中ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲ササリシトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

舊商法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項カ商法施行前ニ生シタル場合ニ於テハ舊商法ニ登記期間ノ定ナキトキニ限リ前項ノ規定ヲ準用ス

第五十四條　取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第五十五條　商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ株式ノ金額カ商法第百四十五條第二項ノ規定ニ反スル場合ト雖モ舊商法施行條例ノ規定ニ反セサル場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得商法施行後ニ新株ヲ發行スルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ商法施行後ニ株式ノ金額ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス

第五十六條　商法中株券ニ關スル規定ハ商法施行前ニ發行シタル假株券ニモ亦之ヲ適用ス

第五十七條　商法施行前ニ發行シタル株券及ヒ假株券ハ商法第百四十八條又ハ第二百十八條ノ規定ニ違フモ之ヲ改ムルコトヲ要セス但商法施行後ニ株金ノ拂込ヲ爲シタル場合ニ於テハ前ニ拂込ミタル金額及ヒ新ニ拂込ミタル金額ヲ假株券ニ記載スルコトヲ要ス

第五十八條　舊商法第二百十二條乃至第二百十五條ノ規定ハ商法施行前ニ株金拂込ノ催告アリタル場合ニ限リ之ヲ適用ス

第五十九條　商法第百五十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ商法施行前ニ株式ヲ讓渡シタル者ニシテ舊商法第百八十二條ノ規定ニ依リ擔保義務ナキ者ニハ之ヲ適用セス

第六十條　法令ノ規定ニ依リ日本人ノミヲ以テ組織スヘキ株式會社及ヒ日本人ノミヲ以テ組織スルコトヲ條件トシテ特別ノ權利ヲ有スル株式會社ハ無記名式ノ株券ヲ發行スルコトヲ得ス若シ之ニ違反シタルトキハ其株券ハ無效トシ最後ノ記名株主ヲ以テ株主トス

取締役カ前項ノ規定ニ反シテ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

第六十一條　舊商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テハ株主ノ議決權ノ制限カ商法第百六十二條ノ規定ニ反スルモ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得但商法施行後ニ其制限ヲ變更スル場合ハ此限ニ在ラス

第六十二條　商法第百六十三條ノ規定ハ株主總會カ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條　商法第百六十七條但書ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役及ヒ監査役ニハ之ヲ適用セス

第六十四條　商法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ト雖モ其禁治產ニ因リテ退任ス

第六十五條　商法施行前ニ選任シタル取締役ハ其施行ノ後遲滯ナク定款ニ定メタル員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第六十六條　商法施行前ニ設立シタル株式會社ニ於テ其施行後ニ株金ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ其拂込ノ年月日ヲ株主名簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十七條　商法施行前ニ設立シタル株式會社ノ取締役ハ其施行ノ後遲滯ナク社債ノ總額及ヒ其償還ノ方法ヲ社債原簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六十八條　株式會社カ商法施行前ニ其資本ノ半額ヲ失ヒタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後遲滯ナク株主總會ヲ招集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス

商法施行前ニ會社財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テハ取締役ハ商法施行ノ後遲滯ナク破產宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第六十九條　取締役カ前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラル

第七十條　商法第百七十五條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ニハ之ヲ適用セス

第七十一條　舊商法第百八十九條ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル取締役ニノミ之ヲ適用ス

第七十二條　商法施行前ニ舊商法第二百二十八條又ハ第二百二十九條ノ規定ニ依リテ提起シタル訴ニハ商法ノ規定ヲ適用セス

第七十三條　商法施行前ニ選任シタル監査役ハ其任期カ一年ヨリ長キトキト雖モ其任期間在任ス

第七十四條　商法第百九十條ニ揭ケタル書類ハ商法施行前ニ總會招集ノ通知ヲ發シタル場合ニ限リ會日マテニ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第七十五條　商法第百九十六條ノ規定ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル株式會社カ其登記後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス

裁判所カ定款ノ規定ヲ認可シタルトキハ取締役ハ二週間內ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

取締役カ前項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第七十六條　明治二十三年法律第六十號ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七十七條　株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テハ舊法ノ規定ニ依リテ其募集ヲ完了スルコトヲ得

第七十八條　商法第二百四條第一項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第七十九條　株式會社カ商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合ニ於テ一時ニ全額ノ拂込ヲ爲サシメサルトキハ第一回ノ拂込アリタル後二週間內ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ商法第百七十三條第三號乃至第六號ニ揭ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第八十條　商法施行前ニ社債ノ全額又ハ一部ノ拂込アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間內ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ拂込ミタル金額及ヒ商法第百七十三條第三號乃至第六號ニ揭ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第八十一條　商法施行前ニ發行シタル債券ハ商法第二百五條ノ規定ニ違フモ之ヲ改ムルコトヲ要セス

第五十七條但書ノ規定ハ債券ニ之ヲ準用ス

第八十二條　商法第二百九條第二項ノ規定ハ商法施行前ニ假決議ヲ爲シテ未タ其通知ヲ發セサル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十三條　商法第二百九條第四項ノ規定ハ株式會社カ商法施行前ニ定款變更ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第八十四條　株式會社カ商法施行前ニ資本ノ增加若クハ減少ノ決議又ハ假決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ舊商法ノ規定ニ依リテ其增加又ハ減少ヲ爲スコトヲ得

商法第百二十八條乃至第百三十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十五條　商法施行前ニ爲シタル決議又ハ假決議ニ依リテ資本ヲ增加シタル場合ニ於テ商法施行前ニ新株ニ付キ拂込ミタル株金額ノ登記ヲ爲ササリシトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ拂込アリタルトキハ其日ヨリ二週間內ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十六條　株式會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ解散ノ決議ヲ爲ササルトキハ取締役ハ商法施行ノ後遲滯ナク株主ニ對シテ解散ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第八十七條　取締役カ前二條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第八十八條　株式會社ノ淸算人ハ株主總會又ハ裁判所カ商法施行前ニ與ヘタル訓示ヲ遵守スルコトヲ要ス

第八十九條　商法施行前ニ舊商法第二百四十二條ノ規定ニ依リテ選任シタル代人ハ商法施行ノ後ト雖モ其權限ヲ保有ス

第九十條　第三十三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル株式會社ノ淸算人カ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

第九十一條　第二十六條、第三十條乃至第三十二條、第三十五條及ヒ第三十六條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第九十二條　商法施行前ニ日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立シタル會社及ヒ組合ニ付キ亦同シ

第九十三條　商法施行前ニ舊法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ商法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第九十四條　【私設鐵道株式會社ニハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例ノ改正ニ至ルマテ舊商法及ヒ其附屬法令中株式會社ニ關スル規定ヲ適用ス】

第九十五條乃至第百十六條　削除

第百十七條　明治十年第六十六號布告利息制限法第五條ノ規定ハ商事ニハ之ヲ適用セス

第百十八條　商法施行前ニ設定シタル質權ノ實行ニ付テハ別段ノ意思表示アリタル場合ヲ除ク外競賣法ノ規定ヲ適用ス但取引所ノ相場アル有價證券其他ノ商品ニ在リテハ執達吏ハ取引所ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得

前項ノ規定ハ留置權者カ其留置物ヲ賣却スル場合ニ之ヲ準用ス

第百十九條　商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊商法ノ規定ヲ適用ス但民法施行法第三十條、第三十一條及ヒ第三十三條ノ準用ヲ妨ケス

第百二十條　商法第二百八十一條ノ規定ハ商法施行前ニ發行シタル指圖證券及ヒ無記名證券ニモ亦之ヲ適用ス

第百二十一條　商法第二百九十九條ノ規定ハ商法施行前ニ約シタル匿名組合ニモ亦之ヲ適用ス

第百二十二條　湖川、港灣及ヒ沿岸小航海ノ範圍ハ遞信大臣之ヲ定ム

第百二十三條　手形ノ所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕證書ノ作成カ商法施行前ニ在リタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ支拂拒絕證書ノ作成カ商法施行後ニ在リタル場合ニ於テハ其作成ノ日ヨリ六个月ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ商法施行前ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其日ヨリ六个月ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

商法施行前ニ進行ヲ始メタル時效ノ殘期カ商法施行ノ日ヨリ起算シテ六个月ヨリ短キトキハ時效ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第百二十四條　【明治十九年法律第二號公證人規則】第二十八條ノ規定ハ公證人カ拒絕證書ヲ作ル場合ニハ之ヲ適用セス

第百二十五條　外國ニ於テ爲シタル手形行爲ノ要件ハ行爲地ノ法律ニ依ル

前項ノ規定ニ拘ハラス外國ニ於テ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキハ外國ノ法律ニ依レハ要件ヲ具備セサルトキト雖モ爾後日本ニ於テ爲シタル手形行爲ハ有效トス日本人カ外國ニ於テ日本人ニ對シテ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキ亦同シ

第百二十六條　外國ニ於テ手形上ノ權利ヲ行使又ハ保全スル爲メニ爲ス行爲ノ方式ハ行爲地ノ法律ニ依ル

第百二十七條　商法第五百五十二條第三項ノ規定ハ商法施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

商法第五百五十三條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船舶管理人ニモ亦之ヲ適用ス

第百二十八條　商法第五百五十六條ノ規定ハ商法施行前ニ爲シタル船舶ノ賃貸借ニモ亦之ヲ適用ス

第百二十九條　商法第五百五十八條乃至第五百六十八條及ヒ第五百七十四條ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ選任シタル船長ニモ亦之ヲ適用ス

第百三十條　商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ揭ケタル書類ノ書式ハ遞信大臣之ヲ定ム

第百三十一條　委付ノ原因カ商法施行後ニ生シタルトキハ其施行前ニ爲シタル保險契約ニ付テモ被保險者ハ商法ノ規定ニ從ヒテ委付ヲ爲スコトヲ得

第百三十二條　船舶ノ存否カ商法施行ノ日ヨリ六个月間分明ナラサルトキハ未タ舊商法第九百六十六條第一項ノ期間ヲ經過セサルトキト雖モ其船舶ハ行方ノ知レサルモノト看做ス

第百三十三條　商法施行ノ際舊商法第九百六十九條第一項ニ定メタル三日ノ期間カ未タ滿了ニ至ラサルトキハ商法施行ノ日ヨリ三个月內ニ商法第六百七十四條ニ定メタル通知ヲ發シテ委付ヲ爲スコトヲ得

第百三十四條　船舶ノ先取特權ニ關スル商法ノ規定ハ其施行前ニ發生シタル債權ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第百三十五條　第三十三條ノ規定ハ商法第六百八十四條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ニ之ヲ準用ス

第百三十六條　船舶ノ抵當權ニ關スル商法ノ規定ハ商法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス

第百三十七條　民法施行法第二條、第三條、第三十條、第三十一條、第三十三條、第三十四條、第五十三條及ヒ第五十六條ノ規定ハ商事ニ之ヲ準用ス

附則

第百三十八條　本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第百三十九條　商法施行條例ハ之ヲ廢止ス但シ同條例第二十一條乃至第二十三條及第五十一條ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍其ノ效力ヲ有ス

●法人ノ役員處罰ニ關スル法律

大正四年六月二十一日 法律第十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル法人ノ役員處罰ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

法人ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事、監査役又ハ監事ニシテ刑事訴追又ハ刑ノ執行ヲ免レシムル爲合併其ノ他ノ方法ニ依リ法人ヲ消滅セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

附則

本法ハ大正四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律

明治三十三年二月二十六日 法律第十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（國務各大臣副署）

商法中署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

●小商人ノ範圍ニ關スル件

明治三十二年六月十五日 勅令第二百七十一號

朕小商人ノ範圍ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法、農商務大臣副署）

商行爲ヲ爲スヲ業トスル者資本金額五百圓ニ滿タサル者ハ之ヲ小商人トス

附則

此勅令ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●震災ニ因リ株主名簿ヲ喪失シタル會社ノ株主總會等ニ關スル件

大正十二年十月三十一日 勅令第四百七十一號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ震災ニ因リ株主名簿ヲ喪失シタル會社ノ株主總會等ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム（國務各大臣副署）

大正十二年九月ノ震災ニ因リ株主名簿ヲ喪失シタル會社ニ名義人ヲ確知スルコト能ハサル記名株式アルトキハ會社ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ株式ハ商法中株主總會及優先株主ノ總會ニ關スル規定ノ適用ニ付之ヲ無記名式ノモノト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（第四十七回帝國議會承諾）

●商法第五百三十四條ノ二ノ規定ニ依ル手形交換所

明治四十四年十月二日 司法省令第二十四號

改正　大正元年第二號、第六號、二年第三號、第二七號、五年第一五號、八年第五號、第七號、第一九號、九年第一號、第六號、第一八號、一〇年第五號、一一年第一六號、第一八號、一二年第六號、第八號、第九號、第一〇號、一三年第九號、第一〇號、一四年第二號、第三號、第一三號、第二四號、第二八號、一五年第一號、第二號、第一一號、第一二號、第一八號　昭和二年第一號、第二號、三年第二號、第九號、第一〇號、第一二號、第一六號、四年第一二號

商法第五百三十四條ノ二ノ規定ニ依リ別表ノ手形交換所ヲ指定ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

名稱	所在地
東京手形交換所	東京府東京市
京都手形交換所	京都府京都市
大阪手形交換所	大阪府大阪市
橫濱手形交換所	神奈川縣橫濱市
神戶手形交換所	兵庫縣神戶市
長崎手形交換所	長崎縣長崎市
新潟手形交換所	新潟縣新潟市

宇都宮手形交換所	栃木縣宇都宮市
名古屋手形交換所	愛知縣名古屋市
豐橋手形交換所	愛知縣豐橋市
靜岡手形交換所	靜岡縣靜岡市
濱松手形交換所	靜岡縣濱松市
松本手形交換所	長野縣松本市
仙臺手形交換所	宮城縣仙臺市
福島手形交換所	福島縣福島市
青森手形交換所	青森縣青森市
秋田手形交換所	秋田縣秋田市
金澤手形交換所	石川縣金澤市
富山手形交換所	富山縣富山市
高岡手形交換所	富山縣高岡市
松江手形交換所	島根縣松江市
岡山手形交換所	岡山縣岡山市
廣島手形交換所	廣島縣廣島市
吳手形交換所	廣島縣吳市
尾道手形交換所	廣島縣尾道市
小倉手形交換所	福岡縣小倉市
福岡手形交換所	福岡縣福岡市
門司手形交換所	福岡縣門司市
久留米手形交換所	福岡縣久留米市
若松手形交換所	福岡縣若松市
熊本手形交換所	熊本縣熊本市
鹿兒島手形交換所	鹿兒島縣鹿兒島市
函館手形交換所	北海道函館市
札幌手形交換所	北海道札幌市
小樽手形交換所	北海道小樽市
旭川手形交換所	北海道旭川市
室蘭手形交換所	北海道室蘭市
奉天手形交換所	支那奉天省奉天

●商法施行法ニ依ル湖川港灣及沿岸小航海ノ範圍

明治三十二年五月二十六日 遞信省令第二十號

商法施行法第百二十二條ノ規定ニ依リ湖川、港灣及沿岸小航海ノ範圍左ノ通定ム

湖川、港灣ノ範圍ハ平水航路ノ區域ニ依ル

沿岸小航海ノ範圍ハ播磨國明石川口西岸ヨリ淡路國江埼ニ至ル線、淡路國押登埼ヨリ阿波國大磯埼ニ至ル線、伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豐後國地藏埼ニ至ル線及豐前國部埼ヨリ長門國宇部村ニ至ル線ヲ以テ限ラレタル内海トス

大正三年五月三十一日 朝鮮總督府令第七十八號

商法施行法第百二十二條ニ依リ湖川、港灣及沿岸小航海ノ範圍ニ關スル件左ノ通定ム

湖川、港灣ノ範圍ハ平水航路ノ區域ニ依ル

沿岸小航海ノ範圍ハ全羅南道南溪洞ヨリ荏子島、飛禽島、薪島、加士島、珍島、作只島、青山島、草島、所里島、巨濟島及絶影島ヲ經テ慶尙南道蝿頭末ニ至ル線内トス

大正十二年一月一日 臺灣總督府令第三號

商法施行法第百二十二條ノ規定ニ依リ湖川、港灣及沿岸小航海ノ範圍左ノ通相定ム

湖川、港灣ノ範圍ハ左ノ通トス

一 各湖川、港灣内

二 三貂角ヨリ基隆島ヲ經テ富基角ニ至ル線内

三 蘇澳ヨリ龜山島ヲ經テ三貂角ニ至ル線内

四 高雄ヨリ安平ヲ經テ布袋ニ至ル線内

五 安平ヨリ高雄ヲ經テ車城ニ至ル線内

沿岸小航海ノ範圍ハ左ノ通トス

一 澎湖列島間航路

附則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●商事非訟事件印紙法

明治二十三年八月十六日 法律第六十六號
改正 明治四三年第一六號 昭和二年第三二號

朕商事非訟事件印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス(總理、司法、大藏大臣副署)

商事非訟事件印紙法

第一條 商法中登記ニ關ル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ從ヒ其差出ス書類ニ【民事訴訟用印紙】ヲ貼用ス可シ但口述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 左ニ掲クルモノニ付テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 抗告又ハ假差押ノ申立

二 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立

三 支拂猶豫ノ申立

第三條 左ニ掲クルモノニ付テハ二十五錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 抗告ニ對スル答辯

二 裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特ニ規定セサル非訟事件ニ係ルモノ

第四條 削除

第五條 削除

第六條 削除

第七條 削除

第八條 本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第一編第二章第五節ノ規定ヲ準用ス

民事訴訟用印紙法ハ本法ノ規定ニ牴觸セサルモノニ限リ之ヲ準用ス

(明治二十三年法律第百九號ヲ以テ明治二十六年一月一日ヨリ施行)

附則(昭和二年法律第三十二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際未タ終局計算ニ至ラサル破産手續ニ在リテハ財團ノ全部ニ付印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

大正十五年法律第六十五號第三項ヲ削ル

(昭和二年勅令第七十號ヲ以テ同年四月十日ヨリ施行)

大正十五年四月二十四日 法律第六十五號
改正 昭和二年第三二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商事非訟事件印紙法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、司法大臣副署)

商事非訟事件印紙法中左ノ通改正ス

第一條中「民事訴訟用」ヲ削ル

第二條第三號ヲ削ル

第八條中「第二章第五節」ヲ「第三章第一節」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和四年勅令第百五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

●商事調停法

大正十五年三月三十日 法律第四十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商事調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、司法大臣副署)

商事調停法

第一條 商事ニ關シ爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ相手方ノ住所、居所、營業所若ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ當事者ノ合意ニ依リテ定リタル地方裁判所若ハ區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

調停ノ申立ヲ受ケタル裁判所調停ヲ爲スニ付相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ地方裁判所又ハ區裁判所ニ移送スルコト

ヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二條 商事調停ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外借地借家調停法ヲ準用ス

第三條 裁判所調停ヲ爲スニ付必要アリト認ムルトキハ計算人ヲ選定シ之ヲシテ計算ヲ爲サシムルコトヲ得

調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ前項ニ規定スル裁判所ノ權限ハ調停委員會ニ屬ス

計算人ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス其ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 調停委員會ハ當事者ノ合意アル場合ニ於テハ第一條ノ爭議ニ付民事訴訟法ニ依ル仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當事者ノ指定シタル調停委員會ノ屬スル裁判所ハ申立ニ因リ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第五條 借地借家調停法第十八條及第二十九條乃至第三十一條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル仲裁ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

當事者ノ一方ニシテ本法施行地區内ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル者ニ對シ調停ノ申立ヲ爲シ得ヘキ事件ニ付テハ其ノ相手方ノ住所、居所、營業所及事務所カ本法施行地區外ニ在ル場合ト雖之ニ對シ其ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

●商事調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件

大正十五年十月十八日 勅令第三百二十二號

朕商事調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、司法大臣副署)

左ノ地區ニハ大正十五年十一月一日ヨリ商事調停法ヲ施行ス

東京府

京都府

大阪府

神奈川縣

兵庫縣

愛知縣

●商事調停ノ手數料等ニ關スル件

大正十五年十月十八日 勅令第三百二十三號

朕商事調停ノ手數料等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、司法大臣副署)

第一條 商事調停法ニ依ル調停ノ申立及仲裁判斷ノ申立ノ手數料ハ左ノ區別ニ從フ

調停又ハ仲裁判斷ヲ求ムル事項ノ價額五圓迄	二十錢
同 十圓迄	三十錢
同 二十圓迄	六十錢
同 五十圓迄	一圓五十錢
同 七十五圓迄	二圓
同 百圓迄	三圓
同 二百五十圓迄	六圓
同 五百圓迄	十圓
同 七百五十圓迄	十三圓
同 千圓迄	十六圓
同 二千五百圓迄	二十三圓
同 五千圓迄	二十八圓
同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ	
調停又ハ仲裁判斷ヲ求ムル事項ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキ	十圓

第二條 大正十一年勅令第三百三十九號第二條乃至第四條ノ規定ハ記錄ノ閲覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ求ムル手數料竝調停委員、調停ノ補助ヲ爲シタル者及計算人ノ旅費、日當及止宿料ニ付之ヲ準用ス

計算人ニハ計算ニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

附則

本令ハ大正十五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年十月十九日 司法省令第十三號

商事調停法ノ規定ニ依ル手數料ハ收入印紙ヲ以テ納付セシムルコトヲ得

附則

本令ハ大正十五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●小商人ノ範圍及登記公告竝確定日附簿雛形

明治四十五年三月十九日 朝鮮總督府令第三十一號

商行爲ヲ爲スヲ業トスルモ資本金額五百圓ニ滿タサル者ハ之ヲ小商人トス

人事訴訟手續法第三章ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判ノ要旨ヲ朝鮮總督府官報及法人ノ登記ノ公告ニ付選定シタル新聞紙上ニ一回以上掲載シテ之ヲ爲スヘシ但シ上級裁判所ノ公告ハ其ノ所在地ノ地方法院カ選定シタル新聞紙上ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ新聞紙ナキトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ裁判所ノ掲示場ニ掲示シテ之ヲ爲スヘシ

登記所ニ備フヘキ確定日附簿ハ附錄第一號雛形、日附アル印章ハ附錄第二號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

登記所ニ備フヘキ確定日附簿ハ地方法院ニ於テ調製シ登記所ノ請求ニ因リテ之ヲ交付スヘシ

附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附錄第一號

確定日附簿

何地方法院(何支廳)

紙數表紙ヲ除キ　　枚

何地方法院長

第壹號		日附アル印章及割印	第參號		日附アル印章及割印	第五號		日附アル印章及割印	第七號		日附アル印章及割印
署名者ノ氏名	件名		署名者ノ氏名	件名		署名者ノ氏名	件名		署名者ノ氏名	件名	

第貳號		日附アル印章及割印	第四號		日附アル印章及割印	第六號		日附アル印章及割印	第八號		日附アル印章及割印
署名者ノ氏名	件名		署名者ノ氏名	件名		署名者ノ氏名	件名		署名者ノ氏名	件名	

丁

附錄第二號

日附アル印章樣形

外圓徑　一寸
內圓徑　六分

日附アル印章及割印

日附アル印章及割印

●拒絕證書作成ニ關スル手數料規則 (昭和二年七月七日臺灣總督府令第四十六號)

拒絕證書作成ニ關スル手數料規則左ノ通相定ム

商法ノ規定ニ依リ拒絕證書ノ作成ヲ地方法院又ハ地方法院支部ニ請求スル者ハ手數料七十五錢ヲ納ムヘシ

若一里以上ノ地ニ至リ職務ヲ行フ場合ニ於テハ手數料ノ外昭和二年府令第四十四號公證人手數料規程第二十九條ニ定メタル日當及旅費ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ昭和二年七月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年府令第三十八號ハ之ヲ廢止ス

第三款　民事訴訟法

●民事訴訟法 (明治二十三年四月二十一日法律第二十九號)

改正　明治三一年第一一號、四四年第七二號、大正一一年第五四號

朕民事訴訟法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス (各大臣副署)

民事訴訟法目錄

第一編　總則
第一章　裁判所
第一節　裁判所ノ事物ノ管轄
第二節　裁判所ノ土地ノ管轄
第三節　管轄裁判所ノ指定
第四節　裁判所ノ管轄ニ付テノ合意
第五節　裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避
第六節　檢事ノ立會
第二章　當事者
第一節　訴訟能力
第二節　共同訴訟人
第三節　第三者ノ訴訟參加
第四節　訴訟代理人及ヒ輔佐人
第五節　訴訟費用
第六節　保證
第七節　訴訟上ノ救助
第三章　訴訟手續
第一節　口頭辯論及ヒ準備書面
第二節　送達
第三節　期日及ヒ期間
第四節　懈怠ノ結果及ヒ原狀回復
第五節　訴訟手續ノ中斷及ヒ中止
第二編　第一審ノ訴訟手續
第一章　地方裁判所ノ訴訟手續
第一節　判決前ノ訴訟手續
第二節　判決
第三節　闕席判決
第四節　計算事件、財產分別及ヒ此ニ類スル訴訟ノ準備手續
第五節　證據調ノ總則
第六節　人證
第七節　鑑定
第八節　書證
第九節　檢證
第十節　當事者本人ノ訊問

第十一節　證據保全
第二章　區裁判所ノ訴訟手續
第一節　通常ノ訴訟手續
第二節　督促手續
第三編　上訴
第一章　控訴
第二章　上告
第三章　抗告
第四編　再審
第五編　證書訴訟及ヒ爲替訴訟
第六編　强制執行
第一章　總則
第二章　金錢ノ債權ニ付テノ强制執行
第一節　動產ニ對スル强制執行
第一款　通則
第二款　有體動產ニ對スル强制執行
第三款　債權及ヒ他ノ財產權ニ對スル强制執行
第四款　配當手續
第二節　不動產ニ對スル强制執行
第一款　通則
第二款　强制競賣
第三款　强制管理
第三節　船舶ニ對スル强制執行
第三章　金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ强制執行
第四章　假差押及ヒ假處分
第七編　公示催告手續
第八編　仲裁手續

民事訴訟法

第一編　總則

第一章　裁判所

第一節　裁判所ノ事物ノ管轄

第一條　裁判所ノ事物ノ管轄ハ裁判所構成法ノ規定ニ從フ

第二條　訴訟物ノ價額ニ依リ管轄ノ定マルトキハ以下數條ノ規定ニ從フ

第三條　訴訟物ノ價額ハ起訴ノ日時ニ於タル價額ニ依リ之ヲ算定ス

果實、損害賠償及ヒ訴訟費用ハ法律上相牽連スル主タル請求ニ附帶シ一ノ訴ヲ以テ請求スルトキハ之ヲ算入セス

第四條　一ノ訴ヲ以テ數箇ノ請求ヲ爲ストキハ前條第二項ニ揭クルモノヲ除ク外其額ヲ合算ス

本訴ト反訴トノ訴訟物ノ價額ハ之ヲ合算セス

第五條　訴訟物ノ價額ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

第一　債權ノ擔保又ハ債權ノ擔保ヲ爲ス從タル物權カ訴訟物ナルトキハ其債權ノ額ニ依ル但物權ノ目的物ノ價額寡キトキハ其額ニ依ル

第二　地役カ訴訟物ナルトキハ要役地ノ地役ニ依リ得ル所ノ價額ニ依ル但地役ノ爲メ承役地ノ價額ノ減シタル額カ要役地ノ地役ニ依リ得ル所ノ價額ヨリ多キトキハ其減額ニ依ル

第三　賃貸借又ハ永貸借ノ契約ノ有無又ハ其時期カ訴訟物ナルトキハ爭アル時期ニ當ル借賃ノ額ニ依ル但一个年借賃ノ二十倍ノ額カ右ノ額ヨリ寡キトキハ其二十倍ノ額ニ依ル

第四　定時ノ供給又ハ收益ニ付テノ權利カ訴訟物ナルトキハ一个年收入ノ二十倍ノ額ニ依ル但收入權ノ期限定マリタルモノニ付テハ其將來ノ收入ノ總額カ二十倍ノ額ヨリ寡キトキハ其額ニ依ル

第六條　訴訟物ノ價額ハ必要ナル場合ニ於テハ第三條乃至第五條ノ規定ニ從ヒ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

裁判所ハ申立ニ因リ證據調ヲ命シ又ハ職權ヲ以テ檢證若クハ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第七條　地方裁判所ノ判決ニ對シテハ其事件カ區裁判所ノ事物ノ管轄ニ屬ス可キ理由ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第八條　事物ノ管轄ニ付キ區裁判所又ハ地方裁判所カ管轄違ナリト宣言シ其裁判確定シタルトキハ此裁判ハ後ニ其事件ノ繫屬ス可キ裁判所ヲ羈束ス

第九條　地方裁判所カ事物ノ管轄違ナリトシテ訴ヲ却下スルトキハ原告ノ申立ニ因リ同時ニ判決ヲ以テ原告ノ指定シタル自己ノ管轄內ノ區裁判所ニ其訴訟ヲ移送ス可シ

區裁判所カ事物ノ管轄違ナリトシテ訴ヲ却下スルトキハ同時ニ判決ヲ以テ其訴訟ヲ所屬ノ地方裁判所ニ移送ス可シ

移送ノ申立ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結前ニ之ヲ爲ス可シ

移送言渡ノ判決確定シタルトキハ其訴訟ハ移送ヲ受ケタル裁判所ニ繫屬スルモノト看做ス

第二節　裁判所ノ土地ノ管轄(裁判籍)

第十條　人ノ普通裁判籍ハ其住所ニ依リテ定マル

普通裁判籍アル地ノ裁判所ハ其人ニ對スル總テノ訴ニ付キ管轄ヲ有ス但訴ニ付キ專屬裁判籍ヲ定メサル場合ニ限ル

第十一條　軍人、軍屬ハ裁判籍ニ付テハ兵營地若クハ軍艦定繫所ヲ以テ住所トス但此規定ハ豫備、後備ノ軍籍ニ在ル者及ヒ兵役義務履行ノ爲メノミニ服役スル軍人、軍屬ニ之ヲ適用セス

第十二條　外國ニ在ル本邦ノ公使及ヒ公使館ノ官吏竝ニ其家族、從者ノ裁判籍ハ本邦ニ於テ本人ノ最後ニ有セシ住所ナリトス此住所ナキモノニ付テハ司法大臣ノ命令ヲ以テ豫メ定ムル東京內ノ區ヲ以テ其住所ナリトス

第十三條　內國ニ住所ヲ有セサル者ノ普通裁判籍ハ本人ノ現在地ニ依リテ定マル若シ其現在地ノ知レサルカ又ハ外國ニ在ルトキハ其最後ニ有セシ內國ノ住所ニ依リテ定マル

然レトモ外國ニ住所ヲ有スル者ニ對シテハ內國ニ於テ生シタル權利關係ニ限リ前項ノ裁判籍ニ於テ訴ヲ起スコトヲ得

第十四條　國ノ普通裁判籍ハ訴訟ニ付キ國ヲ代表スル官廳ノ所在地ニ依リテ定マル但訴訟ニ付キ國ヲ代表スルニ付テノ規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公又ハ私ノ法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘラルルコトヲ得ル會社其他ノ社團又ハ財團等ノ普通裁判籍ハ其所在地ニ依リテ定マル此所在地ハ別段ノ定ナキトキハ事務所所在ノ地トス若シ事務所ナキトキ又ハ數所ニ於テ事務ヲ取扱フトキハ其首長又ハ事務擔當者ノ住所ヲ以テ事務所ト看做ス

第十五條　生徒、雇人、營業使用人、職工、習業者其他性質上一定ノ地ニ永ク寓在ス可キ者ニ對スル財產權上ノ請求ニ付テノ訴ハ其現在地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

兵役義務履行ノ爲メノミニ服役スル軍人、軍屬ニ對シテハ其兵營地若クハ軍艦定繫所ノ裁判所ニ前項ノ訴ヲ起スコトヲ得

第十六條　製造、商業其他ノ營業ニ付キ直接ニ取引ヲ爲ス店舖ヲ有スル者ニ對シテハ其店舖所在地ノ裁判所ニ營業上ニ關スル訴ヲ起スコトヲ得

前項ノ裁判籍ハ住家及ヒ農業用建物アル地所ヲ利用スル所有者、用益者又ハ賃借人ニ對スル訴ニ付テモ亦之ヲ適用ス但此訴カ地所ノ利用ニ付テノ權利關係ヲ有スルトキニ限ル

第十七條　內國ニ住所ヲ有セサル債務者ニ對スル財產權上ノ請求ニ付テノ訴ハ其財產又ハ訴ヲ爲シテ請求スル物ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得債權ニ付テハ債務者(第三債務者)ノ住所ヲ以テ其財產ノ所在地トス又債權ニ付キ物カ擔保ノ責ヲ負フトキハ其物ノ所在地ヲ以テ財產ノ所在地トス

第十八條　契約ノ成立若クハ不成立ノ確定又ハ其履行若クハ銷除、廢罷、解除又ハ其不履行若クハ不十分ノ履行ニ關スル賠償ノ訴ハ其訴訟ニ係ル義務ヲ履行ス可キ地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

第十九條　會社其他ノ社團ヨリ社員ニ對シ又ハ社員ヨリ社員ニ對シ其社員タル資格ニ基ク請求ノ訴ハ其會社其他ノ社團ノ普通裁判籍アル地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

第二十條　不正ノ損害ノ訴ハ責任者ニ對シ其行爲ノ有リタル地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

第二十一條　辯護士又ハ執達吏ノ手數料及ヒ立替金ニ付キ其委任者ニ對スル訴ハ訴訟物ノ價額ノ多寡ニ拘ハラス本訴訟ノ第一審裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

第二十二條　不動產ニ付テハ其所在地ノ裁判

所ハ總テ不動産上ノ訴訟ニ本權竝ニ占有ノ訴及ヒ分割竝ニ經界ノ訴ヲ專ラニ管轄ス
地役ニ付テノ訴ハ承役地所在地ノ裁判所專ラニ之ヲ管轄ス

第二十三條　不動産上ノ裁判籍ニ於テハ債權ノ擔保ヲ爲ス從タル物權ニ基ク不動産上ノ訴ニ附帶シテ同一被告ニ對スル債權ノ訴ヲ起スコトヲ得
不動産上ノ裁判籍ニ於テハ不動産ノ所有者若クハ占有者ニ對スル人權ノ訴又ハ不動産ニ加ヘタル損害ノ訴ヲ起スコトヲ得

第二十四條　相續權、遺贈其他死亡ニ因リテ效果ヲ生スル處分ニ基ク請求ノ訴ハ遺産者死亡ノ時普通裁判籍ヲ有セシ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得
相續裁判籍ニ於テハ遺産債權者ヨリ遺産者又ハ相續人ニ對スル請求ノ訴ヲ起スコトヲ得但遺産ノ全部又ハ一分カ其裁判所ノ管轄區內ニ存在スルトキニ限ル

第二十五條　第二十二條ノ規定ヲ除ク外原告ハ數箇ノ管轄裁判所ノ中ニ就キ選擇ヲ爲スコトヲ得

第三節　管轄裁判所ノ指定

第二十六條　管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法ニ定メタル場合ノ外尙ホ不動産上ノ裁判籍ニ訴ヲ起ス可キ場合ニ於テ不動産カ數箇ノ裁判所ノ管轄區內ニ散在スルトキモ亦之ヲ爲ス

第二十七條　管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲ス場合及ヒ其決定ヲ爲ス裁判所ハ裁判所構成法第十條ノ規定ニ從フ

第二十八條　管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ其申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得
右裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ其申請ヲ決定ス
管轄裁判所ヲ定メタル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四節　裁判所ノ管轄ニ付テノ合意

第二十九條　第一審裁判所ハ當然管轄權ヲ有セサルモ當事者ノ合意ニ因リ管轄權ヲ有ス
但書面ヲ以テ合意ヲ爲シ且其合意カ一定ノ權利關係及ヒ其權利關係ヨリ生スル訴訟ニ係ルトキニ限ル

第三十條　被告カ管轄違ノ申立ヲ爲サスシテ本案ノ口頭辯論ヲ爲ストキハ亦前條ト同一ノ效力ヲ生ス

第三十一條　左ノ場合ニ於テハ第二十九條及ヒ第三十條ノ規定ヲ適用セス
第一　財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ係ルトキ
第二　專屬管轄ニ屬スル訴ナルトキ

第五節　裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避

第三十二條　判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セラル可シ
第一　判事又ハ其婦カ原告若クハ被告タルトキ又ハ訴訟ニ係ル請求ニ付キ當事者ノ一方若クハ雙方ト共同權利者、共同義務者若クハ償還義務者タル關係ヲ有スルトキ
第二　判事又ハ其婦カ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ
第三　判事カ同一ノ事件ニ付キ證人若クハ鑑定人トシテ訊問ヲ受ケタルトキ又ハ訴訟代理人タル任ヲ受クルトキ若クハ受ケタルトキ又ハ法律上代理人ト爲ル權利ヲ有スルトキ若クハ之ヲ有シタルトキ
第四　判事カ不服ノ申立アル裁判ヲ前審又ハ仲裁ニ於テ爲スニ當リ判事又ハ仲裁人トシテ干與シタルトキ但此場合ニ於テ判事ハ受命判事又ハ受託判事トシテハ職務ノ執行ヨリ除斥セラルルコト無シ

第三十三條　判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルルトキ及ヒ偏頗ノ恐アルトキハ總テノ場合ニ於テ各當事者ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得
偏頗ノ忌避ハ判事ノ不公平ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ事情アルトキ之ヲ爲スコトヲ得

第三十四條　判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルル場合ニ於ケル判事ノ忌避ハ其訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス之ヲ爲スコトヲ得
偏頗ノ恐アル場合ニ於テハ原告若クハ被告其覺知シタル忌避ノ原因ヲ主張セスシテ判事ノ面前ニ於テ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタル後ハ其判事ヲ忌避スルコトヲ得ス

第三十五條　忌避ノ申請ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
忌避ノ原因ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス忌避セラレタル判事ノ職務上ノ陳述ハ其疏明ノ用ニ充ツルコトヲ得
原告若クハ被告カ判事ノ面前ニ於テ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタル後其判事ニ對シ偏頗ノ忌避ヲ爲ストキハ忌避ノ原因其後ニ生シ又ハ之ヲ其後ニ覺知シタルコトヲ疏明ス可シ

第三十六條　忌避セラレタル判事合議裁判所ニ屬スルトキハ其裁判所忌避ノ申請ヲ裁判ス但忌避セラレタル判事ハ其裁判ニ參與スルコトヲ得ス
若シ其裁判所右判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直近上級ノ裁判所其申請ヲ裁判ス
區裁判所判事忌避セラレタルトキハ上級ノ地方裁判所其申請ヲ裁判ス若シ區裁判所判事カ忌避ノ申請ヲ正當ナリト爲ストキハ裁判ヲ要セス

第三十七條　忌避ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得忌避セラレタル判事ハ先ツ申請ノ理由ニ付キ職務上意見ヲ述フ可シ

第三十八條　忌避ノ申請ヲ正當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス其申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條　忌避セラレタル判事ハ忌避申請ノ完結スルマテ總テノ行爲ヲ避ク可シ然レトモ偏頗ノ爲ニ忌避セラレタル判事ハ猶豫ス可カラサル行爲ヲ爲ス可シ

第四十條　忌避申請ノ管轄裁判所ハ其申請アラサルモ忌避ノ原因タル事情ニ付キ判事ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ判事カ法律ニ依リ除斥セラルル疑アルトキモ亦裁判ヲ爲ス
此裁判ハ豫メ當事者ヲ審訊セスシテ之ヲ爲ス又其裁判ハ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要セス

第四十一條　本節ノ規定ハ裁判所書記ニモ之ヲ準用ス但其裁判ハ書記所屬ノ裁判所之ヲ爲ス

第六節　檢事ノ立會

第四十二條　檢事ハ左ノ訴訟ニ付キ意見ヲ述フル爲メ其口頭辯論ニ立會フ可シ
第一　公ノ法人ニ關スル訴訟
第二　婚姻ニ關スル訴訟
第三　夫婦間ノ財産ニ關スル訴訟
第四　親子若クハ養親子ノ分限其他總テ人ノ分限ニ關スル訴訟
第五　無能力者ニ關スル訴訟
第六　養料ニ關スル訴訟
第七　失踪者及ヒ相續人曠缺ノ遺産ニ關スル訴訟
第八　證書ノ僞造若クハ變造ノ訴訟
第九　再審
檢事ノ陳述ハ當事者ノ辯論終リタルトキ之ヲ爲ス
當事者ハ檢事ノ意見ニ對シ事實ノ更正ノミニ付キ陳述ヲ爲スコトヲ得

第二章　當事者

第一節　訴訟能力

第四十三條　原告若クハ被告カ自ラ訴訟ヲ爲シ又ハ訴訟代理人ヲシテ之ヲ爲サシムル能力ト法律上代理人ニ依レル訴訟無能力者ノ代表ト法律上代理人カ訴訟ヲ爲シ又ハ一ノ訴訟行爲ヲ爲スニ付テノ特別授權ノ必要トハ民法ノ規定ニ從フ

第四十四條　外國人ハ自國ノ法律ニ從ヒ訴訟能力ヲ有セサルモ本邦ノ法律ニ從ヒ訴訟能力ヲ有スルモノナルトキハ之ヲ有スルモノト看做ス

第四十五條　裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス職權ヲ以テ訴訟能力、法律上代理人タル資格及ヒ訴訟ヲ爲スニ必要ナル授

權ニ欠缺ナキヤ否ヤヲ調査ス可シ
裁判所ハ遲滯ノ爲メ原告若クハ被告ニ危害アリ且其欠缺ノ補正ヲ爲シ得ルモノト認ムルトキハ原告若クハ被告又ハ其法律上代理人ニ其欠缺ノ補正ヲ爲ス條件ヲ以テ一時訴訟ヲ爲スヲ許スコトヲ得此場合ニ於テ裁判所ハ欠缺補正ノ爲メ相當ノ期間ヲ定メ其期間ノ滿了前ニ判決ヲ爲スコトヲ得ス但其欠缺ノ補正ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結マテ之ヲ追完スルコトヲ得

第四十六條　訴訟無能力者又ハ相續人ノ未定ノ遺産又ハ不分明ナル相續人ニ對シ訴ヲ起ス可キ場合ニ於テ法律上代理人アラサルトキハ其事件ノ繫屬ス可キ裁判所ノ裁判長ハ申立ニ因リ遲滯ノ爲ニ危害ノ恐アル場合ニ限リ特別代理人ヲ任ス可シ
右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ其裁判ハ申請人ニ之ヲ送達シ又申請ヲ認許シタルトキハ其任セラレタル特別代理人ニモ亦之ヲ送達ス可シ
申請ヲ却下スル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得
裁判長ヨリ任セラレタル特別代理人ハ法律上代理人又ハ相續人ノ出頭スルマテ訴訟行爲ニ付キ法律上代理人ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

第四十七條　第十五條ニ揭ケタル場合ニ於テ訴訟無能力者カ其現在地又ハ兵營地若クハ軍艦定繫所ノ裁判所ニ訴ヲ受ク可キ場合ニ於テ其法律上代理人他ノ地ニ住スルトキハ遲滯ノ爲メ危害ナシト雖モ前條ノ規定ニ從ヒ特別代理人ヲ任スルコトヲ得
此他裁判ニ對シ抗告ヲ許ス規定ヲ除ク外總テ前條ノ規定ヲ適用ス

第二節　共同訴訟人

第四十八條　左ノ場合ニ於テハ共同訴訟人トシテ數人カ共ニ訴ヲ爲シ又ハ訴ヲ受クルコトヲ得
第一　數人カ訴訟物ニ付キ權利共通若クハ義務共通ノ地位ニ立ツトキ
第二　同一ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキ
第三　性質ニ於テ同種類ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク同種類ナル請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキ

第四十九條　共同訴訟人ハ其資格ニ於テハ各別ニ相手方ニ對立シ其一人ノ訴訟行爲及ヒ懈怠又ハ相手方ヨリ其一人ニ對スル訴訟行爲及ヒ懈怠ハ他ノ共同訴訟人ニ利害ヲ及ホサス

第五十條　然レトモ總テノ共同訴訟人ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定ス可キトキニ限リ左ノ規定ヲ適用ス
共同訴訟人中ノ或ル人ノ攻擊及ヒ防禦ノ方法（證據方法ヲ包含ス）ハ他ノ共同訴訟人ノ利益ニ於テ效ヲ生ス
共同訴訟人中ノ或ル人カ爭ヒ又ハ認諾セサルトキト雖モ總テノ共同訴訟人カ悉ク爭ヒ又ハ認諾セサルモノト看做ス
共同訴訟人中ノ或ル人ノミカ期日又ハ期間ヲ懈怠シタルトキハ其懈怠シタル者ハ懈怠セサル者ニ代理ヲ任シタルモノト看做ス
然レトモ懈怠シタル共同訴訟人ニハ其懈怠セサリシ場合ニ於テ爲ス可キ總テノ送達及ヒ呼出ヲ爲スコトヲ要ス其懈怠シタル共同訴訟人ハ何時タリトモ其後ノ訴訟手續ニ再ヒ加ハルコトヲ得

第三節　第三者ノ訴訟參加

第五十一條　他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟ノ目的物ノ全部又ハ一分ヲ自己ノ爲ニ請求スル第三者ハ本訴訟ノ權利拘束ノ終ニ至ルマテ其訴訟カ第一審ニ於テ繫屬シタル裁判所ニ當事者雙方ニ對スル訴（主參加）ヲ爲シテ其請求ヲ主張スルコトヲ得
第三者カ原告及ヒ被告ノ共謀ニ因リ自己ノ債權ニ損害ヲ生スルコトヲ主張スルトキモ亦同シ

第五十二條　本訴訟ハ第一審ニ繫屬スルト上級審ニ繫屬スルトヲ問ハス原告、被告若クハ主參加人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ主參加ニ付テノ權利拘束ノ終ニ至ルマテ之ヲ中止スルコトヲ得
中止ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ本訴訟ノ繫屬スル裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得
決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
中止ヲ命スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十三條　他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟ニ於テ其一方ノ勝訴ニ依リ權利上利害ノ關係ヲ有スル者ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス權利拘束ノ繼續スル間ハ其一方ヲ補助（從參加）スル爲メ之ニ附隨スルコトヲ得

第五十四條　從參加人ハ其附隨スル時ニ於ケル訴訟ノ程度ヲ妨ケサル限リハ其主タル原告若クハ被告ノ爲ニ攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ施用シ且總テノ訴訟行爲ヲ有效ニ行ヒ殊ニ主タル原告若クハ被告ノ爲ニ存スル期間內ニ故障、支拂命令ニ對スル異議又ハ上訴ヲ爲ス權利ヲ有ス
從參加人ノ陳述及ヒ行爲ト主タル原告若クハ被告ノ陳述及ヒ行爲ト相牴觸スル場合ニ於テハ主タル原告若クハ被告ノ陳述及ヒ行爲ヲ以テ標準ト爲ス但民法ニ於テ此ニ異ナル規定アルトキハ此限ニ在ラス

第五十五條　從參加人ハ訴訟ヨリ脫退シタルトキト雖モ其補助シタル原告若クハ被告トノ關係ニ於テハ其訴訟ノ確定裁判ヲ不當ナリト主張スルコトヲ得ス
從參加人ハ其附隨ノ時ノ訴訟ノ程度ニ因リ又ハ主タル原告若クハ被告ノ所爲ニ因リ攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ施用スルコトヲ妨ケラルルトキ又ハ主タル原告若クハ被告カ從參加人ノ當時知ラサリシ攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ故意又ハ重過失ニ因リ施用セサリシトキニ限リ其補助シタル原告若クハ被告カ訴訟ヲ不十分ニ爲シタリト主張スルコトヲ得

第五十六條　從參加ハ本訴訟ノ繫屬スル裁判所ニ申請ヲ以テ之ヲ爲ス可シ
申請ニハ當事者及ヒ訴訟ヲ表示シ又一定ノ利害關係及ヒ附隨セントスル陳述ヲ開示ス可シ
申請ハ當事者ニ之ヲ送達ス可シ
從參加ハ故障、異議又ハ上訴ト併合シテ之ヲ爲スコトヲ得

第五十七條　原告若クハ被告カ從參加ニ付キ異議ヲ述フルトキハ當事者及ヒ從參加人ヲ審訊シタル後決定ヲ以テ參加ノ許否ヲ裁判ス其裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
利害關係ノ存否ニ付キ爭アルトキハ從參加人其關係ヲ疏明スルノミヲ以テ參加ヲ許スニ足ル
右ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
參加ヲ許ササル裁判確定セサル間ハ從參加人ヲ本訴訟ニ立會ハシメ殊ニ總テノ期日ニ之ヲ呼出シ又本訴訟ニ關係アル裁判ヲ爲シタルトキハ從參加人ニ其裁判ヲ送達ス可シ

第五十八條　從參加人ハ當事者雙方ノ承諾ヲ得テ其附隨シタル原告若クハ被告ニ代リ訴訟ヲ擔任スルコトヲ得此場合ニ於テハ其原告若クハ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ訴訟ヨリ其原告若クハ被告ヲ脫退セシム可シ

第五十九條　原告若クハ被告若シ敗訴スルトキハ第三者ニ對シ擔保又ハ賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘシト信シ又ハ第三者ヨリ請求ヲ受ク可キコトヲ恐ルル場合ニ於テハ訴訟ノ權利拘束間第三者ニ訴訟ヲ告知スルコトヲ得
訴訟ノ告知ヲ受ケタル者ハ更ニ訴訟ヲ告知スルコトヲ得

第六十條　訴訟告知ハ訴訟ノ繫屬スル裁判所ニ其訴訟告知ノ理由及ヒ訴訟ノ程度ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ之ヲ爲ス可シ
此書面ハ第三者ニ送達スルコトヲ要ス又訴訟ヲ告知スル原告若クハ被告ノ相手方ニハ其謄本ヲ送付ス可シ

第六十一條　訴訟ハ訴訟告知ニ拘ハラス之ヲ續行ス
第三者參加ス可キコトヲ陳述スルトキハ從參加ノ規定ヲ適用ス

第六十二條　第三者ノ名ヲ以テ物ヲ占有スルコトヲ主張スル者其物ノ占有者トシテ被告ト爲リタルトキハ本案ノ辯論前第三者ヲ指名シ之ニ陳述ヲ爲サシムル爲メ其呼出ヲ求

ムルトキハ第三者ノ陳述ヲ爲シ又ハ之ヲ爲ス可キ期日マテ本案ノ辯論ヲ拒ムコトヲ得

第三者カ被告ノ主張ヲ爭フトキ又ハ陳述ヲ爲サヽルトキハ被告ハ原告ノ申立ニ應スルコトヲ得

第三者カ被告ノ主張ヲ正當ト認ムルトキハ被告ノ承諾ヲ得テ之ニ代リ訴訟ヲ引受クルコトヲ得

第三者カ訴訟ヲ引受ケタルトキハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ其被告ヲ訴訟ヨリ脱退セシム可シ其物ニ付テノ裁判ハ被告ニ對シテモ效力ヲ有シ且之ヲ執行スルコトヲ得

第四節　訴訟代理人及ヒ輔佐人

第六十三條　原告若クハ被告自ラ訴訟ヲ爲サヽルトキハ辯護士ヲ以テ訴訟代理人トシ之ヲ爲ス

辯護士ノ在ラサル場合ニ於テハ訴訟能力者タル親族若クハ雇人ヲ以テ訴訟代理人ト爲シ若シ此等ノ者ノ在ラサルトキハ他ノ訴訟能力者ヲ以テ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

區裁判所ニ於テハ辯護士ノ在ルトキト雖モ訴訟能力者タル親族若クハ雇人ヲ以テ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

第六十四條　訴訟委任ハ裁判所ノ記錄ニ備フ可キ書面委任ヲ以テ之ヲ證ス可シ

私署證書ハ相手方ノ求ニ因リ之ヲ認證ス可シ其認證ハ公證人之ヲ爲シ又相當官吏之ヲ爲スコトヲ得

口頭辯論ノ期日又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ口頭委任ヲ爲シ其陳述ヲ調書ニ記載セシムルトキハ書面委任ト同一ナリトス

第六十五條　訴訟委任ハ反訴、主參加、故障、假差押若クハ假處分又ハ强制執行ニ因リ生スル訴訟行爲ヲ併セ訴訟ニ關スル總テノ訴訟行爲ヲ爲シ及ヒ相手方ヨリ辨濟スル費用ノ領收ヲ爲ス權ヲ授與ス

訴訟代理人ハ特別ノ委任ヲ受クルニ非サレハ控訴若クハ上告ヲ爲シ、再審ヲ求メ、代人ヲ任シ、和解ヲ爲シ、訴訟物ヲ抛棄シ又ハ相手方ヨリ主張シタル請求ヲ認諾スル權ヲ有セス

第六十六條　訴訟委任ハ法律上ノ範圍（第六十五條第一項）ヲ制限スルモ其制限ハ相手方ニ對シ效力ナシ

然レトモ辯護士ニ依レル代理ヲ除ク外ハ各箇ノ訴訟行爲ニ付キ委任ヲ爲スコトヲ得

第六十七條　訴訟代理人數人アルトキハ共同若クハ各別ニテ代理スルコトヲ得但委任ニ此ト異ナル定アルモ相手方ニ對シ其效力ナシ

第六十八條　訴訟代理人カ委任ノ範圍內ニ於テ爲シタル訴訟上ノ行爲及ヒ不行爲ハ原告若クハ被告ニ對シテハ其本人ノ行爲又ハ不行爲ト同一ナリトス

然レトモ代理人ノ事實上ノ陳述ハ其代理人ト共ニ裁判所ニ出頭シタル原告若クハ被告ヨリ卽時ニ之ヲ取消シ又ハ更正シタルトキニ限リ其效力ヲ失フ

第六十九條　委任者ノ死亡、訴訟能力若クハ法律上代理ノ變更、委任ノ廢罷及ヒ代理ノ謝絕ニ因ル委任ノ消滅ハ其消滅ヲ通知スルマテ相手方ニ對シ其效力ナシ

此通知書ハ原告若クハ被告ヨリ受訴裁判所ニ之ヲ差出シ裁判所ハ相手方ニ之ヲ送達ス可シ

代理人ハ謝絕ヲ爲スモ委任者他ノ方法ヲ以テ自己ノ權利ノ防衞ヲ爲サヽル間ハ其委任者ノ爲ニ行爲ヲ爲スコトヲ得

第七十條　委任ノ欠缺ハ原告若クハ被告ノ爲メ其代理人ナキモノト看做ス

裁判所ハ職權ヲ以テ委任ノ欠缺ヲ調査シ委任ナク又ハ適式ノ委任ナク代理人トシテ出頭スル者ニ事情ニ從ヒ費用及ヒ損害ノ保證ヲ立テシメ又ハ之ヲ立テシメスシテ假ニ訴訟ヲ爲スヲ許スコトヲ得

判決ハ欠缺ヲ補正シ又ハ之ヲ補正スル爲メ裁判所ノ適宜ニ定ムル期間ノ滿了後ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得但欠缺ノ補正ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結マテ之ヲ追完スルコトヲ得

第七十一條　原告若クハ被告ハ辯護士ヲ輔佐人ト爲シ又ハ何時ニテモ裁判所ノ取消シ得ヘキ許可ヲ得テ他ノ訴訟能力者ヲ輔佐人ト爲シテ共ニ出頭スルコトヲ得其輔佐人ハ口頭辯論ニ於テ權利ヲ伸張シ又ハ防禦スル爲メ原告若クハ被告ヲ補助スルモノトス

輔佐人ノ演述ハ原告若クハ被告卽時ニ之ヲ取消シ又ハ更正セサルトキニ限リ原告若クハ被告自ラ演述シタルモノト看做ス

第五節　訴訟費用

第七十二條　敗訴ノ原告若クハ被告ハ訴訟ノ費用ヲ負擔シ殊ニ訴訟ニ因リ生シタル費用ヲ相手方ニ辨濟ス可シ但其費用ハ裁判所ノ意見ニ於テ相當ナル權利伸張又ハ權利防禦ニ必要ナリト認ムルモノニ限ル

訴訟中ニ訴ヲ取下ケ、請求ヲ抛棄シ又ハ相手方ノ請求ヲ認諾スル原告若クハ被告ハ敗訴ノ原告若クハ被告ニ同シ

第七十三條　當事者ノ各方一分ハ勝訴ト爲リ一分ハ敗訴ト爲ルトキハ其費用ヲ相消シ又ハ割合ヲ以テ之ヲ分擔ス可シ第一ノ場合ニ於テハ各當事者ハ其支出シタル費用ヲ自ラ負擔シ他ノ一方ニ對シ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ス

然レトモ裁判所ハ相手方ノ要求格外ニ過分ナルニ非ス且別段ノ費用ヲ生セサリシトキ又ハ判事ノ意見、鑑定人ノ鑑定若クハ相互ノ計算ニ因リ要求額ヲ定ムルニ非サレハ容易ニ過分ノ要求ヲ避クルコトヲ得サリシトキハ當事者ノ一方ニ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七十四條　被告直チニ請求ヲ認諾シ且其作爲ニ因リ訴ヲ起スニ至ラシメタルニ非サルトキハ訴訟費用ハ原告ノ勝訴ト爲リタルニ拘ハラス其負擔ニ歸ス

第七十五條　期日若クハ期間ヲ懈怠シ又ハ自己ノ過失ニ因リ期日ノ變更、辯論ノ延期、辯論續行ノ爲ニスル期日ノ指定、期間ノ延長其他訴訟ノ遲滯ヲ生セシメタル原告若クハ被告ハ本案ノ勝訴者ト爲リタルニ拘ハラス此カ爲ニ生シタル費用ヲ負擔ス可シ

第七十六條　裁判所ハ無益ナル攻擊又ハ防禦ノ方法（證據方法ヲ包含ス）ヲ主張シタル原告若クハ被告ヲシテ本案ノ勝訴者ト爲リタルニ拘ハラス其方法ノ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七十七條　無益ナル上訴又ハ取下ケタル上訴ノ費用ハ之ヲ提出シタル原告若クハ被告ノ負擔ニ歸ス

第七十八條　上訴ニ因リ裁判ノ全部又ハ一分ヲ廢棄若クハ破毀スルトキハ訴訟ノ總費用（上訴ノ費用ヲ包含ス）ノ裁判ハ本案ノ終局裁判ト併合シテ更ニ之ヲ爲ス可シ

原告若クハ被告カ前審ニ於テ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實又ハ攻擊若クハ防禦ノ方法ヲ新ニ提出スルニ因リ勝訴者ト爲ルトキハ其原告若クハ被告ニ上訴費用ノ全部又ハ一分ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七十九條　當事者カ訴訟物ニ付キ和解ヲ爲ストキハ其訴訟ノ費用及ヒ和解ノ費用ハ共ニ相消シタルモノト看做ス但當事者別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第八十條　法律ノ規定ニ從ヒ費用ニ付キ共同訴訟人ノ連帶義務ノ生セサルトキニ限リ其共同訴訟人ハ相手方ニ對シ平等ニ費用ヲ負擔ス然レトモ共同訴訟人ノ訴訟ニ於ケル利害ノ關係著シク相異ナルトキハ裁判所ハ其利害關係ノ割合ニ從ヒ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

共同訴訟人中ノ或ル人カ特別ノ攻擊又ハ防禦ノ方法ヲ主張シタルトキハ他ノ共同訴訟人ハ此カ爲ニ生シタル費用ヲ負擔セス

第八十一條　從參加ニ對シ原告若クハ被告カ異議ヲ述ヘタルトキハ其異議ノ決定ニ於テ從參加人ト其原告若クハ被告トノ中間訴訟ノ費用ニ付キ第七十二條乃至第七十八條ノ規定ニ從ヒテ裁判ヲ爲ス可シ

從參加ヲ許シタルトキ又ハ異議ヲ述ヘサルトキハ本訴訟ノ判決ニ於テ從參加人ト相手方ナル原告若クハ被告トノ間ニ從參加ニ因リ生シタル費用ニ付テモ亦前數條ノ規定ニ從ヒテ裁判ヲ爲ス可シ

第八十二條　費用ノ點ニ限リタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス然レトモ本案ノ裁判ニ對シ許ス可キ上訴ヲ提出シ且追行スルトキニ限リ費用ノ點ニ付キ不服ヲ申立ツルコトヲ得

費用ノ點ニ限リタルトキト雖モ相手方ヨリ提出シタル上訴ニ附帶スル場合ニ於テハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第八十三條　裁判所書記、法律上代理人、辯護士其他ノ代理人及ヒ執達吏ノ過失又ハ懈怠ニ因リ費用ノ生シタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其費用ノ辨濟ヲ負擔セシムル決定ヲ爲スコトヲ得但其決定前關係人ニ口頭又ハ書面ニテ陳辯ヲ爲ス機會ヲ與フ可シ

此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第八十四條　辨濟ス可キ費用額ノ確定ハ申請ニ因リ訴訟ノ第一審ニ繫屬シタル裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

申請ハ第七十二條第二項又ハ上訴取下ノ場合ヲ除ク外執行シ得ヘキ裁判ニ依ルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

申請ニハ費用計算書、相手方ニ付與ス可キ計算書ノ謄本及ヒ各箇費用額ノ疏明ニ必要ナル證書ヲ添附ス可シ

第八十五條　費用額確定ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ裁判所書記ニ費用計算書ノ計算上ノ檢查ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ費用額確定ノ決定ヲ爲ス前相手方ニ計算書ヲ付與シテ裁判所ノ定ムル期間內ニ陳述ヲ爲ス可キ旨ヲ之ニ催告スルコトヲ得此決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第八十六條　當事者ハ訴訟費用ノ全部又ハ一分ヲ割合ニ從ヒ分擔ス可キトキハ裁判所ハ費用額確定ノ決定ヲ爲ス前相手方ニ裁判所ノ定ムル期間內ニ其費用ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ催告ス可シ此期間ヲ徒過シタル後ハ費用額確定ノ決定ハ相手方ノ費用ヲ顧ミスシテ之ヲ爲ス可シ但相手方ハ後ニ自己ノ費用ヲ以テ其費用額確定ノ申請ヲ爲ス妨ト爲ルコト無シ

第六節　保證

第八十七條　訴訟上ノ保證ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲ス場合又ハ此法律ニ於テ保證ヲ定ムルコトヲ裁判所ノ自由ナル意見ニ任スル場合ヲ除ク外裁判所ノ意見ニ於テ擔保ニ十分ナリトスル現金又ハ有價證券ヲ供託シテ之ヲ爲ス

第八十八條　原告又ハ原告ノ從參加人タル外國人ハ被告ニ對シ其求ニ因リ訴訟費用ニ付キ保證ヲ立ツ可シ

左ノ場合ニ於テハ保證ヲ立ツル義務ヲ生セス

第一　國際條約又ハ原告ノ屬スル國ノ法律ニ依リ本邦人カ同一ノ場合ニ於テ保證ヲ立ツル義務ナキトキ

第二　反訴ノ場合

第三　證書訴訟及ヒ爲替訴訟ノ場合

第四　公示催告ニ基キ起シタル訴ノ場合

第八十九條　裁判所ハ前條第一項ノ場合ニ於テハ保證ヲ立ツ可キ數額ヲ確定ス可シ

此數額ヲ確定スルニハ被告ノ訴ヲ受ケタルカ爲メ各審級ニ於テ支出ス可キ訴訟費用ノ額ヲ標準ト爲ス可シ

訴訟中ニ保證ノ不足ヲ生シ且追增保證ヲ立ツ可キコトヲ被告カ求ムルトキハ前項ト同一ノ手續ニ依ル可シ但爭ナキ請求ノ部分カ擔保ニ十分ナルトキハ此限ニ在ラス

第九十條　裁判所ハ保證ヲ立ツ可キ期間ヲ定ム可シ

此期間ノ經過後裁判アルマテニ保證ヲ立テサル場合ニ於テハ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ訴ヲ取下ケタリト宣言シ又原告カ上訴ヲ爲シタルトキハ其上訴ヲ取下ケタリト宣言ス可シ

第七節　訴訟上ノ救助

第九十一條　何人ヲ問ハス自己及ヒ其家族ノ必要ナル生活ヲ害スルニ非サレハ訴訟費用ヲ出タスコト能ハサル者ハ訴訟上ノ救助ヲ求ムルコトヲ得但其目的トスル權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラス又ハ見込ナキニ非スト見ユルトキニ限ル

第九十二條　外國人ハ國際條約又ハ其屬スル國ノ法律ニ依リ本邦人カ同一ノ場合ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ求ムルコトヲ得ルトキニ限リ之ヲ求ムルコトヲ得

第九十三條　訴訟上救助ノ申請ハ訴訟ノ關係ヲ表明シ且證據方法ヲ開示シテ其救助ヲ求ムル審級ノ裁判所ニ之ヲ提出ス可シ其申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

原告若クハ被告ハ申請ノ提出ト共ニ管轄市町村長ヨリ發シタル證書ヲ出タスコトヲ要ス其證書ニハ原告若クハ被告ノ身分、職業、財產竝ニ家族ノ實況及ヒ其納ム可キ直稅ノ額ヲ開示シテ訴訟費用支拂ノ無資力ヲ證ス可シ

第九十四條　訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ各別ニ之ヲ付與ス第一審ニ於テハ强制執行ニ付テモ之ヲ付與スルモノトス

前審ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ受ケタルトキハ上級審ニ於テハ無資力ヲ證スルコトヲ要セス相手方上訴ヲ提出シタルトキハ上級審ニ於テハ訴訟上ノ救助ヲ求ムル原告若クハ被告ノ權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラス又ハ見込ナキニ非スト見ユルヤヲ調査スルコトヲ要セス

第九十五條　訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル條件ノ存セサリシトキ又ハ消滅シタルトキハ何時タリトモ之ヲ取消スコトヲ得

第九十六條　訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ死亡ト共ニ消滅ス

第九十七條　訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ爲ニ左ノ效力ヲ生ス

第一　裁判費用（國庫ノ立替金ヲ包含ス）ヲ辨濟スルコトノ假免除

第二　訴訟費用ノ保證ヲ立ツルコトノ免除

第三　送達及ヒ執行行爲ヲ爲サシムル爲メ一時無報酬ニテ執達吏ノ附添ヲ求ムル權利

受訴裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ一時無報酬ニテ辯護士ノ附添ヲ命スルコトヲ得

第九十八條　訴訟上ノ救助ハ相手方ニ生シタル費用ヲ辨濟スル義務ニ影響ヲ及ホサス

第九十九條　救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ爲メ假ニ辨濟ヲ免除シタル裁判費用ハ訴訟費用ニ付キ確定裁判ヲ受ケタル相手方又ハ訴若クハ上訴ノ取下、抛棄、認諾若クハ和解ニ因リ訴訟費用ヲ負擔ス可キ相手方ヨリ之ヲ取立ツルコトヲ得

救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ニ附添ヒタル執達吏又ハ辯護士ハ同一ノ條件アルトキハ亦自己ノ權利ニ依リ費用確定ノ方法ヲ以テ其手數料及ヒ立替金ヲ取立ツルコトヲ得

第百條　救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ハ自己及ヒ其家族ノ必要ナル生活ヲ害セスシテ費用ノ辨濟ヲ爲シ得ルニ至リタルトキハ假免除ヲ得タル數額（第九十七條第一號）ヲ直チニ追拂ヒスル義務アリ

第百一條　裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後訴訟上救助ノ付與竝ニ辯護士附添ノ命令ニ付テノ申請、訴訟上救助ノ取消及ヒ數額追拂ノ義務ニ付キ決定ヲ爲ス

此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第百二條　訴訟上ノ救助ヲ付與シ又ハ其取消ヲ拒ミ若クハ費用追拂ヲ命スルコトヲ拒ム決定ニ對シテハ檢事ニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得

訴訟上ノ救助ヲ拒ミ若クハ取消シ又ハ辯護士ノ附添ヲ拒ミ又ハ費用ノ追拂ヲ命スル決定ニ對シテハ原告若クハ被告ハ抗告ヲ爲スコトヲ得

辯護士ノ附添ヲ命スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三章　訴訟手續

第一節　口頭辯論及ヒ準備書面

第百三條　判決裁判所ニ於ケル訴訟ニ付テノ當事者ノ辯論ハ口頭ナリトス但此法律ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

第百四條　口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備ス

第百五條　準備書面ニハ左ノ諸件ヲ揭ク可シ

第一　當事者及ヒ其法律上代理人ノ氏名、身分、職業、住所、裁判所、訴訟物及

ヒ附屬書類ノ表示

第二　原告若クハ被告カ法廷ニ於テ爲サント欲スル申立

第三　申立ノ原因タル事實上ノ關係

第四　相手方ノ事實上ノ主張ニ對スル陳述

第五　原告若クハ被告カ事實上主張ノ證明又ハ攻擊ノ爲メ用ヰントスル證據方法及ヒ相手方ノ申出テタル證據方法ニ對スル陳述

第六　原告若クハ被告又ハ其訴訟代理人ノ署名及ヒ捺印

第七　年月日

第百六條　準備書面ニ於テ提出ス可キ事實ハ簡明ニ之ヲ記載ス可シ

此他事實上ノ關係ノ說明竝ニ法律上ノ討論ハ書面ニ之ヲ揭クルコトヲ得ス

第百七條　準備書面ニハ訴訟ヲ爲ス可キ資格ニ付テノ證書ノ原本、正本又ハ謄本其他總テ原告若クハ被告ノ手中ニ存スル證書ニシテ書面中ニ申立ノ原因トシテ引用シタルモノノ謄本ヲ添附ス可シ

證書ノ一部分ノミヲ要用トスルトキハ其冒頭、事件ニ屬スル部分、終尾、日附、署名及ヒ印章ヲ謄寫シタル抄本ヲ添附スルヲ以テ足ル

證書カ既ニ相手方ニ知レタルトキ又ハ大部ナルトキハ其證書ヲ表示シ且相手方ニ之ヲ閲覽セシメント欲スル旨ヲ附記スルヲ以テ足ル

第百八條　當事者ハ準備書面及ヒ其附屬書類竝ニ相手方ニ付與スル爲メ必要ナル謄本ヲ裁判所書記課ニ差出ス可シ

第百九條　裁判長ハ口頭辯論ヲ開キ且之ヲ指揮ス

裁判長ハ發言ヲ許シ又其命ニ從ハサル者ニ發言ヲ禁スルコトヲ得

裁判長ハ事件ニ付キ十分ナル說明ヲ爲サシメ且間斷ナク辯論ノ終了スルコトニ注意ス又必要ナル場合ニ於テハ直チニ辯論續行ノ期日ヲ定ム

裁判所ニ於テ事件ニ付キ十分ナル說明ヲ爲セリト認ムルトキハ裁判長ハ口頭辯論ヲ閉ヂ及ヒ裁判所ノ判決竝ニ決定ヲ言渡ス

第百十條　口頭辯論ハ當事者ノ申立ヲ爲スニ因リテ始マル

當事者ノ演述ハ事實上及ヒ法律上ノ點ニ於ケル訴訟關係ヲ包括ス可シ

口頭演述ニ換ヘテ書類ヲ援用スルコトヲ許サス文字上ノ旨趣ヲ要用トスルトキハ其要用ナル部分ニ限リ之ヲ朗讀スルコトヲ得

第百十一條　各當事者ハ相手方ノ主張シタル事實ニ對シ陳述ヲ爲ス可シ

明カニ爭ハサル事實ハ原告若クハ被告ノ他ノ陳述ヨリ之ヲ爭ハントスル意思カ顯レサルトキハ自白シタルモノト看做ス

不知ノ陳述ハ原告若クハ被告ノ自己ノ行爲ニ非ス又自己ノ實驗シタルモノニモ非サル事實ニ限リ之ヲ許ス此場合ニ於テ不知ヲ以テ答ヘタル事實ハ爭ヒタルモノト看做ス

第百十二條　裁判長ハ職權上調査ス可キ點ニ關シ相手方ヨリ起サヽル疑ノ存スルトキハ其疑ニ付キ注意ヲ爲スコトヲ得

裁判長ハ問ヲ發シテ不明瞭ナル申立ヲ釋明シ主張シタル事實ノ不十分ナル證明ヲ補充シ證據方法ヲ申出テ其他事件ノ關係ヲ定ムルニ必要ナル陳述ヲ爲サシム可シ

陪席判事ハ裁判長ニ告ケテ問ヲ發スルコトヲ得

當事者ハ相手方ニ對シ自ラ問ヲ發スルコトヲ得ス然レトモ其問ヲ發ス可キ旨ヲ裁判長ニ求ムルコトヲ得

若シ其問ニ對シテ答ヘス又ハ判然答ヘサルトキハ相手方ノ利益ト爲ル可キ答ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得

第百十三條　事件ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命又ハ裁判長若クハ陪席判事ノ發シタル問ニ對シ辯論ニ與カル者ヨリ不適法ナリトシテ異議ヲ述ヘタルトキハ裁判所ハ其異議ニ付キ直チニ裁判ヲ爲ス

第百十四條　裁判所ハ事件ノ關係ヲ明瞭ナラシムル爲メ原告若クハ被告ノ自身出頭ヲ命スルコトヲ得

第百十五條　裁判所ハ原告若クハ被告ノ援用シタル證書ニシテ其手中ニ存スルモノヲ提出ス可キヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ外國語ヲ以テ作リタル證書ニ付テハ其譯書ヲ添附ス可キヲ命スルコトヲ得

第百十六條　裁判所ハ當事者ノ所持スル訴訟記錄ニシテ事件ノ辯論及ヒ裁判ニ關スルモノヲ提出ス可キヲ命スルコトヲ得

第百十七條　裁判所ハ檢證及ヒ鑑定ヲ命スルコトヲ得

此手續ハ申立ニ因リ命スル檢證及ヒ鑑定ニ付テノ規定ニ從フ

第百十八條　裁判所ハ一箇ノ訴ニ於テ爲シタル數箇ノ請求又ハ本訴及ヒ反訴ニ付テノ辯論ヲ分離シテ爲ス可キヲ命スルコトヲ得

第百十九條　同一ノ請求ニ關シ數箇ノ獨立ナル攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ提出シタルトキハ裁判所ハ先ツ辯論ヲ其一二ニ制限ス可キヲ命スルコトヲ得

第百二十條　裁判所ハ同一ノ人又ハ別異ノ人ノ數箇ノ訴訟ニシテ其裁判所ニ繫屬スルモノノ辯論及ヒ裁判ヲ併合ス可キヲ命スルコトヲ得但其訴訟ノ目的物タル請求ヲ元來一箇ノ訴ニ於テ主張シ得ヘキトキニ限ル

第百二十一條　裁判所ハ訴訟ノ全部又ハ一分ノ裁判カ他ノ繫屬スル訴訟ニ於テ定マル可キ權利關係ノ成立又ハ不成立ニ繫ルトキハ他ノ訴訟ノ完結ニ至ルマテ辯論ヲ中止ス可シ

第百二十二條　裁判所ハ民事訴訟中罰ス可キ行爲ノ嫌疑生スルトキハ刑事訴訟手續ノ完結ニ至ルマテ辯論ヲ中止ス可シ但其罰ス可キ行爲カ訴訟ノ裁判ニ影響ヲ及ホストキニ限ル

第百二十三條　裁判所ハ分離若クハ併合ニ關シ發シタル命ヲ取消スコトヲ得

第百二十四條　裁判所ハ閉チタル辯論ノ再開ヲ命スルコトヲ得

第百二十五條　裁判所ハ辯論ニ與カル者日本語ニ通セサルトキハ通事ヲ立會ハシム但裁判所構成法第百十八條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第百二十六條　裁判所ハ辯論ニ與カル者聾又ハ啞ナルトキハ之ニ文字ヲ以テ理會セシムルコトヲ得サル場合ニ限リ通事ヲ立會ハシムルコトヲ得

第百二十七條　裁判所ハ相當ノ演述ヲ爲ス能力ノ缺ケタル原告若クハ被告又ハ訴訟代理人若クハ補佐人ニ其後ノ演述ヲ禁シ且新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ演述セシム可キコトヲ命ス可シ

裁判所ハ裁判所ニ於テ辯論ヲ業トスル訴訟代理人若クハ補佐人ヲ退斥セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ新期日ヲ定メ且退斥ノ決定ヲ原告若クハ被告ニ送達ス可シ

本條ノ規定ニ從ヒ爲シタル命ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

辯護士ニハ本條ノ規定ヲ適用セス

第百二十八條　辯論ニ與カル者秩序維持ノ爲メ辯論ノ場所ヨリ退斥セラレタルトキハ申立ニ因リ本人ノ任意ニ退去シタルト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ取扱フコトヲ得但裁判所構成法第百十條ニ依リ中止シタル場合ハ此限ニ在ラス

前條ノ場合ニ於テ禁止又ハ退斥ノ命ヲ受ケタル者再ヒ出頭スルトキハ前項ノ方法ヲ以テ之ヲ取扱フコトヲ得

第百二十九條　口頭辯論ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

調書ニハ左ノ諸件ヲ揭ク可シ

第一　辯論ノ場所、年月日

第二　判事、裁判所書記及ヒ立會ヒタル檢事若クハ通事ノ氏名

第三　訴訟物及ヒ當事者ノ氏名

第四　出頭シタル當事者、法律上代理人、訴訟代理人及ヒ補佐人ノ氏名若シ原告若クハ被告闕席シタルトキハ其闕席シタルコト

第五　公ニ辯論ヲ爲シ又ハ公開ヲ禁シタルコト

第百三十條　辯論ノ進行ニ付テハ其要領ノミヲ調書ニ記載ス可シ

調書ニ記載シテ明確ニス可キ諸件ハ左ノ如シ

第一　自白、認諾、拋棄及ヒ和解

第二　明確ニス可キ規定アル申立及ヒ陳述

第三　證人及ヒ鑑定人ノ供述但其供述ハ以前聽カサルモノナルトキ又ハ以前ノ供述ニ異ナルトキニ限ル

第四　檢證ノ結果

第五　書面ニ作リ調書ニ添附セサル裁判（判決、決定及ヒ命令）

第六　裁判ノ言渡

附錄トシテ調書ニ添附シ且調書ニ附錄トシテ表示シタル書類ニ於ケル記載ハ調書ニ於ケル記載ニ同シ

第百三十一條　前條第一號乃至第四號ニ揭ケタル調書ノ部分ハ法廷ニ於テ之ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閲覽ノ爲メ之ヲ關係人ニ示ス

調書ニハ前項ノ手續ヲ履ミタルコト及ヒ承諾ヲ爲シタルコト又ハ承諾ヲ拒ミタル理由ヲ附記ス可シ

第百三十二條　調書ニハ裁判長及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ

裁判長差支アルトキハ官等最モ高キ陪席判事之ニ代リ署名捺印ス區裁判所判事差支アルトキハ其裁判所書記ノ署名捺印ヲ以テ足ル

第百三十三條　受命判事若クハ受託判事又ハ區裁判所判事カ法廷外ニ於テ爲ス審問ニモ亦裁判所書記ヲ立會ハシム

前四條ノ規定ハ右ノ審問調書ニ之ヲ準用ス

第百三十四條　口頭辯論ノ爲メ規定シタル方式ノ遵守ハ調書ヲ以テノミ之ヲ證スルコトヲ得

第百三十五條　此法律ニ從ヒ口頭ヲ以テ訴、抗告、申立、申請及ヒ陳述ヲ爲シ又ハ證言ヲ拒ム場合ニ於テハ裁判所書記ハ其調書ヲ作ル可シ

第二節　送達

第百三十六條　送達ハ裁判所書記職權ヲ以テ之ヲ爲サシム

裁判所書記ハ執達吏ニ送達ノ施行ヲ委任シ又ハ送達ヲ施行ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ書記ニ送達ノ施行ヲ執達吏ニ委任ス可キコトヲ囑託ス

裁判所書記ハ郵便ニ依リテモ亦送達ヲ爲サシムルコトヲ得

第二項ノ場合ニ於テハ執達吏又第三項ノ場合ニ於テハ郵便配達人ヲ以下ニ規定スル送達吏ト爲ス

第百三十七條　送達ハ其送達ス可キ書類ノ正本又ハ認證シタル謄本ヲ交付ス可キ規定アルトキハ其正本又ハ其謄本ノ交付ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ謄本ノ交付ヲ以テ之ヲ爲ス

原告若クハ被告數人ノ代理人ニ爲シ又ハ同一ナル原告若クハ被告ノ代理人數人中ノ一人ニ爲ス可キ送達ハ謄本又ハ正本ノ一通ヲ交付スルヲ以テ足ル

第百三十八條　訴訟能力ヲ有セサル原告若クハ被告ニ對スル送達ハ其法律上代理人ニ之ヲ爲ス

公又ハ私ノ法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルルコトヲ得ル會社又ハ社團ニ對スル送達ハ其首長又ハ事務擔當者ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

數人ノ首長若クハ事務擔當者アル場合ニ於テハ送達ハ其一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

第百三十九條　豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人、軍屬ニ對スル送達ハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲ス

第百四十條　囚人ニ對スル送達ハ監獄署ノ首長ニ之ヲ爲ス

第百四十一條　送達ハ財産權上ノ訴訟ニ付テハ總理代人ニ之ヲ爲シ又商業上ヨリ生シタル訴訟ニ付テハ代務人ニ之ヲ爲スヲ以テ原告若クハ被告ノ本人ニ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第百四十二條　訴訟代理人アルトキハ送達ハ其代理人委任ノ旨趣ニ依リ原告若クハ被告ノ代理ヲ爲ス權ヲ有スルトキニ限リ其代理人ニ之ヲ爲ス

然レトモ原告若クハ被告ノ本人ニ爲シタル送達ハ其訴訟代理人アルトキト雖モ效力ヲ有ス

第百四十三條　受訴裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル原告若クハ被告ハ其所在地ニ假住所ヲ選定シテ之ヲ届出ツ可シ

假住所選定ノ届出ハ遲クトモ最近ノ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲シ又其前ニ書面ヲ差出ストキハ其書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

前項ノ届出ヲ爲サヽルトキハ裁判所書記又ハ其委任ヲ受ケタル吏員交付ス可キ書類ヲ原告若クハ被告ノ名宛ニテ郵便ニ付シテ送達ヲ爲スコトヲ得此送達ハ其書類ノ原告若クハ被告ニ到達スルト否トヲ問ハス又何時ニ到達スルトヲ問ハス郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第百四十四條　送達ハ何レノ地ヲ問ハス送達ヲ受ク可キ人ニ出會ヒタル地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ其人カ其地ニ住居又ハ事務所ヲ有スルトキ其住居又ハ事務所ノ外ニ於テ爲シタル送達ハ其受取ヲ拒マサリシトキニ限リ效力ヲ有ス

第百三十八條第二項ノ場合ニ於テ特別ノ事務所アルトキハ其事務所ノ外ニ於テ法律上代理人又ハ首長若クハ事務擔當者ニ爲シタル送達ハ其受取ヲ拒マサリシトキニ限リ效力ヲ有ス

第百四十五條　送達ヲ受ク可キ人ニ住居ニ於テ出會ハサルトキハ其住居ニ於テスル送達ハ成長シタル同居ノ親族又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

此規定ニ從ヒ送達ヲ施行スルコトヲ得サルトキハ其送達ハ交付ス可キ書類ヲ其地ノ市町村長ニ預置キ送達ノ告知書ヲ作リ之ヲ住居ノ戶ニ貼附シ且近隣ニ住居スル者二人ニ其旨ヲ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得

第百四十六條　住居ノ外ニ事務所ヲ有スル人ニ對スル送達ハ事務所ニ於テ之ニ出會ハサルトキハ其事務所ニ在ル營業使用人ニ之ヲ爲スコトヲ得此規定ハ辯護士ニモ亦之ヲ適用ス但此場合ニ於ケル送達ハ筆生ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第百四十七條　第百三十八條第二項ノ場合ニ於テ法律上代理人又ハ首長若クハ事務擔當者ニ事務所ニ於テ出會ハス又ハ此等ノ者受取ニ付キ差支アルトキハ送達ハ事務所ニ在ル他ノ役員又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第百四十八條　前二條ノ規定ニ從ヒ送達ヲ施行スルコトヲ得サルトキハ第百四十五條第二項ニ準シ送達ヲ爲ス可シ但住居ニ於ケル送達ヲ施行スルヲ得サルコトノ明白ナルトキニ限ル

前項ノ場合ニ於テハ送達告知書ノ貼附ハ事務所又ハ住居ノ戶ニ之ヲ爲ス

第百四十九條　法律上ノ理由ナクシテ送達ノ受取ヲ拒ムトキハ交付ス可キ書類ヲ送達ノ場所ニ差置ク可シ

第百五十條　日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニハ執達吏ノ爲ス可キ送達ハ裁判官ノ許可ヲ得ルトキニ限リ之ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ規定ハ郵便ニ付シテ爲ス送達ヲ除ク外ハ夜間ニ爲ス可キ送達ニ之ヲ適用ス夜間トハ日沒ヨリ日出マテノ時間ヲ謂フ

右ノ許可ハ受訴裁判所ノ裁判長又ハ送達ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ判事之ヲ與ヘ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ完結ス可キ事件ニ在テハ其判事之ヲ與フ

許可ノ命令ハ認證シタル謄本ヲ以テ送達ノ際之ヲ交付ス可シ

本條ノ規定ヲ遵守セサル送達ハ之ヲ受取リタルトキニ限リ效力ヲ有ス

第百五十一條　送達ニ付テハ之ヲ施行スル吏員ハ送達ノ場所、年月日時、方法及ヒ受取人ノ受取證竝ニ送達吏ノ署名捺印ヲ具備スル證書ヲ作ルコトヲ要ス

受取人受取ヲ拒ミ若クハ受取證ヲ出タスコトヲ拒ミタルトキ又ハ受取證ヲ作ルコト能ハサル旨ヲ述フルトキハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ

第百四十三條第三項ノ場合ニ於テハ郵便ニ付シタル吏員ノ報告書ヲ以テ送達ノ證ト爲スニ足ル

第百五十二條　外國ニ在ル本邦ノ公使及ヒ公使館ノ官吏竝ニ其家族、從者ニ對スル送達ハ外務大臣ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第百五十三條　前條ノ場合ヲ除ク外外國ニ於テ施行ス可キ送達ハ外國ノ管轄官廳又ハ外國ニ駐在スル帝國ノ公使又ハ領事ニ囑託シ

テ之ヲ爲ス

第百五十四條　出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乘組員ニ屬スル人ニ對スル送達ハ上班司令官廳ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得

第百五十五條　前三條ノ場合ニ於テ必要ナル囑託書ハ受訴裁判所ノ裁判長之ヲ發ス

送達ハ囑託ヲ受ケタル官廳又ハ官吏ノ送達施行濟ノ證書ヲ以テ之ヲ證ス

第百五十六條　原告若クハ被告ノ現在地知レサルトキ又ハ外國ニ於テ爲ス可キ送達ニ付テハ其規定ニ從フコト能ハス若クハ之ニ從フモ其效ナキコトヲ豫知スルトキハ其送達ハ公ノ告示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第百五十七條　公示送達ハ原告若クハ被告ノ申立ニ因リ裁判所ノ命ヲ以テ裁判所書記之ヲ取扱フ

此送達ハ交付ス可キ書類ヲ裁判所ノ掲示板ニ貼附シテ之ヲ爲ス判決及ヒ決定ニ在テハ其裁判ノ部分ノミヲ貼附ス可シ

右ノ外裁判所ハ送達ス可キ書類ノ抄本ヲ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ一回又ハ數回掲載ス可キヲ命スルコトヲ得其抄本ニハ裁判所、當事者竝ニ訴訟物及ヒ送達ス可キ書類ノ要旨ヲ掲クルコトヲ要ス

第百五十八條　公示送達ハ書類ノ貼附ヨリ十四日ヲ經過シタル日ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス然レトモ裁判所ハ公示送達ヲ命スルニ際シ此ヨリ長キ期間ヲ必要トスルトキハ相當ナル期間ヲ定ムルコトヲ得

同一ノ事件ニ付キ同一ノ原告若クハ被告ニ對シテ爲ス其後ノ公示送達ハ貼附ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三節　期日及ヒ期間

第百五十九條　期日ハ裁判長日及ヒ時ヲ以テ之ヲ定ム

第百六十條　期日ハ已ムヲ得サル場合ニ限リ日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第百六十一條　期日ニ付テノ呼出ハ裁判長ノ命ニ從ヒ裁判所書記正本ノ送達ヲ以テ之ヲ爲ス但在廷シタル者ニ期日ヲ定メ出頭ヲ命シタルトキハ之ヲ送達スルコトヲ要セス

第百六十二條　期日ハ裁判所内ニ於テ之ヲ開ク但臨檢又ハ裁判所ニ出頭スルニ差支アル人ノ審問其他裁判所内ニ於テ爲スコトヲ得サル行爲ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

第百六十三條　期日ハ事件ノ呼上ヲ以テ始マル

原告若クハ被告カ期日ノ終ニ至ルマテ辯論ヲ爲ササルトキハ期日ヲ怠リタルモノト看做ス

第百六十四條　裁判所又ハ裁判長ノ定ムル期間ノ進行ハ期間ヲ定メタル書類ノ送達ヲ以テ始マリ又其送達ヲ要セサル場合ニ於テハ期間ノ言渡ヲ以テ始マル但期間指定ノ際此ヨリ遲キ起期ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

第百六十五條　期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算シ又日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス

第百六十六條　一日ノ期間ハ二十四時トシ一个月ノ期間ハ三十日トシ一个年ノ期間ハ暦ニ從フ

期間ノ終カ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當ルトキハ其日ヲ期間ニ算入セス

第百六十七條　法律上ノ期間ハ裁判所ノ所在地ニ住居セサル原告若クハ被告ノ爲メ其住居地ト裁判所所在地トノ距離ノ割合ニ應シ海陸路八里每ニ一日ヲ伸長ス八里以外ノ端數三里ヲ超ユルトキモ亦同シ

裁判所ハ外國又ハ島嶼ニ於テ住所ヲ有スル原告若クハ被告ノ爲メ特ニ附加期間ヲ定ムルコトヲ得

第百六十八條　削除

第百六十九條　期日ノ變更、辯論ノ延期、辯論續行ノ期日ノ指定ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但申立ニ因レル期日ノ變更ハ合意ノ場合ヲ除ク外顯著ナル理由アルトキニ限リ之ヲ許ス

第百七十條　期間ハ不變期間ヲ除ク外當事者ノ合意ノ申立ニ因リ之ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得

裁判所又ハ裁判長ノ定ムル期間及ヒ法律上ノ期間ハ合意ナキモ申立ニ因リ顯著ナル理由アルトキハ之ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得然レトモ法律上ノ期間ノ短縮又ハ伸長ハ此法律ニ特定シタル場合ニ限リ之ヲ許ス

伸長ニ係ル新期間ハ前期間ノ滿了ヨリ之ヲ起算ス

第百七十一條　期日ノ變更又ハ期間ノ短縮若クハ伸長ニ付テノ申請ノ理由ハ之ヲ疏明ス可シ其申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

申請ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

同一期日ノ再度ノ變更又ハ同一期間ノ再度ノ伸長ハ相手方ノ承諾書ヲ提出セサルトキハ相手方ヲ審訊シタル後ニ限リ之ヲ許スコトヲ得又相手方カ異議ヲ述フルトキハ顯著ナル差支ノ理由及ヒ其差支ヲ除去スルコトノ特別ナル困難ヲ生シタルコトヲ證スルトキニ限リ之ヲ許スコトヲ得訴訟代理人ノ差支ニ原因スル期日ノ再度ノ變更又ハ期間ノ再度ノ伸長ハ相手方ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ許サス

期日ノ變更又ハ期間ノ伸長ニ付テノ申請ヲ却下スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百七十二條　本節ニ於テ裁判所及ヒ裁判長ニ與ヘタル權ハ受命判事又ハ受託判事モ亦其定ム可キ期日及ヒ期間ニ付キ之ヲ行フコトヲ得

第四節　懈怠ノ結果及ヒ原狀回復

第百七十三條　訴訟行爲ヲ爲スヲ怠リタル原告若クハ被告ハ其訴訟行爲ヲ爲ス權利ヲ失フ但此法律ニ於テ追完ヲ許ストキハ此限ニ在ラス

法律上懈怠ノ結果ハ當然生スルモノトス但此法律ニ於テ失權ヲ爲サシムルコトニ付キ相手方ノ申立ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

第百七十四條　天災其他避ク可カラサル事變ノ爲ニ不變期間ヲ遵守スルコトヲ得サル原告若クハ被告ニハ申立ニ因リ原狀回復ヲ許ス

原告若クハ被告カ故障期間ヲ懈怠シタルトキハ其過失ニ非スシテ闕席判決ノ送達ヲ知ラサリシ場合ニ於テモ亦之ニ原狀回復ヲ許ス

第百七十五條　原狀回復ハ十四日ノ期間内ニ之ヲ申立ツルコトヲ要ス

右期間ハ障碍ノ止ミタル日ヲ以テ始マル此期間ハ當事者ノ合意ニ因リ之ヲ伸長スルコトヲ得ス

懈怠シタル不變期間ノ終ヨリ起算シテ一个年ノ滿了後ハ原狀回復ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百七十六條　原狀回復ハ追完スル訴訟行爲ニ付キ裁判ヲ爲ス權アル裁判所ニ書面ヲ差出シテ之ヲ申立ツ可シ

此書面ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　原狀回復ノ原因タル事實

第二　原狀回復ノ疏明方法

第三　懈怠シタル訴訟行爲ノ追完

即時抗告ノ提出ヲ懈怠シタルトキハ原狀回復ノ申立ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ抗告裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

第百七十七條　原狀回復ノ申立ニ付テノ訴訟手續ハ追完スル訴訟行爲ニ付テノ訴訟手續ト之ヲ併合ス然レトモ裁判所ハ先ツ申立ニ付テノ辯論及ヒ裁判ノミニ其訴訟手續ヲ制限スルコトヲ得

申立ノ許否ニ關スル裁判及ヒ其裁判ニ對スル不服ノ申立ニ付テハ追完スル訴訟行爲ニ於テ行ハル可キ規定ヲ適用ス然レトモ申立ヲ爲シタル原告若クハ被告ハ故障ヲ爲スコトヲ得ス

原狀回復ノ費用ハ申立人之ヲ負擔ス但相手方ノ不當ナル異議ニ因リ生シタルモノハ此限ニ在ラス

第五節　訴訟手續ノ中斷及ヒ中止

第百七十八條　原告若クハ被告ノ死亡シタル場合ニ於テハ承繼人カ訴訟手續ヲ受繼クマテ之ヲ中斷ス

受繼ヲ遲滯シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ受繼及ヒ本案辯論ノ爲メ其承繼人ヲ呼出ス

承繼人期日ニ出頭セサルトキハ申立ニ因リ

相手方ノ主張シタル承繼ヲ自白シタルモノト看做シ且裁判所ハ闕席判決ヲ以テ承繼人訴訟手續ヲ受繼キタリト言渡ス又本案ノ辯論ハ故障期間ノ滿了後始メテ之ヲ爲シ又其期間内ニ故障ヲ申立テタルトキハ其完結後始メテ之ヲ爲ス

第百七十九條　原告若クハ被告ノ財產ニ付キ破產ノ開始シタル場合ニ於テ訴訟手續カ破產財團ニ關スルトキハ破產ニ付テノ規定ニ從ヒ手續ヲ受繼キ又ハ破產手續ヲ解止スルマテ之ヲ中斷ス

第百八十條　原告若クハ被告カ訴訟能力ヲ失ヒ又ハ其法律上代理人カ死亡シ又ハ其代理權カ原告若クハ被告ノ訴訟能力ヲ得ル前ニ消滅シタルトキハ訴訟手續ハ法律上代理人又ハ新法律上代理人カ其任設ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ訴訟手續ヲ續行セントスルコトヲ其代理人ニ通知スルマテ之ヲ中斷ス

第百八十一條　原告若クハ被告ノ死亡ニ因リ訴訟手續ヲ中斷スル場合ニ於ケル訴訟手續ノ受繼ニ關シ遺產ニ付キ管理人ヲ任設スルトキハ前條ノ規定又遺產ニ付キ破產ヲ開始スルトキハ第百七十九條ノ規定ヲ適用ス

第百八十二條　戰爭其他ノ事故ニ因リ裁判所ノ行務ヲ止メタルトキハ此事情ノ繼續間訴訟手續ヲ中斷ス

第百八十三條　訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ原告若クハ被告カ死亡シ又ハ訴訟能力ヲ失ヒ又ハ法律上代理人カ死亡シ又ハ其代理權カ消滅スルトキハ委任消滅ノ通知ニ因リ訴訟手續ヲ中斷ス

訴訟手續ノ受繼ニ付テハ第百七十八條、第百八十條、第百八十一條ノ規定ニ從フ

第百八十四條　原告若クハ被告カ戰時兵役ニ服スルトキ又ハ官廳ノ布令、戰爭其他ノ事變ニ因リ受訴裁判所ト交通ノ絕エタル地ニ在ルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ障碍ノ消除スルマテ訴訟手續ノ中止ヲ命スルコトヲ得

第百八十五條　訴訟手續中止ノ申請ハ受訴裁判所ニ之ヲ提出ス其申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第百八十六條　訴訟手續ノ中斷及ヒ中止ハ各期間ノ進行ヲ止メ及ヒ中斷又ハ中止ノ終リタル後更ニ全期間ノ進行ヲ始ムル效力ヲ有ス

中斷及ヒ中止ノ間本案ニ付キ爲シタル原告若クハ被告ノ訴訟行爲ハ他ノ一方ニ對シ其效力ナシ

口頭辯論ノ終結後ニ生シタル中斷ハ其辯論ニ基キテ爲ス可キ裁判ノ言渡ヲ妨クルコト無シ

第百八十七條　中斷シ又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼及ヒ本節ニ定メタル通知ハ原告若クハ被告ヨリ其書面ヲ受訴裁判所ニ差出シ裁判所ハ相手方ニ之ヲ送達ス可シ

第百八十八條　當事者ハ訴訟手續ヲ休止ス可キ合意ヲ爲スコトヲ得其合意ハ不變期間ノ進行ニ影響ヲ及ホサス

口頭辯論ノ期日ニ於テ當事者雙方出頭セサルトキハ訴訟手續ハ其一方ヨリ更ニ口頭辯論ノ期日ヲ定ム可キコトヲ申立ツルマテ之ヲ休止ス

一个年内ニ前項ノ申立ヲ爲ササルトキハ本訴及ヒ反訴ヲ取下ケタルモノト看做ス

第百八十九條　本節ノ規定其他此法律ノ規定ニ基キ訴訟手續ノ中止ヲ命スル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得又其中止ヲ拒ム裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二編　第一審ノ訴訟手續

第一章　地方裁判所ノ訴訟手續

第一節　判決前ノ訴訟手續

第百九十條　訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス

此訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　當事者及ヒ裁判所ノ表示

第二　起シタル請求ノ一定ノ目的物及ヒ其請求ノ一定ノ原因

第三　一定ノ申立

此他訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ作リ且裁判所ノ管轄カ訴訟物ノ價額ニ依リ定マル場合ニ於テ訴訟物カ一定ノ金額ニ非サルトキハ其價額ヲ揭ク可シ

第百九十一條　同一ノ被告ニ對スル原告ノ請求數箇アル場合ニ於テ其各請求ニ付キ受訴裁判所カ管轄權ヲ有シ且法律ニ於テ同一種類ノ訴訟手續ヲ許ストキハ原告ハ其請求ヲ一箇ノ訴ニ併合スルコトヲ得但民法ノ規定ニ反スルトキハ此限ニ在ラス

第百九十二條　訴狀カ第百九十條第一號乃至第三號ノ規定ニ適セサルトキハ相當ノ期間ヲ定メ裁判長ノ命令ヲ以テ其期間内ニ欠缺ヲ補正ス可キコトヲ命ス若シ原告此命ニ從ハサルトキハ其期間ノ滿了後訴狀ヲ差戾ス

此差戾ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百九十三條　訴狀カ第百九十條第一號乃至第三號ノ規定ニ適スルトキハ口頭辯論ノ期日ヲ定メテ之ヲ被告ニ送達ス可シ

第百九十四條　訴狀ノ送達ト口頭辯論ノ期日トノ間ニハ少ナクトモ二十日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

外國ニ於テ送達ヲ施行ス可キトキハ裁判長相當ノ時間ヲ定ム

第百九十五條　訴訟物ノ權利拘束ハ訴狀ノ送達ニ因リテ生ス

權利拘束ハ左ノ效力ヲ有ス

第一　權利拘束ノ繼續中原告若クハ被告ヨリ同一ノ訴訟物ニ付キ他ノ裁判所ニ於テ本訴又ハ反訴ヲ以テ請求ヲ爲シタルトキハ相手方ハ權利拘束ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得

第二　受訴裁判所ノ管轄ハ訴訟物ノ價額ノ增減、住所ノ變更其他管轄ヲ定ムル事情ノ變更ニ因リテ變換スルコト無シ

第三　原告ハ訴ノ原因ヲ變更スル權利ナシ但變更シタル訴ニ對シ本案ノ口頭辯論前被告カ異議ヲ述ヘサルトキハ此限ニ在ラス

第百九十六條　原告カ訴ノ原因ヲ變更セスシテ左ノ諸件ヲ爲ストキハ被告ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第一　事實上又ハ法律上ノ申述ヲ補充シ又ハ更正スルコト

第二　本案又ハ附帶請求ニ付キ訴ノ申立ヲ擴張シ又ハ減縮スルコト

第三　最初求メタル物ノ滅盡又ハ變更ニ因リ賠償ヲ求ムルコト

第百九十七條　訴ノ原因ニ變更ナシトスル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百九十八條　訴ノ全部又ハ一分ハ本案ニ付キ被告ノ第一口頭辯論ノ始マルマテハ被告ノ承諾ナクシテ之ヲ取下ケ又其後口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ被告ノ承諾ヲ得テ之ヲ取下クルコトヲ得

訴ノ取下ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲ササルトキハ書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

訴狀ヲ既ニ送達シタル場合ニ於テハ訴取下ノ書面ハ之ヲ被告ニ送達ス可シ

適法ナル取下ハ權利拘束ノ總テノ效力ヲ消滅セシムル結果ヲ生ス

取下ケタル訴ヲ再ヒ起シタルトキハ被告ハ前訴訟費用ノ辨濟ヲ受クルマテ應訴ヲ拒ムコトヲ得

第百九十九條　訴狀送達ノ際十四日ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ス可キコトヲ被告ニ催告ス可シ

答辯書ニハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ヲ適用ス

第二百條　訴カ管轄裁判所ニ於テ權利拘束ト爲リタルトキハ被告ハ原告ニ對シ其裁判所ニ反訴ヲ起スコトヲ得

然レトモ財產權上ノ請求ニ非サル請求ニ係ル反訴又ハ目的物ニ付キ專屬管轄ノ規定アル反訴ハ若シ其反訴カ本訴ナルトキ其裁判所ニ於テ管轄權ヲ有ス可キ場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ許ス

反訴ニ對シテハ更ニ反訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二百一條　反訴ハ答辯書若クハ特別ノ書面ヲ以テ又ハ口頭辯論中相手方ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

然レトモ答辯書差出ノ期間内ニ差出シタル書面ヲ以テ起ササル反訴ハ被告ノ請求ノ全部又ハ一分ト相殺ヲ爲ス可キ場合ニ於テ同時ニ被告カ自己ノ過失ニ因ラスシテ其以前

反訴ヲ起スヲ得サリシコトヲ疎明スルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ許ス

第二百二條　訴ニ關スル此法律ノ規定ハ反訴ニ之ヲ適用ス但其規定ニ因リ差異ノ生ス可キトキハ此限ニ在ラス

第二百三條　裁判長ハ申立ニ因リ其命令ヲ以テ第百九十九條ニ定メタル期間ヲ相當ニ短縮若クハ伸長シ又第百九十四條ニ定メタル時間ヲ切迫ナル危險ノ場合ニ限リ二十四時マテニ短縮スルコトヲ得

前項時間ノ短縮ハ此カ爲メ答辯書ヲ差出スコトヲ得サルトキト雖モ亦之ヲ爲スコトヲ得

本條ノ規定ハ第百六十七條ニ揭ケタル規定ヲ妨ケス

第二百四條　各當事者ハ訴狀又ハ答辯書ニ揭ケサリシ事實上ノ主張若クハ證據方法又ハ申立ニ付キ相手方カ豫メ穿鑿ヲ爲スニ非サレハ陳述ヲ爲ス能ハスト豫知スル事項アルトキハ口頭辯論ノ前ニ書面ニテ差出ス可シ但其書面ヲ相手方ニ送達スル時間及ヒ相手方ヲシテ必要ナル穿鑿ヲ爲ス時間ヲ得セシム可シ

口頭辯論ノ延期ヲ爲ストキハ裁判所ハ爾後必要ナル準備書面ヲ差出ス可キ期間ヲ定ムルコトヲ得

第二百五條　口頭辯論ハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第二百六條　妨訴ノ抗辯ハ本案ニ付テノ被告ノ辯論前同時ニ之ヲ提出ス可シ

左ニ揭クルモノヲ妨訴ノ抗辯トス

第一　無訴權ノ抗辯
第二　裁判所管轄違ノ抗辯
第三　權利拘束ノ抗辯
第四　訴訟能力ノ欠缺又ハ法律上代理ノ欠缺ノ抗辯
第五　訴訟費用保證ノ欠缺ノ抗辯
第六　再訴ニ付キ前訴訟費用未濟ノ抗辯
第七　延期ノ抗辯

本案ニ付キ被告ノ口頭辯論ノ始マリタル後ハ妨訴ノ抗辯ハ被告ノ有效ニ拋棄スルコトヲ得サルモノナルトキ又ハ被告ノ過失ニ非スシテ本案ノ辯論前ニ其抗辯ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疎明スルトキニ限リ之ヲ主張スルコトヲ得

第二百七條　被告カ妨訴ノ抗辯ニ基キ本案ノ辯論ヲ拒ムトキ又ハ裁判所カ申立ニ因リ若クハ職權ヲ以テ別ニ辯論ヲ命スルトキハ其抗辯ニ付キ別ニ辯論ヲ爲シ及ヒ判決ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ

妨訴ノ抗辯ヲ棄却スル判決ハ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做ス但裁判所ハ申立ニ因リ本案ニ付キ辯論ヲ爲ス可キヲ命スルコトヲ得

第二百八條　裁判所ハ計算事件、財産分別及ヒ此ニ類スル訴訟ニ於テハ口頭辯論ヲ延期シ準備手續ヲ命スルコトヲ得但妨訴ノ抗辯アリタルトキハ其完結後之ヲ爲ス

第二百九條　攻擊及ヒ防禦ノ方法(反訴、抗辯、再抗辯等)ハ第二百一條ニ規定スル制限ヲ以テ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ之ヲ提出スルコトヲ得

第二百十條　被告ヨリ時機ニ後レテ提出シタル防禦ノ方法ハ裁判所カ若シ之ヲ許スニ於テハ訴訟ヲ遲延ス可ク且被告ハ訴訟ヲ遲延セシメントスル故意ヲ以テ又ハ甚シキ怠慢ニ因リ早ク之ヲ提出セサリシコトノ心證ヲ得タルトキハ申立ニ因リ之ヲ却下スルコトヲ得

第二百十一條　訴訟ノ進行中ニ爭ト爲リタル權利關係ノ成立又ハ不成立カ訴訟ノ裁判ノ全部又ハ一分ニ影響ヲ及ホストキハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ原告ハ訴ノ申立ノ擴張ニ依リ又被告ハ反訴ノ提起ニ依リ判決ヲ以テ其權利關係ヲ確定センコトヲ申立ツルコトヲ得

第二百十二條　訴狀其他ノ準備書面ニ於テ主張セサル請求ノ權利拘束ハ口頭辯論ニ於テ其請求ヲ主張シタル時ヲ以テ始マル

第二百十三條　各當事者ハ事實上ノ主張ヲ證明シ又ハ之ヲ辯駁セン爲ニ用ヰントスル證據方法ヲ開示シ且相手方ヨリ開示シタル證據方法ニ付キ陳述ス可シ

各個ノ證據方法ニ付テノ證據申出及ヒ之ニ關スル陳述ハ第六節乃至第十節ノ規定ニ從フ

第二百十四條　證據方法及ヒ證據抗辯ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ之ヲ主張スルコトヲ得

證據方法及ヒ證據抗辯ノ時機ニ後レタル提出ニ付テハ第二百十條ノ規定ヲ準用ス

第二百十五條　證據調竝ニ證據決定ヲ以テスル特別ノ證據調手續ノ命令ハ第五節乃至第十節ノ規定ニ從フ

第二百十六條　當事者ハ訴訟ノ關係ヲ表明シ證據調ノ結果ニ付キ辯論ヲ爲ス可シ

受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ證據調ヲ爲シタルトキハ當事者ハ證據調ニ關スル審問調書ニ基キ其結果ヲ演述ス可シ

第二百十七條　裁判所ハ民法又ハ此法律ノ規定ニ反セサル限リハ辯論ノ全旨趣及ヒ或ル證據調ノ結果ヲ斟酌シ事實上ノ主張ヲ眞實ナリト認ム可キヤ否ヤヲ自由ナル心證ヲ以テ判斷ス可シ

第二百十八條　裁判所ニ於テ顯著ナル事實ハ之ヲ證スルコトヲ要セス

第二百十九條　地方慣習法、商慣習及ヒ規約又ハ外國ノ現行法ハ之ヲ證ス可シ裁判所ハ當事者カ其證明ヲ爲スト否トニ拘ハラス職權ヲ以テ必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得

第二百二十條　此法律ノ規定ニ依リ事實上ノ主張ヲ疎明ス可キトキハ裁判官ヲシテ其主張ヲ眞實ナリト認メシム可キ證據方法ヲ申出ツルヲ以テ足ル但即時ニ爲スコトヲ得サル證據調ハ疎明ノ方法トシテハ之ヲ許サス

第二百二十一條　裁判所ハ事件ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス自ラ又ハ受命判事若クハ受託判事ニ依リ訴訟又ハ或ル爭點ノ和解ヲ試ムル權アリ和解ヲ試ムル爲ニハ當事者ノ自身出頭ヲ命スルコトヲ得

第二百二十二條　判決ヲ受ク可キ事項ノ申立ハ書面ニ基キ之ヲ爲スコトヲ要ス

書面ニ揭ケサル申立アルトキハ調書ニ附錄トシテ添附ス可キ書面ヲ差出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

重要ノ點ニ於テ以前申立テタルモノト異ナル申立ニ付テモ亦同シ

本條ノ規定ヲ遵守セサルトキハ申立ナキモノト看做ス

第二百二十三條　前條ノ申立ヲ除ク外書面ニ揭ケサル重要ナル陳述又ハ其書面ノ旨趣ト重要ノ點ニ於テ差異ノ存スル事項ハ其差異カ附加、削除其他ノ變更ニ係ルヲ問ハス申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ調書若クハ其附錄トシテ添附ス可キ爲メ差出シタル書面ニ依リテ之ヲ明確ニス可シ

第二百二十四條　當事者ハ訴訟記錄ヲ閲覽シ且裁判所書記ヲシテ其正本、抄本及ヒ謄本ヲ付與セシムルコトヲ得

裁判長ハ第三者カ權利上ノ利害ヲ疎明スルトキニ限リ當事者ノ承諾ナクシテ訴訟記錄ノ閲覽及ヒ其抄本竝ニ謄本ノ付與ヲ許スコトヲ得

判決、決定、命令ノ草案及ヒ其準備ニ供シタル書類竝ニ評議又ハ處罰ニ關スル書類ハ其原本ナルト謄本ナルトヲ問ハス之ヲ閲覽スルコトヲ許サス

第二節　判決

第二百二十五條　訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ終局判決ヲ以テ裁判ヲ爲ス

同時ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス爲メ併合シタル數箇ノ訴訟中ノ一ノミ裁判ヲ爲スニ熟スルトキモ亦同シ

第二百二十六條　一ノ訴ヲ以テ起シタル數箇ノ請求中ノ一箇又ハ一箇ノ請求中ノ一分又ハ反訴ヲ起シタル場合ニ於テハ本訴若クハ反訴ノミ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ終局判決(一分判決)ヲ以テ裁判ヲ爲ス

然レトモ裁判所ハ事件ノ事情ニ從ヒテ一分判決ヲ相當トセサルトキハ之ヲ爲サヽルコトヲ得

第二百二十七條　各箇ノ獨立ナル攻擊若クハ防禦ノ方法又ハ中間ノ爭カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ中間判決ヲ以テ裁判ヲ爲スコトヲ得

第二百二十八條　請求ノ原因及ヒ數額ニ付キ

爭アルトキハ裁判所ハ先ツ其原因ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

請求ノ原因ヲ正當ナリトスル判決ハ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做シ其判決確定ニ至ルマテ爾後ノ手續ヲ中止ス然レトモ裁判所ハ申立ニ因リ其數額ニ付キ辯論ヲ爲ス可キヲ命スルコトヲ得

第二百二十九條　口頭辯論ノ際原告其訴ヘタル請求ヲ拋棄シ又ハ被告之ヲ認諾スルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ其拋棄又ハ認諾ニ基キ判決ヲ以テ却下又ハ敗訴ノ言渡ヲ爲ス可シ

第二百三十條　判決ハ辯論ヲ經タル總テノ攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ包括ス

然レトモ數箇ノ獨立ナル攻擊又ハ防禦ノ方法中其一箇ヲ適切ナリトスルトキハ裁判所ハ他ノ方法ニ付キ判斷スル義務ナシ

第二百三十一條　裁判所ハ申立テサル事物ヲ原告若クハ被告ニ歸セシムル權ナシ

裁判所ハ終局判決ヲ爲ス場合ニ於テハ訴訟費用ノ負擔ニ限リ申立アラサルモ判決ヲ爲ス可シ然レトモ一分判決ヲ爲ス場合ニ於テハ費用ノ裁判ヲ後ノ判決ニ讓ルコトヲ得

第二百三十二條　判決ハ其基本タル口頭辯論ニ臨席シタル判事ニ限リ之ヲ爲ス

第二百三十三條　判決ハ口頭辯論ノ終結スル期日又ハ直チニ指定スル期日ニ於テ之ヲ言渡ス但其期日ハ七日ヲ過クルコトヲ得ス

第二百三十四條　判決ノ言渡ハ判決主文ノ朗讀ニ因リ之ヲ爲ス闕席判決ノ言渡ハ其主文ヲ作ラサル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

裁判ノ理由ヲ言渡スコトヲ至當ト認ムルトキハ判決ノ言渡ト同時ニ其理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ニテ其要領ヲ告ク可シ

第二百三十五條　判決ノ言渡ハ當事者又ハ其一方ノ在廷スルト否トニ拘ハラス其效力ヲ有ス

言渡アリタル判決ニ基キ訴訟手續ヲ續行シ又ハ他ニ其判決ヲ使用スル原告若クハ被告ノ權ハ此法律ニ特定シタル場合ヲ除ク外相手方ニ其判決ヲ送達スルト否トニ拘ハラサルモノトス

第二百三十六條　判決ニハ左ノ諸件ヲ揭ク可シ

第一　當事者及ヒ其法律上代理人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
第二　事實及ヒ爭點ノ摘示但其摘示ハ當事者ノ口頭演述ニ基キ殊ニ其提出シタル申立ヲ表示シテ之ヲ爲ス
第三　裁判ノ理由
第四　判決主文
第五　裁判所ノ名稱、裁判ヲ爲シタル判事ノ官氏名

第二百三十七條　判決ノ原本ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印ス若シ陪席判事署名捺印スルニ差支アルトキハ其理由ヲ開示シテ裁判長其旨ヲ附記シ裁判長差支アルトキハ官等最モ高キ陪席判事之ヲ附記ス

判決ノ原本ハ言渡ノ日ヨリ起算シテ七日內ニ裁判所書記ニ之ヲ交付ス可シ

裁判所書記ハ言渡ノ日及ヒ原本領收ノ日ヲ原本ニ附記シ且其附記ニ署名捺印ス可シ

第二百三十八條　各當事者ハ判決ノ送達アランコトヲ申立ツルコトヲ得其申立アリタルトキハ判決ノ正本ヲ送達ス可シ

第二百三十九條　未タ判決ヲ言渡サス又ハ未タ判決ノ原本ニ署名捺印セサル間ハ裁判所書記ハ其正本、抄本及ヒ謄本ヲ付與スルコトヲ得ス

裁判所書記ハ判決ノ正本、抄本及ヒ謄本ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ捺シテ之ヲ認證ス可シ

第二百四十條　裁判所ハ其言渡シタル終局判決及ヒ中間判決ノ中ニ包含シタル裁判ニ羈束セラル

第二百四十一條　裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ判決中ノ違算、書損及ヒ此ニ類スル著シキ誤謬ヲ更正ス

此更正ニ付テハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得

右更正ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス更正ヲ宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四十二條　主タル請求若クハ附帶ノ請求又ハ費用ノ全部若クハ一分ノ裁判ヲ爲スニ際シ脫漏シタルトキハ申立ニ因リ追加ノ裁判ヲ以テ判決ヲ補充ス可シ

判決ノ言渡後直チニ追加裁判ノ申立ヲ爲サヽルトキハ遲クトモ判決ノ正本ヲ送達シタル日ヨリ起算シテ七日ノ期間內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

追加裁判ノ申立アルトキハ即時ニ又ハ新期日ヲ定メテ口頭辯論ヲ爲サシム可シ其辯論ハ訴訟ノ完結セサル部分ニ限リ之ヲ爲ス

第二百四十三條　判決ヲ更正シ又ハ補充スル裁判ハ判決ノ原本及ヒ正本ニ之ヲ追加シ若シ正本ニ之ヲ追加スルコトヲ得サルトキハ更正又ハ補充ノ裁判ノ正本ヲ作ル可シ

第二百四十四條　判決ハ其主文ニ包含スルモノニ限リ確定力ヲ有ス

第二百四十五條　口頭辯論ニ基キ爲ス裁判所ノ決定ハ之ヲ言渡スコトヲ要ス

第二百三十三條、第二百三十四條ノ規定ハ裁判所ノ決定ニ之ヲ準用シ又第二百三十五條、第二百三十九條及ヒ第二百四十條ノ規定ハ裁判所ノ決定及ヒ裁判長竝ニ受命判事又ハ受託判事ノ命令ニ之ヲ準用ス

言渡ヲ爲サヽル裁判所ノ決定及ヒ言渡ヲ爲サヽル裁判長竝ニ受命判事又ハ受託判事ノ命令ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達ス可シ

第三節　闕席判決

第二百四十六條　原告若クハ被告口頭辯論ノ期日ニ出頭セサル場合ニ於テハ出頭シタル相手方ノ申立ニ因リ闕席判決ヲ爲ス

第二百四十七條　出頭セサル一方カ原告ナルトキハ裁判所ハ闕席判決ヲ以テ其訴ノ却下ヲ言渡ス可シ

第二百四十八條　出頭セサル一方カ被告ナルトキハ裁判所ハ被告カ原告ノ事實上ノ口頭供述ヲ自白シタルモノト看做シ原告ノ請求ヲ正當ト爲ストキハ闕席判決ヲ以テ被告ノ敗訴ヲ言渡シ又其請求ヲ正當ト爲サヽルトキハ其訴ノ却下ヲ言渡ス可シ

第二百四十九條　延期シタル口頭辯論ノ期日又ハ口頭辯論ヲ續行スル爲ニ定ムル期日モ亦第二百四十六條ノ辯論期日ニ同シ

第二百五十條　原告若クハ被告出頭スルモ辯論ヲ爲サヽルトキ又ハ辯論ヲ爲サスシテ任意ニ退廷シタルトキハ出頭セサルモノト看做ス

第二百五十一條　原告若クハ被告カ本案ノ辯論ヲ爲シタルトキハ各箇ノ事實、證書又ハ發問ニ付キ陳述ヲ爲サス又ハ任意ニ退廷スルモ本節ノ規定ヲ適用セス

第二百五十二條　左ノ場合ニ於テハ闕席判決ノ申立ヲ却下ス然レトモ出頭シタル原告若クハ被告ハ口頭辯論ノ延期ヲ申立ツルコトヲ得

第一　出頭シタル原告若クハ被告カ裁判所ノ職權上調査ス可キ事情ニ付キ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキ
第二　出頭セサル原告若クハ被告ニ口頭上事實ノ供述又ハ申立ヲ適當ナル時期ニ書面ヲ以テ通知セサルトキ

辯論ヲ延期シタルトキハ出頭セサル原告若クハ被告ヲ新期日ニ呼出ス可シ

第二百五十三條　闕席判決ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得又其決定ヲ取消シタルトキハ出頭セサリシ原告若クハ被告ヲ新期日ニ呼出サスシテ闕席判決ヲ爲ス

第二百五十四條　裁判所ハ左ノ場合ニ於テハ職權ヲ以テ闕席判決ノ申立ニ付テノ辯論ヲ延期スルコトヲ得

第一　出頭セサル原告若クハ被告カ合式ニ呼出サレサリシトキ
第二　出頭セサル原告若クハ被告カ天災其他避ク可カラサル事變ノ爲ニ出頭スル能ハサルコトノ眞實ト認ム可キ事情アルトキ

出頭セサリシ原告若クハ被告ハ新期日ニ之ヲ呼出ス可シ

第二百五十五條　闕席判決ヲ受ケタル原告若クハ被告ハ其判決ニ對シ故障ヲ申立ツルコトヲ得

故障申立ノ期間ハ十四日トス此期間ハ不變期間ニシテ闕席判決ノ送達ヲ以テ始マル

故障申立ハ判決ノ送達前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

外國ニ於テ送達ヲ爲ス可キトキ又ハ公ノ告

示チ以テ之チ爲ス可キトキハ裁判所ハ闕席判決ニ於テ故障期間チ定メ又ハ後日決定チ以テ之チ定ム此決定ハ口頭辯論チ經スシテ爲スコトチ得

第二百五十六條　故障申立ハ闕席判決チ爲シタル裁判所ニ書面チ差出シテ之チ爲ス

此書面ニハ左ノ諸件チ具備スルコトチ要ス

第一　故障チ申立テラレタル闕席判決ノ表示

第二　其判決ニ對スル故障ノ申立

此書面ニハ本案ニ付テノ口頭辯論準備ノ爲ニ必要ナル事項アルトキモ亦之チ揭ク可シ

第二百五十七條　判然許ス可カラサル故障又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル故障ハ裁判長ノ命令チ以テ之チ却下ス可シ

此却下ノ命令ニ對シテハ卽時抗告チ爲スコトチ得

第二百五十八條　前條ノ場合チ除ク外裁判所ハ故障申立ノ書面チ相手方ニ送達シ且故障ニ付キ口頭辯論ノ新期日チ定メ當事者ノ雙方チ呼出ス可シ

第二百五十九條　裁判所ハ職權チ以テ故障チ許ス可キヤ否ヤ又法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ故障チ申立テタルヤ否ヤチ調査ス可シ

若シ此要件ノ一チ缺クトキハ判決チ以テ故障チ不適法トシテ棄却ス

第二百六十條　故障チ適法トスルトキハ訴訟ハ闕席前ノ程度ニ復ス

第二百六十一條　新辯論ニ基キ爲ス可キ判決カ闕席判決ト符合スルトキハ闕席判決チ維持スルコトチ言渡シ其符合セサル場合ニ於テハ新判決ニ於テ闕席判決チ廢棄ス

第二百六十二條　法律ニ從ヒ闕席判決チ爲シタルトキ闕席ニ因リテ生シタル費用ハ相手方ノ不當ナル異議ニ因リ生セサルモノニ限リ故障ノ爲メ闕席判決チ變更スル場合ニ於テモ其闕席シタル原告若クハ被告ニ之チ負擔セシム

第二百六十三條　故障チ申立テタル原告若クハ被告口頭辯論ノ期日又ハ辯論延期ノ期日ニ出頭セサルトキハ第二百五十二條及ヒ第二百五十四條ニ規定シタル場合チ除ク外出頭シタル相手方ノ申立ニ因リ故障チ棄却スル新闕席判決チ言渡ス

新闕席判決ニ對シテハ故障チ申立ツルコトチ得ス

第二百六十四條　故障ノ拋棄及ヒ其取下ニ付テハ控訴ノ拋棄及ヒ其取下ニ付テノ規定チ準用ス

第二百六十五條　本節ノ規定ハ反訴又ハ既ニ原因ノ確定シタル請求ノ數額ノ定チ目的物トスル訴訟手續ニ之チ準用ス

中間訴訟ノ辯論ノ爲メ期日チ定メタルトキハ其闕席訴訟手續及ヒ闕席判決ハ其中間訴訟チ完結スルニ止マリ本節ノ規定チ之ニ準用ス

第四節　計算事件、財産分別及ヒ此ニ類スル訴訟ノ準備手續

第二百六十六條　計算ノ當否、財産ノ分別又ハ此ニ類スル關係チ目的トスル訴訟ニ於テ計算書又ハ財産目錄ニ對シ許多ノ爭アル請求ノ生シ又ハ許多ノ爭アル異議ノ生シタルトキハ受訴裁判所ハ受命判事ノ面前ニ於ケル準備手續チ命スルコトチ得

第二百六十七條　準備手續チ命スル決定チ言渡スニ際シ裁判長ハ受命判事チ指定シ決定施行ノ期日チ定ム可シ若シ裁判長此期日チ定メサルトキハ受命判事之チ定ム又受命判事其委任チ施行スルニ差支アルトキハ裁判長更ニ他ノ判事チ任ス

第二百六十八條　準備手續ニ於テハ調書チ以テ左ノ諸件チ明確ニス可シ

第一　如何ナル請求チ爲スヤ及ヒ如何ナル攻擊、防禦ノ方法チ主張スルヤ

第二　如何ナル請求及ヒ如何ナル攻擊、防禦ノ方法チ爭フヤ又ハ之チ爭ハサルヤ

第三　爭ト爲リタル請求及ヒ爭ト爲リタル攻擊、防禦ノ方法ニ付テハ其事實上ノ關係及ヒ當事者ノ表示シタル證據方法、主張シタル證據抗辯、證據方法並ニ證據抗辯ニ關シテ爲シタル陳述及ヒ提出シタル申立

此手續ハ受訴裁判所ニ於テ訴訟又ハ中間訴訟カ判決又ハ證據決定チ爲スニ熟スルマテ之チ續行ス可シ

第二百六十九條　原告若クハ被告カ期日ニ於テ受命判事ノ面前ニ出頭セサルトキハ受命判事ハ前條ノ規定ニ依リ調書チ以テ出頭シタル原告若クハ被告ノ提供チ明確ニシ且新期日チ定メ出頭セサル原告若クハ被告ニハ調書ノ謄本チ付與シテ新期日ニ之チ呼出ス可シ

原告若クハ被告カ新期日ニモ亦出頭セサルトキハ送達セシ調書ニ揭ケタル相手方ノ事實上ノ主張チ自白シタリト看做シ其主張ニ付テノ準備手續ハ完結シタルモノトス

第二百七十條　受訴裁判所ハ準備手續ノ終結後ニ口頭辯論ノ期日チ定メ之チ當事者ニ通知ス可シ

第二百七十一條　當事者ハ口頭辯論ニ於テ準備手續ノ結果チ調書ニ基キ演述ス可シ

原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ準備手續ニ於テ爭ハサル請求ハ一分判決チ以テ之チ完結ス其他ニ付テハ申立ニ因リテ闕席判決チ爲ス可シ

第二百七十二條　受命判事ノ調書チ以テ明確ニス可キ事實又ハ證書ニ付キ陳述チ爲サス又ハ之チ拒ミタルトキハ口頭辯論ニ於テ之チ追完スルコトチ得ス

請求、攻擊若クハ防禦ノ方法、證據方法及ヒ證據抗辯ニシテ受命判事ノ調書チ以テ之チ明確ニセサルモノニ付テハ後日ニ至リ始メテ生シ又ハ後日ニ至リ始メテ原告若クハ被告ノ知リタルコトチ疏明スルトキニ限リ口頭辯論ニ於テ之チ主張スルコトチ得

第五節　證據調ノ總則

第二百七十三條　證據調ハ受訴裁判所ニ於テ之チ爲スチ以テ通例トス

證據調ハ此法律ニ定メタル場合ニ限リ受訴裁判所ノ部員一名ニ之チ命シ又ハ區裁判所ニ之チ囑託スルコトチ得

此證據調チ命スル決定ニ對シテハ不服チ申立ツルコトチ得ス

第二百七十四條　當事者ノ申立テタル數多ノ證據中其調フ可キ限度ハ裁判所之チ定ム

當事者ノ演述ニ引續キ直チニ證據調チ爲サスシテ受訴裁判所ニ於テ新期日ニ之チ爲シ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ之チ爲ス可キトキハ證據決定ニ因リ之チ命ス可シ

第二百七十五條　證據調ニ付キ不定時間ノ障碍アルトキハ申立ニ因リ相當ノ期間チ定ム可シ此期間ノ滿了後ト雖モ訴訟手續チ遲滯セシメサル限リハ其證據方法チ用キルコトチ得

第二百七十六條　證據決定ニハ左ノ諸件チ揭ク可シ

第一　證ス可キ係爭事實ノ表示

第二　證據方法ノ表示殊ニ證人又ハ鑑定人チ訊問ス可キトキハ其表示

第三　證據方法チ申出テタル原告若クハ被告ノ表示

第二百七十七條　當事者ハ口頭辯論期日前ニ於テモ書面チ以テ證據調ノ申立及ヒ證據決定變更ノ申立チ爲スコトチ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ相手方ニ對シ七日ノ期間內ニ意見アラハ申立ツヘキコトチ催告シ其期間滿了後證據決定チ爲シタルトキハ之チ當事者ニ送達シ口頭辯論期日ニ於テ其證據調チ爲スコトチ得

證據決定ノ施行ハ職權チ以テ之チ爲ス

第二百七十八條　受訴裁判所ノ部員カ證據調チ爲ス可キトキハ裁判長證據決定言渡ノ際受命判事チ指名シ且證據調ノ期日チ定ム若シ其期日チ定メサルトキハ受命判事之チ定ム

受命判事其命チ施行スルニ差支アルトキハ裁判長更ニ他ノ部員チ命ス

第二百七十九條　他ノ裁判所ニ於テ證據調チ爲ス可キトキハ裁判長ハ其囑託書チ發ス可シ

證據調ニ關スル書類ハ原本チ以テ受託判事ヨリ受訴裁判所書記ニ之チ送致シ其書記ハ之チ受領シタルコトチ當事者ニ通知ス可シ

第二百八十條　受命判事又ハ受託判事カ證據

調ノ期日チ定メタルトキハ其期日及ヒ場所チ當事者ニ通知ス可シ

第二百八十一條　外國ニ於テ爲ス可キ證據調ハ外國ノ管轄官廳又ハ其國駐在ノ帝國ノ公使若クハ領事ニ囑託シテ之チ爲ス其囑託ニ付テハ第百五十二條及ヒ第百五十五條ノ規定チ準用ス

第二百八十二條　受命判事又ハ受託判事ハ他ノ裁判所ニ於テ證據調チ爲ス可キコトノ至當ナル原因ノ爾後ニ生シタルトキハ其裁判所ニ證據調チ囑託スルコトチ得此囑託チ爲シタルトキハ當事者ニ之チ通知ス可シ

第二百八十三條　受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ證據調ノ際ニ爭チ生シ其爭ノ完結スルニ非サレハ證據調チ續行スルコト能ハス且其判事之チ裁判スル權ナキトキハ其完結ハ受訴裁判所之チ爲ス

第二百八十四條　當事者ノ一方又ハ雙方證據調ノ期日ニ出頭セサルトキハ事件ノ程度ニ因リ爲シ得ヘキ限リハ證據調チ爲ス可シ

原告若クハ被告ノ出頭セサルカ爲ニ證據調ノ全部又ハ一分チ爲スコトチ得サル場合ニ於テハ其追完又ハ補充ハ此カ爲メ訴訟手續ノ遲滯セサルトキ又ハ擧證者其過失ニ非スシテ前期日ニ出頭スル能ハサリシコトチ疏明スルトキニ限リ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ申立ニ因リ之チ命ス

第二百八十五條　裁判所ハ事件ノ未タ判決チ爲スニ熟セスト認ムルトキハ證據調ノ補充チ決定スルコトチ得

第二百八十六條　證據調又ハ其續行ノ爲メ新期日チ定ムル必要アルトキハ擧證者又ハ當事者雙方前期日ニ出頭セサリシトキト雖モ職權チ以テ之チ定ム

第二百八十七條　受訴裁判所ニ於テ證據調チ爲ストキハ其期日ハ同時ニ口頭辯論チ續行スル期日ナリトス

受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ證據調チ爲ス可キコトチ命シタルトキハ受訴裁判所ハ證據決定中ニ併セテ口頭辯論續行ノ期日チ定ムルコトチ得若シ之チ定メサルトキハ證據調ノ終結後職權チ以テ其期日チ定メ之チ當事者ニ通知ス可シ

第二百八十八條　擧證者ハ裁判所ノ定ムル期間內ニ證據調ノ費用チ豫納ス可シ若シ其期間內ニ豫納セサルトキハ證據調チ爲サス但期間ノ滿了後ト雖モ豫納シタルトキハ訴訟手續ノ遲滯チ生セサル場合ニ限リ證據調チ許ス

第六節　人證

第二百八十九條　何人チ問ハス法律ニ別段ノ規定ナキ限リハ民事訴訟ニ關シ裁判所ニ於テ證言スル義務アリ

第二百九十條　官吏、公吏ハ退職ノ後ト雖モ其職務上默祕ス可キ義務アル事情ニ付テハ其所屬廳又ハ其最後ノ所屬廳ノ許可チ得タルトキニ限リ證人トシテ之チ訊問スルコトチ得大臣ニ付テハ勅許チ得ルコトチ要ス

此許可ハ證言カ國家ノ安寧チ害スル恐アルトキニ限リ之チ拒ムコトチ得

右許可ハ受訴裁判所ヨリ之チ求メ且證人ニ之チ通知ス可シ

第二百九十一條　人證ノ申出ハ證人チ指名シ及ヒ證人ノ訊問チ受ク可キ事實チ表示シテ之チ爲ス

第二百九十二條　證人ノ呼出狀ニハ左ノ諸件チ具備スルコトチ要ス

第一　證人及ヒ當事者ノ表示

第二　證據決定ノ旨趣ニ依リ訊問チ爲ス可キ事實ノ表示

第三　證人ノ出頭ス可キ場所及ヒ日時

第四　出頭セサルトキハ法律ニ依リ處罰ス可キ旨

第五　裁判所ノ名稱

第二百九十三條　豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬チ證人トシテ呼出スニハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之チ爲ス其長官又ハ隊長ハ期日チ遵守セシムル爲ニ其呼出チ受ケタル者ノ闕勤チ許ス可シ若シ軍務上之チ許ス能ハサルトキハ其旨チ裁判所ニ通知シ且他ノ期日チ定ムル求チ爲ス義務アリ

第二百九十四條　合式ニ呼出サレタル證人ニシテ正當ノ理由ナク出頭セサル者ニ對シテハ申立ナシト雖モ決定チ以テ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ヒ貳拾圓以下ノ罰金チ言渡ス可シ

證人カ再度出頭セサル場合ニ於テハ更ニ費用ノ賠償及ヒ罰金チ言渡ス可シ又其勾引チ命スルコトチ得

證人ハ右ノ決定ニ對シテ抗告チ爲スコトチ得此抗告ハ執行チ停止スル效力チ有ス

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之チ爲ス其勾引ニ付テモ亦同シ

第二百九十五條　證人其出頭セサリシコトチ後日ニ正當ノ理由チ以テ辯解スルトキハ罰金及ヒ賠償ノ決定チ取消ス可シ

證人ノ不參屆及ヒ決定取消ノ申請ハ書面又ハ口頭チ以テ之チ爲スコトチ得

第二百九十六條　皇族證人ナルトキハ受命判事又ハ受託判事其所在ニ就キ訊問チ爲ス

各大臣ニ付テハ其官廳ノ所在地ニ於テ之チ訊問ス若シ其所在地外ニ滯在スルトキハ其現在地ニ於テ之チ訊問ス

帝國議會ノ議員ニ付テハ開會期間其議會ノ所在地ニ滯在中ハ其所在地ニ於テ之チ訊問ス

第二百九十七條　左ニ揭クル者ハ證言チ拒ムコトチ得

第一　原告若クハ被告又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第二　原告若クハ被告ノ後見チ受クル者

第三　原告若クハ被告ト同居スル者又ハ雇人トシテ之ニ仕フル者

裁判長ハ訊問前ニ前項ノ者ニ證言チ拒ム權利アル旨チ告ク可シ

第二百九十八條　左ノ場合ニ於テハ證言チ拒ムコトチ得

第一　官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者カ其職務上默祕ス可キ義務アル事情ニ關スルトキ

第二　醫師、藥商、穩婆、辯護士、公證人、神職及ヒ僧侶カ其身分又ハ職業ノ爲メ委託チ受ケタルニ因リテ知リタル事實ニシテ默祕ス可キモノニ關スルトキ

第三　問ニ付テノ答辯カ證人又ハ前條ニ揭ケタル者ノ恥辱ニ歸スルカ又ハ其刑事上ノ訴追チ招ク恐アルトキ

第四　問ニ付テノ答辯カ證人又ハ前條ニ揭ケタル者ノ爲メ直接ニ財產權上ノ損害チ生セシム可キトキ

第五　證人カ其技術又ハ職業ノ祕密チ公ニスルニ非サレハ答辯スルコト能ハサルトキ

第二百九十九條　證人ハ第二百九十七條第一號及ヒ第二百九十八條第四號ノ場合ニ於テ左ノ事項ニ付キ證言チ拒ムコトチ得ス

第一　家族ノ出產、婚姻又ハ死亡

第二　家族ノ關係ニ因リ生スル財產事件ニ關スル事實

第三　證人トシテ立會ヒタル場合ニ於ケル權利行爲ノ成立及ヒ旨趣

第四　原告若クハ被告ノ前主又ハ代理人トシテ係爭ノ權利關係ニ關シ爲シタル行爲

前條第一號、第二號ニ揭ケタル者其默祕ス可キ義務チ免除セラレタルトキハ證言チ拒ムコトチ得ス

第三百條　證言チ拒ム證人ハ其訊問ノ期日前ニ書面又ハ口頭チ以テ又ハ期日ニ於テ其拒絕ノ原因タル事實チ開示シ且之チ疏明ス可シ

期日前ニ證言チ拒ミタル證人ハ期日ニ出頭スル義務ナシ

裁判所書記ハ拒絕ノ書面チ受領シ又ハ其陳述ニ付キ調書チ作リタルトキハ之チ當事者ニ通知ス可シ

第三百一條　拒絕ノ當否ニ付テハ受訴裁判所當事者チ審訊シタル後決定チ以テ其裁判チ爲ス但第二百九十八條第一號ノ場合ニ於テ爲シタル拒絕ノ當否ニ付テハ所屬廳又ハ最後ノ所屬廳ノ裁定ニ任ス

原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ出頭シタル者ノ申述チ斟酌シテ決定チ爲ス

右決定ニ對シテハ卽時抗告チ爲スコトチ得

此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

第三百二條　原因ヲ開示セスシテ證言ヲ拒ミ又ハ開示シタル原因ノ棄却確定シタル後ニ之ヲ拒ミタルトキハ申立ヲ要セスシテ決定ヲ以テ證人ニ對シ其拒絕ニ因リテ生シタル費用ノ賠償及ヒ四十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス

證人ハ費用ノ賠償及ヒ罰金ノ言渡ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第三百三條　原告若クハ被告ハ相手方ト相手方ノ證人トノ間ニ第二百九十七條第一號乃至第三號ノ關係アルトキハ其證人ヲ忌避スルコトヲ得

第三百四條　忌避ノ申請ハ證人ノ訊問前ニ之ヲ爲ス可シ此時限後ハ其前ニ忌避ノ原因ヲ主張スルヲ得サリシコトヲ疏明スルトキニ限リ其證人ヲ忌避スルコトヲ得

忌避ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三百五條　忌避ノ原因ハ之ヲ疏明ス可シ

忌避ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

忌避ノ原因アリト宣言スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス忌避ノ原因ナシト宣言スル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百六條　各證人ニハ其携帶ス可キ呼出狀其他適當ノ方法ヲ以テ人違ナラサルコトヲ判然ナラシメタル後訊問前各別ニ宣誓ヲ爲サシム可シ

然レトモ宣誓ハ特別ノ原因アルトキ殊ニ之ヲ爲サシム可キヤ否ヤニ付キ疑ノ存スルトキハ訊問ノ終ルマテ之ヲ延フルコトヲ得

第三百七條　證人ハ訊問前ニ宣誓ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ノ誓ヲ宣フ可シ

又訊問後ニ宣誓ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサリシ旨ノ誓ヲ宣フ可シ

第三百八條　判事ハ宣誓前ニ相當ナル方法ヲ以テ宣誓者ニ僞證ノ罰ヲ諭示ス可シ

第三百九條　宣誓ヲ拒ム證人ニ付テハ第三百條乃至第三百二條ノ規定ヲ適用ス

第三百十條　左ノ者ハ宣誓ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メ之ヲ訊問スルコトヲ得

第一　訊問ノ時未タ滿十六歲ニ達セサル者

第二　宣誓ノ何物タルヤヲ了解スルニ必要ナル精神上ノ發達ノ缺クル者

第三　刑事上ノ判決ニ因リ公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者

第四　第二百九十七條及ヒ第二百九十八條第三號竝ニ第四號ノ規定ニ依リ證言ヲ拒絕スル權利アリテ之ヲ行使セサル者但第二百九十八條第三號竝ニ第四號ノ場合ニ於テハ拒絕ノ權利ニ關スル事實ニ付キ證言ヲ爲ス可キコトヲ申立テラレタルトキニ限ル

第五　訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者

第三百十一條　證人訊問ハ後ニ訊問ス可キ證人ノ在ラサル場所ニ於テ各別ニ之ヲ爲ス

證人ノ供述互ニ齟齬シタルトキハ之ヲ對質セシムルコトヲ得

第三百十二條　證人訊問ハ證人ニ其氏名、年齡、身分、職業及ヒ住居ヲ問フヲ以テ始マル又必要ナル場合ニ於テハ其事件ニ於テ證言ノ信用ニ關スル事情殊ニ當事者トノ關係ニ付テノ問ヲ爲ス可シ

第三百十三條　證人ニハ其訊問事項ニ付キ知リタルモノヲ連續シテ供述セシム可シ

證人ノ供述ヲ明白及ヒ完全ナラシメ且其知リ得タル原因ヲ穿鑿スル爲メ必要ナル場合ニ於テハ尙ホ他ノ問ヲ發ス可シ

第三百十四條　證人ハ其供述ニ換ヘテ書類ヲ朗讀シ其他覺書ヲ用井ルコトヲ得ス但算數ノ關係ニ限リ覺書ヲ用井ルコトヲ得

第三百十五條　陪席判事ハ裁判長ニ告ケテ證人ニ問ヲ發スルコトヲ得

當事者ハ證人ニ對シ自ラ問ヲ發スルコトヲ得ス然レトモ當事者ハ證人ノ供述ヲ明白ナラシムル爲ニ其必要ナリトスル問ヲ發センコトヲ裁判長ニ申立ツルコトヲ得

發問ノ許否ニ付キ異議アルトキハ裁判所ハ直チニ之ヲ裁判ス

第三百十六條　調書ニハ證人カ其訊問ノ前若クハ後ニ宣誓シタルヤ又ハ宣誓セスシテ訊問ヲ受ケタルヤヲ記載ス可シ

第三百十七條　受訴裁判所ハ左ノ場合ニ於テ證人ノ再訊問ヲ命スルコトヲ得

第一　證人訊問カ法律上ノ規定ニ違ヒタルトキ

第二　證人訊問ノ完全ナラサルトキ

第三　證人ノ供述カ明白ナラス又ハ兩義ニ涉ルトキ

第四　證人カ其供述ノ補充又ハ更正ヲ申立ツルトキ

第五　此他裁判所カ再訊問ヲ必要トスルトキ

第三百十八條　左ノ場合ニ於テ證人ニ依レル證據調ハ受訴裁判所ノ部員一名ニ之ヲ命シ又ハ區裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第一　眞實ヲ探知スル爲メ現場ニ就キ證人ヲ訊問スルノ必要ナルトキ

第二　證人カ疾病其他ノ事由ノ爲メ受訴裁判所ニ出頭スル能ハサルトキ

第三　證人カ受訴裁判所ノ所在地ヨリ遠隔ノ地ニ在リテ其裁判所ニ出頭スルニ付キ不相應ノ時日及ヒ費用ヲ要スルトキ

第三百十九條　第二百九十四條、第二百九十五條、第三百二條及ヒ第三百九條ニ揭ケタル證人ニ對スル受訴裁判所ノ權ハ受命判事又ハ受託判事ニモ屬ス

證人カ受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ理由ヲ開示シテ證言ヲ拒ミ又ハ宣誓ヲ拒ミ又ハ職權若クハ申立ニ因リ發シタル問ニ答フルコトヲ拒ムトキハ此拒絕ノ當否ニ付キ裁判ヲ爲ス權ハ受訴裁判所ニ屬ス

受命判事又ハ受託判事カ原告若クハ被告ヨリ申立テタル問ヲ發スルコトヲ否ムトキハ原告若クハ被告ハ其當否ニ付キ受訴裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ得

證人ノ再訊問ハ受命判事又ハ受託判事ノ意見ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

第三百二十條　證人ヲ申出テタル原告若クハ被告ハ其訊問ノ開始マテハ此證據方法ヲ拋棄スルコトヲ得其後ハ相手方ノ承諾ヲ得ルトキニ限リ之ヲ拋棄スルコトヲ得

第三百二十一條　各證人ハ日當ノ辨濟及ヒ其出頭ノ爲ニ旅行ヲ要スルトキハ旅費ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

此金額ノ拂渡ハ訊問期日ノ終リタル後直チニ之ヲ求ムルコトヲ得

擧證者ノ豫納シタル金額不足スルトキハ職權ヲ以テ其不足額ヲ取立ツ可シ

第七節　鑑定

第三百二十二條　鑑定ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケサル限リハ人證ニ付テノ規定ヲ準用ス

第三百二十三條　鑑定ノ申出ハ鑑定ス可キ事項ヲ表示シテ之ヲ爲ス

第三百二十四條　立會フ可キ鑑定人ノ選定及ヒ其員數ノ指定ハ受訴裁判所之ヲ爲ス其裁判所ハ鑑定人ノ任命ヲ一名マテニ制限シ又ハ何時ニテモ既ニ任命シタル者ニ代ヘ他ノ鑑定人ヲ任命スルコトヲ得

裁判所ハ鑑定人トシテ訊問ヲ受クルニ適當ナル者ヲ指名ス可キ旨ヲ當事者ニ催告スルコトヲ得

當事者カ一定ノ者ヲ鑑定人ニ爲スコトヲ合意シタルトキハ裁判所ハ其合意ニ從フ可シ然レトモ裁判所ハ當事者ノ爲ス可キ選定ヲ一定ノ員數ニ制限スルコトヲ得

第三百二十五條　外國ノ書類又ハ產物ノ審查ヲ要スル場合ニ於テ必要ナル能力ヲ有スル本邦人ノ在ラサルトキハ裁判所ハ外國人ヲ鑑定人ニ任命スルコトヲ得

第三百二十六條　左ニ揭クル者鑑定ヲ命セラレタルトキハ之ヲ爲ス義務アリ

第一　必要ナル種類ノ鑑定ヲ爲ス爲ニ公ニ任命セラレタル者

第二　鑑定ヲ爲スニ必要ナル學術、技藝若クハ職業ニ常ニ從事スル者又ハ學術、技藝若クハ職業ニ從事スル爲ニ公ニ任命セラレ若クハ授權セラレタル者

右ノ外鑑定ヲ爲ス可キ旨ヲ裁判所ニ於テ述ヘタル者ハ鑑定人タル義務ナキトキト雖モ鑑定ヲ爲ス義務アリ

第三百二十七條　鑑定人ハ證人カ證言ヲ拒ムコトヲ得ルト同一ノ原因ニ依リ鑑定ヲ拒ム權利アリ

官吏、公吏ハ其所屬廳ニ於テ異議アルトキハ之ヲ鑑定人トシテ訊問スルコトヲ得ス

第三百二十八條　鑑定ヲ爲ス義務アル鑑定人出頭セス又ハ鑑定ヲ拒ミタル場合ニ於テハ其者ニ對シ此カ爲ニ生シタル費用ノ賠償及ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其鑑定人ヲ勾引スルコトヲ得ス

第三百二十九條　鑑定人ハ其鑑定ヲ爲ス前ニ其鑑定人タル義務ヲ公平且誠實ニ履行スヘキ旨ノ誓ヲ宣フ可シ

第三百三十條　受訴裁判所ハ其意見ヲ以テ左ノ諸件ヲ定ム可シ

第一　鑑定人ノ意見ハ口頭又ハ書面ニテ之ヲ述ヘシム可キヤ

第二　數名ノ鑑定人ヲ訊問ス可キ場合ニ於テ各意見カ異ナルトキハ共同ニテ鑑定書ヲ作ラシム可キヤ又ハ各別ニ之ヲ作ラシム可キヤ

第三　口頭辯論ノ際鑑定人ノ總員又ハ其一名ヲシテ鑑定書ヲ說明セシム可キヤ

第四　鑑定ノ結果カ不十分ナルトキハ同一又ハ他ノ鑑定人ヲシテ再ヒ鑑定ヲ爲サシム可キヤ

第三百三十一條　受訴裁判所ハ鑑定人ノ任命ヲ受命判事又ハ受託判事ニ委任スルコトヲ得此場合ニ於テハ受命判事又ハ受託判事ハ第三百二十四條及ヒ第三百三十條第一號竝ニ第二號ノ規定ニ依リ受訴裁判所ニ屬スル權ヲ有ス

第三百三十二條　鑑定人ハ日當、旅費及ヒ立替金ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

此場合ニ於テハ第三百二十一條ノ規定ヲ準用ス

第三百三十三條　特別ノ智識ヲ要セシ過去ノ事實又ハ事情ニシテ其實驗アル者ノ訊問ニ因リテ確定ス可キトキハ人證ニ付テノ規定ヲ適用ス

第八節　書證

第三百三十四條　書證ノ申出ハ證書ヲ提出シテ之ヲ爲ス

第三百三十五條　擧證者其使用セントスル證書カ相手方ノ手ニ存スル旨ヲ主張スルトキハ書證ノ申出ハ相手方ニ其證書ノ提出ヲ命センコトヲ申立テテ之ヲ爲ス可シ

第三百三十六條　相手方ハ左ノ場合ニ於テ證書ヲ提出スル義務アリ

第一　擧證者カ民法ノ規定ニ從ヒ訴訟外ニ於テモ證書ノ引渡又ハ其提出ヲ求ムルコトヲ得ルトキ

第二　證書カ其旨趣ニ因リ擧證者及ヒ相手方ニ共通ナルトキ

第三百三十七條　相手方ハ其手ニ存スル證書ニシテ其訴訟ニ於テ擧證ノ爲メ引用シタルモノヲ提出スル義務アリ準備書面中ニノミ引用シタルトキト雖モ亦同シ

第三百三十八條　證書ノ提出ヲ命センコトノ申立ニハ左ノ諸件ヲ揭ク可シ

第一　證書ノ表示

第二　證書ノ旨趣

第三　證書ニ依リ證ス可キ事實ノ表示

第四　證書カ相手方ノ手ニ存スル旨ヲ主張スル理由タル事情

第五　證書カ提出ス可キ義務ノ原因ノ表示

第三百三十九條　裁判所ハ證書ニ依リ證ス可キ事實ノ重要ニシテ且申立ヲ正當ナリト認ムル場合ニ於テ相手方カ證書ノ其手ニ存スルコトヲ自白スルトキ又ハ申立ニ對シ陳述セサルトキハ證據決定ヲ以テ證書ノ提出ヲ命ス

第三百四十條　相手方カ證書ヲ所持セサル旨ヲ申立ツルトキハ此申立ノ眞實ナルヤ否ヤヲ定ムル爲メ又ハ證書ノ所在ヲ穿鑿スル爲メ又ハ擧證者ノ使用ヲ妨クル目的ヲ以テ故意ニ證書ヲ隱匿シ若クハ使用ニ耐ヘサラシメタルヤ否ヤヲ穿鑿スル爲メ本章第十節ノ規定ニ從ヒテ相手方本人ヲ訊問ス可シ

相手方カ官廳ナルトキハ證書カ其官廳ノ保藏ニ係ラス又ハ其所在ヲ開示スルコトヲ得サル旨ノ長官ノ證明書ヲ以テ訊問ニ換フ裁判所ハ此證明書ヲ差出サシムル爲メ相當ノ期間ヲ定ム可シ

第三百四十一條　證書ヲ所持スルコトヲ自白シ又ハ之ヲ所持セスト申立テサル相手方カ其證書ヲ提出ス可シトノ命ニ從ハス又ハ相手方カ所持セスト申立テタル證書ニ付キ訊問ヲ受ケテ供述ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキ又ハ擧證者ノ使用ヲ妨クル目的ヲ以テ故意ニ證書ヲ隱匿シ若クハ使用ニ耐ヘサラシメタルコトノ明確ナルトキハ擧證者ノ差出シタル證書ノ謄本ヲ正當ナルモノト看做ス若シ謄本ヲ差出サヽルトキハ裁判所ハ其意見ヲ以テ證書ノ性質及ヒ旨趣ニ付キ擧證者ノ主張ヲ正當ナリト認ムルコトヲ得

前條第二項ニ揭ケタル證明書ヲ裁判所ノ定メタル期間內ニ差出サヽルトキハ相手方タル官廳ニ對シ前項ト同一ノ結果ヲ生ス

第三百四十二條　擧證者其使用セントスル證書カ第三者ノ手ニ存スル旨ヲ主張スルトキハ書證ノ申出ハ其證書ヲ取寄スル爲メ期間ヲ定メンコトヲ申立テテ之ヲ爲ス

第三百四十三條　第三者ハ擧證者ノ相手方ニ於ケルト同一ナル理由ニ因リ證書ヲ提出スル義務アリ然レトモ强テ證書ヲ提出セシムルコトハ訴ヲ以テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第三百四十四條　第三百四十二條ニ從ヒ申立ヲ爲スニハ第三百三十八條第一號乃至第三號及ヒ第五號ノ要件ヲ履ミ且證書カ第三者ノ手ニ存スルコトヲ疏明ス可シ

第三百四十五條　證書ニ依リ證ス可キ事實ノ重要ニシテ且其申立カ前條ノ規定ニ適スルトキハ裁判所ハ證書提出ノ期間ヲ定ム可シ

第三者ニ對スル訴訟ノ完結シタルトキ又ハ擧證者カ訴ノ提起、訴訟ノ繼續又ハ强制執行ヲ遲延シタルトキハ相手方ハ前項ノ期間ノ滿了前ト雖モ訴訟手續ノ繼續ヲ申立ツルコトヲ得

第三百四十六條　擧證者其使用セントスル證書カ官廳又ハ公吏ノ手ニ存スル旨ヲ主張スルトキハ書證ノ申出ハ證書ノ送付ヲ官廳又ハ公吏ニ囑託セラレンコトヲ申立テテ之ヲ爲ス

此規定ハ當事者カ法律上ノ規定ニ從ヒ裁判所ノ助力ナクシテ取寄スルコトヲ得ヘキ證書ニハ之ヲ適用セス

官廳又ハ公吏カ第三百三十六條ノ規定ニ基キ證書ヲ提出スル義務アル場合ニ於テ其送付ヲ拒ムトキハ第三百四十二條乃至第三百四十五條ノ規定ヲ適用ス

第三百四十七條　證據決定ヲ爲シタル後第三百四十二條及ヒ第三百四十六條ノ規定ニ從ヒ書證ヲ申出テタル場合ニ於テ證書取寄ノ手續ノ爲ニ訴訟ノ完結ヲ遲延スルニ至ル可ク且裁判所ニ於テ原告若クハ被告カ訴訟ヲ遲延スル故意ヲ以テ又ハ甚シキ怠慢ニ因リ書證ヲ早ク申出テサリシコトノ心證ヲ得タルトキハ申立ニ因リ其書證ノ申出ヲ却下スルコトヲ得

第三百四十八條　口頭辯論ノ際證書ヲ提出スルニ於テハ其毀損若クハ紛失ノ恐アリ又ハ他ノ顯著ナル障碍アルトキハ受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ證書ヲ提出ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ證書ノ明細書及ヒ其謄本ヲ調書ニ添附シ又證書ノ一分ノミ必要ナルトキハ第百七條第二項ノ規定ニ從ヒテ作リタル抄本ヲ之ニ添附ス可シ

第三百四十九條　公正證書ハ正本又ハ認證ヲ受ケタル謄本ヲ以テ之ヲ提出スルコトヲ得然レトモ裁判所ハ擧證者ニ正本ノ提出ヲ命スルコトヲ得

私署證書ハ原本ヲ以テ之ヲ提出ス可シ若シ當事者カ未タ提出セサル原本ノ眞正ニ付キ一致シ只其證書ノ效力又ハ解釋ニ付キノミ爭ヲ爲ストキハ謄本ヲ提出スルヲ以テ足ル然レトモ裁判所ハ職權ヲ以テ擧證者ニ原

本ノ提出ヲ命スルコトヲ得

提出シタル謄本ニ換ヘテ正本又ハ原本ヲ提出ス可キ旨ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ心證ヲ以テ謄本ニ如何ナル證據力ヲ付ス可キヤヲ裁判ス

第三百五十條　擧證者ハ證書ヲ提出シタル後ハ相手方ノ承諾ヲ得ルトキニ限リ此證據方法ヲ拋棄スルコトヲ得

第三百五十一條　公正證書又ハ檢眞ヲ經タル私署證書ヲ僞造若クハ變造ナリト主張スル者ハ其證書ノ眞否ヲ確定セシコトノ申立ヲ爲ス可シ

此場合ニ於テハ裁判所ハ其證書ノ眞否ニ付キ中間判決ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ

第三百五十二條　私署證書ノ眞否ニ付キ爭アルトキハ裁判所ハ擧證者ノ申立ニ因リ檢眞ヲ爲スコトヲ得

第三百五十三條　私署證書ノ檢眞ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若クハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲ス

證書ノ眞否ヲ證セントスル當事者ハ裁判所ノ定ムル期間內ニ手跡若クハ印章ヲ對照スル爲ニ適當ナル書類ヲ提出ス可シ

眞正ナリト自白又ハ證明シタル適當ノ對照書類ナキトキハ對照ノ爲メ原告若クハ被告ニ對シ裁判所ニ於テ一定ノ語辭ノ手記ヲ命スルコトヲ得其手記シタル語辭ハ調書ノ附錄トシテ之ニ添附ス可シ

裁判所ハ手跡若クハ印章ヲ對照シタル結果ニ付キ自由ナル心證ヲ以テ裁判ヲ爲シ又必要ナル場合ニ於テハ鑑定ヲ爲サシメタル後之ヲ爲ス

原告若クハ被告カ裁判所ノ定メタル期間內ニ對照書類ヲ提出セサルトキ又ハ對照ス可キ語辭ヲ手記ス可キ裁判所ノ命ニ對シ十分ナル辯解ヲ爲サスシテ之ニ從ハサルトキ又ハ書樣ヲ變シテ手記シタルトキハ證書ノ眞否ニ付テノ相手方ノ主張ハ其他ノ證據ヲ要セスシテ之ヲ眞正ナリト看做スコトヲ得

第三百五十四條　提出シタル證書ハ直チニ之ヲ還付シ又適當ナル場合ニ於テハ其謄本ヲ記錄ニ留メテ之ヲ還付ス可シ

然レトモ證書ノ僞造又ハ變造ナリト爭フトキハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後ニ非サレハ之ヲ還付スルコトヲ得ス

第三百五十五條　公正證書ノ僞造若クハ變造ナルコトヲ眞實ニ反キテ主張シタル原告若クハ被告ニ惡意若クハ重過失ノ責アルトキハ五十圓以下ノ過料ヲ言渡ス

又私署證書ノ眞正ナルコトヲ眞實ニ反キテ爭フトキハ前項ト同一ナル條件ヲ以テ二十圓以下ノ過料ヲ言渡ス

第三百五十六條　本節ノ規定ハ事件ノ性質ニ於テ許ス限リハ事跡ノ紀念又ハ權利ノ證徴ノ爲メ作リタル割符、界標等ノ如キモノニモ之ヲ準用ス

第九節　檢證

第三百五十七條　檢證ノ申出ハ檢證物ヲ表示シ及ヒ證ス可キ事實ヲ開示シテ之ヲ爲ス

第三百五十八條　受訴裁判所ハ檢證ヲ爲スニ際シ鑑定人ノ立會ヲ命スルコトヲ得

受訴裁判所ハ檢證及ヒ鑑定人ノ任命ヲ其部員一名ニ命シ又ハ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第三百五十九條　檢證ヲ爲ス際發見シタル事項ハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ナラシメ又必要ナル場合ニ於テハ調書ノ附錄トシテ添附ス可キ圖面ヲ作リ之ヲ明確ナラシム可シ

若シ既ニ記錄ニ圖面ノ存スルトキハ之ヲ檢證物ニ對照シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ更正ス可シ

第十節　當事者本人ノ訊問

第三百六十條　當事者ノ提出シタル許ス可キ證據ヲ調ヘタル結果ニ因リ證ス可キ事實ノ眞否ニ付キ裁判所カ心證ヲ得ルニ足ラサルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ原告若クハ被告ノ本人ヲ訊問スルコトヲ得

第三百六十一條　裁判所ハ原告若クハ被告ヲ訊問スルコトヲ決定シ且原告若クハ被告ノ自身カ決定言渡ノ際在廷スルトキハ直チニ其訊問ヲ爲スヲ以テ通例トス

第三百六十二條　訊問ヲ受クル原告若クハ被告ハ供述ニ換ヘテ書類ヲ朗讀シ其他覺書ヲ用井ルコトヲ得ス但算數ノ關係ニ限リ覺書ヲ用井ルコトヲ得

第三百六十三條　原告若クハ被告カ十分ナル理由ナクシテ供述スルコトヲ拒ミ又ハ訊問期日ニ出頭セサルトキハ裁判所ハ其意見ヲ以テ訊問ニ因リテ擧證ス可キ相手方ノ主張ヲ正當ナリト認ムルコトヲ得

第三百六十四條　訴訟無能力者ノ法律上代理人カ訴訟ヲ爲ストキハ法律上代理人若クハ訴訟無能力者ヲ訊問ス可キヤ又ハ此等ノ者ヲ共ニ訊問ス可キヤ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ決定ス

法律上代理人數人アルトキハ其一人ヲ訊問ス可キヤ又ハ數人ヲ訊問ス可キヤモ亦前項ニ同シ

第十一節　證據保全

第三百六十五條　證據ヲ紛失スル恐アリ又ハ之ヲ使用シ難キ恐アルトキハ證據保全ノ爲メ證人若クハ鑑定人ノ訊問又ハ檢證ヲ申立ツルコトヲ得

第三百六十六條　訴訟カ既ニ繫屬シタルトキハ此申請ハ受訴裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

切迫ナル危險ノ場合ニ於テハ訊問ヲ受ク可キ者ノ現在地又ハ檢證ス可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ申請ヲ爲スコトヲ得

訴訟ノ未タ繫屬セサルトキハ前項ニ記載シタル區裁判所ニ申請ヲ爲スコトヲ要ス

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三百六十七條　申請ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　相手方ノ表示

第二　證據調ヲ爲ス可キ事實ノ表示

第三　證據方法殊ニ證人若クハ鑑定人ノ訊問ヲ爲ス可キトキハ其表示

第四　證據ヲ紛失スル恐アリ又ハ之ヲ使用シ難キ恐アル理由此理由ハ之ヲ疏明ス可シ

第三百六十八條　申請ニ付テノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

申請ヲ許容スル決定ニハ證據調ヲ爲ス可キ事實及ヒ證據方法殊ニ訊問ス可キ證人若クハ鑑定人ノ氏名ヲ記載ス可シ此決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百六十九條　證據調ノ期日ニハ申立人ヲ呼出シ又決定及ヒ申請ノ謄本ヲ送達シテ其權利防衛ノ爲ニ相手方ヲモ呼出ス可シ

切迫ナル危險ノ場合ニ於テハ適當ナル時間ニ相手方ヲ呼出スコトヲ得サリシトキト雖モ證據調ヲ妨クルコト無シ

第三百七十條　證據調ハ本章第六節、第七節及ヒ第九節ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

證據調ノ調書ハ證據調ヲ命シタル裁判所ニ之ヲ保存ス可シ各當事者ハ證據調ノ調書ヲ訴訟ニ於テ使用スル權利アリ

受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ再度ノ證據調ヲ命シ又ハ既ニ調ヘタル證據ノ補充ヲ命スルコトヲ得

第三百七十一條　證據調ハ第三百六十五條ノ條件ナキトキト雖モ相手方ノ承諾ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第三百七十二條　申立人カ相手方ヲ指定セサルトキハ申立人自己ノ過失ニ非スシテ相手方ヲ指定シ能ハサルコトヲ疏明スル場合ニ限リ其申請ヲ許ス

申請ヲ許容シタルトキハ裁判所ハ其知レサル相手方ノ權利防衛ノ爲ニ臨時代理人ヲ任スルコトヲ得

第二章　區裁判所ノ訴訟手續

第一節　通常ノ訴訟手續

第三百七十三條　區裁判所ノ通常ノ訴訟手續ニ付テハ區裁判所ノ構成又ハ第一編及ヒ本節ノ規定ニ依リ差異ノ生セサル限リハ地方裁判所ノ訴訟手續ニ付テノ規定ヲ適用ス

第三百七十四條　訴ハ書面又ハ口頭ヲ以テ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十五條　起訴アリタルトキハ裁判所書記ハ訴狀ヲ被告ニ送達スル手續ヲ爲ス

準備書面ノ交換ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第三百七十六條　原告若クハ被告ハ其申立及ヒ事實上ノ主張ニシテ豫メ通知スルニ非サレハ相手方ニ於テ之ニ對シ陳述ヲ爲シ得ヘカラサルモノヲ口頭辯論ノ前直接ニ相手方ニ通知スルコトヲ得

第三百七十七條　口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニ少ナクトモ三日ノ時間ヲ存スルコ

トヲ要ス

急迫ナル場合ニ於テハ此時間ヲ二十四時マテニ短縮スルコトヲ得

送達ヲ外國ニ於テ爲ス可キトキハ事情ニ應シテ時間ヲ定ム可シ

第三百七十八條　當事者ハ通常ノ裁判日ニ於テハ豫メ期日ノ指定ナクシテ裁判所ニ出頭シ訴訟ニ付キ辯論ヲ爲スコトヲ得

此場合ニ於テ訴ノ提起ハ口頭ノ演述ヲ以テ之ヲ爲ス

第三百七十九條　數箇ノ妨訴ノ抗辯ハ本案ノ辯論前同時ニ提出ス可キ規定ハ裁判所管轄違ノ抗辯ニ限リ之ヲ適用ス

被告ハ妨訴ノ抗辯ニ基キ本案ノ辯論ヲ拒ム權利ナシ然レトモ裁判所ハ職權ヲ以テ右抗辯ニ付キ分離シタル辯論ヲ命スルコトヲ得

第三百八十條　第二百二十二條、第二百六十六條乃至第二百七十二條ノ規定ハ區裁判所ノ訴訟手續ニ之ヲ適用セス

然レトモ原告若クハ被告ノ申立及ヒ陳述ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ訴訟關係ヲ十分ニ明確ナラシムル爲メ必要ナルモノニ限リ調書ヲ以テ之ヲ明確ナラシム可シ

第三百八十一條　訴ヲ起サントスル者ハ和解ノ爲メ請求ノ目的物ヲ開示シテ相手方ヲ其普通裁判籍ヲ有スル區裁判所ニ呼出ス可キコトヲ申立ツルコトヲ得其申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

當事者雙方出頭シ和解ノ調ヒタルトキハ調書ヲ以テ之ヲ明確ナラシム可シ

和解ノ調ハサルトキハ當事者雙方ノ申立ニ因リ其訴訟ニ付キ直チニ辯論ヲ爲ス此場合ニ於ケル訴ノ提起ハ口頭ノ演述ヲ以テ之ヲ爲ス

相手方カ出頭セス又ハ和解ノ調ハサルトキハ此カ爲ニ生シタル費用ハ訴訟費用ノ一分ト看做ス

第二節　督促手續

第三百八十二條　一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付キ債權者ハ通常ノ訴訟手續ニ依ラスシテ督促手續ニ依リ條件附ノ支拂命令ヲ債務者ニ對シ發セシコトヲ申立ツルコトヲ得

申請ノ旨趣ニ依レハ申請者反對給付ヲ爲スニ非サレハ其請求ヲ主張スルコトヲ得サルトキ又ハ支拂命令ノ送達ヲ外國ニ於テ爲シ若クハ公示送達ヲ以テ爲ス可キトキハ督促手續ヲ許サス

第三百八十三條　支拂命令ハ區裁判所之ヲ發ス

此命令ハ區裁判所ノ第一審ノ事物ノ管轄ノ制限ナキモノト看做シ通常ノ訴訟手續ニ於ケル訴ノ提起ニ付キ普通裁判籍又ハ不動產上裁判籍ノ屬ス可キ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三百八十四條　支拂命令ヲ發スルコトノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

此申請ハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　當事者及ヒ裁判所ノ表示

第二　請求ノ一定ノ數額、目的物及ヒ原因ノ表示若シ請求ノ數箇ナルトキハ其各箇ノ一定ノ數額、目的物及ヒ原因ノ表示

第三　支拂命令ヲ發セシコトノ申立

第三百八十五條　裁判所ハ申請ヲ調査シ其申請カ前三條ノ規定ニ適當セス又ハ申請ノ旨趣ニ於テ請求ノ理由ナク又ハ現時理由ナキコトノ顯ハルルトキハ其申請ヲ却下ス

請求ノ一分ノミニ付キ支拂命令ヲ發スルコトヲ得サルトキハ亦其申請ヲ却下ス然レトモ數箇ノ請求中或ルモノニ理由ナクシテ其他ノモノニ理由アリト見ユルトキハ其理由アリト見ユルモノニ限リ申請ヲ許容ス

右却下ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス然レトモ通常ノ訴訟手續ニ依リ訴追スルヲ妨クルコト無シ

第三百八十六條　支拂命令ハ豫メ債務者ヲ審訊セスシテ之ヲ發ス

支拂命令ニハ第三百八十四條第一號及ヒ第二號ニ揭ケタル申請ノ要件ヲ記載シ且即時ノ强制執行ヲ避ケント欲セハ此命令送達ノ日ヨリ十四日ノ期間內ニ請求ヲ滿足セシメ及ヒ其手續ノ費用ニ付キ定ムル數額ヲ債權者ニ辨濟ス可ク又ハ裁判所ニ異議ヲ申立ツ可キ旨ノ債務者ニ對スル命令ヲ記載ス可シ

前項ノ期間ハ爲替ヨリ生スル請求ニ付テハ二十四時間其他ノ請求ニ付テハ申立ニ因リ三日マテニ之ヲ短縮スルコトヲ得

第三百八十七條　權利拘束ノ效力ハ支拂命令ヲ債務者ニ送達スルヲ以テ始マル

支拂命令ノ送達ハ之ヲ債權者ニ通知ス可シ

第三百八十八條　債務者ハ支拂命令ニ對シ書面又ハ口頭ヲ以テ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第三百八十九條　債務者カ請求ノ全部又ハ一分ニ對シ適當ナル時間ニ異議ヲ申立ツルトキハ支拂命令ノ效力ヲ失フ然レトモ權利拘束ノ效力ヲ存續ス

數箇ノ請求中或ルモノニ對シ異議ヲ申立テタルトキハ支拂命令ハ其他ノ請求及ヒ之ニ相當スル費用ノ部分ニ付キ效力ヲ有ス

第三百九十條　適當ナル時間ニ異議ヲ申立テタル場合ニ於テ請求ニ付キ起ス可キ訴カ區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ其訴ハ支拂命令ノ送達ト同時ニ區裁判所ニ之ヲ起シタルモノト看做ス其口頭辯論ノ期日ハ第三百七十七條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ定ム

第三百九十一條　請求ニ付キ起ス可キ訴カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テハ適當ナル時間ニ異議ノ申立アリタルコトヲ債權者ニ通知ス可シ

債權者其通知書ノ送達アリタル日ヨリ起算シ一个月ノ期間內ニ管轄裁判所ニ訴ヲ起ササルトキハ權利拘束ノ效力ヲ失フ

第三百九十二條　督促手續ノ費用ハ適當ナル時間ニ異議ノ申立アリタル場合ニ於テハ起ス可キ訴訟ノ費用ノ一分ト看做ス

前條ノ場合ニ於テ期間內ニ訴ヲ起ササルトキハ手續ノ費用ハ債權者ノ負擔ニ歸ス

第三百九十三條　支拂命令ハ其命令中ニ揭ケタル期間ノ經過後債權者ノ申請ニ因リ之ヲ假ニ執行シ得ヘキコトヲ宣言ス但假執行ノ宣言前債務者異議ヲ申立テサルトキニ限ル

右假執行ノ宣言ハ支拂命令ニ付ス可キ執行命令ヲ以テ之ヲ爲ス其執行命令ニハ債權者ニ於テ計算スル手續ノ費用ヲ揭ク可シ

債權者ノ申請ヲ却下スル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十四條　執行命令ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル闕席判決ト同一ナリトス其執行命令ニ對シテハ第二百五十五條乃至第二百六十四條ノ規定ニ從ヒテ故障ヲ申立ツルコトヲ得請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ區裁判所ハ其故障ヲ法律上ノ方式及ヒ期間ニ於テ申立テタルヤノ點ノミニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス此場合ニ於テハ第三百九十一條第二項ニ定メタル期間ハ故障ヲ許ス判決ノ確定ヲ以テ始マル

第三百九十五條　時期ニ後レテ申立テタル異議ハ命令ヲ以テ之ヲ却下ス

此却下ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三編　上訴

第一章　控訴

第三百九十六條　控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シテ之ヲ爲ス

第三百九十七條　終局判決前ニ爲シタル裁判ハ亦控訴裁判所ノ判斷ヲ受ク但此法律ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得スト明記シタルトキ又ハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第三百九十八條　闕席判決ニ對シテハ期日ヲ懈怠シタル者ヨリ控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス但故障ヲ許ササル闕席判決ニ對シテハ懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキニ限リ控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第三百九十九條　控訴ハ口頭辯論ノ前ニ於テハ被控訴人ノ承諾ナクシテ之ヲ取下クルコトヲ得

控訴ノ取下ハ上訴權ヲ喪失スル結果ヲ生ス

第四百條　控訴期間ハ一个月トス此期間ハ不變期間ニシテ判決ノ送達ヲ以テ始マル

判決ノ送達前ニ提起シタル控訴ハ無效トス

第二百四十二條ノ規定ニ從ヒ控訴期間內ニ追加裁判ヲ以テ判決ヲ補充シタルトキハ控訴期間ノ進行ハ最初ノ判決ニ對スル控訴ニ付テモ追加裁判ノ送達ヲ以テ始マル

第四百一條　控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ控訴裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス

此控訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　控訴セラルル判決ノ表示

第二　此判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨ノ陳述

此他控訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作リ且判決ニ對シ如何ナル程度ニ於テ不服ナルヤ及ヒ判決ニ付キ如何ナル變更ヲ爲ス可キヤノ申立ヲ揭ケ若シ新ニ主張セントスル事實及ヒ證據方法アルトキハ其新ナル事實及ヒ證據方法ヲモ揭ク可シ

第四百二條　判然許ス可カラサル控訴又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル控訴ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下ス

此却下ノ命令ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百三條　控訴狀ノ送達ト口頭辯論ノ期日トノ間ニ存スルコトヲ要スル時間ニ付テハ第百九十四條ノ規定ヲ適用シ答辯書ヲ差出ス可キ期間ノ催告ニ付テハ第百九十九條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テモ亦第二百三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四百四條　答辯書ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作リ且被控訴人ノ一定ノ申立及ヒ其主張セントスル新ナル事實及ヒ證據方法ヲ揭ク可シ

第四百五條　被控訴人ハ自己ノ控訴ヲ拋棄シタルトキ又ハ控訴期間ノ經過シタルトキト雖モ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

闕席判決ニ對シ附帶控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトニ付テハ第三百九十八條ノ規定ニ從フ

第四百六條　左ノ場合ニ於テハ附帶控訴ハ其效力ヲ失フ

第一　控訴ヲ不適法トシテ判決ヲ以テ棄却シタルトキ

第二　控訴ヲ取下ケタルトキ

然レトモ被控訴人カ控訴期間內ニ附帶控訴ヲ爲シタルトキハ之ヲ獨立ノ控訴ト看做ス

第四百七條　答辯書ニ新ナル事實若クハ證據方法ヲ揭ケ又ハ附帶控訴ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ揭ケタルトキハ之ヲ控訴人ニ送達ス可シ

第四百八條　右ノ外控訴ノ訴訟手續ニハ地方裁判所ノ第一審ノ訴訟手續ノ規定ヲ準用ス但本章ノ規定ニ依リ差異ノ生スルモノハ此限ニ在ラス

第四百九條　當事者ノ雙方ヨリ控訴ヲ起シタルトキハ其兩控訴ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ同時ニ爲スヲ以テ通例トス

第四百十條　口頭辯論ハ其期日ニ於テ被控訴人ノ控訴期間ノ未タ經過セサルトキハ其申立ニ因リ期間ノ滿了マテ之ヲ延期ス

闕席判決ヲ受ケタル原告若クハ被告ヨリ其判決ニ對シ故障ヲ申立テ相手方ヨリ控訴ヲ起シタルトキハ控訴ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ故障ノ完結マテ職權ヲ以テ之ヲ延期ス

第四百十一條　控訴裁判所ニ於ケル訴訟ハ不服ノ申立ニ因リ定マリタル範圍內ニ於テ更ニ之ヲ辯論ス

第四百十二條　當事者ハ其控訴ノ申立及ヒ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ當否ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナル限リハ口頭辯論ノ際第一審ニ於ケル辯論ノ結果ヲ演述ス可シ

演述ノ不正確又ハ不完全ナル場合ニ於テハ裁判長ハ其更正若クハ補完ヲ爲サシメ又必要ナル場合ニ於テハ辯論ヲ再開シテ之ヲ爲サシム可シ

第四百十三條　訴ノ變更ハ相手方ノ承諾アルトキト雖モ之ヲ許サス

第四百十四條　妨訴ノ抗辯ハ職權ヲ以テ調査ス可カラサルモノニシテ且原告若クハ被告カ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハサリシコトヲ疏明スルトキニ限リ之ヲ主張スルコトヲ得

本案ノ辯論ハ妨訴ノ抗辯ニ基キ之ヲ拒ムコトヲ得ス然レトモ裁判所ハ職權ヲ以テ妨訴ノ抗辯ニ付キ分離シタル辯論ヲ命スルコトヲ得

第四百十五條　當事者ハ第一審ニ於テ主張セサリシ攻擊防禦ノ方法殊ニ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

第四百十六條　新ナル請求ハ第百九十六條第二號及ヒ第三號ノ場合又ハ相殺スルコトヲ得ヘキモノニシテ且原告若クハ被告カ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハサリシコトヲ疏明スルトキニ限リ之ヲ起スコトヲ得

第四百十七條　事實又ハ證書ニ付キ第一審ニ於テ爲ササリシ陳述又ハ拒ミタル陳述ハ第二審ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第四百十八條　第一審ニ於テ爲シタル裁判上ノ自白ハ第二審ニ於テモ亦其效力ヲ有ス

第四百十九條　控訴裁判所ハ控訴ヲ許ス可キヤ否ヤ又控訴ヲ法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ起シタルヤ否ヤヲ職權ヲ以テ調査ス可シ若シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ不適法トシテ棄却ス可シ

第四百二十條　第一審ノ裁判ハ變更ヲ申立テタル部分ニ限リ之ヲ變更スルコトヲ得

第四百二十一條　第一審ニ於テ是認シ又ハ非認シタル請求ニ關スル總テノ爭點ニシテ申立ニ從ヒ辯論及ヒ裁判ヲ必要トスルモノハ第一審ニ於テ此爭點ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ササルトキト雖モ控訴裁判所ニ於テ其辯論及ヒ裁判ヲ爲ス

第四百二十二條　控訴裁判所ハ左ノ場合ニ於テ事件ニ付キ尙ホ辯論ヲ必要トスルトキハ其事件ヲ第一審裁判所ニ差戻ス可シ

第一　不服ヲ申立テラレタル判決カ闕席判決ナルトキ

第二　不服ヲ申立テラレタル判決カ闕席判決ニ對スル故障ヲ不適法トシテ棄却シタルモノナルトキ

第三　不服ヲ申立テラレタル判決カ妨訴ノ抗辯ノミニ付キ裁判ヲ爲シタルモノナルトキ

第四　請求カ其原因及ヒ數額ニ付キ爭アル場合ニ於テ不服ヲ申立テラレタル判決カ先ツ其原因ニ付キ裁判ヲ爲シタルモノナルトキ

第五　不服ヲ申立テラレタル判決カ證書訴訟及ヒ爲替訴訟ニ於テ敗訴ノ被告ニ別訴訟ヲ以テ追行ヲ爲ス權ヲ留保シタルモノナルトキ

第四百二十三條　第一審ニ於テ訴訟手續ニ付テノ規定ニ違背シタルトキハ控訴裁判所ハ其判決及ヒ違背シタル訴訟手續ノ部分ヲ廢棄シ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

第四百二十四條　控訴ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ノ棄却ヲ言渡ス可シ

第四百二十五條　判決ヲ控訴人ノ不利益ニ變更スルコトハ相手方カ控訴又ハ附帶控訴ノ方法ヲ以テ判決ニ付キ不服ヲ申立テタル部分ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十六條　第二百十條ノ規定ニ從ヒテ防禦ノ方法ヲ却下スルトキハ其防禦ノ方法ヲ主張スル權ハ之ヲ被告ニ留保ス可シ

判決ニ此留保ヲ揭ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ從ヒテ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得

留保ヲ揭ケタル判決ハ上訴及ヒ强制執行ニ付テハ終局判決ト看做ス

第四百二十七條　防禦ノ方法ニシテ被告ニ其主張ヲ留保スルモノニ付テハ其訴訟ハ第二審ニ繫屬ス

爾後ノ手續ニ於テ訴ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコト顯ハルルトキハ前判決ヲ廢棄シテ其訴ヲ棄却シ且申立ニ因リ判決ニ基キ支拂ヒタルモノ又ハ給付シタルモノヲ返還ス可キコトヲ言渡シ竝ニ費用ニ付キ裁判ヲ爲ス可シ

第四百二十八條　控訴人カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ出頭シタル被控訴人ノ申立ニ因リ闕席判決ヲ以テ控訴ノ棄却ヲ言渡ス可シ

第四百二十九條　被控訴人口頭辯論ノ期日ニ出頭セサル場合ニ於テ出頭シタル控訴人ヨリ闕席判決ノ申立ヲ爲ストキハ第一審裁判所ノ憑據ト爲リタルモノニ牴觸セサル控訴人ノ事實上ノ供述ハ被控訴人之ヲ自白シタルモノト看做シ且第一審裁判所ノ事實上ノ確定ヲ補充シ若クハ辯駁スル爲メ控訴人ノ申立テタル適法ノ證據調ハ既ニ之ヲ爲シ及ヒ其結果ヲ得タルモノト看做シ闕席判決ヲ爲ス

第四百三十條　判決中ノ事實ノ摘示ニ付テハ前審ノ判決ヲ引用スルコトヲ得

第四百三十一條　控訴裁判所ノ書記ハ控訴狀ノ提出ヨリ二十四時間ニ第一審裁判所ノ書記ニ訴訟記錄ノ送付ヲ求ム可シ

控訴完結ノ後其記錄ハ第二審ニ於テ爲シタル判決ノ認證アル謄本ト共ニ第一審裁判所ノ書記ニ之ヲ返還ス可シ

第二章　上告

第四百三十二條　上告ハ地方裁判所及ヒ控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シテ之ヲ爲ス

第四百三十三條　終局判決前ニ爲シタル裁判ハ亦上告裁判所ノ判斷ヲ受ク但此法律ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得スト明記シタルトキ又ハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第四百三十四條　上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條　法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキハ法律ニ違背シタルモノトス

第四百三十六條　裁判ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ法律ニ違背シタルモノトス

第一　規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

第二　法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシトキハ此限ニ在ラス

第三　判事カ忌避セラレ且忌避ノ申請ヲ理由アリト認メタルニ拘ハラス裁判ニ參與シタルトキ

第四　裁判所カ其管轄又ハ管轄違ヲ不當ニ認メタルトキ

第五　訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ

第六　訴訟手續ノ公行ニ付テノ規定ニ違背シタル口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲シタルトキ

第七　裁判ニ理由ヲ付セサルトキ

第四百三十七條　上告期間ハ一个月トス此期間ハ不變期間ニシテ判決ノ送達ヲ以テ始マル

判決ノ送達前ニ提起シタル上告ハ無效トス

第四百三十八條　上告ノ提起ハ上告狀ヲ上告裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス

此上告狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　上告セラルル判決ノ表示

第二　此判決ニ對シ上告ヲ爲ス旨ノ陳述

此他上告狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作リ特ニ判決ニ對シ如何ナル程度ニ於テ不服ナルヤ及ヒ判決ニ付キ如何ナル程度ニ於テ破毀ヲ爲ス可キヤノ申立ヲ揭ケ且法則ヲ適用セス若クハ不當ニ適用シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキハ其法則ノ表示又ハ訴訟手續ニ付テノ規定ニ違背シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキハ其欠缺ヲ明カニスル事實ノ表示又ハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シ若クハ遺脫シ若クハ提出シタリト看做シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキハ其事實ノ表示ヲ揭ク可シ

第四百三十九條　上告裁判所ハ上告人ヲ呼出シ其陳述ヲ聽キ上告ヲ許ス可カラサルモノナルトキ又ハ法律上ノ方式及ヒ期間ニ於テ起ササルトキ又ハ第四百三十四條ノ規定ニ依ラサルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ

上告人カ呼出ノ期日ニ出頭セサルトキハ上告ヲ取下ケタルモノト看做ス但出頭セサリシコトヲ期日ヨリ七日ノ期間內ニ十分ナル理由ヲ以テ辯解シタルトキハ更ニ期日ヲ定ム

第四百四十條　上告狀ノ送達ト口頭辯論ノ期日トノ間ニ存スルコトヲ要スル時間ニ付テハ第百九十四條ノ規定ヲ適用シ答辯書ヲ差出ス可キ期間ノ催告ニ付テハ第百九十九條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テモ亦第二百三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四百四十一條　答辯書ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作リ且一定ノ申立ヲ揭ク可シ

第四百四十二條　被上告人ハ附帶上告ヲ爲スコトヲ得

此附帶上告ニ付テハ附帶控訴ノ規定ヲ準用ス

第四百四十三條　答辯書ニ附帶上告ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ揭ケタルトキハ之ヲ上告人ニ送達ス可シ

第四百四十四條　右ノ外上告ノ訴訟手續ニハ地方裁判所ノ第一審ノ訴訟手續ノ規定ヲ準用ス但本章ノ規定ニ依リ差異ノ生スルモノハ此限ニ在ラス

第四百四十五條　上告裁判所ハ當事者ノ爲シタル申立ノミニ付キ調査ヲ爲ス

第四百四十六條　上告裁判所ハ裁判ヲ爲スニ付キ控訴裁判所カ其裁判ノ憑據トシタル事實ヲ標準トス此事實ノ外ハ第四百三十八條第三項ニ揭ケタル事實ニ限リ之ヲ斟酌スルコトヲ得

證據調ヲ必要トスルトキハ上告裁判所ハ之ヲ命ス可シ

第四百四十七條　上告ヲ理由アリトスルトキハ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ破毀ス可シ

訴訟手續ニ關スル規定ニ違背シタルニ因リ判決ヲ破毀スルトキハ其違背シタル部分ニ限リ訴訟手續ヲモ亦破毀ス可シ

第四百四十八條　判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ第四百五十一條ノ規定ヲ除ク外更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ控訴裁判所ニ差戻シ又ハ之ヲ他ノ同等ナル裁判所ニ移送ス可シ

前項ノ事件ノ差戻ハ申立ニ因リ控訴裁判所ノ他ノ民事部ニ之ヲ爲スコトヲ得

事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要ス但前項ノ場合ニ於テハ破毀セラレタル判決ニ干與シタル判事ハ其裁判ニ參與スルコトヲ得ス

第四百四十九條　當事者ハ破毀セラレタル判決ノ以前ニ於ケル口頭辯論ニ當リ提出スルコトヲ得ヘカリシ事項ヲ新口頭辯論ニ際シ提出スル權利アリ

第四百五十條　事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ上告裁判所ノ爲シタル法律ニ係ル判斷ニシテ判決ヲ破毀スル基本ト爲シタルモノヲ以テ新ナル辯論及ヒ裁判ノ基本ト爲ス義務アリ

第四百五十一條　上告裁判所ハ左ノ場合ニ於テ事件ニ付キ裁判ヲ爲ス可シ

第一　確定シタル事實ニ法律ヲ適用スルニ當リ法律ニ違背シタル爲ニ判決ヲ破毀シ且其事件カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ

第二　無訴權ノ爲メ又ハ裁判所ノ管轄違ナル爲ニ判決ヲ破毀スルトキ

第四百五十二條　上告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ棄却ス可シ

第四百五十三條　裁判カ其理由ニ於テ法律ニ違背シタルトキト雖モ他ノ理由ニ因リ裁判ノ正當ナルトキハ上告ヲ棄却ス可シ

第四百五十四條　左ノ諸件ニ關スル控訴ノ規定ハ上告ニ之ヲ準用ス

第一　闕席判決ニ對スル不服ノ申立

第二　控訴ノ取下

第三　當事者ノ雙方ヨリ控訴ヲ起シタル場合ニ於ケル訴訟手續及ヒ控訴ト故障トヲ同時ニ爲シタルトキノ訴訟手續

第四　口頭辯論ノ延期

第五　口頭辯論ノ際ニ於ケル當事者ノ演述

第六　妨訴ノ抗辯ニ付テノ辯論
第七　控訴ヲ起シタル者ノ不利益ト爲ル裁判ヲ爲ス可カラサルコト
第八　記錄ノ送付竝ニ返還

第三章　抗告

第四百五十五條　抗告ハ訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經スシテ却下シタル裁判ニ對シ其他此法律ニ於テ特ニ揭ケタル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百五十六條　抗告ニ付テハ直近ノ上級裁判所其裁判ヲ爲ス
抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第四百五十七條　抗告ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ノ屬スル裁判所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス
訴訟カ區裁判所ニ繫屬シ若クハ嘗テ繫屬シタルトキ又ハ證人、鑑定人ヨリ若クハ證書ヲ提出スル義務アリト宣言ヲ受ケタル第三者ヨリ抗告ヲ爲ストキハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四百五十八條　抗告ハ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ以テ憑據ト爲スコトヲ得

第四百五十九條　不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長カ再度ノ考案若クハ新ナル提供ニ基キ抗告ヲ理由アリトスルトキハ不服ノ點ヲ更正シ又理由ナシトスルトキハ裁判所又ハ裁判長ハ意見ヲ付シテ三日ノ期間內ニ抗告ヲ抗告裁判所ニ送付シ又適當トスル場合ニ於テハ訴訟記錄ヲモ送付ス可シ

第四百六十條　抗告ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ニ限リ執行停止ノ效力ヲ有ス
然レトモ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ハ抗告ニ付テノ裁判アルマテ其執行ノ中止ヲ命スルコトヲ得
抗告裁判所ハ抗告ニ付テノ裁判ヲ爲ス前ニ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ執行中止ヲ命スルコトヲ得

第四百六十一條　抗告ハ急迫ナル場合ニ限リ直チニ抗告裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得
抗告裁判所ハ裁判ヲ爲ス前ニ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ノ意見及ヒ記錄ヲ要求スルコトヲ得
抗告裁判所ハ事件ヲ急迫ナラスト認ムルトキハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ニ其事件ヲ送付シ且其旨ヲ抗告人ニ通知ス可シ

第四百六十二條　抗告裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スヲ以テ通例トス
抗告裁判所ハ抗告人ト反對ノ利害關係ヲ有スル者ニ抗告ヲ通知シテ書面上ノ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得
陳述ハ口頭ヲ以テ抗告ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テハ亦口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
抗告裁判所ハ口頭辯論ノ爲ニ當事者ヲ呼出スコトヲ得

第四百六十三條　抗告裁判所ハ抗告ヲ許ス可キヤ否ヤ又法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ提出シタルヤ否ヤヲ職權ヲ以テ調査ス可シ
若シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ抗告ヲ不適法トシテ棄却ス可シ

第四百六十四條　抗告ヲ適法ニシテ且理由アリトスルトキハ抗告裁判所ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ廢棄シテ自ラ更ニ裁判ヲ爲シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ニ委任シテ裁判ヲ爲サシムルコトヲ得
抗告裁判所ノ裁判ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ニ之ヲ通知ス可シ

第四百六十五條　受命判事若クハ受託判事ノ裁判又ハ裁判所書記ノ處分ノ變更ヲ求ムルニハ先ツ受訴裁判所ノ裁判ヲ求ム可シ
抗告ハ受訴裁判所ノ裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
第一項ノ規定ハ大審院ニモ亦之ヲ適用ス

第四百六十六條　卽時抗告ノ場合ニ於テハ左ノ特別ノ規定ニ從フ
抗告ハ七日ノ不變期間內ニ之ヲ爲ス可シ其期間ハ裁判ノ送達ヨリ始マリ第二百五十三條、第六百八十條及ヒ第七百六十九條第三項ノ場合ニ於テハ裁判ノ言渡ヨリ始マル抗告裁判所ニ抗告ヲ提出シタルトキハ急迫ナラスト認メタル場合ニ於テモ亦不變期間ヲ保存ス
再審ヲ求ムル訴ニ付テノ要件存スルトキハ不變期間ノ滿了後ト雖モ此訴ノ爲メ定メタル期間內ハ抗告ヲ爲スコトヲ得
前條第一項ノ場合ニ於テハ抗告提出ノ爲メ定メタル方法ニ依リ不變期間內ニ受訴裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ要ス受訴裁判所ハ其申請ヲ正當ト認メサルトキハ之ヲ抗告裁判所ニ送付ス可シ

第四編　再審

第四百六十七條　確定ノ終局判決ヲ以テ終結シタル訴訟ハ取消ノ訴又ハ原狀回復ノ訴ニ因リ之ヲ再審スルコトヲ得
當事者ノ一方又ハ雙方ヨリ此兩訴ヲ起シタルトキハ原狀回復ノ訴ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ取消ノ訴ニ付テノ裁判カ確定スルマテ之ヲ中止ス可シ

第四百六十八條　左ノ場合ニ於テハ取消ノ訴ニ因リ再審ヲ求ムルコトヲ得
第一　規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ
第二　法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシトキハ此限ニ在ラス
第三　判事カ忌避セラレ且忌避ノ申請カ理由アリト認メラレタルニ拘ハラス裁判ニ參與シタリシトキ
第四　訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ
第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テ上訴若クハ故障ヲ以テ取消ヲ主張シ得ヘカリシトキハ取消ノ訴ヲ許サス

第四百六十九條　左ノ場合ニ於テハ原狀回復ノ訴ニ因リ再審ヲ求ムルコトヲ得
第一　刑法ニ揭ケタル職務上ノ義務ニ違背シタル罪ヲ訴訟ニ關シ犯シタル判事カ裁判ニ參與シタリシトキ
第二　原告若クハ被告ノ法律上代理人若クハ訴訟代理人又ハ相手方若クハ其法律上代理人若クハ訴訟代理人カ罰セラル可キ行爲ヲ訴訟ニ關シテ爲シタリシトキ
第三　判決ノ憑據ト爲リタル證書カ僞造又ハ變造ナリシトキ
第四　證人若クハ鑑定人カ供述ニ因リ又ハ通事カ判決ノ憑據ト爲リタル通譯ニ因リ僞證ノ罪ヲ犯シタリシトキ
第五　判決ノ憑據ト爲リタル刑事上ノ判決カ他ノ確定ト爲リタル刑事上ノ判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタリシトキ
第六　原告若クハ被告カ同一ノ事件ニ付テノ判決ニシテ前ニ確定ト爲リタルモノヲ發見シ其判決カ不服ヲ申立テラレタル判決ト牴觸スルトキ
第七　相手方若クハ第三者ノ所爲ニ依リ以前ニ提出スルコトヲ得サリシ證書ニシテ原告若クハ被告ノ利益ト爲ル可キ裁判ヲ爲スニ至ラシム可キモノヲ發見シタルトキ
第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ罰セラル可キ行爲ニ付テ判決カ確定ト爲リタルトキ又ハ證據欠缺外ナル理由ヲ以テ刑事訴訟手續ノ開始若クハ實行ヲ爲シ得サルトキニ限リ再審ヲ求ムルコトヲ得

第四百七十條　原狀回復ノ訴ハ原告若クハ被告カ自己ノ過失ニ非スシテ前訴訟手續ニ於テ殊ニ故障又ハ控訴若クハ附帶控訴ニ依リ原狀回復ノ理由ヲ主張スルコト能ハサリシトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百七十一條　不服ヲ申立テラレタル判決前ニ同一ノ裁判所又ハ下級ノ裁判所ニ於テ爲シタル裁判ニ關スル不服ノ理由ハ再審ヲ求ムル訴ト共ニ之ヲ主張スルコトヲ得但不服ヲ申立テラレタル判決カ其裁判ニ根據スルトキニ限ル

第四百七十二條　再審ヲ求ムル訴ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ニ專屬ス
同一ノ事件ニ付キ一分ハ下級ノ裁判所又一分ハ上級ノ裁判所ニ於テ爲シタル數個ノ判決ニ對スル訴ハ上級ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス
督促手續ニ依リテ區裁判所ノ發シタル執行命令ニ對シ再審ヲ求ムル訴ハ其命令ヲ發シタル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス然レトモ其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ請求ニ付テノ訴訟ヲ管轄スル裁判所ニ專屬ス

第四百七十三條　訴ノ提起及ヒ其後ノ訴訟手續ニハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケサル限リハ其訴ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可キ裁判所ノ訴訟手續ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百七十四條　訴ハ一个月ノ不變期間內ニ之ヲ起ス可シ
此期間ハ原告若クハ被告カ不服ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル若シ原告若クハ被告カ判決ノ確定前ニ不服ノ理由ヲ知リタルトキハ判決ノ確定ヲ以テ始マル
判決確定ノ日ヨリ起算シテ五个年ノ滿了後ハ訴ヲ爲スコトヲ得ス
前二項ノ規定ハ第四百六十八條第四號ノ場合ニ之ヲ適用セス此場合ニ於テ其訴ノ提起ノ期間ハ原告若クハ被告又ハ其法律上代理人カ送達ニ因リ判決アリタルコトヲ知リタル日ヲ以テ始マル

第四百七十五條　訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
第一　取消又ハ原狀回復ノ訴ヲ受クル判決ノ表示
第二　取消又ハ原狀回復ノ訴ヲ起ス旨ノ陳述
此他訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作リ且不服ノ理由ノ表示、此理由及ヒ不變期間ノ遵守ヲ明白ナラシムル事實ニ付テノ證據方法又如何ナル程度ニ於テ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ廢棄若クハ破毀ス可キヤノ申立又本案ニ付キ更ニ如何ナル裁判ヲ爲ス可キヤノ申立ヲモ揭ク可シ

第四百七十六條　判然許ス可カラサル訴又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル訴ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下ス可シ
此却下ノ命令ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百七十七條　原告ハ口頭辯論ノ期日ニ於テ相手方ノ陳述ノ有無ニ拘ハラス再審ヲ求ムル理由及ヒ法律上ノ期間ノ遵守ヲ明白ニスル事實ヲ疏明ス可シ

第四百七十八條　許ス可カラサル訴又ハ法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル訴ハ職權ヲ以テ判決ニ因リ不適法トシテ之ヲ棄却ス可シ

第四百七十九條　本案ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ不服申立ノ理由ノ存スル部分ニ限リ更ニ之ヲ爲ス可シ
裁判所ハ本案ニ付テノ辯論前ニ再審ヲ求ムル理由及ヒ許否ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本案ニ付テノ辯論ハ再審ヲ求ムル理由及ヒ許否ニ付テノ辯論ノ續行ト看做ス

第四百八十條　原告ノ不利益ト爲ル判決ノ變更ハ相手方カ再審ヲ求ムル訴ヲ起シテ變更ヲ申立テタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十一條　訴カ上告裁判所ニ屬スルトキハ上告裁判所ハ再審ヲ求ムル理由及ヒ其許否ニ付テノ辯論ノ完結カ係爭事實ノ確定及ヒ斷酌ニ繫ルトキト雖モ其完結ヲ爲ス可シ

第四百八十二條　上訴ハ訴ニ付キ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ判決ニ對シ一般ニ爲スコトヲ得ヘキトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百八十三條　第三者カ原告及ヒ被告ノ共謀ニ因リ第三者ノ債權ヲ詐害スル目的ヲ以テ判決ヲ爲サシメタリト主張シ其判決ニ對シ不服ヲ申立ツルトキハ原狀回復ノ訴ニ因レル再審ノ規定ヲ準用ス
此場合ニ於テハ原告及ヒ被告ヲ共同被告ト爲ス

第五編　證書訴訟及ヒ爲替訴訟

第四百八十四條　一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ハ其請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル事實ヲ證書ニ依リ證スルコトヲ得ヘキトキハ證書訴訟ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

第四百八十五條　訴狀ニハ證書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ヲ揭ケ且證書ノ原本又ハ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第四百八十六條　本案ノ辯論ハ妨訴ノ抗辯ニ基キ之ヲ拒ムコトヲ得ス然レトモ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ此抗辯ニ付キ辯論ノ分離ヲ命スルコトヲ得

第四百八十七條　反訴ハ之ヲ爲スコトヲ得ス
證書ノ眞否及ヒ第四百八十四條ニ揭ケタル以外ノ事實ニ關シテハ書證ノミヲ以テ適法ノ證據方法ト爲スコトヲ得
書證ノ申出ハ證書ノ提出ヲ以テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第四百八十八條　原告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ被告ノ承諾ヲ要セスシテ通常ノ手續ニテ訴訟ヲ繫屬セシメテ證書訴訟ヲ止ムルコトヲ得

第四百八十九條　訴ヲ以テ主張シタル請求カ理由ナシト見エ又ハ被告ノ抗辯ニ因リ理由ナシト見ユルトキハ原告ノ請求ヲ却下ス可シ
證書訴訟ヲ許ス可カラサルトキ殊ニ適法ノ證據方法ヲ以テ原告ノ義務タル證據ヲ申出テス又ハ完全ニ之ヲ擧ケサル場合ニ於テハ被告カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ法律上ノ理由ナキ異議若クハ證書訴訟ニ於テ許ササル異議ノミヲ以テ訴ニ對シ抗辯シタルトキト雖モ此訴訟ニ於テハ其訴ヲ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

第四百九十條　證書訴訟ニ於テ適法ノ證據方法ヲ以テ被告ノ義務タル證據ヲ申出テス又ハ完全ニ之ヲ擧ケサルトキハ被告ノ異議ハ證書訴訟ニ於テ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

第四百九十一條　主張シタル請求ヲ爭ヒタル被告ニハ敗訴ノ言渡ヲ受ケタル總テノ場合ニ於テ其權利ノ行使ヲ留保ス可シ
判決ニ此留保ヲ揭ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ依リ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得
留保ヲ揭ケタル判決ハ上訴及ヒ强制執行ニ付テハ之ヲ終局判決ト看做ス

第四百九十二條　被告ニ權利ノ行使ヲ留保シタルトキハ訴訟ハ通常ノ訴訟手續ニ於テ繫屬ス
此手續ニ於テ證書訴訟ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ顯ハルルトキハ前判決ヲ廢棄シ原告ノ請求ヲ却下シ且其生セシメタル費用ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ原告ニ言渡シ又前判決ニ基キ被告ヨリ支拂ヒ又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ申立ニ因リ原告ニ言渡ス可シ
右手續ニ於テ原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ闕席判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百九十三條　第四百二十六條及ヒ第四百二十七條ノ規定ハ證書訴訟ニ之ヲ適用セス

第四百九十四條　商法ニ規定シタル手形ニ因ル請求ヲ證書訴訟ヲ以テ主張スルトキハ爲替訴訟トシテ以下二條ニ揭クル特別ノ規定ヲ適用ス

第四百九十五條　爲替ノ訴ハ支拂地ノ裁判所又ハ被告カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得
數人ノ爲替義務者カ共同ニテ訴ヲ受ク可キトキハ支拂地ノ裁判所又ハ被告ノ各人カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所各之ヲ管轄ス

第四百九十六條　訴狀ニハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ揭クルコトヲ要ス
訴ノ許ス可キモノナルトキハ直チニ口頭辯論ノ期日ヲ定ム
口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニハ少ナクトモ二十四時ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第六編　强制執行

第一章　總則

第四百九十七條　强制執行ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ニ因リテ之ヲ爲ス

第四百九十八條　判決ハ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期間ノ滿了前ニハ確定セサルモノトス

判決ノ確定ハ故障若クハ上訴ヲ其期間内ニ申立若クハ提起スルニ因リ之ヲ遮斷ス

第四百九十九條　原告若クハ被告カ判決ノ確定ニ付キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ記錄ニ基キ之ヲ付與ス

訴訟カ猶ホ上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲リタル部分ノミニ付キ證明書ヲ付與ス

判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタル證明書ヲ以テ足ル

第五百條　原狀回復又ハ再審ヲ求ムル申立アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ强制執行ヲ一時停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ强制執行ヲ爲ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ其爲シタル强制處分ヲ取消ス可キコトヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テシメスシテ强制執行ノ停止ハ其執行ニ因リ償フコト能ハサル損害ヲ生ス可キコトヲ疏明スルトキニ限リ之ヲ許ス

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百一條　左ノ判決ニ付テハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一　認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決

第二　證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決

第三　同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ本案ニ付キ言渡シタル第二又ハ其後ノ闕席判決

第四　假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決

第五　費料ヲ支拂フ義務ヲ言渡ス判決但訴ノ提起後ノ時間及ヒ其提起前最後ノ三个月間ノ爲ニ支拂フ可キモノナルトキニ限ル

第五百二條　左ノ場合ニ於テハ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一　總テノ住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取、明渡、使用、占據若クハ修繕ニ關シ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關シ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第二　占有ノミニ係ル訴訟

第三　雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一个年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

第四　左ニ揭ケタル事項ニ付キ旅人ト旅店若クハ飮食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

イ　賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

ロ　旅店若クハ飮食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル手荷物、金錢又ハ有價物

第五　此他財産權上ノ請求ニ關シ金額又ハ價額ニ於テ貳拾圓ヲ超過セサル訴訟但其物ノ價額ニ付テハ第三條乃至第六條ノ規定ヲ適用ス

第五百三條　前二條ニ揭ケタル外左ノ場合ニ於テハ財産權上ノ請求ニ關スル判決ニ限リ債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一　債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立テント申出ツルトキ

第二　債權者カ判決ノ確定ト爲ルマテ執行ヲ中止セハ償ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害ヲ受ク可キコトヲ疏明スルトキ

第五百四條　債務者カ判決ノ確定ト爲ル前ニ判決ヲ執行セハ回復スルコトヲ得サル損害ヲ受ク可キコトヲ疏明シタルトキハ其申立ニ因リ左ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一　第五百一條ノ場合ニ於テハ判決ヲ假ニ執行ス可カラサルコト

第二　第五百二條及ヒ第五百三條ノ場合ニ於テハ債權者ノ假執行ノ申立ヲ却下スルコト

第五百五條　總テノ場合ニ於テ裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ債權者豫メ保證ヲ立ツルトキハ假執行ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ宣言スルコトヲ得

債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申出テサルトキハ債務者ノ申立ニ因リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カルルコトヲ許ス可シ

第五百六條　假執行ニ關スル申立ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結前ニ之ヲ爲ス可シ

第五百七條　假執行ニ付テノ裁判ハ判決主文ニ之ヲ揭ク可シ

第五百八條　職權ヲ以テ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ場合ニ於テ假執行ニ付テノ裁判ヲ爲ササルトキ又ハ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ債權者ノ申立ヲ看過シタルトキハ第二百四十二條及ヒ第二百四十三條ノ規定ニ從ヒ判決ノ補充ヲ爲スコトヲ得

第五百九條　第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナカリシモノ又ハ條件附ノ假執行ノ宣言アリタルモノハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立テサル部分ニ限リ口頭辯論ノ進行中ニ爲シタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ上級審ニ於テ其判決ニ假執行ノ宣言ヲ付ス可シ

第五百十條　本案ノ裁判又ハ假執行ノ宣言ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スル判決ノ言渡アルトキハ假執行ハ其廢棄若クハ破毀又ハ變更ヲ爲ス限度ニ於テ效力ヲ失フ

假執行ノ宣言アリタル本案ノ判決ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スルトキハ判決ニ基キ被告ノ支拂又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ原告ニ言渡ス可シ

第五百十一條　第二審ニ於テハ申立ニ因リ先ツ假執行ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可シ口頭辯論ノ延期ニ付テノ第四百十條ノ規定ハ此場合ニ於テハ之ヲ適用セス

第二審ニ於テ假執行ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百十二條　假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ故障ヲ申立又ハ上訴ヲ起シタルトキハ第五百條ノ規定ヲ準用ス

第五百十三條　本編ノ規定ニ從ヒ原告若クハ被告ニ保證ヲ立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ於テハ原告若クハ被告ハ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ得

保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタルコトニ付テハ求ニ因リ證明書ヲ付與ス可シ

第五百十四條　外國裁判所ノ判決ニ因レル强制執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以テ其適法ナルコトヲ言渡シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ又普通裁判籍ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

第五百十五條　執行判決ハ裁判ノ當否ヲ調査セスシテ之ヲ爲ス可シ

執行判決ヲ求ムル訴ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ却下ス可シ

第一　外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルコトヲ證明セサルトキ

第二　本邦ノ法律ニ依リ强テ爲サシムルコトヲ得サル行爲ヲ執行セシム可キトキ

第三　本邦ノ法律ニ從ヘハ外國裁判所カ管轄權ヲ有セサルトキ

第四　敗訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セサリシトキ但訴訟ヲ開始スル呼出又ハ命令ヲ受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ又ハ法律上ノ共助ニ依リ本邦ニ於テ本人ニ送達セサリシトキニ限ル

第五　國際條約ニ於テ相互ヲ保セサルトキ

第五百十六條　强制執行ハ執行文ヲ付シタル判決ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス

執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴訟カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ付與ス

執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條　執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記ス

其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ强制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押ス可シ

第五百十八條　執行力アル正本ハ判決ノ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリタルトキニ限リ之ヲ付與ス

判決ノ執行カ其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繫ル場合ノ外他ノ條件ニ繫ル場合ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證スルトキニ限リ執行力アル正本ヲ付與スルコトヲ得

第五百十九條　執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ之ヲ付與シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ一般ノ承繼人ニ對シ之ヲ付與スルコトヲ得但其承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ之ヲ證スルトキニ限ル

此承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行文ニ記載ス可シ

第五百二十條　第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テハ執行力アル正本ハ裁判長ノ命令アルトキニ限リ之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

右命令ハ執行文ニ之ヲ記載ス可シ

第五百二十一條　第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ニ依リ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキハ債權者ハ判決ニ基キ執行文ノ付與ニ付キ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得

第五百二十二條　執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立テタルトキハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス

裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ强制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ强制執行ヲ續行ス可キコトヲ命スルコトヲ得

第五百二十三條　債權者カ執行力アル正本ノ數通ヲ求メ又ハ前ニ付與シタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一判決ノ正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルトキニ限リ之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令ノ前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

相手方ヲ審訊セスシテ執行力アル正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ相手方ニ通知ス可シ

正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ

第五百二十四條　執行力アル正本ノ付與前ニ判決ノ原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲ニ之ヲ付與スル旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載ス可シ

第五百二十五條　執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄内ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域内ニ及フモノトス

第五百二十六條　債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ强制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルトキハ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ執行力アル正本ニ基キ數箇ノ强制執行ヲ爲ス權利ヲ有ス

第五百二十七條　債權者ハ執行ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ屆出ツ可シ

第五百二十八條　强制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受クル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限リ之ヲ始ムルコトヲ得

判決ノ執行カ其旨趣ニ從ヒ債權者ノ證明ス可キ事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ判決ノ執行カ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ承繼人ニ對シ爲ス可キトキハ執行ス可キ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ヲ强制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス

若シ證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルトキハ亦其證書ノ謄本ヲ强制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス

第五百二十九條　請求ノ主張カ或ル日時ノ到來ニ繫ルトキハ其日時ノ滿了後ニ限リ强制執行ヲ始ムルコトヲ得

執行カ債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限リ其執行ヲ始ムルコトヲ得

第五百三十條　豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シテ爲ス强制執行ハ其上班司令官廳ニ通知ヲ爲シタル後ニ限リ之ヲ始ムルコトヲ得

此官廳ハ債權者ノ求ニ因リ通知ノ受取證ヲ付與ス可シ

第五百三十一條　强制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限リ執達吏之ヲ實施ス

債權者ハ强制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス

第五百三十二條　執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其責ニ任ス

第五百三十三條　債權者執行力アル正本ヲ交付シテ强制執行ヲ委任シタルトキハ執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサルトキト雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有效ニ受取ノ證書ヲ作リ之ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコトヲ得

第五百三十四條　執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及ヒ第三者ニ對シ强制執行及ヒ前條ニ揭ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス

執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス可シ

第五百三十五條　執達吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受取ノ證ヲ債務者ニ交付ス可シ

債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラルルコト無シ

第五百三十六條　執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムル權利ヲ有ス

抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用井且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ

第五百三十七條　執達吏ハ執行行爲ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ

第五百三十八條　强制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其求ニ因リ執達吏ノ記錄ノ閱覽ヲ許シ及ヒ記錄中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スルコトヲ要ス

第五百三十九條　夜間及ヒ日曜日竝ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限リ執行行爲ヲ爲スコトヲ得

右許可ノ命令ハ强制執行ノ際之ヲ示ス可シ